國譯大藏經

經部

第五卷

華嚴經の國譯に就いて

一　夫れ華嚴經は七處八會、其の文極めて廣く、十玄六相、其の義甚だ深し。之を開けば盡法界に充ち、之を合すれば一毫の末に攝まる。之を伸ぶれは古今を貫き、之を卷けば一念に入る。開合自在、伸卷無礙にして、時間的に將た空間的に、至大を極め至微を盡す。之を玄妙と云ふも及ばず、之を深遠と云ふも盡さず。寔にこれ宇宙の秘奧を闡き人生の眞相を究めたる、難思不可說の法門なりと謂ふべし。されば單に之を哲理として見るも、其の結構の雄大なる、其の識見の高遠なる、其の究理の微密なるは、古今東西の發達せる哲學思想と雖も、尙は且つ遠く及ばざる者あり。試みに本經の一紙を開け、十玄六相の法門は一句一偈の上にも現はれ、十方不可說の佛刹は一念の中に顯現し、一微塵の中に於て無數億の諸佛法輪を轉じ給ふ。斯の如き廣大の敎說に接して、誰か人智の卑淺なるを嘆ぜざらんや。淸涼大師嘗て本經を讃歎して曰く『眞に謂つべし、常恒の妙說、通方の洪規、稱性の極談、一乘の要軌なりと、斯の玄旨を尋ねて、却つて餘經を覽ば、其れ猶ほ杲日天に麗きて衆星の耀を奪ひ、須彌海に橫はりて群峰の高きを落すが如し』と。若し夫れ他の群典を見で後に本經を繙かば、井蛙の大海に出でたるの感あるべし。宜なる哉、本經は十佛の自內證にして、普賢の境界なり。

此の一乘の妙典の始めて我が國に傳來したるは、今を去ること千三百餘年の昔に在りて、一時は圓宗の教勢四海を風靡し、日出でて大山を照すの觀ありしも、平安奠都以還、宗風漸く衰へ、復た昔日の隆盛を見る能はずして今日に及べり。然れども、源深ければ流遠く、現時人心を指導して實際教化の任に當れる、顯密禪淨の諸宗派は、恰も百川の大海に朝するが如く、一として稱性の本經、華嚴の大教海に歸入せざるはなし。蓋し華嚴教が宗派として永く其の教勢を持續し能はざりし所以のものは他なし、本經は本來逐機破病の末教にあらざるが故のみ。

然るに末を逐ふて本を忘るるは人情の常にして、宗旨の振はざると共に本經も亦漸く世に閑却せられ、專門の學徒にあらざれば、緇流も尙ほ且つ之を讀誦せず、況んや一般人衆に於てをや。余夙に之を憂ひ、稱法の妙典を廣く世に布かんことを希ふもの茲に歳あり。適國譯大藏經の大業發企せらるるあり、耆宿の慫慂に依り自ら膚受を揣らずして本經の國譯を擔當し、圖らずも宿願を果たすことを得たるは、一に佛祖の冥助に依らずんばあらず。

飜つて我が國情を鑑みるに、維新以來、文運は日日に進み、教化は年と共に普及し、今や東西の文化を融合統一すべき地位に在り。此の時に當り、久しく東洋の人心を涵養し來れる佛教の根本聖典を國譯して、廣く世に流布することを得たるは、偏に聖代の餘德なりと謂ふべし。先德曰く、「正法を證

する人は凡夫より起る、天よりもおちず、地よりもわかず、然らば誰か卑下を德として、無價の寶珠をなげすて、信順の過として法帝の勅命に背かむや。又普賢の境界と云ふによりて、我等が分にあらずと云ふことなかれ。今此の普賢大法を信じて行を立つれば、其の人を普賢と云ふ、必ずしも普賢菩薩一人を云ふにはあらず。德法界にあまねきを普と云ひ、至順賢善なるを賢と名づく」と、又曰く「匹夫も德を修むれば是れ君子たり。和順中に蓄へて英華外に發す。聖と雖も或は修めざれば不肖なり。普賢惡んぞ他あらんや、亦人の類のみ」と。豈に尊からずや。されば吾等は生を澆末の世に受けながら、此の一乘甚深の法雨に浴することを得たるを歡び、勇猛精進して、此の經典を讀誦し、思惟し、信受し、奉行して、心を法界に遊ばしむるの日あらむことを期せん。至禱。

二 華嚴敎の宗旨未だ普及せざるが故に、佛道初入の士の參考に資せんが爲めに、本經の流傳、及び組織綱領より、敎理、敎判に至るまで、大略之を叙說して解題となせり。されど固より其の方隅を擧げたるに過ぎず。且つ本經讀誦の指針に供せんことを期したるを以て、繁簡宜しきを得ざる者あり。英達の君子幸に之を咎むること勿れ。若し夫れ參玄の志あらん者は、須らく先德の具書に就て、宗旨の源底を究むべし。若し又業務繁多にして本經の始終を通覽するの餘暇を有せざる者は、通じて偈頌を誦し、入法界品を讀むべし。一會一品を讀誦し、一句一偈を受持せんも、發心の勝縁にして遂には三

生成道の路に上ることを得ん。

三　本經に三本あり、唐譯八十華嚴最も完備し、文辭亦流暢なるに、特に六十華嚴を撰びて之を國譯せる理由三あり。華嚴宗の教理は賢首大師によりて大成せられしが故に、其の依用せられたる所は專ら晉經に在り。されば搜玄記探玄記の隨文釋は勿論、孔目、要問答、五教章等の主要なる章疏は、孰れも晉經に依れるが故に、今日と雖も華嚴を學ばんとするには、必ず晉經に據らざるを得ざるなり。是れ其の一なり。唐經は本朝に於て訓點を附して單行せられたるあり。大疏鈔と本經とを會合して和訓を施せる者二種あり。李通玄の華嚴合論も亦別行せらる。斯くの如く唐經の翻刻多きに反して、晉經の單行あるを聞かず。隨つて又和訓を施せる者なし。是れ其の二なり。四十華嚴は本朝に於て諸宗に依用せられ、現時尙ほ讀誦せらると雖も、一會一品の別譯なるが故に、會處の具はれる者を取れり。是れ其の三なり。

四　本經に數本ありて字句の異同尠からず。今は明藏本を底本として諸本と對校し、字句の異同誤脫ある者は、先づ探玄記に依りて當否を判定し、尙ほ決し難き者は、唐經及び大疏鈔を參照して之を取捨し、其の間毫も私意を容れず。卷尾の原文は縮刷藏經本に依れるが故に、相ひ對比して彼此の異同を辨せよ。

五　古來經典を釋するには科文に依るを通規となすも、本刊行には見る所ありて之を省略するに定めたり。然れども本經は殊に厖大にして文段容易に分ち難きが故に、大段は行を改めて一段の大意を註し、一段中の小科は點、圏、重圏の三種を以て之を分ち、狹より寬に及べり。されば若し探玄記を指南として本經を研究せんとする者は、容易に文の起盡を知ることを得べし。尙ほ脚註に至りては一乘の玄旨を顯はし難きを以て、多くは通義に依りて語句の意義を解するに止めたり。讀者は是れに依りて本經不共の深義を閑却せざらんことを望む。

大正六年佛生會

衞藤即應　謹識

目次

以上

東晋天竺三藏佛駄跋陀羅譯

大方廣佛華嚴經解題

譯者　衞藤卽應

第一　華嚴經の流布

一　華嚴經の出現

今を去ること遠く二千五百年の昔、大聖釋迦牟尼佛、化を人界に垂れ、八相作佛の妙用を示現し、中印度摩訶陀國の菩提樹下に在して始めて正覺を成じ給ひ、金剛寶座を起たずして、等覺の大士を上首とし、普く海會の大衆の爲めに大悟の境界を披瀝し、法界緣起の妙法を開演し給へり。此の初轉の法輪は現流の華嚴經なりと傳ふ。然るに佛入涅槃の後は、小乘皮淺の敎のみ盛んに世に行はれて、佛の根本法輪なる稱法の妙典は、他の大乘教と同じく、世に知られざること數世紀の久しきに及べり。滅後七百年の頃に至り、千古の偉聖龍樹菩薩出世し、專ら大乘教を宣布して、法運を旣墜に輓回せり。

菩薩は初め小乘教に入りて出家せしも、自ら其の教理に慊焉たらず、更に諸方を遍歴して深妙の法を求め、遂に雪山の麓に於て一老比丘に遇ひ、其の指導に依りて龍宮に往き、諸の大乘教典を閲覽し、大不思議解脱經十萬頌三十八品を將來して之を世に傳へ、自ら大不思議論十萬頌を造りて此經を解釋せり。是れ華嚴經の世に流布せられたる初めにして、大不思議論は實に華嚴經註釋の嚆矢なり。後羅什三藏に依りて支那に傳譯せられたる十住毘婆娑論は、此の論の一部分なるも、僅かに本經十地品の中の初二地の釋のみ傳はれり。

其の後、世親菩薩出世し、小乘より轉じて大乘に歸向し、大乘佛教の興隆を以て自ら任じ、經を釋し論を作ること數百部の多きに及べりといふ。就中、十地經論の一部は華嚴十地品の解釋にして、六相圓融の妙理を說き、大いに華嚴の幽意を闡けり。此の論は北魏の代、菩提流支、勒那摩提、佛陀扇多の三人に依りて各別に飜譯せられたるも、光統律師之を合糅して一本となせり。これ現流の十地論にして華嚴宗所依の本論なり。別傳に依れば、世親は華嚴經論を造りたりしも、完備の本を得ること能はず、此の論或は得るに隨つて譯せる者ならんといへり。

世親以後には金剛軍、堅慧等の諸論師出でて、各十地の釋論を造れりといふも、東土に傳譯せらるるに至らずして止みぬ。

二　華嚴經の傳譯

華嚴經は龍樹菩薩の力に依りて始めて廣く世に行はれ、諸大論師相繼いで之れが解釋に努めたりと雖も、印度に在りては、未だ大いに本經の玄旨を發揮するに至らざりき。然れども、此の經の支分は早くより支那に傳はり、後に三本の大部翻譯せられ、華嚴宗成立するに至りて、華嚴の玄旨始めて顯はれ、佛教教理の本源としての眞意義を發揚せり。

【支分經の傳譯】　佛教始めて東漸せし時、業に華嚴經の一部分は支那に傳譯せられたる事蹟あり。經錄に依るに、後漢の明帝永平十三年（皇紀七三〇）に、佛教初傳者の一人として其の名を知られたる竺法蘭は、十地斷結經を譯出せり。これ實に華嚴經傳譯の權輿なるも、惜哉今傳はらず。其の後、後漢の支讖、吳の支謙等を初めとし、賢首大師の頃に至るまでに、華嚴の一品、若しくは其の一部分の傳譯せられたる者、其の數甚だ多く、華嚴傳には三十五部を列擧せり。其の中には、既に佚して傳はらざる者あり。されば此には古今の別譯支分經にして現存する者のみを、本經の品名と對照して左に列擧せん。

佛說兜沙經　一卷（名號品）　後漢　支讖譯

菩薩本業經	一卷	（淨行品）	吳 支謙譯
諸菩薩求佛本業經	一卷	（淨行品）	西晋 聶道眞譯
菩薩十住行道品	一卷	（十住品）	西晋 竺法護譯
漸備一切智德經	五卷	（十地品）	同 上
等目菩薩所問三昧經	三卷	（十定品）	同 上
如來興顯經	四卷	（性起品）	同 上
度世品經	六卷	（離世間品）	同 上
菩薩十住經	一卷	（十住品）	東晋 祇多蜜譯
十住經	四卷	（十地品）	後秦 鳩摩羅什譯
顯無邊佛土功德經	一卷	（壽命品）	唐 玄奘譯
較量一切佛刹功德經	一卷	（壽命品）	宋 法賢譯
羅摩伽經	三卷	（入法界品）	西秦 聖堅譯
大方廣佛華嚴經入法界品	一卷	（入法界品）	唐 日照譯
文殊師利發願經	一卷	（入法界品）	東晋 覺賢譯
大方廣如來不思議境界經	一卷	（普光法堂會）	唐 實叉難陀譯
大方廣入如來智德不思議經	一卷	（普光法堂會）	同 上
大方廣普賢所說經	一卷	（別本華嚴）	同 上
大方廣佛華嚴經不思議佛境界分	一卷	（別本華嚴）	唐 提雲般若譯

【六十華嚴の傳譯】 東晉の代に支法領なる者あり、篤く大乘教を尊信し、寢食を忘れて之を學習せり。然るに當時大乘教典の傳來せる者少きを以て、自ら印度に入りて之を將來せんとの大志を發こし、奮然意を決して渡天の途に上れり。時に、于闐の東南に遮拘迦國あり。國王は歷代大乘教を信奉し、宮中に華嚴、般若、方等等の大乘經を藏し、王躬ら受持して親しく戶鑰を執り、供養莊嚴盡くさざるなく、諸の小王を勸誘して之を禮拜せしめたり。又此の國の東南約二十里を隔てて嶮山あり。其の中にも亦諸の大乘經典を秘藏し、國法を以て之を守護し、國外に流布することを嚴禁せり。支法領之を聞きて彼の國に到り、國王に懇請して、華嚴經を支那に傳へられんことを求めたるに、王亦彼が求法の念の切なるに感激して之を許容しければ、法領は華嚴經の前分三萬六千偈の梵本を得、齎して支那に歸れり。適ゝ此の當時秦の沙門智儼なる者罽賓に在りて、彼の國の高僧にして東土に遊化すべき人を求めたるに、衆皆、佛馱跋陀羅(Buddhabhadra 覺賢と譯す）を推賞せり。覺賢三藏は印度迦維羅衞國(Kapilavastu)の人、幼にして出家し、資性聰明にして夙に諸の經論を學習し、學德群を拔けり、殊に禪業を佛陀大仙に承け、律禪に於て最も聞えたり。當時師と倶に此の地にあり。師の慫慂と智儼

の懇請とに依り、遂に意を東遊に決して東に向ひ、晝は嶮巖を攀ぢ、夜は氷雪に枕し、具さに辛酸を嘗めて漸く交趾に達し、更に路を海路に取り、三載の星霜を經て靑州の東萊郡に着せり。時に羅什三藏長安に在りと聞き、欣然として直に長安に入れり。則ち秦の弘始十年(皇紀一〇六八)四月なり。羅什三藏亦迎へて篤く歡待し、相共に法義を論じ、玄微を振發して、互に啓悟する所あり。當時の英傑亦雲の如く集り、三藏に就いて禪訓を受け、其の指授する所悉く眞要に契ひ、遺法東漸してより已に四百年、開發の深きこと此の時に及ぶ者なしといふ。以つて覺賢三藏の輿望の高かりしことを知るべし。後、東晉に遊化し、安帝の義熙十四年三月(皇紀一〇七八)、吳郡の內史孟顗、右將軍褚叔度の請に應じ、揚洲の道場寺に於て、嚮に支法領の將來せし華嚴經の飜譯を開始し、沙門法業、慧嚴、慧觀等百有餘人、親しく譯場に列し、受筆潤文等の任に當りて其の業を助け、文旨を詮定し、方言を會通して妙に經意を得、前後三年を費し、元熙二年六月に至りて譯出し訖り、五十卷を成せり。後校訂を重ねて六十卷となす。是れ卽ち現流の六十華嚴にして、舊譯又は晉經と稱す。飜つて本經傳譯の因緣を思ふに、先に支法領身命を賭して遠く梵本を求め、智儼遙かに三藏を迎へ、學德兼備の高僧、會東土に來遊して華嚴經を譯出するに至りしは、實に不思議の感應といふべし。傳へいふ、譯經に際し、堂前の池の內に每に二人の靑衣ありて香華を捧げたりと、諸佛の冥助豈に偶然ならんや。三藏は元嘉六

年(皇紀一〇八九)春秋七十有一にして示寂せるも、此の不朽の功績は、大教と共に末代に光被せり。而るに譯成るの翌年、再び梵本と勘校せしに、入法界品中に缺くる所ありしも、之を補ふに由なくして止みき。後、賢首大師出でて深く此の經を究むるに、未だ完備せざる所あるを慨歎せり。然るに唐の永隆元年(皇紀一三四〇)地婆訶羅三藏(Divākara 日照と譯す)梵本を將來したるを以て、三藏と共に之を對校し、勅を奉じて先きの闕文を補譯せり。茲に於て大經の文義始めて完備することを得たり。

【八十華嚴の傳譯】 大周の則天武后は篤く大乘教を敬信し、深く佛教の宣布に意を注がれたるが、華嚴經の舊譯は會處未だ備はらざるを知りて、深く之を惜めり。適于闐國に斯の梵本ありと聞き遠く使を遣はして之を求め、併せて翻譯三藏を招聘せしめたるに、于闐の碩學實叉難陀三藏(Sikṣānanda 學喜又は喜覺と譯す)其の聘に應じ、經函を齎して來朝せり。武后之を遍空寺に迎へて翻譯の業に從事せしめ、親しく譯場に臨みて序文を煥發し、自ら仙毫を揮ひて品名を首題せり。南印度の沙門菩提流志(Bodhiruci 覺愛と譯す)及び義淨三藏も亦之を助けて梵文を宣べ、復禮、法藏等の諸師は、筆受潤文等の任に當り、五歳の星霜を經て、聖暦二年十月(皇紀一三五九)功畢り、八十卷を成せり。即ち新譯八十華嚴にして、翻譯の時代に依りて或は唐經とも稱す。之を晉經に比するに、文辭流暢にして、義理更に周備し、七處九會三十九品あり。而して此の經已に流傳せしも、尙は先に日照三藏の補譯せし文を脫

せしを以て、後、賢首大師は新舊の兩經を對照し、梵本を勘校して、其の闕文を補ひ、文義始めて連續することを得たり。

【四十華嚴の傳譯】　其の後約百年を經て、唐の德宗貞元十一年（皇紀一四五五）十一月、南天竺烏荼國の師子王、使を遣して、王の手書せる華嚴經の梵本を貢進せり。其の翌年、罽賓の人、般若三藏（Prajña智慧と譯す）に詔して、長安の崇福寺に於て、之を譯せしむ。時に、華嚴宗の第四祖清涼大師を始め、圓照、鑑虚等の諸師之を助けて、潤文證義の任に當り、帝親しく譯場に臨みて之を勅裁し、貞元十四年二月に至り譯業畢り、四十卷を成せり。これ即ち四十華嚴にして、或は貞元經といふ。經題は具さに大方廣佛華嚴經入不思議解脱境界普賢行願品と稱し、前二本に於ける最後の入法界品の別譯なり。故に此の經を單に普賢行願品とも稱す。尼波羅國に傳はる、九部大經の中の華嚴經は、此れと同本なりといふ。

三　華嚴宗成立以前の講經

華嚴經の支分は既に佛教東漸の初めより傳譯せられたりと雖も、未だ特に之を解釋し敷衍する者なかりしが、覺賢三藏の六十華嚴世に出づるや、或は法筵に之を講じ、或は書を著はして之が解釋を爲

す者陸續として跡を絶だす、遂に支那佛教界の一大勢力を爲すに至れり。初め覺賢三藏の譯場に於て筆授の任に當れる法業は、親しく三藏の口訣を受け、深く教旨を探りて大いに悟る所あり、自ら義記二巻を著して、大經の要旨と歸趣とを提示し、華嚴旨歸と名づけたり。蓋しこれ支那に於ける本經註釋の濫觴なり。又宋の元嘉十二年(皇紀一〇九五)中天竺の三藏求那跋陀羅(Guṇabhadra)德賢と譯す)來朝して、華嚴經の講布に努むるあり。覺賢三藏の法系に屬する玄暢は、當時始めて大經の章句を逐ふて註解を施し、其の後北魏の劉謙之は深く華嚴經を敬信し、無師獨悟以て本經の蘊奥を究め、晝夜研精して六百巻の華嚴論を作り。又沙門靈辨が五年の星霜を費して、華嚴論一百巻を著はせるが如き、當時如何に華嚴經研究の隆盛なりしかを察するに難からず。此の時に際し、菩提流支等に依りて十地經論譯出せられ、當代佛教界の重鎭たる光統律師は、之れに依りて地論宗を開き、華嚴の研究に一新時期を劃し、後代華嚴宗開立の先驅を爲すに至れり。光統律師は華嚴經に廣略の二疏を作り、頓漸圓の三教を以て群典を判じ、華嚴經を圓教となし、一代教の中に於ける本經の位置を明かにせるは、師を以て嚆矢となす。光統律師の門下に高德碩學の師踵をついで出で、其の學風を繼承して大いに華嚴教の宣揚に努めたり。

今一一之を詳說する遑なきを以て、左に其の主要なる者のみを列擧せん。

華嚴經疏　五卷　齊　大覺寺僧範
華嚴經疏　七卷　齊　洛州曇衍
華嚴經疏　七卷　隋　西京洪遵
華嚴疏及旨歸　九卷　隋　相州靈裕
華嚴經疏　七卷　隋　淨影寺慧遠
十地論義記　七卷　同　上
華嚴經疏　七卷　唐　越州法敏
華嚴經疏　十一卷　唐　終南山智正
華嚴經疏　十二卷　唐　慈恩寺靈辨
華嚴經鈔　十卷　同　上

以上は、華嚴宗成立以前に於ける華嚴研究の大勢なるも、此等の諸疏は一として今日傳はる者なければ、其の內容を知ること能はず。されど華嚴宗の祖師が、此等の疏章に啓發せられたる所ありしは、其の著述に引用する所あるを以て知ることを得。此の外今日傳はる者に、後魏、靈辨の華嚴論一卷。唐、靈裕の華嚴經文義記六卷。隋、嘉祥大師の華嚴經遊意一卷あるのみ。

四　華嚴宗の成立

晋經一度出でてより、教界の名僧碩學は競うて華嚴の研究に從事したるを以て、本經の教理は一般に普及し、其の研究も微に入り、幽を闡きたり。是に於てか華嚴經の教學的研究は、一轉して實踐的宗旨の組織をなすべき機運に達せり。

是れ卽ち華嚴の教旨を體得し實踐して、轉迷開悟の究極の目的を實現せんとする華嚴宗の開立を促すものに外ならず。此の機運に乘じて、從來の教學的研究を實踐に導き、學問より信仰に入れるものは、實に華嚴宗の初祖帝心尊者其の人なり。師、諱は法順、姓は杜氏、陳の永定二年(皇紀一二一八)雍州に生れ、唐の貞觀十四年(皇紀一三〇〇)に示寂せらる。其の教系は審かならざるも、當代の學究的風潮に嫌らずして、實踐躬行の範を示さんとし、自ら華嚴經の玄旨を體現せんが爲めに、五教止觀を著はし、法界の法門に悟入すべき觀行を示さんとして、法界觀門を造れり。此の二書は共に小篇なりと雖も、華嚴宗の基礎を定めたる根本聖典なり。

杜順師の面授の資にして、其の眞髓を傳へ、華嚴宗の興起に力を盡したるは、至相大師智儼なり。師は始め、初祖の門に入れるも、智正に就て華嚴經を學習し、光統の疏に依りて玄旨を悟了せる者なれ

ば、其の學風は地論宗の流を汲めり。其の著す所の捜玄記九卷は、本經の文を逐ふて解釋し、一宗の方規を示せる者なれば、方規又は略疏と稱す。其の外、孔目章、五十要問答を作りて、一經の要を擧げ、略疏の足らざる所を補へり。又杜順師の説を記述して一乘十玄門を著はし、六相圓融の妙理に於ては最も力を注ぎ、神僧の靈感に依りて其の幽旨を悟れりといふ。かくして師は初祖の意を承けて、略華嚴宗の綱格を定め、教判の方規に依りて本經を解釋し、杜順師の觀行に加ふるに教理を以てせしかば、教相觀門共に備はりて、一宗の組織を成すに至れり。

二祖の衣鉢を承けて、華嚴宗を大成したるは、第三祖、賢首大師法藏なり。師は唐の太宗貞觀十七年(皇紀一三〇三)を以て長安に生れ、夙に心を佛門に寄せ、十七歳にして家を出で、太白山に入りて佛典を攻究し、後、智儼師の德風を慕ひて其の門に投じ、日夜左右に師事して華嚴の蘊奥を究め、師の年二十六歳の時、儼師の入寂に遇へり。儼師臨終に際し、其の上足を顧みて曰く、「此の賢者は意を華嚴に注ぐ、蓋し師無くして自ら悟らん、遺法を紹隆するは其れ唯だ是の人のみ、幸に餘光を假りて剃度せしめよ」と、以て賢首大師が大法荷擔の法器たりしことを知るべし。果せる哉、師は前二祖の苦心經營せられたる基礎の上に、一乘圓教の法門を建立し、立教開宗の法幢四海を風靡して、華嚴宗を大成し、智者大師の天台宗と相ひ並びて、支那佛教の精華をなすに至れり。されば師を以て華嚴宗の高

祖と仰ぎ、世人稱して賢首宗といふに至れり。其の著、五教章三卷は立教分宗の根本典籍にして、一宗の要義は攝めて此中に在り。師は先づ同別二教の判に依りて、法界の法門の深遠該博なる事を示し、本末二教の判に依りて、華嚴本經は佛自證の極談、一代教の本源にして、八萬の法藏は是れより流出せる逐機の末教なりと看破し、更に五教の教判を立てて、三權一實の淺深を明らかにし、十宗の判に依りて、宗旨の歸向する所を示し、圓明具德の華嚴宗を以て、一代教の究極なりと判定せり。されば此の書は小部なりと雖も、天台の法華玄義に比すべき要書にして、後代の華嚴學は、全く之を中心として研究せらるるに至りしなり。本經の解釋に於ては探玄記二十卷を著し、至相大師の搜玄記を祖述して、言々句々に一乘の幽旨を闡き、無盡緣起の妙理盡くさざるなし。蓋し前代既に華嚴經は廣く攻究せられたりと雖も、其は唯一般的解釋に止りて、未だ華嚴不共の玄旨を發揚するに至らざりき。然るに師は一乘圓宗の旗幟を高く揭げて本經に對せらるるが故に、其識見自ら前哲と異りて、始めて本經獨特の眞意義を開發し、善を極め、美を盡して遺餘なきに至れり。されば探玄記出でて後、復た更に本經を釋する者なく、設ひ陸に車なく、水に舟なくとも、華嚴教を學ぶ者は一日も之を廢すべからずと賞讃せらるるに至る。以て本書の價値を知るべし。此の外本經の綱要を示したる者に、華嚴旨歸、文義綱目等あり、觀行に關しては遊心法界記、妄盡還源觀等あり。尙ほ末經末論の疏も少からざれば、內外合

するに二十餘部の多きに至る。師は斯くの如く多くの經論の疏章を造りて、專ら一乘の圓旨を鼓吹し、上は則天武后の厚き歸依を受け、下庶民の歸仰する所となり、宗風忽ち揚り、學德一世に光被せり。師は又晋經の闕文を補ひ、唐經の譯場に列して力を盡したることは、已に述べたるが如し。晩年に至り、唐經を釋せんとして稿を起こしたるも、其の業を完うすること能はず、睿宗の先天元年（皇紀一三七二）僅かに第十九卷に至りて示寂せられたり。

是に於て、其の上足慧苑は筆を執りて遺稿を繼續し、續華嚴經略疏刊定記十四卷を造り、外に新譯華嚴經音義二卷を著せり。されど慧苑は師說を相承せず、私見を挾みて妄りに評破を加へ、祖師の宗義を紛亂せしめたり。當時同門の學匠少からざりしも、奮然筆を揮ひて苑の異端邪說を駁擊し、祖師の眞意を發揚するものなく、爲めに賢首大師一代の鴻業も、滅後幾もなく萎微して振はず、正統將に絕えなんとする悲境に陷れり。此の時に當り、慧苑の邪說を破斥して、宗風復古の大任に當れる者は、清涼大師澄觀なり。

師は賢首大師の滅後廿七年を經て、開元二十六年（皇紀一三九八）越州に生る。天資聰敏にして博學多才、學內外に通じ、諸宗の奧義を究めたり。就中、華嚴經は慧苑の高弟法詵師に就て學習し、大華嚴寺に於て之を講說せり。興元元年（皇紀一四四四）正月、本經の註疏を造らんとの大志を發こし、滿

四ヶ年を經て疏二十卷を完成し、後、弟子の請に應じて更に自ら疏を細釋し、隨疏演義鈔四十卷を著せり。後世之を會合して八十卷となし、華嚴大疏鈔と稱す。師は此の大著に於て、極力慧苑の邪說を駁破して、賢首大師の眞意を發揚し、唐經に依りて宗風の挽回に努め、能く守成の大任を全うせり。されば大疏鈔の唐經に於けるは、猶ほ探玄記の晉經に於けるが如く、兩譯大經疏の雙璧なり。師は又、四十華嚴の翻譯を資け、行願品疏十卷を撰して此の經を釋せり。其の外、華嚴略策、法界玄鏡、三聖圓融觀等、數部の著作あり。師一代の化益は、九朝を經て七帝の師範となり、壽百餘歲にして、文宗の開成四年(皇紀一四九九)に入寂せり。

師の後を繼いで一宗弘通の任に當れるは、宗密禪師圭峯なり。

師は德宗の建中元年(皇紀一三四〇)果州に生れ、初め禪門に入りて出家し、後心を圓覺經に傾け、深く其の義趣に達し、三十一歲の頃始めて淸涼大師の大疏鈔を得、之を熟讀玩味して大いに悟る所あり。是れより華嚴の學匠たらんことを期し、淸涼大師に謁して弟子の禮を執り、晝夜左右に侍して專ら華嚴を學習し、具さに師の指決を受け、遂に其の蘊奧を極めたり。かくて師は華嚴の宗脈を傳へたりと雖も、宗風を擧揚するに當りては、專ら有緣の經なる圓覺經に依り、是れに廣略の二疏を造り、更に各疏鈔を撰して宗義を鼓吹せり。華嚴經に關する著書にして傳はる者は、行願品疏鈔六卷あるの

み。其の他疏章少からざるも、就中最も世に行はれたるものは起信論の註疏、及び原人論なり。師の學風は敎禪の和合を主張するに在り。蓋しこれ師の經歷と、時代の影響とに起因する者か。師は武宗の會昌元年に入寂せられ、其の後間もなく會昌の破佛となり、續いて五代の兵亂となり、支那佛敎衰頽期に入りたるを以て、支那に於ける華嚴の宗脈は此に斷絕せり。後、宋朝佛敎の興起するに當り、眞宗仁宗の頃、長水の子璿、晋水の淨源相繼いで出で、力を華嚴の中興に竭したるも、未だ大いに興るに至らず。宋朝五敎章の四大家と稱せらるる、道亭、觀復、師會、希迪の如き學匠なきに非ざるも、僅かに祖師の章疏の一部を註釋するに止まり、本經の始終を通じて之を研鑚し、大いに宗旨を宣揚せんとする者なく、却つて禪淨土等の他宗の學匠に依りて、本經は弄ばるる狀態となり、再び唐代の盛況を見る能はずして今日に至れり。

以上は華嚴宗の正系五祖に就いて、本經弘通の概略を敍したるが、此の外、賢首大師と同時代に、新羅の義湘、元曉の二師あり。義湘は賢首大師と同じく智儼師に就て華嚴を學び、新羅に歸りて專ら華嚴敎を弘通せるを以て、海東に於ける華嚴宗の初祖となす。元曉も亦、同時の學匠にして、義湘とともに、唐土に遊學せんとせしも、中途感ずる所ありて其の志を飜し、專ら國內に在りて經を講じ疏を製して、華嚴敎の流通に努めたり。其の著書は殆んど散佚して傳らず、唯起信論の疏のみは、海

東の疏と稱して現に世に行はる。

賢首大師より稍後れて、唐に李通玄居士あり、大いに新經を宣布せり。居士の學歴は審かならざるも、夙に俗塵を厭ひて心を佛門に寄せ、無爲恬澹、超然として隱者の生活を營み、獨力經論を繙き、端坐默想して、自ら深く證契せりと云ふ。其の著書に、新華嚴論四十卷、同決疑論四卷等あり。就中華嚴論は五載の閒心血を注ぎ、神靈の冥助を得て成れり。後、志寧なる者經論を合して一部となし、更に復た宋の慧研之を整理し、一部百二十卷となせり。是れ即ち現流の華嚴合論なり。通玄は祖師の正統を承けずして、自家獨特の見地より新經を釋したるを以て、其の宗義に於ては、賢首大師と轍を異にする所少からずと雖も、一居士の身を以て、始めて八十華嚴の註釋を完成したるは其の功偉なりといはざるべからず。殊に居士が實踐門に重を置き、觀行を本として本經を釋したるは、後代の學風に一異彩を放ち、近くは清涼大師の如きも、是れに由りて啓發せられ、遠くは我が國の明慧上人の如き、合論を祖述し實踐門に依りて宗風を興したるあり、居士の學風は其の影響する所、是の如く大なるを以て、合論は大疏鈔と相竝びて永く世に珍重せられ、華嚴宗所依の章疏に列せらるるに至れり。因みに第五祖圭峯禪師以後、本經及び經疏に關する著述の主要なる者を列擧せば左の如し。

華嚴經骨目　二卷　唐　湛然撰述　（清涼大師の時代）

華嚴經要解	一卷	宋	戒環集
華嚴經呑海集	三卷	宋	道通述
華嚴法相槪節	一卷	同	上
華嚴經倫貫	一卷	宋	復菴述
華嚴經文義要決問答	四卷	新羅	表員集
華嚴懸談會玄記	四十卷	元	普瑞集
華嚴經談玄決擇	六卷	遼	鮮演述
華嚴經綱要	八十卷	明	德清提挈
華嚴經合論纂要	三卷	明	方澤纂
華嚴經合論簡要	四卷	明	李贄簡要
華嚴大意	一卷	明	善堅撰
華嚴經綱目貫攝	一卷	清	永光錄集
華嚴經三十九品大意	一卷	淸	永光敬錄

五　日本に於ける華嚴宗の概況

支那に於ける華嚴經の研究は、賢首淸涼の二師に依りて大成せられ、六十華嚴の探玄記と、八十華嚴の大疏鈔とは、兩譯大經疏の權威となりしも、華嚴の宗風は五祖以後全く廢頽して、宗燈斷絶するに至れり。然るに賢首宗は、師の沒後二十五年、聖武天皇天平八年に、早くも我が國に傳來せり。此の年、唐の華嚴寺普寂の資たる道璿律師は、天竺の沙門菩提僊那と共に來朝して、律宗を傳ふると同時に、六十華嚴、及び賢首大師の疏章を齎せり。然れども、道璿師來朝の本旨は律宗の弘通に在りしを以て、未だ華嚴經を講說するに至らざりき。此の時に當り一世の高德良辨僧正あり、一夕靈夢に感じて、華嚴敎を弘めんことを誓ひ、新羅の學僧審祥師の許に詣り、本經を講說せられんことを再三懇望せしも容れられず。遂に勅請を仰いで師を聘し、南都の名僧を集めて之を聽衆となし、金鐘道場に於て華嚴經を講宣せり。是れ實に天平十二年(皇紀一四〇〇)十月八日にして、本朝に於ける本經講說の嚆矢なり。これより、聖武天皇叡願を發して盛んに華嚴敎を弘め給ひ、大經の講筵を永代の恒例となし、東大寺の南大門に大華嚴寺の額を揭げ、大佛殿の二階には恒說華嚴院の額を上げ、東大寺を以て華嚴の根本道場と定め給へり。されば日本の華嚴宗に於ては、審祥大德は初講の師なれば、之を初祖となし、發願初興の良辨僧正を第二祖と定む。又聖武帝は寺塔を建立して、大いに本宗の弘布に力を注ぎ給ひし大檀越なれば、前二祖と共に本宗興起の三大師として永く尊崇し奉れり。斯の如く華嚴宗は聖武

帝の厚き歸依と、良辨僧正の熱誠なる弘法興教とに依り、傳來の當初よりして、南都佛教の中心となり、從來の諸宗を壓倒するの盛況を呈せり。良辨僧正の滅後は實忠良興等の諸師に依りて、宗風宣揚せられ、同門の學匠壽靈大德は、指事記を撰して五教章を釋せり。これ本朝に於ける最古の註疏にして、後代本宗教學の指針となれる要書なり。初講の本經は六十華嚴にして、探玄記に依りたるも、八十華嚴も亦既に天平八年、玄昉歸朝の時、之を將來し、後復た鑑眞和尚此の經を齎して來朝せり。然るに當時尚ほ未だ大疏鈔傳來せざりしを以て、唐經を講ずるに慧苑の刊定記に依れりと云ふ。大疏鈔と四十華嚴とは、平城天皇の朝、弘法大師歸朝の時之を傳へ、始めて刊定記の邪說なるを知りて、大疏鈔を依用するに至れり。かくて華嚴の疏章漸次傳來するに從ひ、教學益盛大となりしも、平安奠都以後は、天台眞言の新宗勃興して、南都の諸宗は漸く衰頽の機運に向へり。殊に、旭日昇天の勢を以て教勢を張れる華嚴宗は、時已に去り、弘法其の人を得ずして、教勢頓に揚らず、根本道場たる東大寺の如きも、遂に諸宗を兼學するに至れり。然れども、法燈は綿綿として後を絕たず、審祥、良辨、實忠、等定、正進、長歲等の諸師、次第に相承して、第十代の光智法師に至り、東大寺の境內に尊勝院を創立して、永代華嚴の專門道場と定め、教勢の恢復に力を竭したり。師の下に松橋、觀眞の二哲出で、是れより法系二派に分れ、松橋の下を本寺派と稱し、觀眞の下を末寺派と稱す。

鎌倉時代に入りては禪、淨土等の實際的宗派興起して、日本佛教の面目を一新せるに當り、從來の諸宗派も亦自ら活氣を呈し、各各宗旨を發揚するに努めたり。華嚴宗に於ても、本寺系の下に尊玄、宗性、凝然、等の碩學出で、末寺系の下に景雅、高辨、高信、等の高德現はれ、相竝びて大いに一乘圓宗の敎綱を張れり。就中、末寺派の高辨と、本寺派の凝然とは、兩系を代表すべき英傑にして、本宗中興の偉業は二師に依りて大成せられたり。

高辨は明慧上人と稱し、北條時賴の歸依を受けたる一世の高德にして、自ら栂尾に隱栖し高遠なる華嚴の敎理を體得して、專ら實踐躬行を以て人を導けり。其の著書に金獅子章光顯鈔、華嚴唯心義、華嚴修禪觀照入解脫行義、華嚴信種義等あり。孰れも皆實踐門を主とせる、懇切丁寧なる敎導にあらざるなし。從つて其の學風は支那の李通玄を私淑し、合論を祖述せり。其の上足に高信あり、丹波の二聖院に住して華嚴を講宣し、其の弟子の順高は五敎章類集記、起信論疏聽集記等を著はせり。之れを二聖院系と稱す。

凝然は示觀國師と號し、華嚴の學匠宗性上人の資にして、明慧上人の沒後、東大寺に於て、華嚴の講筵を張り本宗の敎學は前古未聞の盛況を呈せり。師は資性聰明にして、博覽强記、諸宗の敎義に通曉せざるなく、其の著す所極めて多方面にして、其の數に於ても百數十部の多きに達せり。中に於

て華嚴部第一位を占め、五教章通路記(五十卷)探玄記洞幽鈔(百二十卷)の大部を始めとし、法界義鏡(二卷)、華嚴宗要義(一卷)、華嚴經品釋(一卷)、華嚴十重唯識瑞鑑記(七卷)等三十餘部あり。然るに師の著述の多くは永祿の兵燹に罹りて、現存する者甚だ尠く、且つ闕卷少からざるは、寔に學界の恨事といふべし。師の學風は、五祖の正統を祖述するにあれば、專ら祖師の疏章を解釋し、其の幽を闡きて祖意を宣揚するに努め、日本に於ける古來の學說を折衷大成して、範を後世に垂れたり。其門下に道玄、禪爾、湛睿等あり。禪爾は久米田寺に住して教勢を張り、其の下に盛譽出でて、華嚴手鏡を著し、其の資の聖憲は五教章聽抄を撰して、久米田寺系の學風を宣揚せり。又湛睿は相州金澤の稱名寺に在りて、華嚴を講說し、五教章纂釋(三十二卷)起信論教理鈔(十九卷)を撰して、宗旨の宣傳に努めたり。
高辨、凝然の二師以後、一時其の門葉大いに振ひたれども、其の後鎌倉の末葉より足利の初期に至りて、靈波、總融、志玉等の學匠出でて、僅かに教勢を維持するに止まり、志玉以後は殆んど其の教系の討ぬべきなし。降つて德川時代に入りては、一般文化の復興と共に、諸宗の教學も亦其の頽勢を挽回し、華嚴宗に於ては元祿享保の頃に鳳潭僧濬出でて驍名を一時に馳せ、教界の惰眠を覺醒し、華嚴宗の再興を以て自ら任じたり。華嚴に關する著作としては五教章匡眞鈔(十卷)起信論幻虎錄(三卷)等あり。されど師の學風は頗る穩健を缺き、列祖の正轍を脫する者多きが故に、後の學者は異端として

之を排斥するも、師が力を教學の復興に盡し、自ら書を著すのみならず、多くの典籍を刊行して教學の普及を計りたるは、其の功大なりといはざるべからず。是れより諸宗の學匠にして、心を華嚴に傾け、深く之を攻究する者相繼いで出でたり。就中有名なるは、豐山の主眞、曹洞の興隆、淨土の普寂、豐山の戒定、淨土の經歷、眞宗の芳英等なり。是等の諸師は孰れも皆諸宗の教義を兼修せる學匠にして、而かも自由討究の精神より華嚴を攻究し、各書を著して其の所見を發表し、互に論難して相ひ讓らず。其の間、一面に於ては嫡傳の宗旨に違ふ者あれども、又他面に於ては斯學の發達に資する所尠からず。就中、經歷師の如きは專ら異義を排して列祖の正統を鼓吹し、其の門下の芳英は探玄記を講じて南紀錄(五十卷)を著し、其の穩健なる學風は延いて現代に及べり。

第二　本經に就て

一　經題の略釋

華嚴經に多種あり、探玄記には恒本、大本、上本、中本、下本、略本の六本の不同ありといひ、刊目には之を合して上中下の三本となし、旨歸には之を開きて十種と為せり。六本の中にて、恒本と大本と

は法爾恒説の華嚴經にして、其の數量限り無く、品頌の多小を論ずべき者にあらざれば、翰墨の能く記す所にあらず。唯佛又は等覺の菩薩のみ之を受持し、龍樹と雖も尚ほ見ること能はざるなり。次の四本は龍樹菩薩の龍宮に於て見し所の結集書寫の經なり。中に就て、上本と中本とは其の頌數、品數頗る廣大にして、閻浮の人力の受持し能はざる所なるが故に、龍宮に秘して之を傳來せず。下本は正しく龍樹の將來せる十萬頌三十八品の經典にして、遮拘迦國に秘藏せられたるは此本なりといふ。略本は支那に傳譯せられたる六十、八十等の經典にして、十萬頌の要略なり。蓋し受持する者の機根に勝劣あるが故に、經本に大小廣略の別を生ぜしなり。

經本の多種なるが如く、經題も亦一樣ならず。且らく結集流傳の經本に就て之を見るに、梁攝論には、本經の頌數に依りて百千經と名づけ、智度論には、本經所説の內容に依りて、不思議解脱經と名づけ、涅槃經及び觀佛三昧經には、雜華經といへり。蓋し萬行交飾して緣起集成するが故に、喩に從ひて名を標せしなり。其の他、本經中には義に依り德を表して種種の名を擧ぐ。然るに東流略本の經は、具さに題して梵名を、摩訶毘佛略勃駄健拏驃訶素怛覽 (Mahāvaipulyabuddha-gaṇḍa vyūha-sūtra) と名づけ、譯して大方廣佛華嚴經といふ。是れ法喩因果竝べ擧げ、理智人法兼ね備はれる名稱にして、一經の要旨は卷いて此の中に含まれたるを以て、祖師の題釋は頗る精緻を極めたり。今其の義を略

說して、本經所說の要旨を窺はんとす。

大方廣佛華嚴といふは所詮の義、經は能詮の言教なり。所詮の中に於て、法と喩とを分つに、大方廣佛は法にして、華嚴は比喩なり。法の中に於て、大方廣は所證所覺の法義にして、佛は能證能覺の人なり。又法は所證の境にして、佛は能證の智なり。而して佛の所證の境は法界無盡の妙理にして、言詮を超え情慮を絕したる稱性の極談なれども、言詮を假らざれば、其の至妙の理を究むること能はざるが故に、無名の中に於て强ひて名づけて大方廣といふ。更に細釋するに、大は包含の義にして、法の當體に名づけ、方は軌範の義にして用を表し、廣は周遍の義にして、體用合して明かす。又此の三字を次第の如く體相用の三大に配釋するも可なり。探玄記に依るに、大と方廣とに各十義を開きて、法の無邊絕大なることを示せり。大の十義とは、一に十蓮華藏世界、及び十佛の三業、無邊の依報正報を以て、所信の境と爲すは、境大の義。二に此の絕大の境に依りて、大菩提心を起すは、心大の義。三に大心に依りて、無邊の大行を起こすは、行大の義。四に大行を積集して五位圓通し、大位を成ずるは、位大の義。五に行位圓滿して、生了の二因究竟するは、因大の義。六に因分に果分に、遮那の果德圓明なるは、果大の義。七に無盡法界の性起の大用平等にして、皆同じく眞性を離れざるは、體大の義。八に念念に衆生を利益して、頓に行位を成せしむるは、用大の義。九に經中の一一の名句、皆一切に遍通して局限なき

は、教大の義。十に所詮の義は皆無盡の法界を盡し、一塵に十方を該攝し、一念に九世を包含して、橫竪無礙自在なるは、義大の義なり。此の十義は、一一に一切の法を統收して、悉く大と稱せざること無きが故に、法體を指して直に大と名づくるなり。次に方廣を釋するに亦十義あり。謂ゆる、佛の言教廣く諸の刹土に遍在するは、周遍の義。普く一切の法を宣說するは、普說の義。甚深の法界海を說くは、深說の義。普く無盡の衆生界を攝益するは、備攝の義。衆生をして佛果菩提の大利樂を得しむるは、廣益の義。遍く二障及び習氣を除くは、蕩除の義。無邊の諸の勝德を具するは、具德の義。獨り超絕して他に比類なきは、超勝の義。通じて衆多の異類を攝するは、含攝の義。能く佛の大果を出生するは、廣出の義なり。又若し淸涼大師の玄談に依らば、大の義を釋するに、體、相、用、果、因、智、教、義、境、業、の十大の義門を開き、初めの七義を次第の如く經題の七字に配釋し、一經所詮の法を義大とし、無盡の衆生界を境大とし、三世十方に亘り、攝化無休なるを業大と爲せり。斯の如く義門多端なりと雖も、要は唯一心法界の體用、廣大無邊なることを表示して、大方廣と名づけたるなり。

次に佛華嚴の三字を細釋せんに、亦各十義ありて義門繁多なれども要を擧げて言はば、大方廣の三字を以て表示せられたる、無盡法界の理を證得せる人を指して佛と名づく。是れ卽ち本經の教主毘盧舍那佛にして、融三世間十身具足の佛陀なり。此の萬德圓備の果體を成じたる因行を華に喩へ、因

位の萬行開敷して佛果を嚴飾するの義に依りて、佛華嚴と稱するなり。遊心法界記に曰く、「華は菩薩の萬行なり。何となれば華に生實の用あり、行に感果の能あるを以て、復た內外兩ながら殊りと雖も生感の力相ひ似たるあり。今卽ち法を以て事に托す、故に華と名づくるなり。嚴とは行成じ、果滿じて契合相應し、垢障永く消え、證理圓潔なり。用に隨つて德を讃ず、故に稱して嚴といふ」と、言簡にして能く其の意を盡くせり。華を以て因行に喩ふるは、其の義甚だ廣く、探玄記に依るに、華に微妙、開敷、端正、芬馥、適悅、巧成、光淨、莊飾、引果、不染の十義を分別し、是れに由りて因行圓滿の義を表示せり。今之を該括するに、微妙、感果、莊飾の三義を出でず。初の一義は行體に喩へ、後の二義は行用に喩ふ。凡そ華には、華と實と前後時を隔てたる生果の華と、華實同時なる莊果の華とあり。是れ感果と莊飾の二義ある所以にして、因位の萬行漸次に積集して、菩提の妙果を結ぶといふ行布門の說は感果の義なり。因行は直に是れ果德の莊嚴にして、因果相卽無礙なりといふ圓融門の說は莊果の義なり。普賢の因行圓かに成じて、遮那の果德を莊嚴するが故に、佛華嚴といふも、因果は融攝無礙なるを以て、果德は卽ち是れ因行なり。故に果を以て因を莊嚴する義あり。又行體は果德の眞性なるが故に、理は行に依りて現はる、是れ行華を以て法界の理を莊嚴するなり。又理行は相卽不離なれば、行は理に依りて起る、是れ理華を以て諸行を莊嚴するなり。是の如く重重の深義ありと雖も、要するに因果交徹し

理行無礙なるが故に、互に能嚴となり所嚴となりて、鎔融自在なることを標して、佛華嚴と稱するなり。

以上經題に於て、法喩を分ち、人法を分ち、理事體用因果等と、種種に差別して之を釋せるも、法喩人法體用因果等の相對的差別は、すべて是れ義門の別に過ぎず、無盡縁起の法體に於ては、互に融會無礙にして、一卽一切なり。故に本經の見地より見るときは、七字の經題は、一一法界の法門を標示し、其の中に一切の義を該羅し盡せる者と見ざる可らず。されば之を攝すれば一字に歸するも、開けば無邊の義海となる。これ卽ち祖師の題釋の深廣該博なる所以なり。

二　本經の宗趣

淸涼大師は、其の玄談に於て本經を讚歎して曰く、「玄微を剖裂して心境を昭廓し、理を窮め性を盡し、果に徹し因を該ね、汪洋として沖融し、廣大悉く備はれる者は、其れ唯大方廣佛華嚴經のみ」と。寔に本經は七處八會三十四品、其の文廣漠にして、其の義深遠なり。されど文の由つて來る必ず宗本あり、義の顯す所必ず歸趣あり。是に於て賢首大師は、理實法界因果縁起を以て、本經の宗趣と爲し給へり。今之を經題に配すれば、理實法界は大方廣に當り、因果縁起は佛華嚴に相當す。前者は縁起の本源にして、眞如の理體なり。後者は縁起の當相にして、差別の事相なり。更に總別を分たば、

法界は總にして、理事混融無礙の實體界に名づけ、理實は別にして眞如の無自性に名づく。又緣起は總にして性起の大用を顯はし、因果は別にして差別の事相を示す。是の如く能緣起の體と、所緣起の用とを分ち、理と事とを區別すれども、體用理事隔歷の法にあらず。眞如の理性は本來定性なきが故に、緣に隨つて起滅し、差別の事象を顯現して、因果緣起を成じ。緣起の諸法は本無自性なるが故に、當體理實の法界なり。理は事に徹し、事は理を全うして、理實法界と因果緣起とは鎔融無礙なり。理實の本體と因果の萬象と圓融交徹して自在なるは、所謂る性起の大用にして、法界大緣起の法門なり。是れ實に宇宙人生の眞相にして、本經一部の宗趣なりとす。而して此の法界緣起の大義は、深妙不可思議にして、諸の經論の所說の遠く及ばざる所なるが故に、淸涼大師は更に不思議の三字を加へ、理實法界因果緣起不思議を以て、本經の宗趣と爲し給へり。

尚ほ此の因果緣起の深旨は、後の五周の因果、四種法界、等の說を參照すべし。

三　本經の組織及び綱領

本經の宗趣は、總じて法界無盡緣起の法門に在りと雖も、一經の始終を通じて、其の結構と綱領とを示さんに、本經一部の大綱は文義の二を出でず。文とは能詮の言教にして、義とは所詮の義理なり。

先づ其の文に就て論せんか、八會三十四品五十四萬言、之を攝すれば五分となる。第一の世間淨眼品は、本經興起の因緣を明かすを以て、之を敎起因緣分と名づく。通途の三分科に配すれば、一經の總序分にして、第二品以下は正宗分に屬す。中に於て、第二盧舍那品は、舍那佛の圓滿なる依報の果を擧げ、衆生をして信樂を生ぜしめんが爲めの敎說なれば、之を擧果勸樂生信分と名づく。第三名號品より第三十二性起品に至る三十品は、十信、十住、十行、十回向、十地の五位の因行を修して佛果を成ずることを說き、因果鉤鎖して次第に成ずることを知らしめ、修因感果の理に於て、解了を生ぜしむるが故に、修因契果生解分と名づく。第三十三離世間品は、更に六位の行法に託して、廣く二千の行法を修成することを明かすが故に、之を託法進修成行分と名づく。最後の入法界品は、善財童子が善友の敎導に依りて、前の行法を修して、法界の法門に證入し、勝德を成ずることを說きたるが故に、之を依人入證成德分と名づく。是の如く、文に就て經を分たば、其の說相は五分を出です。更に要約すれば、衆生をして信を發こし、解を生じ、行を修して、法界に證入せしむるに在り。

次に所詮の義に就て本經の始終を大觀するに、八會三十四品は、法界因果の理を說くの外なし。此の法界の因果を開けば五周の因果となる。第一會の中に於て、初品は序分なれば之を除き、第二品正宗分に入りて、初めに舍那の果德を明かし、次に普莊嚴童子の往昔の因行を略說せり。これ卽ち所信の

因果なり。次に、第二會の初め名號品より、第六會の佛小相品に至る二十五品は、五十位の因行の差別を示し。後の佛不思議法品、相海品、小相品の三品は、佛果の三德差別の相を說くが故に、之を差別の因果と名づく。第三に、第六會の後の二品に於て、普賢行品に普賢の圓因を明かし、性起品に舍那の滿果を說き、前の因果差別の相を融じて、因は必ず果を具し、果は必ず因を該ね、因果交徹して不二なる理を明かすが故に、之を平等の因果と名づく。第四に、第七會離世間品に於て、初め二千の法行を說きて、因行を明かし、後に八相作佛の大用を示して、果相を明かすが故に、之を成行の因果と名づく。第五に、第八會入法界品は、初め本會に於て、佛自在の大用を明かして、證入の果を現ずることを示し、後の末會に於て、善財童子が廣く善知識を詢求して因行を修し、終に法界の法門に證入することを說くが故に、之を證入の因果と名づく。本經の所說は是の如く五周の因果ありと雖も、前の五分と同じく信解行證の四を出です。更に要を擧ぐれば、法界の理に證入するを以て、本經の究竟目的となすが故に、八會三十四品の廣大なる華嚴經は、其の文より見るも、將た又其の義より見るも、證の一字に歸する者といふべし。以上の所說を圖に示せば左の如し。

序分——教起因緣分——世間淨眼品
一擧果勸樂生信分—舍那品—所信因果—信。

- 華嚴經
  - 正宗分
    - 修因契果生解分
      - 名號品より佛小相品に至る ─ 差別因果 ─┐
      - 普賢行品・性起品 ─ 平等因果 ─┘ 解。
    - 託法進修成行分 ─ 離世間品 ─ 成行因果 ─ 行。
    - 依人入證成德分 ─ 入法界品 ─ 證入因果 ─ 證。
  - 流通分

因みに、本經を三分科に配するに當り、流通分の有無に就ては、古來異義多くして一定せず。賢首大師は法界緣起論の見地より之を解釋して、華嚴經は稱法界無盡の法門なれば、恒說無窮にして終局あることなきが故に、自ら他の經典と異りて流通分あることなしと主張し、清涼大師は一般の三分科を應用し、隋の慧遠の說を評取して、入法界品の末會、善財童子以下の文を以て流通分と爲せり。蓋し、賢首大師は稱法の本經としての特長を發揮せんが爲めに、絕待的觀察を下し、清涼大師は一般經釋の範に則り、且らく相對的に觀察して、邪義を排斥せられしなり。

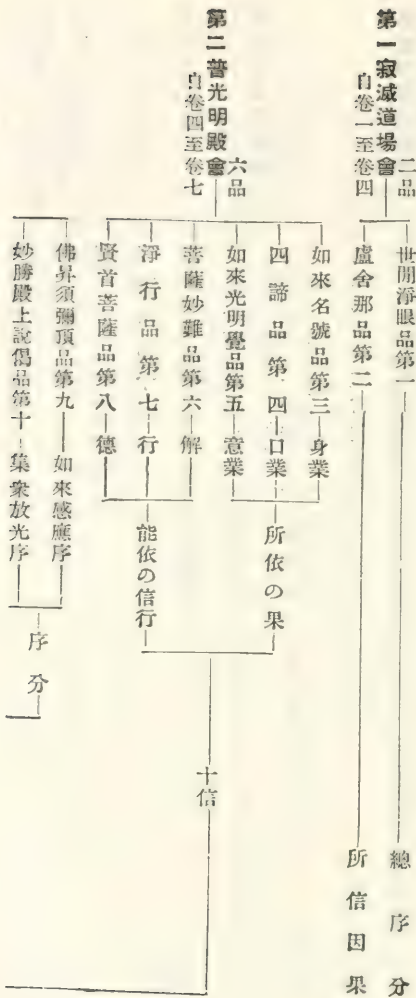
四　八會の大意

華嚴經の所說は、理智宏遠にして玄妙を極め、一乘の法義、深く眞源に徹し、遙かに二乘の視聽を超

絶せり。加之、其の文浩瀚にして微言虚空に等しく、其の卷帙の量に於ても、大乘諸經の第一位を占む。されば人若し卒爾として本經に對せんか、恰も肉眼を以て天日を仰ぎ視るが如く、佛智の光明に心眼眩み、或は又無限の曠野に彷徨して歸趣を知らざるが如く、其の文廣きに茫然たらん。かくては一乘の妙典を手にして聾盲の嘆に堪へざるべし。されば、前に本經の結構を叙じて、略一經の綱要を示したれども、今又重複を厭はず、八會の大意を述べて各品の連絡を示さん。

七處八會略表

第一寂滅道場會 二品 自卷一至卷四
- 世間淨眼品第一 ── 總序分
- 盧舍那品第二 ── 所信因果

第二普光明殿會 六品 自卷四至卷七
- 如來名號品第三 ─ 身業
- 四諦品第四 ─ 口業
- 如來光明覺品第五 ─ 意業
  - （身業・口業・意業）── 所依の果
- 菩薩明難品第六 ─ 解
- 淨行品第七 ─ 行
- 賢首菩薩品第八 ─ 德
  - （解・行・德）── 能依の信行
  - （所依の果・能依の信行）── 十信
- 佛昇須彌頂品第九 ── 如來感應序
- 妙勝殿上說偈品第十 ── 集衆放光序
  - （如來感應序・集衆放光序）── 序分

第三忉利天會 六品 自卷八至卷十
- 正宗分
  - 自分
    - 菩薩十住品第十一—解
    - 梵行品第十二—行
    - 初發心菩薩功德品第十三—德
  - 明法品第十四—勝進分
- → 十住

第四夜摩天宮會 四品 自十一至十三
- 序分
  - 佛昇夜摩天宮品第十五—請佛序
  - 夜摩天宮菩薩說偈品第十六—讚佛序
- 正宗分
  - 功德華聚菩薩十行品第十七—自分行
  - 菩薩十無盡藏品第十八—勝進德
- → 十行

第五兜率天宮會 三品 自十三至二十三
- 序分
  - 如來昇兜率天宮品第十九—請佛序
  - 兜率天宮菩薩讚佛品第二十—讚佛序
- 金剛幢菩薩十回向品第二十一—自分行—正宗分
- → 十回向

第六他化自在天會 十一品 自二十三至三十七
- 十地品第二十二—明ニ位體行相ー—自分證位
- 勝進行用
  - 十明品第二十三—明ニ通明ー
  - 十忍品第二十四—顯ニ十明所依智體ー
  - 阿僧祇品第二十五—約ニ數量ー顯ニ行德校量分齊ー
  - 壽命品第二十六—約ニ時開、辨ニ佛德ー
  - 菩薩住處品第二十七—約ニ空開、明ニ菩薩化用ー
- → 十地
- 佛不思議法品第二十八—總明ニ佛德體用殊勝ー

十住・十行・十回向・十地 → 差別因

差別因・佛不思議法品 → 差別因果

如來相海品第二十九─別顯二勝德相─┐
佛小相功德品第三十─別辨二勝德益相─┘──差別果─┐
普賢菩薩行品第三十一─明二普賢圓因──平等因─┐
寶王如來性起品第三十二─明二性起果用──平等果─┘──平等因果

第七普光法堂重會一品 自三十七至四十四──離世間品第三十三──成行因果

第八逝多林會一品 自四十五至六十──入法界品第三十四──證入因果

第一會は摩訶陀國の寂滅道場に於て開かれ、世間淨眼品、盧舍那品の二品あり。初品は一經の總序にして、本經興起の因緣を敍す。中に於て、先づ三世間圓滿を明かせり。初めに菩提樹下の道場は直に是れ華藏世界なることを示して、種種の莊嚴を列ねたるは、器世間卽ち國土の圓滿なり。次に師子座に坐し給へる始成正覺の釋迦佛は、卽ち是れ敎主毘盧舍那佛にして、萬德圓滿の果相を備へ給へることを明かせるは、智正覺世間の圓滿なり。次に嘉會の大衆に內衆外衆あり、同生異生あり、總じて五十五衆を列ね、各如來の功德を分ちて自德となし、其の數と德と行と供養とに於て、圓滿無礙にして各聞法の德を運び、供養の誠を抽んでて左右に列侍せるは、衆生世間圓滿なり。是の如く、說法の道場と能說の敎主と、會座の聽衆との三共に圓滿にして、主伴具足し、依正鎔融して自在の祥瑞を現す。

是に於て佛は海印定中に在りて、慧日山王を照し、果上現の法門始めて興起するに至る。これ當品布置の大意なり。

第二の盧舍那品は正宗分の初めにして、普賢菩薩法主と爲り、先づ一切如來淨藏三昧に入り、諸佛に加持せられて、定内に五海を觀じ、略して十智を説き、後、定より出で、大衆の請を容れて、廣く十種の世界海を説けり。而して第十の壞世界に至り、盧舍那佛の報土なる十蓮華藏世界の莊嚴を詳説せり。これ卽ち華嚴敎の理想とする世界にして、舍那法身の圓滿なる國土なり。此の果相を示し終りて、次に、此の無礙勝妙の佛刹を感得せる圓融の妙行を明かさんが爲めに、普莊嚴童子の因緣を説きて、舍那佛過去の因行を明かせり。是の如く、此の品の大要は信の對境たる果上の因果を示すに在るが故に所信因果と爲す。

第二會は普光法堂に於て開かれ、第一會に於て所信の境を明かしたるを以て、今會には能信の行を辨ず、卽ち十信會なり。名號品、四諦品、光明覺品、菩薩明難品、淨行品、賢首菩薩品の六品あり。初めの三品は佛の三業を説きて信位の所依と爲す。蓋し前會已に所信の果德を示したるも、主として依報の國土を明かせるを以て、今は正報の佛の德を顯はす。中に於て、初品には先づ本會の序説として三世間を叙し、次で海會の菩薩念請を作し、過現未三際の佛法に就て三十四問を發し、下の五會

に通じて其答說あり。此會には初めの十問に答ふ。後、正說に入り、文殊菩薩、佛力を承けて佛の名號を說き、佛身の業用は萬機に應じて、種種の妙相を現じ、應化自在にして妙用不可思議なることを明かす。蓋し佛の名號は佛身の德相に隨つて名づけたる者なるが故に、身業に屬す。次の四諦品は、衆生の種種なる樂欲に隨つて、敎法の名字同じからざることを明かさんが爲めに、此娑婆世界を首として、盡十方法界の一切の世界に於ける四諦の名稱を列擧し、佛の語業の勝妙なることを示す。次に光明覺品に入りて、佛の意業の不可思議自在なることを明かさんが爲めに、總じて二十五重の放光を敘す。敎主舍那佛は身光を放ちて事境を照し、大聖文殊は智光を放ちて理境を照し、衆生をして、事に限礙なく、理に差別なく、事理倶に障礙なき事を覺らしめ、以て法界の法門は重重無盡に圓融することを顯はす。

以上三品に於て所信の果德を示したるを以て、次の三品に於て正しく能信の行を明かす。信行の中に解と行と德とあり。初め明難品に於て、緣起甚深より佛境界甚深に至る十種の甚深の義を說きて、信位の大解を明かし、次に淨行品に入りては、前の大解に依りて大行を成することを明かさんが爲めに、事に觸れ緣に應じて百四十の願を發こし、自分勝進の二行を成滿する事を說き、後の賢首品に於ては、前の行願に依りて、普賢廣大の德用を成ずることを明かす。此に於て、信位の德成じて廣く諸

位を攝し、無方の大用を擧げて十種の三昧門を說き、更に巧妙なる譬喩を以て玄旨を闡明し、次で教法の淺深と信解の難易とを校量し、終りに顯實證成を示して第二會の說法を竟れり。

第三會は如來覺樹を離れ給はずして、須彌の頂の忉利天に昇り、此に十住の嘉會を開き給ふ。前會に於ては信を明かし、位前の方便を示したるを以て、今は信に依りて行を起こし、進んで正位に入ることを說く。山頂と云ふは行位漸く昇進することを顯はす者にして、處に託して法を表示するなり。本會に昇須彌頂品、菩薩雲集說偈品、十住品、梵行品、初發心菩薩功德品、明法品の六品あり。初めの二品は本會の序說にして、後の四品は正說なり。序說の中、初品は果德の圓滿せることを明かす、如來感應の序、後品は因德の圓滿せることを明かす、集衆放光の序なり。次に正說に入り、前三品は正しく當位の行德を說く。卽ち十住品には廣く位相を明かして解を生ぜしめ、梵行品には十住位を成ずる十種の淸淨行を示す。蓋し解は必ず行を生ずるが故なり。次の初發心菩薩功德品は初住初發心の功德の廣大無邊にして、普賢の萬德を攝し、因果具さに備はり、德量法界と等しきことを辯じて、行位の勝德を明かす。後の明法品に於ては、廣く行法の體と行所成の德とを說き、功德轉勝して後位に進趣することを明かし本會を竟る。

第四會は夜摩天宮に於ける十行會にして、前會に解を說きたるを以て、本會に入りて行を明かす。

昇夜摩天宮品、菩薩雲集讃佛品、十行品、菩薩十無盡藏品の四品あり。初めの二品は序說、後の二品は正說なり。序說の中、初品は能化の佛、機緣に應じて不思議の妙用を現じ、昇天し給ふことを叙する請佛の序なり。次の讃佛品は所化の菩薩來集し、佛、光明を放ちて大會顯現し、十林の菩薩偈を說きて、如來の功德を讃歎することを明かす、讃佛の序なり。正說に入りて、十行品は、正しく當位の行法を示し、十無盡藏品は、十藏無盡の行相を明かし、十種の行相は始終を該攝して、普賢法界の行德を具足することを示す。これ卽ち當位所成の勝進の功德なり。

第五會は兜率天に於ける、十回向會にして、前會の解行を回向して、眞正に向ふ大願を明かす。佛昇兜率天宮品、菩薩說偈品、十回向品の三品あり。初の二品を本會の序說とし、後の二品を正說となす。序說の二品は前會と同じく、初めは請佛の序、後は讃佛の序なり。正說に入りて、正しく十回向を說き、廣く十種の大行を衆生と菩提と眞實際とに回向することを明かし、無邊の行海を以て、無崖の大願に隨順し、普賢法界の功德を成就することを示す。本會に勝進なきは、前の解行を攝して、總じて次の十地位に入る方便となすを以て、大願回向の當體は、自ら是れ勝進の德を成ずるが故に、別に之を說かざるなり。

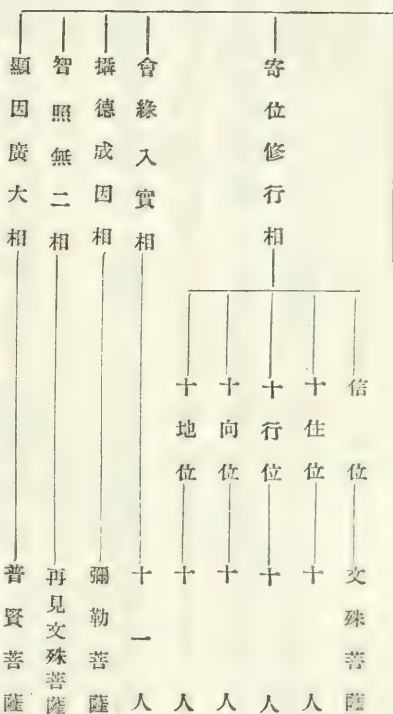
第六會は他化自在天宮に於ける十地會にして、前三會に於て、住行向の三賢位を明かし、既に加行

方便を成滿したるが故に、本會に來りて入證成果の義を明かす。又前は比觀に約して普賢圓融の行德を寄顯し、今は證位に約して三乘差別の行德を寄顯す。是の故に前諸位に於て、廣く普賢自在の德を顯はし、地上に入りては、全く此の事を明さず。然れば直に文の表面を見れば、地前は勝れ、地上は劣れるの感あれども、但是れ寄顯の不同に依る者にして敎の深意を探るに、地前に於て圓融無礙の行相を說きて三乘と異ることを明かし、更に勝妙なる地上の不可思議自在なる行相は、假りに之を差別の三乘に寄顯して、不可說難思の旨を示し、是れに由りて、三乘と一乘との敎義に淺深の不同あることを顯はさんとするなり。

本會に十地品、十明品、十忍品、阿僧祇品、壽命品、菩薩住處品、佛不思議法品、如來相海品、佛小相品、普賢菩薩行品、寶王如來性起品の十一品あり。初めの九品は、緣修差別の因果を明かし、後の二品は性德平等の因果を明かす。初め九品の中、前六品は因位の德成滿せることを顯はし、後三品は果位の德顯現せることを示す。初めの十地品は正しく證位の位體行相を明かし、次の五品は位中の行用を明かす。是れ卽ち十地の體より流出せしものにして、當位勝進の功德なり。此の勝進の中に於て、十明品は十種の智明を說きて、神力自在の行用を示し、十忍品に入りて、十明所依の智體を明かし、更に阿僧祇品に至りては、數量の甚深不可思議なることを說きて、行德校量の分齊を顯はし、

事の細妙なることを示す。既に佛菩薩の實德平等にして、數量を超越せることを明かしたるを以て、次の壽命品には別して佛德を顯はし、佛の壽命は機に隨つて長短自在なることを示し、菩薩住處品に於ては、具さに住處に約して、菩薩の化用を明かし、應機接物の大用は法界に遍く、宜に隨ひ緣に任かせて、所住に邊際なきことを示せり。前來既に差別の妙因を說きたるを以て、次の三品に於て修生の滿果を顯はす。初めの不思議法品は、總じて果德の體用の殊勝不可思議なることを明かし、次の相海品は九十四相を擧げ、別して勝德の相狀を顯はし、後の小相品に於て、勝德の益用を辨ず。

前來、修生差別の因果を明かし竟りたるを以て、以下二品に於て修顯平等の因果を明かす。初めの普賢行品は平等の因、後の性起品は平等の果なり。是れ即ち第二會の初めより菩薩住處品に至る差別の因を會して、此の普賢の圓因に歸し、不思議法品以下三品の差別の果を會して、舍那平等の滿果に歸するなり。又差別は三乘の相待的因果にして、平等は一乘の絕待的因果なり。普賢行品には、廣大なる普賢の行を十門に綜括し、各又十門を開きて百門となし、普賢無盡の因行を顯はせり。蓋し一乘圓融の行なるが故に、一念の嗔恚起れば百千の障礙門となり。一念の嗔を對治すれば、一切の正法悉く具はる。所謂一障一切障、一斷一切斷の圓教の深旨は此に現はれたり。次の性起品に於ては、亦廣く十門の性起を擧げ、各また十門に分別して百門を成じ、十身如來の無礙の大用を明かせり。抑、此

- 入法界品
  - 末會（漸入法界分）
    - 菩薩會
      - 攝龍王會
      - 攝善財會
        - 寄位修行相
          - 信位——文殊菩薩
          - 十住位——十人
          - 十行位——十人
          - 十向位——十人
          - 十地位——十人
        - 會緣入實相——十一人
        - 攝德成因相——彌勒菩薩
        - 智照無二相——再見文殊菩薩
        - 顯因廣大相——普賢菩薩

此の會を開きて本末の二會となす。本會は如來を敎主と爲し、會中の諸菩薩、頓に法界を證することを明かす。會座に舍利弗目連等の十大弟子を首とし、五百の聲聞列れりと雖も、如來法界身の莊嚴光明を見聞すること能はず。所謂る聾の如く盲の如くにして、普く三世を照す法界法門の攝益を被ること能はざりしなり。末會は菩薩を敎主となし、漸入法界の義を明かす。本會は果法界にして、末會は因法界なり。然れども本は末を離れざるの本、末は本に異らざるの末なるが故に、頓漸の異りあ

りと雖も。因果圓融し本末無礙なり。故に合して一會一品となす。末會を分つて三となす。一に攝比丘會。文殊菩薩善重閣を出でて人界に遊行し、舍利弗等の六千の比丘を攝して無礙の法門に入らしむ。二に攝龍王會。文殊菩薩覺樹の東に至り、諸の龍王等の諸乘の機を攝して、菩提心を發し、不退轉に至らしむ。三に攝善財會。善財童子、文殊菩薩の攝化を蒙りて本有の菩提心を開發し、勇猛精進して速かに普賢行を圓滿せんことを誓ひ、文殊の勸誘に依りて諸の善知識を歷訪し、其の教導に依りて諸位の行を修習し、漸次に轉勝して遂に法界の法門に證入することを明かす。此の會に五相の別あり。一に寄位修行相。これ信、十住、十行、十向、十地の四十一位に寄せて、修行轉勝の相を明かす。善財童子初め文殊の教化に依りて法界の信位に入り、次に功德雲比丘より彌多羅女に至る十人の善友に依りて、十住位を成滿し、次に善現比丘より遍行外道に至る十人に依りて、十行位を成滿し、次に青蓮華長者より安住地神に至る十人に依りて、十回向位を成滿し、次に婆娑陀夜天より、瞿夷女に至る十人の善友に依りて十地位を成滿せり。以上四十一人の善知識は、各一法門を授けて位位の進勝を示し、四十一位の修行を成滿せしむ。二に會緣入實相。摩耶夫人より有德童女に至る十一人の善友あり、これ等覺の位に當る。前には一一の位を各一人に寄せて、差別の行相を明かしたるも、今は差別の諸緣を會して平等一實の法界に歸し、等覺の眞因となす。されば、今の會緣に十處あれども、初めの

摩耶夫人は總にして余の九は別なり。十人各差別の緣を會して一實に入らしむ。故に此の會緣の中に於ては、一を動せずして十なり、十を離れずして一なり。一多無礙にして始終相會す。所謂る行布の差別は其のままに圓融し、圓融の妙用は其の儘に前後差別す。此の因は親しく佛を生ずるが故に、聖母摩耶夫人を初めに擧げて之を表示す。三に攝德成因相。此の位の知識を彌勒菩薩と爲す。前の寄位會緣の二相を融會して等覺補處の圓因となす。これ成佛の因たるに堪ふるが故に、補處の彌勒菩薩に寄せて、等覺の圓因たることを顯はす。四に智照無二相。此位に於て再び文殊菩薩に見ゆ。既に等覺の圓因究竟すれば、信智冥合して初後の別なし。初め文殊の化導に依りて一念の信心を起し、親しく大法を信受せり。其の信は本これ本覺の智性より出でたるなり。今等覺圓因の智に住して還つて此の智體を見れば、亦同じく本覺の智性なり。されば諸位の差別は唯信の增進にして、其の智體に增減なし。故に今文殊に再見するは信の外に圓因の智なきことを表示するなり。五に顯因廣大相。此の位の智識は普賢菩薩なり。既に眞智開け初後無二なるが故に、其の德法界に等しく、修する所の圓因は悉く法界に稱ひて邊際なく、一行法界に遍じて諸行を包含し、成佛廣大の因たるに堪へ、其の所得は普賢と等しく、諸佛と同等なり。此に於て善財童子は法界に證入することを得たり。

以上末會は、所化の行者に依りて三會に分ちたるも、能化の主に依りて分たば五十二會となり。能

所通じて論ずれば五十五會となる。斯の如く廣しと雖も、之を總括するに文殊普賢の二位に歸す。卽ち初め信位の文殊より、智照無二の文殊に至る中間は般若門にして、後の普賢の一位は法界門なり。文殊は般若の智を表し、普賢は法界の理を表す。前者は能入の法界にして、後者は所入の法界なり。能所冥合し、理智不二となりて舍那の果海に歸入す。これ本會の究意目的なると同時に、華嚴大經の歸趣なりとす。

以上晉經に依りて八會の結構と各品の連絡とを概說せり。因みに唐經との異同を辨ぜば、唐經には七處九會三十九品あり。之を晉經に比するに、會に一會を增し、品に五品を加へたり。これ晉經に於ては十地品以下十一品を以て第六會としたるも、唐經には十地の一品を第六會とし、第七會を普光法堂の重會となし、晉經に缺けたる十定品を初品となし、十明以下の十品を加へて一會となせり。之れが爲めに離世間品は第八普光法堂三會となり、入法界品を第九會と爲す。次に品に五品を加へたる中の一品は、新たに第七會に入れる十定品なり。餘は第一會に於て、晉經は世間淨眼品と盧舍那品の二品なるも、唐經にては之を開きて、世主妙嚴品、如來現相品、普賢三昧品、世界成就品、華藏世界品、毘盧舍那品の六品と爲すが故に、四品を增せり。これ兩譯大經の大いに異る所にして、其の他は處處に多少の具略あれども、大體に於て相ひ一致せり。

第三　教理

一　四種法界

法界緣起の法門は、之を能入の智に約すれば、信解行證の次第に依りて、法界に證入する宗教的極致となり、之を所入の理に約すれば、四種法界となりて、智解開發の哲學的原理となる。所謂る四種法界とは、一眞法界を義相に隨つて四種に分類せる者にして、事法界、理法界、事理無礙法界、事事無礙法界是れなり。而して此の四法界は啻に華嚴の要義なるのみならず、廣く佛教全般の哲理を系統的に綜括せる者と見ることを得べし。

一　事法界　生滅起伏せる緣起現前の當相にして、差別の現象界なり。因緣生起の現象界は、森森羅列して千態萬狀、其の數無量にして究め盡すべからずと雖も、通佛教に於ては、之を該括して五蘊十二處十八界となし、更に細分して、七十五法となし、或は百法となす。但し無爲法は理法界に屬す。此の差別の現象界に於て因緣生起の次第を論じ、轉迷開悟の道を敎ふる者は、小乘の業感緣起說、及び大乘始教の賴耶緣起說なりとす。然るに今一乘圓教に於ては、此の事法界に於て無礙圓融の理を論ず

る者にして、之を十對に分類して一切の事法を綜括し、十玄緣起所依の體事と爲す。十對とは教義、理事、境智、行位、因果、依正、體用、人法、逆順、應感、是れなり。

一、教義一對。教とは能詮の言教、義とは所詮の義理なり。二、理事一對。理とは常恒不變の理體にして平等の本體界なり。事とは緣起變遷する事象にして、差別の現象界なり。三、境智一對。これ觀心門より分類せる者にして、境とは所觀の對境、智とは能觀の智なり。四、行位一對。これ向上趣入の行門に就て分類せる者にして、行とは實踐修行なり、位とは行に依つて得たる進趣の階位なり。五、因果一對。因果に依りて觀察せる者にして、究竟の佛果に到るまでの諸種の修行は因なり。此の因行成滿して佛の境界に達したるは卽ち果なり。六、依正一對。依とは依報にして有情の所依處となる國土をいひ、正とは正報にして國土に依住する佛菩薩を首として一切の生類をいふ。七、體用一對。體とは實體にして不變の實性をいひ、用とは力用にして、外物に隨應する化用をいふ。佛身は體にして、應機の化益は用なり。八、人法一對。人とは能知、能觀の主體にして、佛菩薩等をいひ、法とは所知所觀の客體にして、法界の諸法をいふ。九、逆順一對。逆とは本性に逆ふ作用にして、菩薩が外道等の相を現じて衆生を教化するをいひ、順とは本性に順ふ作用にして、文殊觀音等の菩薩が、智慧慈悲の相を現じて化益するをいふ。十、應感一對。應とは機根の不同、樂欲の差別に隨つて、種種に垂現す

る佛菩薩をいひ、感とは其の應現を感得する當機の衆生をいふ。
以上十對の分類は、圓宗特有の施設にして、十對各各五敎に隨つて淺深の差別あり、義門多端なりと雖も、之を以て法界の諸現象を綜括し、其一一の上に事事無礙の義あることを論ずるなり。されば若し義を以て該攝すれば、一事の上に各十對ありて、同時に相應し、同一體の緣起をなして無礙圓融す。これ本敎に談ずる所の事法界の當相にして、事事無礙圓融の妙旨なり。

二　理法界　宇宙萬有の實性たる本體界に名づけたるなり。凡そ萬有諸法は、彼此差別し、雜然として存在するも、本是れ因緣生起の現象なるが故に、因緣散ずれば空無に歸す。されば現象界の諸法は假名にして眞の實在にあらず。眞の實在は無限絕對にして、生滅なく增減なき不變恒存の理體なり、此の理體は體性空寂にして、所有る差別の相を離れたるが故に、思慮言詮の及ぶ所にあらず。斯く理體は眞空絕相にして認識を超越せるが故に、之を消極的に說明して、一切皆空と說き、八不中道と論ずるは、般若經等の空始敎なり。又無差別絕對の本體界より見來れば、迷悟染淨の別なく、生佛本來同一體なるが故に、之を積極的に言表して、一念不生卽佛といひ、一超直入如來地と談ずるは頓敎の所說なり。

三　事理無礙法界　差別の事相と平等の理體との關係を論じて相卽不離となすものなり。前に述べ

たる事理の二法界は、本來各別に孤立するものにあらずして、事法界の諸現象は、理法界の本體より顯現せる者なり。されば事は理を離れて獨存せず、理は事の外に別在せざること、恰も水と波との相卽不離なるが如し。是の如く事理の融卽を論じて、現象卽本體、本體卽現象となす者は、眞如緣起說の所談にして、五敎の中の終敎の分齊なり。相始敎に屬する賴耶緣起說に於ては、眞如の理體は不變の實性なるが故に、凝然として諸法を作らずと論じ、性相各別の見地に立ちて事理の相關を許さず。然るに終敎に於ては、眞如の理體に不變と隨緣との二義を認め、本體は其の靜的方面に於ては、不變常恒の實性なれども、動的方面に於ては、緣に隨つて作用を起こし、擧體動搖して差別の諸法と成る。是れ猶ほ湛然たる大海が、風の緣に依りて波浪を起こすが如し。されば一切諸法の生滅起伏は本體海の波浪にして、悉く眞如の顯現なるが故に、一一の現象は其の體眞如に外ならず。故に差別の諸法は、緣起の當相に於ては假有の現象なるも、其の實體は不變の眞如なり。然れば差別の事相と平等の理體とは一物の兩面にして、緣生卽無性なり。此の事理圓融の道理を一歩進めたるは次の事事無礙法界なり。

四　事事無礙法界　差別の現象界に於いて、諸法は相互に融會無礙なりと論ずるものなり。既に事理鎔融して、現象卽本體なりとすれば、前に差別的に觀察したる事法界の萬有諸法は、眞如海中の千

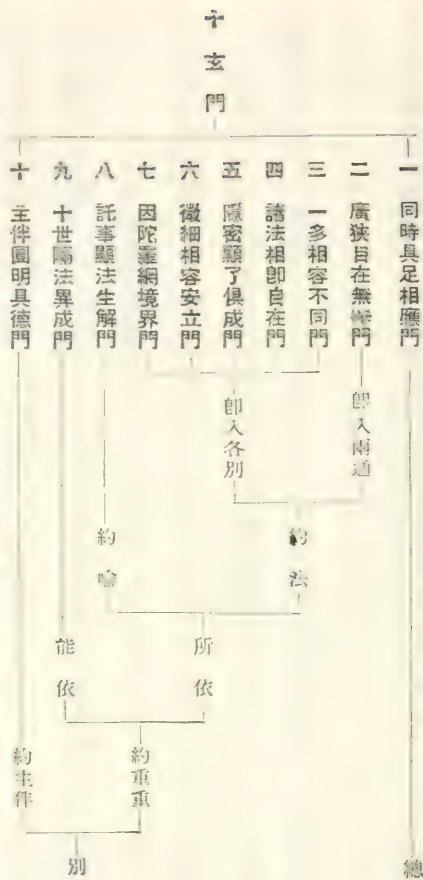
波萬浪にして、生滅起伏の當體其のまゝ是れ本體界の風光なり。然らば一理隨緣の眞如緣起說は、更に一段の開展をなし、一一の諸法は悉く實在の全顯現にして、一塵を擧ぐれば一塵是れ絕對にして全宇宙を盡し、一毫を擧ぐれば、一毫是れ絕對にして全法界を盡すものといはざるべからず。斯の如く法法塵塵悉く絕對にして、全法界は皆悉く此中に收まり、一卽一切、一切卽一の關係をなして、諸法は相互に相卽相入し、重重無盡に緣起すと論ずる者は事事無礙法界なり。是れ卽ち一乘圓敎の所談にして、法界緣起、又は無盡緣起と稱す。

二　十玄門

四種法界は本是れ一眞法界の四義なれば、孰れも別敎一乘の妙談ならざるなし。されど若し淺深の次第を立てて論ぜんか、事理相待より事理圓融に進み、一轉して、事法界の上に、事事圓融を論ずる者は、卽ち是れ法界緣起なるが故に、華嚴敎不共の圓旨は事事無礙法界に在り。而して此の無盡緣起の理を解釋せんが爲に、華嚴宗の諸祖は深く本經の幽意を探り、十種の方面より玄旨を闡明せる者を十玄門となす。蓋し十玄緣起無礙法門の謂なり。

抑此の十玄門の說は、至相大師の一乘十玄門に於て、初祖杜順師の說を祖述したるを始めとし、賢

首大師之を繼承して其の義を敷衍し、更に探玄記を著すに至つて其の不備を補はんが爲めに、其の列次を變じ、二門の名稱を改め、新に發揮する所ありたれば、之を新十玄と稱し、二祖相承の說を古十玄と稱す。後の淸涼圭峯の二師は新十玄を祖述して、無盡緣起を宣揚せり。されば今、新十玄に依りて其の名を列ね、綱概を叙せん。

十玄門
- 一 同時具足相應門 ―― 總
- 別
  - 約重重
    - 所依
      - 約法
        - 卽入兩通
          - 二 廣狹自在無礙門
        - 卽入各別
          - 三 一多相容不同門
          - 四 諸法相卽自在門
          - 五 隱密顯了俱成門
          - 六 微細相容安立門
      - 約喩
        - 七 因陀羅網境界門
        - 八 託事顯法生解門
    - 能依
      - 九 十世隔法異成門
  - 約主伴
    - 十 主伴圓明具德門

一　同時具足相應門　凡そ宇宙間の萬有は、時間的に見るも邊際なく、空間的に見るも際涯なし。而かも諸法は一として孤立獨存する者なし、互に相卽相入して、萬有一體の關係を爲せり。同時具足とは、

時間的に過現未三際の諸法は、互に相依り相資けて、同時に相續顯現するが故に、過去を擧ぐれば、此の一世に現在未來を具足し、現在未來も亦是の如く、三世互に相攝して而かも三世の相を壞せず。又空間的に一切の諸現象は、同時同處に具足相應し、一卽一切、一切卽一の關係を有して卽入無礙なり。而かも差別の諸法は宛然として各其の分を守りて相ひ亂れず。斯の如く宇宙間の諸法は、時間空間を通じて一體の緣起的關係を爲して圓滿具足し、前後始終等の別あることなきが故に、事法界の十對二十義は一法の上に具足し、自在に鎔融して雜亂せざること、猶ほ大海の一滴に百川の味を含むが如し。又此の一門に餘の九門を具足して法界の大緣起を成ず。これ實に緣起の實德にして、海印三昧同時炳現の法界の妙相なり。されば、此の一門は十玄門の總說にして、餘の九門は此の一門を別釋せる者に過ぎず。

二　廣狹自在無礙門　一切の諸法は理體の普遍なるが如く、一塵一法、各其の力用一切に遍じて際限なきは廣の義なり。能く一切に遍じて而かも自己の本位を失はず、能く差別の相を全うするは狹の義なり。法界の諸法は全く一塵に入りて本位を移さず、分卽無分、無分卽分にして、恰も徑尺の鏡を以て、千里の影を見るが如きは、廣狹自在無礙の意なり。本經の入法界品に摩耶夫人の曰く、「彼の妙光明來つて我が身に入る。我が身爾の時に世間を超出して虛空と等しく、亦人身を過ぎずして、悉く能

く十方の菩薩の莊嚴せる宮殿を受容す」と。是の如きは廣狹自在の義なり。古十玄に此の門を諸藏純雜具德門と名づけたるも、純雜の語は理事無礙に混同する嫌あるが故に、之を改めて廣狹となし、事事無礙の特相を顯はせり。

三　一多相容不同門　此の門は諸法相入の關係を示したる者にして、萬有諸法は、其の力用の有無に依りて、一の中に多を容れ多の中に一を攝し、一多相容して無礙なり。一の中に多を容るるも、一大となるに非らず、多の中に一を攝するも、一小となるにあらず。一は一の本位を全うし、多は多の面目を改めず。一多其の體不同にして、而かも其の力用交徹し、互に相容するが故に、一多相容不同門といふ。喩へば一室に千燈を點ずるに、其の光明各涉入するが如し。本經舍那品の偈に「一佛土を以て十方に滿て、十方を一に入るるも亦餘り無し。世界の本相も亦壞せず。無比の功德の故に爾なり」と云へるは此の門の義なり。

四　諸法相卽自在門　此の門は諸法の體に就て相卽を論ずるなり。緣起の諸法を其の體より見るに、容有の二義ありて互に相卽し、一卽一切となり、一切卽一となる。一卽一切なるが故に、體同じくして差別の相を全うし、一切卽一なるが故に、差別の相を壞せずして其の體一なり。前門は但力用の相入を論ずる者なれば、猶は兩鏡相照して光は涉入するも、鏡體は宛然として二面なるが如し。然るに此

門は體の虚實に依りて相卽を示す者なれば、猶は金と金色との如く、舉體相卽し、己を廢して他に同ずるなり。されば一切卽一の時は、一切は其の體を泯じて一の全面となり、千紫萬紅、皆是れ春の趣を呈す。十住品に「一は卽ち是れ多、多は卽ち是れ一なり」といひ、淨眼品に「一地に住して普く一切諸地の功德を攝す」と云ふが如きは此の門の義なり。

五　隱密顯了俱成門　相卽相入の關係に依りて、諸法各無礙自在なるのみならず、物には表面と裏面とありて隱顯一體の關係をなす。隱密は裏面にして、顯了は表面なり。一多相卽相入の理に就いて一を表とすれば多は裏となり、多を表とすれば一は裏となり、表裏隱顯同時にして一體なるは此の門の意なり。表裏は本來一體の具德にして、隱顯同時なるが故に、隱は顯を離れず、顯亦隱を離れず。喩へば片月澄空に懸りて、晦明並び存するが如く、隱顯同時の不思議の法門を成するが故に、祕密隱顯俱成門とも云ふ。賢首品に「此の方に於て正受に入り、他方にて三昧より起ち、眼根にて正受に入り、色塵にて三昧より起つ」等と云へるは此の門の意なり。

六　微細相容安立門　相卽相入の理に依りて、一に多を容れ、小に大を攝し、一毛端に十方の佛刹を顯現し、一微塵裡に大千世界を容るるも、諸法の當相を摧破し、若しくは縮小するにあらず。諸法の當相を全うして、一能く多を容れ、小能く大を攝し、同時に炳然頭を齊しうして存在すといふは此の門

の大意なり。相即相入の理より云へば、固より一多大小相互に容るる義あれども、此の一門は特に無盡縁起の玄妙不思議なることを示さんが爲めに、小に大を容れ、一に多を攝し、一念に多劫を收むる邊を取りて微細相容といひ、所含の大は大の相を壞せす、多は多の面目を改めず、自相宛然として同時に齊しく顯現するを安立といふ。喩へば瑠璃の瓶に多量の芥子を盛るが如く、一能く多を容れ、多は一の中に安立して、本位を失はす、本相を壞せず、能容所容無礙自在なる義を顯はす。盧舍那品に、「一毛孔の中に無量の佛刹は莊嚴清淨にして、曠然として安立す」と云へるは此の門の義なり。

七　因陀羅網境界門　此の門は譬喩に依りて、法界縁起の重重無盡なることを示す。因陀羅網とは、帝釋天の宮殿に懸けたる網にして、其の網は目毎に明珠を以て嚴飾せるが故に、無數の明珠は互に相ひ映じて燦爛たる光輝を放てり。明珠互に相反映するが故に、一珠の內に他の一切の珠影を印現し、其の一珠に印現せられたる無數の珠も、亦互に他の一切を顯現し、二重三重、乃至重重無盡に累現して窮ることなし。事事無礙の縁起も亦是の如く、一の中に一切を容れ、所容の一切は、一一亦他の一切を收めて、重重無盡に縁起するが故に、因陀羅網の譬喩に寄せて、無盡の幽意を示せるなり。不思議法品に「一切諸佛は、智慧を以て一切の法界の因陀羅の如きを分別して、餘り有ること無し」といひ、又賢首品の偈に「一塵の內の刹に佛有ることを現じ、或は刹有ることを現じて佛無きを、乃至、一微塵に示

現する所の如く、一切の微塵も亦是の如し」等と云へるは此の門の義なり。

八　託事顯法生解門　無盡緣起の理は、深玄幽妙にして難知不可思議なるが故に、之を卑近の事象に寄せて顯示し、淺智の者にも尙ほ明了なる智解を生ぜしめんとするは、此一門の意趣なり。是の如く、此の門は事に託して深義を顯はす者なれば、普通の喩例の意あれども、無盡緣起は本事法界の上に於て、諸法各各圓融無礙なることを明かす者なれば、事事無礙といふも、抽象的理論にあらずして、具體的事實なり。然らば日常卑近の諸現象と雖も皆悉く無盡緣起の義を顯はさざる者なし。されば本經の隨所に眼前の事象に託して、或は王といひ、寶と云ひ、或は雲と云ひ、雨と云ひ、種種雜多の事例を擧げて、法界緣起の理を顯はしたるも、これ單なる譬喩事例にあらずして、此等の事象が直に緣起の法體なり。故に本經中の譬喩託事の說は、普通の引例喩顯にあらずして、喩卽法、事卽理なりと知るべし。十玄の法門は孰れも皆當面の萬有に卽する具體的の妙用にあらざるなしと雖も、觸目皆道の深旨は特に此の一門の所明にして、一乘の妙談なり。

九　十世隔法異成門　前來の七門に於て、空間的に圓融の妙用を明かしたるを以て、此の門に於て、時間的に無礙なる理を顯はす。十世とは、過現未の三世を、各復た三世に分ちて九世となし、九世の別あるも、之を攝すれば一念に歸するが故に、九世を總括して總の一世を立て、總別合して十世となす。

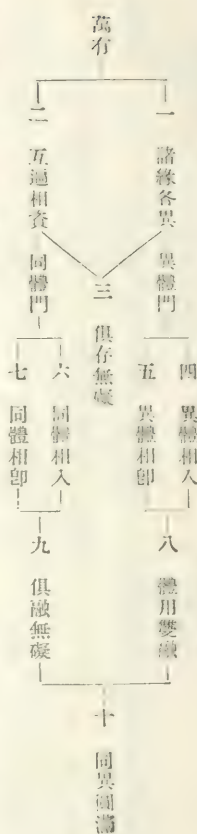
斯の如く時間に前後ありて、萬有を隔て、彼此別異ならしむるも、九世の諸法は總の一念を出でざるが故に、悉く一念の中に同時に顯現し、恰も一夕の夢も百年に翺翔するが如く、十世の長短自在に圓融して相卽相入するなり。不思議法品に「一微塵の中に普く三世の一切諸佛の佛事を現ず」といひ、或は「長劫を以て短劫に入れ、短劫を長劫に入れ、或は百千の大劫を一念と爲し、或は一念を卽ち百千の大劫と爲す」等を云へるは、此の門の義なり。

十　主伴圓明具德門　宇宙間の萬有は時間空間を通じて、無盡に緣起し、一法として孤起獨存する者なきが故に、一塵生ずる時は萬法從ひて生じ、以て之が伴となり、任意の一法を擧げて之を主とすれば、他は悉く伴となりてこれに隨ひ、無限の宇宙は一法の全面となる。恰も北辰の居る所、衆星之れに向ふが如く、又網の一目を擧ぐれば、全網之に從ひ、無數の網目は一目に攝せらるるが如し。此の擧一全收の理は、萬有の一一に具有する性德なるが故に、諸法は相互に主となり伴となりて圓融すといふは、此の門の大要なり。本經各會に於ける結通の文は、主伴具足の義を顯はす。此の門を古十玄には、如來藏緣起の自性淸淨心に基づきて、唯心廻轉善成門と名づけたり。然れども、唯心現は十玄に通じての根本理由にして、事事無礙の相狀を顯はす者にはあらず。故に之を改めて主伴圓明具德門と爲し、緣起現前の事相に就て、主伴相依の關係を示し、事事無礙の義を一層明了ならしめたり。

以上、本經の文を引證して十玄門の大要を叙說せり。固より法界緣起の妙相は十玄を以て盡きたるにあらず、十は滿數なるが故に、無盡圓滿の意を表して、且らく十門を列したるのみ。

三　無盡緣起の理由

宇宙の諸現象は圓融自在にして、重重無盡に緣起するは、抑如何なる理由に依るか。これ固より無量にして窮め盡すこと能はずと雖も、探玄記に依りて、略して十由を擧げんに、曰く、一に緣起相由の故に。二に法性融通の故に。三に各唯心より現ずるが故に。四に幻の如く不實なるが故に。五に大小定り無きが故に。六に無限の因より生ずるが故に。七に果德圓極なるが故に。八に勝通自在なるが故に九に三昧の大用なるが故に。十に難思の解脫なるが故に」と。以上の十由は、諸種の見地より圓融無礙の理由を明かせる者にして、初めの二は事理相對、次の二は體用相對、而して第五は事理體用を綜括して示せるなり。次に六と七とは因位と果位とを相對し、八と九とは神通と禪定とを相對し、第十は因果通定を綜括して明かせるなり。此の十由の中、初めの緣起相由は、廣く緣起現前の諸法の相依無礙なる所以を明かせる者にして、更に之を開きて十義となせり。蓋し此の十義の中、其の一を缺くも無盡緣起は成立せざるが故に、十由の中にても最も主要なる者なれば、今先づ十義相互の關係を表示し、

其の意義を略說して、十玄緣起の根本理由を示さん。

一 諸緣各異の義　大緣起の諸法は、各因緣を異にするが故に、結果として現はれたる萬有は、必ず體用各別にして、自他同一ならず。之に由りて、諸法は相互に鎔融自在なるも、各自の本位を守りて、自の體用を失はざるなり。

二 互遍相資の義　諸緣異るが故に、諸法は各個性を持守すれども、決して孤立するものにあらず。必ず互に遍じ相ひ資けて、一は多に遍じ多は一を資け、以て其の存立を全うするなり。これ一一の諸法は他の一切を具して無盡に緣起する所以なり。

三 俱存無礙の義　第一の各異の義と、第二の遍資の義とは、一體の兩面なるが故に、諸法は各同一體の上に、個體性と普遍性とを同時に具有して無礙なることを得るなり。これ卽ち諸法は自の一に住して、能く他の一切に遍資し、他の一切に遍資して、而かも能く自位を守る所以なり。以上の三義は正に

反合一體の關係を示すものにして、之を緣起の根本法則と見ることを得べし。

四　異體相入の義　萬有の生起する因緣關係に於て、有力と無力との義あり。從つて緣起の諸法は自他相依するに、有力無力の義を有す。此の力用の有と無との相互關係に依りて、一多互に相容して無礙なることを得るなり。例へば甲乙の二物を相對するに、甲有力にして乙無力なれば乙は甲の中に入り、乙有力にして甲無力なれば甲は乙の中に入り、甲乙互に力用交徹して相入す。然れども、甲乙共に有力なるか、又は共に無力ならば、力用の交徹なきが故に、緣起を成ぜざるなり。

五　異體相卽の義　諸法は其の力用に於て有無相入の義あるのみならず、其の自體の上に空有の二義あるが故に、互に相卽して無礙なることを得るなり。諸法の無自性なるは空の義なり、因緣に依りて生起せる假有の相は有の義なり。甲乙の二法を相ひ對するに、甲有にして乙空なるときは、甲は主となりて表面に顯はれ、乙は必ず伴となりて裏面に隱る。乙有となりて表面に顯はるときは、甲は必ず空となりて裏面に隱る。是の如くして甲乙の二は體の空有に依り、互に表裏隱顯して相卽の義を成ずるなり。然れども若し二者共に有ならば、相ひ礙へて相卽せず。若し共に空ならば、總じて無なるが故に卽す可き者なく、共に緣起を成ぜざるなり。

六　體用雙融の義　既に體に就て相卽を說き、用に就て相入を明かしたれば、進んで體と用との關係

を見るに、體を離れて用なく、用の外に體の見るべきなきが故に、體用は本一體不離の關係をなす。されば若し體を以て用を收むれば、擧用全體となりて諸法相卽し、用を以て體を攝すれば、擧體全用となりて諸法相入す。體に卽するの用、用に卽するの體なるが故に、體用相融じて、相卽相入無礙自在なり。これ前二義の綜合にして異體門を結ぶ。

七　同體相入の義　前の異體門は差別せる諸法相互の間に、相卽相入の義あることを論じたるが、更に同一體に於て相卽相入を明かすは同體門なり。凡そ一法の生ずる時は、其は先天的に一切の衆德を具備して、缺くる所なし。故に諸法は一一皆絶待の表現となりて、個體の中に全宇宙を包含し、一卽一切の理を有す。然らば一粒の芥子に天地間の萬有を包藏し、一毫の端に大千界の諸現象を顯現すといふは、皆是れ諸法本具の德なり。其の所具の德と能具の體との間に卽入を論ずるを同體門の義となす。此の同體門に於て、一法に含有せられたる諸法と、能容の一法とを相ひ望むるに、これ亦力用の有無に依りて互に相入し、明鏡と鏡面に映じたる影像との鎔融無礙なるが如きは同體門の相入なり。

八　同體相卽の義　これ同體門に於て、體の空有の義より相卽を論ずる者にして、猶ほ鏡面と所現の影像とは其の體一にして、鏡卽像、像卽鏡なるが如し。

九　俱融無礙の義　前の異體門に於て、體用雙融の義あるが如く、同體門の體用と亦鎔融一體にして

相卽相入し無礙自在なること、前の異體門に準じて知るべし

十　同異圓滿の義　これ前九義を綜括して一大緣起となすなり。前に同體異體に分つて相卽相入を論じたるも、此の同體と異體とは、本より別立するものにあらずして、一體の兩面なり。緣起の萬有を外面より見れば、諸法相由の義に依り、個個差別して異體となるも、諸法本具の內德より見れば、個個別立の萬有は、一に一切を包含して同體となる。されば同體異體は觀察點を異にしたるまでにして、本來一體不離なり。是に於てか、異體差別の相を壞せずして相依相成し、同體無差別のままに個體の差別性を失はず。同異無礙にして自在に相卽相入し、多種の義門を同時に具足して重重無盡の緣起を成ずるは、同異圓滿の義なり。

以上十義は緣起相由の要旨にして、其の根本原理は同體異體の相卽相入に在り。然り而して、異體同體は待緣不待緣に依り、相卽相入は體の空有と力用の有無とに依りて成立す。されば若し同體異體と相卽相入との源底を究めんとすれば、進んで緣起の原因に遡りて攻究せざるべからず。されど、今此に之を說述する餘裕を有せず。

四　六相圓融

無盡緣起の幽旨は、十玄門に於て遺憾なく發揮せられたりと雖も、未だ此の緣起の理は何の教に依りたるやを明かさず。此に於て華嚴本經に說かれたる六相方便の教門に依りて、六相圓融の義を明かし、無盡緣起の所由を擧ぐると共に、事事無礙圓融の玄旨を簡易平明に示したる者は、即ち是れ華嚴の六相論なりとす。

抑も六相の說は十地品の經說に基づき、本宗の第二祖至相大師が、神靈の感應に依りて、默契證悟したる一乘の玄旨にして、賢首大師之を祖述して一家不共の圓旨を發揚し、立教開宗の根本聖典たる五教章に於て、十玄門と相ひ並びて之を詳說せられし已來、十玄六相の法門は、一家の肝要として列祖の相承する所となれり。六相とは、十地品の初地十大願の中の第四、修行願に說かれたる、總相、別相、同相、異相、成相、壞相是れなり。

總相とは萬有を一體として觀察する平等的方面にして、別相とは部分として觀察したる差別的方面なり。屋舍を以て喩とせんに、家屋を全體として一屋舍なりと見るは總相にして、家屋を組み立てたる柱梁瓦石等を、一一取り離して部分的に見るときは別相なり。然れども總と別とは全體と部分との關係なるが故に、總即別、別即總にして、總相を離れて別相なく、別相の外に總相なし。

次に同相とは同一の目的に向つて、諸法は互に協力調和して能く一體を成する義を云ふ。柱梁等の

部分が互に協力調和して相背違せざるが故に、能く一屋を成すが如し。異相とは一致協力して一體を成すと雖も、部分は各其の本位を守りて、彼此固有の相を失はず、互に異る所あるを云ふ。柱は竪に、梁は横に、各異れる本分を盡して、能く其の協同目的を達するが如し。

次に成相とは諸法相ひ依りて同一體の關係を成し、柱梁等各總の家屋を成すが如きをいひ。壞相とは諸法一體の關係を爲すも、各自の本位を壞せざること、猶ほ柱梁等相集りて一屋を成すも、各自の相を守りて其の本分を壞せざるが如きを云ふ。

此の六相は總別、同異、成壞の三對をなして、總別は體につき、同異は相に就き、成壞は作用の結果に就く者と見らるべし。而して又、總相、同相、成相の三は、平等の方面にして圓融門に屬し、別相、異相、壞相の三は、差別の方面にして行布門に屬す。體相用の三は一體の三面なるが故に互に圓融し。圓融は行布を離れず、行布に卽して圓融を成ずるが故に、二門一體となりて卽入無礙なり。從つて行布門として見れば六相は皆行布となり、圓融門として見れば六相は悉く圓融となる義あり。而して萬有は一一の上に各此の六相の義を具へ、互に圓融自在なるが故に、法界の大緣起となり、十玄無礙の相を顯現するなり。

第四　華嚴宗の教判

一　總說

凡そ經論を所依として一宗一派を創立する者は、其が三乘教たると一乘教たるとを問はず、皆自家正依の經論を以て、佛出世の本懷を說き給ふ無上の聖典となし、是れに由りて、一代教を體系的に配列して、其の淺深高下を判定し、以て自家の教權を確立せり。之を教相判釋と稱す。蓋しこれ各宗各派の見たる佛教觀なり。然るに諸宗の祖師は立教開宗の見地を異にするが故に、一方に眞實の教なりと判定する者も、他は以て方便となし、他の一乘なりと讚ずる所も、一方には之を三乘と貶し、其の見る所一定せざるが故に、これが絕對的眞價を定め難き者あり。されど華嚴經に至りては、古來諸宗の高祖之を判じて、最高の地位に置き、若しくは又、自宗正依の經典と同等なりと爲せるも、未だ嘗て之を三乘に下し、權教と貶せる者なし。果して然らば、他經を最高なりと爲すは特殊の見地より見たる相對價値なるも、華嚴經を至上となすは一般的絕對價値なりと評するも、敢て不當にあらざるべし。斯の如く華嚴經の眞價は宗家の判釋を待たずして既に定まれりと雖も、本經を學ばんとするには、必ずや祖師の釋義を指南と爲さざる可らざるが故に、本經に依りて開宗せられたる賢首大師の華嚴觀

を知り、是れに由りて、華嚴の見地よりは、如何に一代教を觀察すべきやを知るは、本經に對する識見を高かめ、信念を涵養する所以にして、學者必須の要件なり。されば今主として賢首大師に依りて本宗教判の梗概を略說せん。

賢首大師は種種の見地より教判を立てられたるも、之を該括するに、隨他意門の教判と、隨自意門の教判との二を出です。前者は他宗を誘導せんが爲めに、且らく自家の眞意を秘して、他の教說に應同し、隨宜の方便として設けられたる者にして、權實の判釋、四宗の判釋の如き者是れなり。後者は正しく自家の眞意を披瀝し、華嚴經を本據とせる自家不共の洪範を示し、以て立教分宗の宣言を爲せる者なり。是れに三種あり。一は絕對的の教判。佛一代五十年間の教說は、皆是れ海印定中の法門なれば、一として華嚴教の外に出づる者なしといふ、絕對的見地に立ちて、華嚴の一經を以て一代教を綜括せんとしたる者にして、同別二教の判是れなり。二に相待的教判。一代教の中に於て淺深高下の次第を立て、華嚴經を賞揚して一乘圓教となし、餘經を貶斥して三乘方便と爲せる者にして、他教と相ひ對比して、華嚴教に最高の地位を與へたる、五教十宗の判是れなり。三に待絕合論の教判。これ一面には絕待的見地より華嚴を以て一代教を攝收し、他面には相待的に淺深の別を立てて、本經の勝れたることを示せる者にして、本末二教の判是れなり。前の隨他意門の判は、今の所要にあらざるが

故に之を略し、後の隨自意門の判に就て其の大要を述べん。

二　同別二教

一乘無盡緣起の法門は、佛海印定中の所說にして、自證極位の妙談なり。而かも法性は虛空の如く橫に際涯なく、智慧の大海は深くして源底を極め難し。是れ即ち佛自證の境界にして、遙かに視聽を超え、思慮を絕し、言說の遠く及ばざる所なるが故に、性海果分不可說といふ。然れども機感に應じて無像に像を現じ、無言に言を起し、覺樹の下に於て、無盡の玄綱を演べ、普賢等の大機を化し給ふ。之を緣起因分可說と稱す。法の自性は本來一味平等なれども、機感萬差なるが故に、因分可說の分際に下りては、自ら義門の別を生じ無量の教法となる。是に於てか、直往頓入の普機上根の者に對しては、直に無盡圓融の法門を說く、之を別教一乘といふ。然るに迂廻漸入の別機、中下の二根は、直に圓融無礙の理を解することを能はざるが故に、三一混同の法門を說きて圓教に引入す。之を同教一乘と稱す。

是れ蓋し華嚴經の說相に直顯門と寄顯門との別ある所以にして、直顯門とは、普賢文殊等の等覺大士の爲に、直に無盡の教を以て無盡の義を說ける廣大無礙の說相にして、別教一乘の法門なり。寄顯門と

は、無盡一乘の義を說くに三乘の說に寄同して顯はす、從つて其の敎義は三乘一乘和合の說なるが故に、之を判じて同敎一乘となす。本經の内に五位差別の相に依りて、四諦十二因緣等の三乘の敎を以て、一乘無盡の義は顯はせる者は、即ち此の門の施設なり。是の如く直顯寄顯の別に依りて、同別の二敎に分ると雖も、共に之れ海印定中所現の性起の法門なれば、一切法を攝盡して遺餘なし。此の故に下は人天乘より、上は一乘無盡の敎法に至るまで、悉く華嚴一敎中に攝在するなり。何故に一乘圓敎の華嚴經中に寄顯の說ありやと云ふに、一に、直往上根の機は、直顯の說に依りて無盡の義を解すと雖も、中根の機は無盡の敎に依りては其の義を解すること能はざるが故に、三乘敎に寄同して無盡の義を顯はし、解了を生じ易からしむ。二に、二乘の人を一乘に廻入せんが爲めに、如來の善巧方便に依り、前後の次第を立てて三乘に寄同し、三乘の機を誘引せらるるなり。三に、小乘三乘等の差別の法は元機情の局執に依る。然るに若し根本の華嚴經中に小三等の說なくんば、小三の機は何に由りてか局執を生せん。是の如き理由あるが故に、本經中に寄顯の說をなし、一乘別敎を三乘に從へて同敎の法門を說く。然ども別敎と同じく海印定内の法門なるが故に、之を定内の同敎といふ。其の名目は三乘に同ずるも、其の義は無盡の一乘敎なり。此の定内の同敎に對して、佛定を出でて鹿苑に下り、阿含を說き給ひてより、法華涅槃に至る末敎の中に於ても、亦三一和合の說あり。之を定外の同敎と

いふ。三一和合の義あるが故に同教に屬すと雖も、定內同教とは其の趣を異にす。元來末教は衆生の機根を逐ふて說かれたる權教なるも、衆生は其の所說を局執し、自所得の法を以て究竟となし、小三の分際に局在す。故に其の名は一乘に同ずるも、其の義は三乘差別の分際にして、無盡圓融にあらず。而かも一代教を以て華嚴の一教に攝する所以は如何といふに、末教は機情に依りて小三乘等無量の差別ありと雖も、元是れ如來の善巧方便に依りて、根本一乘が機情に隨つて流出せるものに他ならず。然れば其の源は一乘にして、小三等の末教は悉く是れ一乘教の支流なり、一乘大教綱の細目なりといはざるべからず。是根本の一乘流れて枝末の教法となれる者なれば、之を向下門の同教と稱す。若し又機の修入より云はば、法華の會三歸一の法門に依りて、遂に華嚴の一乘教に引入せらるるなり。是三乘を會して一乘に歸入せしむるものなれば、之を向上門の同教と稱す。是の如く一乘教の中に同別の二教あり、流れて小乘三乘乃至無量乘となるも、其の法體は一にして無盡性起の法門なり。喩を以て示さんに、別教一乘は一代教の根本にして教體なるが故に、猶ほ麻の如く、此の一乘別教を、機の差別に隨つて方便を垂れ、三一和合して說ける同教一乘は、猶ほ麻を以て繩と爲すが如し。然るに小三の機は、同教を以て一乘に入る方便說なることを知らずして、實に三乘等の法ありと偏執するは、猶ほ繩を見て蛇なりと執するが如し。されば若し通說を許さば、小乘三乘等の源は同教にして

同教の本は別教なり。而して定内の同教は法に就き、定外の同教は機に約せるものにして、共に一乘別教に入らしめんが爲めの方便なりと云ふを得べし。若し夫れ普賢大機より見んか、佛一代の教說は悉く是れ別教一乘に他ならざるなり。

次に同別二教の體義を明かすに各二門の施設あり。別教を分ちて分相門と該攝門の二となす、分相門は、一乘と三乘と相對して本末權實を判定し、三乘の外に別に一乘教の存在する所以を論證する者にして、別教の名は是れより來る。此の三權一實の相待觀に依りて、三乘の外に一乘教を別立せるも、共に是れ海印定中の法門なれば、一乘の外に三乘なしと論じ、一乘圓教を以て三乘教を該攝するを該攝門となす。されば分相門は、相待的に別教一乘の義理の深妙なるを顯はし、該攝門は、絕對的に其の法體の該博なることを示し、一乘と三乘とは、義は異なるも體は一なるを以て、二者の關係は不一不異なりと論定するが二門の大要なり。

次に同教を分ちて分諸乘、融本末の二門となす。分諸乘は、一乘三乘乃至無量乘の差別に隨ひ、三一和合の相を示して同教の體を明かし、融本末は、一乘三乘乃至無量乘の法門は根本一乘より流出せる者なるが故に、其の法體は一なりと論じて、本末を融合するなり。蓋し分諸乘は機の異るに隨ひて義門の別あることを示し、融本末は法體の融通に依りて無量の差別を同一法界に歸するに在り。別教の

該攝門と此の融本末とは、共に三一の融合を明かすと雖も、前者は直に法の體義に就て融卽を示し、後者は機に對して本末の融會を解了せしむるに在り。是の如く、同別二教に各二門を開きて兩者の關係を明かし、三乘一乘の不一不異を論じて、一代教を同別二教に攝し、更に同別無礙の一圓教に歸し、一切の法門は華嚴の大教海を出でずといふが此教判の本旨なり。これ之を絶待的教判といふ所以なり。

此の同別二教の論は義門多端にして、異議百出し、古來華嚴學の一大難關とする所なれば、其の委曲を盡さんは一朝の談にあらず。

三 五教十宗

釋尊五十年間に於ける攝化の迹を見るに、聖教萬差にして大小、頓漸、權實等の無量の法門あり。是に於て賢首大師は古今の判教を龜鑑となし、經論の所說に基き、前二祖の幽旨を闡きて、五教十宗の教判を立て、是に依りて一代教の淺深の次第を明らかにし、如來出世の本懐たる一乘眞實の教は華嚴教にして、其の他は皆權方便の施設なることを知らしめ、立教開宗の大本を確立せり。されば同別二教の判は、法界緣起の法門の內容が極めて深遠廣大なることを顯はし、本經に對する一家の識見を示したる者にして、五教十宗の判は、一代教の淺深を比較して其の歸趣を明かし、本經の位置を定め

たる者と云ふを得べし。所謂る五教とは、一、愚法小乘教、二、大乘始教、三、大乘終教、四、大乘頓教、五、一乘圓教是れなり。

一　愚法小乘教　阿含經を首として、婆娑論、俱舍論等の、一切の小乘教を總括す。これ機根最も淺劣なる二乘小人の被る教にして、我空の理を明かすも、未だ法空の理を說かざるが故に愚法小乘と稱す。愚法とは法空の義に愚なるの謂なり。

二　大乘始教　大乘教の初門なるが故に、始教又は初教と名づけ。未熟の機を誘引するが故に、生教ともいひ。其の教義尚ほ淺薄にして大乘の實義に通ぜざるが故に、權教とも稱す。これに空始教、相始教の別あり。空始教とは、般若經、中論、百論等の如き、有所得の迷執を打破して、一切皆空と論ずるも、尚ほ空の一邊に固執して、眞如に萬德を具する有の方面を知らざるを云ふ。相始教とは、解深密經、瑜伽論、唯識論等の所說にして、五位百法の分類を設け、諸法の事相を明かす點に於ては細微を極めたりと雖も、未だ眞如隨緣の德を知らざるが故に、性相隔歷して、現象即本體の實義に通ぜず。又五性各別を主張して、一切皆成佛を許さざるが故に、之を權教に屬して始教と名づく。

三　大乘終教　大乘漸教中に於ける終極の教の義なり。前の生教に對し、機根成熟せる者の被る教なるが故に、之を熟教と云ひ。或は又大乘の實義を談ずるが故に、前の權教に對して、之を實教と

名づく。これ楞伽經、勝鬘經、起信論等の所說にして、眞如に不變隨緣の二義を認め、其の隨緣の力に依りて萬有を生ずと爲すが故に、事理融卽して、現象卽本體の實理を明かし、如來藏不空の具德に依りて、一切皆成佛の旨を談ずるが故に、之を實敎に屬して、大乘終敎となす。

四　大乘頓敎　恰も鏡中の像の頓に現じて漸にあらざるが如く、次第階位を經ずして敎理行果頓に成ずる敎を云ふ。前二敎は共に大乘なりと雖も、尙ほ言詮に依りて實理を談じ、淺深の次第を立てて、漸次に趣入することを明かすが故に、之を大乘漸敎と名づく。然るに今は離念頓寂の機の爲めに、言詮を離れ、思慮を絕して、解行頓に成じ、理性頓に顯はれ、一念不生卽佛と談ずるが故に、斷惑證理の階位を立つる漸敎に對して、之を頓敎と名づく。維摩經の所說の如き是れなり。

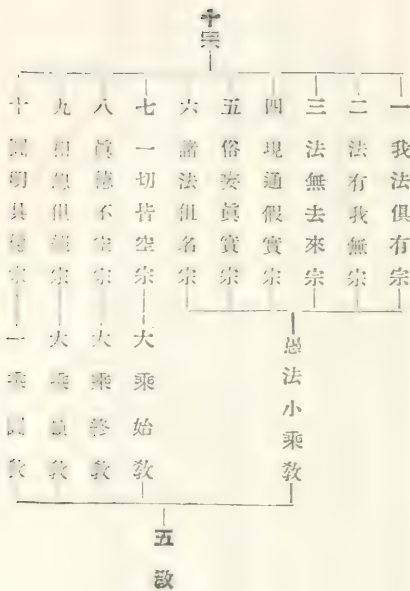
五　一乘圓敎　敎理行果共に圓滿周備して、無礙自在なる華嚴經の所說を云ふ。前四敎は共に方便の施設なるも、此の敎は事事無礙を明かし、重重無盡主伴具足を談ずる一乘眞實の敎にして、最高圓備の法門なるが故に、一乘圓敎と名づく。蓋し本經中に圓滿修多羅と云へるに基づく。此の圓敎を開きて同別二敎となし、一代敎を總攝せしむることは、既に述べたるが如し。

斯の如く、賢首大師は一代敎を五敎に分類して、權實淺深の次第を示されたるが、此の五敎建立の趣旨を探るに、同敎に向上向下の二門あるが如く、佛一代の敎法も亦此の二面より考察せざるべから

す。向上門より見れば、機の修入の次第となり、初め小乘に於て人空の理を觀じ、進んで大乘始敎に於て人法二空の理に達し、終敎に入りて事理圓融の理を證し、更に頓敎に進んで、次第差別を泯じて理性頓に顯現し、最後に圓敎に來りて一相一寂の說を出で、緣起の當體重重無盡にして、主伴具足することを證す。これ卽ち淺より深に入り、末より本に進み、終に圓一乘に證入する實踐趣入の次第なり。次に向下門より觀察すれば、五敎の配立は法の流出の次第となる。何となれば、一乘圓敎の中の頓入法界の性起門は、流れて頓敎となり、漸進入證の緣起門は、流れて終敎となる。更に流れて空始敎、相始敎の二となり、更に下つて小乘の有宗となり空宗となる。これ根本の一乘圓敎流れて末敎となり、五敎の次第を爲すなり。而して向上門に於ては、前四敎は次第に後敎に對する方便となり、漸次に劣機を調熟誘引して、最後の圓一乘に入らしむに在るを以て、華嚴敎のみ唯眞實にして、佛一代敎の歸趣となり。又向下門に於ては、華嚴敎は一代敎の本源なるが故に、流れて五敎の別を爲すと雖も、悉く華嚴本經に歸せざるはなし。然れば五敎建立の深意は、淺深の次第によりて法の本末を明かし、一代敎の歸趣を示すに在りと云ふを得べし。

次に十宗の敎判は賢首大師の創說にして、前の五敎と同じく前劣後勝の次第に依りて、華嚴敎の最も勝れたることを示す、所謂相對的の敎判なれども、五敎の判とは其の建立の基點を異にす。卽ち五敎

は能詮の法義に就て分類し、十宗は所詮の理趣に依りて分つ。前者は斷障得果等の差別に依りて分つものなれば、之を教學上の分類と云ふを得べく、後者は人の宗とし尊崇する所の理趣に依りて分つ者なれば、之を宗旨上の分類と云ふを得べし。既に其の分類の基點を異にするを以て、兩者の間に自ら寬狹の異るありて、五教の足らざる所は十宗を以て之を補ふことを得。蓋し十宗建立の意趣も亦此の外に在るべからず。此に十宗の名義を一一解說するの遑なければ、五教と相ひ對比して其の名目を列擧するに止めん。

十宗	五教
一　我法俱有宗	愚法小乘教
二　法有我無宗	愚法小乘教
三　法無去來宗	愚法小乘教
四　現通假實宗	愚法小乘教
五　俗妄眞實宗	愚法小乘教
六　諸法但名宗	愚法小乘教
七　一切皆空宗	大乘始教
八　眞德不空宗	大乘終教
九　相想俱絕宗	大乘頓教
十　圓明具德宗	一乘圓教

ゝ六天に昇り、機感に應じて一切處に遍住し給ふ。喩へば江上の一月。三舟共に觀るも、一舟は停住し、二舟は南北せんか、停住する者は月移動せずと見、南する者には月亦之に隨つて南し、北する者には月亦た隨つて北す。而かも江上の明月は中流を離れずして南北するが如し。如來も亦是の如く、覺樹を動せずして七處に八會の法莚を開き、乃至一代の教法を說き給ふ。又第二七日の說法と云ふも、念劫融卽の第二七日なるが故に、之を舒れば十世古今に通ず。されば舍利弗等の後時の聲聞衆が、第二七日の會座に列すと雖も敢て怪むに足らず。舍利弗等の大弟子すら猶ほ且つ聾の如く啞の如しと說くは、無盡圓融の法門が、如何に高遠幽妙なるかを寄顯するものに他ならず。學者須らく三乘の局見を離れ、普賢眼を開きて本教の深義に通曉すべし。

國譯大方廣佛華嚴經

卷の第一

世間淨眼品第一の一

是の如く我聞けり。㈠一時、佛、㈡摩竭提國の、寂滅道場に在しき。始めて正覺を成じたまひしとき、其の地は㈢金剛にして、㈣嚴淨を具足せり。衆寶雜華を以て莊飾と爲し、上妙の寶輪は圓滿にして淸淨に、無量の妙色をもつて種種に莊嚴せるは猶ほ大海の如く、寶幢、旛蓋は光明照耀し、妙香、㈤華鬘は周帀圍繞し、㈥七寶の羅網は其の上に彌覆し、無盡の寶を雨らして自在を顯現し、諸の雜寶樹の華葉光茂し、佛の神力の故に此の道場をして廣博嚴淨ならしめ、光明普く照し、一切の奇特なる妙寶積聚し。無量の善根をもつて道場を莊嚴せり。其の㈦菩提樹は高顯にして殊特な

【一】一時佛云々とは、說法の時と場所と教主とを明かす。

【二】摩竭陀國(Magadha)。譯して不害國、善勝國等といふ。中印度の一大國にして、釋迦成道し始めて法を說き給ひし地なり。

【三】金剛とは寶石にして其質極めて堅くして破壞すべからず、其の利なることは玉を截るも猶ほ泥の如しと云ふ。今は地體の堅實なることを示

り。淸淨の(八)瑠璃を以て其の幹と爲し、妙寶の枝條は莊嚴淸淨にして、寶葉の垂れ布けるは、猶重雲の如く、雜色の寶華は其の閒に閒錯し、(九)如意摩尼を以て其の果と爲し、樹光は普く十方の世界を照し、種種に現化して佛事を施作し盡くし極む可からず。普く大乘菩薩道の敎を現じ、佛の神力の故に、常に一切衆妙の音を出して、如來の無量の功德を讃揚したてまつる。不可思議なる(一〇)師子の座は、猶ほ大海の如し。衆の妙寶華をもつて嚴飾と爲し、(一一)流光は雲の如く周徧して、普く無數の菩薩の大海藏を照し、大音遠く振ひ、不可思議なる如來の光明の(一二)摩尼を踰えて尊きは其の上に彌覆し、種種に變化して佛事を施作し、一切悉く視て罣礙する所なく、一念の頃に於て一切現化して法界に充滿し、如來の妙藏は徧く至らざる莫く、無量の衆寶は寶臺を莊嚴せり。

(一三)如來は此の寶師子の座に處して、一切の法に於て最正覺を成じたまひ、(一四)三世の法の平等なることを了り、智身普く一切世閒の身に入り、妙音徧く一切の世界に至り、窮盡す可からざること猶(一五)虛空の如く、平

す。

【四】嚴淨を具足すとは一切の垢穢を離れて淸淨に、妙德の備はらざるなきを云ふ、其の相は次に細說するが如し。

【五】華鬘は「はなかつら」なり、天人の頭に戴ける華美なる髮飾。又種種の花を綴りて鬘となし佛前を莊嚴し、供養する飾具として用ゐらる。

【六】七寶とは或は七珍とも云ひ、金、銀、琉璃、頗梨、珊瑚、碼瑙、硨磲なり、七種の珍らしき妙寶をちりばめたる羅網を七寶の羅網と云ふ

【七】菩提樹(Bodhidruma)。譯して覺樹、道場樹等と云ふ。釋尊は畢鉢羅(Pippala)樹の下、金剛座に坐し給ひて、正覺を成じ給ひたれば、此の樹を覺樹として尊崇するなり。

等の法相、智慧の(二六)行處も、猶虛空の如く。(二七)等心に一切の衆生に隨順したまふ。其の身は偏く一切の道場に坐したまひて。悉く一切衆生の所行を知り、智慧日の光は(二八)衆の冥を照除し。悉く能く諸佛の國土を顯現し、普く三世智海の光明を放ちて淨境界を照し、無量の光明は十方に充滿し、不壞の法雲は偏く一切に覆ひ、(二九)力無畏を以て無量なる自在力の光を顯現し、(三〇)方便門を開きて衆生を敎化したまふ。悉く能く普く一切の衆會に現じたまふも、(三一)猶は虛空の如くにして來去無し。一切のもの自性有ること無しと了達して、諸法の平等の相に隨順し、一切の光明は普く三世の諸佛の所行を現じ。諸佛の世界は猶ほ大海の如く、不可思議なる音聲語言は悉く能く隨順せり。

(三二)十方世界の微塵數に等しき(三三)大菩薩と倶なりき。其の(三四)名を普賢菩薩、普德智光菩薩、普明師子菩薩、普勝寶光菩薩、普德海幢菩薩、普慧光照菩薩、普寶華幢菩薩、普勝濡音菩薩、普淨德炎菩薩、普相光明菩薩、大光海月菩薩、雲音海藏菩薩、德寶勝月菩薩、淨慧光炎自在王菩薩、超趣

【八】瑠璃。具さには吠瑠璃(Vaiḍūrya)と云ふ、青玉又は青色寶と譯す、七寶の一なり。今は菩提樹の幹の明淨にして堅固なることを表す。

【九】如意摩尼とは摩尼寶珠なり。梵語の摩尼(Maṇi)は譯して如意といふ、此寶珠を得れば、望む所意の如く得らるるが故に名く。今は敎主意の如く有情を平等に敎化し、有情も亦意の如く求むる所皆滿足するの意を示す。

【一〇】師子座。佛は人中の師子なれば其の坐し給ふ所の牀、若しくは地を師子座と名く。

【一一】流光。妙用の無方なることは雲の如く、偏く至らざるなきを云ふ。

【一二】摩尼珠の光は四十由旬を照すと云ふも、佛の光明は偏

華光菩薩、無量智雲日光菩薩、大力精進金剛菩薩、香炎光幢菩薩、月德妙音菩薩、光明尊德菩薩と曰へり。是の如き等の諸の菩薩と倶なりき。皆是れ(二五)盧舍那佛の(二六)宿世の善友にして、一切のもの功德の大海を成就せり。諸の(二七)波羅蜜は周滿して普く照し、慧眼淸淨にして三世を等觀し、諸の(二八)三昧に於て明淨を具足し、辯才の大海は深廣にして盡くること無く、普く諸佛の功德光曜を現じ、善く一切衆生の(二九)心行を知り、應の如く(三〇)調伏し、金剛の智を以て普く境界を照すに同一法性なり、覺慧廣大にして甚深の智境明達せざること靡く、一地に住して普く一切諸地の功德を攝す。無上の(三一)智願は皆已に成滿し、如來の深廣なる(三二)密敎を具足し、悉く一切の佛の(三三)所共の法を得、皆如來の(三四)行地德力に同じ、一切の三昧海門に入りて皆自在を得、衆生海に於て應の如く示現し、其の所行に隨つて善能く建立し、善く一切諸法の海に入りて、(三五)回轉總持し、如來の一切の功德法海は其の身に充滿す。徧く一切の佛の世界海に遊び、一切の淨土の願海を出生し、悉く諸佛の未來際に達する方便智慧を得、一

く法界を照すを以て、摩尼珠の遠く及ばざる所なり。

【一三】已下は佛の圓滿なる事を明かす。

【一四】三世の法云々。過去、現在、未來の三世の法に差別なければ、過去未來は現在に等しと知るを云ふ。

【一五】盧舍には周遍、平等、無礙、對現、含受の五義あり。今、佛の圓音は此の五者を有するが故に以て譬となす。

【一六】行處とは智慧の行きわたる所、卽ち其の及ぶ範圍を云ふ。

【一七】等心。彼此の差別なき平等の心を以て一切の衆生を救ひ、等しく佛果に至らしむるなり。

【一八】衆の冥とは衆生の愚癡冥闇なり。

切の如來の道場に坐したまふ者は、普く能く往詣して、禮事し供養し、悉く一切普賢の願海を得、諸の衆生に於て智身滿足せり。

復た佛世界微塵數の（三六）金剛力士有り。其の名を堅固光曜力士、日光曜力士、須彌華力士、淨雲音力士、阿修羅王力士、勝光明力士、樹音聲力士、師子王力士、淳厚光藏力士、珠髻華光力士と曰へり。是の如き等の諸の力士と倶なりき。已に（三七）阿僧祇劫に於て大（三八）誓願を發して諸佛を侍衞したてまつれり。佛の願行處は皆已に具足し、無量の功德は皆已に淸淨にして、悉く深廣なる三昧の境界を行じ、無量の神力をもつて、佛の所遊の處には徧く至らざる無く、皆悉く能く不可思議なる解脫の境界を行じ、一切の衆に處し、其身殊特にして、能く（三九）映蔽すること無く。諸の衆生の度すべき所の者に隨つて、能く其の身を現じ、應の如く之を化す。

復た佛世界微塵數の諸の（四〇）道場神有り。其の名を淨莊嚴神、寶積光明神、吼音聲神、雨衆華神、莊嚴寶光神、善超香神、金色雲神、樂華樹神、莊嚴光神と曰へり。是の如き等の道場神と倶なりき。皆先佛に於て（四一）

【一九】力無畏。自在の神力ありて、世間に畏るべきものなきを云ふ。

【二〇】方便とは機根の未だ熟せざる者の爲めに、種種の方法手段を用ゐて眞實の道に導き入れること。

【二一】猶虛空の如く云々。佛身は多處に現ずるも、其の體普遍なるが故に去來なく、不增なり、卽ち用を體に歸して說けるなり。

【二二】以下一段、說法の會座に集れる者を擧げ其の勝德を述ぶ。初め普賢菩薩より摩醯首羅に至る三十四衆を列す。

【二三】菩薩。具さに菩提薩埵(Bodhisattva)といひ、覺有情、大心の衆生等と譯す、自利利他の大用をなす大乘根機の人をいふ。

願行を造立せり。

復た佛世界微塵數の諸の(四二)龍神と倶なりき。其の名を摩尼光龍、雜莊嚴龍、喜寶光龍、淨身光龍、香莊嚴龍、寶目光龍と曰へり。是の如き一切のもの、皆過去の不可思議なる阿僧祇劫に於て、常に如來の爲めに法堂を莊嚴せり。

復た佛世界微塵數の諸の(四三)地神と倶なりき。其の名を淨華光神、善思光明神、雜華莊嚴神、散寶炎神、隨時樂觀神、金眼勝神、毛孔散香神、應時和音神と曰へり。是の如き一切のもの、皆(四四)徳本を同うし、過去佛の所に於て、普く願行を修せり。

復た不可思議なる諸の(四五)樹神と倶なりき。其の名を雜華雲神、雜種光神、淨勝光神、垂莊嚴神、莊嚴光神、樂和音神、普勝等神、華果味神と曰へり。是の如き一切のもの、皆悉く大喜普照を成就せり。

復た無邊の(四六)藥草神と倶なりき。其の名を光炎神、旃檀香神、淨光神、普稱神、普力神、普淨神、普光神、愛香神、勝現神と曰へり。是の如きの

【三四】すべて名は行德を表はすなり。普賢と名くるは、其の德法界に周きを普といひ、至順にして善事をなすを賢といふ。以下の諸名皆これに準じて解すべし。

【三五】盧舍那佛。具さに毘盧舍那(Vairocana)といひ光明遍照等と譯す。佛の身智の光明遍く法界を照し、無碍圓明なる義なり。今は本經の敎主なる融三世間十身の遮那佛にして釋迦佛と異名同體なり。

【三六】宿世の善友。過去世に於て同行たりし善友なり。これ因果無二なることを顯はす。

【三七】波羅蜜。波羅蜜多(Pāramitā)の略なり。到彼岸。度等と譯し、生死の此岸より涅槃の彼岸に到るの義にして、菩薩の修する行をいふ。

一切のもの、皆悉く大悲普照を成就せり。

復た無量なる諸の(四七)穀神と倶なりき。其の名を勝味神、華淨神、善力神、勢味神、根果神、淨華神、樂淨神、淨光神と曰へり。是の如き一切のもの大喜を成就せり。

復た無量なる諸の(四八)河神と倶なりき。其の名を普流神、勝洄澓神、洪流聲神、養水性神、淨海光神、普愛神、妙幢神、勝水神、海具光神と曰へり。是の如き一切のもの、常に能く精勤して衆生を利益せり。

復た不可思議なる諸の(四九)海神と倶なりき。其の名を寶勝光明神、金剛慧神、普涌浪神、雜華龍勝神、寶華光明神、須彌莊嚴神、海音聲神と曰へり。是の如き一切のもの、佛の無量なる功德海を以て自ら充滿せり。

復た無量阿僧祇の諸の(五〇)火神と倶なりき。其の名を熾然光藏神、熾然光輪神、廣明曜神、無盡神、雜寶勝神、照除諸冥神、炎雲光明神と曰へり。是の如き一切のもの、悉く衆生の爲めに闇冥を照除せり。

復た無量なる諸の(五一)風神と倶なりき。其の名を無礙照明虛空神、徧超勝

【二八】三昧。三摩地(Samādhi)の訛略にして等持と譯す、定のことなり。

【二九】心行とは心器の義にして機根の差別の相なり。

【三〇】調伏。身口意の三業を調和して善を行ぜしめ、惡行を制伏すること。

【三一】智願とは大智と大願となり。

【三二】密教。微妙難解にして、下劣なる凡夫二乘等の測り知る所にあらざるが故に密教といふ。今此の菩薩は佛と德を同じうするが故に具足することを得るなり。

【三三】所共の法。佛果には下位に對するに十八の不共法あり、今は佛と佛と相對して云ふが故に、佛果の勝德を所共法といふ。

神、散須彌神、炎淨味神、淨除味神、發行大音神、樹峯華林神、持世界神と曰へり。是の如き一切のもの、皆能く衆生を和合して、分散せざらしめたり。

復た無邊の(五二)虚空神と倶なりき。其の名を普光淨勝神、無邊深廣神、起風神、離一切障神、廣超神、無對光炎神、無礙力勝神、最上妙音神、示現十方神と曰へり。是の如きの一切のもの、心皆無垢にして堅固淨妙なり。

復た無量の(五三)主方神と倶なりき。其の名を善住神、充滿神、無量現光神光莊嚴神、普轉漸行神、不惑轉神、淨遊虚空神、普行世間神、行甚深神と曰へり。是の如き一切のもの、皆能く一切の衆生を照せり。

復た無量の(五四)主夜神と倶なりき。其の名を妙光神、淨光神、善觀衆生神、靜時堅固神、方便勝具神、生一切樹果神、無盡眷屬神、主知樂淨遊戲神、和諍神、淨福具神と曰へり。是の如き一切のもの、助道の法に於て深重に愛樂せり。

復た世量の(五五)主晝神と倶なりき。其の名を現宮殿神、善解安立戰場神、

【三四】行地德力とは佛果に同ずる德を擧ぐ。即ち佛の大悲行と十地と福智の德と十力となり。

【三五】回轉總持。無盡緣起の總持の法門を了りて、一に一切を攝せしむるが故に回轉總持といふ。

【三六】金剛力士。或は金剛手、執金剛神ともいふ。五百の夜叉を領し、近く佛に侍して護衞し奉るなり。通俗に二王尊といふは此の金剛力士なり。

【三七】阿僧祇劫。具さに阿僧祇耶(Asamkhya)といひ、無數又は無央數と譯す。劫は劫波(Kalpa)の略にして長時と翻す。無量長時の義なり。

【三八】誓願。或る目的を願ひ定めて、そを必ず成就せんと誓

樂莊嚴普勝神、善華香神、普集勝藥神、樂見王神、淨日高顯普勝神、大悲觀光神、光明善照神、普勝垂華神と曰へり。是の如き一切のもの、皆悉く正法の莊嚴を信樂せり。

復た無量の(五六)阿修羅神と倶なりき。其の名を(五七)羅睺羅王、(五八)毘摩質多羅王、(五九)睒婆利王、明月王、金剛堅錦王、大智慧力王、勝集天女王と曰へり。是の如き一切のもの、悉く能く憍慢と放逸とを降伏せり。

復た無量の(六〇)迦留羅王と倶なりき。其名を大勇猛力王、無畏寶髻王、勇猛淨眼王、不退莊嚴王、持大海光王、持法堅固王、勝根光明王、充滿普現王、普遊諸方王、普眼等觀王と曰へり。是の如き一切のもの、方便を成就して廣く衆生を潤ほせり。

復た無量の(六一)緊那羅王と倶なりき。其の名を善慧王、善幢王、雜華行王、離愛慢音王、寶樹光明王、善愛現王、莊嚴光王、善華幢王、勝地王、勝慧王と曰へり。是の如き一切のもの、普く衆生に於て精勤勸發して能く法を樂はしめたり。

ふこと。

【三九】睒衛。睒は掩ふの意にして掩ひ隱すこと。

【四〇】道場神。道場を守護する神なり。

【四一】願行。願とは修行の目的を定め果報を願ふ心にして、行とは其の目的を達せんが爲めに修する所の行業なり。

【四二】龍神。上に居て覆ひ護る義なり。

【四三】地神。下に居て運載する義、深重の願を立て行德を荷負することを表示す。

【四四】德本。本は因の義、勝果を得べき原因となる善根功德なり。

【四五】樹神。德樹を高く建立する義。

【四六】藥草神。藥は對治の義にして、法藥を以て諸惑を除く

復た無量の(六二)摩睺羅伽王と倶なりき。其の名を善慧王、淨端嚴音王、衆妙慧聚王、燈幢王、猛光王、師子香熏王、雜瓔珞音王、堅固樂明王と曰へり。是の如き一切のもの、普く衆生の爲めに諸の疑網を除けり。

復た無量の(六三)鳩槃茶王と倶なりき。其の名を(六四)毗樓勒王、善修幢王、足平鮮白王、能除恐怖王、淨須彌林王、無量淨眼王、無量目門王と曰へり。是の如き一切のもの、皆悉く無礙の法門を修習せり。

復た無量の鬼神王と倶なりき。其の名を(六五)毗沙門王、大音聲王、淨地王、大主王、炎眼王、堅固眼王、莊嚴勝軍王、大富淨身王、須彌力王と曰へり。是の如き一切のもの、普く能く勤めて一切の衆生を護れり。

復た無量の月身天子と倶なりき。其の名を月天子、曜華天子、勝流莊嚴天子、樂諸世樂天子、眼光天子、淨光天子、普遊靜光天子、星宿王天子、淨覺天子、端嚴善光天子と曰へり。是の如き一切のもの、勤めて智慧を以て普く衆生の無上なる寶心を發せり。

復た無量の日天子と倶なりき。其の名を日天子、眼炎光天子、須彌光勝天

なり、即ち大悲を表示す。

【四七】穀神。穀は資持の義にして、萬行の法味自他を資益することを表示す。

【四八】河神。河は流潤の義。大法の河流注いで群生を潤益することを表示す。

【四九】海神。海は萬德を含容して一一深廣なる義を表示す。

【五〇】火神。火は焚燒、成熟、照明の義。智慧の火に煩惱の薪を燒き盡し、諸の善法を成熟し、其の光明は無明の闇を除くことを表示す。

【五一】風神。風は聚散の義。惑を散じ德を聚むることを表示す。

【五二】虛空神。虛空とは總じていはば法性の空なることを表示す。別說すれば無邊、無礙、一味、含攝、顯示等の義あり。

子、淨寶眼天子、勇猛不退天子、妙華鬘光天子、寶覺天子、明眼天子、勝地童天子、普勝光天子と曰へり。是の如き一切のもの、皆悉く清淨の善根を成就して、常に一切の衆生を饒益せんと欲せり。

復た無量の（六六）三十三天王と倶なりき。其の名を（六七）釋提桓因天王、普稱滿天王、髻目天王、寶光稱天王、樂喜天王、樂念天王、勝音天王、淨華天王と曰へり。是の如き一切のもの、悉く皆清淨の善業を具足して、能く衆生をして淨妙の處に生ぜしめたり。

復た無量の（六八）夜摩天王と倶なりき。其の名を善時天王、無盡智天王、妙善化天王、樂樂炎天王、須彌光天王、不思議慧天王、齊輪天王、不思議天王、月姿顏天王、普莊嚴天王と曰へり。是の如き一切のもの、皆悉く勤修して歡喜を出生し知足を信樂せり。

復た無量の（六九）兜率天王と倶なりき。其の名を善喜天王、海樂天王、勝德天王、百光明天王、善眼天王、寶山月天王、超勇月天王、金剛善曜天王、樂超天王と曰へり。是の如き一切のもの、皆悉く念佛三昧を成就せり。

次の名の中に彰はれたり。

【五三】主方神。方向を主どる神なり。主方は顯示の義にして、能く方向を顯示し、迷へる者を導きて正方に向はしむるなり。

【五四】主夜神。無明生死の長夜に、智慧の光明を以て、正路を知らしむることを表示す。

【五五】主晝神。行德恒に明かにして、正しく正法を信樂し修習することを表示す。

【五六】阿修羅神（Asura）。譯して非天、非類等といふ。天趣にして天の實行なきが故なり。鬼神の一にして大海の底に住し常に帝釋を好みて諸天と戰ふ悪神なり。又、其の形貌醜陋なるよりして不端正とも譯す。

【五七】羅睺羅（Rāhula）。覆障と

復た不可思議なる（七〇）化樂天王と倶なりき。其の名を（七一）善化天王、淨光天王、最上雲音天王、妙色莊嚴天王、樂智慧天王、華光月天王、照方天王と曰へり。是の如き一切のもの、皆悉く寂靜の法門を成就して衆生を調伏せり。

復た無量の（七二）他化自在天王と倶なりき。其の名を自在轉天王、善眼天王、雜寶冠天王、精進慧天王、衆華香天王、樂光明天王、寂靜處天王、雜色輪天王、智慧妙光天王、大力光天王と曰へり。是の如き一切のもの、普く皆自在の正法を勤修せり。

復た不可思議なる（七三）大梵と倶なりき。其の名を（七四）尸棄大梵、智光大梵、善光大梵、普音大梵、隨世音大梵、寂靜方便妙光大梵、淨眼光大梵、柔輭音大梵と曰へり。是の如き一切のもの、悉く大慈を具へて衆生を度脱し、熱惱を照除して清凉柔輭ならしめたり。

復た無量の（七五）光音天子と倶なりき。其の名を樂光天子、淨光天子、大音天子、樂淨音天子、善思音天子、解脫音天子、深妙音天子、無垢光天

譯す。手を以て日月の光明を覆障し諸天を惱ますといふ。

【五八】 毗摩質多羅（Vimalacitra）綺飾、絲畫、種種絲等と譯す阿修羅王の名なり。

【五九】 睒婆利（Śambara）。勝樂又は木綿と翻す。

【六〇】 迦留羅。或は揭路茶（Garuḍa）と云ふ。金翅鳥、妙翅鳥等と譯す。其の翅甚だ大にして金色なり、此の怪鳥は須彌の四海を飛び巡りて龍を捕へて之を食ふといふ。

【六一】 緊那羅（Kiṃnara）。人非人又は疑人と譯す、其の形は人の如くにして頂に一角あり、人の如くにして人に非らざるが故に名く。歌詠を善くし樂神として帝釋天に仕ふといふ。

子、最高淨光天子と曰へり。是の如き一切のもの、喜光寂靜の法門に安住せり。

復た阿僧祇の(七六)徧淨天と倶なりき。其の名を淨智王天、現勝天、寂勝天、須彌時天、念淨眼天、無上愛光天、世慧音天、智慧熾然天、樂法化心天、化高天と曰へり。是の如き一切のもの、常に衆生をして廣樂に安住せしめたり。

復た無量の(七七)果實天子と倶なりき。其の名を法華光天、淨堅固天、慧光天、智慧王天、普門慧眼天、不轉愛天、無垢淨光天、淨曜天と曰へり。是の如き一切のもの、皆悉く善く寂靜の意門に住せり。

復た(七八)摩醯首羅天等の無量の(七九)淨居天と倶なりき。其の名を善光天、大主天、大稱光天、功德淨眼天、大智慧光天、不動光音天、善施眼天、樂大乘天、普音聲天、樂稱光天と曰へり。是の如き一切のもの、已に無相平等の法界を修して、悉く如來の大衆海數に在り。一切の衆生に於て悉く平等を行じ。無量の妙色皆已に成就し、十力の中に於て能く安住し、一

【六二】摩睺羅伽(Mahoraga)。大腹行と譯す。腹行神即大蟒にして能く法を護るといふ。

【六三】鳩槃茶(Kumbhāṇḍa)。陰囊、又は甕形と譯す。或は厭眉鬼と名け人の精氣を噉ふ鬼なり、其の貌に依りて冬瓜鬼とも名く。

【六四】毘樓勒。具さに毘樓勒叉(Virūḍhaka)といひ、増長と譯す。南方を主る天にして自他の善根を増長す。

【六五】毘沙門。具さに毘舍羅婆拏(Vaiśramaṇa)といひ、多聞又は普聞と譯す。北方を主る天にして其の福德の名聲四方に聞ゆるが故に此の名あり。

【六六】三十三天。六欲天の第二にして須彌山の頂に在り、須彌の四方に峯ありて各八天あり、中央の善見城天を加へて

切の衆に處して傾動せず、至る所の方に隨ひて能く壞する者無く。如來の所乘は常に現じて前に在り。(八〇)煩惱障を離れて其の心淸淨に、諸の(八一)結使の山は皆已に摧滅せり。佛の姿顏を視たてまつるに無量なる妙色の光明普く照せり◎(八二)所以は何ん。如來は往昔無量劫に於て菩薩の道を行じたまひし時、(八三)四攝法を以て善く衆生を攝し、諸の如來に於て諸の善根を集め。種種の因緣をもつて方便敎化して如來の道を立て、深く無量の如來の善根を植ゑて、皆一切智の道に安立せしめ、無量の功德勢力を逮得して、皆悉く如來の願海を成就し、菩薩の所行具足し淸淨なればなり。各(八四)本行に隨つて皆(八五)出要を得て、悉く如來の光明に由りて照さるるが故に、解脫の力に乘じて如來海に入れり。

(八六)佛の法門に於て悉く自在を得たり。善海摩醯首羅天は法界虛空寂靜方便光明の法門に於て自在を得。大自在稱光明天は、一切法に普く遊ぶ法門に於て自在を得。功德淨眼天は、一切法不生不滅方便の法門に於て自在を得。大慧光天は、一切法方便智海遊光の法門に於て自在を得。

三十三天となる。

【六七】釋提桓因。具さに釋迦提婆因陀羅(Śakradevānām Indra)といひ、能天主と譯す。或は略して帝釋といふ。三十三天の中央善見城に居る。

【六八】夜摩天。須夜摩、焰摩ともいひ梵音 Yāma は善時又は時分と譯す。此の天には光明常に輝きて晝夜を辨じ難きが故に、蓮花の開合に依つて時分を知るといふ、又常に冥闇の時なきが故に善時といふ。欲界六天の第三天にして空居四天の一なり。

【六九】兜率天。都史多(Tuṣita)の略にして、喜足、知足等と譯す、欲界六天の中の第四天なり。此の天は五欲の樂に於て喜足の念を生ずるが故に此の名あり。彌勒等の補處の菩

静光音天は、一切の禪にて無量の喜樂を普く起す法門に於て自在を得。施善眼天は、癡畏を轉じ靜に遊ぶ法門に於て自在を得。不思議天は、無量の境界に入りて不起なる法門に於て自在を得。樂大乘天は、一切法の不來不去にして依住する所無き法門に於て自在を得。普雜音天は、佛境界寂靜の法門に於て自在を得。樂稱光天は、無量の境界法門に於て自在を得たり。

爾の時に善光海大自在天は、如來の神力を以ての故に、一切の自在天衆を觀察して、(八七)偈を以て頌して曰はく、

(八八)『無盡平等の妙法界は、悉く皆如來身に充滿し、取無く起無く永く寂滅なるも、一切の歸とならんが故に世に出でたまへり。

諸佛法王世間に出で、能く無上なる正教の法を立てたまふ。如來の境界は邊際無く、世間において自在なれば無上と稱す。

佛は難思議にして倫匹無く、相好の光明十方を照す、大聖世尊の正教導は、猶ほ淨眼の明珠を觀るが如し。

薩は此の天の內院の淨土に止住して、下生成佛の時を待てりといふ。

【七〇】化樂天。樂變化天の訛略なり。欲界六天の中の第五天にして、此の天の有情は自ら五塵の欲を變化して娛樂するが故に此の名あり。

【七一】又自ら樂具を化作して之を受用し他を犯さざるが故に善化とも名く。

【七二】他化自在天。欲界最高の天にして、天主大魔王の居所なり。此の天は他人の變化する樂具を受用して己が娛樂をなし、自ら自在を顯はすが故に此の名あり。

【七三】大梵天。色界初禪の第三天にして、初禪天の主なる大梵天は、此に住して娑婆世界を領す。梵(ブラフマン Brahman)は清淨

一切世間の衆生類は、佛の功德を思議すること能はず、一切の愚癡の闇を消滅して、無上なる智慧の臺に超升す。

如來の功德は思議し難く、衆生の見る者は煩惱滅し、不動の自在尊を見たてまつることを得て、能く無量の悦樂心を生ず。

衆生の大海は癡をもつて心を蔽ふ、寂靜微妙の法を現ぜんが爲めに、能く無上なる智慧の燈を然す、是れ則ち方便眞淨の眼なり。

如來の清淨なる妙色身は、悉く能く顯現して十方に徧く、此の身は有に非ず所依も無し、是の如く佛を見るは眞實に觀たてまつるなり。

如來の音聲に罣礙無ければ、應に化を受くべき者は聞かざる無く、湛然として動ぜず往返無し、是を善慧樂の法門と名く。

一切十方の無邊の佛と、寂靜の法門と天人の主とは、如來の光明照さざる靡し、是れ莊嚴幢の妙法門なり。

佛は無邊の諸の劫海に於て、常に正覺を求めて衆生を悟らしめ、無量の方便をもつて一切を化したまふ、清淨なる廣稱は是の如く見る。』

の義にして初禪天以上は欲染を離るるが故に皆梵と名く。

【七四】 尸棄(Sikhin)。火頂又は持髻と譯し、初禪天の主なり。貌は童子の如く身は白銀の色にして金色の衣を着け、禪悦を食となす。

【七五】 光音天。色界二禪の第三天にして此の天は語る時口より淨光を出だすが故に此の名あり、印度の古傳に依れば人類の原始は此の天より降下せりといふ。

【七六】 徧淨天。色界三禪の第三天にして、喜を離れ清淨なること周遍せるが故に此の名あり。

【七七】 果實天。色界四禪の九天の中の第三天にして、世間の善果の中にて最も勝れたるが故に亦は廣果と名く。

(八九)復た樂業光明天王有り、一切衆生の(九〇)諸根を觀ずる法雲の法門に於て自在を得。淨堅固天には、一切の佛の(九一)妙色方便において(九二)念觀する法門に於て自在を得。樂業天王は、一毛孔に不思議なる諸佛の國土境界を見る法門に於て自在を得。(九三)普門慧眼天は、普門に入りて法界を觀察する法門に於て自在を得。(九四)不轉愛天は一切衆生の處處の受生を轉ずる法門に於て自在を得。善慧光天は一切世間の境界に入る不可思議の法門に於て自在を得。無垢淨光天は、一切衆生一切法の中より出要する法門に於て自在を得、無垢光天は、化を受くる者を能く佛の境界に入らしむる法門に於て自在を得たり。

爾の時に樂業光明天王、佛の神力を承けて、一切の果實天衆を觀察し、偈を以て(九五)頌して曰はく、

「一切の佛の境界は、甚深にして思議し難く、諸の餘の衆生類は、能く測量する者莫し。如來は善く、無量なる諸の群生を開導し、能く悉く歡樂して、無上の道を志求せしめたまふ。

【七八】摩醯首羅天(Maheśvara) 大自在天と譯す、三千界に於て最も自在なるが故なり。

【七九】淨居天。色界第四禪の九天の中後の四天は不還果の聖者の居る所なるを以て此の名あり。

【八〇】煩惱障。涅槃を障へ生死に流轉せしむる煩惱の障礙をいふ。

【八一】結使。結は心身を結縛するの義、使は心身を驅使するの義にして、煩惱の異名なり。

【八二】此の衆は何故に同じく佛海中に在るやと徴問するなり。

【八三】四攝法とは布施、愛語、利行、同事の四にして、菩薩は衆生を濟度せんが爲めに、先づ此の四種の法を用ゐて衆生を攝取す。

佛は神通力を以て、世に住して普く、一切衆生の類を開化したまひ、各其の所聞に隨ふ。癡惑の障永く除こり、慧命淨くして穢無ければ、能く諸の如來の、衆妙の淨法界を視る。

諸法の眞實の相は、寂滅にして所依無し、如來は方便の力にて、能く衆生の爲めに現じたまふ。如來は諸法に於て、性無く所依も無きに、而も能く衆の像を現じ、相を顯はすこと猶ほ明燈のごとし。

諸の緣と譬喩とを以て、方便して樂ふ所に隨ひ、爲めに諸の如來の、智慧神通力を現ず。悟に因りて各門を異にし、無量にして思議し難く、爲めに正法の幢を建てて、功德の海に入らしむ。

如來は神通の力をもつて、能く一毛孔に於て、各衆の爲めに、無上寂滅の法を演說したまふ。一一の諸の如來は、各其の眷屬の爲めに、法の無量の門と、功德の大海とを顯したまひ、皆悉く獅子吼して、諸佛の法を演說したまふ、是れ則ち大智の尊の、無上なる方便の力なり。

【八四】本行。因位の修行なり。

【八五】出要。出離解脫の義。

【八六】以下一段、十八衆を列して得法讃佛を明かす。一一に長行と偈頌とあり。凡て教に順じて修行し、法の自在を得ると、其德を讃揚し傳通することは、これ如來を供養し奉るものにして、これを法供養と名け、諸種の供養の中にて最も勝れたる者なり。故に此の一段を供養圓滿といふ。初に帝釋衆の內の十天を擧ぐ。

【八七】偈。具さに伽陀(Gāthā)といひ、詩句を以て佛德を讃し、又は法理を宣揚する者をいふ。これに四種ある中に祇夜(Geya)と云ふは重頌又は應頌と譯して、前に散文にて說きたるを、更に偈を以て述べたる者をいふ。本經中の偈

十方の諸の佛土の、一切群生の類には、悉く能く彼の爲めに、如來の正法を現じたまふ。如來には未だ曾て、去來の異相有らずして、皆彼をして歡喜せしむ、慧を退かざるの境界なり。

如來は衆生の爲めに、普く業報の相を現じたまふ、猶ほ日光照せば、衆像現ぜざる靡きが如し。又彼の衆生の爲めに、寂滅の法を演說して、彼をして眞實なる、甚深の智慧處を見しめたまふ。

如來は自ら、甚深微妙の義を觀察して、彼の衆生の根に隨ひて、普く甘露の法を雨ふらしたまひ。爲に諸の法門を開き、無量にして思議し難く、悉く寂滅なる、平等眞實の觀に歸入せしめたまふ。

無數の無量劫に、廣く大悲を修習して、等正覺を逮成し、群生の類を度脫したまふ。普く甘露の法を雨らし、器に隨ひて皆充滿せしむること、龍の慶雲を興して、等しく一切に雨らすが如し。

(九六)復た淨智天王有り、衆生の善根を觀ずる法門に於て自在を得。賢妙天王は、(九七)一切有覺照の法門に於て自在を得。勝妙天王は、(九八)總持辯才の

は多く此の重頌なり。

【八八】四句一偈にして十偈あり、次第の如く前の十法門を頌す。

【八九】第二に第四禪の果實天の八を擧ぐ。

【九〇】諸根。機根の差別を觀察して其の力に應じて法雨に浴せしむるなり。

【九一】妙色。微妙の色身を現じて法を說く。

【九二】念觀。所說の法を念持し、普賢の色身を觀ずるなり。是に由りて惑障を除滅し遊行することを得。

【九三】普門。一門の中に法界を攝し、圓融無礙なるを普門と云ふ。

【九四】不思愛。愛とは[illegible]なり[illegible]とは[illegible]なり、卽ち[illegible]を留めて人天に生を受け、他の

法門に於て自在を得。音燈天王は、佛の出世を樂ひ解脱する法門に於て自在を得。智炎天王は、一切衆生甚深の法の中にて能く歡喜を生ずる法門に於て自在を得。樂化天王は、菩薩を化する功德周備して無盡に入る法門に於て自在を得。踊化天王は、普く無量の苦惱ある衆生を觀じて慈悲と智とを〔九九〕滿ずる法門に於て自在を得たり。

爾の時に淨智天王、佛の神力を承けて、普く偏淨天の衆を觀じ、偈を以て〔一〇〇〕頌して曰はく、

『諸佛の正法は障礙無く、十方の無量界に周滿し、佛の境界を現ずること思議し難く、離垢の法門は無量の海なり。

如來は世に處して所依無く、法身は淸淨にして起滅無し、而も能く無量の土に照現したまひ、一切悉く〔一〇一〕天中天を見たてまつる。

無量劫海に方便を修して、光明普く十方界を照し、淸淨の法界は〔一〇二〕如如にして住し、寂滅微妙にして最も無上なり。

衆生は愚癡をもつて心の目を瞽ひ、限り無く生死の中に輪廻す、如來

衆生をして生死の惑を轉滅せしむるなり。

【九五】頌に十九偈あり、初の十七は前の法門を頌し、後の二は因行を擧げ總じて其の德を歎す。五の四句にて一頌なり。

【九六】第三、第三禪の遍淨天に七を擧ぐ。

【九七】一切有とは一切の世界なり、佛は其の中に出現して衆生を覺悟し諸法を照現し給ふ故に覺照といふ。

【九八】總持辯才。心に文義を具へ、之を說くに四辯の才能あるをいふ。

【九九】滿とは成滿し具足する義なり。

【一〇〇】頌に十一偈あり、前の法門を頌す。

【一〇一】天中天。佛の尊稱にして、佛は諸天の中にて最勝の天な

は導くに清淨の道を以てし、無上最勝の門を開示したまふ。
如來の乘じたまふ所の無上の道は、一切衆生能く思ふ莫し、佛は一切の妙色門を現じたまふを、善念し樂觀し淨眼をもつて見たてまつる。
佛は微妙なる總持の門を說きたまふ、一切剎の微塵に等きし如き、一切の衆生を調伏せんが故なり。清淨なる慧眼は能く照見す。
如來の出世には甚だ値ひ難く、無量億劫に時に一たび遇ひたてまつり、諸の【一〇三】難處を離れて【一〇四】衆會に適き、唯佛世尊のみ能く時に應じたまふ。
一切の衆生は思議し難く、佛は能く悉く淨妙の法を現じたまひ、如來の無量の德を觀見したてまつること、猶ほ明かに照して衆の像を見るが如し。
三世諸佛の所得の法は、衆生を敎化して思議し難し、悉く此の功德を觀念し已りて、法を樂み踊躍して大いに歡喜す。
衆生は煩惱の海に沒在し、愚癡邪溺大に恐怖す、佛は慈悲を以て究竟して度したまひ、淨き境を見るに天幢の如し。
佛は無量の大光明を放ち、一一の光明には無量の佛あり、無數の方便をもつて皆悉く現じ、

りといふ意なり。
【一〇二】如如。如は寂靜不變の理體卽ち眞如なり。如の如とは絕對無二の眞理を云ふ。
【一〇三】難處。佛に遇ふことを得ず、法を聞くこと能はざる處をいふ。
【一〇四】衆會。說法の會座なり。

一切の衆生類を化度したまふ。」

〔一〇五〕復た愛樂天子有り、寂靜を愛樂し衆生の苦を滅する法門に於て自在を得、妙雜光天は、諸の衆生の心淨くして垢を離れ廣く德海を修する法門に於て自在を得。自在音天は、一切衆生の一劫に修する所の功德を一念の中に出生する法門に於て自在を得。勝念智天は、世間の〔一〇六〕生住滅の種種の淸淨なる功德の法門に於て自在を得。淨樂音天は、一切の菩薩兜率の宮に在りて廣く供養を說く法門に於て自在を得。善思音天は、一劫の中に諸地の義を說き以て一念の頃に悉く能く說を受くる法門に於て自在を得。甚深音天は、無盡の神足諸の功德海の法門に於て自在を得。離垢稱天は、一切の佛の解脫光音天は、道場を〔一〇七〕莊嚴する法門に於て自在を得。出淨光天は、過去の諸佛の願力に持せられて歡喜する功德力藏の法門に於て自在を得たり。

爾の時に光音天子、佛の神力を受けて、遍く光音天の衆を觀じ、偈を以て〔一〇九〕頌して曰はく、

「我如來の過去の行を憶ひ、我供養を行ぜしことを亦憶念するに、本修せし所の清淨の意の如

【一〇五】第四、第二禪の光音天衆に十を擧ぐ。

【一〇六】生住滅。佛に世間に出生し、住し、滅し、所謂八相を示現し給ひて、衆生の迷染を滅し、清淨の功德を成ぜしむ。或は又生滅遷流する世間の染法に即して、性淨の德を成ずる義なりともいふ。

【一〇七】莊嚴とは場處に佛出で給ふをいふ。

【一〇八】境界。深廣なる功德海は機の爲めに境となる、卽ち果成滿して機に應現する義。

【一〇九】頌に十偈あり各一法門を頌す。

く、佛の光明の故に今悉く見たてまつる。

如來の無垢莊嚴の身は、衆生の清淨心を增長し、慈悲喜地の中に安住せしむ、是を莊嚴淨の法門と名く。

如來の廣大なる方便の法は、無量劫海に修習せし所、彼の生滅の法は如如の相にして、法主音聲の方便門なり。

如來の神力は十方に徧く、普く無量の諸佛の（二〇）刹を照し、十方の諸佛皆悉く現じ、勝念の方便をもつて愚癡を滅したまふ。

無量の刹海の塵數の佛を、供養し恭敬して歡喜を生ず、故に能く群生の闇を斷除す、是を妙音勝の境界と名く。

無量劫海は甚だ彌曠なり、方便地を說きて倫匹無く、演ぶる所の妙法は窮盡すること無く、心方便の門に自在を得たり。

如來の無量なる自在の力は、念念の中に於て普く示現して、神を降し道を成じて（二一）權華り無し、是れ則ち名けて妙法門と爲す。

（二二）佛持は深廣にして（二三）與等無く、神足の示現も量る可からず、能く諸根をして悉く清淨なら

【二〇】刹。刹(Kṣetra)。田、土等と譯す國土のことなり。

【二一】權。權方便にして、眞實の道に導く假りの手段なり。

【二二】佛持。佛持は佛の威神力の攝持なり。

【二三】與等無く。比較すべき者なし。

しめ、甚深微妙の地に住することを得せしむ。
如來の智慧は邊際無く、行淨きこと比無く罣礙無し、普く一切の(二四)
兩足尊を見たてまつるは、無上なる離垢稱の方便なり。
過去世に菩薩たりし時に於て、無量の諸佛海を供養したてまつり、大
誓願を立つること思議し難し、是の故に無上の智を逮得す。」

(二五)復た尸棄大梵天有り、諸法を照現して(二六)不思議に入る法門に於て自在を得。智光明梵は、一切禪をもつて等觀し寂靜に善住する法門に於て自在を得。智光心梵は、諸法の不可思議なるを照して方便に入る法門に於て自在を得。普音雲梵は、一切の佛の妙音聲海に平等に度入する法門に於て自在を得。應時音梵は、衆生を(二七)攝伏する最勝の法門に於て自在を得。寂靜光梵は、(二八)一切の刹に能く起り安住して諸法を分別する法門に於て自在を得。喜光梵は、無量の方便をもつて衆生を化する法門に於て自在を得。堅固梵は、諸法の(二九)淨相寂行に住する法門に於て自在を得。樂目光梵は、(三〇)一切の有は來る無く去る無く依止する所無き勇猛の法門に於

【二四】兩足尊。又は二足尊ともいふ。佛の尊稱なり。佛は二足のもの卽ち人天の中にて最も尊きが故なり。
【二五】第五、初禪の梵天衆に十を擧ぐ。
【二六】不思議に入るとは眞身應現して寂照不二なるをいふ。
【二七】攝伏。軟者は攝取し强者は降伏す。
【二八】一切の刹云々は諸の國土に應現し安住して說法すること。
【二九】淨相。妄情の計度を離れたる相なり。此の妙智を以つて證契するを寂行に住すといふ。
【三〇】一切有。有とは生死輪迴して生を受くること。生に從來なきが故に無來なり、滅に所去なきが故に無去なり、住

て自在を得。柔輭音梵は、無盡の法を行に隨ひて普く照す法門に於て自在を得たり。

爾の時に尸棄大梵、佛の神力を承けて、徧く一切諸の大梵衆を觀じ、偈を以て〔二三〕頌して曰はく、

『佛身は清淨にして常に寂然たり、普く十方の諸の世界を照すも、寂滅無相にして照現無く、佛身の相を見たてまつるに浮べる雲の如し。

一切の衆生は能く、如來の法身禪の境界を測ること莫く、無量の方便は思議し難し、是れ智慧光照の法門なり。

一佛刹の塵のごとき諸法の海を、一音をもつて演說して悉く餘すこと無し、此の辯は塵劫に演ぶるとも盡きず、是を光心を照す法門と名く。

如來の妙音は深くして滿足し、衆生類に隨ひて悉く解することを得、一切皆其の語を同じうすと謂へり、梵音普く至り最も無上なり。

十方三世の佛の得たまひし所の、一切の菩薩の方便行は、悉く如來の身中に於て現じ、而も佛身に於て分別無し。

するも亦所止なし。此の理に於て心に繫するを勇猛と名く。

【二三】頌に八偈あり、前の法門を頌す但し後の二門を缺く。

佛身は空の如く盡す可からず、無相無礙にして普く示現し、應現す可き所幻化の如く、神變の淨音周ねからざる靡し。

佛身の無邊なること虛空の如く、智光の淨音も亦是の如し、佛は諸法に於て障礙無く、猶ほ月光の一切を照すが如し。

法王は妙法の堂に安住したまひ、法身の光明照さざる無く、法性は如實にして異相無し、是を樂音海の法門と名く。』

(一二二)復た自在天王有り、無量の衆生藏を教化する法門に於て自在を得。善眼光天は、諸の衆生をして最上の樂を得しむる法門に於て自在を得。雜寶冠天は、衆生の無量なる性欲を解る方便の法門に於て自在を得。精進善慧天は、衆生に義を分別する法門に於て自在を得。勇妙雜音天は、諸の衆生を慈念し觀察する法門に於て自在を得。光明樂幢天は、(一二三)諸の衆生をして魔事を超出せしむる法門に於て自在を得。淨境界天は、諸の衆生を(一二四)念化する法門に於て自在を得。雜色輪天は、十方の諸佛を念じ(一二五)充滿する法門に於て自在を得。智華妙光天は、佛の功徳自在にして、(一二六)覺悟念に充滿し(一二七)隨順す

【一二二】第六、他化天衆の中に十を舉ぐ。

【一二三】諸の衆生云々。大慈の十力を以て衆生の憍慢を摧くこと。

【一二四】念化。心念に隨應して攝化すること。

【一二五】充滿。念佛三昧の純熟したる力に由りて、十方の諸佛の孰れの一佛を念ずるも、皆悉く集り來るが故に充滿といふ。

【一二六】覺悟念に充滿。衆生の心念に應じて成正覺を現すること。

【一二七】隨順。佛の教と衆生の力と相順して、證入せしむるの意。

る法門に於て自在を得。大力光天は世間の境界を離るる法門に於て自在を得たり。

爾の時に自在天王、佛の神力を承けて、徧く一切の自在天の衆を觀じ、偈を以て〔一二八〕頌して曰はく、

「如來の法身は法界に等しく、普く衆生に應じて悉く對現したまひ、如來法王は衆生を化するに、
諸法に隨順して悉く調伏したまふ。

世間一切の上妙の樂は、聖の寂滅の樂を最勝と爲す、無垢の妙法は如來の室なり、清淨の勝眼は
實の如く見たてまつる。

如來は普く諸の世間を照したまひて、〔一二九〕疑地の枯林に法雨を降らし、
衆生潤ひを蒙りて疑翳を除く、是れ寶冠幢の妙法門なり。

如來の演べたまふ所の一妙音は、廣大の法海を說きて餘すこと無く、
佛は一音を以て十方に徧ず、是を勝勇善の法門と名く。

一切十方の諸佛の土は、佛の一毛に入りて猶ほ滿たず、佛は大慈の虛空の如きを以てしたまふ、
是を清淨慧の法門と名く。

一切衆生の慢は高山のごときを、佛は〔一三〇〕十力を以て碎きて餘すこと無く、佛の慈光は明かに十
方を照す。是を光幢の妙法門と名く。

【一二八】頌に十偈あり各一法門を頌す。
【一二九】疑地は衆生の疑網なり、枯林に喩へて潤益を述ぶ。
【一三〇】十力。佛に殊勝の智力十種あり、名義は後に釋す。

如來を視たてまつることを得て癡惑を滅し、淨見智慧悉く充滿し、永く（三一）惡趣の諸の恐怖を離る、是を寂境の妙法門と名く。
如來は毛孔より悉く光を放ちたまひ、其所應に隨ひて法を聞くことを得、普く衆生を導きて（三二）善趣に至らしむ。是を善幢の妙法門と名く。
一切十方の諸佛の事を、此の衆は一切悉く見たてまつることを得、如來の法界は虛空に滿つ、是を淨華勝の法門と名く。
無量劫海の諸佛の國は、皆是れ最勝の慧の境界なり、如來此に於て（三三）高心無し。是れ大力幢の妙法門なり。』
（三四）『復た善化天王有り、一切の法を化なりと分別する法門に於て自在を得。靜光時天は、（三五）一切有及び我の眞實を觀ずる法門に於て自在を得。化力光天は、諸の衆生癡を離れて智慧滿足する法門に於て自在を得。雜勝天は、諸佛の音聲、一切の歡喜を發起して勇猛せしむる法門に於て自在を得。念光天は、一切の佛の（三六）相好功德の具足すること無盡なる法門に於て自在を得。踊雲音天は、淨智慧をもつて次第に過去の無量劫を憶念する

【三一】惡趣、惡業の因に依りて趣く處、地獄、餓鬼、畜生を三惡趣といふ。
【三二】善趣、惡趣に對する者にして、善業の果報として趣き住する處なり。善道は天上界と人間界とをいふ。又修羅道を加へて三善趣ともいふ。
【三三】高心無しとは、諸佛の國土は最勝にして、世間に比すべきものなけれども、佛は無分別なるが故に、此に住して高慢の心なし。
【三四】第七。化樂天衆に十を擧ぐ。
【三五】一切有及び我。佛は有（色身）を現ずるも、有に於て佛を求むべからず、故に有即ち眞實（理體）なり。これを一切有の眞實を觀ずといふ。又佛は我を現ずるも、我に於て佛

法門に於て自在を得。淨光勝天は、一切の衆生に種種の功德智慧を長養せしむる法門に於て自在を得。樂光髻天は、一切の塵界に結跏趺坐して無礙なる法門に於て自在を得。樂智慧天は、一切の方便の境界無盡力の法門に於て自在を得。華光髻天は、諸の衆生の業行苦樂を（一三七）等觀する法門に於て自在を得たり。

爾の時に善化天王、佛の神力を承けて、偏く化樂天の衆を觀じて、偈を以て（一三八）頌して曰はく、

『法身は世に於て思議し難く、如來は普く現じて衆生に應じたまひ、緣性は造無く（一三九）眞實に非ず、行業に莊嚴せられて世間に現じたまふ

方便して佛を求むるに所有無く、之を攬るに十方に得可らず、法身示現するも眞實無し、出生自在は是の如く見る。

無量劫海に諸行を修して、衆生の愚癡の冥を斷除し、如來の智慧は甚だ清淨なり、是を佛慧癡を除くの力と名く。

一切世界の妙なる音聲も、悉く能く如來の音に及ぶこと無く、一音遠く震ひて十方に徧し、是を

の求むべきなければ、我は卽ち眞にして無我なり、之を我の眞實を觀ずといふ。

【一三六】相好。微妙の相貌なり、色身の麗しき相形にして、其の圓滿せる者を三十二相、八十隨形好といふ、大なるを相といひ其に附隨せる小なる者を好と稱す、細說は後に出づ。

【一三七】等觀。衆生の善惡因果に、同じく法界に在りて去來なきが故に等觀するなり。

【一三八】頌に十偈あり各一法門を頌す。

【一三九】法身は衆生に應現するも、幻化にして其の體無なり、故に非眞實といふ。

勝音の妙法門と名く。

一切衆生の諸の功德は、如來の（一四〇）一相の福にも及ばず、佛の德は空の如くにして邊際無し、是を生光の妙法門と名く。

三世無量劫の中の事と、世界の成敗する種種の相とは、一毛孔に於て悉く能く現ず、是を清淨なる無上智と名く。

空の邊際を求むるに猶ほ得可くとも、佛の一毛孔は涯限無し、佛の德は是の如く不思議なり、是を如來の淨知見と名く。

佛は先世の無量劫に於て、一切の波羅蜜を具滿し、精進を勤修して厭怠無し是を樂見の淨法門と名く。

行業の因緣は思議し難きも、佛は衆生の爲めに說きて餘すこと無く、普く諸法を現じ淨くして穢無し、是を無上の深法門と名く。

如來の一毛孔を觀見するに、一切の衆生は悉く中に入り、衆生も亦往來の想無し、是を諸方照の法門と名く。」

【一四〇】相福。相好の福德なり。

巻の第二

世間淨眼品第一の二

(一)復た兜率天王有り、諸佛の轉法輪を成就する法門に於て自在を得。樂寶髻天は、虚空界淨光の法門に於て自在を得。勝幢天は、廣き願海に諸の衆生を入れて寂靜なる法門に於て自在を得。百光明天は、一切法の無量の無相を(二)觀行せしむる法門に於て自在を得。超踊月天は、佛の境界の(三)超踊覺力の法門に於て自在を得。勝眼光天は、喜びて修習し沮壞す可からざる菩提心の法門に於て自在を得。宿莊嚴天は、諸の十方の佛の衆生を調伏する方便の法門に於て自在を得。樂靜妙天は、無邊の(四)心海に念念に(五)回向し器に隨ひて普く現ずる法門に於て自在を得たり。

爾の時に兜率天王、佛の神力を承けて、徧く兜率天の衆を觀じ、偈を以て(六)頌して曰はく、

【一】第八、兜率天衆に八を擧ぐ。

【二】觀行。衆生をして諸法の無相を觀察し修行せしめ、惑業の障を滅せしむるをいふ。

【三】超踊覺力。佛の境界は凡小を超え、思議を絶したるを超踊と云ひ、眞理を證し機を照すを覺力と云ふ。

【四】心海。所化の衆生界なり。

【五】回向。回轉趣向の義にして、己が善根功德を他に回轉して其の證果を助くるの意。

「如來は普周して法界に等しく、垢の衆生の爲めに世に出現し、諸の欲する所に隨ひて爲めに法を説きたまふ、是を無上の勝れたる法王と名く。

如來は宿世の無量の行に、清淨の願海具足して滿ち、一切の諸法悉く周備せり、是を方便の勝功德と名く。

如來の法身は不思議なり、法界法性の辯も亦然り、光明普く一切の法を照し、寂靜なる諸法皆悉く現ず。

衆生は癡闇業障を結び(七)高心放逸にして境界に馳す、如來爲めに寂滅の法を説きたまふを、歡喜し善樂して悉く能く見る。

一切世間の(八)最上の歸は、群生を救護して衆苦を除きたまふ、衆生無上尊を觀たてまつらんと樂はば、猶ほ滿月の高山に顯はるるが如し。

諸佛の境界は不思議なり、一切の法界も亦是の如し、諸の法力に於て悉く究竟し、定慧の方便皆成就す。

清淨の境界功德の海、一切衆生の緣有る者は、佛の功德を聞きて(九)菩提を發し、塵垢を消除して最勝を成ず。

【六】頌に八偈あり、各一法門を頌す。但し其の次第は前後せり。

【七】高心放逸。高心とは憍慢の心にして、他を蔑視し自ら高貴するをいふ。放逸とは惡を防ぎ善を修すること能はずして、心の放蕩縱逸なるを云ふ。

【八】最上の歸。歸は歸依の處即ち佛をいふ。

【九】菩提(Bodhi)は正覺の智なり。今は菩提心の意にして、上は正覺を求め、下衆生を濟はんとの心なり。

世界海の微塵數の如き、諸の佛子等は、悉く來り集り、如來を供養したてまつりて法を聽受し、悉く法幢方便王を視たてまつる。』

〔一〇〕復夜摩天王有り、諸の衆生をして憂を離れしめ、善根を回向する法門に於て自在を得。悅樂光天は、諸の境界の法門に於て自在を得。無盡慧天は、〔一一〕諸の患を離れしむる大慈悲を具する法門に於て自在を得。淨莊嚴天は、諸根を分別する法門に於て自在を得。持須彌天は、無量の〔一二〕總持照明の法門に於て自在を得。不思議慧天は、諸の境界業行眞實にして不思議なる法門に於て自在を得。齊輪天は、法輪を轉じて衆生を調伏する法門に於て自在を得。不思議光天は、衆生界を勝眼をもつて普く觀る法門に於て自在を得。月姿顏天は、諸法は實に普く現ずる法門に於て自在を得。普音徧觀天は、諸の天衆の應ずる所に施作して心を淨めしむる法門に於て自在を得たり。

爾の時に夜摩天王、佛の神力を承けて、徧く夜摩天の衆を觀じ、偈を以て〔一三〕頌して曰く、

『佛は無量の大劫海に於て、生死の煩惱永く已に盡き、能く衆生に淸淨の道を敎へ、佛は一切智

【一〇】第九、夜摩天衆に十を擧ぐ。

【一一】大悲の心を具するが故に、衆生を救ひ苦患を離れしむるなり。

【一二】總持。梵語の陀羅尼(Dhāraṇī)の譯語にして、無量の義理を總持して失はざらしむる義なり。智慧を體となし、一切の法の光明に照され、一切の法を憶持するが故に、照明といふ。

【一三】頌に八偈あり、前の法門を頌す。但し次第前後あり、且つ二頌を缺ぐ。

慧の燈と爲りたまふ。

如來の法身は甚だ彌曠なり、十方に周徧して涯際無し、智慧の光明方便の力、寂滅の禪樂も亦無邊なり。

生老病死憂悲の苦、毒害逼切して衆生を惱ます、斯等の類の爲めに慈悲を起し、無盡の智を以て菩提を示したまふ。

如來の智慧は隨順して覺り、三世を了達して障礙無く、一切の善行を悉く了知したまふ、是を樂化明の法門と名く。

無量の總持は邊際無く、如來の辯海も窮盡すること無く、能く淸淨の妙法輪を轉じたまふ、是を須彌總持門と名く。

無上なる大聖の一の妙身は、應化して一切の世に周滿し、悉く一切衆生の前に現じたまふ、是を善光勝の境界と名く。

衆生一たび如來の身を見たてまつれば、悉く能く衆の煩惱を斷除し、一切諸の魔事を遠離す、是を淸淨の妙境界と名く。

佛は一切の大衆海に於て、此の衆會に處して悉く徧く照し、普く衆生の爲めに法雨を雨らしたま

ふ、是を普音稱の法門と名く。』

〔一四〕復た釋提桓因有り、三世の佛の出興し、住し、滅したまふを、決定の大智をもつて〔一五〕念喜する法門に於て自在を得。普稱滿天は、〔一六〕衆生の色と如來の色身との諸の〔一七〕功德力清淨なる法門に於て自在を得。慈眼天は、平等の慈雲をもつて蔭覆する法門に於て自在を得。寶光稱天は、衆の光色の具足せる念佛普勢の法門に於て自在を得。樂喜髻天は、衆生の業報を觀ずる法門に於て自在を得。樂念淨天は、諸佛の國土淨法を具する門に於て自在を得。須彌勝音天は、世間の生滅を觀ずる法門に於て自在を得。念智慧天は、當來の菩薩の諸行を起して衆生を化する因の〔一八〕起念の法門に於て自在を得。淨華光天は、一切の天の娯樂の法門に於て自在を得。慧日眼天は、諸の天處の敎化に〔一九〕善根を流通する法門に於て自在を得たり。

爾の時に釋提桓因、佛の神力を承けて、徧く三十三天の衆を觀じ、偈を以て〔二〇〕頌して曰はく、

『若し一切三世の佛を念じ、廣く能く佛の境界を觀察せば、諸佛の國土

【一四】第十、忉利天に十を擧ぐ。

【一五】念喜。理に順じて善く證するの意。

【一六】衆生身と如來身とは、其の體同じく眞如にして、功德本より清淨なり。

【一七】功德力清淨。體より用を起すを功德力といひ、因に異らざるを清淨といふ。

【一八】起念。因位の人の修行成就して理を證するを起念といふ。

【一九】善根。諸天を敎化するに一念も佛を念ずれば、近くは惡道を離れ、遠くは菩提に達するが故に、流通の善根といふ。

【二〇】頌に十偈あり各前の法門を頌す。

土の成敗の事は、佛の神力を以て皆悉く見ん。

佛身は清淨にして十方に滿ち、妙色無比にして一切に應じ、光明照曜すること最も殊特なり、具足廣稱のもの是の如く見たてまつる。

本方便の大慈海を修し、一切諸の衆生に充滿して、悉く能く一切の衆を調伏したまふ、清淨眼を開きたるものは見るに極まり無し。

佛の功德の無量なることを念ずるが故に、廣大の歡喜心を生ずることを得、世間に如來と等しきもの無し、離垢稱王の住する法門なり。

清淨の業海に滿てる衆生を、一切悉く見て餘り有ること無し、種種の因は深廣の福を起す、是の如く善く見ること猶ほ滿月のごとし。

諸佛充滿して十方に徧く、一切の衆生見たてまつらざる無し、既に見ることを得已りて悉く調伏し、皆無上の方便念を得たり。

如來の智身の明淨眼は、一切の十方刹に周徧し、悉く衆生をして皆覩見せしめ、妙音宣化して解せざる無し。

佛は一毛孔に衆行を現じたまひ、佛子見已りて具さに修習し、無量の德を具足し成就す、是の如

き善慧は猶ほ滿月のごとし。

一切の衆生悦樂を得るは、皆如來の神力に因りて生ず、如來の無量なる功徳の故なり、是を無垢の雜華門と名く。

若し能く須臾も如來を念ぜんには、乃至一念の功徳力も、永く衆の惡趣を遠離することを得しめ、智慧日の光は癡闇を滅せん。』

〔二〕復た日光天子有り、十方の諸の衆生身を照し未來際を盡して正しく莊嚴に住せしむる法門に於て自在を得。眼炎光天は、諸の色を照す無上智海の法門に於て自在を得。須彌光天は、衆生の轉た勝れたる清淨の功徳を起す法門に於て自在を得。淨寶月天は、樂つて一切の苦行を度する法門に於て自在を得。勇猛不退天は、障礙無き普照の法門に於て自在を得。妙華光天は、淨日の光衆生身を照す法門に於て自在を得。勝光天は、光世間を照し功徳を積集する法門に於て自在を得。寶峰天は、衆の寶海に種種の色境界を現ずる法門に於て自在を得。明眼天は、一切趣に清淨眼を開き法界藏を觀ぜしむる法門に於て自在を得。勝地天は、諸の衆生の〔三〕淨乘の法門に於て自在を得たり。

〔二〕第十一、日光天子衆に十を擧ぐ。

〔三〕淨乘。機根の不同によりて三乘の別あれども、終には一揆に歸するが故に、諸乘皆淨法門なり、故に淨乘と名く。

爾の時に日光天子、佛の神力を承けて、徧く日光天子の衆を觀じ、偈を以て（三三）頌して曰はく、

『佛慧の光明は邊際無く、普く十方無量の土を照し、一切の衆をして面り佛を觀たてまつらしめ、種種の方便をもつて衆生を化したまふ。

衆生の大海は廣くして量り無きも、悉く能く具足して其の心を知り、衆生の智慧海を開發す、善勝の光明は是の如く見る。

如來は普く爲めに世に出興したまひ、徧く十方を照して悉く餘すこと無し、如來の法身は（三四）無等等にして、無上の智を以て法を演說したまふ。

無數劫海の諸有の中に、難行苦行するは衆生の爲めなり、是の故に淨光は虛空の如く、妙身の顯現すること猶ほ滿月のごとし。

佛妙音を演べたまふに障礙無く、十方に周徧して悉く餘すこと無し、分別して廣く一切の法を演べ、因緣と方便とをもつて具足して說きたまふ。

大光明を放ちて不思議に、十方の世界悉く明淨となり、人をして歡喜し（三五）道意を發さしむ、是を莊嚴の勝法門と名く。

【三三】頌に十一偈あり、前九は各一法門を頌し、後の二頌は第十の法門を頌す。

【三四】無等等。法身は最勝にしてよく等しき者無し、而も所證の法は諸佛各等同にして異ることなければ相等し、故に無等にして等なり。

【三五】道意。正道に趣かんとの意志なり。

一切世間の諸の光明は、佛身の一毛の光にも及ばず、佛の光は微妙にして思議し難し、(二六)最勝は能く此の神變を現じたまふ。

一切諸佛の法は是の如く、各十方の　(二七)道樹の下に坐し、衆の爲めに道と非道とを分別したまふ、清淨の妙眼は是の如く見たてまつる。

癡冥の衆生は盲にして目無し、斯の苦の類の爲めに淨眼を開き、彼の爲めに智慧の燈を示現して、如來の清淨身を見ることを得しめたまふ。

(二八)方便自在にして倒惑無ければ、悉く應に一切の供を受くるに堪ふべし、漸に敎へて解脫の道を開示す、是を淨眼の方便地と名く、

(二九)一の法門に於て無邊を說き、無數劫の中に廣く敷演し、深遠なる淸淨の義を分別す、是を周徧の妙法門と名く。』

(三〇)復た月天子有り。衆生を調伏し普く法界を照す法門に於て自在を得。耀華天は、普く觀じて一切諸法の境界を攝する法門に於て自在を得。勝光莊嚴天は、諸の衆生の心海と境界とを皆悉く轉せしむる法門に於て自在を得。雜樂世間天は、能く一切の不可思議なる　(三一)愛樂を生ずる法門に於て自在を得。眼光天は、衆

【二六】最勝。佛の尊稱なり。佛は人天の中にして、最勝なるが故に名く。

【二七】道樹。菩提樹なり。諸佛正覺を成ずる時は必ず此の樹の下に坐し給ふ。

【二八】此の一頌は五[illegible]の方便を說くことを述ぶ。

【二九】此の一頌は末を會して本に歸するなり。前は同敎、これは別敎の意なり。

【三〇】第十二、月天子衆に十を擧ぐ。

【三一】愛樂とは正しく眞理に趣くをいふ。

生をして〔三一〕實を見しむる法門に於て自在を得。現淨光天は、大慈悲をもつて一切の苦惱の衆生を救護する法門に於て自在を得。普遊靜光天は、無礙淨月の法門に於て自在を得。妙莊嚴天は、諸法の幻の如く化の如く空無なることを觀ずる法門に於て自在を得。淨菩提天は、善く一切の業行の起す所を解る法門に於て自在を得。大光炎天は、諸天の疑を滅して照度する法門に於て自在を得たり。

爾の時に月天子、佛の神力を承けて、徧く月天子の衆を觀じ、偈を以て〔三二〕頌して曰く。

「普く衆生に於て大光を放ち、十方の國土に如來を見たてまつり、一切の愚癡の闇を照除して、明かに不可思議の法を了る。

佛界は無邊にして盡す可からず、無量劫の中に功德を集め、種種方便の妙法門をもつて、一切の衆生類を調伏す。

如來の智慧は甚だ深遠にして、他の無量なる諸の心海を知し、隨順して爲めに淨法輪を轉じ、無量の歡喜心を生ぜしめたまふ。

衆生は賢聖の樂を遠離し、世間の無量の苦に沒在す、佛は斯等に淸淨の法を與へ、心に悅樂を得て安隱に任せしめたまふ。

〔三一〕實を見しむるとは眞實の道理を見しむるなり。

〔三二〕頌に八偈あり各前の法門を頌す、但し第六と八とには一偈に二門を頌す其の次第は後前せり。

如來は普く大光明を放ちて、世間の諸の法相を分別したまふに、罪福の報應は敗亡せず、清淨光天は是の如く見る。

佛は是れ一切衆生の地にして、能く無量なる善の果報を持し、悉く衆生をして邪道を離れしめ、善能く方便地を安立したまふ。

大慈悲の雲覆はざる靡く、(三四)佛身は難思にして衆生に等しく、普く法雨を雨らして一切を潤ほしたまふ、是れ佛の第一の上方便なり。

一切の有は無性にして空の如く、佛は是れ衆生の大光明なり、常に勤め方便して一切を利したまふ、最勝清淨なるもの是の如く見る。」

(三五)復た(三六)持國(三七)乾闥婆王あり、一切衆生の娛樂を攝する方便の法門に於て自在を得。樂樹光乾闥婆は佛の功德莊嚴の法門に於て自在を得。起淨眼乾闥婆は、衆生の憂喜を離れたる法門に於て自在を得。華樹乾闥婆は、(三八)結使を滅する法門に於て自在を得。樂遊行乾闥婆は、悕望を調伏する法門に於て自在を得。妙眼乾闥婆は、一切の樂(三九)喜光藏に正住する法門に於て自在を得。師子幢乾闥婆は、一切の方に寶を雨らす法門に於て自在を得。寶光解脫乾闥婆は、一切の妙身を現する廣智の

【三四】佛身の應現すること其の數無量にして衆生に等し。
【三五】第十三、東方天王衆に十を擧ぐ。
【三六】持國。四天王の一にして東方天の主なり。
【三七】乾闥婆(Gandharva)尋香、食香等と譯す。唯香を食して餘の物を食はず、十寶山に住して、諸天の爲に伎樂を奏すといふ。音樂の鬼神なり。
【三八】結使。煩惱のこと。
【三九】喜光藏。解脫の妙果をいふ。

法門に於て自在を得、金剛樹乾闥婆は、(四〇)諸樹を長養する(四一)喜光の法門に於て自在を得、普現莊嚴乾闥婆は、一切の佛の諸の境界行を悉く衆生をして愛樂せしむる法門に於て自在を得たり。

爾の時に持國乾闥婆王は、佛の神力を承けて、徧く乾闥婆の衆を觀じ、偈を以て(四二)頌して曰はく、

「如來の境界に無量の門あり、一切の衆生能く思ふこと莫し、世尊は清淨なること虛空の如く、衆生に開示して正道を見しめたまふ。

如來の無量なる功德海は、一一の毛孔に悉く見ることを得、能く一切をして(四三)意樂に隨はしむ、淸淨悅樂のものは是の如く見る。

衆生の無量なる憂苦の海を、佛は能く除滅して悉く餘すこと無し、佛は大慈と多くの方便とを以て、能く衆生の淸淨眼を開きたまふ。

諸佛の刹海は十方に滿ち、如來の光明は悉く徧照して、能く衆生の煩惱垢を除き、甚深なる淸淨の法を演說したまふ。

佛は無量の諸劫海に於て、方便をもつて廣く國土を淨むることを修し、(四四)一切智と、(四五)無上の音とを以て、無邊の衆生類を安慰したまふ。

樂つて如來の普く淸淨なるを見たてまつれば、衆生は悉く無盡の樂を得、隨順して能く解脫

【四〇】諸樹とは菩提樹なり、衆生の菩提心を表す。
【四一】喜光。正覺を成ずることをいふ。
【四二】頌に十偈あり各前の一法門を頌す。
【四三】意樂。意の所樂の義にして、各自の希望する所なり。
【四四】一切智。一切内外の諸法の理に通曉する智慧。佛の證智なり。
【四五】無上音。佛の音聲は圓滿無礙にして、一切聞かざるなきが故に無上音といふ。

の因を起し、解脱の冠を得て心歡喜す。
愚癡の障蓋甚だ堅固にして、衆生は生死の海に輪轉す、如來は廣大の法を示現し、演説清淨にして（四六）法幢を建てたまふ。
一切衆生に（四七）無量の門あり、如來は爲めに種種の形を現じ、多くの方便門をもつて衆生を照したまふ、愛音の如來は是の如く現ず。
如來の方便は邊際無く、（四八）善逝は具足して廣く、最勝の道に入る方便の行を開現して、金剛樹下に正覺を成じたまふ。
無量劫を以て一念と爲し、佛力能く現ずるも亦動せず、能く衆生に一切の樂を與ふ、是を樂見の方便門と名く。」

（四九）復た毘樓勒鳩槃茶王有り、能く一切の闘諍を滅する法門に於て自在を得。長臂照光鳩槃茶は、一切行の現前する法門に於て自在を得。善修幢鳩槃茶は、專ら（五〇）諸趣を正す法門に於て自在を得。饒益諸行鳩槃茶は、（五一）善惡平等清淨の法門に於て自在を得。除恐怖鳩槃茶は、一切衆生の（五二）無畏安隱莊嚴の法門に於て自在を得。淨（五三）娑羅林鳩槃茶は、無量なる

【四六】法幢。説法の道場を標幟せんが爲めに幢幡を門頭に建つ、故に法筵を開くことを法幢を建つといふ。
【四七】衆生の機根は種種に差別して無量なるをいふ。
【四八】善逝。佛十號の一。梵語に修伽陀(Sugata)といふ。佛は諸の斷惑を盡して善く世間を出で、正覺の妙果に住し給ひて、還退することなきが故に善逝と名く。
【四九】第十回。南方天王衆に十を擧ぐ。
【五〇】諸趣を正す。―は衆生を調伏して其の意趣を正しくするなり。
【五一】善惡平等。善惡の二法、等しく教化の法筩となりて、衆生を利益するが故に平等清淨といふ。

衆生の(五四)愛海の熾然なるを除滅する法門に於て自在を得。毘須彌鳩槃茶は、(五五)一切趣の照明雲の法門に於て自在を得。常勤鳩槃茶は、(五六)普照の法門に於て自在を得。無量淨眼鳩槃茶は、不退轉の大慈藏を起す法門に於て自在を得。無量門鳩槃茶は、(五七)一切の趣に起る所作の法門に於て自在を得たり。

爾の時に毘樓勒鳩槃茶王は、佛の神力を承けて、徧く鳩槃茶の衆を觀じ、偈を以て(五八)頌して曰はく

『如來は(五九)忍力を成じ滿足して、無量劫の行は衆生の爲めに、放逸慢諸の煩惱を離れしめたまふ、故に佛身は淨くして十方を照す。
昔菩薩の諸行海を行じて、十方無量の衆を調伏し、種種の方便をもつて(六〇)慈門を起こし、衆生をして一切智を得しむ。
如來は智慧をもつて群生を濟ひ、悉く分別して衆生の心を知り、無量自在に衆生を調へ、一切見たてまつる者は皆歡喜す。
佛の神力の境は思議し難し、(六一)當來世の一切劫に於て、實の法輪を轉

【五二】無畏。世間の怖畏の畏るべきを除滅して正見に入るを無畏といふ。

【五三】娑羅(シャーラ)。堅固又は高遠と譯す。印度に産する落葉喬木なり。釋尊は此樹の下にて入滅し給へり。今は生死輪廻の因たる愛欲を除く義を表示す。

【五四】愛海は輪廻受生の義、熾然とは愛欲の煩惱熾なるをいふ。

【五五】一切趣の照明云々。佛身は一切の趣に應現して世を照し、法雨を注ぐの意なり。

【五六】普照。佛の光明なり。光體周遍して其の用十方を照し、癡闇を滅するが故に普照といふ。

【五七】一切趣に起る所作云々。諸趣に應現して去來なきの義

するこど猶は虚空のごとく、無量の衆生は淨眼を得。

衆生は穢垢心目を翳ふ、如來は照除して正道を見しめ、救濟して永く無量の苦を離れ、恐怖無くして淨智を得しめたまふ。

衆生は愛苦の海に沒在す。如來の智は照し滅して餘すこと無し、離欲無垢にして佛身を見たてまつるに、猶ほ寶樹の如く、悉く清淨なり。佛身は普く應じて見れざること無く、種種の方便をもつて衆生を化し、音は雷の震ふが如くにして法雨を雨らしたまふ、是を山王慧の法門と名く。

佛の光は無垢にして最も清淨、衆生の癡冥の山を照除し、如來の無量なる德を顯現し、無礙の方便をもつて佛身を見はしたまふ。

無量劫に大悲門を修し、悉く衆生に自在の樂を與へ、種種の方便をもつて衆苦を滅し、離垢清淨なること華の敷くが如し。

最勝の身を現じて悉く圓滿したまふ、十方界に於て去來無し、自覺の大悲一切に現じたまふ、是れ無量の門に佛を能く見たてまつるなり。

なり。

【五八】 頌に十偈あり、各前の一法門を頌す。

【五九】 忍力。長時の難行に堪へ忍ぶ忍辱の力なり。

【六〇】 悲門。苦を拔き樂を與ふる道にて悲門といふ。

【六一】 去來世。現世と來世となり。

(六二)復た(六三)毗樓波叉龍王有り、一切龍趣の中の熾然たる恐怖を除滅し救濟する法門に於て自在を得。海龍王は、一念の中に能く一切の不可思議なる(六四)龍身を轉ずる法門に於て自在を得。雲樂妙幢龍は、一切の有趣に淸淨輪を轉じて聲を聞かしむる法門に於て自在を得。須彌普幢龍は、一切衆生に大功德海を示す法門に於て自在を得。(六五)德叉迦龍は、恐怖を離れ淸淨なる法門に於て自在を得。無量步龍は、一切の衆生に(六六)無量の雲を示現し無量劫を超度して壽住する法門に於て自在を得。炎眼善住龍は、(六七)一切の世界を安立して無量の佛法を分別し方便を示現する法門に於て自在を得。離垢勢色龍は、一切の衆生垢を離れて歡喜し足ることを知りて方便に入る法門に於て自在を得。普行廣聖龍は、一切の善惡の音聲具滿して平等に觀ずる法門に於て自在を得。(六八)阿那婆達多龍王は、大悲の雲をもつて一切の衆生を蔭覆し苦を離れしむる法門に於て自在を得たり。

爾の時に毗樓波叉龍王は、佛の神力を承けて、徧く龍衆を觀じ、偈を以て(六九)頌して曰はく。

【六二】 第十五、西方龍王衆に十を擧ぐ。

【六三】 毗樓波叉。又は毘留博叉(Virūpākṣa)普通に廣目と譯す、或は雜語、醜目等とも翻す。四天王の一にして須彌山の中腹の西方周羅城に住し、西洲の人を守護するが故に西方天とも云ふ。

【六四】 龍身を轉ずる云々。一念に自の龍形を轉じて、無量の衆生身を示現する神力なり。

【六五】 德叉迦(Takṣaka)現毒又は多舌と譯す。八大龍王の一なり。

【六六】 無量雲。十方の佛の色像を示現し、法雨を含んで衆生を潤益するが故に無量雲といふ。

【六七】 一切の世界云々。一毛孔

『一切の最勝法を觀見して、十方の群生の類を救濟し、惡趣の衆生常に輪轉するを、大悲の力を以て能く濟拔す。

諸の衆生の樂ふ所の色に隨ひて、佛は一毛孔に皆悉く現じたまひ、神足の境界量有ること無く、佛の功德海は清淨に現ず。

最勝の妙法は限量無し、譬へば大海の深くして底無きが如し、其の樂ふ所に隨ひて聞くことを得しめ、妙聲柔輭にして雷音を發す。

一切衆生の瞋恚の心は、蔭蓋、障覆、愚癡の海なり、如來の無上なる大慈悲は、神足の力を以て之を度脱したまふ。

如來身の一毛孔に於て、衆生の功德は皆悉く現じ、深くして無量なる功德の海に入り、須彌山幢の功德現はる。

衆生の種種なる恐怖の苦は、法王の智光をもつて悉く救濟したまひ、最勝の毛孔より妙音を演べ、無量の衆生は淨眼を開く。

十方三世の諸の如來は、佛身の中に於て色像を現じ、無量劫の中に佛土を淨めたまふ、是を無上なる大龍地と名く。』

に國土を示現し中に於て說法するの意なり。

【六八】阿那婆達多(Anavatapta) 無熱惱又は清涼と譯す、八大龍王の一にして其の德最も勝れ諸龍の三患を離れたりといふ。

【六九】頌に十偈あり各前の法門を頌す、但し其の順次は同じからず。

佛の一毛の中に悉く皆、無量の神變莊嚴の土を現じ、佛は眷屬の與めに圍繞せられて坐し、衆生の爲めに微妙の法を說きたまふ。
佛は菩薩と爲りて道を求めし時、諸の佛海を恭敬し供養したてまつり、
種種無量の方便門をもつて、一切の衆生海を度脫せり。
如來は正法を演說したまふ時、一切衆生に樂を充滿せしめ、佛音能く
歡悅の心を起し、普く衆生をして法喜を得しめたまふ。』

(七〇)復た(七一)毗沙門(七二)夜叉王有り、(七三)平等觀と方便とをもつて一切の惡を離れ衆生を饒益する法門に於て自在を得。音主夜叉は、一切の(七四)普勝の法門に於て自在を得。持地夜叉は、能く衆生の(七五)精氣を除奪し一切の(七六)生氣を長養する法門に於て自在を得。一切主夜叉は、一切の聖功德を觀ずる法門に於て自在を得。勝眼神足夜叉は、一切主生の智慧を觀ずる法門に於て自在を得。堅固金剛眼夜叉は、一切の衆生に安樂を與ふる法門に於て自在を得。護命夜叉は、持力救濟の法門に於て自在を得。能破須彌山夜叉は、隨順せる佛力を起す法門に於て自在を得たり。

【七〇】第十六、北方夜叉衆に八を擧ぐ。
【七一】毗沙門天は北方多聞天にして夜叉、羅刹の二部を領す。
【七二】夜叉。又は藥叉（Yakṣa）。勇健、暴惡、噉食等と譯す、八部衆の一にして鬼神なり、これに天、地、虛空の三類ありといふ。
【七三】平等觀。如理智を以て一切諸法を平等に觀ずること。
【七四】普勝。普く機に應じて勝身を現じ、衆生を濟度して勝益を成ずること。
【七五】精氣。惡氣にして煩惱業苦をいふ。
【七六】生氣。善氣にして菩提分の善根を生ずるものをいふ。羅刹鬼は人の精氣を奪ふといふ、故に今法門に寄せてかくいひしなり。

爾の時に毘沙門夜叉王は、佛の神力を承けて、徧く夜叉の衆を觀じ、偈を以て(七七)頌して曰はく、

「衆生は罪垢甚だ深重にして、百千劫に於ても佛を見たてまつらず。生死に輪轉して衆苦を受く、是等を度せんが爲めに佛は世に興りたまふ。

佛は一切を救濟せんが爲めの故に、悉く十方の衆生の前に現じ、諸趣の衆の(七八)苦輪を拔濟したまふ、因緣は普主の最方便なり。

衆生の重罪惡業の障を、佛は方便を以て悉く除滅し、衆生を正法の中に安立したまふ。是を離癡の方便見と名く。

佛は昔無量劫に行せし時、十方一切の佛を讚歎したてまつりき、故に高遠なる大名稱有りて、皆悉く普く十方の國に聞ゆ。

佛慧は無邊にして虛空に等しく、如來の法身は不思議なり、故に能く顯現して十方を照す、明淨眼王の妙法門なり。

一切の衆生は邪徑に入る、佛は正道を示したまふこと思議し難し、諸の衆主の化を受くるに堪ふるを見たまひ、種種の方便をもつて調伏したまふ。

一切衆生の諸の功德は、如來の一毛の福にも及ばず、佛の智慧海は議る可からず、是を寶王と

【七七】頌に八偈あり次第に前の法門を頌す。

【七八】苦輪。苦海に輪廻すること

名け是の如く見る。
無量劫數は思議し難し、佛は是の中に於て十力を修したまふ、是の故に世尊の力具足して。一切の世間能く壞る無し。』

(七九)復た金剛眼照力士有り、如來の無量の色像を示現する法門に於て自在を得。離垢日踊力士は、諸佛の無量色の法門に於て自在を得。須彌華光力士は、離垢自在にして種種に現ずる法門に於て自在を得。淨雲音力士は、如來の無邊なる淨音の量る可からざる法門に於て自在を得。阿修羅主力士は、一切に示現する種種の法門に於て自在を得。金剛光樂力士は、一切の佛法に入りて餘すこと無き法門に於て自在を得。雷音力士は、能く一切の諸天を擧ぐる法門に於て自在を得。師子端嚴王力士は、如來の功德廣く照す法門に於て自在を得。勝光明力士は、衆生の惡心を除滅して佛の境に安立せしむる法門に於て自在を得。珠髻華光力士は、菩薩一切の世間に示現して寶を雨らす法門に於て自在を得たり。

爾の時に金剛眼照力士は、佛の神力を承けて、偏く力士衆を觀じ、偈を以て(八〇)頌して曰はく、
『普く三界の一切衆の爲めに、諸法の中に於て法王と爲り、無量なる衆の妙色を具足し、悉く十

【七九】第十七、力士衆に十を擧ぐ。
【八〇】頌に十偈あり、各前の一法門を頌す。

方を照して明かにせざること無し。
佛身は一切諸の毛孔より、普く光明を放ちて議る可からず、一切の日の光明を映蔽し、徧く十方を照して周からざる靡し。
如來大聖の自在力は、一切諸の法界に充滿し、法身示現して涯際無く、悉く一切衆生の前に現じたまふ。
佛音は淸淨にして甚だ深妙、普く十方の諸の世界に震ひ、柔軟にして微妙なる和雅の音は、衆生の垢を滅して願を滿足せしめたまふ。

【八二】大導師。衆を導きて佛の正法に入らしむる師の意。

十方三界の諸の宮殿に、最勝は悉く彼に於て坐することを現じ、一一の佛の所の無量の衆に、導師は中に處して爲めに法を說きたまふ。
法海は無量にして邊有ること無く、衆の方便門は悉く中に入る、一切諸の法界を分別するに、最勝示現して窮盡すること無し。
衆生の大海は邊際無きも、最勝の淨眼は能く度脫したまふ、如來の光明は衆生を照し、一切普く(八二)大導師を見たてまつる。
悉く皆恭敬して、無量の塵海國土の佛を供養することを興し、功德の無量なること虛空の如く

にして、一切悉く大導師を見たてまつる。一切の佛土に皆悉く現じ、如來は淨き道場に安坐したまひ、一切如來の神力は壞す可からず、一切の衆生は現前に見たてまつる。光明普く照すこと雲の興るが如く、衆の妙莊嚴の光は圓滿し、普く一切諸の法界を照して、諸佛の深妙の法を示現す。』

(八二)是の時に普賢菩薩は、不可思議なる方便の法門海を成就して、能く如來の無量なる功德海に入る。所謂、出生し究竟して、諸佛の土を淨め衆生を調伏する法門。諸佛の所に詣り能く一切具足せる功德を起す法門。菩薩の諸地の願行の法門。普門をもつて法界の塵數の身雲を示現する法門。諸佛の土を持する不可思議なる方便輪の法門、一切衆の中に自在に無量無邊の菩薩の境界を顯現する法門。一念の中に於て三世劫の生滅を知る法門。一切の菩薩の諸根の境界海を分別し顯現する法門。其の身自在にして無量無邊の法界に充滿する法門。一切の菩薩種種の方便をもつて廣く法を分別し一切智に入る方便の法門なり。

爾の時に普賢菩薩、徧く一切の大衆を觀じ、偈を以て(八三)頌して曰はく、

『最勝の嚴淨したまへる、無數の佛土は、無量の淨色、甚深の功德あり、

【八二】第十九、普賢衆。一人を擧げて十法を列す。

【八三】頌に二十偈あり四言四句を以て一偈をなす。二偈を以て一法門を頌し次第して前の十法門を再說す。

眞淨にして垢を離れ、佛子充滿して、常に妙法の、不思議の音を聞く。
佛は此の、師子座の上に處したまふを見たてまつる、一切塵の中にも、亦復た是の如し。
而も如來の身は、亦彼に住せずして、普く佛土の、功德の境界に現じたまふ。
悉く無量なる、諸地の方便に入り、佛は一切の、諸の菩薩行を示したまひ、
諸の方便を說くこと思議す可からずして、諸の佛子をして、淨法界に入らしめたまふ。
離垢の淨眼は、深き法性に住し、十方無量にして、邊際有ること無く、
微塵數に等しき、諸の〔八四〕化佛の身は、無量なる、衆生等の類を教導したまふ。
一切十方の、如來の刹土は、世尊皆悉く、平等に護らせらる、
佛は方便に於て、悉く已に清淨なれば、衆生を調伏して、垢穢を除かしむ。
一切塵數の、諸佛の國土に、如來は、無量の自在を示現したまひ、
〔八五〕梵音和雅にして、諸の道場に徧く、最勝なる、菩薩の本行を演暢したまふ。
一切三世の、所有る劫數は、念念の中に於て、悉く見て餘すこと無し。
彼の生滅の、如實の法相を觀ずるに、思議す可からず、世を護るもの能く見る。

【八四】化佛。衆生を濟度せんが爲めに種種の形を變化して示現し給へる佛身をいふ。
【八五】梵音。梵は清淨の義。佛の音聲をいふ。

無量なる大衆の、數は盡す可からず。如來の眞子は、佛地を觀んと欲す、
一切の法門は、無量無邊にして、諸の佛子の、所有の境界に非ず。
離垢の如來は、猶ほ虚空の如く、清淨にして著すること無く、眞の法性に等し。
現化無量にして、窮盡す可からず、悉く道樹に坐して、等正覺を成じたまふ。
佛は一音を以て、一切地を說き、一切の法相は、皆悉く窮盡す、
無量の方便は、一一の門の中に、諸法を演暢して、亦悉く餘すこと無し。」

（八六）爾の時に佛の師子座の、一切の妙華、摩尼、寶輪、高臺、樓觀、莊嚴具の中に於て、一一各一佛世界微塵數に等しき大菩薩衆を出せり。其の名を海慧超越菩薩、無量師子吼菩薩、衆寶光幢菩薩、智日超慧菩薩、不思議功德智稱菩薩、方便寂靜妙華髻菩薩、金光炎菩薩、法界普音菩薩、淨雲月幢菩薩、善超淨光菩薩と曰へり。是の如き等の一一の佛世界微塵數に等しき大菩薩衆は、諸の供養を設け、衆の妙華を散じて、虚空に充滿し、諸の雜香を燒き、氣過ぎて雲に騰れり。普く一切衆寶の圓かなる光を現じ、又無量なる淨日の光明を放ち、諸の妓樂、諸の微妙の音を作し。雜種の寶樹、枝葉、華實、一切の光明は猶ほ雲の若く起り、無量の寶を雨らせり。是の如き一一の菩薩の供養する所の具は、各一佛世界の微塵數に等しく、一一の供

【八六】以上は外衆を說き終りて以下海慧等の內衆の菩薩を舉ぐ。

具は復た一佛世界の微塵數に等し。皆大いに歡喜して世尊を供養し、繞ること百千帀し已りて、其の所應に隨ひて大衆を供養すること、猶ほ雲雨の如く斷絶すること無し。出でし所の方に隨ひて、寶蓮華藏の師子の座を化作し、恭敬して佛に向ひ、(八七)結跏趺坐せり。

彼の菩薩等は悉く、無量淸淨の法海、普明の法門を得て、佛の境界に於て障礙する所無く、悉く一切の辯才法海に入れり。又不可思議なる照明の法門を得て、正しく如來の普門の境界に住し、三世の智地に皆已に入ることを得。大力の(八八)法愛を具足し成就し、無量の功德は淸淨圓滿にして、常に法界の畢竟空性を行ず。悉く已に具足して諸佛を供養したてまつれり。

爾の時に一切海慧自在智明王菩薩、偈を以て(八九)頌して曰はく、

『佛は諸法の、平等眞實を覺りて、障礙有ること無く、淨きこと虛空の如し。

普く悉く、十方の世界を照明して、一切の衆に處して、最勝殊特なり。

自然に正覺して、無量無邊に、十方の衆生の、境界に充滿し、

一切悉く、菩提樹王に坐したまひ、諸の衆生主は、皆悉く圍繞せり。

【八七】結跏趺坐。坐禪をなすこと。左の足を右の腿の上にもおき、右の足を左の腿の上にもおき正身端坐するなり。

【八八】法愛。深妙の智力を以て眞理に證契するをいふ。

【八九】頌に十九偈あり、諸來の供養なり。

佛に是の如きの、自在神力有りて、一念の頃に於て、無量の身を現じたまひ、
普く衆生をして、垢穢を滅除せしめ、如來の境界は、邊際有ること無し。
無量劫海に、修行を具足して、如來は、一切の有海に處在し、
種種の方便をもつて、衆生を調伏し、皆悉く、最勝の正法を受行せしむ。
衆會は垢を離れて、普く清淨なることを得、一切の佛を觀たてまつり、深く樂ひて厭くこと無し。
最勝の妙相は、莊嚴具足して、蓮華藏の、寶師子の座に處し、
一切の衆寶、諸の莊嚴具に、皆無量にして、微妙なる香薰を出し、
雜色の華鬘、虛空に懸布す、佛は是の如き、寶師子の座に處したまひ、
無量の衆寶は、妙光を流出し、暉炎清淨にして、十方に明耀せり。
如來は、莊嚴の樓觀に安住し、清淨にして、微密なる梵音を演出して、
最勝なる、無上の正法を宣暢したまひ、聞く者歡喜して、淨妙の道を得。
金剛は座を承け、安峙堅固にして、如意の藏寶を、以て莊嚴と爲し、
寶髻菩薩は、常に之を守護し、世尊は此に於て、普く現して照明したまへり。

【九〇】以下は發起の序
【九一】蓮華藏世界。本經の教主盧舍那佛の嚴淨し給ひし佛國土にして、一切のもの悉く大蓮華に包藏せらるるが故に此の名あり。
【九二】六種震動。動、起、覺、震、吼、涌なり（新經には覺

天尊は、寶師子の座に處在して、徧く三世の、一切の導師を照し、無量の化佛は、十方に徧滿して、如來の、無盡の法藏を闡揚したてまつる。』

(九〇)爾の時に佛の神力の故に、(九一)蓮華藏莊嚴世界海は、(九二)六種十八相に震動せり。所謂る、動、徧動、等徧動、起、徧起、等徧起、覺、徧覺、等徧覺、震、徧震、等徧震、吼、徧吼、等徧吼、涌、徧涌、等徧涌なり。又一切の世界の諸王をして各不可思議なる諸の供養具を雨らし、如來の大衆海會を供養せしめたり。所謂る、一切の香華雲、衆の妙寶雲、雜寶の蓮華雲、無量の色寶曼陀羅雲、解脫寶雲、碎末栴檀香雲、清淨柔軟聲雲、寶網日雲を雨らし。各其の力に隨ひて衆の供養を雨らせり。是の如き等の一一の世界の諸王は、不可思議なる諸の供養雲を設けて、普く一切如來の大衆に供へたり。此の世界に衆の供養を設けたるが如く、一切十方の諸佛の國土にも亦復た是の如し。

此の世界の中にて、佛、道場に坐したまひ、世界の諸王は、各所樂の境界

を聲といふ)此の中、動、起、涌の三は形に就き、餘の三は聲について云ふ。動は動搖なり、起は低きより高きに昇る狀なり、涌は涌出にして地面の凸凹するをいふ。覺とは大聲に驚覺する事なり。震とは雷聲の隱隱たるが如く地鳴するをいひ、吼とは哮吼にして大いに震鳴するをいふ。此六種に各三あり動について云はば一方のみ動くを動といひ四方動くを徧動といひ、六方十六方の動くを等徧動といふ。餘は準じて知るべし。

【九三】此の震動は佛の說法前の瑞相にして、是に由りて惡魔を恐怖せしめ、大衆の心を安定し、多くの衆生に說法の處を知らしむる等の種々の利益あり。

に隨ひて、三昧、諸の方便門、歡喜厭離、諸方に通達する勇猛の法、如來の境界、神力の所入、諸の無量法海の門に、皆已に度ることを得たり。此の世界の如く、十方一切の世界も亦復た是の如し。

卷の第三

盧舍那佛品第二の一

(一)爾の時に諸の菩薩衆、及び一切世界の諸王、咸是の念を作さく、『(二)何等か是れ一切諸佛の地、佛の境界、佛の持、佛の行、佛の力、佛の無畏、佛の三昧、佛の自在、佛の勝法なる。(三)示現菩提、佛の眼耳鼻舌身意の諸根、佛の光明、音聲、佛の智海なる。(四)世界海、衆生海、法界の方便海、佛海、波羅蜜海、法門海、化身海、佛の名號海、佛の壽量海なる。(五)一切の菩薩の修せし所の行海、大乘の心を發し、諸の波羅蜜を出生し、願、智慧幢なるや。唯願くは如來、慈悲方便をもつて我が心を發起し、開解を得しめたまへ。』

時に諸の菩薩は佛の神力の故に、一切(六)供養具の中より、自然の音を出し、偈を說きて言はく、

【一】已下正宗分に入る。初に大衆疑問を擧げ說法を請ふ。

【二】初に佛果の法を問ふ、中に於て先づ佛の內德圓滿せるを問ふ。

【三】次に佛の外相顯著なるを問ふ。示現菩提とは機に對して正覺を成ずることを示現する義。

【四】次に佛の化用普周の德を問ふ。

【五】後に佛の因行を問ふ。

【六】供養具偈を說くとは正宗[illegible]なることを表はす、是れ[illegible]の讚歎なり。

「(三)如來は無量曠劫の行にて、自然に正覺して世間に出でたまひ、當來世の無量劫に於て、身一切に應じて大雲の如くならん。

衆生の疑を斷ちて永く餘すこと無く、勝力を出生して解脫を得しめ、世間の無量の苦を滅除して、一切をして正覺の樂を得しめたまふ。

無量刹塵の諸の菩薩は、一心に合掌して最勝を觀たてまつる、彼の願ふ所の諸の境界に隨ひて、疑惑を斷除して法門を開きたまへ(七)

何等か一切諸佛の地なる、大聖の境界、佛の諸持なる、佛の無上なる智、力、無畏なるや、願くは佛子の爲めに平等に現じたまへ。

無量なる如實の諸三昧と、諸の淸淨行と深妙の法と、大聖の神力とは邊有ること無し、大雷雲を興して衆生に雨らしめたまへ。

悉く法王の如實の趣に入り、最勝の境に於て退轉せざると、及び無量の佛の諸の功德とを、願くば慈悲を起して悉く見しめたまへ。

如來の眼根は限量無く、耳鼻舌身も亦是の如し、佛意は如實にして思議し難し、願くは衆生をして悉く知見せしめたまへ。

【七】頌に九偈あり中に於て初の三偈は德を歎じて請し、後の六偈は法を擧げて請す

佛の國土海と、衆生海と、諸の法界海と、調伏海と、佛海とは無量にして邊際無し、願くば佛子をして平等に見しめたまへ。

波羅蜜海の不思議なると、無上なる方便の法門海と、無量無邊の法門海とを、願くば道場に在して具足して說きたまへ。」

〔八〕爾の時に世尊、諸の菩薩の心の念ふ所を知しめして、卽ち〔九〕面門、及び一一の齒間に於て、各佛世界塵數の光明を放ちたまふ。所謂る、寶幢照の光明、法界の妙音莊嚴の光明、生樂垂雲の光明、佛の十種力道場を嚴淨する光明、一切の寶炎雲の光明、淸淨無礙にして法界に充滿する光明、能く一切の世界を成する光明、淨寶の金剛日幢の光明、菩薩の大衆に往詣する光明、諸佛の語輪を演出する光明なり。是の如き等の一一の光明に、各佛世界塵數の光明有り以て眷屬と爲り、一一の光明は、十佛土の微塵に等しき刹を照す。彼の諸の菩薩は、此の光を見已りて、蓮華藏莊嚴世界海を見ることを得、佛の神力の故に、光明の中に於て偈を說きて言はく、

〔一〇〕「無量劫海に功德を修し、十方の一切の佛を供養したてまつり、無量の衆生海を敎化して、盧

【八】以下、如來の答說の中に、正しく法を說くに先ちて放光入定等を叙す。初に光明を放つて大衆を集む。

【九】面門とは口なり。

【一〇】頌に九偈半あり。初の六偈半は通じて佛德を擧げて往詣を勸む。次の二偈は別して能說の佛と所說の法の勝れたることを明かして、往詣を勸め、最後の一偈は佛事の深廣なる事を明かす。

舍那佛正覺を成じたまへり。

大光明を放ちて十方を照し、諸の毛孔より化身雲を出し、衆生の器に隨ひて開化し、方便淸淨の道を得しめたまふ。

佛は往古生死の中に於て、一切諸の群生を調伏し、一念の中に於て悉く解脫せしめ、〔一〕世雄無量に自在を得たり。

〔二〕深心と淨信とを普く莊嚴し、往修して波羅蜜を滿足し、諸の刹海の塵數と等しく、堅固に一切力に安住せり。

微妙の音を出して十方に徧く、〔三〕實智を具足して衆の心を滿たし、無量の方便をもつて衆生を化したまふ、是れ〔四〕師子吼の寂靜の法なり。

人尊は是の如く德無量なれば、應に詣でて供養し法を聽受すべし。

佛刹に等しき微塵數の如き、最勝なる諸子は如來に詣でよ、各一切の供養の具を雨らし、一心に恭敬して導師を觀たてまつれ。

如來の說きたまふ所は一語の中に、無邊の〔五〕契經海を演出し、一切の衆に於て〔六〕甘露を雨らす、恭敬して兩足尊に往詣せよ。

【一】世雄。世の雄者の義にして佛の尊稱なり。佛は世雄の威力ありて能く衆魔外道を調伏するが故に名く。

【二】深心。深高なる佛の果報を求むるの心なり。

【三】實智。眞實の理を證りたる智慧なり

【四】師子吼。佛の說法し給ふをいふ

【五】契經海。契經とは佛の經典をいふ。海は深廣にして無量なるを表す

【六】甘露。梵語の阿密哩多(Amṛta)の譯にして或は天酒、不死とも譯す。美味の飲料にして一度味はば死する事なしといふ。これよりして佛の教法を甘露に喩へ、甘露法といふ。

三世の諸佛の無上の願を、大聖は道場にて分別して說きたまふ。亦一念の中に集在するに非ず、宜しく速時に詣でて最勝を觀たてまつるべし。◎

盧舍那佛の大智海は、光明普く照して量有ること無く、如實に（二七）眞諦の法を觀察して、普く一切諸の法門を照す。』

（二八）爾の時に蓮華藏莊嚴世界海の東に、次で世界海有り淨蓮華勝光莊嚴と名け、中に佛刹有り、衆寶金剛藏と名け、佛を法水覺虛空法王と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、觀勝法妙淨王と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向し、十方一切の虛空に充滿して、十種の寶色光明華雲を興し、悉く皆虛空に彌覆して充滿せり。十種の妙寶須彌山雲、十種の日輪雲、十種の寶華雲、十種の妙寶樓閣雲、十種の華樹雲、十種の妙香現衆色雲、十種の一切妙音聲雲、是の如きの一切、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。佛の所に來詣して供養し、恭敬し、禮拜し已りて、東方の雜華光藏師子座の上に在りて結跏趺坐せり。

此の世界海の南に、次で世界海有り、衆寶月光莊嚴藏と名け、中に佛刹有り、無量光嚴と名け、

【二七】眞諦。眞實の諦理の義にして眞實の理性をいふ。

【二八】已下、東西南北四維上下の十方より大衆の集り來ることを敘す。

佛を普智光勝須彌山王と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、淸淨海慧と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向して、十種の一切妙莊嚴藏衆寶王雲を興し、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり、十種の普莊嚴寶王雲、十種の妙寶藏熾然照明歎佛功德寶王雲、十種の妙音充滿讃歎寶王雲、十種の菩提樹莊嚴道場寶王雲、十種の普門光明佛變化寶王雲、十種の不壞衆光明示現寶王雲、十種の香燈照一切刹充滿寶王雲、十種の不可思議佛刹如來宮殿普現寶王雲、十種の雜法三世諸佛法身光明寶王雲は、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。佛の所に來詣して恭敬し、供養し、禮拜し已りて、南方の靑色蓮華の師子座の上に在りて結跏趺坐せり。

此の世界海の西に、次で世界海有り、寶光樂と名け、中に佛刹有り、一切勝現と名け、佛を香光王功德法莊嚴と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り。香炎平等莊嚴月光と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向して、十種の一切雜寶香華樓閣雲を興し、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。十種の一切色寶王莊嚴樓閣雲、十種の一切寶幢香炎樓閣雲、十種の一切解脫莊嚴樓閣雲、十種の一切寶華鬘雲、十種の一切寶鬘莊嚴法樓閣雲、十種の十方普光明藏照一切莊嚴樓閣雲、十種の一切寶莊嚴無量莊嚴悉現樓閣雲、十種の普

滿莊嚴樓閣雲、十種の無量華樂雲は、悉く皆彌覆して虚空に充滿せり。佛の所に來詣して供養し、恭敬し、禮拜し已りて、西方の金色雜寶莊嚴蓮華藏化師子座の上に在りて結跏趺坐せり。

此世界海の北に、次で世界海有り、瑠璃寶光充滿藏と名け、中に佛刹有り、化青蓮華莊嚴と名け、佛を無量智慧音王と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、師子光莊嚴と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海の塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向して、十種の一切香雲を興し、悉く皆彌覆して虚空に充滿せり。十種の一切青色華雲、十種の一切妙寶樹雲、十種の一切諸雜華雲、十種の一切寶莊嚴雲、十種の一切寶雷音雲、十種の一切妙音聲雲、是の如きの一切は悉く皆彌覆して虚空に充滿せり。佛の所に來詣し、供養し、恭敬し、禮拜し已りて、北方の大燈變化師子座の上に在りて、結跏趺坐せり。

此世界海の東南方に、次で世界海有り、閻浮檀玻瓈色幢と名け、中に佛刹有り、寶莊嚴藏と名け、佛を一切法燈無所怖畏と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、無盡勝燈功德法藏と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海の塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向して、十種の無量色蓮華藏師子座雲を興し、悉く皆彌覆して虚空に充滿せり。十種の師子座雲、十種の一切莊嚴具莊嚴師子座雲、十種の燈明師子座雲、十種の能出十方一切衆寶師子座雲、十種の一切

香鬘師子座雲、十種の一切諸佛莊嚴示現師子座雲、十種の一切寶臺欄楯莊嚴師子座雲、十種の一切寶樹莊嚴師子座雲、十種の日莊嚴師子座雲は皆悉く彌覆して虛空に充滿せり。佛の所に來詣して供養し、恭敬し、禮拜し已りて、東南方の夜光幢寶藏師子座の上に在りて、結跏趺坐せり。

此の世界海の西南方に、次で世界海有り、普照莊嚴と名け、中に佛刹有り香勝離垢光明と名け、佛を一切衆生普歡喜王と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、普智光明慧燈と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海の塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向して、十種の如意寶王雲を興し、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。十種の靑色寶雲、十種の一切香雲、十種の一切旛雲、十種の一切妙色莊嚴雲は、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。佛の所に來詣して供養し、恭敬し、禮拜し已りて、西南方の衆寶師子座の上に在りて、結跏趺坐せり。

此の世界海の西北方に、次で世界海有り、善光照と名け、中に佛刹有り意入と名け、佛を普門智慧意入明淨音と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、無量華照垂髻と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海の塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向して、十種の一切雜寶輪蓋雲を興し、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。十種の華蓋雲、十種の解脫蓋雲、十種の寶王蓋雲、十種の雜寶蓋雲、十種の普寶蓋雲、十種の瑠璃寶王蓋雲、十種の一切香蓋雲は悉く皆彌覆

して虛空に充滿せり。佛の所に來詣して供養し、恭敬し、禮拜し已りて、西北方の衆善光明幢師子座の上に在りて、結跏趺坐せり。

此の世界海の東北方に、次で世界海有り、寶照光明藏と名け、中に佛刹有り香莊嚴樂勝藏と名け、佛を無量功德海と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、無盡淸淨光明王と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海の塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向し、十種の一切寶光輪雲を興し、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。十種の光輪雲、十種の華雲、十種の如來變化輪雲、十種の一切佛境界輪雲、十種の一切功德寶雲、十種の一切衆生樂不可盡示現雲、十種の一切諸佛所願示現雲は、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。佛の所に來詣して供養し、恭敬し、禮拜し已りて、東北方の淸淨光明不可盡師子座の上に在りて、結跏趺坐せり。

此の世界海の下方に、次で世界海有り、蓮華妙香勝藏と名け、中に佛刹有り、寶師子光と名け、佛を明照法界と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、光照分別法界と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海の塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向して、十種の一切寶光明雲を興し、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。十種の一切香光明雲、十種の諸佛師子吼雲、十種の一切佛刹功德莊嚴雲、十種の一切華樓閣雲、十種の一切座莊嚴雲は、悉く皆彌覆して虛

空に充滿せり、佛の所に來詣して、下方の寶藏師子座の上に在りて、結跏趺坐せり。

此の世界海の上方に、次で世界海有り、雜寶光海莊嚴と名け、中に佛刹有り、樂行清淨と名け佛を無礙功德稱離闇光王と號く。彼の如來の大衆海の中に於て、菩薩有り、無障礙力精進慧と名け、佛の光明の爲めに開發せられ已りて、世界海の塵數の菩薩の眷屬の與めに圍繞せられ、佛の所に來向し、十種の一切無量妙色寶照雲を興し、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。十種の無量光普照雲、十種の一切莊嚴照明雲、十種の香炎雲、十種の一切莊嚴雲、十種の佛光炎雲、十種の寶樹華炎雲、十種の一切寶樹堅固光明雲、十種の一切勝光明雲、十種の一切菩薩所行示現雲、十種の一切解脫光明雲は、悉く皆彌覆して虛空に充滿せり。佛の所に來詣して供養し、恭敬し、禮拜し已りて、上方の妙音勝蓮華藏師子座の上に在りて、結跏趺坐せり。

是の如き等の十億の佛刹塵數の世界海の中に、十億の佛刹微塵數に等しき大菩薩有りて來れり。一一の菩薩は、各一佛世界塵數の菩薩を將ゐて、以て眷屬と爲せり。一一の菩薩は、各一佛世界微塵數に等しき妙莊嚴雲を興して、悉く皆彌覆して虛空に充滿し、來りし所の方に隨ひて、結跏趺坐せり。

彼の諸の菩薩次第に坐し已りて、一切の毛孔より、各十佛世界微塵數に等しき、一切の妙寶淨光明雲を出し、一一の光の中より各十佛世界微塵數の菩薩を出し。一一の菩薩は、一切法界の方便海に

一切微塵數の道を充滿し。一一の塵の中に、十佛世界塵數の佛刹有り。一一の佛刹の中に、三世の諸佛皆悉く顯現せり。念念の中に、一一の世界に於て、各一佛刹塵數の衆生を化し、夢のごとく自在に示現する法門を以て敎化し、一切の諸天化生の法門をもつて敎化し、一切の菩薩の行處音聲の法門をもつて敎化し、一切の佛刹を振動して諸佛を建立する法門をもつて敎化し、一切の願海の法門をもつて敎化し、一切の衆生の言辭、佛音聲に入る法門をもつて敎化し、一切佛法の雲雨の法門をもつて敎化し、法界自在の光明の法門をもつて敎化し、一切大衆海を普賢菩薩に建立する法門をもつて敎化す。是の如き等の一切の法門を以て、其の樂ふ所に隨ひて之を敎化し、一念の頃に於て能く一切の世界の中の、各須彌山塵數の如き衆生の諸の惡道の苦を滅し。各須彌山塵數の如き衆生をして、〔二九〕邪定を離れ〔三〇〕正定聚に立たしめ。各須彌山塵數の如き衆生をして、聲聞緣覺の地に立たしめ。各須彌山塵數の如き衆生をして、無上道に立たしめ。各須彌山塵數の如き衆生をして、一切盡す可からざる功德智慧の地に立たしめ。各須彌山塵數の如き衆生をして盧舍那佛の願性海の中に立たしめたり。

爾の時に諸の菩薩、光明の中にて、偈を以て頌して曰く、

〔二九〕邪定とは邪定聚にして佛道を修行せずして必ず惡道に墮すべき者をいふ。

〔三〇〕正定聚とは佛道を修行して行位を退かず必ず佛果に到るべき者をいふ。

〔三〕「一切の光明は妙音を出して、諸の菩薩の具足せる行を說き、佛子の功德悉く成滿して、普く一切の十方界に徧ず。

無量劫海に道を修行するは、衆生をして苦を離れしめんと欲するが故なり、自ら己の生死の苦を計らずして、佛子は善く大方便に入る。

無量無邊にして餘り有ること無く、一切の大海劫を窮盡して、徧く一切諸の法門を行じ、善く微妙なる寂靜の法を說く。

一切の三世佛の願ふ所を、皆清淨に具足して滿ずることを得、佛子は諸の衆生を饒益せんとて、能く自ら具さに清淨の道を行ず。

皆能く諸佛の所に往詣し、清淨の法身は十方を照し、佛子の智海は邊底無く、普く諸法の寂滅の相を觀ず。

一光明の中に無量有り、無上の大慈は思議し難く、清淨の慧眼は諸法を照す、此れは是れ佛子の妙境界なり。

一毛悉く諸の佛刹を受け、又能く諸の國土を震動し、能く衆生をして怖の想無からしむ、是を清淨の方便地と名く。

〔三〕頌に十偈あり。初の五偈は總じて菩薩の德を嘆じ、後の五偈は前の法門を頌す。

一一の塵中の無量の身は、復た無量の莊嚴刹を現じ、一念の中に於て皆悉く見る、是れ障礙無き淨法門なり。

三世の所有る一切劫は、一念の中に於て能く悉く現じ、猶ほ幻化の所有無きが如し、是を諸佛の無礙法と名く。

普賢の諸行は皆具足して、能く衆生をして悉く清淨ならしむ、諸の佛子は自在の法を具へ、一一の毛孔は師子吼す。』

〔二二〕爾の時に世尊、一切の菩薩大衆をして、佛の無量無邊の境界自在の法門を知らしめんと欲するが故に、眉間の〔二三〕白毫相の、一切寶色燈明雲光を放ち、一切菩薩慧光觀察照十方藏と名く。此の光は徧く一切の佛刹を照し、一念の中に於て、皆悉く普く一切の法界を照し、一切の世界に於て、一切の佛の諸の大願雲を雨らし、普賢菩薩を顯現して、大衆に示し已りて還りて〔二四〕足下の相輪中より入れり。

〔二五〕彼に於て復た大蓮華有りて生じ、衆寶を以て莖と爲し、一切の寶王を蓮華藏と爲し、其の葉は徧く一切の法界を覆ひ、一切の寶香は其の鬚を莊嚴し、〔二六〕閻浮檀金を以て其

【二二】次に、光を放ちて以て法主普賢及び法を示すことを明かす。

【二三】白毫相。三十二相の一にして、佛の兩眉の間に白毫あり右に旋轉して常に光明を放つ、之を白毫相といふ。

【二四】足下相輪。足の裏の網紋なり、三十二相の一にして千輻輪相といふ。

【二五】此の一段は事物に托して法を示す。一乘教に於ては事即法なればなり。

【二六】閻浮檀金 (Jambunada-Suvarṇa) 閻浮樹の下を流るる河に生じたる沙金をいふ。

の臺と爲せり。此の華生じ已りて、如來の眉間より一りの大菩薩有りて出づ。名けて一切諸法勝音と曰ひ、世界海塵數の菩薩衆と俱に、右に世尊を繞ること無量帀し已りて、退きて蓮華臺の上に坐し、眷屬の菩薩は蓮華の鬚に坐せり。一切諸法勝音菩薩は、無量の法界を成就して、歡喜して諸佛の境界に隨順し、深智をもつて不可思議なる佛海の光明に度り、悉く能く一切の佛の所に往詣せり。

爾の時に一切諸法勝音菩薩、偈を以て頌して曰はく、

『佛身は諸の法界に充滿し、普く一切衆生の前に現じ、受化の器に應じて悉く充滿するも、佛は故らに此の菩提樹に處したまふ。

一切の佛刹は微塵に等しく、爾所の佛は一毛孔に坐し、皆無量の菩薩衆有りて、各爲めに具さに普賢の行を說きたまふ。

無量の剎海を一毛に處し、悉く菩提の蓮華座に坐し、一切諸の法界に徧滿して、一切の毛孔より自在に現ず。』

爾の時に師子炎光奮迅音菩薩、偈を以て頌して曰はく、

『(二七)盧舍那如來は、淸淨の(二八)法輪を轉じたまひ、一切法の方便をもつて、如來雲普く覆ふ。

【二七】初の三頌は佛の法輪の淸淨廣大なることを明かす。

【二八】法輪。法は敎法なり。輪は喩にして四義あり、一に圓滿、二に具德、(輻轂等を具する故)三に有用(摧破の用あり)四に動轉なり。佛の敎法は圓滿にして諸德を具し衆生の惑障を摧破し、佛果に至らしむる故に法輪といふ。

十方國土の中、一切の世界海に、佛の願力自在にして、普く現じて法輪を轉じたまふ。

一切佛土の中の、無量の大衆海は、言號各同じからずして、而も淨法輪を轉じたまふ。

(二九)盧舍那佛の神力の故に、一切刹の中に法輪を轉じたまひ、普賢菩薩の願の音聲は、一切の世界海に徧滿す。

法身は一切の刹に充滿し、普く一切諸法の雨を雨らし、法相は生せず亦滅せず、悉く一切諸の世間を照す。

(三〇)無量無數の億劫の中の、一切の佛刹の微塵道に、盧舍那佛の妙なる音聲は、具足して本行せし所を演說したまふ。

一切の佛刹微塵數の、大光明網は十方を照し、一一の光中に諸佛有して、無上の道を以て衆生を化したまふ。

法身堅固にして壞す可からず、一切諸の法界に充滿し、普く能く諸の色身を示現し、應に隨ひて諸の群生を化導したまふ。

(三一)三世の無量なる諸の佛刹、其の中の一切諸の導師も、一切の音聲及び名字をもつて、普く諸佛の力の自在なることを見しめたまふ。

【二九】次の二偈は普賢菩薩能く遍じて法を說くことを歎ず。
【三〇】次の三偈は舍那佛の說法を歎ず。
【三一】後の二偈は三世の諸佛同じく法を說き給ふことを歎ず。

過去未來及び現在の、是の如き一切諸の導師も、彼の聖能く一切をして、不可思議なる正法輪を聞かしめたまふ。』

此の四天下の道場の上に佛の神力を見たてまつりて、一切の菩薩の大衆雲集したるが如く、一切世界海の中にも亦復た是の如し。

【三一】爾の時に普賢菩薩は如來の前に於て、蓮華藏の師子の座に坐し、即ち一切如來淨藏三昧に入りて正受し。普く一切法界の諸の如來身を照して、障礙する所無く、離垢滿足なること猶ほ虛空の如し。普賢菩薩、此の世界に於て、【三二】三昧正受したるがごとく、盡法界虛空に等しき一切の佛刹にも亦復た是の如し。

普賢菩薩は是の三昧に入り已りて、十方世界海の諸佛悉く現じたまひ。

【三三】彼の諸の如來各各讚めて言はく。

『善い哉善い哉、善男子よ。汝乃ち能く此の三昧に入りて正受せり。是れ皆盧舍那佛の本願力の故なり。又汝が諸佛の所に於ける淸淨なる行願力の故なり。所謂る、一切諸佛の法輪を轉ぜしめんが故に。一切如來の智慧海を開かしめんが故に、盡く一切諸法の方便及び十方海を度して悉く餘すこと

【三一】法主普賢菩薩の入定を明かす。

【三二】三昧正受。三昧は具さに三摩地(Samādhi)といひ、等持又は定と譯す。心浮沈を離れ定慧均等なるを等といひ、心散亂せずして能く一境に住せしむるを持といふ。又法を心に受け納むるが故に正受とも譯す。

三昧正受は梵漢並べ擧げたるなり。

【三三】諸佛の加持を明かす。

無からしめんが故に、一切衆生の煩惱を除きて淸淨を得しめんが故に、能く一切諸佛の國土に到りて障礙無からしめんが故に、一切諸佛の境界に入りて無礙ならしめんが故に、一切諸佛の普門の功德滿足せしめんが故に、一切法の方便に入りて深く一切智を樂はしめんが故に、方便をもつて一切世間の法を觀察せしめんが故に。一切衆生の諸根海を知らしめんが故なり。』

爾の時に一切諸佛は、普賢菩薩に一切に入る智力を與へ、無量無邊の法界に入る智を與へ、能く三世諸佛の所に詣る智を與へ、一切世界海の成壞の智を與へ、無量の衆生界に入る智を與へ、佛の甚深なる法門の智を與へ、一切の不壞三昧に住する智を與へ、一切の菩薩の諸根海に入る智を與へ、一切衆生の語言海をもつて法輪を轉ずる辭辯の智を與へ、一身一切の世界に徧滿する智を與へ、一切諸佛の音聲智を與へたまへり。何を以ての故に、此の三昧の法を得たるを以ての故なり。爾の時に十方の諸佛、各右の手を伸べて、普賢菩薩の頂を摩でたまへり。

(三五)爾の時に一切の菩薩は、十方の佛、各右の手を伸べて普賢菩薩の頂を摩でたまふことを見已りて、彼の諸の菩薩は一心に恭敬して普賢菩薩を觀察し、卽時に同聲に偈を以て頌して曰はく、

(三六)『諸佛の所に於て善法を修し、一切の大願力を滿足して、淸淨なる妙法身を出生し、如實にし

【三五】大衆一同に普賢菩薩に說法を請ふことを明かす

【三六】頌に十偈あり、初の八偈は法主を歎じて請す、中に於て初の五は通じて普賢の德を歎じ、後の三は別して說法の德を歎ず。

て平等なること虛空に同じ。

一切諸佛の國土の中に、普賢菩薩常に依住して、十方の世界見ざること無く、無量の功德智慧の海なり。

悉く十方一切の佛の、清淨身の行功德海を見たてまつり、能く一一の微塵道に於て、普く皆一切の刹を示現す。

一切十方の佛の世界に、無量なる微塵の諸の劫數に、常に普賢、眞の佛子の、無量の三昧方便行を見る。

法身は諸の法界の、一切十方の佛國土に充滿し、徧く一切の衆生海に遊び、深妙なる清淨法に安住す。

永く無量なる諸の法界に度り、衆の煩惱を離れて壞す可からず、其の身は周徧して虛空に滿ち、廣く無量なる諸佛の法を說く。

一切の功德海の中より生じ、普く光明を放つこと大雲の如く、衆生の清淨行を堅固にし、微妙の音をもつて佛の境界を說く。

無量無數の大劫の中に、普賢の甚深の行を修習し、無量無邊の諸の法雲は、雷震のごとく勝法界

を演說す。

〔三七〕一切の佛土の如實の性、十力を修習して淨く莊嚴し、普く一切の衆生海に入りて、應の如く爲めに清淨の法を說きたまへ。

〔三八〕無量無邊の大衆海は、一心に恭敬して普賢を觀ず、無量にして深廣なる智慧の海よ、願くは清淨なる妙法輪を轉じたまへ。』

〔三九〕爾の時に普賢菩薩、佛の神力を承け、一切諸の世界海、一切の衆生海、法界の業海、一切衆生の欲樂諸根海、一切三世の諸佛海を觀察し已りて、普く菩薩の大衆海に告げて言はく、

『佛子よ、諸佛の一切世界海の成敗の淸淨智は思議す可からず。一切衆生界の起る智、法界を觀察する智、一切如來の自在智、淸淨願、轉法輪の智、力無所畏、不共法の智、光明、讚歎、音聲の智、〔四〇〕三種もつて衆生を敎化する智、無量の三昧法門不壞の智、如來の種種なる自在の智、是の如き等の一切は皆思議す可からず。我當に佛の神力を承けて具足し演說すべし。一切の衆生をして佛智海に入らしめんと欲すればなり。

【三七】此の一頌は所說の法を擧げて請す。
【三八】此の一頌は大衆の樂聞を明かして請す。
【三九】定內に略して前の所問に答ふ、中に五海を觀じ十智を明かす。
【四〇】三種をもつて云々とは如來の身(神通輪)口(敎誡輪)意(記心輪)の三業を以て法を說くこと卽ち三輪の說法なり。

【四一】爾の時に普賢菩薩、彼の三昧より起ち、世界の微塵に等しき三昧より起ち、念念の中に方便智を壞せす。一切三世の三昧より起つ時、彼の一切諸の菩薩衆は、一一皆世界塵數の諸の三昧、世界塵數の方便法海、方便辯海、諸行願海を得たり。此の會の菩薩の得し所の功德の如く、一切の世界海、一切の如來衆海の、諸の菩薩衆の得る所の功德も亦復た是の如し。

是の時に一切の世界は六種に震動し、一切の衆生は安隱悅樂にして、一切の衆寶をもつて種種に莊嚴し、一切如來の大衆海の中に十種の寶王雲を雨らせり。所謂る、勝金色幢寶王雲、佛光明照寶王雲、金蓮華寶王雲、菩薩辯才光明寶王雲、一切妙音衆寶王雲、莊嚴佛土道場寶王雲、一切菩薩無量功德光明輪妙音寶王雲なり。

【四二】一切の如來の毛孔、及び諸の光明は、偈を以て頌して曰はく、

【四三】普賢は悉く、一切の佛刹に在りて、寶蓮華の、師子座の上に坐す、
是の如く示現して、一切界に徧く、普く無量、無邊の諸行に入る。
悉く能く無量種の身を示現し、變化して、十方の世界に充滿す、
妙音和雅にして、法を說くこと無礙に。一切の三昧、方便自在なり。

【四一】定より出で益を成ずることを明かす。
【四二】毛光普賢の德を讚歎することを明かす。
【四三】初の八偈は普賢の廣大なる三業は佛の願力を盡せることを歎す。

一切の佛土の諸の如來の所にて、一切の三昧、皆自在を得たり、
悉く能く、最勝の境界を了知して、普賢の、無量自在を示現す。
一切の土の、諸の如來の前の如く、一切の刹塵の、諸の世界の中にも、
普賢の自在なること、亦復た是の如し。盧舍那の、本願の底を盡せるが故に。
(四四)普賢の身相は、猶ほ虛空の如く、如如に依りて、佛國に依らず。
身を現ずること無量にして、普く衆生に應ず、群萠の類に隨ひて、現化せんが爲めの故なり、
一切の世界、無量の佛土は、悉く能く示現して、諸の法門に入る、
普賢菩薩は、淨願を具足し、是の如きの等比、無量にして自在なり、
一切の衆海は、無量無邊にして、各佛土に於て、示現し淸淨なり、
是の如きの一切は、身中に、悉く現じ、其の起滅に從ひて、一念に悉く知る。』
(四五)爾の時に普賢菩薩、大衆をして重ねて歡喜せしめんと欲するが故に、偈を以て頌して曰く
『(四六)諸佛の深智功德の海は、無量無邊の刹に充滿し、方便をもつて衆の應に見るべき所に從ひて、
盧舍那佛は法輪を輪じたまふ。

【四四】後の六偈は體用普く遍じて應機自在なることを敍す。
【四五】普賢菩薩說法を許し大衆を喜ばしむ。
【四六】初の二偈半、佛の敎化の德は測るべからざることを明かす。

不可思議なる佛刹海を、無量劫に於て清淨ならしめ、最勝の導師一切を照し、悉く能く衆生海を調伏したまふ。

衆生の大海は測る可きこと難く、諸佛の境界は不思議なり。

(四七)衆生は惡を樂ひ諸見に著して、無上道を了知すること能はず、功德の法海に心を長養し、常に能く善知識に親近すれば、恒に諸佛の爲めに護念せらる、是等は能く度して上智を得。

諸の諂曲を離れて心清淨となり、廣大の慈悲邊際無く、深心に淨信して厭き足ること無ければ、彼是の法を聞きて喜ぶこと量り無し。

普賢菩薩の諸地の願に、安諦し善住して能く順行し、心を法界の虚空の如きに遊ばしむれば、是の人は乃ち佛の境界を知る。

一切の菩薩は善利を得て、能く自在の最勝尊を見たてまつり、餘の境界の知る所に非ず、普賢の方便は皆入ることを得。

無量無邊の諸の衆生は、一切の如來に護念せらる、一切の處に於て法輪を轉ずるは、盧舍那佛の境界の力なり。

【四七】次の五偈半は大衆を教誡して清淨ならしめ法を聞くに堪へしむ。

（四八）一切の刹土と及び諸佛とは、我が身内に在りて礙ふる所無く、我が一切の毛孔の中に於て、佛の境界を現ず、諦かに觀察せよ。

普賢菩薩の所願の行は、無量無邊にして悉く具足す、普眼の境界、清淨の身を我今演說せん、仁、諦かに聽け。』

（四九）爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、世界海に十種の事有り、去來今佛の演說したまふ所なり。所謂說世界海、起具因緣世界海、住世界海、形世界海、體世界海、莊嚴世界海、清淨世界海、如來出世世界海、劫世界海、壞方便世界海なり。諸の佛子よ、世界海に是の如き等の十種の事有るを首と爲し、乃至世界海塵數種の事有り。

（五〇）諸の佛子よ、當に知るべし、一切の世界海は世界海塵數の因緣有りて具はるが故に成る。已に成じ、今成じ當に成ずべし。所謂、如來の神力の故に、（五一）法應に是の如くなるべきが故に、衆生の行業の故に、一切の菩薩應に（五二）無上道を得べきが故に、普賢菩薩の善根の故に、菩薩の佛土を嚴淨するに願行解脫自在なるが故に、如來の無上なる善根

【四八】後の二偈は觀を勸め說を許す。

【四九】以下正しく普賢菩薩の敎說を明かす。中に於て初に前の果問を答ふ。

【五〇】一、因緣より起こる世界を明かす。

【五一】緣起の理として自ら然らしむるの意。

【五二】菩薩の修行成滿して成佛する時は其の力に依りて世界を成するなり。

の（五三）依果の故に、普賢菩薩の自在の願力の故なり。是の如き等の世界海塵數の因緣具はるが故に、一切の世界海は成ずるなり。

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

『（五四）佛智の境界は、思議す可からず、自在に善住すること、悉く皆是の如し。
無量無邊の、諸の世界海は、盧舍那佛、悉く能く嚴淨したまふ。
應の如く、一切の菩薩を化度するに、無量の願海は、皆悉く清淨なり。
十方の佛土の、一切の衆生をば、不思議を以て、之を覺悟せしむ。
（五五）一切の菩薩の、無量なる自在は、一切智に度る、方便の法門なり。
一切の、無量の願海を出生して、諸の世界を起すこと、猶ほ虛空の如し。
普く一切の、菩薩の善行を行じて、佛の境界の、無量無邊なるに入る。
悉く能く、十方の佛刹を嚴淨し、一一の佛土に、無量劫に行ず。
（五六）衆生の心境は、思議す可からず、業は能く悉く、一切の刹海を起す。
衆生垢穢なれば、國は清淨ならず、行業無量なれば、世界も同じからず。

【五三】依報の果として國土を成ずるなり。
【五四】初の四頌は前の佛の神力に依りて刹土を成ずることを明かす。
【五五】次の四偈は菩薩の道力を成すべきことを頌す。
【五六】次の二偈は衆生の業力を頌す。

（五七）諸佛の刹海の、淨き莊嚴藏は、離垢の雜寶を、以て校飾を爲し、
無垢なる、宏誓の願海を長養して、佛子能く、無數の國土を淨む。

（五八）若し菩薩有りて、普賢の行を修せば、常に能く淸淨の法界に履行せん。
當に知るべし、是等の功德は佛の如く、能く無量なる、如來の刹海を出す。

（五九）一念の中に於て、悉く十方に徧して、能く一切の、菩薩の所行を現す。
甚深にして淸淨なること、猶ほ虛空の如く、空界に等しき者は、自在なること是の如し。
一切の道場の、諸の如來の前に、寶蓮華に坐して、衆の妙色を現ず。
其の身內に於て、一切の刹を容れ、又一念の中に、三世を示現す。

（六〇）巧方便に入りて、諸の刹海を起し、三世の國に於て、成佛を示現す。
盧舍那佛の、此の土は淸淨にして、衆寶をもつて成就し、邊際有ること無し。」

（六一）爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて曰く、

【五七】次の二偈は菩薩の佛土を嚴淨する願行力を頌す。
【五八】次の二偈は普賢の善根力を頌す。
【五九】次の四偈は普賢の自在願力を頌す。
【六〇】後の二偈は佛の依果を頌す。
【六一】二、世界の依住する所を明かす。

『佛子よ、一一の世界海の依住する所は、世界微塵の數の如し。所謂一切の莊嚴に依りて住し、或は虚空に依りて住し、或の一切寶に依りて住し、或は佛の光明に依りて住し、或は幻業に依りて住し、或は(六二)摩訶那伽金剛力士の掌中に依りて住し、或は普賢菩薩の願力に依りて住す。』

是の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

『(六三)無量無邊の佛刹海は、離垢の妙寶を以て莊嚴し、摩尼の寶王清淨に照し、最勝の威神にて見ざる靡し。

(六四)清淨の刹海は虚空に住し、寶王の妙藏光普く照し、無量なる微妙の音を暢發して、佛道を宣揚して欣ばざる靡し。

(六五)種種の華光は善く喜樂せしめ、如意寶珠を莊嚴と爲し、無量の光網上に彌覆し、種種の香雲徧く充滿す。

無量無邊の妙蓮華は、靑瑠璃の寶を以て臺と爲し、淸淨の國土は甚だ奇妙なり、一切の諸佛莊嚴したまふが故に。

(六六)或は諸佛の淸淨土有り、佛の(六七)威神を以て安住することを得、離垢淨の衆の妙寶を見るに、

【六二】摩訶那伽(Mahānāga)大龍と譯す、龍は水中に住むものの中にて力最も大なれば大力を表示す。

【六三】初の一偈は莊嚴に依りて住することを頌す。

【六四】次の一偈は虚空に依りて住することを頌す。

【六五】次の二偈は寶に依りて住することを頌す。

【六六】次の一偈は佛の光明即ち威神力に依住することを頌す。

【六七】威神。威德不可思議なる自在神通の力なり。

無量の菩薩悉く充滿せり。
(六八)或は諸佛の清淨土有り、金剛力士の掌中に住す、十力の世雄たる盧舍那は、常に一切の爲めに法輪を轉じたまふ。
(六九)或は寶樹に依りて平正に住し、香炎雲に依るも亦是の如し、水輪に依りて住して堅固なる有り、或は金剛海座に依りて住し、金剛勝妙幢に住する有り、種種の寶華上に彌覆し、無量自在にして一切の處に、盧舍那佛は衆をして見しめたまふ。
諸の雜異の色の長き光明は、普く一切の佛の世界に流れ、悉く種種の莊嚴藏を見るに、離垢微妙にして甚だ清淨なり。
彼の一切の願海力を以て、無量種種に依住する所、諸の如來雲悉く充滿して、常に清淨なる虛空に依りて住す。
或は佛刹有り上方に處し、淨き菩薩の(七〇)天冠に依りて住す、彼は無量の佛の自在を現じ、佛子の妙音は淨業の化なり。
(七一)諸の法界に等しき佛の國土は、譬へば電光の如く亦幻の如し。紺瑠璃の寶は廣くして清淨に、

【六八】次の一偈は金剛力士に依住することを頌す。
【六九】次の五偈は諸種の依住を頌す。
【七〇】天冠。種種に飾られたる寶冠をいふ。
【七一】次の二偈は幻業に依住することを頌す。

悉く離垢の淨業より起り、
普く種種の莊嚴藏を現じ、虛空に依止して靜かに安住せり、行業の境界は議る可からず、佛は衆生をして普く見ることを得せしめたまふ。
(七二)一切の塵に等しき諸佛の刹は、普賢菩薩の一念に起り、無量劫に行じて衆生を化し、法界に充滿して自在を現ず。
(七三)一一の微塵の中に、佛國界安住し、佛雲徧く護念し、彌綸して一切を覆ふ。
一微塵の中に於て、佛は自在力を現じ、一切微塵の中に、神變することも亦是の如し、諸佛及び神力は、盧舍那の示現したまふなり。』
(七四)爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて言はく、
『佛子よ、諸の世界海に種種の形あり。或は方、或は圓、或は(七五)方圓に非ず、或は水の(七六)洄澓するが如く、或は復た華の形の如く、或は種種の(七七)衆生の形をなす者あり。』
爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

【七二】次の一偈は普賢の願力に依住することを頌す。
【七三】末後の二頌半は重重無盡の依住を頌す。
【七四】三、世界の形狀を明かす。
【七五】方圓に非ずとは三角形や八角形の如きをいふ。
【七六】洄澓。洄は水の旋轉すること、澓は深くして洄ること。水深くうづまきて流るゝ貌なり。
【七七】衆生の形とは二義あり、一には世界が衆生の形に似るの義、二には衆生は卽ち世界なりとなす義なり。

【七八】刹海は量有ること無く、形を殊にし莊嚴を異にし、十方の世界海に、諸の雜種の相を見る。
或は圓、或は四方、或は復た方圓に非ず、三維及び八隅にして、狀は摩尼寶の若し。
一切諸の業海は、種種に別異なるが故に、金剛の掌の如く、莊嚴せられ坦として平正なる有り。

【七九】鍊りたる眞金の色の、清淨なる妙形は、無量の、正法の門に入る。
諸佛の刹海の、種種の藏は、猶ほ大雲の如く、虛空に懸處す。
彼の寶輪の地は、妙淨にして分明なり、盧舍那佛の、光明悉く照せばなり。
諸佛の國土の、起るは心業に由り、無量種の形ありて、以て莊嚴せり。
彼の國の一切は、各各自在にして、如來の刹海は、無量の相を現ず。
或は淨穢有りて、苦樂も同じからず、法常に流轉すれば、變現することも是の如く、
一切の業海は、不可思議なり。

【八〇】一毛孔の中に、無量の佛刹は、莊嚴清淨にして、曠然として安住す。

【七八】初の三偈は前の文を頌す。
【七九】次の六偈半は刹土の德自在なることを頌す、中に於て初の三は佛に約して刹を顯はし、機に應ずるに堪へたることを明かし、後の二偈半は機に約して正しく應ずるに差別あることを明かす。
【八〇】以下、八偈は刹土の用自在なることを頌す。

彼の一切處の、盧舍那佛は、衆海の中に於て、正法を演說したまふ。
一塵の内に於て、微細の國土の、一切の塵に等しきは、悉く中に於て住す。
一切の世界に、種種の形有り、悉く其の中に於て、尊き法輪を轉ず。
是れ宏誓の願、自在の力にして、一一の塵の中に、一切の刹を現ず。
譬へば幻化の如く、亦虚空の如く、諸の心業の力の、莊嚴する所なり。
一一の塵の中の、衆生數に等しき、諸の化佛雲の、神力も自在なり。
微塵の中に於て、善く佛刹を住し、盧舍那佛の、法を現ずることも是の如し。』

（八二）爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて言はく、
『佛子よ、諸の世界海に種種の體有り、悉く應當に知るべし。所謂、一切寶莊嚴の體、或は一寶の體、或は金剛堅固地の體、或は珠香の體、或は日珠輪の體なり。』
爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、
（八三）『或は世界海有り、衆寶の合成する所、堅固にして壞す可からず、寶蓮華に安住せり。

【八二】四、世界の體を明かす。
【八三】偈に十頌あり、寶華體、炎空體、光明體、電光、及願體、日珠體、寶炎、及化體、佛化體、心業體、佛身の光體、普賢の化願體の十を次第の如く頌す。

或は勝れたる光明起り、淸淨の輝炎をもつて照せる、衆の妙莊嚴の刹は、虛空に依止して住せり。
或は光明の刹有り、光明に依止して住し、光明雲をもつて、諸の菩薩の宮殿を莊嚴せり。
或は佛刹海有り、猶ほ雷光の如くにして住し、言をもつて取るも得可からず、斯れ願力に由りて起るなり。
或は摩尼寶有り、日の光明藏に照され、眞珠の輪地を貫き、菩薩悉く充滿せり。
或は寶炎の刹有り、光明雲のごとく蔭覆し、一切の寶をもつて莊嚴し、悉く皆變化有り。
或は衆相の體有り、微妙の相をもつて莊嚴し、閒錯して寶冠を雜ふ、一切の佛の化したまふ所なり。

【八二】五、世界の莊嚴を明かす。

心海の業の起す所の、國土は樂に隨ひて住す、喩へば幻の無方なるが如く、皆妄想より生ず。
如來身の光明は、摩尼の刹に安住し、正覺の雲彌覆し、一切の佛自在なり。
或は普賢菩薩、佛の刹海を化現し、一切の寶をもつて挍飾す、願力の莊嚴する所なり。』

【八三】爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて言はく、
『佛子よ、諸の世界海に、世界海微塵に等しき莊嚴有り。悉く應當に知るへし、所謂、一切の境界の種種雲の莊嚴、一切世界の衆生の行業の莊嚴、三世諸佛、及び普賢菩薩の願力の莊嚴なり。是の如き等

の世界海微塵數の莊嚴有り。』

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

『(八四)世界海の微塵に等しき如き、不可思議なる業の果報なる、一切十方の世界海は、種種に嚴淨せられ廣くして無邊なり。

(八五)無量の淨色をもつて普く莊嚴し、上妙の功德常に充滿し、雜光明の雲は梵音を出し、一切諸佛の刹に聞ゆ。

菩薩の無量なる功德海に、妙聲一切の刹に徧滿し、諸の誓願の雲は莊嚴を具して、聲は十方の世界海に震ふ。

(八六)衆生の業海は廣くして際無く、淨き莊嚴の雲は妙音を出す、業報は實の如く應に隨ひて變ずるも、諸佛の力の故に悉く周滿せり。

(八七)一切三世の諸の如來は、自在に普く無量の刹に現じ、一一の境界の一切の佛は、刹海を莊嚴して皆悉く見はる。

過去未來現在劫の、一切十方の諸の世界は、無量劫に於て淨く莊嚴せられ、一一の佛刹に皆悉く見はる。

【八四】初の一偈は總頌なり。
【八五】次の二偈は雲の莊嚴を頌す。
【八六】次の一偈は衆生の行業莊嚴を頌す。
【八七】次の五偈は諸佛の莊嚴を頌す。

一切境界の諸佛の雲は、數衆生に等しくして十方に滿ち、佛の自在行は衆をして知らしむ、是を如來の莊嚴刹と謂ふ。
衆香、炎流、及び華流、一切の衆寶摩尼の流、種種衆の妙莊嚴雲は、皆悉く諸佛の刹を校飾せり。
十方世界の諸の道場は、一切の衆具をもつて妙へに莊嚴し、此の刹海を覩見せざること靡し、猶ほ空中に電光の現はるるが如し。
(八八)普賢菩薩は、佛子等よ、悉く能く諸佛の刹を莊嚴し、衆生に等しき劫に行海を淨め、此の世界に於て悉く顯現せり。』

(八九)爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、當に知るべし、諸の世界海に世界塵數の清淨有り。所謂、菩薩は善知識に親近し、諸の善根を成就し、等しく一切の衆生を利し、一切諸の波羅蜜を淨滿し、一切の行地に安住するなり。是の如き等の世界塵數の清淨有り。』

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

『(九〇)一切の佛刹の諸の莊嚴は、無數の願海方便より生じ、一切の佛刹の清淨の色は、無量の行海

【八八】後の一偈は普賢の莊嚴を頌す。
【八九】六、世界の清淨なることを明かす。
【九〇】初の一偈は總頌なり。

に修習する所なり。

（九一）久遠より　（九二）善知識に親近し、一切の淨妙なる諸の業行は、慈悲普く流れて衆生を潤ほす、是の故に佛刹海を清淨にす。

（九三）一切の法門、三昧の地は、一切の佛の所にて徳海を淨めたる、禪門方便の清淨の地なり、是の故に佛刹海を嚴淨す。

能く無量なる清淨心を起し、佛を信ずること堅固にして壞る可からず。忍の方便は淨く無垢なるを以て、刹海を莊嚴して微妙の色あり。

（九四）功徳雲を興して虚空に滿ち、一切を利益せんと淨行を修し、衆生普く無量の徳を獲、是の故に佛刹海を嚴淨す。

（九五）刹海は方便と等しく無量なるも、悉く諸度を淨めて餘り有ること無く、無盡の　（九六）願波羅蜜を修す、是の故に佛刹海を嚴淨す。

幻化の行起ること量有る無く、一切諸法は廣くして清淨に、種種の方便をもつて衆生を淨め、是の樂しむ可き佛刹海を起す。

（九七）方便をもつて一切地を嚴淨し、諸佛の功徳海を具足して、諸の衆生をして苦の源を竭さしむ、

【九一】次の一偈は行業淨を頌す。

【九二】善智識。佛の正法を說きて人を正道に導き、解脫を得しむる聖者をいふ、親近とは親しみ近づくこと。

【九三】次の二偈は自利淨を頌す。

【九四】次の一偈は利他淨を頌す。

【九五】次の二偈は行滿淨を頌す。

【九六】願波羅蜜。十波羅蜜の一にして、上は佛果菩提を願ひ求め、下は一切衆生を救はんと願ふ、自利と利他の大願をいふ。

【九七】後の二偈は得位淨を頌す。

是の故に佛刹海を嚴淨す。
淨力海を修して與等無く、能く一切衆生の根を淨くし、無量の佛を恭敬し供養したてまつる、是の故に佛刹海を嚴淨す。』

〔九八〕爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、當に知るべし、一一の世界海に、世界海塵數の諸佛有して、世に出興したまふ。所謂、佛有して世に興りたまひ、色身を示現して法界に徧滿するに、或は短壽有り、或は無量劫なるあり。是の如く、一一の世界海に、世界海塵數の佛有して世に出興したまふ。』

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

「〔九九〕佛は無量の方便門を以て、能く一切の佛刹海を起し、衆生の欲樂する所に隨順して、諸佛法王世に出興したまふ。

〔一〇〇〕如來の法身は不思議なり、無色無相にして倫匹無く、色身を示現して衆生の爲めにし、十方化を受けて見たてまつらざる靡し。

〔一〇一〕或は衆生の爲めに短命なるを現じ、或は長壽にして無量劫なるを現じ、法身多門にして十方

【九八】七、諸佛の出世差別を明かす。
【九九】初の一偈は總頌なり。
【一〇〇】次の一偈は佛身の遍滿を頌す。
【一〇一】次の一偈は壽の長短を頌す。

に現じ、常に世間の良〔一〇二〕福田と爲りたまふ。」

〔一〇三〕或は能く不思議なる、十方刹海をして悉く清淨ならしめたまふ有り、或は能く一刹土を淨めたまふ有り、是れ彼の方便願より生ずる所なり。

或は不可思議なる〔一〇四〕乘を說きたまひて、佛普く示現して樂ふ所に隨ひ、或は如來の〔一〇五〕一乘を說きたまふ有り、是れ佛の方便に量有ること無ければなり。

自然に師無くして正覺を得、或は少しの衆生を濟度したまふ有り、或は能く一念の中に於て、無量の衆生海を化度したまふ有り。

或は一毛孔の中に於て、化佛の雲出でて不思議に、一切の十方界に充滿し、無量の方便をもつて衆生を化したまふ有り。

或は佛の音聲十方に震ひ、諸の衆生の欲樂する所に隨ひ、無量億劫にも斷絕せず、衆生海を度したまひて邊有ること無し。

或は無量の莊嚴刹有りて、清淨の大衆に圍繞せられて坐し、一切の世界海に充滿したまひ、佛徧

【一〇二】福田。佛を供養すれば無量の福德を生ずること、田地に穀類を生ずるが如くなるが故に福田といふ。

【一〇三】後の七偈は佛の出現し給ふ無方の勝用を頌す。

【一〇四】乘。乘は運載の義、佛の教法は衆生の機根に應じて、各彼岸に達せしむるが故に乘と名く、衆生の機根種種差別あるが故に佛の教法も其の數無量なれば不思議乘といふ。

【一〇五】一乘。具さには一佛乘といひ、眞實の教法にして、一切の衆生を悉く同一佛果に到らしむる教をいふ。

く衆に處したまふこと空の雲の如し。是の佛の方便は不思議にして、慈海充滿して一切に徧く、諸の莊嚴方便門に入りて、悉く一切衆生の前に現じたまふ。』

(一〇六)爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、當に知るべし、世界海に世界微塵に等しき劫に住する有り。所謂佛刹海は、或は數ふ可からざる劫に住し、或は數ふ可き劫に住す、是の如き等の世界海微塵數の劫に住する有り。』

【一〇六】八、世界の劫住を明かす。此の段は偈頌を缺けり。

卷の第四

盧舍那佛品第二の二

（一）爾の時に普賢菩薩、分別し開示せんと欲するが故に、一切の衆に告げて言はく、

（一）諸の佛子よ、當に知るべし、此の蓮華藏世界海は、是れ盧舍那佛、本菩薩の行を修せし時、阿僧祇の世界に於て微塵數劫に嚴淨したまひし所なり。一一の劫に於て、世界の微塵に等しき如來を恭敬し、供養したてまつり、一一の佛の所にて、世界海微塵數の（二）願行を修したまひしなり。

（三）佛子よ、當に知るべし、須彌山の微塵に等しき（四）風輪有りて、此の蓮華藏莊嚴世界を持せり。最下の風輪を名けて平等と曰ふ、彼一切の寶光明地を持す。次上の風輪を種種寶莊嚴と名け、淸淨光寶地を持し。次上の風輪を功德勢と名け、密寶地を持し。次上の風輪を名けて寶炎と曰ひ、日不壞寶地を持し。次上の風輪を普莊嚴と名け、具足寶光明地

【一】以下別して廣く蓮華藏世界を明かし前の褒方便世界を釋す。
【二】願行。大願と妙行となり。
【三】以下六段に本世界の莊嚴の相を顯はす。中に於て、初に風水華地を根本の所依となすことを辨ず。
【四】風輪。風に無礙の義と有力の義とあり故に緣起を成ずるなり。

を持し。次上の風輪を離垢清淨平等と名け、寶華炎地を持し。次上の風輪を名けて寶行と曰ひ、一切の眞珠地を持し。次上の風輪を一切年と名け、一切の時、一日、半月、一月、一年を持し。次上の風輪を普持勢と名け、一切の須彌山地を持し。次上の風輪を莊嚴光明と名け、能く（五）一切の有を持せり。是の如くして次上に須彌山微塵に等しき風輪有り、最上の風輪を勝藏と名け、一切の（六）香水海を持せり。彼の香水海の中に、大（七）蓮華有り、（八）香幢光明莊嚴と名け、此の（九）蓮華藏莊嚴世界海を持せり。此の世界海の邊に金剛圍山有りて、周帀し圍繞せり。』

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

『（一〇）此の蓮華藏、莊嚴世界海に於て、一切の妙寶藏、種種の淨き光明あり。

一切の微塵に等しき、過去佛の住したまひし所にして、昔諸の有海に於て、垢を離れ悉く淸淨となりき。

無量なる大悲の雲、諸の衆生に充滿して、自己の身を捨離すること、

【五】一切有。二義あり、一は諸世界の中の三界なり、二は寶地上の諸の莊嚴の事物を通じて一切有といふ。

【六】香水海。香は、普熏、芬馥の義。水は淸淨、洗滌の義。海は深廣、具德の義なり。

【七】蓮華は四義を表示す。一に泥中に在て汚されざるは、法界眞如世に在りて、世法の爲めに汚されざるに譬へ。二に蓮華の性自ら開發するは、眞如の自性として衆生を開悟し、衆生若し證れば自性開發するに譬へ。三に群蜂蓮華の蜜を採るは、眞如の衆聖の爲めに用ゐらるるに譬へ、四に蓮華に香、淨、柔軟、可愛の四德あるは、眞如に常樂我淨の四德あるに譬ふ。

【八】香幢光明莊嚴。香は氣

佛刹の塵數の如し。
無量の行海に於て、常に修して清淨ならしめたり、是の故に蓮華藏、
世界海は莊嚴せられたり。
一切の虚空界に、光明遍く充滿し、安住して動かす可からず、勝れ
たる風輪常に持せり。
一切の寶をもつて莊嚴し、妙風常に流行し、盧舍那の曠き願は、國土
をして嚴淨ならしめたり。
如意の寶徧く布き、種種の妙華敷き、本願力を以ての故に、虚空に
處在せり。
〔一一〕堅固に善く安住し、一切の寶をもつて莊嚴し、十方の一切界は、
清淨の光雲を放てり。
諸の摩尼寶の中の、無量の菩薩雲は、徧く十方の國に遊び、光明極めて熾盛なり。
寶華の盛妙なる色をもつて、莊嚴せる光明輪は、諸の法界に充滿し、十方徧からざる靡し。
一切衆の淨寶は、悉く光明雲を放ちて、十方の諸の世界に、一切皆充滿せり。

氣、普熏の義。輪は獨出、降伏の義。光明は照耀、現法の義。莊嚴は具德、交飾の義なり。

【九】蓮華藏莊嚴海。如來の願力の感ずる所の大蓮華は、淨土の依止と爲るが故に、蓮華藏世界といふ。藏には含攝、出生、具德の三義あり。

【一〇】初の七偈は前文を頌す。

【一一】後の十三偈は此の世界の勝用と利益とを頌す、中に於て初の六は依報、後の七は正報に就いて明かす。

一切の苦を滅除して、無上道に安立し、妙色悉く普く、一切の世界海を照せり。
此の蓮華藏、世界海の內に於て、一一の微塵の中に、一切の法界を見る。
一切の諸佛雲は、寶の光明を放ちて照し、是の盧舍那の說には、無量の自在有り。
一切の衆生に等しき、蓮華の中の諸佛は、種種無量なる、自在變化の雲を興したまへり。
釋梵諸天の衆、及ひ輪轉聖王と、一切衆生の類とは、皆悉く安住することを得たり。
變化して光明を放つを、悉く法界と等しく、一切の光明の中より、諸佛の妙音を出す。
諸の衆生の心の、念ふ所を知りて餘り有ること無く、無數の方便門をもつて、群生の類を調伏す。
一切の顚倒を離れて、常に寂靜に住し、無量の光明雲は、悉く法界と等し。
普賢の行ずる所の智と、無上なる勝妙の地とは、光の莊嚴の中に於て、皆悉く具足して聞けり。』

【二】二、山下の地海莊嚴を明かす。

〔三〕佛子よ、當に知るべし、此の蓮華藏世界海の、金剛圍山は蓮華日寶王地に依りて住せり。彼に一切の香水海有り、一切の衆寶徧く其の地に布き、金剛の厚地にして破壞す可からず、一切の衆寶を出生し、又能く明かに一切の世界を照せり。』

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

（一三）一切の世界海に、無量の莊嚴有り、寶輪に無邊の色有り、如來の神力より起る。
（一四）斫迦羅を莊嚴し、法輪及ひ香輪あり、眞珠輪に依住し、及ひ種種の法に依る。
堅固の法をもつて莊嚴したる、閻浮檀の淨藏は、香光十方に充ちて、斫迦羅を照現せり。
持するに堅固なる金剛寶を以てし、金剛の莊嚴は壞す可からず、種種の衆寶相莊嚴し、一身清淨法を莊嚴す。
香水普く無量の色を流し、散華、摩尼、（一五）栴檀香あり、天衣徧く覆ひ華をもつて莊嚴し、衆寶、香華、熏ずること無量なり。
清淨なる法樹の雲をもつて莊嚴し、普く能く一切身を照明し、光明の妙雲悉く具足し、樹下に安坐して照さざる靡し。
（一六）種種の華香及ひ旛蓋をもつて、一切の菩薩は法界に充ち、能く一切の語言海を說く、是れ盧舍那の轉法輪なり。
彼の處に悉く珍寶の幢有り、一切の寶樹光明を出す、盧舍那佛の身清淨にして、彼の莊嚴

【一三】初の六偈は前文を頌し、體に衆德を備ふることを明かす。
【一四】斫迦羅（Cakravāḍa）。輪圍又は鐵圍と譯す、堅牢にして破る可らざる鐵山にして世界を圍めるなり。
【一五】栴檀（Candana）。熱帶地に産する香木。白、黃、紫の三種あり、木質堅重にして清香を有す。就中、白檀最も勝れたり。此の香木は支那になきが故に梵名を用ゐ、檀香或は眞檀とも稱す。
【一六】後の四偈は妙用自在を明かす。

の內に一切を見しむ。
諸の莊嚴の中に無數の身あり、如來の變化したまふ色は無量にして、一切の十方界に充滿し、衆生を調伏して限量無し。
一切の莊嚴より妙聲を出す、盧舍那佛の所願の輪にして、其の清淨なる佛刹海に隨つて、佛の自在力にて皆悉く聞く。』

〔二七〕彼の大斫迦羅山の內の世界海の中に、破壞す可からざる摩尼寶王有り、一切衆生の身を映現し、衆寶の蓮華を以て莊嚴と爲し、大地の一切の莊嚴せる妙雲は皆悉く充滿し、一切の妙香を以て之に熏じ、三世の佛刹の莊嚴を以て之を莊嚴せり。

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、
『〔二八〕其の地は平正にして淨く圓滿に、斫迦羅の內は壞す可からず、平等に安住して甚だ清淨に、
種種の雜寶をもつて莊嚴し、金剛の寶地悅樂す可く、寶輪の羅網上に彌覆せり。
〔二九〕種種の寶華を莊嚴と爲し、雜種の寶衣、珍妙の輪は、隨次に徧く一切地に布き、菩薩の天冠、
寶の〔三〇〕瓔珞は、離垢莊嚴の光明に照され、妙香、碎寶悉く充滿し、

【二七】三、寶珠の莊嚴を明かす。
【二八】初の一偈半は前の不壞の摩尼寶を頌す。
【二九】次の二偈半は寶の莊嚴を頌す。
【三〇】瓔珞。頭、頸等にかけたる寶珠の飾なり。

光明は、衆の寶華をもつて莊嚴し、普く一切に放ちて十方に滿ち、寶華は普く一切地に覆ひ、
悉く能く佛の功徳を長養せり。

〔二〕一切雲を興して虚空に滿ち、光明普く照して盡す可からず、光明は悉く一切の刹に滿ち、
具さに佛法の甘露味を說く。

〔三〕悉く一切の佛の所願に入り、常に能く廣く三世の法を見、隨順せる菩薩大士の行を、此の大地に於て皆悉く見る。

此の清淨地は寶をもつて莊嚴し、一切の佛刹悉く來りて入り、其の地の一一の微塵の中に、一切の佛刹亦悉く入る。

衆寶妙華の莊嚴藏に、十方の菩薩常に往來し、常に菩薩の一切願と、及び諸の菩薩の自在の徳とを聞く。

寶の光明、相莊嚴する有り、離垢嚴淨にして光明を出し、一切諸佛の法を示現して、法界に充滿すること虚空の如し。

普賢の所願を得る者有らば、諸佛の境界、無量の智ありて、彼無量の勝れたる自在を得、能く無邊の佛刹海に入らん。』

〔二〕次の一偈は雲の莊嚴を頌す。

〔三〕後の五偈は三世の佛刹の莊嚴を頌す。

（二三）彼の大地の處に、不可說の佛刹微塵に等しき香水海有り。衆寶をもつて莊嚴し、一切の香、摩尼寶王を以て其の岸と爲し、寶王の羅網を其上に彌覆し、衆の寶色の水其の中に盈滿し、一切の衆華皆悉く開敷し、細末栴檀を以て其の水に熏じ、常に如來の妙音を出して絕たず。衆香次第に普く十方に熏じ、雜寶の（二四）階道、眞珠の（二五）欄楯あり。衆寶の潮浪は妙なる音聲を出し、（二六）恒沙の佛刹の微塵數に等しき寶華の樓閣は、周帀し圍繞して、無量の佛刹の微塵に等しき衆の寶華の城は以て其の外に周らし、十大千世界微塵數の華あり、一一の蓮華は各十由旬に、開敷し鮮茂して徧く水上に布けり。其の香は普く一切の世界に熏じ、十佛國土の微塵數の香樹を以て莊嚴と爲せり。

爾の時に普賢菩薩、偈を以て（二七）頌して曰はく、

一彼の嚴淨せる大地の處に於て、香水の寶海をもつて莊嚴し、淸淨の寶地常に安住し、金剛のごとく堅固にして壞す可からず。

衆香の寶王を以て岸を爲し、寶雲の光明は日の照すが如く、眞珠の寶華と妙なる瓔珞とは、離垢淸淨にして普く莊嚴す。

【二三】四、香水海の莊嚴を明かす。

【二四】階道。階段の通路なり、正法に入る階梯を表示す。

【二五】欄楯。欄干や緣側などのてすりのこと、外非を防ぎ、內德を守ることを表示す。

【二六】恒沙。恒河沙の略にして印度の大河なる恒河(ガンヂス)の沙の意、數の無量なることをいふ。

【二七】頌に十偈あり、次第に前文を頌す。

淸淨の香水は湛然として滿ち、衆の寶華の光は（二八）旋流を爲し、妙聲悅樂にして常に斷えず、自在に普く佛の世界に聞ゆ。

（二九）衆珍校飾して階道を淨め、寶をもつて莊嚴せる地は安くして動ぜず、眞珠の妙寶を欄楯と爲して、光明の寶華は悅樂す可し。

寶樹羅び生じて道の側に緣どり、摩尼寶の（三〇）樂は煥として明曜に、無量なる和雅の聲を演出し、莊嚴せる淨音は（三一）三寶を歎ず。

香水柔輭にして湛然として滿ち、（三二）分陀利華は徧く圍繞し、一切の香華は光明を出し、淸淨に具足して莊嚴す。

寶幢の中に於て光明有り、寶の旗旛を垂れて莊嚴し、摩尼の寶網は妙聲を出し、聞く者は能く一切智に入る。

衆寶の華城は甚だ微妙にして、無量の寶色の淨き光明は、十方の世海を照さざる靡く、一切具足して光をもつて嚴飾す。

垣牆は周帀し圍繞して、種種の雜寶を莊嚴と爲し、淸淨の寶炎相任持し、具足して寶香の海を莊嚴す。

【二八】旋流。旋は旋轉なり、うづまきて流るること。

【二九】衆珍。もろ／＼の珍らしき寶なり。

【三〇】樂。摩尼寶にて造れる樂器なり。

【三一】三寶。佛と法と僧となり。此の三は人格の修養につきて最も尊崇すべき者なれば三寶といふ。

【三二】分陀利華（Puṇḍarīka）白蓮華と譯す。

盧舍那佛の過去の行は、佛の刹海をして甚だ淸淨ならしめ、無數無量にして邊際無く、彼の處には一切自在に轉ず。

〔三三〕一一の香水海に、四天下の微塵數の香水河有りて圍繞し、種種の寶華其の上に彌覆せり。彼の諸の香水の河は、佛の眉間の白毫相より出で、摩尼寶王は、上に汎ぎて流に隨へり。

爾の時に普賢菩薩、偈を以て〔三四〕頌して曰はく、

「離垢淸淨の香水の流は、金剛の寶華悉く彌覆し、衆の寶輪の地には金沙を布き、無量の珍琦をもつて普く莊嚴せり。

淨妙なる階道は七寶より成り、諸の欄楯の上に蓮華を植ゑ、眞珠の寶華は常に敷き榮え、雜華の鬘を懸けて莊嚴と爲す。

一切の寶光には微妙の色あり、淸淨の香水には雜寶流れ、種種の寶華を波浪と爲し、衆音諧雅にして佛の聲を演ぶ。

栴檀の寶末は淸流に和し、無量の雜寶は洄澓を爲し、普く種種の香と、光炎とを出し、常に一切の十方界に流る。

一切の香河は無量なる、雜種妙勝の諸の珍寶を出し、衆寶積集して〔三五〕華蓋を爲し、光明普く

〔三三〕五、香水河の莊嚴を明かす。

〔三四〕頌に十偈あり、香水河の德相と勝用とを頌す。

〔三五〕華蓋。種種の華を以て造れる天蓋なり。

香水の河を照す。

十方無量の世界の中の、佛の光明は寶王を顯現し、如來の道場の寶輪地には、衆寶の香河の並流溢つ。

諸寶の羅網は相(三六)扣摩し、佛の音聲を演べて常に絶たず、一切の菩薩諸佛の法は、普賢大士の修行する所なり。

諸佛世尊の願の音聲は、彼の寶岸に於て常に聞くことを得、一切如來の過去の行に、皆悉く徧く十方の國に聞ゆ。

一切香河の諸の旋流は、一切の菩薩の功德雲にして、漸漸に諸の法界に盈滿し、一切の刹を見るに至らざる無し。

彼の諸の一切の香水河には、淨き寶王雲上に彌覆し、佛の白毫相より寶王を出し、其の光の明曜なること如來に等し。」

(三七)彼の香河の中間は一切平正にして、諸の妙(三八)寶樹を以て莊嚴と爲し、華種の寶幔其の上に彌覆せり。一切の菩薩の願力の起す所にして、佛に護念せられ、三世の莊嚴をもつて之を莊嚴せり。

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

【三六】扣摩。網にちりばめられたる寶珠が互に相觸れてうち合ひ、音を發すること。

【三七】六、寶樹の莊嚴を明かす。

【三八】寶樹。樹に衆德を建立する義なり。

香水の河を照す。
十方無量の世界の中の、佛の光明は寶王を照見し、如來の道場の寶輪地には、衆寶の香河の盈流滿つ。
諸寶の羅網は相（三六）扣摩し、佛の音聲を演べて常に絶たず、一切の菩薩諸佛の法は、普賢大士の修行する所なり。
諸佛世尊の願の音聲は、彼の寶岸に於て常に聞くことを得、一切如來の過去の行は、皆悉く偏く十方の國に聞ゆ。
一切香河の諸の旋流は、一切の菩薩の功德雲にして、漸漸に諸の法界に盈滿し、一切の刹を見るに至らざる無し。
彼の諸の一切の香水河には、淨き寶王雲上に彌覆し、佛の白毫相より寶王を出し、其の光の明曜なること如來に等し。』

（三七）彼の香河の中間は一切平正にして、諸の妙（三八）寶樹を以て莊嚴と爲し、雜種の寶幔其の上に彌覆せり。一切の菩薩の願力の起す所にして、佛に護念せられ、三世の莊嚴をもつて之を莊嚴せり。

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

【三六】扣摩。網にちりばめられたる寶珠が互に相觸れてうち合ひ、音を發すること。
【三七】六、寶樹の莊嚴を明かす。
【三八】寶樹。樹は衆德を建立する義なり。

『〔三九〕盧舍那佛は十方に徧くして、一切の〔四〇〕化莊嚴身を出すも、彼亦來らず亦去らず、佛の願力の故に皆悉く見たてまつる。

一切の佛刹微塵の中の、無量の佛子は諸の行を修し、悉く清淨なる國土の〔四一〕記を受け、嚴淨の刹を見るに本行に稱へり。』

〔四二〕佛子よ、當に知るべし、此の蓮華藏世界海の中の、一一の境界に、世界海微塵數の清淨なる莊嚴有り。

〔四三〕諸の佛子よ、此の香水海の上に、不可說の佛刹微塵數の世界性有りて住せり。或は世界性有りて蓮華の上に住し、或は無量の色の蓮華の上に在りて住し、或は眞珠の寶に依りて住し、或は諸の寶網に依りて住し、或は種種の衆生身に依りて住し、或は佛の摩尼寶王に依りて住し、或は須彌山の形、或は河の形、或は轉ずる形、或は旋流の形、或は輪の形、或は樹の形、或は樓觀の形、或は雲の形、或は網の形あり。

爾の時に普賢菩薩、偈を以て頌して曰はく、

『〔四四〕堅固にして清淨なる諸佛の刹は、離垢解脫の光明藏にして、摩尼の寶海に依止して住し、

【三九】頌に二偈あり、初は果行の自在、後は因行の所起を頌す。
【四〇】化莊嚴身。種種に莊嚴せられたる化身の意なり。
【四一】記は記別にして、佛が修行者の未來の證果を豫言し給ふことなり。
【四二】以上、本世界を明かす。結文なり。
【四三】次に雜類の世界性を明かす。
【四四】初の二偈は前の依住と形狀とを頌す。

或は香海に依止して住する有り。
或は種種の方便に依りて住し、或は莊嚴の衆色に依りて住し、或は復た須彌、樹、圓の形あり、
種種の寶門の佛刹に住す。
(四五)或は光明の身、諸の華藏あり、寶雲普く淨き光明を放ち、光明は勝れたる世界に充滿し、寶
地の海藏壞す可からず。
或淨き佛刹、無量の色、光明炎雲、衆の色等あり、或妙音の諸の世界有り、自然の常音は不思議なり。
無數の願樂、種種の身、自在の行雲、音聲の身、衆生の無量なる德音
の身、最勝の一切德音の身あり。
(四六)種種の門は諸の佛刹に入り、漸に至りて無盡不思議なり、無數の一
切十方に滿ち、無盡の無量普く自在なり。
一切諸寶の如來の刹は、廣大の方便をもつて佛界に入り、十方の刹漸
次に至るを見るも、國土は增さず亦減せず。
一の國土を以て十方に滿ち、十方一に入りて亦餘すこと無し、世界の本相も亦壞せず、無比の功
德の故に能く爾なり。

【四五】次の三偈は刹に色聲の莊嚴あることを頌し、體德の圓備を顯はす。
【四六】次の三偈に諸の刹土の卽入無礙を頌し、妙用自在を顯はす。

〔四七〕一切の佛刹の微塵の中に、盧舍那の自在力を見たてまつり、〔四八〕宏誓の願海に音聲を震ひ、一切衆生の類を調伏す、
佛身は一切の刹に充滿し、無數の菩薩も亦是の如く、衆生を敎化して量有ること無く、佛自在を現じて倫匹無し。』

〔四九〕爾の時に普賢菩薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、彼の衆の香水海の中に、一の香水海有り、樂光明と名け、一切の香摩尼寶王をもつて莊嚴せる蓮華有り。上に世界有り、淸淨寶網光明と名け、佛を離垢淨眼廣入と號けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、離香蓮華勝妙莊嚴と名け、寶網に依りて住し、形は師子の座の如く、佛を師子座光明勝照と號けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、寶莊嚴普光明と名け、諸華に依りて住し、形は日輪雲の如く、佛を廣大光明智勝と號けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、雜光蓮華と名け、佛を金剛光明普精進善起と號けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、無畏嚴淨と名け、佛を平等莊嚴妙音幢王と號

【四七】後の二偈は三世間自在を頌し、攝化の勝用を顯はす。

【四八】宏誓願。佛は大慈悲心を以て弘く一切の衆生を救ひ、同じく佛果に到らしめんとの誓願を立て給ふ、其の深廣なることを海に喩へて宏誓の願海といふ。

【四九】後に、上に向つて廣く諸刹を持することを明かす、(十二の佛國土と七世界性とを辨す)

けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、華開淨炎と名け、佛を受海功德稱王と號けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、總持と名け、佛を淨智慧海と號けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、解脫聲と名け、佛を善相幢と號けたてまつる。彼の世界の上に佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、勝起と名け、佛を蓮華藏光と號けたてまつる。彼の世界の上に佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、善住金剛不可破壞と名け、佛を(五〇)那羅延不可破壞と號けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、華林赤蓮華と名け、佛を雜寶華鬘智王と號けたてまつる。彼の世界の上に、佛刹塵數の世界を過ぎて、佛國有り、淨光勝電如來藏と名け、佛を能起一切所願功德と號けたてまつる。彼の世界の上に、香水海あり、淨光炎起と名け、中に(五一)世界性有り、善住と名く。次上に復た香水海有り、金剛眼光明と名け、中に世界性有り、法界等起と名く。次上に復た香水海有り、蓮華平正と名け、中に世界性有り、出十方化身と名く。次上に復た香水海有り、寶地莊嚴光明と名け、中に世界性有り、寶枝莊嚴と名く。次上に復た香水海有り、化香炎と名け、中に世界性有り、清淨化と

【五〇】那羅延。又は那羅野拏(Nārāyaṇa)人本生、堅固力士などと譯す。天の力士にして其の力量は大象の七十倍なりといふ。

【五一】世界性。性は積集の義にして、無數の世界を積集して一世界性を成すなり。(其の世界を無數に積集したるを一世界海といふ)

名く。次上に復た香水海有り、寶幢と名け、中に世界性有り、佛護念と名く。次上に復た世界性有り、衆色普光と名く。是の如くして、次上に世界塵數の香水海、及び世界性有り。一方の如く十方も亦是の如し。盧舍那佛の常に法輪を轉じたまふ處なり。

爾の時に普賢菩薩、偈を以つて(五二)頌して曰はく、

『(五三)法界不可壞の、蓮華世界海は、垢を離れ廣く莊嚴せられて、虚空に安住せり。

此の世界海の中の、刹性は思議し難く、善く住して雜亂せず、各各悉く自在なり。

平正に住して莊嚴し、種種の色に依りて住し、如來の世界海は、佛刹の相と隨順せり。

種種の身、香聲と、一切の佛の自在とは、普く諸の世界を見るに、

種種の業をもつて莊嚴せり。

須彌山城の網、水旋、輪、圓の形、清淨色の蓮華、彼彼悉く圍繞せり。

(五四)尸羅幢、盆の形、隨順轉色の形、是の如く思議し難きは、諸佛の國土の形なり。

【五二】頌に七十偈あり、前の文を頌し、十二佛國七世界性に通じて十世界海の義あることを明かす。

【五三】初の九偈は總じて前文を頌す

【五四】尸羅(Śila)。普通には、戒又は清凉と譯すも此には首羅又は試羅(Śila)と同義にして小寶、璧玉等と譯し玉を以て社となせるをいふ。

不思議の世界は、蓮華に依止して住し、大光明網に於て、普く一切を照す。
一一の如來の刹は、諸の光明網を放ちて、一切の佛國を照し、十方海に充滿す。
一切諸佛の刹は、一切の境界門にて、一切の方便をもつて入り、皆悉く無量なるを見る。
【五三】不思議の佛刹は、壞せず盡す可からず、無量にして淨く莊嚴せるは、大仙の威神力なり。
彼の如來刹の頂の、不思議の世界は、或は成り或は敗るる有り、不生にして亦不滅なり。
譬へば諸の樹林の、華葉或は生落するが如く、是の如く諸の佛刹の、成敗も亦復た然なり。
種種の樹に依りて、種種の果の生ずること有るが如く、是の如く種種の刹に、種種の衆生有り。
種子差別するが故に、果實の生ずることも同じからず、行業若干なるが故に、佛刹も種種に異る。
譬へば如意寶珠の、意に隨つて衆色を現ずるがごとし、諸の妄想を除くが故に、悉く淸淨の刹を見る、
譬へば空中の雲は、龍王の力にて能く現ずるが如く、是の如く佛の願力にて、一切の佛刹は起る

【五三】以下十海を頌す。中に於て初の十一偈は因緣を具して起る世界海を頌す（神力因、業種因、幻業因、心蓄因、妄想因、心行因、の七因緣を明かす）

なり。

猶ほ工なる幻師の、能く種種の業を現ずるが如く、是の如く衆生の業にて、佛刹は不思議となる。

彩畫の像を見て、是れ畫師の造なりと知るが如く、是の如く佛刹を見るに、心の畫師の成す所なり。

衆生の心同じからざれば、隨つて諸の妄想を起す、是の如く諸佛の刹も、一切皆化の如し。

猶ほ導師の、種種無量なる色を見るが如く、衆生の心行に隨つて、佛刹を見るも亦然なり。

【五六】次の二偈は莊嚴世界海を頌す。

【五七】次の四偈は清淨世界海を頌す。

(五六) 無量の眞珠の華は、悉く諸の佛刹を覆ひ、色の現ずること各同じからず、離垢莊嚴せられて現ず。

彼の蓮華網の中に、佛刹網依住し、種種に妙莊嚴して、衆生の所依の處となる。

(五七) 或は佛刹地有り、垢穢にして平正ならず、衆生の煩惱の故に、是の如きの佛刹を起す。

清淨と、不清淨とありて、佛刹は不思議なり、衆生の希望より起り、菩薩の持する所なり。

清淨、不清淨の、無量の諸の佛刹は、業海の因緣より起り、菩薩の化する所なり。

或は清淨の光を放ち、垢を離れたる衆の寶體あり、種種に妙莊嚴して、諸佛は清淨ならしむ。

(五八)一佛國土の中の、火災は議る可らず、不淸淨なるを示現して、而も刹は常に堅固なり。

或は風輪に依りて住し、或は復に水輪に依り、無量の刹の(五九)成敗するは、衆生の行業の故なり。

無量の佛刹を見るに、或は成り或は敗るる有るも、彼も亦成る有ること無く、亦復た敗るること有る無し。

一一の念の中に於て、無量の佛刹起る、諸佛の持する所なるが故に、國は淸淨にして垢を離る。

(六〇)或は佛刹有り起り、泥土にして淸淨ならず、明を離れて常に闇冥なり、罪ある衆生の住する所なり。

或は泥土の刹有り、煩惱にて大いに恐怖し、樂少く憂苦多し、薄福のものの處る所なり。

或は鐵の世界有り、或は赤銅の國あり、諸の石山ありて穢惡なり、衆生の業の故に起る。

或は泥土の刹有り、衆生常に苦惱し、長へに冥くして光明を離るるも、光明の海は能く照す。

諸の畜生趣の中に、無量種の身を受け、宿の行業に隨ふが故に、長へに無量の苦を受く。

【五八】次の四偈は壞方便世界海を頌す。

【五九】成敗。成立と敗壞の義。世界に成住壞空の四劫あり、今は其の中成劫と壞劫となさすなり。

【六〇】次の二十偈は體世海を頌す。中に於て初の六は純染苦、次の四は雜苦樂、後の十は純淨樂の體を明かす。

（六一）閻羅王界の中には、饑渇の苦常に逼り、大火の山に登上り、長く無量の苦を受く。

或は七寶の刹有り、平正に住して莊嚴せられ、淸淨の業力より起り、微妙にして善く安隱なり。

彼の佛刹土の中には、唯人天の趣のみ有り、功德の果成就して、常に諸の快樂を受く。

一一の毛孔の中に、不思議億の刹あり、無量の形をもつて莊嚴するは、種種の業の起す所なり。

其の自の業に隨つて起る、衆生界は議り難し、種種の（六二）相を取り已りて、或は樂を受け苦を受く。

（六三）或刹は光無量にして、一切の寶を地と爲し、金剛の華徧く覆ひ、垢を離れて淨く莊嚴するあり。

或刹は光明を體として、光明輪に安住し、金色にして栴檀香あり、光明雲は常に照せり。

或刹は日輪を體として、衆香寶衣を布き、或は一蓮花の中に、菩薩悉く充滿せり。

或は無量の色の、離垢寶の佛刹有りて、紺寶の光明網あり、光明網は電のごとく照す。

【六一】閻羅王、具さに閻魔羅闍（Yamarāja）通俗には閻魔王と稱す、雙世王、遮止等と譯し十王の一にして地獄の王なり

【六二】相を取るとは取著を生ずること。

【六三】次の偈は純淨樂の體を明かす中初の五は事に隨つて體を辨じ、後の五は妙用自在を明かす。

或は佛刹土有り、金剛華を體と爲し、或は衆の寶華を布き、觀察するに甚だ淸淨なり。
普賢菩薩の願の、得し所の淸淨國なる、三世の莊嚴刹は、悉く此の中に現はる。
諸の佛子、汝觀よ、佛の世界は自在にして、未來の一切刹は、悉く現じて皆夢の如し。
十方一切の刹と、過去の佛國海とを、一世界に於て見るに、一切の刹は化の如し。
三世の一切佛と、幷びに一切の佛土とは、一世界に於て、三世の佛及び刹を見る。
微塵の上の刹を觀るに、一切の佛は自在にして、無量に妙莊嚴し、皆悉く電光の如し。

(六四)或は無量の佛土あり、其の形は猶ほ海の如く、須彌山の如き有りて、世界は思議し難し。
國有り珠貫の如く、紺寶の網に依りて住し、或は樹の莊嚴に依り、一切の佛充滿したまへり。
或は摩尼輪に依り、或は蓮華に依止し、八隅にして雜莊嚴し、垢を離れたる種種の色あり。

(六五)或は師子座の如く、或は國有り金の如く、或は衆寶の形の如く、或は(六六)梵世の處の如し。
或は天主、月の形、又復た形日の如く、或は摩尼寶の如くして、栴檀香をもつて莊嚴せり。
或は旋香鬘の如く、佛の世界安住し、或は光明輪の如く、種種の色をもつて莊嚴せり。

【六四】次の三偈は住世界海を頌す。
【六五】次の三偈は形世界海を頌す。
【六六】梵世。梵天のこと。

(六七)或は壽命一劫、或は復た壽百劫、或は復た壽命の、佛刹の微塵に等しき有り。或は一劫の中に於て、無量の刹起り、無量にして數ふ可からざる、不思議の刹の壞することを見る。

(六八)或國土には佛無さず、或國土には佛有し、或國土は一佛にして、或は無量の佛有す。

若し國土に佛無さざれば、他方の異れる世界より、諸の化佛有り來りて、自在の敎を示現したまふ。

兜率より壽を捨てて、神を降し處胎して生れ、魔を降して正覺を成じ、無上の法輪を轉じたまふ。

衆生の樂ふ所に隨つて、種種の色を示現し、一切時に壞せず、淸淨の法輪を轉じたまふ。

若し衆生(六九)器に非ざれば、佛の見ざらしむるに非ずして、煩惱に障礙せられ、如來の意を見たてまつらざるなり。

(七〇)或刹は極めて濁惡にして、常に弊惡の音、剛强(七一)麤獷の聲を聞き、(七二)不愛にして大いに恐怖

【六七】次の二偈は劫世界海を頌す。
【六八】次の五偈は佛出世世界海を頌す。
【六九】器。法器の意。機緣熟して佛を見、法を聞くに堪へたる者をいふ。
【七〇】後の七偈は說世界海を頌す。
【七一】麤獷。あら〳〵しく、惡むべきこと。
【七二】不愛。恐るべく、厭ふべくして、好ましからざること。

す。

彼の地獄、畜生、餓鬼の趣は苦を受く、是れ濁惡の佛刹にして、衆生の憂惱の海なり。

或刹は甘露の音あり、常に柔輭の聲を聞き、淸淨業道の音は、普く一切の刹に聞こゆ。

或は佛刹有り、釋提桓因の聲、梵天王の妙聲、諸の世界主の聲を聞く。

光明旋の音聲には、佛の化身無盡なり、諸の菩薩の音聲は、常に佛の刹海に聞こゆ、

或は不思議の刹に、法輪を轉ずる聲。盡す可からざる願の聲、修行する所の音聲を聞く。

三世の諸佛の、具足せる尊き名號と、緣に隨ひて佛刹を起こし、音聲の盡す可からざるとを聞く』。

(七三)『諸の佛子よ、乃往久遠に、世界海微塵數の劫を過ぎ、復是數を過ぎて、爾の時に世界海有り淨光普眼と名く、中に世界性有り、勝妙音と名け、摩尼の華網海に依止して住し、淸淨にして穢無く須彌山塵數の世界有り。以て眷屬と爲しき。無量の寶をもつて地を莊嚴し、三百重の衆寶園山有り、高廣嚴淨にして、周帀圍繞しき。其世界性の形は須彌山の天宮の莊嚴せられたるが如く、念を以て食と爲せり。彼の世界性の中に、香水海有り、淸淨光と名けき。彼の香海の中に、須彌山有り、大炎

【七三】以上、果問に答へ、以下第二に得果の因を辨じて前の因問に答ふ。中に於て初に過去の時と處とを擧げ佛の出世を辨す。

華の莊嚴幢と名け、十種の寶の欄楯を以て圍繞せり。彼の須彌山に、林觀有り寶華枝と名け、無量なる華の樓閣、無量なる寶幢の樓閣、無量なる紺寶網、種種の色の華を以て、之を莊嚴し、無量の香雲其の上に彌覆し、十億百千の城、(七四)周帀圍繞せり。彼の林の東に於て一つの大城有り、名けて炎光と曰ひ、純香の成ずる所、面は千(七五)由旬にして、七寶を(七六)郭と爲して、周帀圍繞し、其城の樓觀は雜寶をもつて莊嚴し、覆ふに雜華及び諸の寶網を以てし、微風吹動して、妙なる音聲を出だせり。其の城に門あり、一萬二千、雜寶の幢を建てて之を莊嚴し、十億の園林周帀圍繞せり。城の中の衆生は、皆悉く業報として(七七)神足を成就し、行は諸天に同じく、一切の欲する所は念に應じて卽ち至りき。彼の林の南に於て一つの大城有り、樹華莊嚴と名け。次に龍の城有り、名けて究竟と曰ひ。次に夜叉の城有り、金剛勝妙莊嚴幢と名け、次に乾闥婆の城有り、離垢善と名け。次に阿修羅の城有り、寶輪地と名け。次に迦樓羅の城有り、衆寶莊嚴善光と名け。次に緊那羅の城有り、娛樂莊嚴と名け、次に摩睺羅伽の城有り、寶金剛幢と名けき。時に彼の林の中に一つの道場有り、寶華莊嚴と名け、其の道場の前に、大蓮華有り、華炎具足と名け、縱廣百億由旬

【七四】 周帀圍繞。周圍をとりまくこと。

【七五】 由旬。具さに踰繕那(ヨジャナ Jojana)といひ印度の里程を示す數にして一由旬は唐の三十里又は四十里に當るといふ。

【七六】 郭は外郭なり、城の周圍をとりまける墻壁のこと。

【七七】 神足。神足通又は身如意通といひ、時に應じて大小自在の身を現じ、意のままに飛行し得る通力をいふ、六神通の一なり。

にして、十億の蓮華の眷屬圍繞しき。時に彼の世界百歳を過ぎ已りて、佛有り世に出でたまひき。是の如くして次第に、十須彌山塵數の如來有り、世に出興したまひ、其の最初の佛を、一切功德本勝須彌山雲と名けたてまつりき。時に佛は彼の大蓮華の上に處したまひて、眉間の白毫より、大光明を放ち、一切功德覺と名け、十佛世界塵數の光明有り、以て眷屬と爲せり。彼の光は一切衆生の煩惱蓋障を滅除して、淨心を得、功德海を起して永く（七八）三惡（七九）八難の諸趣を離れ、菩提心を發さしめたまひき。

（八〇）諸の佛子よ、時に彼の炎光城の中に、王有り愛見善慧と名けき。其の王は百億の諸城を統領し、三萬七千の夫人婇女、二萬五千の子有り。其の第一の子を功德勝と名け、次を普莊嚴童子と名けたり。時に彼の童子、佛の無量なる自在の功德を見たてまつり、善根の因緣の故に、卽ち（八一）十種の三昧を得たり。名けて諸佛の具足する功德の三昧、普門方便の三昧、淨方便雲の三昧、衆生を敎化する三昧、一切の音聲充滿する三昧、無量の功德誠向の三昧、如實に諸法を覺る三昧、廣地方便海の三昧、勝解脫の三昧、一切智光の三昧と曰ひき』。

【七八】三惡。三惡趣にして地獄餓鬼、畜生なり。

【七九】八難。八難處にして佛を見、法を聞きて佛道を修行することを得ざる難なり、苦多くして法を聞くことを得ざる者に三あり、卽ち三惡趣に在るもの是なり、樂多くして法を聞かざる者に二あり、卽ち長壽天と、北俱盧洲に在る者是なり。其の外に、盲聾瘖瘂の者と、世智辯聰の者と、佛前佛後に生れたる者と、總じて八種あり故に八難處といふ。

【八〇】次に修行せし人を擧げ、自分の行を成ぜしことを辨ず。

【八一】十種の三昧云々。初の五は利他後の五は自利を成ぜんが爲めの定なり。

爾の時に普莊嚴童子、偈を以て頌して曰はく、

『(八二)猶ほ千日出でて、虚空照さざる靡きが如く、垢を離れたるもの道場に坐したまふに、光明も亦是の如し。

無量萬億劫にも、遇ひ難きの導師、世間に出興したまひ、一切のものは最勝を見たてまつる。

佛の光明を觀察したてまつるに、雲の如く思議し難く、一切の處に悉く見たてまつりて、目前に對現するが如し。

毛孔より光明を放ち、雲の如く盡す可からず、諸の衆生の音に從ひて、佛の無量の德を讚めたてまつる。

(八三)衆生は佛の光に遇へば、苦を離れて永く寂滅し、悉く安隱快樂にして、歡喜徧く充滿す。

諸の菩薩を觀察するに、十方界に充滿して、摩尼寶雲を放ち、諸の最勝を讚歎したてまつる。

常に道場に於て、深妙の音聲海を聞きて、諸の衆生の苦を滅し、佛の自在力を視たてまつる。

(八四)一切のものは恭敬を興し、歡喜の心無量にして、法王の所に往詣し、瞻仰して禮し供養したてまつれ。』

【八二】初の四偈は佛德の遇ひ難きを歎ず。
【八三】次の三偈は佛に遇ふて勝益を成ずる事を明かす。
【八四】後の一は佛を供養すべきことを勸めて結す。

時に彼の童子、偈を說くの音聲を、彼の世界に於て普く聞かざる無し。爾の時に愛見善慧王、是の偈を說くを聞きて、歡喜すること量り無く、偈を以て頌して曰はく、

『宜く時に普く、諸王大臣等に宣告して、吉祥の相を知らしめ、咸速かに最勝に詣でしむべし。

一切の城を莊飾して、宜しく悉く淸淨にし。諸の妙幢旛を建て、種種の寶をもつて莊嚴せしむべし。

衆の妙寶の帳を設け、彌覆して其の上に羅べ、伎樂音の雲を興して、徧く虛空に充たしめ、

諸の街巷を掃除し、降らすに雜寶の雨を以てし、衆の寶乘を莊嚴して、當に詣でて最勝を見たてまつるべし。

各其の帳の內に於て、種種の雲雨を雨らし、一切の莊嚴雲は、虛空の中に流行し、

香蓮華の光雲、華蓋は思議し難く、瓔珞の半月雲は、衆の妙寶衣を雨らし、

須彌山の香水、摩尼の寶をもつて莊嚴し、淸淨なる衆の雜寶、虛空の中に顯現す。

摩尼寶の華鬘、垢を離れたる衆の寶鬘、摩尼寶の燈雲、凝照して虛空に停る。

矚想して皆佛を念じて、無量の歡喜を生じ、妻子眷屬と倶に、當に詣でて最勝を見たてまつるべし。』

爾の時に愛見善慧王、七十七億那由他の眷屬と倶に、一切功德本勝須彌山雲佛の所に往詣し、到り已りて、頭面に足を禮し、一面に於て坐し、無量の天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦樓羅、緊那羅摩睺羅伽等有り、佛の所に往詣して、頭面に足を禮し、一面に於て住しき。

爾の時に如來、一切諸の衆生を敎化したまはんが故に、彼の大衆海の中に於て經を說きたまひ、現三世一切諸佛集會と名け、世界塵數の（八五）修多羅を以て眷屬と爲しき。諸の衆生は所應に隨つて解するが故なり。

爾の時に普莊嚴童子、是の經を聞き已りて、宿世の功德因緣の故に、一切寶具足の三昧、一切法來り入りて菩提心に安住する三昧、法界師子光方便三昧、法眼淸淨三昧を得たり。

爾の時に童子、（八六）偈を以て頌して曰はく、

『我、最勝の法を聞きて、淸淨の慧眼開け、能く一切の佛の、過去の功德海を見たてまつる。

我、一切の生に、本の色具足して、本の名と身業とに隨つて、一切の佛を供養したてまつりしが如く、

過去の諸佛の所の、無量劫海の行を見る、我、諸佛海と、淸淨の佛刹海とを見るに、

【八五】修多羅(Sūtra)。契經と譯す、佛の經典のこと。

【八六】頌に十偈あり、初の一は總說、次の七は別して佛の本生を辨じ、後の二は諸佛を見て修行の因となすことを明かす。

生死海の中に於て、自身を捨つること無量にして、菩薩の勝行を修し、佛刹海を嚴淨しき。
無量の耳鼻、頭目及び手足、王身、大臣身を捨てて、具足して國を淨むることを修しつ。
一一の佛刹の中にて、思議き難き億劫に、菩薩の道を修行して、佛刹海を淨からしめたり。
普賢菩薩の願は、諸の行海を修習して、一切刹海の中に、佛土をして清淨ならしめき。
日の光明淨くして、悉く色の具足を見るが如く、佛智の光に照され已りて、我が本の修行を見る。
無量の諸佛の、離垢の清淨刹を見たてまつるに、等正覺を成ずるの聲は、悉く法界に充滿せり。
彼、清淨を修して、佛刹海を具足せしが如く、一切の佛の神力をもつて、應に菩薩の行を修すべし。』

【八七】頌に九偈あり、如來、童子を讃歎して記別を授くることを明かす。

是の偈を說きし時、須彌山塵數の如き衆生、悉く無上道心を發しき。時に彼の如來、此の童子の爲めに偈を說きて曰はく、

(八七)『善い哉、普莊嚴、德藏の大名稱、能く衆生の爲めの故に、勇猛に菩提を求む。
能く智慧の光を發して、一切の法界に滿てり、無上道の德雲は、當に智慧海を得べし。
一國の中に修行すること、一刹微塵の劫にして、當に是の智慧に逮らんこと、我の得し所の如く

なるべし。
懈怠の者は、深き方便海を解ること能はず、精進の力成就せば、能く佛の世界を淨めん。
一切の微塵數の、劫海に衆の行を修せば、彼淨きを得んことは是の如くして、我が佛刹海の如くならん。
一一の衆生の故に、無量劫に苦行して、生死の難を厭はざれば、能く大導師と爲らん。
無量無邊の願は、一切の諸佛海に、能く無上道に度り、方便海具足せん。
我を恭敬し供養せば、普莊嚴大力、勝須彌山佛は、汝に無上道を成ぜしめん。
普賢は常に勇猛にして、大名稱を具足し、一切の法界に滿ちて、諸佛の刹海を淨めん。」

【八八】更に後の佛を見て勝進行を成ぜしことを明かす。

〔八八〕爾の時に一切功德本勝須彌山雲如來は、壽五十億歲なりき。彼の佛の滅度の後、佛有して世に出で、一切度離癡清淨眼王如來と號けたてまつりき。普莊嚴童子は、是の如來を見已りて、即ち念佛三昧、普門海藏三昧、無量智持轉法三昧、甚深法樂三昧を得たり。時に佛は經を說きたまひ、一切法界自性離垢莊嚴と名け、世界の微塵に等しき修多羅有り、以て眷屬と爲せり。普莊嚴童子は、是の經を聞き已りて、即ち三昧を得、一切法普門歡喜藏三昧、一切法に入る方便海三昧と名けたりき。

如來名號品第三

（一）佛、摩竭提國の寂滅道場に在して、初始めて佛となることを得て、（二）普光法堂にて、蓮華藏の師子座の上に坐したまひき。（三）善覺の智は、二念無く、法性に了達し、佛の（四）所住に住し、諸の如來と等しく、（五）無礙の趣に至り、（六）不退の法を具へ、（七）無壞の境界にして、（八）不思議に住し、等しく三世に達したまひ、十佛國土の微塵數に等しき大菩薩と俱なりき。盡く（九）一生補處にして、悉く他方の世界より來り集れり。衆生の性を了りて、深く法界に入り、常に善く世間と涅槃とを思量し、明かに業報と、衆生の心行とを了り、悉く能く諸法の（一〇）義味を解知し、世間と離世間との法を觀察し、究竟して（一一）爲無爲の性を分別し、去來現在貫達せざる靡し。

（一二）時に諸の菩薩、咸是の念を作さく、

『惟願くは世尊よ、我等を哀愍したまひ、志樂する所に隨つて、（一三）佛刹を示現し、佛の所住を示し、佛國の莊嚴を示し、諸佛の法を示し、佛土の清淨を示し、佛所說の法を示し、佛刹の體を示し、佛の功德の勢力を示し、（一四）隨

【一】第二會。序說。

【二】普光法堂。菩提樹の東南約三里を隔て、尼連河の屈曲せる處に在りしと傳ふ。

【三】善覺の智。正覺の智と同じ、理に順じて邪を離れたるを善、又は正といひ、諸法の眞理を開明し照察するを覺といひ智といふ。佛の正覺の智を總括して表はしたるなり、次の九句は之を別釋したる者なり。

【四】所住。大悲に住することにして、化他の德なり。

【五】無礙の趣。一切の障礙を斷じたる解脫の境界なり。

【六】不退の法。外道を屈伏せしむる德にして、佛の教法は

つて佛刹の起りしことを示し、正覺を成じたることを示したまへ。十方一切の如來の分別す可き所の、菩薩の十住、十行、十回向、十藏、十地、十願、十定、十自在、十頂。菩薩の(一五)隨喜の心、如來性を斷ぜざらしめ、衆生を救ひ、煩惱を滅し、(一六)衆の行を知り、諸法を解り、垢穢を離れしめ、衆の難を拔き、疑網を決し、愛欲を竭さしむることを開示したまへ。佛の無上地、佛の境界、佛の住壽、佛の行、佛の力、佛の無所畏、佛の定、佛の神足、佛の勝法、佛の(一七)不動轉、佛の(一八)六情根、佛の光、佛の智、無上の功徳の一切具足せる。是の如き等の事を悉く我が爲めに現じたまへ。」

(一九)爾の時に世尊、諸の菩薩の心に念ふ所を知して、卽ち其の(二〇)像の如く神通力を現じたまへり。神力を現じ已りて、東方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、金色と名け、佛を不動智と號けたてまつる。菩薩有り、(二一)文殊師利と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣で、恭敬し供養して、(二二)頭面に足を禮し、卽ち東方に於て、蓮華藏の師子の座を化作して、結跏趺坐せり。

外道の翟退轉せしむること能はず、却て佛の正法に伏せらるるが故に不退の法といふ。

【七】無壞の境。諸魔を降伏する德にして内外の誘惑に心を壞られざるをいふ。

【八】不思議。最勝の教法を說くこと、佛の教法は世間の思量する能はざる所なるが故に不思議といふ。

【九】一生補處。一生を過ぎて成佛して、佛處を補ふべき等覺の位に在る菩薩をいふ。

【一〇】義味。義は諸法の義理、味は義を詮表する所の教法をいふ。

【一一】爲無爲。有爲法と無爲法となり、有爲法とは因縁より生じたる諸現象をいひ、無爲法とは生滅なき不變の理體をいふ。

【一二】問を擧げて說法を請ふ。

南方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、樂色と名け、佛を大智と號けたてまつる。菩薩有り覺首と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち南方に於て、蓮華藏の師子座を化作して、結跏趺坐せり。

西方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、華色と名け、佛を習智と號けたてまつる。菩薩を財首と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち西方に於て、蓮華藏の師子の座を化作して結跏趺坐せり。

北方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、(三)薝蔔華色と名け、佛を行智と號けたてまつる。菩薩を寶首と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち北方に於て蓮華藏の師子の座を化作して、結跏趺坐せり。

東北方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、靑蓮華色と名け、佛を明智と號けたてまつる。菩薩を德首と字け、十佛刹の塵數の菩薩と與に來り

【三】 問に總じて三十四問あり、三類に分つ、初の十問は因所依の果(已成の佛の法)を問ひ、中間の十問(開けば十九問)は果所起の因(當成の佛の法)を問ひ、後の十四問は因所得の果(今成の佛の法)を問ふ。而して初の問は此の會の初三品に於て答へ、次の問は第九昇須彌頂品より第二十七菩薩住處品に至るまで通じて之に答へ、後の問は第二十八不思議品より第三十一普賢行品に至るまで通じて之に答ふ。

【四】 隨ひて佛刹云云。緣に隨ひ機に應じて佛國の起りしこと。

【五】 隨喜心。他の少善をなす事も自己の事の如くに隨つて喜ぶ心なり(以下の十句は菩薩の隨緣化他を問ふ、故に之

て佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち東北方に於て、蓮華藏の師子の座を化作して、結跏趺坐せり。

東南方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、金色と名け、佛を究竟智と號けたてまつる。菩薩を日首と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち東南方に於て蓮華藏の師子の座を化作して、結跏趺坐せり。

西南方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、寶色と名け、佛を上智と號けたてまつる。菩薩を進首と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち西南方に於て、蓮華藏の師子の座を化作して、結跏趺坐せり。

西北方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、金剛色と名け、佛を自在智と號けたてまつる。菩薩を法首と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち西北方に於て、蓮華藏の師子の座を化作して、結跏趺坐せり。

を總じて一問となす）

【一六】衆の行。衆生の根行の意。

【一七】不動尊。佛の無礙自在の妙用をいふ。

【一八】六情根。眼、耳、鼻、舌、身、意の六をいふ。

【一九】巳下前の所問に答ふ。中に於て此の會中に初の十問を答ふ。初に先づ大衆を集め圓滿を顯はす。

【二〇】像の如く現ずとは機に應じて佛身を印現し、神通力を示すことなり。

【二一】文殊師利。又は曼殊室利（Mañjuśrī）略して文殊といふ。妙吉祥、妙德等と譯し、智を表示す。

【二二】頭面禮足。長者に對する最上の禮法にして、兩手を伸べ、掌を以て長者の足をうけ、已の頭面に接し戴くこと

下方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、玻瓈色と名け、佛を梵智と號けたてまつる。菩薩を智首と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち下方に於て、蓮華藏の師子の座を化作して、結跏趺坐せり。

上方十佛刹微塵數の國を過ぎて、世界有り、如實色と名け、佛を伏怨智と號けたてまつる。菩薩を賢首と字け、十佛土の塵數の菩薩と與に來りて佛の所に詣でて、恭敬し、供養して、頭面に足を禮し、卽ち上方に於て、蓮華藏の師子の座を化作して、結跏趺坐せり。

(二四)是の時に文殊師利菩薩、佛の神力を承て、大衆を觀察し、歎じて曰く、『快い哉、今の菩薩の會は爲未だ曾て有らざるなり。諸の佛子よ、當に知るべし佛刹は不可思議なり。佛の住、佛の國、佛の法、佛刹の淸淨、佛の說法、佛の出世、佛刹の起りしこと、諸佛の(二五)阿耨多羅三藐三菩提は皆不可思議なり。何を以ての故に。十方の諸佛は法を說きたまふに、彼の心行を知して、隨つて衆生を化し、虛空法界と等しければなり。何を以

なり。

【二三】薝蔔華。又は瞻波(Campaka)黃華又は黃色花と譯し其の花甚だ香氣ありといふ。

【二四】以下文殊菩薩正しく法を說く(文殊の智慧は佛と同等にして其の相好も亦佛と異る事なければ佛に代りて答ふ)

【二五】阿耨多羅三藐三菩提(Anuttarasamyak-sambodhi)。無上正等覺又は無上正徧知等と譯し、佛の正覺の智慧をいふ。

【二六】娑婆世界(Sahā)。堪忍土と譯す。內外の諸の苦惱を堪へ忍ばざる可らざる國土の義にして此の世界をいふ。

【二七】諸得。心識諸の境を得るの義、又は修行證得の義なり。

【二八】諸入。境體諸根に入るの義又は悟入の門異るの義なり。

【二九】生處。受生の處にして四

ての故に。此の(二六)娑婆世界の中の、諸の四天下にて一切を教化したまふに、種種の身、種種の名、處所、形色、長短の壽命、(二七)諸得、(二八)諸入、諸根、(二九)生處、業報、是の如きの種種同じからず、衆生の所見も亦異ればなり。何を以ての故に。諸の佛子よ、此の四天下にて佛號同じからず。或は(三〇)悉達と稱へ、或は滿月と稱へ、或は師子吼と稱へ、或は(三一)釋迦牟尼と稱へ、或は神仙と稱へ、或は盧舍那と稱へ、或は(三二)瞿曇と稱へ、或は(三三)大沙門と稱へ、或は最勝と稱へ、或は能度と稱ふ。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり◎諸の佛子よ、次で此の東方に、四天下有り、名けて善護と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は金剛と號け、或は尊勝と號け、或は大智と號け、或は不壞と號け、或は雲王と號け、或は無諍と號け、或は平等と號け、或は歡喜と號け、或は無比と號け、或は默然と號く。是の如き等の佛を稱ふる名號、其數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の南方に、四天下有り、名けて難養と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は甘露灌と名け、或は善名稱と名け、或は離垢と名け、或は實論師と名け、或は調御と名け、或は樂慧

生、六趣等なり。

【三〇】悉達。又は悉達多(Siddhārtha)。頓吉、一切義成等と譯す。釋尊太子たりし時の名なり。

【三一】釋迦牟尼(Śākyamuni)。能仁寂默又は能儒、能滿等と譯す。

【三二】瞿曇。喬答摩(Gautama or Gotama)の訛略にして、地最勝と譯し、佛の尊稱なり、(本釋迦種族の姓として日種、地種とも譯す)

【三三】沙門。室羅摩拏(Śramaṇa)の訛略にして勤息、止息等と譯す。諸善を勤修し諸惡を防止するの義にして、出家して佛道を修むる人をいふ。大沙門とは卽ち佛をさす。

と名け、或は大音と名け、或は衆祐と名け、或は無量と名け、或は勝慧と名く。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の西方に四天下有り、名けて佛慧と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は性慧と謂ひ、或は愛現と謂ひ、或は無上王と謂ひ、或は無恐怖と謂ひ、或は實慧と謂ひ、或は常化と謂ひ、或は知足と謂ひ、或は法慧と謂ひ、或は究竟と謂ひ、或は能忍と謂ふ。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の北方に四天下有り、師子言と名く。彼にて如來を稱ふるに、或は（三四）大牟尼と稱へ、或は苦行と稱へ、或は（三五）婆伽婆と稱へ、或は福田と稱へ、或は一切智と稱へ、或は善意と稱へ、或は清淨と稱へ、或は（三六）伊那婆那と稱へ、或は勝鬘と稱へ、或は願行滿と稱ふ。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の東北方に、四天下有り、名けて安寧と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は法王と號け、或は等起と號け、或は寂靜と號け、或は妙天と號け、或は離欲と號け、或は勝慧と號け、或は等心と號け、或は無壞と號け、或は慧音と號け、或は遠來と號く。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の東南方に四天下有

【三四】大牟尼（Muni）。寂默、仙、智者等と譯す。すべて寂靜に處して道を修する者をいふ。大牟尼とは釋迦牟尼即ち佛をさす。

【三五】婆伽婆。又は薄伽梵（Bhagavat）。有德、尊貴、世尊等と譯し、如來の衆德を總括したる尊稱なり。

【三六】伊那婆那（Airavaṇa）。王林と譯す。佛の太子たりし時此の林中に在りて生れたるが故に此の名を立つ。

り。名けて喜樂と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は蓮華と名け、或は慧火と名け、或は智人と名け、或は密敎と名け、或は解脱と名け、或は自然安住と名け、或は妙行成就と名け、或は淸淨眼王と名け、或は上勇と名け、或は精進力と名く。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の西南方に四天下有り、名けて堅固と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は不動と稱へ、或は慧王と稱へ、或は滿慧と稱へ、或は無動慧と稱へ、或は常悲と稱へ、或は頂王と稱へ、或は勝音と稱へ、或は一切施と稱へ、或は持仙と稱へ、或は勝須彌山と稱ふ。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の西北方に、四天下有り、(三七)須菩提と名く。彼にて如來を稱ふるに、或は普慧と號け、或は光明成就と號け、或は寶髻と號け、或は應敬念と號け、或は無上義と號け、或は悅樂と號け、或は本性淸淨と號け、或は光明滿と號け、或は修臂と號け、或は本善住と號く。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の下方に四天下有り、名けて炎道と曰ふ。彼にて如來を謂ふに、或は長養善根と名け、或は師子色と名け、或は利智と名け、或は眞金炎と名け、或は普親と名け、或は梵音と名け、或は饒益と名け、或は究竟來と名け、或は眞天と名け、或は平等施と名く。是の如き等の佛を稱ふる名號、其の數一萬なり。諸の佛子よ、次で此の上方に四天下有り、名けて持地と曰ふ。彼に

【三七】須菩提(Subhūti) 善吉、善業、善實等と譯す。

て如來を謂ふに、或は猛慧と稱へ、或は無量清淨と稱へ、或は覺慧と稱へ、或は勇首と稱へ、或は妙莊嚴と稱へ、或は能發歡喜と稱へ、或は意成滿と稱へ、或は火光と稱へ、或は精進と稱へ、或は一乘と稱ふ。諸の佛子よ、是の如き持地の四天下にて佛を稱ふる名號、其の數一萬なり◎此の娑婆世界に是の如き等の百億の四天下有り、彼にて如來を稱ふるに亦各同じからずして、百億萬あり。

諸の佛子よ、此の娑婆世界の東に、次で國土有り、名けて密訓と曰ふ。彼にて如來を謂ふに、或は平等と稱へ、或は最勇と稱へ、或は安慰と稱へ、或は調意と稱へ、或は開慧と稱へ、或は一切捨と稱へ、或は自在と稱へ、或は堅固身と稱へ、或は大超越と稱へ、或は無比智と稱ふ。諸の佛子よ、是の如く密訓國土にて佛を稱ふる名號、百億萬有り◎諸の佛子よ、此の世界の南に、次で國土有り、名けて最勇と曰ふ。彼にて如來を謂ふに、或は自然清淨と稱へ、或は意至到と稱へ、或は能仁と稱へ、或は解脫王と稱へ、或は智慧王と稱へ、或は明行足と稱へ、或は善誓と稱へ、或は能寂滅と稱へ、或は大悲と稱ふ。是の如き等の佛を稱ふる名號、百億萬有り◎諸の佛子よ、此の世界の西に、次で國土有り名けて離垢と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は具足直心と稱へ、或は分別道と稱へ、或は善持と稱へ、或は解脫衆亂と稱へ、或は論師と稱へ、或は分別衆寶と稱へ、或は無上現と稱へ、或は來化と稱へ、或は一切苦行と稱へ、或は具足力と稱ふ。是の如き等の佛を稱ふる名號、百億萬有り◎諸

の佛子よ、此世界の北に次で國土有り寶境界と名く。彼にて如來を謂ふに、或は蒼蔔華色と稱へ、或は日藏と稱へ、或は依精進住と稱へ、或は等起住壽と稱へ、或は超寶と稱へ、或は慧目と稱へ、或は無障礙と稱へ、或は月出と稱へ、或は慧火勢と稱へ、或は清淨身と稱ふ。是の如き等の佛を稱ふる名號百億萬有り。◎諸の佛子よ、此世界の東北に、次で國土有り名けて（三八）訶尼と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は離苦と號け、或は一切解脱と號け、或は因緣具足と號け、或は解脱智慧と號け、或は過去藏と號け、或は寶光と號け、或は離世間と號け、或は至離身地と號け、或は端嚴藏と號け、或は離瞋恚心と號く。是の如き等の佛を稱ふる名號百億萬有り。◎諸の佛子よ、此の世界の東南に、次で國土有り名けて饒益と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は因緣と號け、或は盡智と號け、或は美音と號け、或は根勝と號け、或は莊嚴蓋と號け、或は淨根と號け、或は殊特と號け、或は分別到彼岸と名け、或は勝定と號け、或は慈父と號け、或は智海と號く。是の如き等の佛を稱ふる名號百億萬有り。◎諸の佛子よ、此の世界の西南に次で國土有り名けて鮮少と曰ふ。彼にて如來を稱ふるに、或は牟尼主と號け、或は樂寶と號け、或は不二觀と號け、或は知智と號け、或は謙意と號け、或は有緣見と號け、或は根主と號け、或は天人師と號け、或は建業と號け、或は金剛華と號く。是の如き等の佛を稱ふる名號百億萬有り。◎諸の佛子よ、此世界の西北に次で國土有り、名けて知足と曰ふ。

【三八】 訶尼（Hāni）捨義又は生滅と譯す。

彼にて如來を稱ふるに、或は華聚と號け、或は栴檀蓋と號け、或は蓮華藏と號け、或は超越諸法と號け、或は法顯と號け、或は次起と號け、或は善淨蓋と號け、或は離垢善根と號け、或は善音と號け、或は專念法と號け、或は五法藏と號く。是の如き等の佛を稱ふる名號百億萬有り。諸の佛子よ、此世界の下に次で國土有り、離搏食と名く。彼にて如來を稱ふるに、或は眞珠炎と號け、或は普化と號け、或は法命主と號け、或は無爲と號け、或は覺根と號け、或は離塵と號け、或は風無礙と號け、或は欣施と號け、或は分別道と號け、或は建幢と號く。是の如き等の佛を稱ふる名號百億萬有り。諸の佛子よ、此世界の上に次で國土有り、解脫音と名く。彼にて如來を稱ふるに、或は猛幢と號け、或は無量寶と號け、或は樂大施と號け、或は天光と號け、或は吉祥輿と號け、或は離死地と號け、或は最勝と號け、或は不退輪と號け、或は離非法と號け、或は修一切智と號く。諸の佛子よ、此解脫音世界にて佛を稱ふる名號百億萬有り。娑婆國土及十世界の如く、是の如く東方の百千億の不可量、不可數、不可思議、不可稱、無等、無邊、無分齊、不可說の、虛空法界の等しき世界の中の衆生、佛を稱ふる名號、各各同じからず。南西北方四維上下も、亦復是の如し。皆是如來の菩薩爲りし時、因緣を有する者は此を度せんが爲の故に、種種の方便、口業の音聲、行業の果報、法門の(三九)權道、諸根の樂ふ所をもつて、諸の衆生をして如來の法を知らしめたまふなり。

【三九】權道。種種なる權方便の諸門にして此には意業に配す。

卷の第五

四諦品第四

爾の時に文殊師利、衆の菩薩に告げて言はく、

「佛子よ、説く所の(一)苦諦は、此の娑婆世界に於て、或は害と言ひ、或は逼迫と言ひ、或は(二)變異と言ひ、或は境界と言ひ、或は(三)聚と言ひ、或は刺と言ひ、或は(四)依根と言ひ、或は不實と言ひ、或は(五)癰と言ひ、或は(六)童蒙行と言ふ。説く所の(七)苦集諦は、或は火と言ひ、或は能壞と言ひ、或は受義と言ひ、或は覺と言ひ、或は方便と言ひ、或は決定と言ひ、或は網と言ひ、或は念と言ひ、或は順衆生と言ひ、或は顚倒根と言ふ。説く所の(八)苦滅諦は、或は無障礙と言ひ、或は離垢淨と言ひ、或は寂靜と言ひ、或は無根と言ひ、或は不死と言ひ、或は無所有と言ひ、或は因縁斷と言ひ、或は滅と言ひ、或は眞實と言ひ、或は自然住と言ふ。説く所の(九)苦滅

【一】苦諦。迷界の果報は皆悉く苦なるをいふ。諦とは審實不虚の義なり。

【二】變異。三苦の中の壞苦にして、己の愛著する者の變異破滅する苦惱をいふ。

【三】聚。八苦の一なる五陰盛苦にして、生老病死等の衆苦の聚集する苦なり。

【四】依根。苦に依りて一切の惡を生ずるが故に依根といふ。

【五】癰は危害ある惡性の瘡なり。

【六】童蒙行。無知、愚人の所

道諦は、或は一乘と言ひ、或は趣寂靜と言ひ、或は引導と言ひ、或は究竟悕望と言ひ、或は常不離と言ひ、或は能捨擔と言ひ、或は至非趣と言ひ、或は聖人隨行と言ひ、或は仙人行と言ひ、或は（一〇）十藏と言ふ。諸の佛子よ、此の娑婆世界の中にて是の如き等の四諦の名字、四十億百千（一一）那由他有り。諸の衆生の所應に隨ひて（一二）調伏せんとて、是の如きの說を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に稱する所の苦諦の如く、（一三）密訓世界に於ても、或は求根と名け、或は不可出と名け、或は不縛根と名け、或は作不應作と名け、或は一切不實と名け、或は分別羸と名け、或は處所成就と名け、或は第一害と名け、或は動と名け、或は身事と名く。名くる所の苦集諦は、或は受と名け、或は枝と名け、或は燒と名け、或は堅固と名け、或は壞根と名け、或は相續と名け、或は害行と名け、或は喜忘と名け、或は生元と名け、或は分別と名く。名くる所の苦滅諦は、或は正義と名け、或は堅固と名け、或は讃歎と名け、或は安隱と名け、或は善趣と名け、或は調伏と

行の義にして、苦を以て却て苦を捨てんと欲するが如きをいふ。

【七】苦集諦。苦果の因をなす煩惱惡業をいふ、惑業は能く生死の苦果を招き集むるが故に苦集諦と名く。

【八】苦滅諦。苦果を滅したる解脫の境界にして、寂滅の證果をいふ。

【九】苦滅道諦。滅諦に到る因にして、無漏なる聖道の法をいふ。

【一〇】十藏。後に本經中に說けり。

【一一】那由他(Nayuta)。數目にして姟と譯す、萬億又は千億なりと云ふ。

【一二】調伏。調和、制伏の義にして、身口意の業を調和し控御し、諸の惡行を制伏し除滅するの意なり。

【一三】密訓世界。東方の世界なり。

名け、或は一道と名け、或は離煩惱と名け、或は不亂と名け、或は究竟と名く。名くる所の苦滅道諦は。或は猛將と名け、或は不沒と名け、或は超出と名け、或は勤方便と名け、或は普眼と名け、或は離邊と名け、或は覺悟と名け、或は得妙と名け、或は（一四）無上目と名け、或は（一五）觀方と名く。諸の佛子よ、彼の密訓世界に是の如き等の四諦の名字、四十億百千那由他有り、諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの說を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に名くる所の苦諦の如く、（一六）最勇世界に於ても、或は恐怖と名け、或は福斷と名け、或は應訶責と名け、或は常給と名け、或は麤澁と名け、或は常怨と名け、或は離勝と名け、或は奪利と名け、或は難共事と名け、或は虛妄と名け、或は勢力と名く。名くる所の苦集諦は、或は因緣と名け、或は癡元と名け、或は怨林と名け、或は忍杖と名け、或は滅味と名け、或は仇對と名け、或は味著と名け、或は（一七）導引と名け、或は增闇と名け、或は害利と名く。名くる所の苦滅諦は、或は大義と名け、或は饒益分別と名け、或は（一八）義中義と名け、或は無量と名け、或

【一四】無上目。勝れたる眼即ち勝慧の意。
【一五】觀方。方とは諦の義、四諦を觀するは即ち道諦なり。更に四方あり、一に一切の佛を見て悟り、二に一切の法を聞きて受持し、三に一切の波羅蜜行を成滿し、四に大悲を以て說法し衆生を滿ぜしむるなり、此の四方を觀するを菩薩の道となす故に道諦を觀方と名く。
【一六】最勇世界。南方の世界なり。
【一七】導引。惡に導き入れること。
【一八】義中義。事善なれば義あり、而も滅理最も勝れたるが故に義中の義といふ。

は見と名け、或は虚妄斷と名け、或は最勝と名け、或は常と名け、或は住と名け、或は無爲と名く。名くる所の苦滅道諦は、或は滅火と名け、或は勝枝と名け、或は定分別と名け、或は不退と名け、或は深方便と名け、或は出家と名け、或は最上と名け、或は至非趣と名け、或は解脱と名け、或は能令解脱と名く。諸の佛子よ、彼の最勇世界に、是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り。諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの説を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に説く所の苦諦の如く、(一九)離苦世界に於ても、或は悔恨と名け、或は資待と名け、或は分別と名け、或は輪回と名け、或は前行と名け、或は一味と名け、或は非法と名け、或は現前地と名け、或は最邪と名け、或は邪見と名け、或は不可忍と名く。名くる所の苦集諦は、或は虚器と名け、或は分別と名け、或は甘刃と名け、或は生地と名け、或は取と名け、或は棄と名け、或は增と名け、或は擔と名け、或は能生と名け、或は堅縛と名く。名くる所の苦滅諦は、或は等と名け、或は空と名け、或は無垢と名け、或は勝根と名け、或は勝等と名け、或は無作と名け、或は滅使と名け、或は最上と名け、或は畢竟と名け、或は(二〇)破印と名く。名くる所の苦滅道諦は、或は眞堅固と名け、或は方便分別と名け、或は義根と名け、或は眞性と名け、或は離愛と名け、或は勝

【一九】離苦世界。西方の世界なり。

【二〇】破印。滅理を證して五蘊の相續を斷つた破印と云ふ。

淨と名け、或は(二一)有邊と名け、或は(二二)寄全と名け、或は究竟と名け、或は常虚妄と名く。諸の佛子よ、離垢世界に是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り、諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの說を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に說く所の苦諦の如く、(二三)眞實境世界に於ても、或は愛欲と名け、或は險根と名け、或は(二四)海分と名け、或は邪方便と名け、或は分別根と名け、或は流轉と名け、或は生滅と名け、或は障礙と名け、或は倒根と名け、或は(二五)有數と名く。名くる所の苦集諦は、或は愛と名け、或は陷溺と名け、或は不可盡と名け、或は(二六)分と名け、或は不正趣と名け、或は津染と名け、或は事と名け、或は障礙と名け、或は器と名け、或は動と名く。名くる所の苦滅諦は、或は相續斷と名け、或は解散と名け、或は無名と名け、或は不作と名け、或は不現と名け、或は無作と名け、或は無色と名け、或は無燒と名け、或は明と名け、或は淨と名く。名くる所の苦滅道諦は、或は寂行と名け、或は正行と名け、或は修證

【二一】有邊。惑業の滅せざる間は、生死相續して邊際なしと雖も、聖道を修して惑業を斷滅すれば生死も盡く、故に道諦を有邊と名く。

【二二】寄全。業を道に寄せ、無漏心を以て修行すれば、其の行は眞理と契合して直に菩提に趣くが故に寄全と名く。

【二三】眞實境世界。北方の世界なり。

【二四】海分。有海分にして、凡て有情の生を受くり、有といひ、總じて廿五あり、各一分なるが故に有海分と名く。

【二五】有數。有爲の諸法を總じて有數といふ。

【二六】分。種種に差別するの義なり、凡そ理に順じて心生ずるを善と名け、理に乖背するを惡と名く、理は萬善に通じ

と名け、或は安隱道と名け、或は無量壽と名け、或は修究竟と名け、或は常道と名け、或は難得と名け、或は彼岸と名け、或は無敵と名く。諸の佛子よ、眞實境世界に是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り。諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの說を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に名くる所の苦諦の如きは、(二七)訶尼世界に於て、或は掠取と名け、或は非善友と名け、或は戰怖と名け、或は多言と名け、或は眞地獄と名け、或は非法調伏と名け、或は重擔と名け、或は壞根と名け、或は虛妄と名け、或は虛妄根と名く。名くる所の苦集諦は、或は貪と名け、或は作と名け、或は惡と名け、或は生と名け、或は絞縛と名け、或は想と名け、或は有果と名け、或は不愛と名け、或は不應說と名け、或は回轉と名く。名くる所の苦滅諦は、或は不轉と名け、或は解脫と名け、或は無作と名け、或は離愛と名け、或は堅固と名け、或は眞實と名け、或は離癡と名け、或は寂滅と名け、或は賢聖と名け、或は離怨敵と名く。名くる所の苦滅道諦は、或は正語と名け、或は(二八)無諍と名け。或は教導と名け、或は回向心と名け、或は廣名と名け、或は分別方便と名け、或は(二九)有數と名け、或は趣寂靜と名け、或は勝智と名け、或は善解義と名く。諸の佛子よ、訶尼

て一なるも、諸惡は理を離るるを以て萬差なり故に集諦を分と名く。

【二七】訶尼世界。東北方の世界なり。

【二八】無諍。諍とは煩惱の、と、煩惱滅するが故に無諍と名く。

【二九】有數。唐經には如虛空とあり。

世界に是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り、諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの説を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に言ふ所の苦諦の如きは、〔三〇〕饒益世界に於て、或は重擔と名け、或は危脆と名け、或は賊等と名け、或は生死と名け、或は非歡喜と名け、或は流轉と名け、或は疲勞と名け、或は醜貌と名け、或は能生と名け、或は利刃と名く。言ふ所の苦集諦は、或は流散と名け、或は擾亂と名け、或は煩惱と名け、或は羸劣と名け、或は漂淪と名け、或は乖違と名け、或は非解脱と名け、或は所作と名け、或は取と名け、或は虚妄と名く。言ふ所の苦滅諦は、或は離獄と名け、或は眞實と名け、或は離諸難と名け、或は覆護と名け、或は善因と名け、或は隨至と名け、或は根と名け、或は離枝と名け、或は無爲と名け、或は無次第と名く。言ふ所の苦滅道諦は、或は達無所有と名け、或は一切因と名け、或は善本と名け、或は明至と名け、或は不轉法と名け、或は有盡と名け、或は大道と名け、或は能調伏と名け、或は安隱と名け、或は非流轉と名く。諸の佛子よ、饒益世界に是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り、諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの説を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に言ふ所の苦諦の如きは、〔三一〕鮮少世界に於て、或は惡逆心と名け、或は不長

【三〇】饒益世界。東南方の世界なり。
【三一】鮮少世界。西南方の世界なり。

慧と名け、或は邪念と名け、或は流轉と名け、或は無慚愧と名け、或は貪根と名け、或は熾然と名け、或は刺棘と名け、或は火山と名け、或は憂惱と名く。言ふ所の苦集諦は、或は（三一）廣地と名け、或は來起と名け、或は遠智と名け、或は衆惱と名け、或は恐怖と名け、或は放逸と名け、或は大失と名け、或は著處と名け、或は無主と名け、或は相續と名く。言ふ所の苦滅諦は、或は具足滿と名け、或は甘露と名け、或は非我所と名け、或は無主と名け、或は虚妄斷と名け、或は安樂住と名け、或は無量と名け、或は斷流と名け、或は非趣と名け、或は不二と名く。名くる所の苦滅道諦は、或は光明と名け、或は堅實と名け、或は知深義と名け、或は正業と名け、或は非生滅と名け、或は非相續と名け、或は淨道と名け、或は正趣と名け、或は淨方便と名け、或は勝見と名く。諸の佛子よ、鮮少世界に是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り。諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの說を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に名くる所の苦諦の如きは、（三二）知足世界に於て、或は流轉と名け、或は失利と名け、或は染汚障と名け、或は重擔と名け、或は惡形と名け、或は內惡と名け、或は非專到と名け、或は害處と名け、或は苦惱と名く。言ふ所の苦集諦は、或は能持と名け、或は方便と名け、或は

【三一】廣地。大苦の樹を生ずるが故に廣地と名く。

【三二】知足世界。西北方の世界なり。

過時と名け、或は非實法と名け、或は無底と名け、或は攝受と名け、或は離戒と名け、或は煩惱法と名け、或は無量見と名け、或は惡聚と名く。言ふ所の苦滅諦は、或は壞身と名け、或は不放逸と名け、或は眞實と名け、或は等等と名け、或は淸淨と名け、或は離生と名け、或は離曲と名け、或は無相と名け、或は具足と名け、或は不生と名く。言ふ所の苦滅道諦は、或は境界言斷と名け、或は功德聚と名け、或は順義と名け、或は廣方便と名け、或は虛妄盡と名け、或は住壽道と名け、或は可稱數と名け、或は正念と名け、或は常道と名け、或は解脫と名く。諸の佛子よ、知足世界に是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り。諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの說を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に名くる所の苦諦の如きは、(三四)所求世界に於て、或は害と名け、或は坏瓶と名け、或は我所と名け、或は身趣と名け、或は流轉と名け、或は衰主と名け、或は苦と名け、或は輕飄と名け、或は無味と名け、或は來去と名く。名くる所の苦集諦は、或は行と名け、或は憤毒と名け、或は惡行と名け、或は受枝と名け、或は不起疾と名け、或は雜毒と名け、或は虛稱と名け、或は離勝と名け、或は熾然と名け、或は驚駭と名く。名くる所の苦滅諦は、或は非聚と名け、或は非處と名け、或は妙藥と名け、或は不可壞と名け、或は不沒と名け、或は不可量と名け、或は大と名け、或は

【三四】所求世界。下方の世界なり。

覺枝と名け、或は離染と名け、或は障礙と名く。名くる所の苦滅道諦は、或は勝行と名け、或は離欲と名け、或は諦究竟と名け、或は入深義と名け、或は實究竟と名け、或は淨現と名け、或は持念と名け、或は離障と名け、或は救濟と名け、或は勝枝と名く。諸の佛子よ、所求世界に是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り。諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの説を作せり。

諸の佛子よ、娑婆世界に名くる所と苦諦の如きは、(三五)解脱音世界に於て或は匿疵と名け、或は衆生と名け、或は依枝と名け、或は壞勝と名け、或は障礙と名け、或は駛流と名け、或は遠と名け、或は藏と名け、或は受と名け、或は苦枝と名く。名くる所の苦集諦は、或は過調伏と名け、或は心趣と名け、或は能縛と名け、或は常念と名け、或は彼邊と名け、或は離修と名け、或は虚妄と名け、或は門と名け、或は輕飄と名け、或は隱覆と名く。言ふ所の苦滅諦は、或は非處と名け、或は無上勝と名け、或は不還と名け、或は滅諍と名け、或は(三六)小と名け、或は(三七)無害と名け、或は善住と名け、或は無盡と名け、或は廣と名け、或は無價等と名く。言ふ所の苦滅道諦は、或は自見令見と名け、或は摧敵と名け、或は分別印と名け、或は入相と名け、或は難得と名け、或は無量義と名け、或は能起明と名け、或は和合道と名け、或は向不動と

【三五】解脱音世界。上方の世界なり。
【三六】小。之を小にする時は内なく一物をも容れざるなり。
【三七】無害。之を大にする時は外なく萬物を包容して害ふことなき法界の性なり。

名け、或は勝義と名く。諸の佛子よ、解脱音世界に是の如き等の四諦の名、四十億百千那由他有り。諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの說を作せり。

諸の佛子よ、此の娑婆世界、及び十方の十佛刹に四諦の名を說くが如く、是の如く東方の百千億の、不可量、不可數、不可思議、不可稱、無等、無邊、無分齊、不可說の虛空法界に等しき、一切世界の中に四諦の名を說くこと、各四十億百千那由他有り。諸の衆生の所應に隨ひて調伏せんとて、是の如きの說を作せり。◎南西北方四維上下も亦復た是の如し。』

如來光明覺品第五

(一)爾の時に世尊、兩足の(二)相輪より百億の光明を放ちたまひて、徧く(三)三千大千世界の百億の(四)閻浮提、百億の(五)弗婆提、百億の(六)拘伽尼、百億の(七)鬱單越、百億の大海、百億の金剛圍山、百億の菩薩の生、百億の菩薩の出家、百億の佛の始成正覺、百億の如來の轉法輪、百億の如來の(八)般泥洹、百億の須彌山王、百億の四天王天、百億の三十三天、百億の時天、百億の兜率陀天、百億の化樂天、百億の他化樂天、百億の梵天、百億の光音天、百億の徧淨天、百億の果實天、百億の色究竟天とを照し、此の世界の所有一切のもの悉く現ず。◎此に佛、蓮華藏の師子座の上に坐したまひて、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、百億の閻浮提も亦復た是の如し。

佛の神力を以ての故に、百億の閻浮提には、皆十方に各一りの大菩薩有り、各十世界塵數の菩薩の眷屬と倶に、佛の所に來詣せるを見る。所謂

【一】此の品に十段あり初に佛の身光三千界を照し、大衆新に集會し、文殊菩薩智光を以て法を説くこと明かす。

【二】相輪。足の底の紋網輪をいふ。三十二相の一なり。

【三】三千大千世界。四大洲と日月と須彌と欲天と梵世と各一千なるを小千世界と云ひ、小千界を千倍せるを中千界といひ、其を千倍せるを大千界といふ。皆同一に成壞するが故に、此の三を總稱して三千大千世界と云ふ。

【四】閻浮提(jambudvīpa)。又は南贍部洲といひ、穢洲、勝金土等と譯す。須彌山の南方に位し、人壽百歳にして果報は

る文殊師利菩薩、覺首菩薩、財首菩薩、寶首菩薩、德首菩薩、目首菩薩、精進首菩薩、法首菩薩、智首菩薩、賢首菩薩なり。是の諸の菩薩從來せし所の國は、金色世界、樂色、華色、薝蔔華色、靑蓮華色、金色、寶色、金剛色、(九)玻瓈色、如實色の世界なり。各本國の佛の所、所謂る、不動智佛、智慧火佛、淨智佛、具威儀智佛、明星智佛、究竟智佛、無上智佛、自在智佛、梵天智佛、伏怨智佛の所に於て (一〇)梵行を淨修せり。

爾の時に文殊師利、偈を以て (一一)頌して曰はく、

『若し正覺し、解脫し、諸漏を離れ、一切世に著せざるを知ること有らんも、彼道眼を淨むるに非ず。

若し如來は、所有無しと觀察することを知り、法の (一二)散滅の相を知ること有らば、彼の人は疾く佛と作らん。

能く此の世界の、一切處に著すること無く、如來身も亦然なりと見ば、是の人は疾く成佛せん。

若し佛法の中に於て、其の心平等に隨ひ、不二の法門に入らば、彼

苦多くして快樂少しと雖も、佛は唯此の國にのみ出現し給ふが故に、佛に遇ひ法を聞くことは此の國を第一とす、是れ卽ち吾人の住する此の世界をいふなり。

【五】弗婆提具さに東弗婆提又は弗利婆毗提訶(Pūrvavideha)といひ、東勝身と譯す。須彌の東に位するが故に東勝身洲といふ、人壽二百五十歲なりと。

【六】拘伽尼。瞿陀尼の訛、具さに阿鉢唎瞿陀尼(Avaragodaniya. or Aparagodāniya)西牛貨洲と譯す、此洲には牛多く産し、牛を以て貿易するが故に此名あり、須彌の西方に位し人壽五百歲なりといふ。

【七】鬱單越。又は鬱多羅拘樓、(Uttarakuru)。普通に北俱盧洲といひ勝生、勝處等と譯す、

の人は思議し難けん。

若し我及び佛は、平等の相に安住することを見らば、彼無所住に住して、(一三)一切の有を遠離せん。

色受(一四)數有ること無く、想行識も亦然なり、能く是の如く知る者は、彼は是れ大牟尼なり。

見者所有無く、所見の法も亦無にして、明かに一切の法を了らば、彼能く世間を照さん。

一念に、諸佛、世間に出現したまふも、而も實には所起無しと見らば、彼の人は大名稱なり、

我無く衆生無く、亦敗壞有ることも無し。若し是の如きの相を(一五)轉せば、彼は則ち無上の人なり。

一の中に無量を解り、無量の中に一を解り、展轉して生ずるは實に非ず、智者は畏るる所無し。』

此の處に文殊師利の偈を說きしが如く、一切處も亦復た是の如し。

須彌の北に位し、四大洲中最勝の處にして、壽千歳、衣食自然に具はり、前世に十善を修したる者、此に生れて悅樂を享くといふ。

【八】般泥洹。又は般涅槃(Parinirvāṇa)。滅度、圓寂等と譯す。佛の入滅し給ひしこと。

【九】玻瓈色。塞頗胝迦(Sphaṭika)の略にして水玉と譯す。水精に似たる寶石なり。

【一〇】梵行。淸淨の行、卽ち菩薩行のこと。

【一一】頌に十偈あり、初の一は法は情慮を超越したる事を明かし、次の八は事を會して理に同じ、後の一は事の無礙なることを顯はす。

【一二】散滅の相。佛の功德の法は緣より生ずるが故に、自性無くして散滅すと知るなり。

(一六)爾の時に光明此の世界を過ぎて、徧く東方の十佛國土を照し、南西北方四維上下も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛、蓮華藏の師子座の上に坐したまひ、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中の、百億の閻浮提も亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方に各一りの大菩薩有り、各十世界塵數の菩薩の眷屬と倶に、佛の所に來詣せるを見る。所謂る文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩の從來せし所の國は、金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏怨智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て(一七)頌して曰はく、

『衆生の苦に逼られ、癡に覆はれ愛欲の刺あるを見ては、常に無上の道を求む、諸佛の法は是の如し。

(一八)斷常の二邊を離れ、法は實に轉せざるを見、昔は未だ曾て轉せざりし、此の無上輪を轉ず。

【一三】一切の有とは一切諸法の義。諸法の相に執著を生ずることなきを遠離といふ。

【一四】數有ること無く。五蘊は皆空なるを以て數有ることなしといふ。

【一五】人法二空を證することを明かす。轉に二義あり、一には轉滅、二執の相を滅すること、二には轉現、二空の理を現ずることなり。

【一六】第二重。

【一七】頌に十偈あり、初の六は佛を讃歎し、後の四は菩薩を歎ず。

【一八】斷常。斷は斷無の義、常は常有の義なり、諸法は有にして無、無にして有なれば、有と執せず、無と偏せずして、有無に滯らざるを斷常の二邊を離るといふ、次の三句に不

不可思議劫に、宏誓の德鎧を被るは、生死を度らしめんが爲めの故なり、大聖の法は是の如し。

導師は衆魔を降し、勇健にして能く勝る無く、愛語して衆の怖を離れしむるは、無上なる慈悲の法なり。

內に甚深の智を得て、能く諸の煩惱を害し、一念に一切を見るは、彼の自在の示現なり。

能く正法の鼓を撃ちて、聲十方の國に震ひ、無上の道を得しめたまふ、(一九)自覺の法は是の如し。

無量の境を壞せずして、能く無數の刹に遊び、一切の有を(二〇)取せず、彼自在なること佛の如し。

無比の歡喜をもつて、諸佛は常に清淨にして、虛空に等しき如來なりと念ず、彼は是れ具足の願なり。

一一の衆生の故に、(二一)阿鼻地獄の中にて、無量劫に燒煮せらるるも、心淨きこと最勝の如し。

身と壽命とを惜まず、常に諸佛の法を護り、具足して忍辱を行ぜば、彼如來の法を得ん。』

轉にして而も轉ずることを明かす。

【一九】自覺。自ら正覺を成じたる者卽ち佛のこと。

【二〇】取。取求して愛著を起こすことなり。

【二一】阿鼻。阿鼻旨(Avici)の略にして無間と譯し、八熱地獄の最下なり、此の地獄に墮したる者は苦を受くること間なきが故に無間と云ふ。

（二一）爾の時に光明十世界を過ぎて、偏く東方の百世界を照し、乃至上方も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛蓮華藏の師子座の上に坐したまひ、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提も亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方各一りの大菩薩有り、各十世界塵數の菩薩の眷屬と倶に、佛の所に來詣せるを見る。所謂、文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩の從來せし所の國は金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏怨智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て（二二）頌して曰く、

『如來は、諸法の、幻の如く虛空の如きを覺りたまひ、心淨くして障礙無く、群生の類を調伏したまふ。

或は初め生れたまひし時に、妙色は金山の如く、是の（二四）最後身に住して、照明なること滿月の如きを見る。

或は（二五）經行の時に、無量の功德を攝し、念慧善く具足せる、明行の人師子なるを見る。

【二一】第三重。
【二二】頌に十偈あり、初の一は總じて德の充滿せることを頌し、後の九は別して緣に從ひ化用を起すことを明かす。
【二四】最後身。佛は長時の間菩薩行を修し、最後に兜率天より下生して菩提樹下に成佛し給ひしが故に、八相示現の塵身を最後身といふ
【二五】經行。佛の出胎の時七歩を行き給ひしをいふ。

或は明淨眼をもつて、觀察して十方を照すを見、或は時に戲笑したまふを見る、衆生の樂欲するが故なり。

或は(三六)師子吼し、淸淨なる無比の身にて、末後の生を示現し、說きたまふ所實に非ざること無きを見る。

或は出家の時に、一切の(三七)縛を解脫して、諸佛の行を修習し、常に樂ひて寂滅を觀ずるを見る。

或は道場に坐したまひて、善く一切法を覺り、諸の功德の岸に度り、癡闇煩惱の滅するを見る。

或は天人の尊として、大悲心を具足することを見、或は法輪を轉じて、諸の群生を度脫することを見る。

或は無畏の吼、儀容甚だ微妙にして、一切世を調伏し、神力障礙無きを見る。

或は寂靜の心にして、(三八)世間の燈の永へに滅するがごときを見、或は十力の尊として、自在の法を顯現したまふを見る。』

【三六】師子吼。佛の音聲を獅子の無畏音に喩へていふ、今は天上天下唯我獨尊と說き給ひしことをさす。

【三七】一切縛。繫縛の義にして今は王位を捨て、妻子眷屬を捨てたることをいふ。

【三八】世間の燈。佛は世間の癡闇を照し給ふが故に世間の燈といふ。今は佛の入滅し給ひしことをいふ。

(二九)爾の時に光明百の世界を過ぎて、徧く東方の千の世界を照し、乃至上方も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛蓮華藏の師子座の上に坐したまひ、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中の百億の閻浮提も亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方各一りの大菩薩有りて、各十世界塵數の菩薩の眷屬と倶に、佛の所に來詣せるを見る。所謂、文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩の從來せし所の國は、金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏怨智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て(三〇)頌して曰はく、

『善逝の法は甚深にして、相も無く亦有も無し、衆生顛倒するが故に、
次第に一切に現じたまふ。
我我所有ること無く、彼の境界は空寂なり、善逝の身は清淨にして、自ら覺りて諸塵を離れたまふ。
(三一)等覺の明解脫は、無量にして數ふ可からず、無邊の世界の中に、(三二)因緣和合して起る。

【二九】第四重。
【三〇】頌に十偈あり、初の二は法身を明かし次の四は解脫を辨じ、後の四は般若を明かす。
【三一】等覺。菩薩の五十二位の第五十一位にして、因位の最上位なり、殆んど佛果の正覺に等しきが故に等覺と名く。
【三二】因緣和合。機感相應するをいふ。

諸の（三三）陰界入無く、永へに生死の苦を離れ、世間の數に在らず、故に人師子と號けたてまつる。

内外倶に解脫し、本來常に自ら空にして、一切の虛妄を離る、諸佛の法は是の如し。

愛と諸の煩惱とを離れ、（三四）長流永く轉せず、正覺して諸法を解り、無量の衆生を度したまふ。

一念不二の相をもつて、樂ひて寂滅の法を觀じ、其の心に所著無く、佛の自在は無量なり。

善く因緣の法と、業報及び衆生とを知る、最勝の無礙の智は、甚深にして思議し難し。

普く十方界を見て、諸佛の刹を嚴淨し、如來は虛妄を離れて、無量の衆を度脫したまふ。

佛智は鍊金の如く、一切の有は有に非ず、其の所應に隨ひて化し、爲めに清淨の法を說きたまふ。』

（三五）爾の時に光明千の世界を過ぎて、徧く東方の萬世界を照し、乃至上方も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛、蓮華藏の師子座の上に坐したまひて、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中の、百億の閻浮提も亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方各一りの大菩薩有り、

【三三】陰界入。五陰（蘊）、十八界、十二入（處）の三科にして、一切萬有を三方面より分類したるものなり

【三四】長流。生死に流轉すること

【三五】第五重。

各十世界塵數の菩薩の眷屬と倶に、佛の所に來詣せるを見る。所謂、文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩の從來せし所の國は、金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏怨智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て(三六)頌して曰はく、

『諸の人天の樂を離れて、常に大慈心を行じ、諸の群生を救護せよ、
是れ彼の淨妙の業なり。
一向に如來を信じ、其の心退轉せず、諸佛を念ずることを捨てざれ、
是れ彼の淨妙の業なり。
永く生死の海を離れ、佛法の流を退かずして、善く(三七)清涼の慧に住せよ、是れ彼の淨妙の業なり。
身の(三八)四威儀の中に、佛の深き功德を觀じて、晝夜常に斷せざれ、
是れ彼の淨妙の業なり。
三世の無量なるを知りて、懈怠の心を生ぜず、常に佛の功德を求めよ、是れ彼の淨妙の業なり。
身の如實の相を觀じ、一切皆寂滅にして、我非我の著を離れよ、是れ彼の淨妙の業なり。

【三六】頌に十偈あり、次第の如く次の十種の淨業を修することを勸む。慈悲業、信心念佛業、善慧業、無間業、長時業、身の實相を觀ずる業、心の實境を觀ずる業、神通業、佛土を分別する業、多佛を了知する業。

【三七】清涼の慧。煩惱の熱を離れたる智慧の義なり。

【三八】四威儀。行、住、坐、臥の四事をいふ。

衆生の心を觀察して、虛妄の想を遠離し、實の境界を成就せよ、是れ彼の淨妙の業なり。
能く無量の土を稱り、悉く一切の海を飲む、神通の智を成就せよ、是れ彼の淨妙の業なり。
諸佛の國の、色相と(三九)非色の相とを、計り數へて、一切を盡して餘すこと無かれ、是れ彼の淨妙の業なり。
無量なる佛土の塵、一塵を一佛と爲し、悉く能く其の數を知れ、是れ彼の淨妙の業なり。』

(四〇)『爾の時に光明萬世界を過ぎて、徧く東方の十萬世界を照し、乃至上方も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛、蓮華藏の師子座の上に坐したまひ、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中の百億の閻浮提も、亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方各一りの大菩薩有り、各十世界塵數の菩薩の眷屬と俱に、佛の所に來詣せるを見る。所謂、文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩の從來せし所の國は、金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏怨智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

【三九】非色相。佛國土の中の法性土なり、法性土とは如來の法身(理體)の所依にして心に非ず色に非ず、虛空の如く一切處に徧し、山河大地等の有形の國土にあらざるが故に非色といふ。其の他の國土は皆山河等の形相あるが故に色相といふ。

【四〇】第六重。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て（四一）頌して曰はく、

『若し色性と大神力とを以て、（四二）調御士を望見せんと欲せば、是れ則ち（四三）翳目顚倒の見なり、彼爲めに最勝の法を識らず。

如來身の色形、相處は、一切の世間能く觀る莫し、億那由劫に思量せんと欲するも、妙色の威神は極む可からず。

相好を以て如來と爲すに非ず、無相離相なる寂滅の法なり、一切具足せる妙境界は、其の所應に隨ひて悉く能く現じたまふ。

諸佛の正法は量る可からず、能く分別して其の相を說くこと無し、諸佛の正法は（四四）合散無く、其の性本來常に寂滅なり。

（四五）陰數を以て如來と爲さず、取相を遠離して眞實に觀ずれば、（四六）自在の力をもつて決定して見ることを得、言語の道斷え（四七）行處滅す。

身心異相無きことを等觀し、一切の內外悉く解脫すれば、無量の億劫にも不二の念、善逝は深遠にして所著無し。

普く妙光明を放ちて、徧く世の境界を照すは、淨眼の一切智にし

【四一】頌に十一偈あり、初の六偈は佛の體性は寂滅にして情慮の及ばざることを明かし、後の五偈は妙用の自在を明かす。

【四二】調御士。佛の十號の一、一切の煩惱惡魔を調御したまふが故に此の名あり。

【四三】翳目。一種の眼病にして眼にかすみの生ずるものをいふ。虛妄にものを見ることを表す。

【四四】合散。和合と不和合となり。諸法は緣に應じて現ずるが故に散無く、而も其體は眞如なるが故に諸相を離る。合もなく散もなきが故に寂滅なり。

【四五】陰數。色受想行識の五蘊の和合體、即ち肉身のこと。

【四六】自在。差別の形相に隨つ

て、自在深廣の義なり。

一能く無量と爲り、無量能く一と爲り、諸の衆生の性を知りて、一切處に隨順す。

身は從來する所無く、去るも亦至る所無し、虛妄眞實に非ずして、種種の身有ることを現ず。

一切諸の世間は、皆妄想より生ず、是の諸の妄想の法は、其の性未だ曾て有らず。

是の如きの眞實の相は、唯佛のみ能く究竟したまふ、若し能く是の如く知らば、是れ則ち導師を見たてまつるなり。』

(四八)爾の時に光明十萬の世界を過ぎて、徧く東方の百萬世界を照し、乃至上方も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛、蓮華藏の師子座の上に坐したまひ、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中の、百億の閻浮提も亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方各一りの大菩薩有りて、各十世界塵數の菩薩の眷屬と倶に、佛の所に來詣せるを見る。所謂、文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩從來せし所の國は、金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏怨

て轉せざるをいふ。

【四七】行處。行は心識の作用即ち思量分別なり、思量の域を超えたる境界なるが故に行處滅すといふ。

【四八】第七重。

智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て（四九）頌して曰はく、

『最勝は自ら覺りて世間を超え、無依殊特にして能く勝る莫し、（五〇）大仙は一切の有を化度して、淨妙なる諸の功德を具足したまふ。

其の心染無く處所無く、常に住して想も無く亦依も無く、永く（五一）吉祥に處して能く毀ること無きは、威德尊重の大導師なり、

本より淨明にして衆の冥を滅し、永く（五二）諸染を離れて塵垢無く、寂然不動にして（五三）邊想を離る、是を善く如來の智に入ると名く、

善逝の深法の海に入らんと欲せば、身心の虛妄の想を遠離し、諸法の眞實性を解了して、永く疑惑の心に隨順せざれ、

一切の世界は如來の境にして、悉く能く爲めに正法輪を轉ずるも、法の自性に於ては轉ずる所無し、無上の導師は（五四）方便して說きたまふ。

諸法を曉了して疑惑無く、有無の妄想は永く已に離れ、差別の種種の念を生ぜざれば、正意をもつて佛の菩提を思惟するなり、

【四九】頌に十偈あり、初の五は佛法の離思を歎じ、後の五は悟入の方便を示す。

【五〇】大仙。仙は世俗を出で寂靜に處して道を修する人なり、故に大仙とは佛のことをいふ。

【五一】吉祥。相好具足して圓滿なるをいふ。

【五二】諸染。染は染め汚すの義、すべて淨心を汚す迷妄、不善の法をいふ。

【五三】邊想を離る。不二の正念に住して一異有無等の邊想を離るるなり。

【五四】方便して說くとは轉すべき無きに、假りに言說を以て宣ぶるが故なり。

諸法を諦了し分別する時は、自性有ること無く假名の說なり、諸佛の眞實の教に隨順すれば、法は一相に非ず亦多にもあらず。

衆多の法の中に一相無く、一法の中に於ても亦多無し、若し能く是の如く諸法を了らば、是れ諸佛の無量の德を知らん、

諸法及び衆生と、國土世間とを悉く寂滅なりと觀察して、心に所依無く妄想せざれば、是を佛の菩提を正念すと名く、

衆生と諸法と及び國土とは、分別し了知するに差別無し、善能く自性の如くと觀察すなれば、是れ則ち佛法の義を了知するなり。』

【五五】第八重。

〔五三〕爾の時に光明百萬の世界を過ぎて、徧く東方の一億世界を照し、乃至上方も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛、蓮華藏の師子座の上に坐したまひ、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中の、百億の閻浮提も亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方各一りの大菩薩有りて、各十世界塵數の菩薩の眷屬と倶に、佛の所に來詣せるを見る。所謂、文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩の從來せし所の國は、金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏

怨智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て【五六】頌して曰はく、

「大智は量有ること無く、妙法は倫匹無し、究竟じて能く彼の、生死大海の岸を度りて、

壽命に終極無く、永く已に熾然を離るれば、彼大功德を成ず、是れ則ち【五七】方便の力なり。

諸佛の深法に於て、隨ひ覺ること自性の如く、常に三世の法を觀じて、止足の想を生ぜず、

所緣の境に了達して、未だ曾て妄想を起さず、彼不思議を樂ふ、是れ則ち方便の力なり。

常に樂ひて衆生を觀ずるも、而も衆生の想無く、身趣有ることを示現するも、永く諸趣の想を離れたり、

內には常に禪寂を樂ひて、而も心想に繫がるること無く、彼の心に所著無し、是れ則ち方便の力なり。

【五六】頌に二十偈あり、佛の善巧方便力十種を擧げて歎ず、各二頌を以て一義を表はし、初に所作を擧げ末後の一句は方便力に由ることを結す。

【五七】方便。通じて方便の言を釋するに三意あり、一に佛果自在の德を修成する加行方便力の意、二に差別の智用を無礙の慧に對して方便と名け、三に眞實を離れざる方便、即ち實に即する權の意なり。以下此の意を以て義を解すべし。

方便をもつて善く觀察し、諦かに諸法の相を了り、專ら念じ正しく思惟して、常に涅槃の性を行じ、
解脱の道を樂ひて、平等の慧を具足すれば、彼寂滅の法に住す、是れ則ち方便の力なり。
調御士なる、最勝の佛の菩提に隨順して、一切智を攝取すれば、廣大なること法性の如く、
善く眞實諦に入り、諸の群生を敎化すれば、彼最勝の意を成ず、是れ則ち方便の力なり。
佛は深き法義を說き、悉く能く隨順して知り、深廣なる智慧に入りて、諸の障礙を滅除したまふ。
一切至處の道は、是の處に悉く能く到りて、是の自覺の道を行ず、是れ則ち方便の力なり。
心は猶ほ虛空界のごとく、亦變化の法の如く、一切所依の性にして、是の相は則ち非相なり。
涅槃の性を行ずるも、猶ほ虛空の相の如くにして、能く深妙の境に到る、是れ則ち方便の力なり。
常に晝夜、晦朔、日月の數、年歲の時劫の分を記念し、亦隨ひ觀察して知り、
一切諸の世界の、始終、成敗の相を、悉く能く諦かに了知す、是れ則ち方便の力なり。

一切群萠の類は、業に隨ひて生死を受け、〔五八〕有色及び無色に、〔五九〕有想亦非想に、彼彼の姓と名號と、所趣とを諦かに了知し、此の不思議を得るは、是れ則ち方便の力なり。

一切の過去世、未來現在の法を、佛の所說に隨順して、善く念じ諦かに觀察し、三世の平等なることを覺りて、其の眞實の相の如くなるは、是れ諸の深妙の道にして、無比の方便力なり。

〔六〇〕爾の時に光明一億の世界を過ぎて、徧く東方の十億の世界を照し、乃至上方も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛、蓮華藏の師子座の上に坐したまひ、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中の百億の閻浮提も、亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方に各一りの大菩薩有りて、各十世界塵數の菩薩の眷屬と俱に、佛の所に來詣せるを見る。所謂、文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩の從來せし所の國は、金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏怨智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て頌して曰はく、

【五八】有色。一切衆生の受生する處は三界九地を出でず、欲色の二界を合せて有色と云ふ、無色界と對せしなり。

【五九】有想。三界九地の中、二界八地は皆有想と爲し、無想天を非想となす。

【六〇】第九重。

(六一)『難行の法を受持し、堅固にして退轉せず、日夜常に精進して、未だ曾て疲厭を起さず。

已に度り難き海を度り、大音に師子吼したまはく、一切衆生の類を、我今當に悉く度すべしと。

生死の流に漂浪し、愛欲の海に沈淪し、癡惑は重網を結び、昏冥にして大いに怖畏す。

慢を離れたる堅固の士は、是を能く悉く除斷し、超勇して世雄と成る、是れ則ち(六二)佛の境界なり。

世間の諸の放逸なるものは、長く迷ふて(六三)五欲に醉ひ、非實に妄想を興し、永く大苦の障と爲る。

勤めて不放逸を修して、諸佛の法を奉行し、大誓をもつて能く彼を度したまふ、是れ則ち佛の境界なり。

(六四)慧者は(六五)本際を滅し、無量なる難見の劫に、衆生は(六六)吾我に依りて、無窮に生死に轉ず。

【六一】頌に二十偈あり、二頌を以て一義を成じ、通じて佛の利他の行を歎ず。中に於て初の二頌は總じて化他の意を標し、次の十六頌は別して教化の事を辨じ、後の二頌は用を結して體に同ず。

【六二】佛の境界。佛の大悲の境界の意なり。

【六三】五欲。色聲香味觸の五境は人の欲情を引き起こすが故に之を五欲と名く。或は又財欲、色欲、飮食欲、名譽欲、睡眠欲の五をいふことあり。

【六四】慧者。佛をさす。

【六五】本際。生死流轉の根本の意にして我執のことなり。

【六六】吾我。我ありと執すること。

寂滅の法に入らしめんとて、最勝の教を奉行し、誓つて此の妙法を宣べたまふ、是れ則ち佛の境界なり。

彼の苦の衆生は、(六七)孤煢にして救護無く、永く諸の惡趣に淪み、三毒恒に熾んに燃え、間無く救ふ處も無く、晝夜常に火の焚ゆるを見て、誓つて斯等の苦を度したまふ、是れ則ち佛の境界なり。

迷惑して正路を失ひ、諸の(六八)邪徑を習行し、彼の群生の類は、長く大闇冥に處するを見て、爲めに智慧の燈を現じ、諸佛の法を見しめんとて、誓つて能く照明と爲る、是れ則ち佛の境界なり。

一切の(六九)三有の海は、深廣にして崖底無し、彼の群生の類は、漂溺して能く濟ふもの莫きを見、彼が爲めに勤めて方便して、正法の船を興造し、普く應に度すべき所を拯ひたまふ、是れ則ち佛の境界なり。

(七〇)本實の見有ること無く、常に無明に依りて住し、生死の淵に沈沒して、愚癡の心迷亂す、

【六七】孤煢。たよる所なき孤獨の者を云ふ。

【六八】邪徑。外道の邪見をいふ。

【六九】三有。有とは生死輪廻して業報を後生に受くるをいふ、三有は欲、色、無色の三界受生の所をいふ。

【七〇】本實の見。煩惱の根本たる無明の本源を究むるに、本是れ無體卽空にして自性なしと了達するは本實の見なり。

慧者は斯の苦を見て、之が爲めに法橋を設け、大悲をもつて法を演說したまふ、是れ則ち佛の境界なり。

彼の生死の獄は、楚毒量る可きこと難く、長夜に老病死の、三苦競ひ使して逼るを見、自ら深妙の法を覺り、專ら方便の慧を修して、誓つて斯等の苦を度したまふ。是れ則ち佛の境界なり。

佛の甚深の法を聞き、信じて心に疑惑無く、十方の刹に周滿して、普く諸の法界に行き、空寂の法を觀察して、其の心に恐怖無く、現じて一切の身に同じたまふ、是れ則ち人天の師なり。』

【七二】第十段、十六重を總說す。

(七二)爾の時に光明十億の世界を過ぎて、徧く東方の百億の世界、千億の世界、百千億の世界、億那由他の世界、百億那由他の世界、千億那由他の世界、百千億那由他、不可量、不可數、不可思議、不可稱、無等無邊、無分齊、不可說の、虛空法界に等しき一切の世界を照し、乃至上方も亦復た是の如し。彼の一一の世界の中に、百億の閻浮提、乃至百億の色究竟天、世界の所有一切のもの悉く現ず。此に佛、蓮華藏の師子座の上に坐したまひ、十佛世界塵數の菩薩の眷屬有りて圍繞せるを見るが如く、彼の一一の世界の中の百億の閻浮提も、亦復た是の如し。佛の神力の故に、皆十方に各一りの大菩

薩有りて、各十世界塵數の菩薩の眷屬と倶に、佛の所に來詣せるを見る。所謂、文殊師利、乃至賢首等なり。是の諸の菩薩の從來せし所の國は、金色の世界、乃至如實色の世界なり。各本國の不動智佛、乃至伏怨智佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に一切處の文殊師利、偈を以て(七三)頌して曰はく、

『無量無數劫を、一念に悉く觀察するに、來ること無く亦去ることも無く、現在も亦た住せず。

一切の生滅の法は、悉く眞實の相なるを知り、方便の岸を超度して、十種の力を具足す。

無等の大名稱は、普く十方の刹に徧じて、永く生死の難を離れ、一切の法を究竟したまへり。

普く悉く能く徧じて、一切諸の世界に至り、具足して能く、淸淨なる微妙の法を敷演したまふ。

普く衆生の類の爲めに、正心に諸佛を奉ず、是の故に直心に、眞實なる淨き依果を獲、隨順し分別して知り、如如の相に了達すれば、佛の自在力を得て、十方見ざる靡し。

【七三】頌に二十偈あり、通じて因果圓滿の德を頌す。中に於て、初の六偈は果を擧げて德を歎じ、後の十四偈は因の趣入を明かす。

（七三）始めて佛を供養したてまつりてより、樂つて忍辱の法を行じ、能く深き禪定に入り、眞實の義を觀察し、

悉く一切の衆をして、歡喜して如來に向はしむ、菩薩是の法を行ぜば、速かに無上道に逮らん。

能く十方の佛に問ひたてまつり、其の心常に湛然として、佛を信じて退轉せず、威儀悉く具足し、

一切の有無の法は、有無に非すと了達す、是の如く正しく觀察せば、能く眞實の佛を見たてまつらん。

無量なる淨樂の心は、境界十方に滿ち、一切國土の中に、能く眞實の義を說き、

衆の垢難を滅除して、平等の法に安住せしむ、若し能く是の如く化せば、斯の人如來に等しからん。

佛の妙なる音聲を聞きて、無上の法を逮得し、常に淨き法輪を轉じ、甚深にして知見し難し、

最勝の所說の法は、（七四）七覺の義を具足す、是の如き無上の觀は、常に諸佛の身を見たてまつる。

【七三】以下十四偈因の趣入を明かす。中に於て、七種の行を敎へて修めしむ。各二頌を以て一義を成じ、次第の如く次の七行を說く。一、自利利他の行。二、見佛の行。三、說法の行。四、受法の行。五、相を捨して眞を見る行。六、佛の衆生身に等しき行。七、生滅無本の行。

【七四】七覺。七覺支又は七覺分といひ、菩薩は之を修して道に入ることを得る也。

如來は空にして、寂滅なること猶ほ幻化のごとしと見ず、見ると雖も所見無く、盲の五色に對するが如し、

虚妄に相を取る者は、是の人佛を見たてまつらず、一切所有無ければ、乃ち眞の如來を見たてまつる。

衆生の種種の業は、分別して知る可きこと難し、十方内外の身、種種無量の色あり、

佛身も亦是の如く、一切十方に滿ちて、知り難きを能く知る者は、彼は是れ大導師なり。

譬へば無量の刹は、虚空に依止して住し、十方より來らず、去るも亦至る所無く、

世界若くは成敗するも、本來所依無きが如く、佛身も亦是の如く、虚空界に充滿せり。

卷の第六

菩薩明難品第六

(一)爾の時に文殊師利菩薩、覺首菩薩に問ふて言はく、

『佛子よ。(二)心性は是れ一なるに、云何んぞ能く種種の果報を生ずるや。或は(三)善趣に至り。或は(四)惡趣に至り、或は諸根を具ふるあり、或は具へざる者あり、或は善處に生じ、或は惡處に生じ、端正、醜陋、苦樂の不同ありや。(五)業は心を知らず、心は業を知らず、(六)受は報を知らず、報は受を知らず、(七)心は受を知らず、受は心を知らず。(八)因は緣を知らず、緣は因を知らず。(九)智は法を知らず、法は智を知らず』。

(一〇)爾の時に覺首菩薩、偈を以て答へて曰はく、

『衆生を化せんが爲めの故に、乃ち能く斯の義を問へり。諸法の如實の性を、我說かん。仁、諦かに聽け。

【一】此の品には十種の甚深の義を明かす、分ちて十段となし、各問を擧げ偈を以て答ふ。第一、緣起甚深。

【二】心性。如來藏心をいふ。

【三】善趣。人間界と天上界となり。

【四】惡趣。地獄、餓鬼、畜生、の三惡趣なり。

【五】業は心を知らず云云。以下は救を遮する難を明かす。而して、業は善惡の業にして能依なり、心は所依の心性なり。

【六】受は報。受は能受の因、

(二)諸法は自在ならず、實を求むるに得可からず、是の故に一切の法は二倶に相知らず。
譬へば駛水の流は、流れ流れて絶え已むこと無けれども、二倶に相知らざるが如く、諸法も亦是の如し。
亦明燈の炎は、炎え炎えて暫くも停らざるも、二倶に相知らざるが如く、諸法も亦是の如し。
亦長風起り、鼓拂して動勢を生ずるも、二倶に相知らざるが如く、諸法も亦是の如し。
亦深廣の地は、展轉して相依住するも、二倶に相知らざるが如く、諸法も亦是の如し。
(三)眼耳鼻舌身、心意諸情の根は、此に因りて衆の苦を轉ずるも、而も實に所轉無し。
法性に所轉無けれども、示現の故に轉ずること有り、彼に於て示現無ければ、示現にも所有無し。

即ち種子識なり、報は所受の報相、即ち果報識なり。
【七】心は受。此に受とは能熏の七轉識をいひ、心とは所熏の第八識をいふ。
【八】因は縁。種子を因といひ、所依の本識を縁といふ。
【九】智は法。智は能知即ち諸識の見分をいひ、法は所知即ち諸識の相分をいふ。
【一〇】以上五對の說は、義深くして文簡なれば其の意を解し難し、要を擧げて其の質疑を明かさん。縁起の諸法に種種の差別あるは、心性一なりと雖、各自の善惡の業種種に異るが故なりといんか。心と業とは能依所依なるが故に、業は心を離れて知るべからず、心も亦業を離れて知るべからず、已に能所相離せざれば熏習の義成ぜ

眼耳鼻舌身、心意諸情の根は、其の性悉く空寂なれば、虚妄にして眞實無し。
觀察し正思惟せば、有の者にも所有無し、彼の見は顚倒ならず、法眼清淨なるが故なり。
虚妄も虚妄に非ざるも、若しは實若しは不實なるも、世閒も出世閒も但假の言說有るのみ。』

(三)爾の時に文殊師利菩薩、財首菩薩に問ふて言はく、
『佛子よ、一切の衆生は衆生に非ざるに、如來は云何んぞ衆生の時に隨ひ、命に隨ひ、身に隨ひ、行に隨ひ、欲樂に隨ひ、願に隨ひ、意に隨ひ、方便に隨ひ、思惟に隨ひ、籌量に隨ひ、衆生の見に隨ひて、之を敎化したまふや。』

爾の時に財首菩薩、偈を以て答へて曰はく、
『(四)明智の心の境界は、常に寂滅の行を樂ふ、我今實の如く說かん、仁者、善く諦かに聽け。

ず何んぞ業に因りて一心多報を生ずることを得ん。又業の熏習する種子と果報識とは、因果の關係をなすを以て相順せざる可らず。因果を泯して一心種種の法を生ずる義何れに在りや。能熏と所熏と各自性なく、又種子と本識と因緣相對にして無性なり、然らば習熏の義も因緣の義もなかるべし。何んぞ心諸法を生ずといふや。又主觀の作用をなす見分も、客觀となる相分も、共に一心に依りて在るが故に各自體なし、主客の相を亡ぜば能熏の義も亦成立せず、如何んぞ一心萬差の法を生ずといはんやこれ救を遮する難也。

【二】次の五偈は後の救を遮する難に答ふ。四喩を擧げて如來藏識の四義を明かす、一は相續の因果は他に依るの義。二は互に因果となりて識を生

(一五)分別して内身を觀ずるに、我が身は何の所有ぞ、若し能く是の如く觀せば、彼は我の有無に達せん。

身の一切分を觀ずるに、依止する所無くして住す、諦かに是の身を了る者は、身に於て著する所無けん。

能く身の如實を解り、明かに一切法に達すれば、法は悉く虚妄なりと知りて、其の心に所染無けん。

身命相ひ隨順し、展轉して更相因るは、猶ほ(一六)旋火輪の如くにして、前後知る可からず。

智者は能く、一切の有は無常、諸法は空にして我無しと觀察して、則ち一切の相を離る。

因緣の起す所の業は、我無きこと猶ほ夢の如く、果報の性は寂滅して、前後異相無し。

一切世間の法は、唯心を以て主と爲す、樂に隨ひて相を取する者は、皆悉く是れ顚倒なり。

(一七)世間の所有る法は、一切悉く虚妄にして、諸法は、眞實に一有ること無しと解ること能はず。

するの義。三は熏を受くる義、四は相依持する義なり。

【一二】後の五偈は前の本難に答ふ。中に於て初の二は正しく前難に答へ、後の三は三無性觀を明かす。

【一三】第二、教化甚深。

【一四】明智。無明を離れたる智慧のこと。

【一五】次の七偈は正しく前問に答ふ。

【一六】旋火輪。火輪車のことにして、炬火、又は線香の如き火を、回旋する時に見る火の輪をいふ。

【一七】後の二偈は遮難を釋す。衆生は空なるも教化の必用あり、且つ化用の成立することを明かす。

一切の生滅の法は、皆悉く緣より起り、念念に速かに滅に歸して、
終始異相無し。』

(一八)爾の時に文殊師利、寶首菩薩に問ふて言はく、

『佛子よ、一切の衆生は(一九)四大にして、悉く(二〇)我に非ず(二一)我所に非ざるに、云何んぞ衆生は、或は苦を受け樂を受け、或は惡を作し善を作し、或は內(二二)端正なるあり、或は外端正なるあり、或は少しの報を受け、或は多くの報を受け、或は(二三)現報有り、或は後報有るや。(二四)然も諸法の性には善も無く、惡も無し。』

爾の時に寶首菩薩、(二五)偈を以て答へて曰はく、

『行ふ所の諸業に隨ひて、果報を受くることも亦然なり、造者は所有無し、諸佛は是の如く說きたまふ。

猶は明淨なる鏡の、其の面に隨ひて像現ずるも、內外所有無きが如く、業性も亦是の如し、

亦田の種子は、各各相知らずして、自然に能く因と作るが如く、業性

【一八】第三、業果甚深。

【一九】四大。地水火風の四大種なり。衆生の身は此の四大の假和合なりとの意。

【二〇】我。我は常一主宰の義にして、肉體の主宰をなす常住自在の靈をいふ。

【二一】我所。我の所有物の義にして、我に依りて執著せらるるすべての者をいふ。

【二二】端正。ただしく、ととのひたること。

【二三】現報。現世に作したる業が現世に報いらるるを現報といひ　生を隔て來來世に報いらるるを後報といふ。

【二四】次は救を遮して難ず、謂く我空なるのみならず法また空なり、何に因りて業果ありやとの意なり、

【二五】頌に十偈あり、初の一は

も亦是の如し。
亦(二六)大幻師の、彼の四衢の道に在りて、種種の色を示現するが如く、業性も亦是の如し。
匠の木人を造りて、能く種種の聲を出さしむるも、彼には我と非我と無きが如く、業性も亦是の如し。
亦衆の鳥類の、聲を出して音同じからず、能く種種の聲を作すが如く、業性も亦是の如し。
親の因緣會へば、生を受くるも來者無く、諸根各別異なるが如く、業性も亦是の如し。
大地獄の中の、衆生苦惱を受くるも、苦惱來る處無きが如く、業性も亦是の如し。
亦(二七)轉輪王の、勝れたる七寶を成就するも、彼從來する所無きが如く、業性も亦是の如し。
亦諸の世界に、成る有り或は敗るる有るも、成敗に來去無きが如く、業性も亦是の如し。』
(二八)爾の時に文殊師利、德首菩薩に問ふて言はく、
『佛子よ、如來は唯一法をさとるのみ。云何んぞ乃ち無量の諸法を說き、音聲徧く無量の世界に滿ちて

法說、後の九は喩說なり。
【二六】大幻師。巧妙なる幻術師のこと。
【二七】轉輪王。人壽八萬歲以上の時に出現する聖王なり、此の王は輪寶を感得し、王の遊行する時は此の輪寶必ず自ら前に轉じて地を平坦にし障碍を除くが故に此の名あり、又此の王には七寶及四德の果報ありといふ。
【二八】第四、佛の說法甚深。

悉く能く無量の衆生を敎化し、無量の聲を出し、無量の身を現じ、無量なる衆生の心意を了知し、無量の神足自在を示現し、無量無邊の世界を示現し、無量の殊勝なる莊嚴を示現し、無量なる種種の境界を示現したまふや。(二九)而も法性は分別するに實に不可得なり。』

爾の時に德首菩薩、(三〇)偈を以て答へて曰はく、

『佛子よ、乃ち能く、甚深微妙の義を問へり、智者若し此を知らば、
常に樂ひて功德を求めん。
猶ほ地性は一なれども、能く種種の物を持し、一異を分別せざるが如く、諸佛の法も是の如し。
猶ほ火性は一なれども、能く世閒の物を燒き、火性に分別無きが如く、
諸佛の法も是の如し。
猶ほ大海の水は、注ぐに百の川流を以てするも、其の味に別異無きが如く、諸佛の法も是の如し。
猶ほ風性は一なれども、一切の物を吹動し、風性に別異無きが如く、諸佛の法も是の如し。
猶ほ龍の雷震して、普く一切の地に雨らすも、雨滴に分別無きが如く、諸佛の法も是の如し。

〔二九〕而も法性は云云。問難の意は一體にして多用なるは相違背するにあらずや、而も法性の中に種種の差別を求むるも得べからず、何ぞ能く一體にして應現種種なるやと云ふに在り。

〔三〇〕頌に十偈あり、初の一は歎じて略答し、後の九は九喩を擧げ、體一にして能く差別の事を成ずることを得るを明かし前問に答ふ。

猶ほ大地は一なれども、能く種種の芽を生じ、地性に別異無きが如く、諸佛の法も是の如し。
猶ほ日に雲翳無ければ、普く能く十方を照して、光明に異性無きがごとく、諸佛の法も是の如し。
猶ほ空中の月は、世間に見ざること靡けれども、一切處に至るに非ざるが如く、諸佛の法も是の如し。
猶ほ大梵王は、普く大千に應現すれども、其の身に別異無きが如く、諸佛の法も是の如し。』

(三一)爾の時に文殊師利、目首菩薩に問ふて言はく、

『佛子よ、如來の福田は等一にして異ること無きに、云何んぞ布施の果報同じからずして、種種の(三二)色、種種の(三三)性、種種の(三四)家、種種の(三五)根、種種の財、種種の奇特、種種の眷屬、種種の自在、種種の功德、種種の慧有るや。如來は平等にして怨親有ること無し。』

爾の時に目首菩薩、(三六)偈を以て答へて曰はく、

『譬へは大地は一なれども、能く種種の芽を生じ、彼に於て怨親無きが如く、佛の福田も亦た然

【三一】第五、福田甚深。
【三二】色。色相の好醜をいふ。
【三三】性。種姓の別をいふ。
【三四】家。貴賤、貧富等の家をいふ。
【三五】根。眼等の諸根の具缺、好惡及び根機の利鈍をいふ。
【三六】頌に十偈あり。十喩を擧げて前問を答ふ。

なり。

譬へば水は一味なれども、器に因るが故に同じからざるが如く、諸佛の福田は一なるも、衆生の故に異る有り。

譬へば大幻師の、能く衆をして歡喜せしむるが如く　諸佛の聖福田も、願に隨ひて忻悦せしむ。

譬へば(二七)辯才王の、能く衆をして歡喜せしむるが如く、諸佛の聖福田も、衆生をして悅樂せしむ。

譬へば明淨の鏡の、對するに隨ひて衆像を現ずるが如く、諸佛の聖福田も、衆生の故に異る有り。

譬へば大藥王の、一切の毒を消滅するが如く、諸佛の聖福田も、能く煩惱の患を滅す。

譬へば日の出づる時は、能く一切の闇を除くが如く、諸佛の聖福田も、普く十方界を照す。

譬へば淨滿月の、普く四天下を照すが如く、諸佛の聖福田も、平等にして偏黨無し。

譬へば(二八)毘嵐風の、一切の地を震動するが如く、諸佛の聖福田も、能く三界の有を動ず。

【二七】辯才王。大辯功德天又は略して辯天ともいふ。護法の天女にして佛法を流布し、壽命を增益し、怨敵を退散し、財寶滿足の利益を施して衆を喜ばしむ。

【二八】毘嵐風(Velamba)。迅猛風と譯し、速力迅急にして觸るる所は悉く壞散せざることなき暴風なり。

譬へば(三九)火劫起れば、天地燒かざる靡きが如く、諸佛の聖福田も、能く一切の有を燒く。』

(四〇)爾の時に文殊師利、進首菩薩に問ふて言はく、

『佛子よ、衆生は如來の教を見て諸の煩惱を斷ずと爲すや。色受想行識、欲界、色界、無色界の癡愛を知りて諸の煩惱を斷ずと爲すや。(四一)若し色受想行識、欲界、色界、無色界の癡愛を知りて、諸の煩惱を斷ぜば、如來の教法は何の增損する所かある。』

爾の時に進首菩薩、(四二)偈を以て答へて曰はく、

『佛子よ、善く諦かに聽け、我如實の義を說かん、或は速かに出要する有り、或は解脫し難き有り。

若し無量なる諸の過惡を、除滅せんことを求めんと欲せば、應當に一切時に、勇猛に大精進すべし。

譬へば微少の火は、樵濕ふときは則ち能く滅するが如く、佛の教法の中に於て、懈怠の者も亦然なり。

【三九】火劫。大の三災の一にして、世界の壞劫の時に起る大火なり。三禪天以下は悉く此の劫火の爲めに燒かるといふ。

【四〇】第六、正教甚深。

【四一】難問の意は、教法に因りて惑を斷ずと爲すや、將た又勤行に因りて惑を斷ずとなすや。若し教に因るものならば、精進修行を須ゐず、若し勤行に因るものならば、教法を得るも益なく、之を失ふも損失なかるべし、との意にして教力相違の難なり。

【四二】頌に十偈あり、初の一は聽を勸めて總說し、次の一は精進は教に順ずる事を辨じ、後の八偈は、各喩を擧げて懈怠は正教に違ふ事を明かす。

譬へば人の火を鑽るに、未だ出でざるに數休息せば、火勢隨つて止滅するが如く、懈怠の者も亦然なり。

譬へば淨き火珠も、緣を離れて而も火を求めば、畢竟得可からざるが如く、懈怠の者も亦然なり。

譬へば明淨なる日に、目を閉ぢて色を見んと求むるが如く、佛の教法の中に於ける、懈怠の者も亦然なり。

譬へば人の手足無くして、大地を射過さんと欲するも、永く彼の意に從はざるがごとく、懈怠の者も亦然なり。

譬へば大海の水を、一毛をもつて滴み盡さんことを求むるが如く、佛の教法の中に於ける、懈怠の者も亦然なり。

【四三】第七、正行甚深。

譬へば火劫の起るに、少しの水を以て滅せんと欲するが如く、佛の教法の中に於ける、懈怠の者も亦然なり。

譬へば人の虚空を見て、便ち我か身滿てりと言はんがごとく、佛の教法の中に於ける、懈怠の者も亦然なり。』

〔四三〕爾の時に文殊師利、法首菩薩に問ふて言はく、

『佛子よ、佛の說きたまふ所の如く、法を聞受する者は能く煩惱を斷ずるに、云何んぞ衆生は等しく正法を聞きて而も斷ずること能はざる。婬怒癡に隨ひ、慢に隨ひ、愛に隨ひ、忿に隨ひ、慳嫉に隨ひ、恨に隨ひ、諂曲に隨ふや。此の諸の垢法は悉く心を離れず、(四四)心に所行無ければ能く結使を斷ぜん。

爾の時に法首菩薩、(四五)偈を以て答へて曰はく、

『佛子よ、善く諦かに聽け、問ひし所の如實の義は、但多聞を積むのみにて、能く如來の法に入るには非ず。

譬へば人の水に漂はされ、溺れんことを懼れて而も渴して死するがごとく、說の如く行ずること能はざる、多聞も亦是の如し。

譬へば人の大いに、種種 諸の餚饌を惠み施さるるも、食はずして自ら餓死するがごとく、多聞も亦是の如し。

譬へば良醫有りて、具さに諸の方藥を知るも、自ら疾みて救ふこと能はざるが如く、多聞も亦是の如し。

譬へば貧窮の人、日夜に他の寶を數へ、自ら半錢の分無きが如く、多聞も亦是の如し。

譬へば帝王の子は、應に極み無き樂を受くべきも、業障の故に貧苦なるが如く、多聞も亦是の如

【四四】心に所行云云。道理に依らば心に所行なくして方に能く惑を斷ずる事を得るに、若し教に依りて行ずといはば卽ち是れ心に所行有り、何ぞ能く惑を斷ぜんやとの意なり。

【四五】頌に十偈あり、初の一は聽を勸め總じて答ふ。後の九は各喩を擧げ、多聞のみにて行を缺ぐ者の失を顯はす。

し。

譬へば聾聵の人の、善く諸の音樂を奏して、彼を悅ばしむるも自ら聞かざるが如く、多聞も亦是の如し。

譬へば盲瞽の人、本習ひしが故に能く畫きて、彼に示すも自ら見ざるが如く、多聞も亦是の如し。

譬へば海の導師の、能く無量の衆を度し、彼を拯ふも自ら濟はざるが如く、多聞も亦是の如し。

譬へば人の大衆に處して、善く勝妙の事を說けども、內に自ら實德無きがごとく、多聞も亦是の如し。』

(四六)爾の時に文殊師利、智首菩薩に問ふて言はく、

『佛子よ、佛法の中に於ては、智慧を首と爲すに、如來は何が故に、或は衆生の爲めに(四七)檀波羅蜜(四八)尸波羅蜜(四九)羼提波羅蜜(五〇)毗梨耶波羅蜜(五一)禪波羅蜜(五二)般若波羅蜜(五三)慈悲喜捨を讃歎したまへるや。此の一一の法に於ては皆無上菩提を得ることを能はざるべし。』

【四六】第八、助道甚深。

【四七】檀波羅蜜(Dānapāramitā)布施と譯す。波羅蜜は到彼岸と譯す。既に前に釋せり。

【四八】尸波羅蜜(Śīlapāramitā)。持戒と譯す。

【四九】羼提波羅蜜(Kṣāntipāramitā)。忍辱と譯す。

【五〇】毗梨耶波羅蜜 Vīryapāramitā)。精進と譯す。

【五一】禪波羅蜜(Dhyānapāramitā)。靜慮と譯す。禪定のことなり。

【五二】般若波羅蜜(Prajñāpāramitā)。智慧と譯す。以上は菩薩の六度の行なり。

【五三】慈悲喜捨。これを四無量といひ、菩薩の利他の心の廣大なることを表す。慈とは一切の衆生を愛念し樂を與ふる心。悲とは愍念して苦を拔く

爾の時に智首菩薩、(五四)偈を以て答へて曰はく、

『知り難きを而も能く知りて、衆生の心に隨順せり、佛子よ、問ひし所の義を、諦かに聽け、我今說かん。

過去未來の世、現在の諸の導師は、未だ嘗て一法のみを以て、無上の道を成ずることを得たまはず。

如來は衆生の、本性に修習する所を知して、善く應に度すべき者に順じて、爲めに淨妙の法を說きたまふ。

(五五)慳者には布施を讚め、禁を毀るものには持戒を讚め、瞋恚のものには忍辱を讚め、懈怠のものには精進を讚め、亂意のものには禪定を讚め、愚癡のものには智慧を讚め、不仁のものには慈愍を讚め、怒害のものには大悲を讚めたまふ。憂慼するものには爲めに喜を讚め、憎愛のものには爲めに捨を讚め、是の如くして修習せん者は、漸く一切の法を解らん。

譬へば宮室を造るに、基を起して堅固ならしむるが如く、施戒も亦是の如し、菩薩の衆行の本な

の心、喜とは苦を離れ樂を得しめて他の衆生を喜ばしむる心。捨とは衆生に於て憎愛なき平等の心なり。

【五四】頌に十偈あり、初の一は問を歎じ聽を勸む。次の二偈は二章門を開く、一には證果は一行を以て成ずるに非ず、正しく助道を待つを要すること、二には衆生の希望に隨ひて別讚すること。

【五五】後の七頌は此の二門を釋す、中に於て初の三は後を釋し後の四は前を釋す。

り。

譬へば牢堅の城の、諸の敵難を防衛するが如く、忍進も亦是の如く、諸の菩薩を防護す。

譬へば大力の王の、威德を以て天下を定むるが如く、禪智も亦是の如く、諸の菩薩を安隱にす。

譬へば轉輪王の、具さに一切の樂を受くるが如く、(五六)四等も亦是の如く、諸の菩薩を安隱にす。』

(五七)爾の時に文殊師利、賢首菩薩に問ふて言はく、

『佛子よ、一切の諸佛は、唯一乘を以てのみ生死を出づることを得たまふに、云何ぞ今一切の佛刹を見るに、事事同じからざるや。所謂る、世界、衆生、說法、敎化、壽命、光明、神力、衆會、佛法、(五八)法住、是の如き等の事皆悉く同じからず。一切の佛法を具へずして、而も能く無上菩提を成就すること有ること無けん。』

爾の時に賢首菩薩、(五九)偈を以て答へて曰はく、

『文殊よ、法は(六〇)常爾にして、法王は唯一法なり、一切無礙の人は、一道より生死を出でたまふ。

【五六】四等。四無量心の舊譯なり。

【五七】第九、一乘甚深。

【五八】法住。正法、像法、末法の三住にして敎法の持續する長短をいふ。

【五九】頌に十偈あり、初の二は實理に就いて因果倶に一なることを明かす。

【六〇】常爾。法爾常規にして因果異なることなしとの意。

一切諸佛の身は、唯是れ一の法身にして、一の心、一の智慧、力無畏も亦然なり。

(六二)衆生の本行の、無上菩提を求むるに隨ひて、佛刹及び衆會も、説法も悉く同じからず。

一切諸佛の刹は、平等に普く嚴淨するも、衆生の業行異れば、所見各同じからず。

諸佛及び佛法は、衆生能く見る莫し、佛刹、法身、衆、説法も亦是の如し。

本行廣く淸淨にして、一切の願を具足する、彼の人は眞實を見る、明達知見の者なり。

衆生の欲と、諸業及び果報とに隨順して、各眞實を見しむ、佛力自在なるが故なり。

佛刹に異相無く、如來に憎愛無し、彼の衆生の行に隨ひて、自ら是の如く見ることを得。

是れ一切の佛、安住せる導師の咎に非ず、無量なる諸の世界に、示現するも見ること同じからざればなり。

一切諸の世界の、應に化を受くべき所の者は、常に人中の雄を見たてまつる、諸佛の法是の如し。』

(六三)爾の時に諸の菩薩、文殊師利に謂ひて言はく、

【六二】 後の八偈は機見に隨って別異あり、佛に別あるに非ざることを明かし、展轉して疑を釋す。

【六三】 第十、佛境界甚深。

『佛子よ、我等の解る所は各各已に說けり。仁者は辯才深く入る、次に應に敷演すべし。(六三)何等か是れ佛の境界、何等か是れ佛の境界の因、何等か是れ佛の境界の所入、何等か是れ佛の境界の所度、何等か是れ佛の境界の隨順知、何等か是れ佛の境界の隨順法、何等か是れ佛の境界の分別知、何等か是れ佛の境界を識る、何等か是れ決定して佛の境界を知る、何等か是れ佛の境界の照、何等か是れ佛の境界の廣なる。』

爾の時に文殊師利、(六四)偈を以て答へて曰はく、

『如來の深き境界は、其の量虛空に齊しく、一切の衆生入るも、眞實に所入無し。

如來の境界の因は、唯佛のみ能く分別したまふ、自餘は無量劫に、演說すとも盡す可からず。

衆生に隨順するが故に、普く諸の世界に入るも、智慧常に寂然として、世の所見に同じからず。

諸の群生を度脫するに、其の心智に隨順して宣暢して窮盡すること無し、唯是れ佛のみの境界なり。

【六三】請問に十一句あり、初の二は自利の德體、次の五は利他の德用、次の三は所益の衆生を問ひ、後の一は其の廣大を結問す、一一の義は後の答に照して解すべし。

【六四】頌に十偈あり、第八の一偈は前の八九の二問に答へ、餘は次第に各一問に答ふ。

如來の一切智は、三世に障礙無く、諸佛の妙境界は、皆悉く虚空の如し。
法界に異相無けれども、衆生に隨順して說く、若し具さに分別せんと欲せば、唯佛のみの境界なり。

一切諸の世閒の、無量衆の音聲を、時に隨ひて悉く了知するも、其の實は分別無し。
識の能く識る所に非ず、亦心の境界にも非ず、自性は眞に淸淨にして、能く諸の群生に示す。
業に非ず煩惱に非ず、寂滅にして所住無く、明なく所行なく、平等にして世閒に行ず。
一切衆生の心は、普く三世の中に在り、如來は一念に於て、一切悉く明達したまふ。

【六五】以下、普見を結通す。

(六五)爾の時に此の娑婆世界の衆生は、佛の神力の故に、此の佛刹の一切衆生の、所行の法の如く、所行の業の如く、世閒の行の如く、身に隨ひて行ずる所、根に隨ひて行ずる所、其の行業に隨ひて所生の處、持戒、毀禁、說法、果報を見る。是の世界の中のこと、一切悉く見るがごとく、是の如く東方の百千億の世界、不可量、不可數、不可思議、不可稱、無等無邊、無分齊、不可說、虛空法界に等しき一切の世界、乃至說法、果報を、一切悉く見る。南西北方四維上下も亦復た是の如し。

淨行品第七

(一)爾の時に智首菩薩、文殊師利に問ふて言はく、

(二)「佛子よ、(三)云何んが菩薩の不染の身口意の業、不害の身口意の業、不癡の身口意の業、退轉せざる身口意の業、動ぜざる身口意の業、應に讃歎すべき身口意の業、淸淨の身口意の業、煩惱を離れたる身口意の業、智慧に隨ふ身口意の業なる。(四)云何んが菩薩の生處成就、姓成就、家成就、(五)色と、相との成就、(六)念成就、智慧成就、(七)趣成就、無畏成就、覺悟成就なる。(八)云何んが菩薩の第一の智慧、最上の智慧、勝れたる智慧、最勝の智慧、不可量の智慧、不可數の智慧、不可思議の智慧、不可稱の智慧、不可說の智慧なる。(九)云何んが菩薩の因力具足、意力具足、方便力具足、緣力具足、境界力具足、根力具足、止觀力具足、定力具足なる。云何んが菩薩は善く陰界入を知り、善く緣起の法を知り、善く欲色無色界を知り、善く過去未來現在を知るや。云何んが菩薩は(一〇)七覺意を修し、(一一)空

【一】第一段、智首菩薩の問を擧ぐ。

【二】問に相從して十一あり、初の七は自分の因行、後の四は他分の果行を問ふ。前の中に、初の三は三業福を成ずること、後の四は因力行を成ずることを明かす。

【三】初の九句は三業の行因を辨ず、九種の三業あり、初の三は三毒を離れ、次の三は三行を成じ、後の三は三德を顯はす。

【四】次の十句は前の三業所成の福果を明かす。

【五】色と相。色は善色にして諸根の完具せること、相は身の福相にして相好の具足せる

無相無作を修するや。云何んが菩薩は檀波羅蜜、尸波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪波羅蜜、般若波羅蜜、慈悲喜捨を滿足するや。(一二)云何んが菩薩は是處非處の智力、過去未來現在の業報の智力、種種の諸根の智力、種種の性の智力、種種の欲の智力、一切至處道の智力、禪定解脱三昧垢淨の智力、宿命無礙の智力、天眼無礙の智力、一切の煩惱(一三)習氣を斷ずる智力を得るや。云何んが菩薩は常に諸の天王の爲めに守護し恭敬し供養せられ、龍王、鬼神王、乾闥婆王、阿修羅王、迦樓羅王、緊那羅王、摩睺羅伽王、人王、梵天王等に守護し恭敬し供養せらるるや。云何んが菩薩は衆生の舍と爲り、救と爲り、歸と爲り、趣と爲り、炬と爲り、明と爲り、燈と爲り、導と爲り、無上導と爲るや。云何んが菩薩は一切の衆生に於て第一と爲り、大と爲り、勝と爲り、上と爲り、無上と爲り、無等と爲り、(一四)無等等と爲るや。』

(一五)爾の時に文殊師利、智首菩薩に答へて曰はく、

(一六)『善い哉、善い哉、佛子よ、(一七)饒益する所多く、(一八)安隱にする所多く、

こと。

【六】念。總持して忘れざるの義。

【七】趣。意趣の義、志力堅固にして行を成ずること。

【八】次の九句は三業所成の智果を明かす。

【九】次の四は因力行を成ずることを明かす、中に初の一は能成の力、後の三は所成の行を明かす。

【一〇】七覺意、又は七覺支といふ。修する所の法を觀察して、其の眞僞善惡を覺了するなり。支は支分の義、七種の分齊相亂せざるの意。七種とは、擇法、精進、喜、除、捨、定、念是なり。

【一一】空、無相、無作。之れを三解脱門又は三空門といふ、涅槃に到る三種の方法なり。空とは諸法皆空なりと觀ずる

世間を哀愍し、一切を惠利し、天人を安樂にせんとて、是の如きの義を問へり。

(一九)佛子よ、菩薩は身口意の業を成就せば、能く一切の勝妙なる功德を得ん。佛の正法に於て心に罣礙無く、去來今の佛の轉じたまひし所の法輪を能く隨順して轉じ、衆生を捨てず、明かに實相に達して、一切の惡を斷じ、衆の善を具足し。(二〇)色像第一とならん、悉く普賢大菩薩等の如くにして、如來の一切種智を成就し、一切の法に於て悉く自在を得て、衆生の(二一)第一の尊導と爲らん。

(二二)佛子よ、何等の身口意の業か、能く一切の勝妙なる功德を得る。

(二三)『菩薩家に在らば、當に願ふべし衆生、家難を捨離して、(二四)空法の中に入らんと。

父母に孝事せば、當に願ふべし衆生、一切を護養して、永く大安を得んと。

妻子集會せば、當に願ふべし衆生、愛の獄を出でて、戀慕の心無から

こと、無相とは諸法に差別の相なきこと、無作とは或は無願といひ、前二觀を本として其の上に欲求の念を起さざることなり。

【二二】後に勝進の果を問ふに四あり、一には內に十の勝德(十力)を具すること、二には外に十王の敬護すること、三には悲德普く覆ふこと、四には智德の獨り勝越せる事を問ふ。

【二三】習氣。熏習の氣分の義にして、既に煩惱を斷じたる後も、尙其の熏染の力に依りて、氣分は容易に去り難し、之を習氣といふ。譬へば香を取り去るも、其移り香は長く殘るが如し。

【二四】無等等。比儔なきを無等といひ、無等の大聖は自ら相等しきが故に無等等といふ。或は又無等は下に對して比無

んと。

若し五欲を得ば、當に願ふべし衆生、貪惑を捨離して、功德具足せんと。

若し妓樂に在らば、當に願ふべし衆生、悉く（一五）法樂を得て、法の幻の如きを見んと。

若し房室に在らば、當に願ふべし衆生、賢聖の地に入りて、永く欲穢を離れんと。

寶の瓔珞を著けなば、當に願ふべし衆生、重擔を捨て去りて、（一六）有無の岸に度らんと。

若し樓閣に上らば、當に願ふべし衆生、佛の法堂に昇りて、微妙の法を得んと。

珍しき所を布施せば、當に願ふべし衆生、悉く一切を捨てて、心に貪著無けんと。

若し衆會に在らば、當に願ふべし衆生、解脫を究竟して、如來の會に

なきをいひ、無等等は同等の者に對して及ぶ者なきをいふ。

【一五】第二段、文殊菩薩の答說を明かす。

【一六】先づ問を數ず。

【一七】饒益。利益なり、善因を修し惡を離れしむるをいふ。

【一八】安隱。安樂なり、善を攝め樂果を得しむるをいふ。

【一九】次に問意を標して答ふ。

【二〇】色像。色身の相好具足するをいふ。

【二一】第二尊導。至尊の佛に亞いで尊き導師の意。

【二二】次に偈頌を以て答ふ。

【二三】頌に百四十願あり、通じて前の諸問に答ふ。分ちて十段となす、初の十一は菩薩の在家の時の願を明かす。

【二四】空法。一切の諸法は因緣より生ずるが故に自性なしと證るなり。

到らんと。

若し危難に在らば、當に願ふべし衆生、意に隨ひ自在にして、罣礙する所無けんと。

(二七)信を以て家を捨てなば、當に願ふべし衆生、世業を棄捨して、心に所著無けんと。

若し僧房に入らば、當に願ふべし衆生、一切和合して、心に限礙あること無けんと。

大小の師に詣でなば、當に願ふべし衆生、方便門を開きて、深く法要に入らんと。

出家の法を求めば、當に願ふべし衆生、不退轉を得て、心に障礙無けんと。

俗服を脱ぎ去らば、當に願ふべし衆生、道を解り徳を修めて、復た懈怠無けんと。

鬚髮を除剃せば、當に願ふべし衆生、煩惱を斷除して、究竟じて寂滅ならんと。

(二八)袈裟を受けて著けなば、當に願ふべし衆生、三毒を捨離して、心に歡喜を得んと。

出家の法を受けなば、當に願ふべし衆生、佛の如く家を出でて、一切を開導せんと。

【二五】法樂。佛法を樂むこと。

【二六】有無の岸。眞俗融の境界をいふ。

【二七】二、次の十一は出家する時の願を明かす。

【二八】袈裟衣(Kaṣāya)。不正色又は染色衣等と譯す。出家の正衣にして青黃赤白黑の五正色にあらざる色に染めて、人之を見るも愛著の念を生ぜざらしむるなり。

自ら佛に（二九）歸せば、當に願ふべし衆生、大道を（三〇）體解して、（三一）無上の意を發さんと。

自ら法に歸せば、當に願ふべし衆生、深く經藏に入りて、智慧海の如くならんと。

自ら僧に歸せば、當に願ふべし衆生、大衆を統理して、一切無礙ならんと。

（三二）淨戒を受持せば、當に願ふべし衆生、具足し修習して、一切の戒を學ばんと。

（三三）道禁を受行せば、當に願ふべし衆生、道戒を具足して、如實の業を修せんと。

始めて（三四）和尚を請せば、當に願ふべし衆生、無生智を得て、彼岸に到らんと。

（三五）具足戒を受けなば、當に願ふべし衆生、勝妙の法を得て、方便を成就せんと。

【二九】歸。歸依又は歸命の義にして歸順し依憑すること。

【三〇】體解。佛の大道を智を以つて解了するのみならず。身に體得し實踐するをいふ。

【三一】無上の意。無上菩提に向はんとする心にして、菩提心の意なり。

【三二】三、次の五は禁戒を受くる時の願を明かす。淨戒とは三聚淨戒のこと。

【三三】道禁。五戒又は十重禁戒のこと。

【三四】和尚。又は和上といふ。梵語鄔波陀耶（Upādhyāya）の訛略にして親教師と譯し、受戒の時の師なり。或は云ふ和尚とは于闐國の語なりと。

【三五】具足戒。具足は圓滿の義に總じて出家の持つべき戒法をいふ。比丘に二百五十戒、

若し房舍に入らば、當に願ふべし衆生、無上の堂に昇りて、不退の法を得んと。

（三六）若し牀座を敷かば、當に願ふべし衆生、善法の座を敷きて、眞實の相を見んと。

身を正しくして端坐せば、當に願ふべし衆生、佛の道樹に坐して、心に倚る所無けんと。

結跏趺坐せば、當に願ふべし衆生、善根堅固にして、不動地を得んと。

三昧正受せば、當に願ふべし衆生、三昧門に向ひて、究竟の定を得んと。

諸法を觀察せば、當に願ふべし衆生、法の眞實を見て、罣礙する所無けんと。

跏趺の坐を捨てなば、當に願ふべし衆生、諸行の性は悉く散滅に歸することを知らんと。

（三七）牀を下りて足を安んぜば、當に願ふべし衆生、聖跡を履踐して、解脱を動ぜざらんと。

始めて足を擧ぐる時は、當に願ふべし衆生、生死を越度して、善法滿足せんと。

衣裳を被著せば、當に願ふべし衆生、諸の善根を服し、每に慚愧を知らんと。

服を整へ帶を結ばば、當に願ふべし衆生、自ら檢めて道を修し、善法は壞らざらんと。

次に上衣を著けなば、當に願ふべし衆生、上善根を得て、勝法を究竟せんと。

比丘尼に三百四十八戒あり。

【三六】四、次の六は定慧の行を修する時の願を明かす。

【三七】五、次の六は進止威儀の時の願を明かす。

(三八)僧伽梨を著けなば、當に願ふべし衆生、大慈をもつて覆ひ護られ、不動の法を得んと。

(三九)手に楊枝を執らば、當に願ふべし衆生、心に正法を得て、自然に淸淨ならんと。

晨に楊枝を嚼まば、當に願ふべし衆生、調伏の牙を得て、諸の煩惱を噬まんと。

左右の便利をなさば、當に願ふべし衆生、汚穢を蠲除して、婬怒癡無けんと。

已りて水に就かば、當に願ふべし衆生、無上の道に向ひて、出世の法を得んと。

水を以て穢を滌がば、當に願ふべし衆生、淨忍を具足して、畢竟じて無垢ならんと。

水を以て掌を盥はば、當に願ふべし衆生、上妙の手を得て、佛法を受持せんと。

口齒を澡漱せば、當に願ふべし衆生、淨き法門に向ひて、解脫を究竟せんと。

手に(四〇)錫杖を執らば、當に願ふべし衆生、淨き施會を設けて、道を見ること實の如くならんと。

【三八】僧伽梨(Saṃghāṭī)。重複衣、又は大衣と譯し、說法又は托鉢の時に用ゐる法衣なり。

【三九】六、次の十二は食を乞ひ、生を利せんが爲めに、疾速に路に進む時の願を明かす。

【四〇】錫杖。佛徒の用ゐる杖にして上部に數個の小鐶をかけ歩に從ひて響をなし、行者の來ることを知らしむるなり。

〔四一〕應器を擎持せば、當に願ふべし衆生、法器を成就して、天人の供を受けんと。
趾を發して道に向はば、當に願ふべし衆生、佛の菩提に趣きて、解脱を究竟せんと。
若し已に道に在らば、當に願ふべし衆生、佛道を成就して、無餘を所求とせんと。
路を渉りて行かば、當に願ふべし衆生、淨法界を履んで、心に障礙無けんと。
〔四二〕高きに趣く道を見ば、當に願ふべし衆生、無上の道に昇りて、三界を超出せんと。
下に趣く道を見ば、當に願ふべし衆生、謙下柔輭にして、佛の深法に入らんと。
若し險しき路を見ば、當に願ふべし衆生、惡道を棄捐して、邪見を滅除せんと。
若し直き路を見ば、當に願ふべし衆生、中正の意を得て、身口に曲無けんと。
道の塵を揚ぐるを見ば、當に願ふべし衆生、永く塵穢を離れて、畢竟じて清淨ならんと。
道の塵無きを見ば、當に願ふべし衆生、大悲に熏せられて、心意柔潤ならんと。

〔四一〕應器。又は應量器といひ佛徒の施食を受くるに用ゐる器にして、一人の食量に應ずる大さの器といふ義なり。又は鐵鉢ともいふ。
〔四二〕七、次の五十二は路に在りて諸事を見聞する時の願を明かす。中に於て初め二十五は國土の諸事、後の二十七は人事なり。

深き阬澗を見ば、當に願ふべし衆生、正法界に向ひて、諸の難を滅除せんと。
聽誦の堂を見ば、當に願ふべし衆生、甚深の法を說きて、一切和合せんと。
若し大樹を見ば、當に願ふべし衆生、我諍の心を離れて、忿恨有ること無けんと。
若し叢林を見ば、當に願ふべし衆生、一切敬禮して、天人の師を仰がんと。
若し高山を見ば、當に願ふべし衆生、無上の善を得て、能く頂を見ること莫けんと。
若し荊棘を見ば、當に願ふべし衆生、三毒の刺を拔きて、賊害の心無けんと。
樹の茂れる葉を見ば、當に願ふべし衆生、道を以て自ら蔭し、禪三昧に入らんと。
樹の好き華を見ば、當に願ふべし衆生、開淨華の如くにして、相好滿具せんと。
樹の豐かなる果を見ば、當に願ふべし衆生、道樹の行を起して、無上の果を成ぜんと。
諸の流水を見ば、當に願ふべし衆生、正法の流を得て、佛智の海に入らんと。
若し陂水を見ば、當に願ふべし衆生、悉く諸佛の、不壞の正法を得んと。
若し浴池を見ば、當に願ふべし衆生、佛の海音に入りて、問答窮まり無けんと。
人の井を汲むを見ば、當に願ふべし衆生、如來の辯を得て、窮盡す可からざらんと。
若し泉水を見ば、當に願ふべし衆生、善根無盡にして、境界無上ならんと。

山の澗水を見ば、當に願ふべし衆生、塵垢を洗濯して、意解淸淨ならんと。
若し橋梁を見ば、當に願ふべし衆生、法橋を興造して、人を度して休まざらんと。
園圃を修むるを見ば、當に願ふべし衆生、穢惡を芸除して、欲根を生ぜざらんと。
無憂林を見ば、當に願ふべし衆生、心に歡喜を得て、永へに憂惱を除かんと。
好園池を見ば、當に願ふべし衆生、衆の善を勤修して、菩提を具足せんと。
嚴飾の人を見ば、當に願ふべし衆生、三十二相をもつて、而も自ら莊嚴せんと。
(四三)素服の人を見ば、當に願ふべし衆生、究竟して、(四四)頭陀の彼岸に到ることを得んと。
志樂の人を見ば、當に願ふべし衆生、淸淨の法を樂ひ、道を以て自ら娯まんと。
愁憂の人を見ば、當に願ふべし衆生、有爲の法に於て、心に厭離を生ぜんと。
歡樂の人を見ば、當に願ふべし衆生、無上の樂を得て、(四五)憺怕にして患無ひけんと。

【四三】素服。質素なる衣服のこと。
【四四】頭陀。(Dhūta)。抖擻、陶汰と音譯し、煩惱の垢を拂ひ去りて佛道を修行することなり、是に十二種の行ありて十二頭陀といふ。
【四五】憺怕。世間の歡樂を棄て名利の欲を離れたること。

苦惱の人を見ば、當に願ふべし衆生、衆苦を滅除して、佛の智慧を得んと。
强健の人を見ば、當に願ふべし衆生、(四六)金剛の身を得て、衰耄有ること無けんと。
疾病の人を見ば、當に願ふべし衆生、身の空寂なるを知りて、衆苦を解脫せんと。
端正の人を見ば、當に願ふべし衆生、歡喜して、諸佛菩薩を恭敬せんと。
醜陋の人を見ば、當に願ふべし衆生、鄙惡を遠離して、善を以て自ら嚴らんと。
恩を報ゆる人を見ば、當に願ふべし衆生、常に諸佛、菩薩の恩德を念せんと。
恩に背く人を見ば、當に願ふべし衆生、常に賢聖に見えて、衆惡を作さざらんと。
若し沙門を見ば、當に願ふべし衆生、寂靜にして調伏し、究竟じて餘り無けんと。
(四七)波羅門を見ば、當に願ふべし衆生、眞の淸淨を得て、一切の惡を離れんと。
若し仙人を見ば、當に願ふべし衆生、正眞の道に向ひて、解脫を究竟せんと。
苦行の人を見ば、當に願ふべし衆生、堅固に精勤して、佛道を退かざらんと。

【四六】金剛身。不壞常住の身なり。
【四七】波羅門(Brahmana)。淨行と譯す、印度の四姓の最高位に在る種族にして、僧侶の階級の人なり。

甲冑を著くるを見ば、當に願ふべし衆生、誓つて法鎧を服して、無師の法を得んと。
鎧仗無きを見ば、當に願ふべし衆生、衆惡を遠離して、善法に親近せんと。
論議の人を見ば、當に願ふべし衆生、無上の辯を得て、外道を摧伏せんと。
(四八)正命の人を見ば、當に願ふべし衆生、淸淨の命を得て、威儀異らざらんと。
若し帝王を見ば、當に願ふべし衆生、法王を逮得して、無礙の輪を轉せんと。
帝王の子を見ば、當に願ふべし衆生、佛子の行を履みて、法の中より化生せんと。
若し長者を見ば、當に願ふべし衆生、永く愛欲を離れて、深く佛法を解せんと。
若し大臣を見ば、當に願ふべし衆生、常に正念を得て、衆善を修行せんと。
若し城郭を見ば、當に願ふべし衆生、金剛の身を得て、心沮む可からざらんと。
若し王都を見ば、當に願ふべし衆生、明達して遠く照し、功德自在ならんと。
若し妙色を見ば、當に願ふべし衆生、上妙の色を得て、天人に讃歎せられんと。
(四九)里に入りて食を乞はば、當に願ふべし衆生、深法界に入りて、心に障礙無けんと。

【四八】正命、八正道の一にして、生計を立つるに正善の手段を取ることなり。
【四九】八、次の二十は聚落に至りて食を乞ふ時の願を明かす。

人の門戶に到らば、當に願ふべし衆生、總持の門に入りて、諸佛の法を見んと。
人の堂室に入らば、當に願ふべし衆生、一佛乘に入りて、明かに三世に達せんと。
持ち難き戒に遇はば、當に願ふべし衆生、衆善を捨てずして、永く彼岸に度らんと。
戒を捨つる人を見ば、當に願ふべし衆生、衆難を超出して、三惡道を度らんと。
若し空鉢を見ば、當に願ふべし衆生、其の心淸淨にして、空にして煩惱無けんと。
若し滿鉢を見ば、當に願ふべし衆生、一切の善法を、具足し成滿せんと。
若し食を得たる時は、當に願ふべし衆生、法の爲めに供養して、志佛道に在らんと。
若し食を得ざらんときは、當に願ふべし衆生、一切の諸の不善の行を遠離せんと。
慚愧の人を見ば、當に願ふべし衆生、慚愧をもつて正しく行じ、諸根を調伏せんと。
慚愧無きを見ば、當に願ふべし衆生、無慚愧を離れて、普く大慈を行ぜんと。
香美の食を得ば、當に願ふべし衆生、節を知り欲少くして、情に著する所無けんと。
不美の食を得ば、當に願ふべし衆生、〔五〇〕無願の三昧を、具足し成滿せんと。

【五〇】 無願三昧。三解脫門（又は三三昧）の一にして、一切の法は無相なりと知れば諸法に於て願ひ求むる所無し、若し願求する所なければ生死の

柔輭の食を得ば、當に願ふべし衆生、大悲に熏ぜられて、心意柔輭ならんと。

麤澀の食を得ば、當に願ふべし衆生、永へに、世間の愛味を遠離するを得んと。

若し噉食せん時は、當に願ふべし衆生、(五一)禪悅を食と爲し、(五二)法喜充滿せんと。

食ふ所雜味ならば、當に願ふべし衆生、佛の上味を得て、化して甘露と成さんと。

飯食し已訖らば、當に願ふべし衆生、德行充盈して、十種の力を成ぜんと。

若し法を說かん時は、當に願ふべし衆生、無盡の辯を得て、深く佛法に達せんと。

退坐して堂を出づるには、當に願ふべし衆生、深く佛智に入りて、永く三界を出でんと。

(五三)若し水に入らん時は、當に願ふべし衆生、深く佛道に入りて、等しく三世に達せんと。

身體を澡浴せば、當に願ふべし衆生、身心無垢にして、光明無量ならんと。

業を作らず、從つて果報の苦なくして自在なり、斯くの如く觀ずるを無願又は無作の三昧といふ。

【五一】禪悅を食と爲し。禪法を以て心を資養し、禪定の悅樂を得て諸根を增長せしめ、慧命を資益するをいふ。

【五二】法喜。法喜食のこと、聞法修行に依りて善根を增長し慧命を資養すること。

【五三】九、次の十五は食訖りて禮誦する時の願を明かす。

盛暑炎熾ならば、當に願ふべし衆生、煩惱の熱を離れて、淸涼の定を得んと。
隆寒にして氷結せば、當に願ふべし衆生、究竟じて解脫し、無上淸涼ならんと。
經典を諷誦せば、當に願ふべし衆生、總持の門を得て、一切の法を攝せんと。
若し如來を見たてまつらば、當に願ふべし衆生、悉く佛眼を得て、諸の最勝を見たてまつらんと。
如來を諦觀したてまつらば、當に願ふべし衆生、悉く十方を視て、端正なること佛の如くならんと。
佛の塔廟を見ば、當に願ふべし衆生、尊重なること塔の如くにして、天人の敬ひを受けんと。
敬心に塔を觀せば、當に願ふべし衆生、尊重なること佛の如くにして、天人に宗仰せられんと。
佛塔を頂禮せば、當に願ふべし衆生、道を得て佛の、能く頂を見ること無きが如くならんと。
右に塔廟を繞らば、當に願ふべし衆生、正路を履行して、道意を究暢せんと。
塔を繞ること三帀せば、當に願ふべし衆生、一向の意を得て、勤めて佛道を求めんと。
如來を讃詠したてまつらば、當に願ふべし衆生、功德の岸に度り、歎ずること窮盡すること無けんと。

佛の相好を讃めなば、當に願ふべし衆生、光明神德、佛の法身の如くならんと、
若し足を洗ふ時は、當に願ふべし衆生、(五四)四神足を得て、究竟して解脱せんと。
(五五)昏夜に寢息せば、當に願ふべし衆生、諸行を休息し、心淨くして穢無けんと。
晨朝に覺寤せは、當に願ふべし衆生、一切知覺し、十方を捨てざらんと。
佛子よ、是を菩薩の身口意の業と爲す。能く一切の勝妙なる功德を得ば、諸天、魔、梵、沙門、波羅門、人、及び非人、聲聞、緣覺の、動かすこと能はざる所なり。』

【五四】四神足。又は四如意足といふ。一に欲如意足（諸の善法を修習せんと樂欲すること）、二に念如意足（心を一境に專注すること）、三に精進如意足（無雜無間に修習すること）四に思惟如意足（心を散亂せしめずして理を思惟すること）、これなり。

【五五】十、以下晝夜寢覺時の願を明かす。

賢首菩薩品第八の一

(一)爾の時に文殊師利、偈を以て深義に了達せる淨德の賢首菩薩に問ふて曰はく、

『佛子よ、我已に、菩薩の淸淨の行を說きぬ、一切諸の世尊の、咸共に讃歎したまふ所なり。

又諸の大士衆の、甚深なる微妙の行、功德の廣大なる義を、仁者應に演說すべし。』

(二)賢首菩薩答ふらく、『佛子よ善く諦かに聽け、菩薩の諸の功德は、無量にして邊有ること無し。

我當に力に隨ひて、菩薩の少しの功德を說かん、我が演暢する所は、海の一微滴の如し。

菩薩は生死に於て、最初に發心する時、一向に菩提を求めて、堅固にして動かす可からず。

彼の一念の功德すら、深廣にして邊際無く、如來は分別して說きたまはんに。劫を窮むとも猶ほ盡さじ。

何に況んや無量、無數無邊の劫に於て、具足して諸度を修めたる、諸地の功德の行をや。

【一】初に文殊菩薩甚深の行と廣大の德とを問ふ。

【二】以下、賢首菩薩頌を以て答ふ。三百六十三偈あり。分ちて八段となす。第一、初の七偈は甚深にして說き難きことを明かす。

十方世界の中の、一切の諸の如來、彼の功德雲を說きたまふとも、亦究竟すること能はじ。
今我菩薩の、功德の中の少分を說かん、鳥の虛空を履むが如く、地の一微塵の如し。

(三)是れ(四)所因無きに非ず、又亦(五)緣無きに非ず、菩薩の初發の意は、直心の大功德なり。
佛及び法と僧とに於て、深く淸淨の信を起し、三寶を信敬するが故に、能く菩提心を發す。
五欲の樂、寶貨、諸の財利を求めず、亦自ら安んずることを求めず、世の名聞を悕望せず。
衆生の苦を滅除して、盡く餘り有ること無からしめ、誓つて斯等の類を度せんとて、菩薩は初め發心す。
常に衆生をして、苦を離れ安樂を求めしめんと欲して、一切の刹を嚴淨し、無量の佛を供養し。
樂ひて佛の正法を立て、無上の道を得んと欲し、一切智を淨修せんとて、菩薩は初め發心す。

(六)深心の淨信は壞す可からず、一切の佛を恭敬し供養し、正法及び聖僧を尊重し、三寶を信敬せ

【三】第二、次の六偈は略して行相を示す。

【四】因。親しく能く菩提を求むる心を發さしむるものにして、衆生本具の佛性、內熏の力をいふ。

【五】緣。因を助けて菩提心を發さしむる者にして、佛の敎法、善友の敎誨等の外熏の力をいふ。

【六】第三、次の九偈は略して發心の勝能を示す。

んが故に發心す。

深く諸佛及び正法を信じ、亦菩薩の行ずる所の道を信じ、正心に佛の菩提に向ふことを信ず、菩薩は是れに因りて初め發心す。

信は爲道の元、功德の母なり、一切諸の善法を增長し、一切諸の疑惑を除滅して、無上道を示現し開發す。

淨信は垢を離れて心堅固となり、憍慢を滅除するは恭敬の本なり、信は是れ寶藏第一の法、淸淨の手と爲りて衆の行を受く。

信は能く諸の染著を捨離し、信は微妙なる甚深の法を解り、信は能く轉た勝れたる衆善を成じ、究竟じて必ず如來の處に至らん。

諸の善根を淸淨にし明利にして、信の力は堅固にして壞す可からず、信は永く一切の惡を除滅し、信は能く無師の寶を逮得す。

信は法門に於て障礙無く、八難を捨離して無難を得、信は能く衆魔の境を超出して、無上なる解脫の道を示現す。

一切功德の不壞の種にして、無上の菩提樹を出生し、最勝の智慧門を長養す、信は能く一切の

佛を示現す。

是の故に次第の行を演說せん、信樂は最勝にして甚だ得難し、譬へば靈瑞の(七)優曇華の如く、亦隨意の妙寶珠の如し。

(八)若し一切の佛を信じ恭敬せば、則ち淨戒を持ちて正敎に順はん、若し淨戒を持ちて正敎に順はば、諸佛賢聖に讃歎せられん。

戒は是れ無上菩提の本なり、應當に具足して淨戒を持つべし、若し能く具足して淨戒を持たば、一切の如來に讃歎せられん。

若し一切の佛を信じ恭敬せば、則ち能く奇特に最勝を(九)供せん、若し能く奇特に最勝を供せば、彼の信は佛心も思議し難けん。

若し如來の正眞の法を信ぜば、則ち常に聞かんことを樂ひて厭き足ること無けん、若し法を樂聞して厭足なければ、不可思議の法を悟ることを欣ばん。

若し清淨の僧を信じ恭敬せば、則ち信堅固にして壞す可からじ、若し信堅固にして壞す可からずば、彼の人の信力は動かす可からざらん。

【七】優曇華。具さには優曇鉢羅華(Udumbara)。瑞應華、靈瑞華等と譯す。三千年に一度開き、開けば世に靈瑞ありといふ。

【八】第四、次の五十偈は菩提心は能く廣く行位を攝する事を明かす。中に於て初の九偈は行を攝し、後の四十一偈は位を攝す。

【九】供。供養すること。

若し信堅固にして動かす可からずば、諸根明利にして悉く清淨とならん、若し根明利にして悉く清淨とならば、則ち一切の惡知識を離れん。

若し能く惡知識を遠離せば、則ち能く善知識に親近せん、若し能く善知識に親近せば、則ち無量なる諸の功德を修めん。

若し能く廣く諸の功德を修めば、則ち能善く諸の因果を解らん、若し能善く諸の因果を解らば、則ち殊勝なる妙解脱を成ぜん。

若し殊勝なる妙解脱を成ぜば、則ち一切の佛の爲めに護られん、若し一切の佛の爲めに護られなば、則ち無上の菩提心を生ぜん。

〔一〇〕若し無上の菩提心を生ぜば、則ち能く佛の功德を勤修せん、若し能く佛の功德を勤修せば、則ち能く諸佛の家に生ることを得ん。

若し能く諸佛の家に生ることを得ば、則ち諸法に於て所著無けん、若し諸法に於て所著無ければ、則ち深心の妙清淨なることを得ん。若し深心の妙清淨なることを得ば、則ち殊勝なる無上心を得ん。

〔一一〕若し無上なる殊勝の心を得ば、則ち一切の波羅蜜を修せん、若し一切の波羅蜜を修せば、則ち

【一〇】次の四十一偈は位を攝す、中に於て初の二頌半は十住の位を攝す。
【一一】次の三頌は十行の位を攝す。

能く、(三二)摩訶衍を具足せん。
若し能く摩訶衍を具足せば、則ち法のごとく一切の佛を供養せん、若し法のごとく一切の佛を供養せば、則ち念佛の定壞す可からざらん。
若し念佛の定壞す可からずば、則ち常に十方の佛を覩見たてまつらん、若し常に十方の佛を覩見たてまつらば、則ち如來の常に安住したまふことを知らん。
(三三)若し如來の常に安住したまふことを知らば、則ち其の人に於て法永へに存せん、若し其の人に於て法永へに存せば、則ち辯才を得て窮盡すること無けん。
若し辯才を得て窮盡すること無くば、則ち能く無量の法を演説せん、若し能く無量の法を演説せば、則ち能く一切の衆を度脱せしめん。
若し能く一切の衆を度脱せしめば、則ち大悲心堅固なることを得ん。
(三四)若し大悲心堅固なることを得ば、則ち常に甚深の法を喜び樂はん。若し能く甚深の法を喜び樂はば、則ち能く有爲の過を捨離せん。
若し能く有爲の過を捨離せば、則ち我慢と諸の放逸とを離れん。若し我慢と諸の放逸とを離れな

【三二】摩訶衍、又は摩訶衍那(Mahāyāna)。大乘と譯す。菩薩の大機が修習する所の法門なり。
【三三】次の二頌半は十廻向の位を攝す。
【三四】次の三十三頌は十地の位を攝す。

ば、則ち能く一切の衆を兼ね利せん。
若し能く一切の衆を兼ね利せば、則ち生死に處して憂感無けん、若し生死に處して憂感無くば、則ち能く精進して上有ること無けん。
若し能く精進して上有ること無くば、則ち一切諸の神通を得ん、若し一切諸の神通を得ば、則ち一切衆生の行を解らん。
若し一切衆生の行を解らば、則ち能く諸の衆生を成就せん、若し能く諸の衆生を成就せば、則ち衆生を成就する智を得ん。
若し衆生を成就する智を得ば、則ち能く(一五)四攝法を具足せん、若し能く四攝法を具足せば、則ち衆生に無量の利を與へん。
若し衆生に無量の利を與へば、則ち能く方便慧を具足せん、若し能く方便慧を具足せば、則ち能く無上道に安住せん。
若し能く無上道に安住せば、則ち一切の魔も壞ること能はじ、若し一切魔も壞ること能はずば、則ち能く(一六)四魔の道を超出せん。
若し能く四魔の道を超出せば、則ち堅固なる不動地に至らん、若し堅固なる不動地に至らば、則

【一五】四攝法。菩薩は衆生を濟度せん爲めに、衆生を攝取する四種の法、卽ち布施、愛語、利行、同事これなり。

【一六】四魔。魔とは身心を惱亂して善事をなさしめざる義、一は煩惱魔、二に五蘊魔、三に天魔、四に死魔、これなり。

ち無生の（一七）深法忍を得ん。
若し無生の深法忍を得ば、則ち諸佛の爲めに（一八）授記せられん、若し諸佛の爲めに授記せられなば、則ち常に普く諸佛の前に現ぜん。
若し常に普く諸佛の前に現ぜば、則ち諸佛の微密なる敎を解らん、若し諸佛の微密なる敎を解らば、則ち諸佛の爲に常に護念せられん。
若し諸佛の爲に常に護念せられなば、佛の功德を以て自ら莊嚴せん。
（一九）若し佛の功德をもつて自ら莊嚴せば、則ち無量なる功德の身を得ん。
若し無量なる功德の身を得ば、其の身顯燿なること金山の如くならん。
若し身顯燿なること金山の如くならば、衆相三十二を具足せん、若し衆相三十二を具へなば、（二〇）八十種好をもつて自ら莊嚴せん。
八十種好をもつて自ら莊嚴せば、其の身の光明量有ること無けん。
若し身の光明量有ること無くば、光明の莊嚴は思議し難けん。
若し光の莊嚴思議し難くば、則ち無量の寶蓮華を出さん。
若し無量の寶蓮華を出さば、一一の華座の無量の佛は、普く十方無量の刹に現じて、一切の衆を

【一七】法忍。不生不滅の眞如法性の理を忍知し、決定して退かざる位、此には第八地をさす。
【一八】授記。記別を授くるの義、諸佛が修行者の未來の證果を豫言すること、今は第八地に至れば決定不退なるが故に、證果の記別を授けらるるなり。
【一九】以上は前九地、以下廿一頌半に第十地を明かす。
【二〇】八十種好。三十二相は總、八十種好は更に其を細別したるなり。三十二相は轉輪王、梵天等之を具するも八十種好は獨り佛のみ之を具へ給ふ。

教化し度脫したまはん。

若し能く一切の衆を度脫せば、則ち無量の自在力を得ん、若し無量の自在力を得ば、則ち能く諸佛の刹を嚴淨せん。

甚深なる微妙の法を解說せば、不可思議の衆を歡喜せしめん、若し微妙甚深の法を說きて、不可思議の衆を歡喜せしめば、則ち能く四辯の力を具足して、自在に能く一切の衆を度せん。

若し能く四辯の力を具足して、自在に能く一切の衆を度せば、彼の人の智慧は常に前に在りて、身口意の業錯謬無く、彼の人の願力は自在なることを得て、衆の宜しき所に隨ひて其の身を現せん。

若し彼の願力自在を得て、衆の宜しき所に隨ひて其の身を現せば、諸の衆生の爲めに、說法する時、音聲微妙にして思議し難けん。

若し衆生の爲めに說法する時、音聲微妙にして思議し難くば、彼の一切衆生の願に於て、一念の中に悉く心を知らん。

若し彼の一切衆生の願を、一念の中に悉く心を知らば、其の人の生死は永く餘り無く、一切の煩惱の患を寂滅せん、

若し人生死永く餘り無く、一切の煩惱の患を寂滅せば、法身の功德智慧具はりて、深く一切諸法の實を解らん。
若し身の功德智慧具はりて、深く一切諸法の實を解らば、十地の(一二)十種の自在力を、皆悉く究竟じて勝解脫せん。
若し十地種の自在力を、皆悉く究竟して解脫することを得ば、授記の莊嚴悉く具足し、無量の法門に自在を得ん。
若し記の莊嚴悉く具足して、無量の法門に自在を得ば、盡く一切十方の佛の爲めに、皆記を與へ授けられて餘り有ること無けん。
若し一切の十方の佛の爲めに、皆記を與へ授けられて餘り有ること無くば、甘露の法水をもつて其の(一三)頂に灌ぎ、十方の諸佛の授記竟らん。
若し甘露水をもつて其の頂に灌ぎ、十方諸佛の授記竟らば、法身充滿して虛空に徧く、十方界に安住して動ぜじ。
(一三)若し身充滿して虛空に徧く、十方界に安住して不動ならば、一切の

【一二】十種の自在力。菩薩は十地に到りて衆生を濟度するに十種の自在力を具足す。即ち命、心、資具、行業、受生、解、願、神力、法辯、智慧の十種に於て自在なること。
【一三】灌頂　第十地の終心の菩薩が佛果位に登る時諸佛大悲の法水を以て菩薩の頂に灌ぎ佛果を證得せしむるをいふ。
【一三】後の四頌は結歎して殊勝なることを顯はす。
【一四】初めに信は道の元功德の母なりと說き、今諸位の行相は皆信によりて成ずること明かし竟れり、此に於て信滿成佛の義趣、及び一地に一切地の功德を攝すといふ一乘圓敎の深旨を知るべし。
【一五】第五、次の二百頌半は無方の大用を明かす、中に於て

諸天、及び世人は、無等等界を能く知ること莫けん。

本行せし所に於て果さざること無く、其の見聞せし者は悉く空しからず、此は是れ無上の大福田にして。供養し施す者には大果報あり。

(二四)彼の善男子の威神力にて、正法は常に住して永へに滅せず、十善の功德、諸の妙行は、無量の法寶にして最も無上なり。

彼の威神の力は佛法の海にして、法寶の堅固なること金剛の如く、智慧滿足して盡す可からず、是の如きは無量の功德海なり。

(二五)或は刹土有りて佛有すこと無ければ、彼に示現して正覺を成じ或は國土有りて法有ること無ければ、彼に示現して法藏を說く。

菩薩は希望を一切斷ちて、一念の頃に於て十方に遊び、十方に示現すること滿月の如く、無量の方便をもつて衆生を化す。

彼の十方世界の中に於て、念念に示現して佛道を成じ、正法輪を轉じて涅槃に入り、(二六)舍利を分ちて衆生の爲めにすることを現ず。

或は(二七)聲聞、(二八)緣覺の道を現じ、成佛して普く莊嚴することを示現

十の三昧門を開く。初に五頌半は第一圓明なる海印三昧門を明かす。

【二六】舍利。具さに設利羅（Śarīra）といふ。身骨、遺體等と譯す、佛の遺骨なり。

【二七】聲聞。佛の教誨の聲を聞きて悟るものの義にして、小乘小根の劣機なり。

【二八】緣覺。飛花落葉等に依りて無師獨悟するものにして、小乘中根の人なり。

【二九】三乘。聲聞乘と緣覺乘と菩薩乘となり。

【三〇】海印三昧。海の風浪息みて靜かなる時に、天地萬象悉く海面に印現するが如く、無明煩惱の風浪を鎭したる清淨の心海の中には、三世の一切諸法は皆悉く顯現するなり、之を海印三昧といふ。佛本經を說きし時に入り給ひし定に

し、無量劫に衆生を度し、(二九)三乘門を以て廣く開化することを現ず。或は男女の種種の形、天、人、龍神、阿修羅、諸の衆生の若干の身に隨ひて、無量の行業、諸の音聲を現ず。一切に示現して餘り有ること無きは、(三〇)海印三昧の勢力の故なり。

(三一)不可思議なる莊嚴の刹に、一切の佛を恭敬し供養し、光明の莊嚴思議し難く、衆生を敎化して量有ること無し。智慧自在にして不思議なり、說法敎化に自在を得、施戒忍辱精進禪、方便智慧の諸の功德あり、一切自在にして思議し難し、(三二)華嚴三昧の勢力の故なり。

して、本經は此定中に印現したる有の儘を說き給ひし法門なるが故に之を海印定中一時炳現の法門と名く。今は普賢此定を得たることを說く。

【三一】次の二頌中は第二華嚴妙行三昧を明かす。

【三二】華嚴三昧。華嚴とは因行の華を以て佛果を嚴る義、萬行を修して法界を嚴飾し、法身の妙果を成ずる定心を華嚴三昧といふ。本經第七會に此の三昧に入りて廣く二千の行法を說き給へるが如し

巻の第七

賢首菩薩品第八の二

(一)或は微塵の諸の三昧に入り、一三昧は塵に等しき定を生ず。
一塵の中に無量の刹を現じ、而も彼の微塵亦増さず、一塵内の刹に佛
有すことを現じ、或は刹有りて佛無まさざることを現じ、
或は刹有りて淨不淨なるを現じ、或は大刹及び中下を現じ、或は刹の
伏し、住し、或は隨順し、或は(二)野馬、或は四方の如きあり。
或は國土有り(三)天の網の如く、世界の成敗現ぜざること無し、一微塵
の示現する所の如く、一切の微塵も亦是の如し。
是を三昧の自在力と名け、亦(四)無量稱の解脫力といふ。
(五)若し一切の佛を供養せんと欲せば、無量の三昧門を出生せん。能く
一の手を以て(六)三千を覆ひ、一切諸の如來を供養したてまつる。

【一】次の四頌は第三因陀羅網三昧門を明かす。
【二】野馬。陽炎のこと、春の長閑なる日に空中にちら／＼と立ち上りて見ゆる氣なり。
【三】天の網。帝釋天(因陀羅)の網のこと、一多相入して重重無盡なることを表はす喩なり、詳釋は後に在り。
【四】無量稱。大名稱と同じく、佛の尊稱なり。
【五】次の十七頌は第四手より廣供を出だす三昧を明かす。
【六】三千。三千世界の略な

十方の國土の勝妙なる華と、無價の寶珠、殊異の香とは、皆悉く自然に手より出でて、道樹の諸の最勝を供養したてまつる。

無價の寶衣、雜妙の香、寶幢、旛蓋をもつて莊嚴し、金華、寶帳をもつて妙へに校飾したる、十方一切の（七）上供具は、悉く手中より自然に出でて、道樹の諸の最勝を供養したてまつる。

一切十方の諸の妓樂、無量なる和雅の妙音聲、及び種種衆の妙偈を以て、諸佛の實の功德を讃歎し、音聲徧く十方界に滿つるも、悉く掌中より自然に出づ。

無量清淨なる諸の行業にて、得し所の右の手より光明を放ち、香水普く十方の國に灑ぎて、一切の世を照す燈を供養したてまつる。

妙へに莊嚴せる大光明を放ちて、無量の寶蓮華を出生し、蓮華の中に於ける無量の佛は、相好具足して自ら莊嚴したまへり。

華をもつて莊嚴せる淨き光明を放ち、莊嚴せる妙華を以て帳と爲し、諸の雜華を散じて十方に徧く、一切諸の如來を供養したてまつる。

り。

【七】上供具。上等なる供養の具の意。

香をもつて莊嚴せる淨き光明を放ち、莊嚴せる妙香を以て帳と爲し、諸の雜香を散じて十方に徧く、一切諸の如來を供養したてまつる。

細末香の淨き光明を放ち、莊嚴せる末香を以て帳と爲し、諸の末香を散じて十方に徧く、一切諸の如來を供養したてまつる。

衣をもつて莊嚴せる淨き光明を放ち、莊嚴せる寶衣を以て帳と爲し、諸の寶衣を散じて十方に徧く、一切諸の如來を供養したてまつる。

寶をもつて莊嚴せる淨き光明を放ち、莊嚴せる妙寶を以て帳と爲し、諸の妙寶を散じて十方に徧く、一切諸の如來を供養したてまつる。

妙蓮華の淨き光明を放ち、衆の妙蓮華を以て帳と爲し、諸の蓮華を散じて十方に徧く、一切諸の如來を供養したてまつる。

諸の瓔珞の淨き光明を放ち、諸の妙瓔珞を以て帳と無し、諸の瓔珞を散じて十方に徧く、一切諸の如來を供養したてまつる。

莊嚴せる幢の淨き光明を放ち、其の幢は靑黃赤白の色にして、無量種種に莊嚴し、幢を以て諸の佛刹を嚴飾し、

雜寶をもつて莊嚴せる蓋を執持し、衆寶の繒釆を垂帶と爲し、寶鈴は最勝の音を演出し、此を以て諸の如來を供養したてまつる。

手より供具を出すこと思議し難く、是の如くして一りの導師を供養したてまつる、一切の佛を供することも亦是の如し、大仙の三昧の自在力なり。

(八)一切衆生の類を安んぜんと欲し。自在なる勝三昧を出生して、一切所行の諸の功德と、無量の方便とをもつて衆生を度す。

或は供養如來門を現じ、或は一切の布施門を現じ、或は具足持戒門を現じ、或は無盡の忍辱門、

無量の苦行精進門、禪定寂靜三昧門、無量の大辯智慧門、一切所行の方便門を現じ、

四無量、神通門、大慈大悲の四攝門、無量の功德智慧門、一切の緣起解脫門、

淸淨なる根力道の法門を現じ、或は聲聞の小乘門を現じ、或は緣覺の中乘門を現じ、或は無上の大乘門を現じ、

或は無常衆苦の門を現じ、或は無我衆生の門を現じ、或は不淨離欲の門、寂靜なる滅定の三昧門、

【八】次の八頌は第五諸の法門を現する三昧を明かす。

隨諸衆生起病門、一切對治の諸の法門を現ず。
彼の衆生の煩惱性に隨ひて、應の如く法を說きて廣く開化す。
是の如きの一切諸の法門は、其の本性に隨ひて濟度し、一切の天人能く知る莫し、是れ自在なる勝三昧の力なり。

(九)隨樂の勝三昧を出生して、分別して衆生の心を了知し、隨順して諸の群生を敎化し、憂惱を離れて歡喜を得しむ。

【九】次の十六頌一句は第六四攝法を以て衆生を攝化する三昧を明かす。

劫中の災難、饑饉の時に、一切の資生、諸の樂具を、其の須むる所に隨ひて普く周給す、是を能く大施を作す主と爲す、
餚饍、香美、上味の食、寶衣莊嚴を樂ふ所に隨ひ、己が身、國土、珍愛のものを施す、施を好む衆生は悉く化に從ふ。
諸の相好を以て身を莊嚴し、上妙の衣服及び衆の華、雜種の末香を以て身に塗り、此の嚴飾を現じて衆生を度す。
一切世間の喜び樂ふ所の、種種の殊勝なる淨妙の色を、其の所應に隨ひて普く示現し、色を樂ふ者をして解脫を得しむ。

柔軟なる美聲の（一〇）哀鸞、（一一）拘眞羅等の如き微妙の音、（一二）八種の梵音
聲を具足して、其の樂ふ所に隨ひて爲めに法を說き、
（一三）八萬四千の諸の法門、諸佛は此を以て衆生を度し、諸法の無量の
門を分別し、衆生の性に隨ひて之を化導す。
衆生の苦樂と利と無利と、一切世間の所行の法とに、悉く能く普く其
の事に應同し、此の攝法を以て衆生を度す。
無量無邊の大苦の海も、衆生の爲めの故に悉く能く忍び、彼と事を同
うして苦を念はず、衆生を饒益し安樂ならしむ。
若し出家の法を識らずして、生死に樂著して解を求めざる有らば、是
の故に菩薩は國財を捨てて、常に出家を樂ひ寂靜を求む。
五欲に縛せられて家を離れず、衆生をして解脫せしめんと欲するが故
に、愛欲に處することを樂はず、是の故に出家して解脫を求むること
を示現す。
十種の行を具足せしめんと欲するに、是れ佛如來の本修したまひし所

【一〇】哀鸞。迦陵頻伽（Kalaviṅka）の譯。普通には美音鳥、好聲鳥等と譯す、其の音清雅哀亮なり。

【一一】拘眞羅（Kokila）又は倶枳羅、倶翅羅など寫す。譯して好聲鳥、鵶鵲、衆音和合等といひ、形醜陋にして好音を出だす鳥なり。

【一二】八種梵音。一に最好聲、其の音の清雅なること、二に了り易き聲音、三に調和せる聲、四に柔軟の聲、五誤りなき聲、六に不女の聲、其の聲雄朗なる事、七に尊慧の聲、其の言の憚怯なきこと、八に深遠の聲、腹の底より聲を出だし雷音の如きをいふ。

【一三】八萬四千の諸門。衆生の煩惱に八萬四千あるが故に、之を對治する佛の法門にも八

にして、菩薩の所行も餘り有ること無く、是の法を修習して衆生を度す。

或は衆生有り壽量り無く、煩惱微細にして世間を樂む、斯の一切衆生の類の爲めに、生老病死の患を示現す。

或は貪欲瞋恚癡、煩惱の猛火常に熾然なる有り、爲めに生老病死の苦を現ず、一切の衆生を化度せんが故なり。

如來の十力、無所畏と、及び佛の十八不共法とは、最勝無量なる諸の功德なり。此の妙法を以て衆生を度す。

說法、教誡及び神足、住持自在の神通力、菩薩は斯の功德を示現して、此を以て諸の群生を濟度す。是の如きの方便は量有ること無し。◎

(一四)世間に隨順して衆生を度し、世間に著せざること蓮華の如く、能く衆生をして大いに歡喜せしむ。

博綜にして多識なる輔才王は、文頌談論世間に過ぎて、世間の衆の技術を示現す、譬へば幻師の衆像を現ずるが如し。

萬四千あるなり。

【一四】次の十七頌一句は第七躬ら世間に同ずる三昧を明かす中に於て、初に世間に同じて衆生を利することを明かす。

或は長者、邑中の主と爲り、或は賈客、商人の導と爲り、或は國王及び大臣となり、或は良醫と爲りて衆の病を療す。

或は曠野に於て大樹と作り、或は良藥の無盡の藏と爲り、或は寶樹と爲りて求むる所に隨ひ、道に迷ふ衆生に正路を示す。

若し世界始めて成立して、衆生未だ資生の法を知らざるを見ば、是の時に菩薩は工匠と爲りて、之が爲めに種種の業を示現せん。

惡業の生を害する具を作らず、群生をして壽く安樂ならしめんと欲すればなり。

呪術、藥草、衆の論を學び、悉く諸佛の爲めに稱歎せられ、或は仙人の殊勝なる行を現じ、

一切群生の愛樂する所には、苦行及び深法を示し行じて、其の所應に隨ひて悉く能く現ず。

(二五)或は外道の出家人と作り、或は復た(二六)事火の法を示現し、或は(二七)裸形の衣服無きを現じて、能く彼の人の爲めに師長と作る。

【二五】次は外道に同じて邪黨を救ふことを明かす。

【二六】事火。事火外道のこと。火は神人の媒介をなすと信じ之を神聖なりとして奉事崇拜する外道なり。

【二七】裸形。尼犍子外道のことにして、苦行を以て解脱に到る勝因となし、常に髮を拔き衣服を著けず、身形を露はして恥ぢざるが故に、裸形又は露形外道といひ、或は無慚外道ともいふ。

邪命の種種の行有りて、非法を習行して以て勝れたりと爲す、一切梵志の諸の苦行を見ては、能く其の中に於て化度す。

(一八)五熱に身を炙り日に隨ひて轉じ、或は牛鹿の(一九)畜生戒を受け、草衣を被服し、(二〇)火を奉事す、是等を化せんが爲めに導師と作る。

諸の天廟を遊行することを樂ひ、自ら(二一)恒河に投じて解脫を求め、果を食ひ氣を服し水を飮むことを現ずるも、正法を思惟して放逸ならず。

或は胡跪して一足を翹げ、或は刺棘灰土の上に臥し、或は杵石に臥して解脫を求むることを現ずるも、彼の導師と爲りて敎化せんが故なり。

是の如き等の類の諸の外道をも、具さに彼の意を觀じて應の如く化し、菩薩の苦行に與等無し、外道も是に由りて解脫を得。

(二二)若し世間に正見無く、常に一切の邪見に依りて住するを見ば、方便をもつて爲めに甚深の法を說き、悉く眞實諦を解ることを得しめん。

【一八】以下、外道の苦行の狀態。
【一九】畜生戒。牛狗外道なる者あり、牛狗等の畜生の所爲を行ひ、以て生天の因となして解脫を求む、之を畜生戒といふ。
【二〇】火は諸物を燒きて淸淨にするが故に、之に投じて解脫を求む。
【二一】恒河云云は河水は衆罪を洗滌すと計し、河水に身を投じて解脫を求むる一派の外道をいふ。皆これ苦行外道の所爲なり。
【二二】次に語業の大用を明かす。

或は鬼神、邊地の語を以て、斯等の類の爲めに四諦を說き、或は正語を以て四諦を說き、或は八天の語をもつて四諦を說き、或は（二三）法辯を以て四諦を說き、或は（二四）義辯を以て四諦を說き、或は（二五）詞辯を以て四諦を說き、或は（二六）無盡辯をもつて四諦を說き、或は（二七）八部の音をもつて四諦を說き、或は一切の音をもつて四諦を說き、彼の解する所の語言の音に隨ひて、爲めに四諦を說きて解脫せしむ。

一切の語を知りて不思議なり、是を說法の三昧力と名く。（二八）衆生を安隱にする勝三昧あり、一切の衆生を度せんが爲めの故に、大光明を放ちて思議し難し、此の光明を以て群生を救ふ。（二九）放つ所の光明を善現と名く、若し衆生有りて斯の光に遇はば、彼果報を獲ること量有ること無く、是に因りて無上道を究竟せん。彼諸の如來を顯現し、亦一切の法と僧道とを現じ、又最勝の塔と形像とを現せしに由る、故に光明を獲るを善現と名く。

【二三】法辯。法無礙辯の略。諸法の名稱を演述するに自在なる智。
【二四】義辯。義無礙辯の略。諸法の義理を闡明するに無碍なる智。
【二五】詞辯。一切の言詞を用ふるに自在なる智。
【二六】無盡辯。又は樂說無碍辯といひ、衆生の欲する所に隨ひて法を說くこと自在なる智なり。以上の四を如來の四無礙辯又は四無礙智といふ。
【二七】八部音。八種の梵音なり、普通略して八音といふ。
【二八】次の八十九頌は第八毛光覺照の三昧を明かす。
【二九】以下光明の業用を辨ずるに四十四門あり、各先づ光明の名を出だし、次に益を述べ、

又光明を放つあり淸淨と名け、一切天人の光を暎蔽して、一切諸の闇冥を除滅し、普く十方無量の國を照す。

彼の光一切の衆を覺悟して、燈明を執持して佛を供養せしむ、燈を以て諸佛を供養せしが故に、最勝なる世間の燈を成ずることを得たり。

諸の香油及び酥燈を然し、或は竹木を以て炬明と爲し、能く此の諸の燈明を然せしを以て、是の淸淨なる妙光明を得たり。

又光明を放つあり濟度と名く、彼の光一切の衆を覺悟し、當に無上の菩提心を發して、欲海の諸の群生を度脫せしむべし。

若し無上の菩提心を發して、欲海の諸の群生を度脫せば、彼悉く能く（三〇）四駛流を度り、無礙解脫の處に示導せん。

無量なる諸の橋梁を造立し、或は船艘を作りて衆生を度し、有爲を毀呰り寂靜を讃め、此に因りて度の光明を成ずることを得たり。

又光明を放つあり除愛と名く、彼の光一切の衆を覺悟して、五欲の諸の渴愛を捨離し、解脫の

後に其の因を擧ぐ。

【三〇】四駛流。又は四瀑流、四流などといふ、生死に漂流せしむる四種の煩惱にして、一に見流（三界の見惑）二に欲流（欲界の思惑）三に有流（上二界の思惑即ち貪慢）四に無明流、（三界思惑の中の癡）これなり。

甘露水を思樂せしむ。

若し能く五欲の渇を遠離し、解脫の甘露水を思樂せば、佛の解脫の甘露雨を以て、衆生の諸の渇愛を滅除せん。

池井諸の泉流を惠み施して、以て無上なる佛の菩提を求め、五欲を毀呰して諸禪を讃め、此に因りて滅愛の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり歡喜と名く、彼の光一切の衆を覺悟し、歡喜して佛の菩提を愛樂し、發心して無師の寶を願ひ求めしむ。

如來の大慈像を建立し、相好具足して蓮華に坐し、最勝の諸の功德を讃歎す、是に因りて喜の光明を成ずることを得たり。

又光明を放つあり愛樂と名く、彼の光一切の衆を覺悟して、心常に諸の如來と、無上の法寶と淸淨の僧とを愛樂せしむ。

常に十方の諸佛の前に會して、無上の深法忍を逮成し、無量の群生の類を敎化して、心常に佛の深妙の法を念じ、衆生の菩提心を開發し、是に因りて愛樂の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり德聚と名く、彼の光一切の衆を覺悟して、普く種種無量の施を行じ、此を以

て無上道を願ひ求めしむ。
其の求むる所に隨ひて皆滿足せしめ、一切の施會は悉く淸淨にして、其の求むる所に隨ひて惠み施すが故に、是に因りて德聚の光を成ずることを得たり。
又光明を放つあり深智と名く、彼の光一切の衆を覺悟して、一法門に於て一念の中に、悉く無量なる諸の法門を解らしむ。
諸法を分別して衆生を化し、及び諸法の相、如實の義において、法を說き義を說きて具足せしが故に、是に因りて深智の光を成ずることを得たり。
又光明を放つあり慧燈と名く、彼の光一切の衆を覺悟して、諸法は空寂にして生滅無く、有に非ず亦無に非ずと解達せしむ。
譬へば野馬、水月の形の如く、亦幻や夢や鏡中の像の如く、諸法は主無くして悉く空寂なりと、是に因りて慧燈の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり法自在と名く、彼の光一切の衆を覺悟して、陀羅尼藏は盡す可からざるも、能く如來の一切の法を持せしむ。
法を持つ者を恭敬し供養して、衆の賢聖を防衞し守護し、無量の法を以て衆生に施し、是に因り

て自在の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり無慳と名く、彼の光覺悟して貪惜を除き、財寶は常有に非ずと解知し、悉く能く捨離して所著無からしむ。

制し難き慳心を能く調伏して、財は夢の如く浮雲の如しと解り、常に能く歡喜して布施を樂ひ、是に因りて無慳の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり清涼と名く、彼の光禁を毀る者を覺悟して、衆生を淨戒の中に安立せしめ、啓導して無師の寶を逮せしむ。

十善の業跡は悉く清淨となり、衆生を勸化して淨戒を持たしめ、衆生を開發して佛道を求めしめ、是に因りて清涼の光を成ずることを得たり。

又光を放つあり忍莊嚴と名く、彼の光瞋恚の者を覺悟して、瞋恚と増上慢とを捨離し、常に柔和忍辱の法を樂はしむ。

衆生の惡性にして忍ぶこと難き者に、悉く能く堪忍して佛道を求めしめ、常に能く忍辱の法を讃歎し、是に因りて莊嚴の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり轉勝と名く、彼の光懈怠の者を覺悟し、常に能く三種の業を勤修して、佛法

僧を恭敬し供養せしむ。

若し能く三種の業を勤修し、佛法僧を恭敬し供養せば、彼能く四魔の境を超出して、速かに無上なる佛の菩提を成ぜん。

衆生を勸化して精進せしめ、佛法僧を恭敬し供養して、佛法の滅せんと欲するときに能く護持し、是に因りて轉勝の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり寂靜と名く、彼の光亂意の者を覺悟し、貪欲瞋恚癡を捨離して、正しく甚深なる諸の三昧に住せしむ。

惡知識と不善の行とを遠かり、又十種の非法の語を離れ、空閑の處に坐禪することを讃歎し、是に因りて寂靜の光を成ずることを得たり。

又光を放つあり慧莊嚴と名く、彼の光愚癡の者を覺悟して、善く緣起を知りて解脫を得、智慧照明にして諸根を了らしむ。

若し緣起を知りて解脫を得、智慧照明にして諸根を了らば、聖智慧と諸の三昧とを得て、等正覺を逮て世間を照さん。

國、財寶、愛する所の身を捨て、精勤して法を求めて佛道の爲めにし、專心に法を說きて衆生の

爲めにし、是に因りて慧の光明を成ずることを得たり。

又光明を放つあり佛慧と名く、彼の光一切の衆を覺悟して、不思議なる無量の佛、各各寶蓮華の上に坐したまふを見しむ。

諸佛と佛の解脫とを讃歎し、佛の自在には量有ること無きを說き、廣く佛力と諸の神通とを說き、是に因りて佛慧の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり無畏と名く、彼の光恐怖の者を安慰し、㈢非人に持せらるる諸の毒害と、無量の恐怖とを悉く除滅す。

普く衆生に於て無畏を施し、心常に慈忍にして惱害を離れ、危難の救ふ者無きを拯濟し、是に因りて無畏の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり安隱と名く、彼の光に觸るる所の疾病の者は、一切諸の苦痛を滅除し、悉く正受三昧の樂を得、

諸の良藥を施して衆の患を療し、摩するに寶珠を以てし香を身に塗り、或は酥油、乳、石密を施し、是に因りて安隱の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり見佛と名く、彼の光命終の者を覺悟し、念佛三昧にて必ず佛を見たてまつ

【㈢】非人とは畜生などをいふ。狐狸妖怪等にみいられ、祟をうけることを持せらるるといふ。

り命終の後は佛前に生ぜしむ。
彼の臨終を見て念佛を勸め、又尊像を示して瞻敬せしめ、又復た勸めて佛に歸依せしめ、是に因りて見佛の光を成ずることを得たり。
又光明を放つあり樂法と名く、彼の光一切の衆を覺悟して、法を聽き講說し及び書寫して、正法の中に於て常に愛樂せしむ。
佛法滅せんと欲するときに能く護持して、求法の者をして意充滿せしめ、精勤して佛の正法を修習し、是に因りて樂法の光を成ずることを得たり。
又光明を放つあり妙音と名く、彼の光諸の佛子を覺悟し、一切世間の所有る聲をして、聞く者に皆是れ如來の音とならしむ。
大音をもつて諸の如來を讚揚し、妓樂鐘磬をもつて、佛を供養し、又常に佛の音聲を稱歎し、是に因りて妙音の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり甘露と名く、彼の光一切の衆を覺悟し、一切の放逸の行を遠離して、皆悉く諸の功德を具足せしむ。
無量なる大苦の海、有爲は危脆にして安隱に非ずと分別し、寂滅の樂を宣揚し讚歎し、是に因り

て甘露の光を成ずることを得たり。

又光明を放つあり殊勝と名く、彼の光一切の衆を覺悟し、如來の所に於て勝戒と勝妙の三昧と、勝れたる智慧とを聞かしむ。

常に諸佛の勝妙なる戒と、勝妙の三昧と勝れたる智慧とを歎じ、一心に修習して菩提を求め、是に因りて勝の光明を成ずることを得たり。

又光を放つあり寶莊嚴と名く、彼の光一切の衆を覺悟し、勝れたる寶藏を得しめて盡す可からず、此を以て諸の世尊を供養せしむ。

寶を以て佛及び塔廟に獻じ、兼ねて一切諸の貧乏のものに施し、衆の珍奇のものを以て最勝に供へ、是に因りて寶莊嚴の光を成ぜり。

又光明を放つあり妙香と名く、彼の光一切の衆を覺悟す、其れ衆生有りて是の香を聞がんに具足して佛の諸の功德を得ん。

人天の香を以て其の地に塗り、一切諸の如來を供養し、香を以て像及び塔廟を造り、是に因りて妙香の光を成ずることを得たり。

又光を放つあり雜莊嚴と名く、幢旛蓋を以て嚴飾し、和雅の妓樂、微妙の音あり、衆の寶華を散

じて十方に滿つ。
本微妙なる妓樂の音、和末塗香、衆の雜華、幢蓋旛帳を以て諸佛に供へ、是に因りて莊嚴の光を成ずることを得たり。
又光明を放つあり端嚴と名け、十方の地をして平なること掌の如くならしむ、僧坊、大仙の塔を掃除し、是に因りて端嚴の光を成ずることを得たり。
又光明を放つあり大雲と名け、彼の光能く妙香の水を雨らす、香水を塔及び僧坊に灑ぎ、是に因りて大雲の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり衣莊嚴と名け、裸形の者をして上服を得しむ、莊嚴の服を以て衆生に施し、是に因りて衣莊嚴の光を成せり。
又光明を放つあり上味と名け、饑餓の者をして美膳を得しむ、大いに種種なる上味の食を施し、是に因りて上味の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり示現寶と名け、諸の貧乏のものに寶藏を得しむ、無盡の藏を以て三寶に施し、是に因りて示寶の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり眼清淨と名け、能く盲者をして衆色を見しむ、燈を以て佛及び塔廟に供へ、

是に因りて淨眼の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり耳清淨と名け、能く聾者をして衆音を聞かしむ、妓樂をもつて佛及び塔廟に供へ、是に因りて淨耳の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり鼻根淨と名け、聞げるにも若くは聞がざるにも悉く聞がしむ、衆香をもつて佛及び塔廟に供へ、是に因りて鼻淨の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり舌根淨と名け、柔輭の音を以て諸佛を讃せしむ、永く麤獷、不善の語を離れ、是に因りて淨舌の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり身根淨と名け、諸根の毀壞せるを具足せしむ、諸佛及び塔寺を禮拜し、是に因りて身淨の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり意根淨と名け、失心の者をして正念を得しむ、三昧禪定力を修習し、是に因りて意淨の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり色清淨と名け、不可思議の佛を覩見たてまつらしむ、衆の妙色を以て塔を莊嚴し、是に因りて色淨の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり聲清淨と名け、聲と非聲と悉く空寂なりと解らしむ、衆を化して聲は響の如し

と知らしめ、是に因りて聲淨の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり香清淨と名け、諸の臭穢をして妙香と成さしむ、香水をもつて塔と菩提樹とを洗ひ、是に因りて淨香の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり味清淨と名け、悉く一切味の中の毒を除く、佛僧及び父母を供養し、是に因りて味淨の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり觸清淨と名く、堅强麤澁なるを皆柔輭となし、刀輪戟、諸の鋒刃を雨らし、皆悉く變じて寶華鬘と成さしむ。
柔輭なる妙衣を道巷に布き、最勝の行く時足上を蹈みたまひ、香華上服を用て布施し、是に因りて觸淨の光を成ずることを得たり。
又光を放つあり法清淨と名く、一一の毛孔の無量の佛は、各妙法を說きて思議し難く、悉く衆生をして歡喜を得しむ。
因緣の所生は生性に非ず、如來の法身は是れ身に非ず、湛然として常住なること虛空の如しと、此の化導に因りて法の光を成せり。

【三】以上四十四門を明かし竟り此の一頌は其の略說を結して廣きを顯はす。

【三】是の如き等比の光明門は、無量無邊にして恒沙の數なり、悉く大仙の毛孔より出でて、一切

の（三三）業果皆悉く現す。

（三四）一毛孔の放つ所の光の、無量無邊にして恒沙の數なるが如く、一切の毛孔も亦是の如し、是れ大仙の定の自在力なり。

其の本行に隨ひて光明を得、宿世の同行有緣の者は、其の所應の如く光明を放つ、是を大仙の智自在と名く。◎

（三五）修行せし所の業の同有る者、及び隨喜功德分を行じ、菩薩の淸淨行を聞見せんものは、彼の人此の光明を見ることを得ん。

若し無量の諸の功德を修し、無數の佛を恭敬し供養して、心常に無上の道を樂ひ求めんものは、彼の人是の光明を覺悟せん。

譬へば生盲の日を見ざるは、日の世間に出づること無きが爲めに非ず、諸の目有る者は悉く視見て、各務むる所に隨ひて其の業を修むるが如し。

大聖の光明も亦是の如く、或は衆生の見ると見ざると有り、邪見惡害のものの觀ざる所にして、勝れたる智慧の者は乃ち能く見る。

摩尼の寶殿、上の輦乘、衆の寶香味、莊嚴の具は、功德有る者には自然に備はるも、無德の者

【三三】業果。業とは光明の往因なり、果とは今現じたる光明なり。

【三四】次の二頌は一切の毛光を類顯して光の所依の本を結す。

【三五】後の六頌半は光明の分齊を釋し聞法の勝益を明かす。

の能く獲る所に非ず。
大聖の光明も亦是の如く、其の行業に隨ひて見ると見ざるとあり。
是の諸の光明を分別するを聞きて、精勤し恭敬し信向せん者は、一切諸の疑惑を滅除して、
速かに無上の功德幢を成ぜん。◎

(三六)微妙なる勝三昧を出生するは、諸佛の眷屬の大莊嚴にして、神力此に於て自在を得、悉く能く顯現して衆生に示す。
三千大千の妙莊嚴は、一蓮華を化して世界に滿ち、結跏趺坐して悉く充滿す、是を自在の三昧力と名く。

【三六】次の六頌は第九主伴嚴麗の三昧を明かす。

十方世界の微塵の剎に、七寶の大蓮華を化作して、佛子の眷屬共に圍繞す、是を自在の勝三昧と名く。
宿世に善因緣を成就し、功德を具足して佛道を求むる、彼等衆生は菩薩を繞ぐり、一切合掌して觀て厭くこと無し。
彼の大仙人の法は是の如く、甚深なる正受三昧の力なり、菩薩は彼の淸淨の衆に處して、月の星に在りて獨り明耀なるが如し。

此の一方に示現する所の、諸の佛子等を眷屬と爲すが如く、一切の十方も亦是の如し、示現三昧の自在力なり。

(三七)十方の世界に緣有るが故に、(三八)往反出入して衆生を度し、或は菩薩の正受に入るを見、或は菩薩の定より起つを見る。

(三九)或は東方にて正受に入るを見、或は西方にて三昧より起つを見、或は西方にて正受に入るを見、或は東方にて三昧より起つを見る。

是の如く出入して十方に徧く、或は異方にて正受に入るを見、或は異方にて三昧より起つを見る、是れ大仙の定自在力なり。

東方の世界餘り有ること無く、佛刹の如來は思議し難し、菩薩は常に彼の佛の前に現ず、是を寂靜の三昧力と名く。

東方の一切諸佛の前にて、常に安住して正受に入るを見、西方の一切諸佛の前にて、常に菩薩の佛を供養するを見る。

西方の世界は餘り有ること無く、佛刹の如來は思議し難し、彼の一切諸佛の前に於て、常に菩薩の正受に入るを見る。

(三七) 次の三十五頌は第十寂用無涯の三昧を明かす。

(三八) 十方に往反し三昧に出入するの意。

(三九) 次の廿五頌半は三世間に就いて自在無礙の用を明かす。是れ即ち法界緣起無礙相卽の圓旨を顯はすなり。

西方にて彼正受に入るを見、東方の佛刹餘り有ること無し、彼の佛前に於て三昧より起ち、一切の佛を恭敬し供養す。

是の如く十方諸佛の前にて、三昧に出入して餘り有ること無く、或は菩薩の正受に入るを見、或は佛を恭敬し供養するを見る。

眼根の中に於て正受に入り、色法の中に於て三昧より起ち、色法の不思議なるを示現するも、一切の天人能く知ること莫し。

色法の中に於て正受に入り、眼に於て定を起ちて念亂れず、眼に生無く自性無きを觀じ、空寂滅にして所有無しと說く。

耳根の中に於て正受に入り、聲法の中に於て三昧より起ち、一切諸の音聲を分別するも、諸天世人能く知ること莫し。

聲法の中に於て正受に入り、耳に於て定を起ちて念亂れず、耳に生無く自性無しと觀じ、空寂滅にして所有無しと說く。

鼻根の中に於て正受に入り、香法の中に於て三昧より起ち、一切諸の香法を分別するも、諸天世人能く知ること莫し。

香法の中に於て正受に入り、鼻に於て定を起ちて念亂れず、鼻に生無く自性無しと觀じ、空寂滅
にして所有無しと說く。
舌根の中に於て正受に入り、味法の中に於て三昧より起ち、一切諸の味法を分別するも、諸天
世人能く知ること莫し。
味法の中に於て正受に入り、舌に於て定を起ちて念亂れず、舌に生無く自性無しと觀じ、空寂滅
にして所有無しと說く。
身根の中に於て正受に入り、觸法の中に於て三昧より起ち、一切諸の觸法を分別するも、諸天
世人能く知ること莫し。
觸法の中に於て正受に入り、身に於て定を起ちて念亂れず、身に生無く自性無しと觀じ、空寂滅
にして所有無しと說く。
意根の中に於て正受に入り、諸法の中に於て三昧より起ち、一切諸の法相を分別するも、諸天
世人能く知ること莫し。
諸法の中に於て正受に入り、意に於て定を起ちて念亂れず、意に生無く自性無しと觀じ、空寂滅
にして所有無しと說く。

童子の身にて正受に入り、壯年の身に於て三昧より起つことを現じ、壯年の身にて正受に入り、老年の身に於て三昧より起つことを現ず。

老年の身にて正受に入り、善女人に於て三昧より起つことを現じ、善女人にて正受に入り、善男子に於て三昧より起つことを現ず。

善男子にて正受に入り、(四〇)比丘尼の身にて三昧より起つことを現じ、

比丘尼の身にて正受に入り、(四一)比丘の身に於て三昧より起つ。

比丘の身にて正受に入り、(四二)學無學に於て三昧より起つことを現じ、

學無學にて正受に入り、緣覺の身に於て三昧より起つことを現ず。

緣覺の身にて正受に入り、如來の身に於て三昧より起つことを現じ、

如來の身にて正受に入り、諸天の身に於て三昧より起つことを現ず。

諸天の身にて正受に入り、龍神の身に於て三昧より起つことを現じ、

龍神の身にて正受に入り、大鬼神に於て三昧より起つことを現ず。

大鬼神にて正受に入り、一切の鬼神にて三昧より起つことを現ず。

(四三)一切の鬼神にて正受に入り、一毛孔の中にて三昧より起ち、一毛孔の中にて正受に入り、一

【四〇】比丘尼。又は苾芻尼(Bhikṣuṇī)。乞士女と譯す。女子の出家なり。

【四一】比丘。又は苾芻(Bhikṣu)乞士と譯す。男子の出家なり。

【四二】學無學。聲聞をさす。聲聞乘の四果の中、預流、一來、不還の三果は無學位にして、第四の阿羅漢果は有學位なれば總じて學有學といふ。

【四三】次の七頌半は微細差別の自在を明かす。

切の毛孔にて三昧より起つ。
一切の毛孔にて正受り入り、一毛端の頭にて三昧より起ち、一毛端の頭にて正受に入り、一切の毛端にて三昧より起つ、一切の毛端にて正受に入り、一微塵の中にて三昧より起つ。
一微塵の中にて正受に入り、一切の微塵にて三昧より起ち、一切の微塵にて正受に入り、金剛地に於て三昧より起つ。
金剛地にて正受に入り、摩尼寶樹にて三昧より起つことを現じ、摩尼寶樹にて正受に入り、諸佛の光明にて三昧より起つ。
諸佛の光明にて正受に入り、大海の水に於て三昧より起ち、大海の水にて正受に入り、大盛火に於て三昧より起つことを現ず。
大盛火にて正受に入り、風に於て定を起ちて心亂れざることを現じ、風大に於て正受に入り、地大の中に於て三昧より起つことを現ず。
地大の中に正受に入り、天の宮殿に於て三昧より起つことを現じ、天の宮殿にて正受に入り、虛空の中に於て三昧より起つことを現ず。
(四四)是を無量の功德ある者の、三昧の自在にして思議し難しと名く、十方一切の諸の如來、不思議

【四三】此の一頌は無盡を結す。

の劫に說きたまふとも盡さじ。

(四五)一切諸佛は皆共に說きたまはく、衆生の業報は思議し難く、諸龍の神變佛の自在、禪定三昧も亦思ひ難しと。

(四六)今聲聞の自在力を說かんも、之が爲めに譬喩を作す可き無し、智慧明了なる聰達の者は、乃ち能く是の甚深の義を解せん。

(四七)八解脫を得て心自在に、一身能く無量の身と作り、無量の身を以て一身と作り、虛空の中に於て火定に入る。

身上よりは水を出し身下よりは火を、身上よりは火を出し身下よりは水を、虛空の中に行住坐臥し、一念の中に於て自在に變ず。

彼大慈悲を具足せざれば、衆生の爲めに佛道を求めざるも、尙ほ能く難思議なるを示現す、況んや大饒益の自在力をや。

現じて日月と作りて虛空に遊び、普く十方の諸の世界を照し、或は河池井泉水と作り、或は大海の衆の寶器と作り、是の如き等比は思議し難し。

普く十方の諸の世界に現じ、深く三昧と諸の解脫とに達するは、唯諸佛のみ有りて能く證知し

【四五】第六、次の七十七頌は十八の大喩を以て玄旨を說く、(劣を舉げて勝を顯はすなり)

【四六】第一、聲聞現通の喩、菩薩の自在に衆生を饒益する力に喩ふ。

【四七】八解脫。聲聞の觀法なり。聲聞は之に依りて欲界の五欲を去り其の執心を捨て、無漏智を起して三界の惑を斷じ無學果に到る、此の觀法に八種あるが故に八解脫といふ。

たまふ。

（四八）淨水の中の（四九）四兵の像は、各各別異なるも皆明了に、刀劍輪戟、衆の兵器、是の如き等の仗皆悉く現ずるが如し。

其の器仗の本の形相に隨ひて、悉く彼の淨水の中に現じ、水影の四兵に憎愛無し、是を大仙の定の自在と名く。

（五〇）海中に天有り妙音と名け、其の中の衆生若干種、彼の一切諸の音聲を解し、皆悉く大歡喜を得しむ。

彼に貪欲瞋恚癡有るも、猶ほ能く一切の音を分別す、況んや復た總持の自在力ありて、而も衆生を喜ばしむる能はざらんや。

（五一）一りの女人有り辯才と名く、父母天に求め此に由りて生れ、諸の惡法を離れ眞實を樂ひ、能く衆生をして辯才を得しむ。

彼に貪欲瞋恚癡有るも、猶ほ能く衆に勝れたる辯才を與へ、亦た能く彼をして歡喜を得しむ、何に況んや菩薩の無量なる智をや。

（五二）譬へば幻師の善術の法をもつて、能く種種無量の色を現じ、晝夜須臾の頃に示現し、或は

【四八】第二、水現四兵の喩。菩薩の海印三昧の德に喩ふ。
【四九】四兵。象兵、馬兵、車兵、步兵をいふ。
【五〇】第三、海天妙音の喩。菩薩の總持巧說の德に喩ふ。
【五一】一りの女人云云。第四、女授辯才の喩。菩薩の法を授けて衆を喜ばしむる德に喩ふ。
【五二】譬へば幻師の云云。第五、幻師化術の喩。菩薩の不思議解脫の力の衆を喜ばしむる德に喩ふ。

須臾を百年と作すことを現ずるがごとし。

彼に貪欲瞋恚癡有るも、幻力自在にして世間を悦ばしむ、況んや禪解脱神通の行ありて、云何ぞ衆生をして喜はしめざらんや。

(五三)天と阿修羅と鬪戰する時、阿修羅の衆即ち退散して、心大いに恐怖して奔走し、四兵悉く(五四)藕絲の孔に入る。

彼に貪欲瞋恚癡有るも、能く自在不思議を作す、況んや自在の無畏の法に住して、云何ぞ能く神變を現ぜざらんや。

(五五)釋提桓因に象王有り、彼帝釋の行かんと欲する時を知り、彼化して頭を三十二と作し、一一の口中に六牙有り。

一一の牙の上に七浴池あり、清淨なる香水湛然として滿ち、一一の淸淨なる池水の中に、各七蓮華を莊嚴と爲す。

彼の諸の嚴飾せる蓮華の上に、各各七天玉女有り、諸女は竝びに微妙の音を奏して、彼の帝釋と與に相娛樂す。

或る時は彼の龍象の身を捨てて、天女の極めて端嚴なるを化作し、威儀の巧妙なること最も比無

【五三】天と阿修羅云云。第六、修羅入絲の喩。菩薩の自在無礙の神通に喩ふ。

【五四】藕絲。藕は蓮根のこと、蓮根の絲孔とは極めて微細なることを表はす。

【五五】釋提桓因云云は第七、象王隨變の喩。菩薩の定用自在の德に喩ふ。

し、是を龍象の自在力と名く。
彼に貪欲瞋恚癡有るも、能く是の如き諸の神變を作す、何に況んや方便智を具足して、而も諸の定に於て自在ならざらんや。

（五六）阿修羅の如きは身を化作して、金剛の地上に其の足を安じ、海水の至深なるも僅かに身に半ばするのみ、其の首の廣大なること須彌の如し。
彼に貪欲瞋恚癡有るも、乃ち能く是の大神力を現ず、況んや魔怨を伏したる照世の燈にして、而も能く大神變を現ぜざらんや。

（五七）天と阿修羅と共に戰ふ時、帝釋の自在なること思議し難く、阿修羅の軍衆の數に隨ひ、身を現じて彼に等しくして交戰す。
諸の阿修羅は是の念を發すらく、釋提桓因來りて我に向ひ、必ず我が身を取りて五種に縛せんと、阿修羅の衆大いに恐怖す。
帝釋身に千眼有ることを現じて、手に（五八）金剛を執りて火炎を出し、甲を被り仗を持ちて自ら莊嚴す、阿修羅は見て卽ち退散す。
彼微少なる功德の力を以て、猶ほ能く大なる怨敵を摧破す、何に況んや一切を救度する者の、無

【五六】阿修羅云云。第八、修羅大身の喩。菩薩の法界等身を現ずる德に喩ふ。
【五七】天と阿修羅と共に云云。第九、帝釋破怨の喩。菩薩の衆魔を降伏する德に喩ふ。
【五八】金剛。金剛杵のこと、印度古代の武器なり。

量の功德にして自在ならざらんや。

(五九)忉利の諸天を教化せんが故に、此の果報たる(六〇)妙音聲を得、諸天等の放逸の行あるを以て、空中に自然に此の音を出すらく、

「一切の五欲は悉く無常なり、虛僞にして實無きこと水沫の如く、幻や野馬や水中の月の如く、有爲は夢の如く浮雲の如し。

一切放逸にして憂諍有るは、甘露の道に非ずして生死の徑なり、若し諸の放逸を行せん者有らば、生死の(六一)摩竭口に入らん。

我が有する所の者は樂苦の本にして、一切の賢聖の厭ひ患ふ所、五欲は功德を磨滅する法なれば、常に淸淨にして眞實なる行を樂へよ」と。

三十三天此の音を聞きて、一切のもの善法堂に來り集り、帝釋爲めに微妙の法を說きて、離欲寂靜の行に隨順せしむ。

彼の音は無形にして見る可からざるも、猶能く諸の天衆を饒益す、何に況や衆生に應化する身にして、大に一切の世を利すること能はざらんや。

(六二)天と阿修羅と共に鬪ふ時、諸の天の衆侶大いに恐怖す、諸天の功德の勢力の故に、空中に聲

【五九】忉利の諸天云云。第十、空聲說法の喩。菩薩無功用の心を以て現身說法する德に喩ふ。

【六〇】妙音聲。これを天鼓といひ忉利天の善法堂の前に在りて自然に怨來、怨去、愛欲、生厭の四種の音を出だすといふ。

【六一】摩竭。又は摩伽羅(Makara)大魚、大身鯨と譯す、身は山の如く、兩目は日の如く、口を張れば闇谷の如く、海底に住して能く舟を呑むといふ。

【六二】此のところ第十一、空聲安慰の喩。菩薩の慈音能く煩惱を除く德に喩ふ。

を出して「懼るること勿れ」と言ふ。

諸天此の安慰する聲を聞きて、卽ち恐畏を離れて大力を生ず、時に阿修羅心に震ひ懼れ、將ゐる所の兵衆悉く退散す。

何に況んや甘露の妙音聲をや、能く衆生の諸の恐怖を滅じ、大慈具足して衆魔を摧き、寂靜の妙音は煩惱を除く。

(六三)帝釋普く諸の天女に應ずること、九十有二那由他なり、天女各各心に自ら謂へらく、「天王獨り我と與に娛樂す」と。

身を現じて善法堂に集在し、天の爲めに法を說きて歡喜せしむ、帝釋能く一念の中に於て、悉く皆此の大神變を現ず。

釋に貪欲瞋恚癡有るも、能く眷屬をして悉く歡喜せしむ、況んや無量劫に神力を修して、而も能く一切を悅ばしめざらんや。

(六四)他化自在六天の王は、欲界の中に於て自在を得、業煩惱を以て羅網と爲し、一切諸の凡夫を繫縛す。

彼に貪欲瞋恚癡有るも、能く欲界の諸の群生を伏す、況んや十種の自在力を具して、而も衆をし

【六三】帝釋云云。第十二、天王普應の喩。菩薩の普く機に應じて悅ばしむる德に喩ふ。
【六四】他化自在天云云。第十三、魔王自在の喩。菩薩の攝生同行の德に喩ふ。

て其の行に同せしめざらんや。

(六五)三千世界の大梵王は、一切諸の梵の所住の處に、悉く能く身を現じて彼に於て坐し、微妙なる梵音聲を演暢す。

彼は世閒の(六六)四梵道に於て禪定五通如意なるを得たるのみ、何に況んや一切世を超出したるものの。禪定解脱自在ならざらんや。

(六七)摩醯首羅の智は自在にして、大海の龍王雨を降らすの時、悉く能く分別して其の滴を數へ、一念の中に於て皆明かに了る。

無量億劫に勤めて修學し、無上の菩提智を見ることを得たるもの、云何んが當に一念の中に於て、一切衆生の心を知らざるべき。

(六八)衆生の業報は思議し難し、大風輪に因りて世界を起し、巨海、諸山、天の宮殿、衆寶、光明、萬の物種。

亦能く雲を興して大雨を降らし、亦能く諸の雲氣を散滅し、亦能く一切の穀を成熟し、亦大いに群生の類を饒益す。

風は波羅蜜を學ぶこと能はず、亦佛の諸の功德を學ばざるも、猶ほ不可思議の事を成ず、何に

【六五】三千世界云云。第十四、梵身殊現の喩。菩薩の解脱力を以て自在に說法する德に喩ふ。

【六六】四梵道。梵天に生ずる四種の道行なり。一に塔婆を立て、二に故寺を補修し、三に聖衆と和合し、四に轉法輪を勸請す。

【六七】摩醯首羅云云。第十五、摩醯數滴の喩。菩薩の一念普知の德に喩ふ。

【六八】衆生の業報云云。第十六、風輪持散の喩。菩薩の大願宿成して辯說機に應する德に喩ふ。

況んや諸の願を具足する者をや。

(六九)男子女人諸の異類、海龍、雷震の大音聲は、悉く能く皆響の如しと了知し、障礙無き無盡の辯を逮、

一切衆の爲めに妙法を說き、其の聞くこと有らん者は悉く歡喜す。

海の奇特なること未だ曾て有らず、一切衆像の類を印現するが如し。

大身の衆生妙寶の藏には、衆流悉く入りて增損無し。

是の如く衆生の平等印は、無盡の功德、禪、解脫、一切の智慧、諸の功德にして、衆善を增長して厭足無し。

(七〇)龍王自在を示現する時は、金剛際より他化に至るまで、雲を興して四天下に充徧す、其の雲には種種莊嚴の色あり。

第六の他化自在天は、彼に於て雲の色は黃金の如く、化樂天の上の雲は赤色、兜率陀天は白寶色、夜摩天の上は瑠璃色、三十三天は碼碯色、四王天の上は玻瓈色、大海の上に於ては金剛の色、緊那羅の中には妙香色、諸の龍の住處には蓮華色、微密天の中には白鷺色、阿修羅の中には狀山の如く、

【六九】男子女人云云。第十七、大海包含の喩。菩薩の衆德を積みて群機に印現する德に喩ふ。

【七〇】次の廿四偈半は第十八、龍王遍降の喩。菩薩の法界を窮盡して普く法雨を雨らす德に喩ふ。

鬱單越の中には金の野馬のごとく、閻浮提の境の雲は靑色、餘の二天下には雜種色、衆の樂ふ所に隨ひ以て之に應ず。

又復た他化自在天は、雲の中の電耀は日光の如く、化樂天の上には月光の如く、兜率天の上には閻浮金、

夜摩天の上には白寶色、釋の處の金雲は野馬の如く、四王天の上には最妙色、大海の上に於ては赤寶色、

緊那羅の中には靑瑠璃、諸の龍の住處には寶藏色、微密天の中には玻瓈色、阿修羅の中には瑪瑙色、

鬱單越の境には火珠色、閻浮提の界には靑寶色、餘の二天下には雜莊嚴し、衆の樂ふ所に隨ひ以て之に應ず。

他化の雷震は梵音の如く、化樂天の上には妙音聲、兜率天の上には妓樂の音、夜摩天の上には天女の音。

彼の忉利の諸天の上に於ては、緊那羅女の妙音聲、四王天の上には乾闥の聲、緊那羅の中には簫笛の聲。

彼の一切の大海の中に於ては、猶ほ兩山の相ひ擊つ聲の如く、諸の龍の住處には頻伽の聲、微密天の中には龍女の聲、阿修羅の中には天鼓の聲、人道の中に於ては海潮の聲のごとし。

又復た他化自在天には、妙香華を雨らして莊嚴と爲し、化樂天の上には瞻蔔華、曼陀羅華及び澤香。

兜率天の上には摩尼珠、無上なる種種の莊嚴の寶、明淨なる髻珠の月光の如き、上妙なる細衣は鍊金の色。

夜摩は幢蓋旛の莊嚴、華鬘、塗香の勝れたる莊嚴、赤眞珠の衣、金の交絡、種種微妙なる衆の妓樂。

三十三天は如意珠、堅固の殊妙なる栴檀香、種種の鬱金、諸の天華、雜淸淨の華、香水を雨らし、

四王天は上味の饍を雨らし、衆味具足して氣力を生ず、又不可思議の寶を雨らし、龍王は此の種種の雨を降らす。

又復た彼の大海の中に於て、一一の雨滴は車輪の如く、無量の衆寶盡す可からず、又種種なる莊

嚴の寶を雨らす。

緊那は華、靑寶の衣を雨らし、摩利には妙華、細末香、種種の妓樂悉く具足す、是の如き無量の妙莊嚴あり。

諸の龍の住處には赤眞珠、微密天の中には火珠の寶、阿修羅の中には兵仗を雨らして、一切諸の怨敵を摧伏し、

鬱單には無價の寶の瓔珞、弗婆倶伽の二天下には、(七一)婆師波利、瞻蔔華、淸淨なる妙寶解脱の華、

閻浮提には淸淨の水を雨らし、柔輭悅澤にして常に時に應じ、衆の果香華の樹を長養し、隨時に成熟して衆生を益す。

是の如く無量なるは思議し難し、雲を興して雷震し種種に雨ふり、自ら宮殿に於て身動せずして、能く自在不思議を現ず。

彼の海の中に於て尊主と爲り、神變を示現して思議し難し、況んや法の海に入りて源底を盡せるもの、云何んぞ大神變をなし能はざる。◎

(七二)我が說く所の諸の譬喩の如きは、深智慧の菩薩の爲めの故なり、無畏の大士は倫匹無く、自

【七一】婆師波利。又は婆利師迦ヴアールシキー(Vārsiki)。雨時生花と譯す。

【七二】第七、次の十頌半は校量勸發を明かす。

在なる諸の解脱を逮得せり。

微妙なる無量勝智の者は、能く是の如きの解脱門、諸の未曾有なる奇特の法を說けるも、一切のものは其の恩に報ゆること能はず。

是の甚深なる勝解脱を聞きて、信解し受持して他の爲めに說け。

世間の一切諸の凡夫にして、是の法を信ぜんものは甚だ得難し、無量なる諸の善法を思惟したる、本有の因力の故に能く信ず。

一切世界の諸の群生にして、聲聞の道を欲し求めんとするもの有る尠く、緣覺を求めん者は轉た復た少く、大乘を求めん者は甚だ希有なり。

大乘を求めん者は猶ほ爲易し、能く是の法を信ぜんは是甚だ難し、況んや能く受持し正しく憶念し、說の如く修行し眞實に解せんをや。

若し三千大千界を以て、頂に戴くこと一劫にして身動かざらんも、彼の作す所は未だ難しと爲さず、是の法を信ぜん者は爲甚だ難し、

大千の塵數の衆生類に、一劫に諸の樂具を供養せんも、彼の功德は未だ勝れたりと爲さず、是の法を信ぜん者は爲殊に勝れたり。

若し掌を以て十佛刹を持ち、虚空の中に於て住すること一劫ならんも、彼の作す所は未だ難しと爲さず、是の法を信せん者は爲甚だ難し。
十佛刹の塵の衆生の類に、一劫のあひだ諸の樂具を供養せんも、彼の功德は未だ勝れたりと爲さず、是の法を信せんものは爲殊に勝れたり。
十刹の塵數の諸の如來を、一劫のあひだ恭敬し供養せんも、若し能く此の品を受持せん者は、功德彼よりも最勝なりと爲す。

（七三）賢首此の品を說き竟はりし時、十方の世界六反に動き、諸魔の宮殿は聚墨の如く、光十方を照して惡道滅びぬ。

【七三】第八、顯實證成を述べて結す。

一切十方の諸の如來は、悉く皆普く賢首の前に現じ、各右の手を伸べて其の頂を摩でたまひ、賢首菩薩の德無量となれり。
其の右の手を以て頂を摩で已りて、一切の如來讚歎して言はく、
「善い哉善い哉、眞の佛子よ、快く是の法を說けり我隨喜す」と。』

卷の第八

佛昇須彌頂品第九

（一）爾の時に如來、威神力の故に、十方一切の諸佛の世界の、諸の四天下の一一の閻浮提に、皆如來の菩提樹下に坐したまふ有りて、顯現せざる無し。彼の諸の菩薩は、各佛の神力を承けて、種種の法を說き、皆悉く自ら佛の所に在りと謂へり。

爾の時に世尊は、威神力の故に、此の座を起ちたまはずして、須彌の頂に昇り、帝釋殿に向ひたまへり。

爾の時に帝釋、遙かに佛の來りたまへるを見て、即ち妙勝殿の上に於て、衆寶の師子の座を敷置し、萬種の雜寶を以て之を莊嚴し、萬重の寶帳を其の上に彌覆し、萬の寶網を以て之を交絡し、次上には、萬重の衆の妙寶蓋、天繒、雜寶を以て垂帶と爲し、萬種の瓔珞にて之を莊嚴し、萬種の寶衣を以て座の上に敷き、一萬の天子前に在りて立侍し、一萬の梵天之を圍繞し、一萬の光明を以て照耀を爲せり。

【一】第三會の序說。

爾の時に帝釋は、佛の爲めに師子の座を莊嚴し已りて、合掌し恭敬して、佛に白して言さく、
「善來世尊、唯願くは哀みたまひて我が此の宮殿に處したまへ。」
爾の時に世尊、即ち其の請を受けて、妙勝殿に昇りたまひぬ。一切の十方も亦復た是の如し。
爾の時に帝釋の無量の樂音は、佛の神力の故に寂然として聲無し。即ち自ら過去佛の所に於て、諸の善根を植ゑしことを憶念して、偈を以て頌して曰はく、
「(一)迦葉如來は大悲を具へ、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此の處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。
(三)拘那牟尼の慧は無礙にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。
(四)拘樓佛の身は金山の如く、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此の處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。
(五)隨葉如來は三垢を離れて、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此の處に入りた

【一】迦葉。迦攝波(Kāsyapa)の略、譯して飮光といひ、七佛の第六位なり。
【三】拘那牟尼。拘那含牟尼(Konakamuni)の略。譯して金仙といひ七佛の第五位なり。
【四】拘樓。拘留孫(Krakucchanda)譯して所應斷といひ、現在千佛の首位にして七佛の第四位なり。
【五】隨葉。又は毘舍浮(Visvabhū)といひ、徧一切自在と譯す、過去千佛の最後にして七佛の第三位なり。

まひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。

(六)尸棄如來は常に寂然として、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此の處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。

(七)毗婆尸佛は滿月の如く、諸の吉祥の中にも最も無上なり、彼の佛曾て來りて此の處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。

(八)弗沙は明かに第一義に達し、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。

(九)提舍如來の辯は無礙にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。

(一〇)波頭摩佛は淨くして垢無く、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此の處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。

(一一)錠光如來は明かに普く照し、諸の吉祥の中にて最も無上なり、彼の佛曾て來りて此の處に入りたまひき、是の故に此の地は最も吉祥なり。』

【六】尸棄(Śikhin)。譯して持髻といひ七佛の第二位なり。

【七】毗婆尸(Vipaśyin)。勝觀又は淨觀等と譯し、七佛の首位なり。

【八】弗沙(Puṣya)。增盛と譯す又は廿八宿中の鬼星の名なりといふ、過去十佛の一なり。

【九】提舍(Tiṣya) 說と譯す、常に法を說くが故に此の名あり。

【一〇】波頭摩(Padma)。赤蓮花と譯す、心蓮華の如く清淨なるが故に此の名あり。

【一一】錠光。又は然燈佛といひ、過去久遠に出現して、釋尊に記別を授け給ひし師佛なり。

此の間の、帝釋は佛の神力の故に、偈を以て十佛の功德を讚歎したるが如く、是の如く、十方の帝釋も、各自ら過去佛の所にて植ゑし所の善根を憶念して、偈を以て讚歎することも、亦復た是の如し。

爾の時に世尊は、師子の座に昇り、結跏趺坐したまひぬ。坐し已りて、宮殿は忽然として廣博なること忉利天の處の如くなれり。一切の十方も亦復た是の如し。

菩薩雲集妙勝殿上說偈品第十

（一）爾の時に十方各百佛世界微塵數の刹を過ぎて、一一の方に各十世界あり、其の世界を因陀羅と名け、次を蓮華と名け、次を衆寶と名け、次を（二）優鉢羅と名け、次を妙行と名け、次を善行と名け、次を歡喜と名け、次を星宿と名け、次を無厭慈と名け、次を虛空と名く。其の佛を不變月と號け、次を無盡月と號け、次を不動月と號け、次を香風月と號け、次を自在天月と號け、次を清淨月と號け、次を無上月と號け、次を星宿月と號け、次を不衰變月と號け、次を無量自在月と號けたてまつる。其の菩薩を法慧と名け、次を一切慧と名け、次を勝慧と名け、次を功德慧と名け、次を精進慧と名け、次を善慧と名け、次を智慧と名け、次を眞實慧と名け、次を無上慧と名け、次を堅固慧と名く。此の諸の菩薩は、各其の國の佛の所に於て、梵行を淨修せり。

爾の時に佛の神力の故に、彼の一一の菩薩は、各一佛世界微塵數の菩薩の眷屬を將ゐて、俱に佛の所に來詣し、恭敬し禮拜せり。又佛の神力の故に、寶藏の師子の座を化作して、結跏趺坐し、十方に充滿せり。此の世界の須彌山の頂に菩薩の雲集せるが如く、十方の世界も亦復た是の如し。

【一】初に大衆を集め光明を放つことを明かす。

【二】優鉢羅（Utpala）。譯して青蓮華といふ。

爾の時に世尊、兩足の指より、百千億の妙色の光明を放ちて、普く十方一切の世界、諸の四天下の、菩提樹の下の、須彌山の頂の妙勝殿上を照したまひて、如來の大衆皆悉く顯現せり。
㊂爾の時に法慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
『天人の師は悉く、一切嚴淨せる刹の、須彌山王の頂の、帝釋の妙勝殿に現じたまふ。天王の請を哀受したまふが、故に其の宮殿に處したまひ、一一各十の、吉祥偈を以て讚歎したてまつる。

【三】次に偈讚。十菩薩あり十段となす。中に於て初の一は總じて佛德を顯はし、餘の九は別して其の德を歎ず。

諸佛の大眷屬たる、淸淨の菩薩衆は、斯に十方より來り、跏趺して正しく安坐せり。
各其の名字を同うし、我が菩薩衆の如く、本刹を捨離して、諸佛の所に往詣せり。
本國の諸の世尊は、名號皆悉く同じく、各其の佛の所に於て、菩薩の行を淨修しき。
諸の佛子よ、當に知るべし、如來の威神力にて、一切世界の中にて、各佛前に在すと謂へり。
今我等は佛の、釋の妙勝殿に坐したまふを見たてまつる、十方も亦是の如し、如來の自在力なり。

一切世界の中の、發心して佛たらんことを求むる者は、先づ淸淨の願を立て、菩薩の行を修習す。

菩薩は淨く、無量無數の劫に修行して、法界に於て無礙なれば、能く測量する者無し。
悉く普く十方を照して、愚癡の闇を滅除し、一切與等無し、是の故に能く知ること莫し。』

爾の時に一切慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『無量無數劫に、常に如來を見たてまつると雖も、此の正法の中に於て、猶ほ未だ眞實を視ず。
妄想をもつて諸法を取り、癡惑の網を增長して、生死の中に輪廻し、盲冥にして佛を見たてまつらず。
復た諸法を觀ずと雖も、猶ほ未だ實相を見ず、一切の法は生滅し、但假りの名字に著す。
一切の法は生無し、一切の法は滅無し、若し能く是の如く解らば、諸佛は常に現前せん。
取も無く亦見も無く、空寂にして眞實無し、諸佛は本來空にして、思量することを得可からず。
若し一切の法は、思量す可からずと解らん者は、彼諸の煩惱に於て、其の心に所染無けん。
虚妄に法相を取るは、是れ則ち癡冥と爲す、是の故に佛を見たてまつらず、亦眞實を得ず。
牟尼は三世を離れ、相好悉く具足し、住に於て所住無く、法界悉く淸淨なり。

因縁の故に法生じ、因縁の故に法滅す、是の如く如來を觀ずれば、究竟じて癡惑を離る。
法慧先に已に、清淨なる微妙の法を說きつ、我彼の勝に從ひて、菩提の思議し難きことを聞けり。』

爾の時に勝慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『如來の智は甚だ深く、一切能く測る莫し、眞實の法を知らざれば、世間は悉く迷惑す。
童蒙は是を思惟して、虛妄に諸法を取る、是の故に佛の、具足せる清淨の相を見たてまつらず。
愚癡の心迷惑して、妄りに五陰の相を取りて、眞實の性を了らず、是の故に佛を見たてまつらず。
一切の法を分別するに、皆悉く眞實無し、是の如く諸法を解らば、則ち盧舍那を見たてまつらん。
前の五陰に因るが故に、後の陰相續して生じ、次第して五陰を解らば、佛の難思議なるを見たてまつらん。
寶の闇處に在るが如し、明無きが故に見えず、眞諦も說く者無ければ、慧と雖も能く觀ること莫し。

目明淨ならざれば、微妙の色を見ざるが如く、是の如く不淨の心は、諸佛の法を見ず。
猶は明淨の日も、目無き者は見ざるが如く、若し人諂曲ならば、終に諸佛を覩たてまつらじ。
故に當に淨慧眼をもつて、諸法の相を觀察すべし、法相を見ることの明了なるは、猶ほ鏡中の像の如し。
一切慧先に、淸淨なる微妙の法を說きつ、我彼の勝に從ひて聞き、佛盧舍那を見たてまつれり。』

爾の時に功德慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『諸法は虛にして實無きに、妄りに堅固の相を取る、是の故に童蒙の者は、常に生死の輪を轉ず。
不善は勝法に非ざるに、妄りに勝法の相を作す、是の故に障癡を生じて、愚癡常に輪轉す。
㊃八正道を知らず、云何が自心を知らんや、彼顚倒の想に因りて、一切の惡を增長す。
諸法の空なるを見ずして、常に無量の苦を受く、彼の人は、淸淨の法眼を成就せざるが故なり。
一切の心を知らんと欲せば、先づ當に法眼を求むべし、我が所說の如くならん者は、能く眞實の

【四】八正道とは正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定、是なり。此の戒定慧の三學に於ける八種の道は、中正にして理に契ひ涅槃に至る正道なるが故に八正道と名く。

佛を見たてまつらん。

若し佛を見たてまつる者有りて、其の心に所著無ければ、彼則ち眞實を見ること、佛の說きたまふ所の法の如し。

若し大智慧の、如來の妙法身を見たてまつらば、能く如來を見たてまつるが故に、彼に淸淨眼有り。

見無ければ乃ち能く、一切の眞實の法を見る、法に於て所見有れば、彼則ち所見無し。

妙なる哉、眞實の法、佛は以て衆生を導きたまふ、一切諸有の中には、生も無く亦死も無し。

勝慧先に已に、淸淨なる微妙の法を說きつ、我彼の勝に從ひて聞き、深く諸佛の道を解れり。』

爾の時に精進慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『諸の妄想の行を以て、慧眼淸淨ならず、愚癡邪見增して、常に諸佛を見たてまつらず。

若し能く邪僞と、及以び眞實の法とを見て、諦かに實と不實とを了らば、則ち淸淨の佛を見たてまつらん。

見者は則ち是れ垢にして、彼則ち所見無し、諸佛は所見を離る、是の故に淸淨を見る。

世間の語言の法は、虛妄にして眞實無し、世は緣より起ると知れば、能く生死の患を離る。

世間と非世間とは、觀察するに悉く平等にして、二俱に眞實なりと知る、是を異見の者と名く。
若し能く是の如く觀ずれば、漏盡きて自在を得、有に非ず亦無に非す、是を不二の見と名く。
虛妄と非虛妄とは、是れ諸佛の法に非ず、眞實に二相無し、法性は淸淨なるが故なり。
法性は自ら淸淨にして、無相なること虛空の如く、一切能く說くこと無し、智者は是の如く觀ず。
一切の法は、寂滅にして所有無しと樂觀し、亦修す可からざることを知らば、能く牟尼尊を見たてまつらん。
是の如くして佛を見たてまつらん者は、功德量る可からず、一切の所有る行は、寂靜にして空無の相なり。』
爾の時に善慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
『妙なる哉、佛世尊、無量なる諸の如來は、害心を離れて解脫し、自ら度り能く彼を度したまふ。
正しく世間の燈を見るに、如實にして顚倒ならず、無量無數劫に、德を積むが故に佛を見たてまつる。
諸行は空にして實無きに、凡夫は眞實なりと謂ふ、一切自性無く、皆悉く虛空に等し。

無盡智の說く所は、說く者に所說無し、有は悉く無なりと了知す、故に難思議なるを得。
無盡の說は無盡なり、衆生は空寂なるが故に、彼の眞實の性を知らば、則ち大名稱を見る。
見無きに是れ見なりと說き、我無きに衆生なりと說く、見及び衆生と說くも、是の二は悉く有に非ず。
見者に所見無ければ、是の見は相を壞せず、是を眞實の法と名く、一切の佛の說きたまふ所なり。
能く眞實の佛と、及び佛の所說とを知らば、普く一切の世を照すこと、佛盧舍那の如くならん。
如來の等正覺は、善く明淨の道を說きたまへばなり。
精進慧菩薩は、無量の法を演說して、有無の諸法の相は、一相にして平等なりと修し、是の如くして能く佛を見たてまつり、眞實際に安住せり。』

爾の時に智慧菩薩、佛の神力を受けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
『我最勝の教を聞きて、卽ち淨慧の光を生じ、普く十方の世を照し、悉く一切の佛を見たてまつる。
若し衆生有りと計せば、是を最難處と爲す、法には本眞の主無く、但假りの言說有るのみ。

愚惑のものは能く、自身の眞實性を知ること莫し、如來は取相に非ず、是の故に佛を見たてまつらず。
塵垢慧眼を障へて、等正覺を見たてまつらず、無量無數劫に生死の海に流轉す。
流轉は即ち生死にして、非轉は是れ涅槃なり、生死及び涅槃は、二皆得可からず。
虚誑妄說の者は、生死と涅槃とを異にして、賢聖の法に迷惑し、無上の道を識らず。
是の如く相を取る者は、佛の等覺有りと言ふも、顚倒にして正念無し、是の故に佛を見たてまつらず。
能く此の實法は、寂滅眞如の相なりと知らば、則ち最正覺を見たてまつり、語言の道を超出せん。
虚妄に諸法を說くも、法は實に所有無し、一切諸の世尊は、諦かに求むるに得可からず。
明かに過去世、未來及び現在は、究竟じて永く寂滅なりと了る、故に說いて如來と爲す。』
爾の時に眞慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
『寧ろ無量の苦をも受けん、佛の音聲を聞くことを得んには、一切の樂をも受けじ、佛の名を聞かざらんには、

無量劫に、此の衆の苦惱を受けて、生死の中に流轉せる所以は、佛の名を聞かざるが故なり。
實に無實の法なるを以て、正覺すれば眞僞等し、和合の相無きを以てなり。是を名けて菩提と爲す。
現の佛は緣合に非ず、去來も亦復た然り、一切の法は無相なり、是れ則ち佛の眞性なり。
若し能く是の如く、諸法の甚深の義を觀せば、則ち無量の佛の、法身の眞實相を見たてまつらん。
實に於ては眞實なりと知り、非實には非實なりと知りて、善く眞實際を解る、故に號けて正覺と爲す。
覺者に所覺無ければ、是れ佛の眞妙の法にして、諸佛は是の如く修し、一に非ず亦二に非ず。
一法を衆と爲すことを知り、衆法を一と爲すことを知り、法に所依の處無し、云何んぞ而も緣合ならん。
作者及び所作は、二俱に所有無し、若し能く是の如く解らば、之を求めんも不可得なり。
是の處は不可得にして、諸佛の依止する所なり、法に所依有ること無く、覺者に所著無ければなり。』
爾の時に無上慧菩薩、佛の神力を承けて。普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『無上の摩訶薩は、衆生の相を遠離し、上の相に所有無し、故に號けて無上と爲す。
(五)微妙なるに所有無し、(六)麤なる者にも亦復た無し、諸佛の得たまふ所は、望に非ず亦作に非ず。
是の法は數ふ可からず、諸佛の境界も、亦無數を離る、是を佛の眞法と名く。
慧日十方を照して、衆の闇冥を滅除するも、亦所照有るに非ず、亦復た無照に非ず。
常に寂靜の法を樂ひて、永く有所依を離れ、解脱に依處無くして、一切の法に染まず。
善く大智の者を見るに、眞實の所依の住なり、若し二法有ること無ければ、當に知るべし一も亦無し。
一も無く亦二も無く、一切皆寂滅にして、三種の世閒は空なり、是れ則ち諸佛の見なり。
諸佛は衆生を敎へて、正法の中に安住せしめたまふ、無所住に解達すれば、當に眞實の身を見たてまつるべし。
非身は卽ち是れ身、轉ぜざれば見る可からず、轉無ければ亦見も無し、是を無上の身と名く。
眞慧の演說せし所は、無量なる諸佛の法なり、若し此の法を聞かん者は、當に淸淨眼を得べし。』

【五】微妙とは本有の理をさす、故に次に希望に非ずといへり。
【六】麤とは修生の德をさす、本空なるが故に次に作に非ずと云へり。

爾の時に堅固慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『衆生は恩を知らず、如來は慈悲を發して、世間に出現し、普く照して衆の冥を除きたまふ。

大慈悲の心を起して、普く諸の群生を觀じまたまふに、具さに無量の苦を受け、永く縛せられて三有に在り。

唯等正覺の、最勝なる尊導師のみを除きては、一切天人の中に、歸依す可き者無し。

世界に若し佛、及び衆の賢聖の人無くば、彼の諸の群生の類には、一切の樂有ること無けん。

如來と衆の賢聖とは、世間に出現して、爲めに淨慧眼を開き、永く安樂を得しめたまふ。

若し如來を見たてまつらんものは、爲めて最大の利を得ん、佛の名を聞きて歡喜すれば、則ち是れ世間の塔なり。

我等は善利を獲て、現前に如來を觀たてまつり、斯の微妙の法を聞く、悉く當に佛道を成すべし。

三世の明解脫の、甚深なる諸の境界において、一切衆の菩薩は、淸淨にして慧眼を開けり。

我等は重ねて、佛盧舍那を見たてまつることを歡喜す、無量無邊の智は、演說すとも盡す可らず。

無上慧、堅固、及び諸の弟子等は無數億劫の中に、佛の德を說くとも盡すこと無けん。』

菩薩十住品第十一

(一)爾の時に法慧菩薩、佛の神力を承けて、菩薩の無量方便三昧に入りて正受せり。三昧に入り已りて、十方の千佛世界塵數の佛土の外に、各千佛世界塵數の諸佛を見たてまつる。是の諸の如來は、悉く法慧と號けたてまつる。時に彼の諸の佛、法慧菩薩に告げて言はく、

『善い哉、善い哉、善男子よ、乃ち能く是の菩薩の無量方便三昧に入りて正受せり。善男子よ、十方の各千佛刹塵數の諸佛は、汝に神力を加したまふが故に、能く是の三昧正受に入れり。又盧舍那佛の本願力の故に、威神力の故に、及び汝の善根力の故なり。又汝をして廣く法を說かしめんと欲するが故に、佛慧を長養せしめんが故に、法界を開解せしめんが故に、衆生界を分別せしめんが故に、障を除滅せしめんが故に、無礙の境界に入らしめんが故に、無等等の方便をもつて一切智の陀羅尼に入らしめんが故に、一切の法を覺らしめんが故に、善く諸根を知らしめんが故に、(二)法を說きて持せしめんが故に、所謂る菩薩の十住なり。善男子よ、當に佛の神力を承けて微妙の法を說くべし。

【一】初に入定と佛の加被力とを明かす。

【二】法を說きて持せしめん。一切法の義を說き、之を受持して滅せざらしむるの意。

爾の時に一切の如來は、卽ち法慧菩薩に、(三)無礙智、無住智、無斷智、無癡智、無壞智、無惡智、無量智、無勝智、無懈怠智、無退智を與へたまへり。何を以ての故に、彼の三昧の力、(四)法として是の如くなるが故なり。

爾の時に諸佛は各右の手を伸べて、法慧菩薩の頂を摩でたまへり。其頂を摩でたまふこと已りて、卽ち定より起ちて、衆の菩薩に告げて言はく、

(五)『諸の佛子よ、菩薩の(六)種性は甚深廣大にして、法界虚空と等しく、一切の菩薩は三世諸佛の種性の中より生じたり。諸の佛子よ、菩薩摩訶薩の十住の行は、去來現在の諸佛の說きたまふ所なり。何等をか十と爲す。一を初發心と名け、二を治地と名け、三を修行と名け、四を生貴と名け、五を方便具足と名け、六を正心と名け、七を不退と名け、八を童眞と名け、九を法王子と名け、十を灌頂と名く。諸の佛子よ、是を菩薩の十住と名け、去來現在の諸佛の說きたまふ所なり。

(七)諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の初發心住なる。

此の菩薩は、佛の三十二相、八十種好、妙色具足し、尊重にして遇ひ難きを見たてまつり、或は神

【三】無礙。大衆中に在りて法を說くこと無礙自在なる義。是は總なり、餘の九は別なり。

【四】法爾の義なり。水流れて自ら低きに向ふが如く自ら然るなり。

【五】次は本說。正しく十住を說く。

【六】種性。種とは因の義、性とは體の義にして本具の佛性をいふ。又は族姓の義あり。

【七】第一發心住。

變を視、或は說法を聞き、或は敎誡を聽き、或は衆生の無量の苦を受くるを見、或は如來の廣く佛法を說きたまふを聞きて、菩提心を發し、一切智を求め、一向にして囘かず。

此の菩薩は初發心に因りて、十の力分を得たり。何等をか十と爲す。所謂る、(八)是處非處の智、(九)業報垢淨の智、諸根の智、欲樂の智、性智、(一〇)一切至處道の智、一切の禪定解脫三昧正受垢淨起の智、宿命無礙の智、天眼無礙の智、(一一)三世漏盡の智なり。是を十と爲す。◎諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十法を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る、諸佛を恭敬し供養し、諸の菩薩を讃歎し、衆生の心を護り、賢明に親近し、不退の法を讃め、佛の功德を修し、諸佛の前に生ずることを稱揚し歎美し、方便をもつて寂靜の三昧を修習し、生死の輪廻を遠離することを讃歎し、苦の衆生の爲めに歸依の處と作らんことを學ぶべし。何を以ての故に、菩提心をして轉た勝れて堅固にし、無上道を成せしめんと欲すればなり。所聞の法有れば卽ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

(一二)諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の治地住なる。

【八】是處非處智。處とは道理の義にして善業は樂果を得といふは是處なり。惡業樂果を得といふは非處なり。かく因果應報の上の道理と非理とを徧知する力をいふ。

【九】業報垢淨の智。業報として生を受くる處の淨穢の相を知る力なり。

【一〇】一切至處道の智。一切の道の至る處の相を知る力なり。

【一一】三世漏盡の智。一切の煩惱習氣の永く盡きたるを知る力なり。

【一二】第二治地住。

此の菩薩は、一切の衆生に於て十種の心を發す。何等をか十と爲す。所謂る、大慈心、大悲心、樂心、安住心、歡喜心、衆生を度する心、衆生を守護する心、我所心、師心、如來心なり。是を十と爲す。諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十法を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る、先づ當に勤めて學び專ら多聞を求むべし、離欲の定を修め、善知識に近きて其の敎に違はず、善く【三】時語を知り、無所畏を學び、明かに深義を解り、正法に了達し、堅き法行を知り、癡冥を捨離し、不動に安住すべし。何を以ての故に、一切の衆生に於て、大慈悲を增長せんと欲するが故なり。

所聞の法有れば、即ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

【四】諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の修行住なる。

此の菩薩は十種をもつて一切の法を觀ず、何等をか十と爲す。所謂る、一切の法は無常、苦、空、無我、不自在なり、一切の法は樂む可きにあらず、一切の法は集散無し、一切の法は堅固無し、一切の法は虛妄なり、一切の法は精勤和合堅固無しと觀ず。是を十と爲す。諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十法を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る、分別して一切の衆生界を知り、分別して一切の法界を知り、分別して一切の世界を知り、分別して地、水、火、風界を知り、分別して欲、色、無色界を知ることを學ぶ。何を以ての故に、一切の法に於て明淨の智慧を增長せん

【三】時語を知り。請問するに能く、其の時を辨へ、非時にならざること。

【四】第三修行住。

と欲するが故なり。所聞の法有れば、即ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

（二五）諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の生貴住なる。

此の菩薩は、一切の聖法、正教の中より生れ、十種の法を修す。何等をか十と爲す。所謂る、佛を信ずること壞せず、法を究竟し、寂然たる定意、衆生を分別し、佛刹を分別し、世界を分別し、諸業を分別し、果報を分別し、生死を分別し、涅槃を分別す。是を十と爲す。◎諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十法を學ぶべし。何等をか十と爲す、所謂る、去來今の佛の法を分別し、去來今の佛の法を修行し、去來今の佛の法を具足し、平等に一切の諸佛を觀察することを學ぶ。何を以ての故に、三世に明達して等しく觀せしめんと欲すればなり。所聞の法有れば、即ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

（二六）諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の具足方便住なる。

此菩薩は、十種の法を聞きて應當に修行すべし。何等をか十と爲す。所謂る、善根は悉く一切衆生を救護し、一切衆生を饒益し、一切衆生を安樂にし、一切衆生を哀愍し、一切衆生を成就し、一切衆生をして諸難を捨離せしめ、一切衆生を生死の苦惱より拔出し、一切衆生をして歡喜快樂ならしめ、一切衆生をして調伏せしめ、一切衆生をして悉く涅槃を得しめんが爲なり。是を具足方便住と爲す。◎

【二五】第四生貴住。
【二六】第五具足方便住。

諸の佛子よ、彼の菩薩は當に十法を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る、衆生の邊有ること無きを知り、衆生の數ふ可からざるを知り、衆生の不思議なるを知り、衆生の種種の色を知り、衆生の量る可からざるを知り、衆生の空なるを知り、衆生の自在ならざるを知り、衆生の眞實に非ざるを知り、衆生の所有無きを知り、衆生の自性無きを知らんことを學ぶ。何を以ての故に、其の心をして染著する所無からしめんと欲すればなり。所聞の法有れば、即ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

【一七】第六正心住。

(一七)諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の正心住なる。此の菩薩は十種の法を聞きて、決定の心を得。何等をか十と爲す。所謂る、佛を讃め佛を毀るを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。法を讃め法を毀るを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。菩薩を讃毀するを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。菩薩の所行の法を讃毀するを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。衆生の有量無量なるを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。衆生の有垢無垢なるを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。衆生の度し易きと、度し難きとを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。法界の有量無量なるを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。法界の若くは成に若くは壞することを聞くも、佛法の中に於て心定まりて動ぜず。法界の若くは有若くは無なることを聞くも、

佛法の中に於て必定まりて動せず。是を十と爲す。諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十法を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る、一切の法は無相なり、一切の法は無性なり、一切の法は修す可からず、一切の法は所有無く、一切の法は眞實無く、一切の法は虛空の如く、一切の法は自性無く、一切の法は幻の如く、一切の法は夢の如く、一切の法は響の如くなることを學ぶ。何を以ての故に、不退轉の無生法忍を得しめんと欲するが故なり。所聞の法有れば、卽ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

(二八)諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の不退轉住なる。

【二八】第七不退轉住。

此の菩薩は十種の法を聞きて、其の心堅固にして動轉せず。何等をか十と爲す。所謂る、有佛と無佛とを聞くも、佛法の中に於て退轉せず。法有るも、法無きも、佛法の中に於て退轉せず。菩薩有るも、菩薩無きも、佛法の中に於て退轉せず。菩薩の行有るも、菩薩の行無きも、佛法の中に於て退轉せず。菩薩の行は生死を出づるも、生死を出でざるも、佛法の中に於て退轉せず。過去佛有るも、過去佛無きも、佛法の中に於て退轉せず。未來佛有るも、未來佛無きも、佛法の中に於て退轉せず。現在佛有るも、現在佛無きも、佛法の中に於て退轉せず。佛智には盡くること有るも、盡くること無きも、佛法の中に於て退轉せず。三世の法は一相なるも、一相に非ざるも、佛法の中に於て退轉せず。是を十と爲す。諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十法

を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る、一は即ち是れ多なり、多は即ち是れ一なりと知り、(一九)味に隨ひて義を知り、義に隨ひて味を知り、非有は是れ有なりと知り、有は是れ非有なりと知り、非相は是れ相なりと知り、相は是れ非相なりと知り、非性は是れ性なりと知り、性は是れ非性なりと知る。何を以ての故に、一切の法に於て、方便を具足せんと欲するが故なり。所聞の法有れは、即ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

(二〇)諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の童眞住なる。

此の菩薩は十種の法に於て、心安立することを得。何等をか十と爲す。所謂る、身行淸淨、口行淸淨、意行淸淨、意に隨ひて生を受け、衆生の心を知り、衆生の種種の欲樂を知り、衆生の種種の性を知り、衆生の種種の業を知り、世界の成壞を知り、神通自在にして障礙有ること無し。是を十と爲す。諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十法を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る一切の佛刹を知り、一切の佛刹を震動し、一切の佛刹を持し、一切の佛刹を觀じ、一切の佛刹に詣り、徧く一切の世界に至り、善く無量の妙法を問難し、神通をもつて無量の身を變化し、善く無量なる諸の音聲を解し、一念の中に無量の諸佛を恭敬し供養することを學ぶ。何を以ての故に、一切の法の中に於て巧方便を出だし、具足し成就せんと欲すればなり。所聞の法有

【一九】味とは教法をいふ。
【二〇】第八童眞住。

れば、卽ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

(二)諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の法王子住なる。

此の菩薩は善く十種の法を解る。何等をか十と爲す。所謂る、善く衆生の趣を解り、善く諸の煩惱を解り、善く諸の習氣を解り、善く方便智を解り、善く無量の法を分別することを解り、善く諸の威儀を解り、善く諸の世界を分別することを解り、善く去來今を解り、善く世諦を說くことを解り、善く第一義諦を說くことを解る。是を十と爲す。諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十法を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る、善く法王の住する處を知り、善く法王の行ずる所の威儀を知り、善く法王の處に安立することを知り、善く巧に法王の處に入ることを知り、善く法王の處を分別することを知り、善く法王の甘露の灌頂を知り、善く法王の法を受持することを知り、善く法王の無畏法を知り、善く法王の無著の法を知り、善く法王の法を讚歎するを知らんことを學ぶ。何を以ての故に、一切の法に於て無障礙の智を得んと欲すればなり。所聞の法有れば、卽ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

(三)諸の佛子よ、何等か是れ菩薩摩訶薩の灌頂住なる。

此の菩薩は十種の智住を成就す。何等をか十と爲す。所謂る、悉く能く無量の世界を震動し、悉く

【二】第九法王子住。
【三】第十灌頂住。

能く無量の世界を照明にし、悉く能く無量の世界を住持し、悉く能く徧く無量の世界に遊び、悉く能く無量の世界を嚴淨し、悉く無量なる衆生の心行を知り、悉く衆生の隨心の所行を知り、悉く無量なる衆生の諸根を知り、悉く能く方便をもつて無量の衆生を度し、悉く能く無量の衆生を調伏す。是を十と爲す。諸の佛子よ、彼の菩薩の身は知る可からず、身業禪定、神足自在にして、過去の智、未來の智、現在の智、諸佛の刹を淨むる智、心の境界、智の境界、皆知る可からず、一切の衆生、乃至法王子の菩薩も、悉く知ること能はず。諸の佛子よ、彼の菩薩は應に十種の智を學ぶべし。何等をか十と爲す。所謂る、三世の智、一切佛法の智、法界無障礙の智、法界無量無邊の智、一切の世界に充滿する智、普く一切の世界を照す智、能く一切の世界を持する智、一切の衆生を分別する智、一切種智、佛智、無量無邊の智を學ぶ。何を以ての故に、一切種智を具足せしめんと欲すればなり。所聞の法有れば、卽ち自ら開解して、他に由りて悟らず。

【三三】次は顯實證成を明かす。

(三三)爾の時に佛の神力の故に、十方の各萬佛世界塵數の佛國は、六種に十八相に震動して、天の寶華、天の末香、天の寶鬘、天の雜香、天の寶衣、天の寶雲、天の莊嚴具を雨らし、天の妙音樂は鼓せざるに自ら鳴り、又自ら無畏の音を演出せり。此の四天下の須彌山の頂の、妙勝殿上に、威神變化して十住の法を說きしが如く、一切の十方世界も亦復た是の如し。

爾の時に佛の神力の故に、十方の各萬佛世界塵數の刹を過ぎて外に、十佛刹微塵數に等しき諸の大菩薩有りて、十方に充滿して、此の土に來詣し、是の如きの言を說けり。

『善い哉善い哉、佛子よ、善く此の法を說けり。我等諸人も同じく法慧と名け、從來せし所の國を同じく法雲と名け、彼の諸の如來は同じく妙法と號けたてまつる。我等が佛の所にも亦十住を說き、大衆眷屬も、名味句身も等しくして異り有ること無し。是の故に、佛子、我等は佛の神力を承けて、此の土に來詣し、汝が爲めに證を作すと。』

此の四天下の、須彌山の頂の妙勝殿上に十住の法を說き、十佛世界の微塵數に等しき、諸の大菩薩此に來りて證を作せしが如く、一切の十方も亦復た是の如し。

【三四】頌に一百一偈あり初の九十二頌半は前の十住を頌し、後は結歎勸修を頌す。
【三五】初の四十六偈は初住を頌す。

(三四)爾の時に法慧菩薩、佛の神力を承けて、普く十方及び諸の世界を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

(三五)『大智の尊の微妙の身を見たてまつるに、相好端嚴悉く具足せり、最勝は尊重にして甚だ遇ひ難し、勇猛の大士は初め發心す。

無等等の大神變を見て、妙法及び敎誡を說きたまふを聞き、五道の無量なる苦を觀察して、無畏の大士は初め發心す。

諸の如來普智の尊は、無量の功德悉く具足せりと聞き、佛の心相は虛空の如しと解る、菩薩は此に因りて初め發心す。

能く是處と及び非處と、若くは我と非我と是の如き等を知り、平等なる眞實の義を解らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

過去未來現在世の、一切善惡の諸の業報を、善く悉く平等なりと觀察せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

諸禪三昧及び解脫と、隨順の正受とに所著無く、善く垢淨の起ることを分別せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

諸の衆生の根の利鈍に隨ひて、種種に勤めて精進力を修し、悉く了達して分別して知らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切衆生の種種の欲、心好んで諸の悕望に樂著するを、悉く了達し分別して知らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切衆生の種種の性は無量無邊にして數ふ可らず、悉く了達し分別して知らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切諸道の所至の處、八正の聖路は無爲に向ふ、悉く了達して其の實を知らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切世界の衆生の類は、五道の生死海に流轉す、天眼を得て悉く明達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

過去世の一切の事に於て、其の體性所有る相の如く、悉く隨順して宿命に達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

世間の一切諸の煩惱と、所有る結縛と、餘の習氣とを、悉く覺知し究竟じて盡さんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

世間の所有る世諦の法と、名字談論語言の道と、悉く世諦の義に明達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切諸法は語言斷え、自性有ること無く虚空の如し、悉く眞諦の義に明達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切の佛の世界を震動し、諸の大海を傾覆し鼓蕩して、悉く佛の神力に明達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一毛より無量の光を放演して、普く十方一切の刹を照す、一の光に於て一切を覺らしめんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

無量の佛刹の思議し難きを、皆悉く能く一掌の中に置き、一切幻化の如しと解らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

無量の佛刹の諸の衆生を、皆悉く一毛端に安置し、悉く皆寂滅なりと了達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切十方の大海の水を、一毛を以て滴み盡して餘すこと無く、悉く分別して滴數を知らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

不可思議なる諸の佛刹を、皆碎きて末と爲して微塵の如くし、悉く分別して其の數を知らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

過去未來の無量劫の、一切世界の成敗の相、悉く究竟じて其の際に達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

三世一切の等正覺と、諸の（二六）辟支佛及び聲聞と、悉く（二七）三乘の道を分別せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

【二六】辟支佛(Pratyeka)。獨覺又は緣覺と譯す。

【二七】三乘。聲聞乘、緣覺乘、菩薩乘の三をいふ。

無量無邊の諸の世界を、能く一毛を以て悉く稱り擧げて、有無の眞實相を知らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

金剛圍山の數無量なるを、盡く能く一毛端に安置し、至大に小相有ることを知らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

十方一切の諸の世界に、能く一音を以て徧く充滿し、悉く淨妙の聲を解了せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切衆生の語言の法を、一言に演說し盡して餘すこと無く、悉く淨密の音を解了せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

如來の淸淨なる微妙の音は、十方諸の世界に充滿す、具足せる舌根の相を得んと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切十方の諸の世界の、成壞有るものは皆悉く見て、悉く虛妄なりと解了することを得んと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

一切十方の諸の佛刹、其の中の無量なる諸の如來の、悉く佛の正法を了達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

普く能く無量の身に應現して、一切世界の微塵と等しきを、悉く幻化の如しと了達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

過去未來現在世の、無量無邊の諸の如來を、一念に於て悉く了知せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

具さに一句の法を演說せんと欲せんに、阿僧祇劫にも窮盡すること無し、辯才をして斷絶せざらしめんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

十方一切の諸の群生を、其の遷變生滅の相に隨ひて、一念に於て悉く了達せんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

淨妙の身口と及び意行とは、十方に遊歩して障礙無く、三世は悉く空寂なりと了らんと欲し、菩薩は此に因りて初め發心す。

(二八)菩薩は是の如く發心し已りて、十方界の諸佛の所に於て、應に佛を恭敬し供養することを學ぶべし、是の如きの說は(二九)不退の敎なり。

菩薩の種種の樂を捨離し、生死を厭はずして菩提を求め、此を以て勸進し歡喜し歎ず、是の如きの說は不退の敎なり。

【二八】次に應學の十法を頌す。
【二九】不退の敎。說正理に順じて敎に改易なき義、又は入位不退の義あり。

十方一切の諸の世界の、其の中の所有る衆の賢聖を、菩薩は常に應に彼を讃歎すべし、是の如きの説は不退の敎なり。
最勝無上にして比有ること無く、甚深微妙の淸淨法、菩薩は此を以て衆生を化す、是の如きの説は不退の敎なり。
無上淸淨なる妙善の法は、一切の衆魔も壞すること能はず、菩薩は尊重して常に稱歎す、是の如きの説は不退の敎なり。
一切の所有る妙功德を、天人の尊は悉く成就したまふ、此を以て諸の菩薩を安立せしむ、是の如く説く者は人中の王なり。
方便敎化して諸佛を見たてまつること、無量無數にして思議し難し、若し能く此の方便を以て化せんに、是の如きの説は不退の敎なり。
一切の甚深なる諸の三昧を、悉く衆生に敎へて餘り有ること無く、菩薩は分別して具さに開導す、是の如きの説は不退の敎なり。
悉く能く生死の輪を摧滅し、具さに聖道の妙法輪を轉じ、一切世間に所著無し、諸佛の記したまふ所は是の菩薩なり。

菩薩若し無量の衆の、生死に輪轉して諸の苦を受くるを見ば、爲めに救護歸依の者と作る、諸佛の說したまふ所は是の菩薩なり。

是の說は菩薩の發心住にして、一向に無上道を志求するなり、我が說く所の微妙の法の如く、一切諸佛も亦是の如し。

〔三〇〕第二治地の眞の佛子は、先づ應に發心して是の念を作すべし、願くは一切群生の類をして、諸佛の敎に隨順して修行せしめんと。

【三〇】次の六頌は第二住。

衆生を饒益し安樂にする心、歡喜して衆生を捨てざる心、大悲、救護、我所の心、大師の心、如來の心を起さんと。

是の如き等の勝妙の心を發して、精勤に學問して多聞を求め、寂然たる定意、正しき思惟、心常に善知識に親近し。

隨順し奉行して其の敎を修め、柔輭の善語、不放逸にして、善能く一切の時を了知し、深法の義に達して畏る所無く、

明かに深義を解し正法を了れば、則ち一切の諸の癡冥を離る、已に愚癡を離るれば心安住す、是れ則ち名けて眞の佛子と爲す。

亦治地の摩訶薩と名け、一向に堅固にして菩提を求む、是の如く善く諸佛の教を學ばば、是れ則ち名けて眞の佛子と爲す。◎

〔三二〕第三修行の眞の佛子は、應當に是の如く諸法を觀ずべし、無常、苦、空にして堅固なる無く、我無く主無くして自在ならず。

一切の諸法は樂む可きにあらず、無作虚誑にして眞實ならず、積集有ること無く亦散ずることも無しと、是の如く觀ずる者は是れ菩薩なり。

衆生界を分別し觀察し、亦當に諸の法界を解了すべし、善能く分別し方便をもつて、無量無邊の諸の世界を觀ぜよ。

一切十方の國土の中の、地水火風の四大界と、欲界、色界、無色界とを、悉く能く觀察し分別して知れ。

善能く明かに一切界に達すれば、眞實に究竟じて餘り有ること無し、是の如きは眞諦正法の教にして、隨順して學ぶ者は是れ菩薩なり。◎

〔三三〕第四生貴の眞の佛子は、諸の賢聖の正法より生れ、有無の諸法に所著無く、生死を捨離して三界を出で。

〔三二〕次の五頌は第三住。
〔三三〕次の六頌は第四住。

佛を信ずること堅固にして壞す可からず、淨心を究竟じて退轉せず、明了に甚深の法を觀察するに、一切の衆生は眞實無し。

行業、世界、諸佛の刹と、生死、果報、及び涅槃とを、佛子若し能く是の如く觀せば、是を如來の法化より生ずと名く。

過去未來現在世の、諸佛如來と及び正法とを、無量の方便をもつて悉く究竟すれば、一切の大聖の法を成就す。

一切三世の諸の如來を、平等に觀察するに異相無く、分別するに差別は得可からず、是の如く觀ずる者は三世に達す、

【三】次の四頌半は第五住。

我が說く所を讃歎する者の如きは、是を四住の摩訶薩と名く、若し能く是の如く修學せん者には、速かに無上なる佛の菩提を成ぜん。

【三】第五の菩薩眞の佛子は、微妙具足の方便に住し、深く淸淨の巧方便に入りて、一切の功德の業を究竟し。

修する所の無量なる諸の功德は、悉く一切の爲めに歸依と作り、饒益し安樂にし大慈悲をもつて、諸の群生を哀愍し度脫して、

一切世の爲めに衆難を除き、永く生死を拔きて歡喜せしめ、一切諸の群生を調伏し、功德を具足して涅槃に趣かしむ。

普く一切諸の群生の爲めに、清淨の法を分別し演說す、是を第五の摩訶薩と名け、方便を成就して衆生を度す。

一切の功德を具足する者、五住の淨妙の法を演說したまふ◎

(三四)第六正心の眞の佛子は、眞實の法を解りて愚癡を離れ、一切世の天人の中に於て、正念に思惟して虛妄を滅し。

佛及び佛法と、一切の菩薩の所行の道とを讚毀するを聞くも、衆生に量有るも若くは量無きも、佛法の中に於て心動ぜず。

衆生に垢有るも若しは垢無きも、或は度し易き有るも或は度し難きも、法界に量有るも若くは量無きも、世界に成有るも或は敗有るも、

或は法界の若くは有無なりと聞くも、過去未來今現在、菩薩は此の一切法に於て、寂然として觀察し心動ぜず。

一切の法は性相無く、其の義は眞實にして虛空の如く、猶は幻や化や夢の所見の若しと觀ず、是

【三四】次の五頌は第六住。

の人は法に於て眞に解れりと爲す◎

(三五)第七不退の眞の佛子は、諸佛菩薩の法有りと聞くも、諸佛菩薩の法無しと聞くも、若くは出づるも出でざるも退轉せず。

過去未來及び現在の、一切諸佛の有と無と、若くは法起滅するも起滅せざるも、若くは一相有るも若くは異相なるも、

若くは一卽多、多卽一、義味寂滅して悉く平等に、一異顚倒の相を遠離す、是を菩薩の不退住と名く。

若くは法相有ると及び無相なると、若くは法性有ると及び無性なると、二俱に實無くして虚空に等し、是の如く知る者は必ず究竟すべし◎

(三六)第八童眞の眞の佛子は、身口意の行悉く具足し、微妙清淨にして染汚無く、意の欲する所に隨ひて自在に生れ、

悉く一切衆生の心を知り、善能く諸の欲性を觀察し、衆生と法と無差別なることと、十方世界の成敗の相とを了り、

速かに一切の妙神通に逮り、十方の諸佛の刹に往詣し、隨意自在にして障礙無く、妙法を說くを

【三五】次の四頌は第七住

【三六】次の五頌は第八住

一切世の爲めに衆難を除き、永く生死を拔きて歡喜せしめ、一切諸の群生を調伏し、功德を具足して涅槃に趣かしむ。

普く一切諸の群生の爲めに、清淨の法を分別し演說す、是を第五の摩訶薩と名け、方便を成就して衆生を度す。

一切の功德を具足する者、五住の淨妙の法を演說したまふ。

（三四）第六正心の眞の佛子は、眞實の法を解りて愚癡を離れ、一切世の天人の中に於て、正念に思惟して虛妄を滅し、

佛及び佛法と、一切の菩薩の所行の道とを讃毀するを聞くも、衆生に量有るも若くは量無きも、佛法の中に於て心動せず。

衆生に垢有るも若しは垢無きも、或は度し易き有るも或は度し難きも、法界に量有るも若くは量無きも、世界に成有るも或は敗有るも、

或は法界の若くは有無なりと聞くも、過去未來今現在、菩薩は此の一切法に於て、寂然として觀察し心動せず。

一切の法は性相無く、其の義は眞實にして虛空の如く、猶ほ幻や化や夢の所見の若しと觀ず、是

【三四】次の五頌は第六住。

の人は法に於て眞に解れりと爲す。

(三五) 第七不退の眞の佛子は、諸佛菩薩の法有りと聞くも、諸佛菩薩の法無しと聞くも、若くは出づるも出でざるも退轉せず。
過去未來及び現在の、一切諸佛の有と無と、若くは法起滅するも起滅せざるも、若くは一相有るも若くは異相なるも、
若くは一卽多、多卽一、義味寂滅して悉く平等に、一異顚倒の相を遠離す、是を菩薩の不退住と名く。
若くは法相有ると及び無相なると、若くは法性有ると及び無性なると、二倶に實無くして虛空に等し、是の如く知る者は必ず究竟すべし。

(三六) 第八童眞の眞の佛子は、身口意の行悉く具足し、微妙清淨にして染汚無く、意の欲する所に隨ひて自在に生れ、
悉く一切衆生の心を知り、善能く諸の欲性を觀察し、衆生と法と無差別なることと、十方世界の成敗の相とを了り、
速かに一切の妙神通に逮り、十方の諸佛の刹に往詣し、隨意自在にして障礙無く、妙法を說くを

【三五】次の四頌は第七住。
【三六】次の五頌は第八住。

聞きて悉く受持す。◎

六種に一切の國を震動し、皆悉く能く諸の世界を持し、梵音徧く十方の刹に滿ち、無量の群生類を度脱す。

佛義を諮問すること數ふ可からず、其の身を變化すること量有ること無く、化を受くる者に隨ひて法言を演べ、佛の説きたまひし所の如く異り有ること無し。◎

（三七）第九王子の摩訶薩は、悉く能く諸の群生を分別し、善く輕重の煩惱の行を知り、其の所應に隨ひて方便をもつて度す。

善く分別して諸法の相を知り、明かに世界の先後際に達し、善く俗諦と第一義とを解り、方便を具足して餘り有ること無し。

善能く法王の處に了達し、法王の威儀法に隨順し、善く法王の位に安入することを知り、善く法王界を分別することを知る。◎

（三八）第十灌頂の眞の佛子は、方便をもつて善く一切の法を持し、如法に隨順して深義に入り、悉く能く究竟じて分別して説く。

悉く衆生を度して餘り有ること無く、而も衆生に於て相を取らず、寂然不動にして正念を學び、

【三七】次の三頌は第九住。
【三八】次の八頌は第十住。

悉く十方の諸佛の前に在り。
灌頂の菩薩、眞の佛子は、悉く能く諸の勝法を究竟し、十方の無量なる諸の世界を、悉く能く震動して光普く照し。
能く十方の諸の世界を持し、一切衆生の心を嚴淨し、悉く一切衆生の根を知り、梵音聲を演べて十方に滿ち、
諸の群生を調伏し化度して、悉く菩提心を修習せしめ、普く十方の諸佛の國に入りて、法界を觀察して餘り有ること無し。

【三九】後の九頌は結歎して修を勸む。

灌頂の色身及び身業は、神足自在にして不思議なり、三世の佛國を觀察する智は、乃至王子も測らざる所なり。
三世の諸佛及び佛法を、分別し了知して障礙無く、法界は無量にして變有ること無し。
諸佛聲聞悉く充滿し、
一切諸の世界を盡して、皆悉く能く光を持して普く照し、一切群生の類を盡して、爲めに究竟の正覺智を說く。

（三九）是の如く、十住の諸の菩薩は、悉く如來の法化より生じ、其の方便及び境界に隨ひ、一切の天

人能く知ること莫し。
初め無上の菩提心を發し、十方に充滿して悉く餘すこと無く、三世の諸法の相に了達して、一切智を具足し成就す。
無邊の佛刹及び世間、無量無數の衆生の類、煩惱、業報、菩提の心、是の如きの一切に所著無し。
初め佛道を求めて發す一心すら、世間の衆生及び二乘、斯等の一切能く知ること莫し、何に況んや菩薩の餘の功德をや。
十方一切の諸の世界を、能く一毛を以て悉く稱擧せば、彼菩薩の具足せる行を知り、疾く如來の一切智を得ん。
十方一切の大海の水を、能く一毛を以て滴み盡さしめ、一念の中に於て悉く數を知る、是の如く行ずる者は眞の佛子なり。
一切の世界を末して塵と爲し、悉く能く分別して其の數を知る、菩薩の所行は微塵に等し、是れ則ち名けて眞の佛子と爲す。
過去未來現在の佛も、一切の緣覺及び聲聞も、分別し解說して、發心の菩薩の諸の功德を盡すこと能はず。

菩薩の初發の菩提心は、廣大無邊にして邊有ること無く、大慈大悲をもつて一切を覆ふ、何に況んや菩薩の餘の功德をや。』

梵行品第十二

(一)爾の時に正念天子、法慧菩薩に白して言さく、

『佛子よ、一切世界の中の諸の菩薩摩訶薩は、家の家に非らざることを信じて、出家學道し、俗飾を捨離して、法衣を被服せり。彼の諸の菩薩は、(二)云何んが方便をもつて梵行を修習し、菩薩の十住道地を具足して、速かに無上平等の菩提を成ずるや。』

(三)爾の時に法慧菩薩、正念天子に答へて言はく、

『(四)正士よ、此の菩薩摩訶薩は、一向に專ら無上菩提を求むるに、先づ當に十種の法を分別すべし。何等をか十と爲す。所謂る、身、身業、口、口業、意、意業、佛、法、僧、戒なり。應に是の如く觀ずべし。身を是れ梵行と爲すや、乃至戒を是れ梵行となすや。若し身是れ梵行ならば、當に知るべし、梵行は則ち清淨にあらず。當に知るべし、梵行は則ち爲非法なり。當に知るべし、梵行は則ち爲渾濁なり。當に知るべし、梵行は則ち爲臭惡なり。當に知るべし、梵行は則ち爲穢汚なり。當に知るべし、梵行は則ち爲塵垢なり。當に知るべし、梵行は則ち爲諂曲なり。當に知るべし、梵行は

【一】第一、問。
【二】問に三意あり、一には梵行を修すること、二には位を成ずること、三には果を得ることを問ふ。
【三】第二、答。中に於て三段あり、前問に答ふ。
【四】初に初問に答へて觀法の相を明かす。

則ち爲(五)八萬戸の蟲なり。若し身業是れ梵行ならば、當に知るべし、身の四威儀は、則ち爲梵行なり。左右に顧眄し、足を擧げ足を下すも、則ち爲梵行なり。若し口是れ梵行ならば、當に知るべし、音聲は則ち爲梵行なり。當に知るべし、語言は則ち爲梵行なり。當に知るべし、(六)觸心は則ち爲梵行なり。當に知るべし、舌動けば則ち爲梵行なり。當に知るべし、唇齒和合すれば則ち爲梵行なり。若し口業是れ梵行ならば、當に知るべし、語言は則ち爲梵行なり。當に知るべし、說く所の作、無作、稱讃毀譽は則ち爲梵行なり。若し意是れ梵行ならば、當に知るべし、(七)覺觀、憶念、不忘、思惟、(八)幻夢等は悉く爲梵行なり。若し意業是れ梵行ならば、當に知るべし、想は是れ梵行なり。(九)施設は是れ梵行なり。(一〇)寒熱、饑渴、(一一)苦樂、憂喜等は悉く是れ梵行なり。若し佛是れ梵行ならば、色を是れ佛と爲すや。受想行識を是れ佛と爲すや。三十二相、八十種好を是れ佛と爲すや。一切の神通業報を是れ佛と爲すや。若し法是れ梵行ならば、正教を是れ法と爲すや。寂滅離涅槃を是れ法と爲すや。生非生を是れ法と爲すや。實非實を是れ法と爲すや。虛妄を是れ法と爲すや。(一二)合散を是れ法と爲すや。

【五】八萬戸の蟲　身中に八萬戸あり戸毎に九億の蟲あり蟲あひ集りて此の身を成すが故にかくいふなり

【六】觸心　觸の心所にして、境を縁じて言語を起さしむるをいふ、即ち增語觸なり。

【七】覺觀　新譯には尋伺といふ、覺は尋求、觀は伺察の義、不定の心所の中の二なり。

【八】幻夢等　諸識中の意識作用なるをいふ

【九】施設　造作するの義にして思の心所の作用なり。

【一〇】寒熱等　觸の心所なり。

【一一】苦樂等　受の心所なり。

【一二】合散　成敗の義なり

若し僧是れ梵行ならば、(一三)須陀洹果に向ふを是れ僧と爲すや。須陀洹果を得るを是れ僧と爲すや。(一四)斯陀含、(一五)阿那含、阿羅漢果に向ふを是れ僧と爲すや。斯陀含、阿那含、(一六)阿羅漢果を得るを是れ僧と爲すや。(一七)三明六通を是れ僧と爲すや。(一八)時解脱を是れ僧と爲すや。(一九)非時解脱を是れ僧と爲すや。若し戒是れ梵行ならば、戒場を是れ戒と爲すや。十衆を是れ戒と爲すや。清淨と不清淨とを問ふを是れ戒と爲すや。戒師を是れ戒と爲すや。(二〇)三羯磨和尚を是れ戒と爲すや。薙髮、法服、乞食を是れ戒と爲すや。菩薩摩訶薩は、當に是の如く十種の法を觀察すべし。

又過去に所至無く、未來に所有無く、現在に作者無く、知者無く、報を受くる者無く、此の世彼の世に至らず、彼の世此の世に至らずと知らば、何等の法をか是れ梵行と爲すや。梵行の法は是何の處にか在る、誰か此の梵行の法を有する。此の梵行の法は是れ有と爲すや、是れ無と爲すや。是れ色法と爲すや。非色の法と爲すや。是れ受想行識の法と爲すや、非受想行識の法と爲すや。菩薩摩訶薩は正念して障礙無く、三世の法を分別する

【一三】 須陀洹(Srotāpanna)預流又は入流と譯す、三界の見惑を斷じ盡して初めて聖者の流類に入れる位をいふ。

【一四】 斯陀含(Sakrdāgāmi)。一來と譯す、欲界の修惑の中上の六品を斷じたる聖者にして餘の下三品の惑は尚ほ人天に各一生を感生して、然る後に涅槃に入る故に、一度人天に往來するの意なるも略して一來といふ。

【一五】 阿那含(Anāgāmi)。不還又は不來と譯す、欲界の修惑九品を斷じ盡したる聖者にして再び欲界に生を受くることなきが故に此の名あり。

【一六】 阿羅漢(Arhan)。無生、應供、殺賊等と譯す、三界の見思の惑を斷じ盡したる無學果をいふ。

に平等なること、猶ほ虚空の如く、二相有ること無しと觀察す、是の如く觀ずるものは、智慧方便罣礙する所無し。一切の法に於て、相を取らず、一切の諸法は自性無きが故なり。一切の佛及び諸佛の法に於て、平等に觀察するに猶ほ虚空の如し。是を菩薩摩訶薩、方便をもつて淸淨の梵行を修習すと名く。

〔二一〕又復た增上の十方を修習す。何等をか十と爲す。所謂る、是處非處の智、去來現在の諸の業報の智、一切諸禪の三昧正受、解脫垢淨起の智、衆生の諸根の智、諸の樂欲に隨ふ智、種種の性の智、一切處に至る道の智、障礙無き宿命の智、障礙無き天眼の智、習氣を斷ずる智なり。是を十と爲す。是の如く、如來の十力の甚深にして無量なることを觀察すれば、大慈悲心を具足し長養して、悉く衆生を分別して、而も衆生を捨てず、亦寂滅をも捨てず、無上の業を行して、果報を求めず。一切の法は幻の如く、夢の如く、電の如く、響の如く、化の如しと觀ず。

〔二二〕菩薩摩訶薩是の如く觀ずれば、少しの方便を以て、疾く一切諸佛の功德を得ん。常に樂ひて無

【一七】三明六通。三明とは、宿住智證明と死生智證明と漏盡智證明となり、六通とは、六神通のこと。

【一八】時解脫。鈍根の者の時を待ちて入定解脫するをいふ。

【一九】非時解脫。利根の者の、時を待たず自在に入定して解脫に至るをいふ。

【二〇】三羯磨和尙。受戒の時の三師、即ち、戒和尙、羯磨師、教授師なり、羯磨師（Karma-cārya）は、受戒の作法等を指導す。

【二一】次に第二問に答へ、進んで梵行を修する事を明かす。

【二二】次に第三問に答へ、得果を明かす。

二の法相を觀察すれば、斯れ是の處有るなり。初發心の時に、便ち正覺を成ず、一切法の眞實の性を知り、慧身を具足し、他に由りて悟らざればなり。」

卷の第九

初發心菩薩功德品第十三

(一)爾の時に天帝釋、法慧菩薩に白して言さく、

『佛子よ、初發心の菩薩は、爲めて幾くの功德藏を成就したまふや。』

法慧答へて言はく、

(二)『佛子よ、是の處甚深にして、知り難く、信じ難く、解り難く、說き難く、通じ難く、分別し難し。然りと雖も、我當に佛の神力を承けて、具足し演說すべし。

(三)佛子よ、假使人有りて、東方阿僧祇の世界の衆生に、一切の樂具を供養して、乃し一劫に至り、然る後に敎へて、(四)五戒を淨修せしめん、南西北方、四維上下も、亦復た是の如くならんに。佛子よ、意に於て云何ん。彼の人の功德は寧ろ多しと爲すや、不や。』

帝釋言はく、

【一】第一、正說。
【二】以下、校量して功德の殊勝なることを顯はし淨信を生ぜしむ。
【三】初に衆生を利樂する喩。
【四】五戒。在家の人の持つべき戒法にして、不殺生、不偸盜、不邪婬、不妄語、不飮酒の五戒なり。

『佛子よ、諸の如來を除かば、其の餘の一切は、彼の人の功德を稱量すること能はじ。』

法慧菩薩、帝釋に語りて言はく、

「佛子よ、初發心の菩薩の、功德の藏を百分して、彼の人の功德は其の一にも及ばず。千分、百千分、億分、百億分、千億分、百千億分、百那由他分、千那由他分、百千那由他分、億那由他分、百億那由他分、千億那由他分、百千億那由他分、乃至數ふ可からず、譬喩す可からず、說く可からざる分にして、彼の人の功德は其の一にも及ばず。

佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、十方の各十阿僧祇の世界の衆生に、一切の樂具を供養し、乃し百劫に至り、然る後に敎へて(五)十善を淨修せしめん、十善を敎へ已りて、又復た一切の樂具を供養して、乃し千劫に至り、然る後に敎へて(六)四禪を淨修せしめん、四禪を敎へ已りて、又復た一切の樂具を供養して、百千劫に至り、然る後に敎へて(七)四無量心を行ぜしめん。又復た一切の樂具を供養して、乃し億劫に至り、然る後に敎へて、(八)四無色定を行ぜしめん。又復た一切の樂具を供養して、百億劫に至り、然る後に敎へて、須陀洹果を得しめん。又復た一切の樂具を供養し

【五】十善。十惡の反對にして身に三、口に四、意に四あり、即ち不殺生、不偸盜、不邪婬、不妄語、不兩舌、不惡口、不綺語、不貪欲、不瞋恚、不邪見これなり。

【六】四禪。色界四天の所依の定なり。

【七】四無量。慈悲喜捨の四心をいふ。

【八】四無色定。無色界四天の所依の定なり。

て、千億劫に至り、然る後に敎へて、斯陀含果を得しめん。又復た一切の樂具を供養して、百千億劫に至り、然る後に敎へて、阿那含果を得しめん。又復た一切の樂具を供養して、億那由他劫に至り、然る後に敎へて、阿羅漢果を得しめん。又復た一切の樂具を供養して、千億那由他劫に至り。然る後に敎へて盡く緣覺を成ぜしめんに。佛子よ、意に於て云何ん。彼の人の功德は寧ろ多しと爲すや、不や。』

帝釋白して言さく、

『佛子よ、彼の人の功德は、唯諸佛を除きて、其の餘の一切は悉く知ること能はじ。』

法慧の言はく、

『佛子よ、初發心の菩薩の功德の藏の、百分千分、乃至數ふ可からず、譬喩す可らず、說く可からざる分にして、彼の人の功德は其の一にも及ばず。何を以ての故に。佛子よ、一切の諸佛は、初發心の時に、十方の各十阿僧祇の世界の衆生に一切の樂具を供養して、百劫、乃至千億那由他劫ならんが爲めの故に、世に出興したまはず。亦爾所の衆生を敎へて五戒、十善、四禪、四無量心、四無色定、須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果、辟支佛の道を淨修せしめんが爲めの故に、世に出興したまはず。佛種を斷ぜざらしめんと欲するが故に、菩提心を發し。十方一切の世界に充滿せんと欲するが故

に、菩提心を發し。悉く一切の衆生を度脫せんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く一切世界の成壞を知らんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く一切世界の中の衆生の、垢淨を起すことを知らんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く一切世界の自性淸淨なることを知らんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く一切群生の虛妄、煩惱、習氣を知らんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く一切衆生の、此に死し彼に生ずることを知らんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く一切衆生の諸根の方便を知らんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く一切衆生の心心の所念を知らんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く三世の一切衆生を分別せんと欲するが故に、菩提心を發し。悉く一切諸佛の平等の境界を知らんと欲するが故に、菩提心を發せり。

【九】速疾に刹土を歩する喩。

(九)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の頃に於て、能く東方の無量世界を過ぎんに、彼の人此の自在の神力を以て、此より東に行き、無量無數の阿僧祇劫を盡すも、猶ほ世界の邊際を得ること能はず。又第二の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、無量無數の阿僧祇劫に、行きし所の世界を過ぎんに。此の第二の人、此より東に行きて、無量無邊の阿僧祇劫を盡すも、猶ほ世界の邊際を得ること能はず。又第三の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、

無量無數の阿僧祇劫に行きし所の世界を過ぎん。又第四の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、無量無數の阿僧祇劫に、行きし所の世界を過ぎん。又第五の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、無量無數の阿僧祇劫に、行きし所の世界を過ぎん。又第六の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、無量無數の阿僧祇劫に、行きし所の世界を過ぎん。又第七の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、無量無數の阿僧祇劫に、行きし所の世界を過ぎん。又第八の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、無量無數の阿僧祇劫に、行きし所の世界を過ぎん。又第九の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、無量無數の阿僧祇劫に、行きし所の世界を過ぎん。又第十の人、神力自在にして、一念の頃に於て、能く前の人の、無量無數の阿僧祇劫に、行きし所の世界を過ぎん。彼の第十の人は、此の最勝なる自在神力を以て、此より東に行き、無量無數の阿僧祇劫を盡すも、猶ほ世界の邊際を得ず。十方の世界も亦復た是の如し。是の如く展轉して、乃し百人に至る、其の人此の最勝なる自在力を以て、無量無數の阿僧祇劫に於て、至る所の十方は尙ほ了知して其の邊際を得可くとも、初發心の菩薩の功德の藏は知ることを得可からず。何を以ての故に。初發心の菩薩は、齊限して爾所の世界の衆生の爲めの故に、菩提心を發さず。悉く十方の一切世界の衆生の爲めの故に、一切衆生を度せんと欲するが故に、分別して一

切の世界を知らんと欲するが故に、菩提心を發し。微細の世界は即ち是れ大なる世界と知り、大なる世界は即ち是れ微細の世界なりと知り、少しの世界は即ち是れ多くの世界なりと知り、多くの世界は即ち是れ少しの世界なりと知り、廣き世界は即ち是れ狹き世界なりと知り、狹き世界は即ち是れ廣き世界なりと知り、一の世界は即ち是れ無量無邊の世界なりと知り、無量無邊の世界は即ち是れ一の世界なりと知り、無量無邊の世界は一の世界に入ることを知り、一の世界は無量無邊の世界に入ることを知り、穢れたる世界は即ち是れ淨き世界なりと知り、淨き世界は即ち是れ穢れたる世界なりと知り、一毛孔の中に於て悉く分別して一切の世界を知り、一切の世界の中に於て悉く分別して一毛孔の性を知り、一の世界より一切の世界を出生することを知り、一切の世界は猶ほ虚空の如しと知らんと欲し、一念に於て一切の世界を知り、悉く餘り有ること無からんと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。

【一〇】劫の成壞を算知する喩。

〔一〇〕佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、東方無量無邊の阿僧祇の世界に於て、一念の中に於て、悉く分別して成敗の數を知らんに、此の人精勤し方便をもつて、念念に次第して無量無數の阿僧祇劫に於て、盡く東方世界の成敗の數を算知せんと欲するも、猶ほ知ること能はず。又第二の人、第一の人の無量無數の阿僧祇劫に、算せし所の世界の成敗の數に於て、一念の中に於て、悉く能く了知

せんに、此の人精勤し方便をもつて、念念に次第して、無量無邊の阿僧祇劫に於ても、猶ほ盡く東方世界の成敗の數を知ること能はず。是の如く展轉して、乃し第十に至る。彼の第十の人、第九の人の無量無邊の阿僧祇劫に算せし所の世界の成敗の數に於て、一念の中に於て、悉く能く了知せんに、此の人精勤し方便をもつて、念念に次第して、無量無邊の阿僧祇劫に於ても、猶ほ盡く東方世界の成敗の數を知ること能はず。乃至十方も亦復た是の如し。十方の無量無邊の世界の成敗の數は、尚ほ了知す可くとも、初發心の菩薩の功德の藏は、知ることを得可からず。何を以ての故に。初發心の菩薩摩訶薩は、齊限して爾所の世界の劫數成敗を知らんが爲めの故に、菩提心を發さず。菩薩摩訶薩は悉く一切世界の、劫數成敗を了知せんと欲するが故に、菩提心を發し。長劫は即ち是れ短劫なり、短劫は即ち是れ長劫なりと知り。一劫は即ち是れ數ふ可からざる阿僧祇劫にして、數ふ可からざる阿僧祇劫は即ち是れ一劫なりと知り、一切の有佛の劫を知り。一切の無佛の劫を知り、一佛の劫の中に無量の佛有すことを知り、無量佛の劫の中に一佛有すことを知り、異劫の中に無異の劫有ることを知り、無異の劫の中に異劫有ることを知り、有盡の劫は是れ無盡の劫なりと知り、無盡の劫は是れ有盡の劫なりと知り、無量劫は即ち是れ一念なりと知り、一念は即ち是れ無量劫なりと知り。一切の劫は無劫に入ることを知り、無劫は一切の劫に入ることを知らんと欲し。悉く過去未來際、及び現在の一切世界

の劫數成敗を了知せんと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。是を菩薩の初の大誓莊嚴と名く。所謂る、悉く一切の劫を知る智慧照明なり。

(二)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の中に於て、悉く無量無數の阿僧祇世界の、衆生の種種の欲樂を知らんに、此の人精勤し方便をもつて、念念に次第して無量無數の阿僧祇劫に於ても、盡く東方の一切世界の、衆生の種種の欲樂を知ること能はず。是の如く展轉して、第十人に至る。此の第十の人、第九の人の無量無數の阿僧祇劫に於て、精勤し方便をもつて知りし所の、衆生の種種の欲樂に於て、悉く能く了知せんに、此の人是の如く精勤し方便をもつて、念念に次第して、無量無數の阿僧祇劫にも、猶ほ悉く東方一切世界の、衆生の種種の欲樂を知ること能はず、乃至十方も亦復た是の如し。是の如くして、十方の無量無邊の阿僧祇劫の世界の、衆生の種種の欲樂は、尚ほ了知す可くとも、初發心の菩薩の功德藏は、知ることを得可からず。◎何を以ての故に。佛子よ、初發心の菩薩は、齊限して爾所の世界の衆生の種種の欲樂を知らんと欲するが爲めの故に、菩提心を發さず。悉く十方の一切世界の、衆生の種種の欲樂を知らんと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。◎　(三)種種無量の欲樂は、卽ち是れ一欲にして、而も一切の欲生を壞せざることを知ら

【二】衆生の欲樂を知る喩。
【三】以下別して明かす中に於て初め法に約して異相を明かす。

んと欲し。悉く一切衆生の欲樂海を知らんと欲し。一りの衆生の欲は、卽ち是れ一切の衆生の欲なりと知らんと欲し。悉く(一三)相似の欲と不相似の欲とを知らんと欲し。(一四)一切の欲は卽ち是れ(一五)一欲にして、一欲は卽ち是れ一切の欲なりと知らんと欲し。如來の種種なる欲樂の力を具足することを得んと欲し。(一六)有上の欲と、無上の欲、有餘の欲と(一七)無餘の欲、(一八)等欲と不等の欲、有所依の欲と無所依の欲、共欲と不共の欲、(一九)有邊の欲と無邊の欲、善欲と不善の欲、世間の欲と出世間の欲、大智の欲、淨の欲、勝の欲、無礙智の欲、無礙智佛の解脫の欲、淸淨の欲、不淸淨の欲、廣欲、狹欲、細欲、麤欲を知らんと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。◎(二〇)悉く一切衆生の、一一の衆生に十種の欲有ることを知らんと欲す。所謂る、苦に因りて生ずる欲、方便の欲、悕望の欲、味に著する欲、(二一)因に隨ひて生ずる欲(二二)緣に隨ひて生ずる欲、(二三)盡欲、一切の欲なり。初發心の菩薩摩訶薩は、悉く此の諸の欲網を分別し了知せんと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。

【一三】相似。流類の同じきをいふ。
【一四】一切欲。三乘の欲樂の差別するをいふ。
【一五】一欲。一佛乘の欲をいふ。
【一六】有上欲。三乘等を求むるをいふ。
【一七】無餘欲。求むる處を究竟して至極に到るをいふ。
【一八】等欲。不等欲は理事相對なり、平等の理を求むるは等欲、差別の事を求むるは不等欲なり。
【一九】有邊、無邊。欲樂の因位に在るを有邊といひ、果位に在るを無邊といふ。
【二〇】次は人に約して欲の同相を辯す。
【二一】因。宿因のこと。
【二二】緣。外境のこと。

(二四)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の中に於て、悉く無量無邊の阿僧祇世界の、衆生の種種の諸根を知らんに、此の智慧を以て、精勤し方便をもつて、念念に次第して、無量無數の阿僧祇劫に於ても、盡く東方一切世界の衆生の種種の諸根を知ること能はず。廣く說く、乃至悉く一切衆生の、一一の衆生に十種の根有ることを知らん。

(二五)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の中に於て悉く東方無量無邊の阿僧祇世界の、衆生の種種の希望を知り。廣く說く、乃至悉く一切衆生の一一に皆十種の悕望有ることを知らん。

(二六)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の中に於て、無量無邊の阿僧祇世界の、衆生の種種の方便を知り。廣く說く、乃至、悉く一切衆生の一一に皆十種の方便有ることを知らん。

(二七)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の中に於て、悉く無量無邊の阿僧祇世界の、衆生の念念の心意を知り。廣く說く、乃至悉く一切衆生の、一一に皆十種の心有ることを知らん。

(二八)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の中に於て、悉く無量無邊の阿僧祇世界の、衆生の種種の諸業を知り。廣く說く、乃至悉く一切衆生の、一一に皆十種の業有ることを知らん。

【二三】盡欲　法として求めざること無きをいふ、又は涅槃の滅盡を求むる欲なりともいふ。
【二四】諸根を知る喩。
【二五】希望を知る喩。
【二六】方便を知る喩。
【二七】他の心意を知る喩。
【二八】業相を知る喩。

(二九)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の中に於て、悉く東方無量無邊の阿僧祇世界の、衆生の種種の煩惱を知らんに、此の人精勤し方便をもつて、念念に次第して、無量無數の阿僧祇劫に於ても、猶ほ東方の一切衆生の種種の煩惱を知ること能はず。是の如く展轉して、乃し第十に至る。此の第十の人、第九の人の無量無數の阿僧祇劫に、知りし所の衆生の種種の煩惱に於て、一念の中に於て、悉く分別して知らんに。此の人精勤し方便をもつて、念念に次第して、無量無數の阿僧祇劫に於ても、猶ほ盡く一切衆生の種種の煩惱を知ること能はず。乃至十方も亦復た是の如し。爾所の世界の、一切衆生の種種の煩惱は、尚知ることを得可くとも、初發心の菩薩の功德の藏は知ることを得る能はず。佛子よ、初發心の菩薩は齊限して爾所の世界の、衆生の種種の煩惱を知らんと欲するが爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發さず。悉く分別して一切衆生の種種の煩惱を了知せんと欲するが故に、菩提心を發せり。所謂る、悉く輕煩惱、重煩惱、(三〇)結使の煩惱、(三一)纏の煩惱、一一の衆生の無量の煩惱、一切衆生の種種なる(三二)覺觀の煩惱、無明に依る煩惱、愛相應の煩惱、貪欲不善根の煩惱、瞋恚不善根の煩惱、愚癡不善根の煩惱、(三三)等分の煩惱、一切の煩惱、根本の煩惱、我我所の煩惱、我慢の煩惱、邪憶念虛

(二九)煩惱を知る喩。
(三〇)使。即ち五見と疑、貪、瞋、癡、慢との十使なり。
(三一)纏。無慚、無愧、睡、悔、慳、嫉、掉、惛、忿、覆の十種あり。
(三二)覺觀。煩惱の因をいふ、欲、瞋、害の如し。
(三三)等分。上の貪瞋癡の三不善根の等分なるをいふ。

妄より生ずる煩惱、身見に依りて生ずる六十二見等の諸の煩惱、(三四)蓋煩惱、(三五)障礙煩惱を知らんと欲し。悉く一切衆生の煩惱惑網を知了し、大慈大悲と一切種智とを具足せんと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。

(三六)佛子よ、復た此の喩を置かん。假使人有りて、一念の中に於て、悉く東方無量無邊の世界の現在の諸佛、及び彼の一切衆生を見ん、此の人悉く能く恭敬し、禮拜し、尊重讚歎し、一心に觀察して種種に無量なる上味の餚饍、飲食、香華、瓔珞、繒綵、幢蓋、上妙の宮殿、帳幔を嚴飾し、寶網を羅覆し、衆寶をもつて莊嚴せる師子の座を供養せん。此の人精勤し方便をもつて念念に次第して、是の如き等の、衆の妙供具を以て、無量無數の阿僧祇劫に諸佛を供養したてまつらん。又復た勸めて彼の諸の衆生をして、是の如き等の衆の妙供具を以て、無量無數の阿僧祇劫に於て、諸佛を供養せしめん。彼の諸の如來、般涅槃し已らば、復た一一の諸の如來の爲めの故に、無量の寶を以て塔を起して供養せん。其の塔の高廣なるは、一一に無量無邊の世界に周滿し、又上妙の衆寶を以て之を莊嚴せん。一一の塔の中に無量無數の如來の形像有り、彼の諸の形像の光明は、普く無量無邊の諸佛の世界を照さん。又復た彼の一一の衆生を勸めて、諸

【三四】蓋。貪、瞋、睡眠、掉悔、疑を五蓋といふ、行者を覆蓋して禪智を得ざらしむるが故に蓋といふ。

【三五】障礙。煩惱、所知の二障なり、涅槃と菩提とを障ふるが故に障といふ。

【三六】佛を供養する功德の喩。

の如來の爲めに、衆寶の塔を起さしめ、嚴好なること前の如くせん。十方の世界も亦復た是の如くならん。佛子よ、意に於て云何ん。彼の人の功德は寧ろ多しと爲すや、不や。』

帝釋答へて言はく、

『彼の人の功德は、唯佛のみ乃ち知りたまひ、餘は能く及ぶこと無し。』

法慧答へて言はく、

『佛子よ、初發心の菩薩摩訶薩の功德の藏の百分、千分、乃至數ふ可からず、譬喩す可からず、說く可からざる分に、彼の人の功德は其の一にも及ばず。佛子よ、假使人有りて、第一の人、及び勸めし所の衆生、精勤し方便をもつて、念念に次第して、無量無數の阿僧祇劫に、作せし所の功德の諸の供養具に於て、一念の中に於て、皆悉く能く辨ぜん。此の人是の如く精勤し方便をもつて、念念に次第して、無量無數の阿僧祇劫に於て供養せし功德は、廣く說かば前の如し。是の如く展轉して、乃し第十の人に至る。廣く說かば亦復た前の如し。初發心の菩薩摩訶薩の功德の藏の百分、千分、乃至數ふ可からず、譬喩す可からず、說く可からざる分に、彼の人の功德は其の一にも及ばず。何を以ての故に。佛子よ、彼の菩薩は齊限して爾所の如來を供養せんが爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發さず。悉く十方の法界虛空界に等しき世界の中の、三世の諸佛を供養せんと欲するが故に、阿耨多羅三藐

三菩提の心を發せり。

〔三七〕是の心を發し已りて、盡過去際の諸佛の無障礙智を知ることを得、盡未來際の諸佛の功德を信ずることを得、盡現在際の一切諸佛の說きたまふ所の智慧を知ることを得、彼の三世一切の諸佛の功德を此の菩薩摩訶薩は、悉く皆信向し、受持し、修習し、得證し、身證して、悉く諸佛の一切の功德に等し。何を以ての故に。〔三八〕初發心の菩薩摩訶薩は、一切諸佛の性を斷ぜざらんと欲するが故に、菩提心を發す。慈悲心をもつて一切世界の衆生に充滿して、悉く餘すこと無からしめんと欲するが故に。悉く一切世界の衆生を度脫せんと欲するが故に。悉く一切世界の成敗を知らんと欲するが故に。悉く一切世界の衆生の垢淨の起ることを知らんと欲するが故に。三有の衆生をして、悉く淸淨を得しめんと欲するが故に。悉く一切衆生の心念、煩惱の習を知らんと欲するが故に。悉く一切衆生の此に死し彼に生ずることを知らんと欲するが故に。悉く一切衆生の諸根の方便を知らんと欲するが故に。悉く一切衆生の心心の行を知らんと欲するが故に　悉く一切三世の衆生を知らんと欲するが故に。悉く三世の諸佛の具足せる功德を知らんと欲するが故に。悉く三世の諸佛の無上菩提を知らんと欲するが故に。悉く三世の諸佛の具足せる淨法を知らんと欲するが故に。悉く三世の諸佛の法の平

〔三七〕以下は攝德の深勝なることを明かす。
〔三八〕初に因の等しきことを明かす。中に二十句あり、初の十一句は悲德後の九句は智德、

等相を知らんと欲するが故に。悉く三世の諸佛の無上なる智慧の因緣の淸淨なることを知らんと欲するが故に。悉く三世の諸佛の智慧力を長養することを知らんと欲するが故に。悉く三世の諸佛の無畏法を具足せんと欲するが故に。悉く三世の諸佛の不共の法を具足し莊嚴せんと欲するが故に。悉く法界に等しき無量無邊の三世の諸佛の平等の智慧を得んと欲するが故に、阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。何を以ての故に。(三九)此の初發心の菩薩は、即ち是れ佛なるが故なり。悉く三世の諸の如來と等しく、亦三世の佛の境界と等しく、悉く三世の佛の正法と等しく、如來の一心と、無量の心と、三世の諸佛の平等なる智慧とを得たり。所化の衆生も皆悉く同等なり。悉く能く一切の世界を震動し、悉く能く普く一切の世界を照し、悉く能く一切世界の諸の惡道の苦を休息し、悉く能く一切の世界を嚴淨し、悉く能く一切の世界に於て成佛を示現し、悉く能く一切の衆生をして皆歡喜を得しめ、悉く一切衆生をして深法界を解らしめ、悉く能く諸佛の種性を護持し、悉く諸佛の智慧光明を得たり。

(四〇)彼の初發心の菩薩摩訶薩は、常に三世の諸佛、及び諸佛の法、一切の菩薩、緣覺、聲聞、及び所行の法、世間出世間の法、衆生及び衆生の法を遠離せず。專ら菩提を求めて智慧無礙なり。』

(四一)爾の時に佛の神力の故に、初發心の菩薩の功德藏を說く力の故に、十方の各萬の佛刹塵數の世

【三九】次に果の等しきことを明かす。
【四〇】因の分齊を結す。
【四一】第二、顯實證成を明かす。

界は、六種に震動し、衆の天華、天香、天の末香、天の鬘、天の寶、天の莊嚴具を雨らし、自然に微妙の樂音を演出せり。又復た師子の音を震吼し、大光明を放ちて普く十方を照せり。爾の時に十方の各十佛刹塵數の世界を過ぎて、萬の佛刹塵數の諸佛有し、悉く法慧と號けたてまつり、各其の身を現じたまひて、法慧菩薩に示し、之に告げて言はく、

『善い哉善い哉、佛子よ、善く初發心の菩薩の功德の藏を說けり。我等萬の佛刹塵數の如來も、亦悉く發心の菩薩の功德藏を演說す。十方世界の一切の諸佛も、亦復た是の如し。法慧菩薩是の發心の菩薩の功德藏を說きし時に、萬の佛世界塵數の衆生、皆初發心の菩薩の功德の藏を得て、阿耨多羅三藐三菩提の心を發せり。我等今者悉く彼に記を授く、未來世に於て、各十方に於て、一時に成佛し、同じく淨心如來應供等正覺と號けん。我等は悉く當に此の法を護持すべし。普く未來の諸の菩薩の爲めの故なり。』

【四二】　第三、結通。

【四三】此の娑婆世界の、四天下の、閻浮提の菩提樹下の、須彌山の頂の、妙勝殿上に、此の法を敷演して、衆生を敎化せるが如く、十方世界の、千億那由他の、量る可からず、數ふ可からず、思議す可からず、邊際有ること無く、說く可からざる法界虛空界に等しき、諸の世界の中にも、亦是の法を說きて、衆生を敎化し、彼の法を說く者を悉く法慧と名く。佛の神力の故に、佛の本願力の故に、佛法を

顯示する故に、智慧の光明普く照すが故に、第一義を解るが故に、法是の如くなるが故に、諸の菩薩歡喜するが故に、諸佛の功德を讃歎するが故に、悉く諸佛の平等なることを知るが故に、法界に二有ること無きを解るが故なり。

【四三】爾の時に法慧菩薩、普く十方を觀じ、普く一切の大衆を觀じ、虛空界を觀じ、衆生界を成就し業報に違はずして、清淨なること虛空界の如きを觀じ、三有の垢穢の衆生を拔かんと欲し、衆生をして廣く解脫を得しめんと欲し、種種の諸根を知り、等しく三世を觀じて正しく涅槃に趣き、及び自身の甚深にして清淨なる諸の功德を現せんと欲するが故に、佛の神力を承けて、偈を以て頌して曰はく、

【四四】大慈大悲の心は、十方界に充滿して、諸佛の刹と、佛の法と及び三世とを分別し、
佛の功德と、菩薩の法藏海とを具へ、衆生を饒益せんと欲するが故に、初め菩提心を發す。
悉く分別して、虛空に等しき法界と、一切群生の類と、諸佛及び佛法とを知らんと欲し、
一切の佛の、諸道至處の力を得て、不退轉を成就し、諸の群生を饒益せんと欲し、

【四三】次に、偈頌を以て總攝す。

【四四】頌に二百四十一偈半あり分ちて四段となす、初の一百六十三頌半は逆に前の正說の最後の攝德の文を頌す、中に於て長く分ちて二十七段となす。

一切衆生の中に、常に大慈悲を起し、瞋恚の念を遠離して、饒益の心を修習し、
慈光十方を照して、衆の爲めに歸依と作り、諸佛悉く護念したまひ、功德は思議し難し。
悉く分別して、一切諸佛の刹と、如來の妙法身の、甚深にして思議し難きと、
無量の功德藏の、智慧甚だ深廣なるとを知らんと欲し、是に因りて初め發心して、專ら佛の菩提を求む。
悉く分別して、一切衆生の類を知り、十方世界の中に、智慧障礙無く、
麤細の諸の世界と、或は狹廣の無量なると、一切の中に一を知り、一の中に一切を知らんと欲して、
菩薩は彼の行に於て、精勤して放逸ならず、苦樂に厭著無し、衆生を度せんと欲するが故なり。
一切の佛前に現じたまひ、樂觀して厭き足ること無く、悉く甚深の法、無量の功德海に入り、
五道の諸の群生は、之を愍むこと一子の如くにして、衆の垢穢を除き、淸淨の法を具足せしむ。
諸佛の種をして、究竟じて斷絕せざらしめんと欲し、一切の魔を降伏し、摧滅して餘り有ること無く、

平等に如來と、三世の諸法の相とを觀じ、甚深微妙の法を、常に修して放逸ならず。
菩薩は常に樂ひて、一切の佛の境界を觀ず、是の故に諸の如來は、甘露の慧をもつて灌頂したまふ。
信心沮む可からず、堅固なること金剛の如く、諸の如來の所に於て、恩を知りて恩を報ゆ。
最勝の境界は、無量なる智慧の光にして、自ら悟りて他に由らず、菩薩は初め發心す。
悉く能く分別して、五道の衆生の欲と、種種なる諸の業報と、一切の心の所行とを知り、
諸根の利鈍と、無量無數の性と、一切の勝れたる境界とを知らんとて、菩薩は初め發心す。
菩提心は無量にして、清淨の法界に等しく、著無く所依無く、無染なること虚空の如し。
佛の智慧を成就して、其の心に障礙無く、諦かに眞實際を了り、寂滅にして虚妄を離る。
衆生の心を了達して、衆生の想無く、方便をもつて法を分別し、究竟じて彼岸に到る。
無量無數の劫に、悉く能く分別して知り、諸佛の刹に往詣して、明かに甚深の法を解る。
若し能く分別して、無量なる諸佛の法を知らば、清淨の法界藏を、諦かに了りて疑惑無けん。
深く衆生の根を解りて、究竟じて彼岸に到り、平等に諸法を觀ずれば、則ち如來と等し。

清淨なる無量の心は、常に諸佛の前に在りて、恭敬し尊重して、人師子を供養したてまつる。親しく一切の佛を觀たてまつり、樂觀して厭き足ること無ければ、彼の諸の如來等は、此の菩薩を護念したまふ。

諸の深妙なる法に於て、分別して障礙無く、著無く所依無く、心淨きこと虚空の如し。彼人師子の、智慧海の深廣なることを知り、寂然として正受に入り、三世は無礙なりと觀じ、堅固にして沮む可からず、一切能く壞る莫く、專ら無上の道を念じて未だ曾て斷絶せしこと有らず。

闇を離れて明正に趣き、諸の善法を志學し、常に寂滅を樂觀して、眞實性を具足す。寂默たる語言の道は、平等にして異觀無く、法に於て分別せず、是れ則ち如より生ずるなり。悉く能く分別して、諸佛の深境界を知り、寂然として正受に入れば、〔三五〕三達して障礙無し。十方世界の中の、一切諸佛の刹は、菩薩の自在力にて、一念に悉く周徧す。無量にして數ふ可からざる、方便悉く具足して、普く十方界に遊ぶ、是を眞の佛子と名く。大悲の心を具足し、清涼にして渴愛を除き、大慈をもつて一切を念ひ、無礙なること虚空の如し。

【三五】三達。三世に明達すること。

彼の衆生の類に於て、衆生の想を生ぜず、悉く已に虚妄を離れ、清淨に十方に遊ぶ。
彼の諸の群生に於て、常に施すに無畏を以てし、此の如く眞實に行ずれば、是れ則ち如來に等し。
常に甚深の法を説き、清淨にして所著無し、是の故に十方の佛は、一切悉く護念したまふ。
過去未來世、無量無數の劫を、次第して悉く憶念し、具足し分別して知る。
菩薩は現在の、一切の十法界に於て、悉く能く普く周徧して、諸の群萌を濟度す。
深智をもつて正しく觀察し、明かに了りて障礙無く、悉く因緣の合へるものは、磨滅して堅固なること無しと知る。
一切衆生の類にして、諸の疑難有るものを、菩薩は悉く除滅して、法性の中に安住せしむ。
菩薩の無畏力は、一切の魔を降伏して、悉く能く衆生の爲めに、愚癡の闇を滅除す。
世界若くは成敗あるも、悉く皆分別して知る、若し能く是の如く觀せば、佛の境に疑惑無けん。
三世の法を觀察して、疑網永く已に除けば、一切如來の所にて、淨信壞す可からず。
信力安隱に住し、智慧の力成就す、智慧清淨なるが故に、決定して眞實を解る。
未來の際を盡して、衆生を饒益せんが故に、一切の衆をして、究竟じて解脱を得しめんと欲し、

際無き生死の中に、精勤して厭倦せず、一切の地獄の處にて、苦を受くるも衆生の爲めにす。
功德智慧の藏は、具足して皆成就し、悉く能善く、一切衆生の根を分別す。
又能く分別して、衆生の種種の業を知り、彼の業に從ひて對治せんとて、菩薩は爲めに法を說く。
大慈悲の心を以て、世間の行に隨順し、悉く一切の法に於て、空無我に解達し、一一の音聲の中に、無量の敎を演說す。
菩薩は大光を放ち、種種微妙なる色をもつて、悉く十方界を照し、一切の闇を除滅す。
一一の光明の端に、淸淨なる寶華の座あり、菩薩悉く上に處して、衆の爲めに法を演說す。
一毛孔の中に於て、普く十方の刹を見、彼の刹は妙へに莊嚴せられ、諸佛菩薩會りたまふ。
一一の如來の所に、無量の衆圍繞し、淸淨なる妙智慧をもつて、明かに衆生の心を了る。
十方世界の中の、無量なる諸佛の刹に、菩薩は神通の力をもつて、一念に悉く徧く至る。
佛を恭敬し供養したてまつり、衆生を饒益せんが故に、一一の導師の所にて、甚深の義を諮決す。
普く諸の世尊に於て、先づ慈父の想を起し、衆生を饒益せんが故に、菩薩の行を分別す。

明淨なる利智慧をもつて、深法藏に解脱し、無量の智を出生して、佛法に礙ふる所無し。
無量無數の劫に、分別して法界を說かんに、劫數は究竟すべくとも、法界は窮盡すること無し。
平等に諸法を觀じて、其の心に所染無く、生死の苦を厭はざれば、智慧に障礙無し。
無上なる佛の種性、三世の法王の家、一切如來の法、菩薩は此に由りて生る。
淸淨なる妙法身は、種種の形に應現したまふ、猶は大幻師の、樂ふ所見ざること無きが如し。
或處には衆生と爲りて、菩薩の行を究竟し、或は復た初生し、出家して學道を行ずることを現じ。
或は樹王の下に於て、自然に正覺を成じ、或處には衆生の爲めに、泥洹に入ることを示現す。
甚深にして妙なる、無量の自在の法に住することを現じて、聲聞辟支佛は、一切能く測る莫し。
菩薩の身口意は、寂滅にして生相無く、普く一切世に應じて、方便をもつて現せざること無し。
是の如き眞の佛子は、境界甚だ深妙にして、衆生若し思議せば、迷亂して心發狂せん。
一切悉く具足して、無礙の智に安住し、普く諸の如來の、無量なる自在力を現ず。
菩薩の功德藏は、世間に與等無し、何に況んや最勝の尊の、無量にして思議し難きをや。
菩薩は未だ、一切智を具足することを得ずと雖も、無量なる諸の法門をもつて、究竟して彼岸に

到らん。

一切の勝妙の法は、皆悉く已に具足して、一向に菩提を求め、一乘の道を究竟す。

彼の諸の群生に於て、善く時と非時とを知り、利益せんと欲するが爲めの故に、大神力を示現す。

一身悉く、一切諸佛の刹に充滿し、淨き光明を演出して、暉耀倫匹無し、

徧く十方界を照して、一切の闇を除滅し、普く妙法の雨を降らすこと、海の大龍王の如し。

一切の法を觀察するに、虚妄なること猶は幻の如く、煩惱業の力の故に、生死常に輪轉す。

大慈悲の心を以て、普く諸の群生を覆ひ、淸淨なる妙方便をもつて、無量の衆を度脫す。

菩薩の功德力は、諸の如來と等しく、無量の智慧海は、淸淨なること虚空の如し。

無量無數の劫に、具さに菩薩の行を修し、精進し勤めて方便をもつて、一切の衆を度せんと欲す。

衆生の種種の行を、悉く能く分別して知り、淸淨の業を修して、無上の道を志求せしむ。

菩薩摩訶薩は、是の勝妙の法を行じて、決定して退轉せず、諦かに一切智を觀ず。

一切諸の世界は、無量にして思議し難し、菩薩は能く彼に於て、一念に悉く周遍す。

虚妄の想を遠離して、其の心虚空の如く、清淨の法身は一にして、普く一切の世に應ず。
湛然として常に動ぜず、十方に現ぜざること無く、一切の法を分別して、諸法の相を取らず。
一切の法に了達して、其の心に所染無く、一切の衆を濟度して、而も解脱の者無し。
一切群生の類の、種種なる諸の悕望と、善惡無記の法とは、寂滅なること虚空の如し。
衆庶の類の、種種の欲樂の相に隨順して、無量の自在力をもつて、悉く能く之に應化す。
猶ほ工みなる幻師の、能く種種の身を現ずるが如く、菩薩は自在力をもつて、十方界に充滿す。
菩薩の淨法身は、無量にして虚空に等しく、衆の欲樂する所に隨ひて、一切現ぜざること無し。
其の心に所染無ければ、眞實にして虚妄無く、清淨と煩惱の法とは、皆悉く所有無し。
解脱と非解脱と、其の心に所染無ければ、普く苦の衆生に、無上なる涅槃の樂を施す。
悉く諸の世間に於て、智慧畏るる所無く、衆の相好を具足して、無上の道を究竟す。
一念に悉く、一切諸法の相を分別し、去來現在世は、之を求むるも所有無し。
菩薩は前際を觀じて、過去世に了達し、後際の相を分別して、究竟すること亦是の如し。
一切の佛の世界を、分別して皆悉く知り、衆の煩惱を除滅して、諸の功德を具足す。
常に好んで寂靜を觀じ、究竟じて涅槃に趣き、無諍の三昧を樂ひて、其の心に所依無し。

菩薩は實際に等くし、一切與等無く、堅固の行を究竟じ、決定して退轉せず。

彼衆の諸行を修し、寂滅にして所依無く、其の心常に安住して、動ぜざること須彌の如し。

菩薩の淨妙の行は、諸の法界に充滿し、諸佛及び菩薩は、皆悉く分別して知る。

導師の慧を求め、最勝の道と、甚深なる一切智とを究竟して、無上の解脫王たらんと欲せば、

勇猛に勤めて精進し、速かに菩提心を發せ、最勝の樂を求めんと欲せば、應に疾く諸漏を斷ずべし。

菩薩摩訶薩は、初めて清淨の心を發せば、彼の心の功德藏は、之を説くとも盡す可からず。

衆生を饒益せんが故に、如來の行を讚歎し、一心に善く、最勝の行じたまひし所の道を諦かに聽け。

無量なる諸佛の刹を、悉く抹して微塵と爲し、一塵に一刹を置き、悉く能く分別して知らんも、

是の諸の刹土の中の、一切諸の如來は、初めの功德藏を説くとも、猶故盡す可からず。

善く衆生を分別して、而も衆生の想無く、善く一切の語を解して、而も言語の想無し。

甚深なる無礙の智をもつて、諸の世界を分別し、善く劫の成敗を解り、而も成敗の相無し。

清淨にして廣大なる心は、猶は虛空の性の如く、明かに三世の法と、一切諸の世間とを

解る。
諸の煩惱を除滅して、永く盡して餘り有ること無く、無礙寂滅の觀は、是れ則ち佛の正法なり。
十方世界の中の、一切の如來の所に、一念に悉く徧く至りて、其の心に所染無し。
善く不生の法、如如の眞實際を解れば、一切種種の相は、皆悉く眞實無し。
無量にして數ふ可からざる、一切諸の如來の、淸淨の眷屬と倶なるに、悉く往きて禮し供養し。
常に樂ひて如來に、甚深微妙の法と、一切諸の菩薩の、誓願と淸淨の行とを問ひたてまつる。
十方世界の中の、一切諸の導師を、一念に悉く覩見たてまつりて、而も心に所依無し。
一切の三有の中の、最勝なる妙功德は、此の淸淨の行を以て、諸佛の刹を莊嚴す。
慧眼障礙無くして、善く一切の生を解り、分別に所有無く、遠離に染著無し。
善く衆生の根と、煩惱及び習氣とを解り、衆生の種種の欲に、了達して不思議なり。
菩薩摩訶薩は、先づ衆生の心を知り、彼の應ずる所に隨ひて度し、慧者には爲めに法を說く。

善く時と非時と、衆生の淨穢の行とを知りて、漸く彼をして清淨ならしめ、究竟じて解脫を得しむ。
無量那由他の、甚深なる諸の三昧に、菩薩の自在力をもつて、一念に悉く能く入る。
三昧の起住の相を、悉く能く分別して知り、無量なる諸の境界に、善く住起の緣を解る。
是の如き等の智慧を、皆悉く已に具足せば、久しからずして菩提を得、一切障礙無けん。
常に衆生を利せんが爲めに、正しく智慧の光に趣き、彼能く衆生に、無上なる丈夫の法を與ふ。
悉く能善く、一切劫の長短と、晝夜及び歲月とを分別し、斯を亦善く觀察す。
正念にして放逸ならず、善く諸の世間を解り、諸佛の刹を分別するに、眞實に差別無し。
能善く分別して、一切諸の世界を知り、彼の十方の國に於て、分別の想有ること無し。
是の如く正しく、十方の諸の世界を觀察して、一切の國を嚴淨し、而も心に所著無し。
智慧の力を成就して、諸の如來と等しく、是處非處の力をもつて、分別して衆生を知る。
悉く衆生の類の、善惡の諸の業報を知り、過去未來の世に、明かに達して障礙無し。
一切諸の世界の、衆生の種種なる性を、彼の三有の中に於て、悉く能く分別して知る。
一切群生の類の、諸根の上中下を、菩薩摩訶薩は、悉く能く分別して知る。

一切衆生の類の、欲樂の上中下と、淸淨と不淸淨とを、悉く能く分別して知る。
分別して衆生の、一切至處の道を知りて、永く相續の緣を斷ちて、究竟じて三有を離る。
一切の諸の三昧、正受と禪と解脫と、垢穢淸淨の(四六)起とを、悉く能く分別して知る。
次第に宿命に、隨つて受くる所の苦樂を知る、是の如く分別するものは、是れ則ち如來の力なり。
一切の善不善と、衆生の煩惱業と、五道の生とを分別すれば、究竟じて泥洹を得。
諸漏若し未だ盡きずして、能く處處の生に趣くも、煩惱習已に滅しなば、無上の道を究竟せん。
方便をもつて衆生を度し、垢を滅して淨道を具へ、慧者は能く分別す、是れ則ち人中の雄なり。
十種の力を具足し、慧光をもつて衆の瞑を除き、最勝の力に安住せば、疑惑は究竟じて滅せん。
一一の毛孔の中の、無量なる諸佛の刹を、菩薩摩訶薩は、一切皆悉く見る。
穢濁なると或は淸淨なると、種種の妙莊嚴とを、彼の諸の行業に隨ひて、皆悉く分別して知る。
一一の微塵の中の、一切諸佛の刹と、諸佛及び菩薩とを、佛子は皆悉く見る。

【四六】起とは生起の因をいふ。

諸刹は積聚せず、亂れず迫迮せず、一切は一刹に入りて、而も亦所入無し。
十方の諸の國土は、虚空法界に等しきも、能く一毛孔に於て、具足し分別して知る。
普く十方界の、一切諸の最勝と、微妙に淨く莊嚴せる、一切諸佛の刹とを見たてまつる。
一切諸の如來と、及び彼の嚴淨の國とを、一毛孔の中に於て、慧者は皆悉く見たてまつる。
三世の差別の相と、一切諸の法界の、時節歳の相續するとを、分別して解脱を得。
是の如きの眞の佛子は、無所畏を具足す、是を人中の雄、明達せる智慧の者と名く。
是の如きの深法門を、慧者は悉く分別し、彼如來の所に於て、恭敬して喜ぶこと量り無し。
無量無數の劫に、功德藏を長養し、一切の佛を供養したてまつる、衆生を度脱せんが故に。
無量の自在力をもつて、種種に能く示現す、彼の智慧の境界は、諸の如來と等し。
無量なる諸佛の所にて、所學皆成就し、寂靜なる深法藏を、志樂して厭き足ること無し。
一切の導師の所にて、恭敬尊重の心をもつて、彼菩薩の行を修して、常に法の甘露を飲む。
悉く能く分別して、智慧の法と、菩提の無礙辯と、甚深なる諸の三昧とを長養す。
信心動かす可からざること、猶ほ須彌山の如くにして、諸の衆生の、一切の功德藏を長養す。
菩薩摩訶薩は、大慈悲無量にして、普く一切の衆を念ひ、其の心に所著無し。

一切種智の樂を、諸の衆生に惠み施して、悉く世間を救ひ、永く煩惱の苦を離れしめんと欲す。
菩薩摩訶薩は、大悲心無量にして、佛と及び己と衆生とを、等しく觀じて異り有ること無し。
樂ひて寂滅の相を觀ずるに、諸法は虚空の如し、慧者は是の如くして、一切の眞實性を觀ず。
菩薩の初發心の、甚深なる功德藏は、無量無數の劫に、之を說くとも盡す可からず。
諸の如來と、緣覺の閑靜の樂と、自在の聲聞衆と、一切の賢聖とを出生するが故なり。

(四七)十方世界の中の、無邊の諸佛の刹の、所有る衆生の類を、供養すること無量劫ならん。
又敎へて五戒と、十善及び四禪と、四等と無色定と、寂滅なる諸の解脫とを修せしめん。
復た無量劫に於て、諸の樂具を供施せん、又復た敎ふること轉た勝れて、漏盡きて羅漢を成ぜしめん。
此の如きの諸の功德は、猶尚稱量す可くも、發心の功德藏は、譬も無く、說く可からざるなり。
又無量の衆を化して、悉く辟支佛の、寂靜なる(四八)三摩提と、甚深なる諸の功德とを成ぜし

【四七】次の二十九頌は長行の喩を頌す。
【四八】三摩提(Samādhi)。定と譯す。

めんに、

彼の人の功德の聚を、初發心の藏に比すれば、百分が一にも及ばず、乃至說く可からず。

無量にして邊有ること無き、微塵に等しき佛刹を、假使神力の人ありて、一念に悉く能く過ぎん。

是の如き神足の力をもつて、無量劫の中に行かんに、彼の刹は猶ほ數ふ可くも、發心の藏は知り難し。

去來現在の劫は、無量にして邊有ること無し、是の如き等の諸劫は、猶ほ、其の數を知る可くも、

菩薩の初發心の、無量の功德藏は、猶ほ虛空界の如く、分際を知る可からず。

去來現在世の、一切諸劫の數を、菩薩は一念に於て、悉く能く分別して知る。

菩薩の發心の寶は、去來今に達せんと欲すれば、一念に悉く明かに了る、衆生を利益せんが故なり。

十方世界の中の、無量刹の衆生の、所有る欲と悕望とを、一念に悉く分別す。

諸根の方便と、念念心の所行とを知る、虛空は尙ほ量る可くも、菩提の心は知り難し。

計る可からざる所以は、大慈無量なるが故に、普く一切の樂を施して、十方界に充滿すればなり。

悉く佛の、法藏と解脫の樂とを得せしめんと欲し、初め寶藏の心を發し、功德の力無量なり。
衆生の欲と悕望と、方便願求の想とは、彼の種種の根と、身口意の所行とに隨ひ、
能く一念の中に於て、彼彼悉く覺知し、一切智を得んと欲して、發心して菩提を願ふ。
一切衆生の類に、無量の煩惱業あり、斯の結業に由るが故に、趣趣に諸有を受く。
此の如き結業の報は、猶ほ邊際を知る可くも、發心の功德藏は、思議し得可からず。
議る可からざる所以は、能く無上の願を發して、一切の佛を供養し、永く諸の煩惱を離れ、
兼ねて群生の類の、一切の煩惱業を除き、三世の苦を濟拔して、大悲心を究竟すればなり。
十方の諸の世界の、無量無數の佛を、一念に悉く供養し、兼ては以て衆生に勸め、
熏するに殊妙の香を以てし、寶幢、諸の旛蓋、天衣、珍妙の饌、上味の甘露漿、
隨時に諸の宮觀、牀臥、莊嚴の具、淸淨なる經行の地、身を安んじ道心に順ふもの、
斯等の衆の供具と、無量の寶莊嚴と、摩尼の光耀を發するとは、皆是れ快樂の因なり。
是の如く佛を供養したてまつり、兼ねては以て衆生に勸め、不可思議の劫に、常に此の供養を行せ

んに、
斯等の諸の功德は、尙ほ究竟じて說く可くも、發心の功德藏は、譬喩を爲す可き無し。
一切諸の譬喩は、前に廣く分別せしが如く、初發心に比せんと欲すれば、無量の一にも及ばず。

(四九) 三世の人中の尊と、一切功德の業と、無上なる菩提の果とは、皆初發心に由る。
無數億劫の中に、無上の道を修行すれば、無數にして量有ること無く、一切の量を出過す。
一切智を究竟すれば、其の力量る可からず、彼の菩提の岸に到り、群生の趣を超度す。

【四九】次の三十九頌は當品の初の甚深難知等の七句を頌す。

初發の菩提心は、廣大なること虛空の如くにして、諸の功德を出生し、其の相法界に同じ。
諸法の性を等觀するに、如實にして異相無く、永く一切の有を離れ、性堅固の士に同じ。
甚深なる眞の法性に、妙智をもつて隨順して入り、無邊の諸佛の土に、一念に悉く周徧す。
一切智の知る所、徧く觀察せざること無し、無量なる佛の境界に、了達して障礙無し。
常に妙功德を修すれば、一切與等無く、微妙の戒を具足すれば、淸淨にして瑕穢無し。
內外の一切の施を、等心に一切に施し、一切の時に常に施し、精勤して退轉せず。

專念に正受と、諸禪の功德藏とを修し、常に微妙の地を習へば、深廣にして涯底無し。
此の最勝の地に於て、佛の眞子を成就し、如實の智と、平等なる甚深の行とを逮得す。
去來現在世の、一切諸の如來は、悉く威神を以て、初發の菩提心を護りたまふ。
甚深なる諸の三昧と、無量の陀羅尼と、諸佛の自在力とは、初發心を莊嚴す。
一切諸の世間に、能く稱算する者莫く、無量にして邊有ること無きは、猶ほ虛空界の如し。
初發の菩提心は、無量にして邊有ること無く、一切の人師子は、皆初發心に由る。
如來の十種の力と、四辯、無所畏と、無量なる諸の功德とは、皆初發心に由る。
一切の諸の導師の、十八不共の法、斯等の殊勝なる慧は、皆初發心に依る。
諸佛の妙色心も、種種の相莊嚴も、究竟じて虛妄を離れたる、淸淨の身法身も、
天人の應供する所の、甚深なる無礙の智も、是の如き等の功德は、皆初發心に由る。
一切の辟支佛、無量の聲聞衆、斯等の諸の賢聖は、皆初發心に由る。
四禪と無色定と、甚深なる諸の三昧と、斯等の無量の樂は、皆初發心に由る。
去來今現在の、十方の天人の類の、一切世界の中に、趣趣に生を受くる樂も、
方便をもつて勤めて精進し、諸根を悉く調伏する、斯等の無量の樂も、皆初發心に由る。

然る所以の者は何ぞ、菩薩摩訶薩は、初發心に由るが故に、六波羅蜜を具へ、諸の群生の類を化して、邪を棄て正道に入らしむ、故に能く三界をして、茲の種種の樂を受けしむ。

菩薩の深妙の智は、通達して障礙無く、諸の衆生を開導して、殊勝の業を淨修せしむ。

衆の煩惱と、一切の不善の行とを滅除して、泥洹の道を修習せしめ、一切の衆を度脫す。

無量なる智慧の明かなること、猶ほ淨日の光の如く、淸白の行を具足すること、譬へば月の盛滿なるが如し。

無邊の功德藏は、猶ほ十方の海の如く、無垢にして所染無く、淸淨なること虛空の如し。

菩薩の初發心は、稱讚すとも盡くす可からず、悉く無量の衆生をして、具さに一切の樂を受けしむ。

無量無數の劫に、廣く諸の大願を修し、常に功德の業を習ひ、衆生を調伏するが故なり。

無量にして數有ること無き、淨願は思議し難し、皆悉く具足して滿ち、衆をして淸淨なるを得せしむ。

普く一切の法を觀ずるに、悉く空無相願にして、宏誓の願力の故に、心淨くして畏るる所無し。

法の眞實性を解りて、淸淨なること虛空の如く、定と亂と悉く平等にして、寂滅にして所有無し。

甚深なる諸の妙法は、無量にして思議し難し、常に大衆の爲めに說けども、其の心に染著無し。

十方世界の中の、一切の諸の如來、彼の佛は常に、菩薩の初發心を讚歎したまふ。

無量の妙功德は、初發心を莊嚴し、彼の淸淨の岸に至れば、性諸の如來に同じ。

一切衆生の類は、無量無數の劫に、初發心の、功德を稱讚すとも盡す可からず。

諸佛の功德藏、菩薩は是に因りて生れ、諸の三有の中に於て、最勝にして倫匹無し。

【五〇】後の十頌は結歎して修を勸む。

(五〇)一切の佛の、明淨なる、智慧の燈を得んと欲せば、應に宏誓の願を建てて、速かに菩提心を發すべし。

一切の功德の中にて、菩提心を最と爲す、能く無礙の智を得て、佛の法化より生ぜよ。

一切衆生の心は、悉く分別して知る可く、一切刹の微塵は、尙ほ其の數を算す可く、

十方の虛空界は、一毛をもつて猶ほ量る可くも、菩薩の初發心は、究竟じて測る可からず。

初めの菩提心に因りて、三世の佛と、一切諸の衆生の、種種なる上妙の樂とを出生し、

佛の讃めたまふ所の功徳は、此に因りて悉く具足し、佛の境界の中に於て、其の心に疑惑無し。
若し能く永く、一切諸の疑惑を遠離せば、則ち能く衆生の、無量なる諸の障礙を滅せん。
初めの菩提心に因りて、諸佛の國を嚴淨し、普く一切の衆をして、微妙の智を具足せしむ。
十方の刹の、三世の一切の佛を見たてまつらんと欲し、又無量なる、甚深の功徳藏を得んと欲し。
若くは衆生の、無量なる生死の苦を滅せんと欲せば、應に堅き誓願を建てて、速かに菩提心を發すべし。』

巻の第十

明法品第十四

(一)爾の時に精進慧菩薩、法慧菩薩に問ふて言はく、

『佛子よ、初發心の菩薩は、是の如きの無量の功德藏を成就し、大莊嚴を以て自ら莊嚴し、一切智の乘に乘じて、菩薩の離生道に入り、世間を遠離して、正覺を志求し、諸佛の住しまたふ所に、皆以て住することを得、決定して無上の菩提を成就す。

(二)彼の菩薩摩訶薩は、云何んが修習して功德轉た勝れ、諸の如來をして皆悉く歡喜せしめ、菩薩の所住の功德を具足し、清淨の行と、大願とを成滿し、菩薩の藏を得るや。其所應に隨ひて之を化度し、已に能く諸の波羅蜜を捨てずして、請ふ所の衆生に隨ひて皆悉く度脫し、三寶を興隆して、永く絕えざらしめ、一切爲す所の善根の境界と、諸行の方便とは、皆悉く虛しからざるや。善い哉、佛子よ、當に我等が爲に此の法を演說すべし。願樂して聞かんと欲す。◎ (三)諸の菩薩の修する所の功

【一】第一段請問。
【二】以下正しく問ふ中に於て初めに行法の體を問ふ。
【三】次に、所成の德を問ふ。

徳の如きは、癡闇を滅除し、衆魔を降伏し、諸の外道を制し、塵垢を離れ、一切の功德を具足し成就し、究竟して永く惡道の諸難を離れ、淸淨なる甚深の智慧を具足し、菩薩に一切諸地の功德、諸の波羅蜜、三昧、總持、六通三明の淸淨の法あり、一切諸佛の世界を莊嚴し、具足せる相好、微妙の音聲、淸淨の心行、一切の如來の力無所畏、十八不共法、薩婆若の智、佛刹を具足し、衆生を成熟するに隨ひ、時に隨ひ、根に隨ひ、無量の佛事、及び諸の菩薩の無量の功德、菩薩の正法、菩薩の所行、菩薩の道、菩薩の境界、皆悉く滿足し、速かに如來を成じ、一切諸佛の無量なる法藏を悉く能く守護し、分別して廣く說き、開示し顯現して、衆魔外道も壞すること能はざる所、正法を攝持して窮盡すること無く、一切の世界に於て、悉く能く演說するや。天王、龍王、夜叉王、乾闥婆王、阿修羅王、迦樓羅王、緊那羅王、摩睺羅伽王、人王、梵王、諸佛の法王は、皆悉く此の菩薩摩訶薩を守護し、一切の世間は恭敬し供養し、尊重し讃歎し、常に諸佛の爲めに護念せられ、一切の菩薩も亦復た愛敬するや。善根の力を得て白法を增長し能く諸佛の甚深の法藏を開き、大正の法を以て而も自ら莊嚴し、次第に菩薩の所行を演說するや。』

【四】頌に十一偈あり、前の請問を頌す。

爾の時に精進慧菩薩、重ねて此の義を宣べんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(四)『善い哉、願くば大乘の法、菩薩の成ずる所の諸の功德は、深く廣大なる無量の行に入り、

淸淨なる無師智を具足することを說きたまへ。
若し菩薩有りて初發心に、功德智慧乘を成就せば、離生の道に入りて世閒を出で、決定して疾く佛の菩提を得ん。
云何んが佛の正法の中に於て、功德を修習して轉た增勝し、諸の如來をして悉く歡喜せしめ、佛の住したまふ所の地に住することを得、
行ずる所の淸淨の大願滿ちて、菩薩の智慧藏を具足し、悉く能く一切の衆を度脫して、而も群生に於て所著無く、
一切の波羅蜜を捨てず、諸の施爲する所悉く虛しからず、請ふ所の衆生は皆悉く度し、佛法を興隆して永く絕えざらしめ、
淨眼の境界に障礙無く、功德を具足して佛道を求むるや。
大雄の行ずる所の淸淨の道を、悉く爲めに具足し分別して說きたまへ。
一切の愚癡の闇を滅除し、衆魔を降伏し外道を制し、
離垢の功德皆成就し、人中の尊の妙智慧を得、永く衆難と惡道の苦とを離れ、淸淨の智慧皆具足し、

無量なる甚深の大功德は、最勝の道力を成就し、人中の上妙なる智慧を得、其の所應に隨ひて之を度し、
不可思議なる諸佛の刹に、自在無量に佛事を作す。
一切の殊勝なる甚深の行は、大雄の功德藏を分別し、常に能く最勝の法を護持し、世間の諸難能く壞ること莫きや。
云何んが無畏は師子の如く、功德の具足は滿月の如く、猶ほ蓮華の水に著せざるが如く、功德の淸淨はなること最勝の如くなるや。』

(五)爾の時に法慧菩薩、精進慧菩薩に告けて言はく、

『善い哉善い哉、佛子よ、饒益する所多く、安樂にする所多く、惠利する所多く、世間の諸の天人を哀愍するが故に、能く是の如き菩薩の甚深なる淸淨の行を問へり。佛子よ、汝甚深なる眞實の智慧に住し、大精進の力をもつて、一心に修習し、不退轉を得て、世間を超出し、問ふ所自在なること如來と等し。佛子よ、汝今諦かに聽き、善く之を思念せよ。我當に佛の神力を承けて、汝が爲めに少しく說かん。

(六)佛子よ、此菩薩摩訶薩は、已に發心の功德藏を得れば、應に癡闇を離れ、精勤し守護して、諸の放

【五】第二段答說。
【六】前の問に隨ひて順次に行法の體を答ふ。初に功德轉勝を答ふ。

逸を滅すべし。佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の法有りて、不放逸なるを得。何等をか十と爲す。一には持戒清淨、二には愚癡を遠離して菩提心を淨め、三には諂曲を捨離して衆生を哀愍し、四には善根を勤修して不退轉を得、五には常に寂靜を樂ひて在家出家の一切の凡夫を遠離し、六には心に世間の樂を願樂せず、七には專精に諸の勝れたる善業を修習し、八には二乘を捨離して菩薩の道を求め、九には常に功德を習ひて心に染汚無く。十には善能く分別して自ら己身を知る。佛子、是は爲菩薩十種の行を修して、不放逸に住するなり。佛子、菩薩摩訶薩は已に能く此不放逸の法を生じて、又復た十種の淨法を修行す。何等をか十と爲す。此菩薩摩訶薩は說の如く修行し、念智を成就し、調戲諸の放逸の行を捨離して甚深微妙なる善法に安住し、常に法を樂ひ求めて心に厭足無く、聞く所の法に隨ひて眞實觀を得、巧妙の智慧を具足し出生して、能く佛の自在に入り、心常に寂靜にして未だ曾て散亂せず、好きを聞くも惡しきを聞くも、心に憂喜無きこと、猶ほ大地の如く、等しく衆生の上中下の類を視て、悉く佛の想の如くし、和尚諸師、及び善知識、菩薩、法師を恭敬し供養し、念念に次第して一切智の如くなり。佛子、是は爲れ菩薩の十種の淨法なり。

【七】二に如來を歡喜せしむるの問に答ふ。

(七) 佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如く精勤して念智を修習し、方便を捨てず、心に所倚無く、甚深の法

を修して、無諍に入り、無量無邊の深妙なる佛法を悉く能く了知し、諸の如來をして皆悉く歡喜せしむ。佛子よ、菩薩摩訶薩は十種の法を行じて、能く一切の諸佛をして歡喜せしむ。何等をか十と爲す。一には所行精勤にして退轉せず。二には身命を惜まず。三には利養を求めず。四には一切の法を修するに猶ほ虚空の如く。五には巧方便の慧をもつて、諸法を觀察し法界に等同なり。六には諸法を分別して心に所倚無し。七には常に大願を發し。八には清淨なる忍智の光明を成就す。九には善く一切の損益の諸法を知る。十には所行の法門皆悉く清淨なり。佛子、是は爲菩薩十種の法を行じて、能く一切の諸佛をして歡喜せしむるなり。◎佛子よ、菩薩は復た十法に安住して能く一切の諸佛をして歡喜せしむ。何等をか十と爲す。不放逸に安住し、無生法忍に安住し、大慈に安住し、大悲に安住し、滿足せる諸の波羅蜜に安住し、菩薩の清淨の行に安住し、滿足せる無量の大願に安住し、巧方便に安住し、一切力に安住し、一切法に安住し、猶ほ虚空の如く依止する所無し。佛子、是は爲菩薩、十法に安住して、能く一切の諸佛をして歡喜せしむるなり。

【八】三、菩薩所住の功德を答ふ。

(八)佛子よ、菩薩摩訶薩は、十種の法を行じて、速かに能く一切の諸地を成就す。何等をか十と爲す。一には心常に諸の功德の事を行ぜんことを樂ひ。二には大いに諸の波羅蜜道を莊嚴することを行じ。

三には智慧明達にして他の語に隨はず。四には恆に眞の善知識を遠離せず。五には常に精進を修して退轉せず。六には善く佛意を取りて諸法を受持し。七には諸の善根を行じて心に憂慼無く。八には大乘の莊嚴を以て而も自ら莊嚴し、明利の慧光普く一切を照し。九には一切諸地の法門に安住し。十には三世の佛の善根正法に同ず。佛子、是は爲れ菩薩摩訶薩、十種の法を行して、能く速かに一切の諸地を成就するなり。佛子よ、彼の菩薩摩訶薩は、諸地に住し已りて、先づ應に巧妙の方便を修習して、其の所得の甚深の智慧に隨ひ、其の行業に隨ひ、其の依果に隨ひ、其の境界に隨ひ、其の自在に隨ひ其の示現に隨ひ、其の分別諸勝法門に隨ふべし。諸の勝法門を得已りて悉く善く分別して、一切の法に於て、而も所著無し。所有る諸法は皆心に由つて造ればなり。菩薩摩訶薩、若し能く是の如く明了に觀察せば、則ち能く一切の諸地を具足せん。彼の菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、『我應に速かに一切の諸地を成ずべし。何を以ての故に。我諸地に於て說の如く行ずる時、無量なる諸の功德藏を速得せん。無量の功德藏を得已りて、漸く佛地に到らん。佛地に到り已りて、能く佛事を作さん。』是の故に菩薩摩訶薩は、常に勤めて修習し、方便を捨てず、心に憂慼無く、大莊嚴を得て、菩薩の住に住するなり。

【九】四、清淨行に答ふ。

(九)佛子よ、菩薩摩訶薩は、復た十法を行じて、悉く能く菩薩の諸行を淸淨にす。何等をか十と爲す

一には悉く一切を捨てて衆生の意を滿たし。二には持戒清淨にして毀犯する所無く。三には忍辱を具足して窮盡有ること無く。四には方便を勤修して退轉せず。五には癡を離れて正念し常に定まりて亂れず。六には分別して明かに一切諸法を了り。七には一切の衆行を具足し成滿し。八には功德尊重の心は山王の如く。九には一切衆生の爲めに清涼の池と作り。十には一切の衆生をして、諸佛の法に同せしむ。佛子、是は爲菩薩十種の法を行じて、悉く能く菩薩の諸行を清淨にするなり。佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如き清淨の行を修行すれば、復た十種の轉た勝妙なる法を得。何等をか十と爲す。一には他方の諸佛皆悉く護念したまひ。二には超勝なる善根を修習し長養し。三には如來の巧密の方便に安住し。四には常に樂ひ親近して、善智識に依り。五には精進に安住して不放逸を修し。六には諸法の總に非ず別に非ざることを分別し。七には無上の大悲に安住し具足し。八には法の如實を觀じて智慧を出生し。九には能善く巧妙の方便を修行し。十には一切の方便をもつて如來の力を觀ず。佛子、是は爲菩薩の十種の、清淨にして轉た勝妙なる法なり。

【一〇】五、大願の成滿を答ふ。

(10)佛子よ、菩薩摩訶薩に、復十種の清淨の願有り。何等をか十と爲す。衆生を成就して心に憂慼無からんことを願ひ。善根を長養し、佛刹を嚴淨せんことを願ひ。一切の如來を恭敬し供養せんことを

願ひ。身命を惜まず、正法を守護せんことを願ひ。種種諸の智慧門を以て、悉く衆生をして諸佛の刹に生ぜしめんことを願ひ。諸の菩薩不二の法門に入り、佛の法門に入りて、諸法を分別せんことを願ひ。一切の佛を見たてまつらんと欲する所をして、悉く之を見ることを得しめんことを願ひ。未來際を盡す一切の諸劫は、須臾の頃の如くならんことを願ひ。普賢菩薩の所願を具足せんことを願ひ。一切種智の門を淨めんことを願ふ。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の清淨の願なり。佛子よ、菩薩摩訶薩は十法を修行して、悉く能く一切の諸願を滿足す。何等をか十と爲す。一には心疲厭無く。二には大莊嚴を生じて心に憂感無く。三には勝願を轉向して諸の菩薩を念じ。四には聞きし所の十方の嚴淨せる佛刹に、悉く往生せんことを願ひ。五には未來際を究竟し。六には一切の衆生を究竟成就して大願を滿足し。七には一切劫に住して其の久しきを覺えず。八には一切の苦に於て以て苦と爲さず。九には一切の樂に於て心に染著無く。十には悉く能く無等等の解脫を分別す。佛子よ、是は爲菩薩摩訶薩、悉く能く一切の諸願を滿足するなり。

【二】六、菩薩藏を得ることを答ふ。

(二)菩薩摩訶薩は、諸願を滿じ已りて、十種の無盡の寶藏を逮得す。何等をか十と爲す。諸佛の無盡の藏を見ることを得、陀羅尼の無盡の藏を得、法を分別する無盡の藏を得、大悲心をもつて一切を覆護する無盡の藏を得、諸の三昧の無盡の藏を得、衆生の意に功德を滿たす無盡の藏を得、深智慧を

もつて法の眞實を解る無盡の藏を得、諸通を出生し衆寶を分別する無盡の藏を得、一切諸佛の威神をもつて守護する無盡の藏を得、無量無邊の世界を分別する智慧の無盡の藏を得、佛子、是は爲菩薩摩訶薩、十種の無盡の藏を得て、無量無邊の功德の藏を成就し、淨慧を具足して其の所應に隨ひて、之を化度するなり。

（一二）佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、其所應に隨ひて、衆生を化するや。此の菩薩は、諸の衆生の所宜の方便を知り、諸の衆生の種種の（一三）因緣を知り。諸の衆生の心心の所念を知る。心念を知り已りて、對治の法を敎ふ。貪欲多き者には、（一四）不淨觀を敎へ。瞋恚多き者には、大慈觀を敎へ。愚癡多き者には、敎へて一切の諸法を分別せしめ。（一五）三毒等分のものには、敎ふるに勝智の法門を具足するを以てし。生死を樂ふものには、（一六）三種の苦を敎へ。諸有に著する者には、空の法門を敎へ。懈怠の衆生には、精進を行ずることを敎へ。我慢の衆生には、平等觀を敎へ。心諂曲の者には、菩薩の心は寂靜にして有に非ざることを敎ふ。是の如く一切諸の煩惱の患には、敎ふるに無量の對治の法門を以てす。具足して次第に、義味を演說し。分別の智慧をもつて、平等に法を

【一二】七、所應に隨ひて化度することを答ふ。
【一三】因緣。宿習の因緣なり。
【一四】不淨觀。肉身の不淨なることを觀じて貪欲の心を除く、これに九想觀あり。
【一五】三毒。貪、瞋、癡の三をいふ。
【一六】三苦。苦苦（疾病飢餓等より來る心身の苦惱）。壞苦（己が愛著せる者の壞れし時に感ずる苦惱）、行苦（世の無常にして變遷するより受くる苦惱）をいふ。

觀じて、先後違ふこと無く。諸法の破壞の性を演說して、而も法界に於て散滅する所無く。疑惑を斷除して、悉く歡喜せしめ。其の諸根に隨ひ、敎へて眞諦に入らしめ。諸の功德を敎へて如來海に入らしめ。眞實際を說きて以て衆相を壞し。法界に等しきことを敎へて法藏を開示せしめ。一切のもの心に依ることを敎へて所染無からしめ。平等に一切の諸佛を念ずることを敎へて恭敬し親近せしめ。柔輭の音を敎へて所著無からしめ。一切の音を敎へて分別無からしめ。殊勝の法を敎へて倫匹無からしめ。敎へて一切如來の平等智身を具足せしむ。

二七 菩薩は是の如く、常に能く一切の衆生を化度し、而も心寂定にして、未だ曾て散亂せず、一切諸の波羅蜜を捨てず、十波羅蜜を具足し莊嚴す。普く一切群生の類の爲めの故に、悉く能く內外の諸有を捨離して、而も未だ曾て慳吝の心を起さず、是を清淨の檀波羅蜜と名く。又復た持戒の相を生ぜざるが故に、戒に於て著すること無し、是を清淨の尸波羅蜜と名く。悉く能く一切の諸苦を堪忍し、好きを聞くも惡しきを聞くも、心に憂喜無く、未だ曾て傾動せざること、猶ほ大地の如し、是を清淨の羼提波羅蜜と名く。勇猛に精進して方便をもつて修習し、其心堅固にして、退轉せず、究竟じて佛の智慧門を成就す、是を清淨の毗梨耶波羅蜜と名く。一切の欲に於て、喜樂を生ずることを離れ、清淨にして次第に正受に入りて、而も所染無

【二七】八、諸波羅蜜を捨てざることを答ふ。

く、煩惱を燒滅して、無量の定を生じ、大神通を具へ、次第に超越して、無量なる諸の三昧門に入り、一の三昧門に於て、無量の三昧に入り、悉く一切の三昧の境界を知り、漸く諸佛の智慧の地を具ふ、是を淸淨の禪波羅蜜と名く。諸佛の所に於て、法を聞きて受持し、諸の善知識を恭敬し親近して、心に疲倦無く、常に法を聞かんことを樂ひて厭足有ること無く、聞く所の諸法を、能く正しく觀察して、眞實の定に入り、一切の顚倒邪見を捨離し、妙善の方便をもつて、諸の法相海に自性有ること無きを分別し了知して、如來の深き智慧門を修習し、一切の智慧の力を具足し、普門の慧に乘じて、能く一切の智慧の門に入る、是を淸淨の般若波羅蜜と名く。一切世間の威儀を示現して、衆生を敎化し、心に憂感無く、其所應に隨ひて、其身を示現し、一切の所行に心染著すること無く、童蒙黠慧の所行を示現し、生死及び解脫門を示現して、善能く諸の方便行を分別し、無量なる諸の莊嚴の事を示現して、能く一切諸の生趣の中に入り、一切衆生の所行を解了す、是を淸淨の方便波羅蜜と名く。究竟じて一切の衆生を成就し、究竟じて一切の世界を嚴淨し、究竟じて一切の如來を供養し、究竟じて諸法の眞實を解達して障礙無く、究竟じて修行して、法界を具足し、究竟じて未來劫に住して須臾の頃の如く、究竟じて未來劫も猶ほ一念の如く、究竟じて一切の成壞を解達し、究竟じて一切の佛刹を示現し、究竟じて諸佛の智慧を逮得す、是を具足せる願波羅蜜と名く。自らの專正力をもつて諸の煩惱

を離れ清淨を具足し、能く他を正すの力を具足し成就して能く壞る者無く、大悲の力滿足し、大慈の力平等にして、悉く能く一切の衆生を覆護し、陀羅尼の力は能く一切諸の方便の義を持し、妙辯才の力は諸の衆生をして皆悉く歡喜せしめ、諸の波羅蜜の力は大乘を莊嚴し、弘誓の願力は未だ曾て斷絕せず、諸の神通力は無量の具を出生し、佛の神力は一切を覆護す、是を清淨の力波羅蜜と名く。貪欲の增すを知り、瞋恚の增すを知り、愚癡の增すを知り、又等分なるを知り、學地を分別して、一念の中に於て悉く衆生の心心の所行を知り、能く衆生の諸の悕望する所を知り、能く一切諸法の眞實を知り、諸佛の深き智慧力を解達し、普く一切諸の法界門を知る、是を清淨の智波羅蜜と名く。

〔一八〕佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如く諸の波羅蜜を清淨にし、諸の波羅蜜を滿足し、諸の波羅蜜を捨てず、大莊嚴に乘じて、悉く能く請ふ所の衆生を度脫す。一切を敎化して善行を修習せしめ、悉く一切をして、永く惡道を離れ、精進を勤修して、衆難を超出せしむ。貪欲多き者には、離欲觀を敎へ、瞋恚多き者には、平等觀を敎へ、邪見多き者には、〔一九〕因緣觀を敎へ、欲界の衆生には、欲恚惡不善の法を離るることを敎へ、色界の衆生には、增上觀を敎へ、無色界の衆生には、細微の智慧を敎へ、聲聞緣覺を樂ふには、寂靜の行を敎へ、大乘を樂ふ者には、十力を以て大

〔一八〕九、請ふ所の衆生を皆度脫することを答ふ。

〔一九〕因緣觀。因果の理を信ぜざる邪見の者には諸法は因緣より生ずることを觀ぜしむ。

乘を莊嚴することを敎ふ。初發心の時の如きは、衆生の諸の惡道に墮する有るを見て、大師子吼すらく、「我當に其の心の病を知り、諸の法門を以て、之を濟度すべし」と。菩薩は是の如き智慧を具足して、皆能く一切の衆生を度脫す。

〔二〇〕佛子よ、菩薩摩訶薩の能く是の如く行ずる者は、則ち能く三寶を興隆して永く絕えざらしむ。所以は何ん。菩薩摩訶薩は、衆生を敎化して、菩提心を發さしむ、是の故に能く佛寶を斷ぜざらしむ。甚深なる諸の妙法藏を開示す、是の故に能く法寶を斷ぜざらしむ。威儀と敎法とを具足し受持す、是の故に能く僧寶を斷ぜざらしむ。復次に悉く能く、一切の大願を讚歎す、是の故に能く佛寶を斷ぜざらしむ。十二緣起を分別し解說す、是の故に能く法寶を斷ぜざらしむ。〔二一〕六和敬を行ず、是の故に能く僧寶を斷ぜざらしむ。復次に、佛の種子を衆生の田に下し、正覺の芽を出す、是の故に能く佛寶を斷ぜざらしむ。身命を惜まずして正法を護持す、是の故に能く法寶を斷ぜざらしむ。善く大衆を御して心に憂惱無し、是の故に能く僧寶を斷ぜざらしむ。去來今佛の說きたまふ所の正法には、其の敎に違はず、是の故に能く三寶をして斷ぜざらしむ。菩薩は是の如くして三寶を斷たず。

〔二〇〕十、三寶を興隆することを答ふ。

〔二一〕六和敬。僧の他人に同化し敬愛する六種の行、一に同戒（他と同じく戒法を持つこと）二に同見（同じく實相の正見に住すること）三に同行（同じく正行を修すること）四に身慈、五に口慈、六に意慈（三業に於て大慈を行ずること）是なり。

一切の所行に、不善有ること無ければ、彼能く悉く一切の回向を行じ、決定して無上の菩提を究竟す。

（三）菩薩は是の如き清淨の身口意業に安住し已りて、所說の善根をもつて衆生を教化す。種種の方便をもつて、言ふ所虛しからず、能く衆生をして皆歡喜を得しむ。彼の菩薩摩訶薩の、諸の施行する所は、乃至一念も錯謬有ること無し。是の如き一切諸の深妙の行は、皆為れ智慧方便の攝持にして悉く能く無上の菩提に回向す。是の如く菩薩は、癡を離れたる清白の法に安住し已りて、念念の中に於て、十種の莊嚴を具足し出生す。何等をか十と為す。色身の莊嚴は、應に隨ひて示現し。語言の莊嚴は、衆の疑惑を除きて悉く歡喜せしめ。意行の莊嚴は、一念の中に於て諸の正受に入り。佛剎の莊嚴は、一切諸の煩惱の跡を滅除し。光明の莊嚴は、普く十方を照し。眷屬の莊嚴は、能く勝衆を集めて悉く歡喜せしめ。神力の莊嚴は、其の所應に隨ひて自在に示現し。佛教の莊嚴は、皆能く諸の黠慧の者を攝取し。涅槃地の莊嚴は、一處に成道して、悉く能く充滿して十方に示現し。持法の莊嚴は、衆に隨ひ、時に隨ひ、其の器量に隨ひて、為に法を說く。菩薩は是の如く、念念の中に於て、十種の莊嚴を具足し出生し已りて、身口意の業は、悉く皆清淨となり。永く愚癡を離れ、智慧成就す。此の如きの菩薩に、若し親近し、恭敬し、

【三】十一、一切の所為虛しからざることを答ふ。

隨逐し、出家し、法教を聽受し、隨喜し、憶念し、乃至見聞することあらば、此等の衆生は、必定して無上の菩提を究竟せん。佛子よ、譬へば（三三）阿伽陀藥の衆生の見る者は、衆病悉く除こるが如く、菩薩は是の如き無量の法藏を成就し、衆生の見る者は、煩惱の諸病、皆悉く除愈し、白淨の法に於て心自在なることを得ん。

（三四）佛子よ、菩薩摩訶薩は、若し是の如き方便を成就して、此の法に安住することを得ば、愚癡を除滅せん、智慧を具足するが故に。衆魔を降伏せん、大慈悲心の故に。諸の外道を制せん、智慧功德の力を具足するが故に。一切の心垢の煩惱を除滅せん、金剛定に入るが故に。善根の心を具足して憂感無からん、先佛の所に於て功德を修せし力の故に。能く一切の惡道の諸難を離れん、清淨の智慧悉く滿足するが故に。菩薩の清淨なる諸地、諸の波羅蜜、一切の三昧、六通、三明、四無所畏を出生せん、次第の方便智慧力の故に。諸佛の刹を淨めて、相好莊嚴し、身口意淨ならん、白淨法の力の故に。◎佛の十力、四無所畏、十八不共、平等の佛法を得ん、智慧をもつて分別し、速かに諸法を解り、一切種智をもつて平等に正覺すればなり。諸の大願力、如來の神力、大智慧の力は衆生に隨順して諸佛の刹を現ずるなり。應に化を受くべきものに隨ひて、大法輪を轉じ、無量無邊の衆生を度脫するなり。◎佛子よ、菩薩摩訶

【三三】阿伽陀（Agada）。無病、又は不死藥等と譯す。

【三四】次に行所成の德を答ふ。

薩は、是の如く無量の法藏を修行して、次第に具足して如來の處を得。無量の刹に於て菩薩行を修して正法を護持し、大法師と爲りて、如來の法藏を守護し攝持し。四辯を成就して、大衆の中に於て深法を演暢し、身相端嚴にして、法を説くこと周備し、四辯才に於て無量なる巧妙の方便を具足し、能く無盡の諸の智慧門を得、音聲殊に妙にして一法言を演べて、能く一切を悦ばし、隨宜に順導し開解して、智慧の門に入ることを得しむ。菩薩は是の如き等の無量の方便を以て、普く衆生の爲めに、法藏を開闡して、而も未だ曾て懈怠の心を生ぜず。大衆の中に於て而も畏るる所無く、一切世間能く壞る者無きは、增上の般若波羅蜜を具足すればなり。次第に一切の法相を分別して、斷絶すること無く、勝妙なる四辯をもつて、一切の法を説き、種種の譬喩も窮盡す可からず。大悲を具足して、能く一切をして淸涼悅樂ならしめ、大慈を修習して十方に充徧し、師子の座に處して、廣く衆生の爲めに微妙の法を説く。唯如來のみを除きて能く過ぐる者無く、能ぐ頂を見ること無く、能く觀察する無く、能く屈する者無く、能く問難するもの無し。若し能く其の言論の辯を窮めんは、是の處有ること無し。

佛子よ、菩薩摩訶薩は是の如き勝妙の法を成就し已りて、無邊の世界の中に滿てる大衆、彼の一一の身は猶ほ三千大千世界の如し。菩薩摩訶薩は、彼の衆の中に處して其の身殊特にして、大會を映蔽

し、皆悉く現ぜず。大慈心を以て、普く一切を覆ひ、甚深の智慧をもつて、彼の心を分別し、無畏を成就し、辯才を具足して、廣く爲めに法を說きて皆歡喜せしむ。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は無量の淨智慧を成就するが故に、無量の巧方便を成就するが故に、無量の正念力を成就するが故に、無盡の巧方便を成就するが故に、諸法を分別する陀羅尼を成就するが故に、諸法を分別する深智慧を成就するが故に。諸佛の威神力を成就するが故に、三世諸佛の實智慧を成就するが故に、三世の諸佛の淸淨なる巧方便を成就するが故に、廣く一切諸佛の甚深の法藏を說きて法を護持することを成就するが故に。三世の諸佛の勝妙なる智慧、菩薩の大願の智慧力を成就するが故なり。』

〔三〕爾の時に法慧菩薩、是の漸增功德の藏を說き已りて、重ねて此の義を宣べんと欲し、佛の神力を承けて、偈を以て頌して曰はく、

『菩薩は初地に住して、功德藏を長養し、不放逸を修習し、慧光十方を照す。
菩薩は菩提心を、守護して常に忘れず、十方の諸の如來は、心皆大いに歡喜したまふ。
勤めて精進を修行し、正念の力堅固にして、行する所退轉せず、世間に著せず。
常に甚深の法を樂ひ、無諍の定を成就し、十方の諸の最勝は、一切皆歡喜したまふ。

【三】第三段偈頌。二十頌あり、初の十三偈は前の十一種の行法を頌し、後の七偈は行所成の德を頌す。

諸佛歡喜し已りて、精進度を究竟して、功德の藏と、無量なる深智慧とを成就し、
一切の行は淸淨なり。諸地を具足して。十方の佛の本願は、皆悉く具足して滿つ。
是の如く智慧成じて、諸の深法藏を得。是の法藏を得已りて、世間に隨順し、
巧方便を成就して、衆生の心を分別し、敎化すべき所に隨ひて、爲めに法を演說す。
已に能く廣く法を說きて、自行を捨てず、波羅蜜を具足して、大功德を成就す。
已に波羅蜜を具へて、本請ひし所の衆生を、無量なる生死の海より、皆悉く究竟じて度す。
是の如く常に修習して、日夜休懈無く、佛法僧を興隆して、永く斷絕せざらしむ。
修する所の無量の行は、淸白にして悉く具足し、一切皆究竟じて、最勝の地を成就す。
菩薩の修行する所は、眞實にして虛僞無く、衆生の類を度脫して、諸の煩惱の苦を離れしむ。
是の如きの法を成就せば、愚癡の闇を除滅し、一切の魔を降伏して、究竟じて菩提を得ん。
佛子、是の如く行せば、如來の智を具足せん。悉く能く分別して、諸佛の甚深の藏を說す。
若し能く是の如く說かば、法師中の第一にして、等しく諸の群生の爲めに、普く甘露の法を雨らさん。
極まり無き大慈悲は、十方界に充滿して、悉く能く分別して、一切衆生の心を知る。

已に衆生の心と、及び諸の餘の心行とを了りなば、彼が爲めに深法を說くこと、無量にして數有ること無し。

進止常に安諦なること、猶は大象王の如く、威猛なること師子の如くにして、一切能く害する無し、

動ぜざること須彌の如く、智慧は大海の如く、普く甘露の水を雨らして、煩惱の熱を除滅す。』

法慧菩薩、是の偈を說き已りて、如來隨喜したまひ。大衆奉行しき。

卷の第十一

佛昇夜摩天宮自在品第十五

【一】爾の時に、如來の威神力の故に、十方の一切諸佛の世界の、諸の四天下の、一一の閻浮提に、皆如來、菩提樹下に坐したまふ有りて顯現せざること無し。彼の諸の菩薩は、各佛の神力を承けて、種種の法を說き、皆悉く自ら佛の所に在りと謂へり。

爾の時に世尊の威神力の故に、道樹及び帝釋の宮を離れずして、夜摩天の寶莊嚴殿に向ひたまへり。

【一】第四會の序說。

時に彼の天王、遙かに佛の來りたまへるを見たてまつり、卽ち殿上に於て、蓮華藏の寶師子の座を敷き、十萬種の寶を以て、莊嚴と爲し、十萬の寶帳を其上に彌覆し、十萬の寶網を以て交絡と爲し、次で上に十萬の衆の妙寶蓋あり。又復た十萬の天の諸華の蓋、天の繒あり、雜寶を以て垂帶と爲し、十萬の瓔珞にて之を莊嚴し、十萬の寶衣を以て其の上に敷き。十萬の天子は前に在りて立侍し、十萬の梵天は之を圍繞し、十萬の菩薩は前に在りて讚歎し、十萬の光明を以て照曜を爲し、十萬の妓樂は、

自然に十萬の正法、娛樂の音聲を演出し、十萬の善根の妙相顯現し。十萬の如來の威神をもつて護持したまひ、十萬の功德藏にて之を長養し、十萬の三昧にて之を嚴淨し、十萬の願藏を以て淸淨と爲し、十萬の奇特未曾有なる法の勝相顯出し、十萬の妙法現じて前に在り、十萬の自在は處處に普く現じ、十萬の功德の妙相は等しく起り、十萬の音聲は諸法を演出せり。時に彼の天王、寶蓮華藏の師子の座を莊嚴し已りて、合掌し恭敬して、佛に白して言さく、

『善來世尊、唯願はくは、哀愍して此の宮殿に處したまへ。』

時に佛請を受け、卽ち寶殿に昇りたまひぬ。一切十方の夜摩天宮も、亦復た是の如し。

爾の時に天王、無量の音樂寂然として聲無きに、卽ち自ら過去佛の所にて、種ゑし所の善根を憶念し、偈を以て頌して曰はく、

『名稱如來は十方に聞え、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて摩尼莊嚴殿に入りたまひき、是の故に此の處は最も吉祥なり。

寶王如來は世間の燈にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて甘露上味殿に入りたまひき、是の故に此の處は最も吉祥なり。

喜王如來は慧無量にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて雜寶莊嚴殿に入りたまひ

き、是の故に此の處は最も吉祥なり。
慧眼如來は世間の燈にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて特殊最勝殿に入りたまひき、是の故に此の處は最も吉祥なり。
饒益如來は義無量にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて清淨寶山殿に入りたまひき、是の故に此の處は最も吉祥なり。
無師如來は世間の尊にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて微妙寶香殿に入りたまひき、是の故に此の處は最も吉祥なり。
天人中の尊は世間の燈にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて輕微妙香殿に入りたまひき、是の故に此の處は最も吉祥なり。
無去如來は論師子にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて明淨普眼殿に入りたまひき、是の故に此の處は最も吉祥なり。
分別如來は功德の持にして、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて娛樂莊嚴殿に入りたまひき、是の故に此の處は最も吉祥なり。
苦行如來は世間を利し、諸の吉祥の中にて最も無上なり、來りて等色普照殿に入りたまひき、是

の故に此の處は最も吉祥なり。」

此の閒の夜摩天王、佛の神力の故に、過去の諸の等正覺を憶念して、偈を以て讃歎したてまつりしが如く、是の如く十方の一切世界の夜摩天王も、各自ら過去佛の所にて種ゑし所の善根を憶念して、偈を以て讃歎したてまつることも、亦復た是の如し。

爾の時に世尊、其の寶殿の寶蓮華藏の師子座の上に昇り、結跏趺坐したまひぬ。爾の時に寶殿は、忽然として廣博なること、猶ほ夜摩天の處の如し。十方の世界も亦復た是の如し。

夜摩天宮菩薩說偈品第十六

一爾の時に十方各十萬の佛刹塵數の世界を過ぎて、世界有り、無量慧と名く、次を幢慧と名け、次を地慧と名け、次を勝慧と名け、次を燈慧と名け、次を金剛慧と名け、次を安樂慧と名け、次を日慧と名け、次を清淨慧と名け、次を梵慧と名く。其の佛を常住眼と號け、次を無量眼と號け、次を眞實眼と號け、次を不動眼と號け、次を天眼と號け、次を清淨眼と號け、次を安諦眼と號け、次を明相眼と號け、次を無上眼と號け、次を淨光澤眼と號けたてまつる。其の菩薩を功德林と名け、次を慧林と名け、次を勝林と名け、次を無畏林と名け、次を慚愧林と名け、次を精進林と名け、次を力成就林と名け、次を堅固林と名け、次を如來林と名け、次を智林と名く。此の諸の菩薩は、各其の國の佛の所に於て、梵行を淨修せり。

【一】 第一、大衆集まることを叙す。

爾の時に佛の神力の故に、彼の諸の菩薩は、各一佛世界塵數の菩薩と與に、來りて佛の所に詣で、恭敬し、禮拜し、佛の神力の故に、來りし所の方に隨ひて、寶藏の師子の座を化作して、結跏趺坐し、十方に充滿せり。此の世界の夜摩天上に、菩薩の雲集せるが如く、十方の世界も亦復た是の如し。

(二)爾の時に世尊、兩足の指より百千億の妙色の光明を放ちて、普く十方一切世界の、諸の四天下の菩提樹下の、夜摩天宮の、蓮華寶藏の師子座を照したまひ、如來の神力及び諸の大會は、皆悉く顯現せり。

(三)爾の時功德林菩薩は、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『普く淨き光明を放ちて、徧く十方界を照し、一切悉く佛を覩たてまつり、通達して障礙無し。

佛は夜摩の宮の、蓮華寶座の上に處したまひ、一切諸の世間に、奇特なること未だ曾て有らざるなり。

須夜摩天王、十如來を讚歎したてまつり、衆生皆悉く聞けり、一切の處も咸爾なり。

世尊の大衆會は、一切見ざる無く、普く十方界に於て、無上の法を演說したまふ。

從ふ所の諸の世界も、亦悉く名字を同じうし、我が菩薩衆の如く、各十方界より、

來りて此の處に詣でたり、彼の諸の上人等は、各其の佛の所に於て、淸淨に梵行を修しき。

彼の諸の如來等も、亦各名號を同じうし、佛の淸淨刹と、自在の神通力とを見る。

【二】第二、放光を叙す。
【三】第三、偈讚。十段あり初の一は總じて此の會の理事を叙し、餘の九は別して佛德の義門を表はす。

一切のもの如來を、人中に或は道場に見たてまつる、又復た世尊の、此の夜摩の宮に處したまふを見る。

一切諸の世界は、能く佛を思議する莫し、彼の衆生の願に隨ひて、一切皆悉く見たてまつる。

衆生は如來の、無量なる自在力を見たてまつるに、世を離れたる大仙人にして、功德の藏無量なり。

十方界に遊行して、一切障礙無く、一身無量と爲り、無量の身一と爲る。

功德甚だ深妙にして、一切能く測ること無し、著無く所依無く、清淨なること虛空の如し。』

【四】十頌あり、佛德の遇ひ難きを擧げ、見聞の勝益を頌す。

〔四〕爾の時に慧林菩薩、佛の神力を受けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『不可思議劫にも、天人師には値ひ難く、離苦の諸の大人の、此の會も亦遇ひ難し。

悉く皆一切智なり、慧光照さざる靡く、深妙の法を演說して、衆生を饒益す。

一切諸の世間は、常に癡冥の爲めに蔽はれ、如來の世の燈明は、皆悉く能く除滅したまふ。

施戒忍精進、禪定、三昧藏を、修習せる深妙の智は、普く一切を照したまふ。

如來は與等無し、何に況んや勝る者有らん、顚倒して諸法を取る、是の故に佛を見たてまつらず。

自在の神通力は、無量にして思議し難く、來ること無く亦去ることも無し、法を說きて衆生を度したまふ。

若し淸淨なる天人の師を、聞見することを得る有らば、永く諸の惡道を出で、一切の苦を遠離せん。

無量無數の劫に、修習して菩提を求め、等正覺を速成して、廣く諸の群生を度したまふ。

不可思議劫に無量の佛を供養したてまつらんも、若し能く是の義を解らば、功德は彼より勝らん。

無量の刹の、中に滿てる諸の珍寶を施すと雖も、此の義を解ること能はずんば、終に正覺を成ぜじ。』

【五】爾の時に勝林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『猶ほ春後の月の、虛空に雲翳無きが如く、日曜淸淨の光は、一切照さざる無し。

【五】十偈あり、佛の深廣無涯の德を歎じ、理を解りて知見することを頌す。

光明には限量無く、世間能く數ふる無し、眼有れども尚ほ知らず、何に況んや盲冥の者をや。
如來も亦是の如く、功德の光無量にして、無量無數の劫に、能く分別して知ること莫し。
光明に來處無く、去るも亦至る所無し、生ぜず亦滅せず、空寂にして所有無し。
未來の一切の法は、悉く來者有ること無く、生無く現在無し、是の故に過去も無し。
一切の法は生無く、亦復滅有ること無し、若能く是の如く解らば、斯の人如來を視たてまつらん。
諸法は生無きが故に、當に知るべし所有無し、是の如く分別して知らば、此の人深義に達せん。
諸法に自性無ければ、一切能く知ること無し、若し能く是の如く解らば、是れ則ち所解無けん。
言ふ所の生有りとは、當に知るべし所生に由る、彼の眞實の性を解れば、是れ則ち疑惑無きなり。
一切諸の所生は、正しく觀ずるに亦是の如し、菩薩は是の如く觀じて、一切智を具足す。」

【六】爾の時に無畏林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
『此の處邊際無く、廣大なること法界の如くにして、一切至らざる無く、湛然として遷り變らす。
若し是の如き法を聞きて、恭敬し信樂せん者は、永く三惡道の、一切諸の難苦を離れん。

【六】十偈あり、十方三世の諸佛の法を聞信する勝益を頌す。

諸の世界に往詣すること、無量にして數ふ可からず、此の甚深の法を聞きて、憶念して善く受持せり。

大仙人の、淸淨深妙の法を聞受して、一向に菩提を求めば、無上道を究竟せん。

深く過去佛と、及び彼の諸佛の法とを信ぜば、一切世間の燈となりて、衆の癡闇を除滅せん。

若し佛の無量なる自在力を、聞くことを得る有りて、決定して信向せん者は、人中の雄を具足せん。

【七】十偈あり、佛の大智の勝益を歎ず。

若し能く一心に、現在の一切佛を信ぜば、彼は等正覺を成じて、無量の義を開示せん。

無量無數の劫にも、此の法には甚だ値ひ難し、若し聞くことを得る有らん者は、當に知るべし本願の力なり。

是の如き佛の深法を、悉く能善く受持して、廣く衆生の爲めに說かば、是の人は思議し難けん。

是の故に勤めて精進し、大莊嚴を修行して、是の正法を聞持せば、究竟して菩提を得べし。』

(七)爾の時に慚愧林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『眞諦の法の、殊特にして未曾有なるを聞くことを得て、歡喜し信樂せん者は、衆の疑惑を除滅

せん。
一切知見の人は、自ら深妙の法を說き、佛慧照さざる靡し、是の故に思議し難し。
智慧より生ずるに非ず、亦無智より生ずるに非ず、一切の法を了達せば、世間の闇を除滅せん。
色法と非色の法と、此の二は一と爲さず、愚と智も亦是の如く、其の性各別異なり。
生死と及び涅槃とは、此の二悉く虛妄なり、愚と智も亦是の如く、二倶に眞實無し。
世界始めて成立するとき、敗壞の相有ること無し、愚と智も亦是の如く、二倶に相乖違す。
菩薩の初發心と、及以最後心のごとく、愚と智も亦是の如く、二倶に相應せず。

【八】十偈あり、佛の無差別の智を歎ず。

譬へば六情の識は、迭に用ゐて互に同じからざるが如く、愚と智も亦是の如く、究竟じて和合せず。
譬へば伽陀藥の、一切の毒を消滅するが如く、智慧も亦是の如く、諸の癡闇を除滅す。
法王無上の尊、是の勝に能く過ぐるもの莫く、說きたまふ所は皆眞實なり、故を以つて値遇し難し。』
(八)爾の時に精進林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『諸法に差別無し、唯佛のみ分別して知りたまふ、一切達せざること無く、智慧彼岸に到りたまふ。
金と及び金色と、其の性差別無きが如く、是の如く法と非法とは、其の性異り有ること無し。
衆生と非衆生と、二倶に眞實無し、是の如く法と非法とは、其の性に所有無し。
譬へば未來世に、過去の相有ること無きが如く、一切の法も是の如く、眞實の相有ること無し。
譬へば過去の法に、生起の相、有ること無きが如く、諸法も亦是の如く、皆悉く相有ること無し。
涅槃は取る可からざるも、説く時には(九)二種有り、諸法も亦是の如く、差別の相有ること無し。
譬へば種種の數は、皆悉く是れ數法なるが如し、諸法も亦是の如く、其の性に別異無し。
譬へば數法の十は、一を增して無量に至るも、皆悉く是れ本數にして、智慧の故に差別するが如し。
譬へば諸の世界は、劫燒に終敗有るも、虚空に損減無きが如く、無師の智も亦然なり。
十方の空には異り無きも、衆生は分別を起す、是の如く如來を取せば、虚妄にして佛を見たてま

【九】有餘涅槃と無餘涅槃となり。

つらじ。』

〔一〇〕爾の時に力成就林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『一切衆生の類は、悉く皆三世に攝す、三世の諸の衆生は、皆五陰の攝なり。

五陰は業より起り、諸の業は心に因りて起る、心法は猶は幻の如く、衆生も亦是の如し。

世間は自ら作るに非ず、亦復た他の作るに非ず、眞實の性を知らざれば、生死の輪常に轉ず。

所謂る世間の轉ずるは、皆悉く是れ苦の轉ずるなり、衆生は知らざるが故に、生死の輪常に轉ず。

世間と非世間と、二倶に眞實無し、衆生は愚癡の故に、妄りに諸法の相を取る。

三世の五陰の法を、説いて名けて世間と爲す、斯れ虚妄に由りて有り、無ければ則ち世間を出づ。

何等か是れ五陰なる、五陰に何の相か有る、五陰の壞することを見ずして、妄りに取りて常住と謂へり。

五陰は虚妄の法にして、眞實に所有無く、空寂にして遷變せず、究竟じて衆相を離る。

【一〇】十偈あり、染淨の空を會することを明かし、離相の眞佛を歎す。

世間は既に虚寂なり、佛及び法も亦然なり、斯等の三種の法は、其の性に所有無し。
諸の顛倒を除滅して、明了に眞實を見れば、一切知見の人、常に現じて其の前に在り。」

(二)爾の時に堅固林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

「譬へば地の種性は、自性所有なきが如く、一切の佛の自在も、其の性亦是の如し。
一切諸の世間は、咸共に佛を稱讃したてまつるも、彼の稱讃の法を求むるに、十方に來處無し。
衆生は虚妄に取りて、之を眞實なりと謂へり、分別するに衆生を離れては、業性は不可得なり。
業性に所有無ければ、衆生の身も眞に非ず、種種無量の色も、亦復た來處無し。
一切諸の形色と、業性とは思議し難し、見ると雖も所有無し、識性も亦是の如し。
諸佛の身も是の如く、思議することを得可からず、無量なる妙色の身は、普く一切の刹に現ず。
無量の身は佛に非ず、佛は無量の身に非ず、清淨なる妙法身は、究竟じて彼岸に度る。
若し能く、清淨の妙法身を見ることを得る有らば、是の人佛法に於て、其の心に疑惑無けん。
過去の一切法を、觀察して涅槃に等しければ、彼の人如來を見たてまつり、究竟じて常に安住せん。

【二】佛の法身の體空寂なることを歎ず。

正憶念を修習して、明了に正覺を見ば、無相にして所有無し、是を法王子と名く。」

(三)爾の時に如來林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

「譬へば工みなる畫師の、諸の彩色を分布するが如し、虚妄に異色を取るも、四大に差別無し。
四大は彩色に非ず、彩色は四大に非ず、四大の體を離れて、別に彩色有るにあらず。
心は彩畫の色に非ず、彩畫の色は心に非ず、心を離れて畫色無く、畫色を離れて心無し。
彼の心は常住せず、無量にして思議し難く、一切の色を顯現して、各各相知らず。
猶ほ工みなる畫師も、畫心を知ること能はざるが如く、當に知るべし、
一切の法の、其の性も亦是の如し。

【三】十偈あり、心眞如の緣起を明かす。

心は工畫師の如く、種種の五陰を畫き、一切世界の中に、法として造らざる無し。
心の如く佛も亦爾なり、佛の如く衆生も然なり、心と佛と及び衆生とは、是の三差別無し。
諸佛は悉く、一切は心より轉ずと了知したまふ、若し能く是の如く解らば、彼の人は眞の佛を見たてまつらん。
心も亦是の身に非ず、身も亦是の心に非ずして、一切の佛事を作し、自在なること未だ曾て有らず。

若し人求めて、三世一切の佛を知らんと欲せば、應當に是の如く觀ずべし、心は諸の如來を造ると。』

【三】爾の時に智林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『所取も取る可からず、所見も見る可からず、所聞も聞く可からず、所思も思ふ可からず。

有量と無量とに於て、應に限量を作す可からず、有量と及び無量と、二倶に所取無し。

說くべからずして而も說く、是は爲自ら欺誑するなり、己が事成就せずば、衆生を悅ばすこと能はじ。

若し能く、無量なる諸の如來を讚歎したてまつる有らば、不可思議劫にも、功德盡す可からず。

猶ほ隨意の珠の、能く無量の色を現ずるも、此の色は眞の色に非ざるが如く、諸佛も亦是の如し。

虛空は清淨にして、色に非ず見る可からずして、能く一切の色を現ずるも、其の性見る可からざるが如く、

是の如く大智の人は、無量の色を示現するも、識の識る所に非ず、一切能く觀る莫し。

【三】十偈あり、佛の體用は深廣にして色聲を絕したることを頌す。

如來の聲を聞くと雖も、音聲は如來に非ず、聲を離れて復た、如來の等正覺を知らず。
是の處甚だ深妙なり、若し能く分別して知らば、無上の道を莊嚴し、諸の虛妄を遠離せん。
一切諸の如來は、佛法を說くこと有る無くして、其の所應に隨ひて化し、而も爲めに法を演說したまふ。』

功德華聚菩薩十行品第十七の一

〔一〕爾の時に功德林菩薩摩訶薩、佛の神力を承けて、菩薩の〔二〕善伏三昧に入る。三昧に入り已りて十方各萬佛世界の塵數の刹を過ぎて外に、各萬佛世界塵數の諸佛を見たてまつる。是の諸の如來は、皆功德林と號けたてまつる。時に彼の諸佛、功德林菩薩に告げて言はく、

『善い哉、善い哉、佛子よ、乃ち能く是の善伏三昧に入れり。十方各萬佛刹塵數の諸佛、汝に神力を加したまへるが故に、能く此の善伏三昧に入れるなり。盧舍那佛の本願力の故に、威神力の故に、諸の菩薩の善根力の故なり。汝をして廣く甚深の法を說かしめんと欲するが故に、一切智を長養せしめんが故に、一切衆生の性を分別せしめんが故に、一切の障礙を離れて無障礙の境界に入らしめんが故に。一切の方便を成就せしめんが故に、一切種智を成就せしめんが故に、一切の法を覺悟せしめんが故に、善く諸根を知らしめんが故に、一切の法を聞持せしめんが故に、所謂る菩薩の十行なり。佛子よ、當に佛の神力を承けて廣く妙法を說くべし。』

時に彼の諸の菩薩は、卽ち功德林菩薩に無障礙の法を與へ、安住の法を與へ、無師の法を與へ、

〔一〕入定と佛の加被力とを叙す。

〔二〕善伏三昧。能く惑障を制伏して永く起らざらしむるの義なり。

無癡の法を與へ、不雜亂の法を與へ、清淨の法を與へ、無量の法を與へ、最勝の法を與へ、無垢の法を與へ、不退の法を與へたまへり。何を以ての故に、彼の三昧力の故なり。

爾の時に諸佛は各右の手を伸べて、功德林菩薩の頂を摩でたまへり。

其の頂を摩でたまふこと已りて、卽ち定より起ちて衆の菩薩に告げて言はく。

『〔三〕諸の佛子よ、菩薩の行業は思議す可からず、廣大なること法界の如く、究竟すること虛空の如し。何を以ての故に、菩薩摩訶薩は、三世諸佛の所行の法を學ぶが故なり。佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の行と爲す。菩薩に十行有り、三世諸佛の宣說したまふ所なり。何等をか十と爲す。一には歡喜行、二には饒益行、三には無恚恨行、四には無盡行、五には離癡亂行、六には善現行、七には無著行、八には尊重行、九には善法行、十には眞實行なり。是を十行と爲す。

〔四〕佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の歡喜行と爲す。

〔五〕此の菩薩は大施主と爲りて、悉く能く一切の所有を捨離し、等心に一切の衆生に惠み施す。施し已りて悔ゆることなく、果報を望まず、名譽を求めず、勝處に生れんことを求めず、利養を求めず。但一切の衆生を救護せんと欲し、一切の衆生を攝取せんと欲し、一切の衆生を饒益せんと欲し、一切

【三】本說。
【四】第一、歡喜行。
【五】初に財施を明かす。

諸佛の本行を學ばんと欲し、正しく諸佛の本行を憶念せんと欲し、清淨なる諸佛の本行を得んと欲し、諸佛の本行を受持することを得んと欲し、諸佛の本行を顯現せんと欲し、廣く諸佛の本行を說かんと欲し、一切をして苦を離れ樂を得しめんと欲するなり。是を菩薩摩訶薩の歡喜行と名く。

菩薩歡喜行を修する時、一切の衆生は歡喜し愛敬す。諸の方土に隨ひ、貧窮の者有る處には、菩薩は願をもつて、彼に往生し、豪貴大富にして、財寶盡くること無く、念念の中に於て、無量無邊の無數の衆生有りて、菩薩の所に詣り白して言さく、「仁者、我等は貧窶にして、資贍する所靡し、願はくは慈救を垂れたまひて、生命を濟ふことを得しめたまへ」と、菩薩は念念に其須むる所に應じて、悉く滿足して、歡喜せしめざる靡し。菩薩は(六)求索を以て煩重なりとして憂惱を生ぜず。但無上の大慈悲心を發して、施すに厭き足ること無く、常に來らしめ、來り已れば、稱慶して倍復歡喜せしめんと欲し。是の如きの念を作さく、「我善利を得たり、此等の衆生は、是れ我が福田なり。是れ我が善友なり。請はず求めざるに、自ら來りて教誨し、我が心を發起して佛道を修行せしむ。我今應當に是の如く修學して、普く衆生をして悉く歡喜を得しむべし、我三世に於て修せし所の功德は、願はくは速かに清淨の法身を成就し、神力自在にして、悉く衆生をして其の須むる所に隨ひ、皆歡喜を得しめん。此の功德を以て、諸の衆生をして、悉く正覺を成

【六】求索、來りて乞ひ求むること。

じ、無量の衆生を度脫して、悉く(七)無餘涅槃を究竟せしめん。我當に先づ一切衆生をして諸願を滿足せしむべし。然る後に我當に等正覺を成ずべし。我の想、衆生の想、我所の想、壽命の想、(八)種種の想、(九)補伽羅の想、作者の想を離れ、法界と衆生界とは空にして差別無く、欲の法、眞實に非ざる法、所有無き法、堅固に非ざる法、恃怙に非ざる法、所作に非ざる法を離れん」と。菩薩は是の如く觀ずる時に、(一〇)施す者を見ず、受くる者を見ず、財物を見ず、福田を見ず、業を見ず、報を見ず、果を見ず、大果を見ず、小果を見ざるなり。

(一一)菩薩は三世を觀察して、是の如きの念を發すらく、「哀れなる哉、衆生は愚癡の爲に覆はれ、煩惱に纏はれて、常に生死に流れ、苦海に輪廻し、不堅固の法に於て(一二)堅固を得ず、我當に盡く諸佛の所學を學びて、衆生を饒益し、等正覺を成じ、一切を開悟して、皆淸淨にして寂滅に隨順し、三世の法を觀ぜしむべし」と。是を菩薩摩訶薩の初歡喜行と名く。

(一三)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第二饒益行と爲す。

【七】無餘涅槃。具さには無餘依涅槃といふ、生死輪廻の因なる煩惱障を滅して得たる涅槃の境界にして、五蘊和合の身體も滅して全く所依なきが故に無餘依といふ。

【八】種種想。蘊、處、界等の諸法をいふ。

【九】補伽羅、又は補特伽羅(Pudgala)。有情、數取趣等と譯し、生死に輪廻する主體をいふ。

【一〇】施す人と、施を受くる人と、施物との三に於て皆悉く空なりと觀じて執著を離るるを三輪體空の布施といふ、是れ即ち眞實の檀度なり。

【一一】次に法施を明かす。

【一二】堅固。常住不壞の法身をいふ。

【一三】第二饒益行。

(一四)此の菩薩は持戒清淨にして、色聲香味觸の法に於て、心に染著無く、廣く衆生の爲めに無染の法を說き、人天の勝處尊貴の家に生れんことを求めず、利養を求めず、端正を求めず、帝王を求めず。但堅く淨戒を持ちて是の如きの念を作さく、「我淨戒を持ちて一切の纒、煩惱の熾火と、憂悲苦惱とを離れ、衆生に負かず、諸佛を歡喜せしめ、究竟じて無上菩提を成就せん」と。

(一五)菩薩は是の如くして淨戒を持つ時、一日の中に於て、若し無量無數阿僧祇の、諸の大魔王有り、一一の魔王は、各無量無數阿僧祇の諸の天女衆の、皆悉く端正にして、顏貌は殊妙、姿容は(一六)妖豔にして、人を傾惑するものを將ゐ、又復た一切の樂具を齎持し、來りて菩薩の道意を惑亂せんと欲せんに。爾の時に菩薩は是の如きの念を作さく、「此の五欲は、是れ障道の法なり、乃ち能く無上の菩提を障礙す」と、是の故に菩薩は乃至一念の欲心をも生せず、心淨きこと佛の如し。其の方便をもつて衆生を教化するをば除きて、內に菩薩の一切種智を離れず。堅固正念にして、五欲の因緣の爲めの故に、一の惡念を起して衆生を惱亂せず。寧ろ身命を捨つるとも、惡を人に加へず。若し惡を人に加へんは、是の處有ること無し。菩薩は自ら佛を見たてまつりしより已來、未だ曾て心に一の欲想だも起すこと有らず。何に況んや(一七)事に從はんや。若し或は事に從はん

【一四】初に行體を明かす。
【一五】次に行用を明かす、初は律儀戒。
【一六】妖豔。豐滿好美にしてあでやかなるをいふ。
【一七】欲想だも起さず、況んや事實に五欲に從ふの理あらんやとの意。

は、是の處有ること無し。

(二八)爾の時に菩薩は是の如きの念を作さく、「衆生は長夜に生死の中に在りて、五欲を憶念し、五欲に貪著し、五欲を愛樂して、心常に五欲の境界に流轉し、永く五欲に沒して、之を能く出づる莫し。我今應に是の如きの學を作し、諸の魔王、天女の眷屬、及び一切の衆生をして、無上の戒を立てしめん、淨戒を立て已りて、又教へて不退轉の地、一切種智を得、等正覺を成じ、乃至無餘涅槃を究竟せしむべし。何を於ての故に、此れは是れ我が業にして、一切諸佛は、皆是の如く學すればなり。諸の非行、計我の無知を離れ、一切の諸の平等なる深法を觀じて、一切智を得、衆生の爲めに法を說きて、(二九)顚倒を斷除せしめん。衆生を離れて顚倒有らず、顚倒を離れて衆生有らず、(三〇)顚倒の內に衆生無く、衆生の內に顚倒無く、顚倒は衆生に非ず、衆生は顚倒に非ず、顚倒は內法に非ず、顚倒は外法に非ず、衆生は內法に非ず、衆生は外法に非ず。一切の諸法は、但是れ虛妄にして、眞實有ること無く、須臾も住せざれば、堅固有ること無し。猶ほ幻化の如く愚夫を欺誑す。一切法は夢の如く電の如しと悟る。是の如く解る者は、能く生死に達して、菩提を究竟し、未だ度せざる者は度し、未だ脫せざるものは脫せしめ、未だ調伏せざる者は調伏

【二八】次は攝衆生戒。

【二九】顚倒。妄想執著なり、假有を實有と執するが如きをいふ。

【三〇】衆生は顚倒を起す人、顚倒は所起の妄執なり、今この二者の不即不離を明かす。

することを得しめ、未だ寂靜ならざる者は寂靜なることを得しめ、未だ安隱ならざるものは安隱なることを得しめ、未だ垢を離れざるものは垢を離るることを得しめ、未だ清淨ならざるものは清淨なることを得しめ、未だ涅槃せざるものは涅槃を得しめ、未だ快樂ならざるものは快樂を得しめん。

(二一)我當に世間の衆事を捨離して、諸の如來をして皆悉く歡喜せしむべし。一切の佛法を具足し成就し、無上最勝の法の中に安住し、平等に一切の衆生を正觀し、分別して一切の諸法を了知し、諸の惡を遠離して、永く虛妄を捨て、一切の煩惱習氣を除滅して、出要の勝妙なる方便を成就し、悉く無量無邊の辯才を得て、甚深にして空寂なる智慧を成就すべし」と。是を菩薩摩訶薩の第二の饒益行と名く。

(二二)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第三の無恚恨行と爲す。

(二三)此菩薩は常に能く忍辱の法を修習し、謙卑にして恭敬し、和顏にして愛語し、自ら害せず、他を害せず、亦倶に害せず。自ら(二四)擧げず、他を擧げず、亦兩ながら擧げず。自ら是とせず、他を是とせず、亦兩ながら是とせず、自ら讃歎せず。但是の念を作さく、「我當に常に衆生の爲めに法を說きて、一切の惡を離れ、貪恚癡、憍慢、亂心、慳嫉、諂曲を斷じ、(二五)大法忍を以て

〔二一〕次は攝善法戒。
〔二二〕第三無恚恨行。
〔二三〕初に行を標して意を顯はす。
〔二四〕擧。名利の爲めに憍慢を起して高ぶること。
〔二五〕忍に三あり、一に耐怨害忍、二に安受苦忍、三に諦察法忍（法思勝解忍）これなり、今、三忍を以て三毒等を對治するが故に大法忍といふ。

之を安立せしむべし」と。

（二六）菩薩は是の如きの清淨の法忍を成就すれば、設ひ無量無數の衆生有りて、一一の衆生に各無量無數の眷屬有り、一一の衆生に各無量無數の化頭有り、頭に無量阿僧祇の舌有り、舌は無量無數の惡聲を出し。聲は無量無數の惡罵を出し、音辭鄙穢にして、菩薩を毀辱せんも。又此の衆生に各無量阿僧祇の手有り、手に無量無數の刀杖を執りて、捶撃し摧辱して、菩薩を毀害し、乃至無量阿僧祇劫にも未だ曾て休息せざらんも。菩薩は此の楚毒に遭ふの時、是の如き念を作さく、「我是の苦に因りて、若し恚心を生ぜば、則ち自ら調伏せず、自ら守護せず、自ら明了ならず、自ら寂靜ならず、自ら定を修せず、自ら眞實ならず、自ら其の身を愛するなり。何ぞ能く彼をして歡喜の心を生じて、度脱することを得しむべき」と。

【二六】次に緣に對して忍行の相を辨す。

菩薩是の思惟を作さく、「身心に因るが故に、無量劫に於て諸の苦惱を受く。是の故に重ねて自ら勸勵し、心をして歡喜せしめ、善く自ら調攝せん。何を以ての故に。我當に無上の法に安住すべきが故なり」と。

衆生をして亦此の法を得しめんと欲して、復た更に思惟すらく、「此の身は空寂にして、我我所無く、眞實の性無く、空にして二有ること無し。若くは苦、若しは樂、皆所有無し、諸法は空なるが故

に我當に解了して、廣く人の爲めに說くべし。是の故に我今苦毒に遭ふと雖も、應當に忍受すべし。衆生を愍傷せんが爲めの故に、衆生を饒益せんが故に、衆生を安隱にせんが故に、衆生を攝取せんが故に、衆生を捨てざるが故に、衆生をして不退轉を得、究竟じて無上菩提を成就せしめんと欲して、佛の所行の法を、我當に修行すべし」と。是を菩薩摩訶薩の第三の無恚恨行と名く。

(二七)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第四の無盡行と爲す。

(二八)此の菩薩は精進、勝精進、最勝の精進、第一の精進、大精進、微妙の精進、上精進、無上の精進、無等の精進、無等等の精進を勤修す。彼の菩薩は貪欲の爲めに亂されず、瞋恚、愚癡、憍慢、慳嫉、嫌恨、諂曲、無慚、無愧の爲めに惱亂せられず。菩薩は復た是の念を作さく、「諸の衆生を惱すを欲せず、乃至一りの衆生をも惱すを欲せざるが故に、精進を勤修す。但諸の煩惱を捨離せんと欲するが故に、精進を修行し。一切の結を害せんと欲するが故に、精進を修行し。一切の習氣を離れんと欲するが故に、精進を修行し。悉く一切の衆生を分別せんと欲するが故に、精進を修行し。一切衆生の此に死し彼に生ることを知らんと欲するが故に、精進を修行し。一切衆生の煩惱習を知らんと欲するが故に、精進を修行し。一切衆生の種種の悕望を知らんと欲するが故に、精進を修行し。一切衆生の諸の境

【二七】第四無盡行。
【二八】初に行を標して意を顯はす。

界を知らんと欲するが故に、精進を修行し。一切衆生の諸根を知らんと欲するが故に、精進を修行し。一切衆生の心心の所行を知らんと欲するが故に、精進を修行し。一切法の境界を知らんと欲するが故に、精進を修行し。諸佛の實法を知らんと欲するが故に、精進を修行し。諸佛の平等法を知らんと欲するが故に、精進を修行し。善方便を以て、三世の平等なることを知らんと欲するが故に、精進を修行し。淸淨なる平等の法を知らんと欲するが故に、精進を修行し。一切諸佛の法を得んと欲するが故に、精進を修行し。一の方便門を以て、一切の佛法を知らんと欲するが故に、精進を修行し。諸佛は無量無邊にして、不可思議なることを知らんと欲するが故に、精進を修行し。諸佛の大智慧と、善方便とを知らんと欲するが故に、精進を修行し。一切の佛法を、廣く衆生の爲めに句句分別せんことを知らんと欲するが故に、精進を修行す」と。

(二九)菩薩は是の如き精進を成就すれば、若し人有り言はん、「無量無數の阿僧祇世界の衆生に、汝能く此の一一の衆生の爲めの故に、無量無數の阿僧祇劫に於て、具さに無擇大地獄の苦を受け、彼の衆生をして涅槃を究竟せしむるや。復た無量無數阿僧祇の佛有りて、世に出興したまひ、無量無數阿僧祇の衆生をして、種種の樂を受けしめんも、汝猶ほ具さに大地獄の苦を受けて、然る後に汝當に阿耨多羅三藐三菩提を成ずべきや」。と

【二九】次に緣に對して相を辨す。

菩薩答へて言はく、

「我悉く能く爾所の世界の一一の衆生の爲めに、地獄の苦を受けん。諸佛出世したまひて、衆生は樂を受けんも、我亦苦を受けて、然る後に我當に無上道を成ずべし」と。

復た人有り言はん、「汝若し能く一毛を以て、無量無邊の阿僧祇の諸の大海水を滴みて、皆悉く盡さしめ。無量無邊の阿僧祇の世界を末して微塵と爲し、悉く其の數を知り、是の如くして念念に次第して、常に菩提の心を廢忘せざるや。」

菩薩若し此の語を聞かんも、退かず、悔いず、歡喜踊躍して精進を勤修し、是の如きの念を作さく、

「我善利を得たり、我に因るが故に、無量無邊の阿僧祇世界の衆生をして、永く衆苦を離れしめん」と。

菩薩は復た是の念を作さく、「我當に一切衆生に代りて、一切の苦を受くべし。普く衆生をして一切の苦を離れ、悉く皆無餘涅槃を究竟せしめ、然る後に、我當に無上道を成ずべし。」

是を菩薩摩訶薩の第四の無盡行と名く。

〔三〇〕佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第五の離癡亂行と爲す。

〔三一〕此の菩薩は第一の正念を成就して、未だ曾て散亂せず。堅固不壞にして、第一最勝、清淨無

【三〇】第五離癡亂行。
【三一】初に現法樂受禪を明かす。

量にして、癡冥の分別を捨離し、正念して、善能く、世間出世間の經論、色法非色法の經論、受想行識の經論を受持して、癡亂有ること無く。此に死し彼に生れて、癡亂有ること無く。處胎し出胎して、癡亂有ること無く。菩提心に住して、癡亂有ること無く。善知識に親近して、癡亂有ること無く。諸佛の法を學びて、癡亂有ること無く。諸の魔事を覺りて、癡亂有ること無く。魔事を遠離して、癡亂有ること無く。無量劫に於て菩薩の行を修す。

菩薩は是の如き等の無量無數の堅固の正念を成就すれば、無量無數の阿僧祇劫に於て、諸佛、菩薩善知識の所に從ひて正法を聞受す。所謂る、甚深の法、微妙の法、莊嚴の法、種種莊嚴の法、種種名味句身の法、菩薩を莊嚴する法、諸佛を莊嚴する無上の法、正悕望清淨の法、一切世間に染まざる法、一切世間を分別する法、廣法、無量の法、癡闇を捨離して世間を分別する法、共法、不共の法、菩薩智の境界の法、一切智自在の法なり。菩薩此の法を聞き已りて、無量無邊の阿僧祇劫に於て、未だ曾て退忘せず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は本無量劫に道行を修せし時、未だ曾て衆生の正念三昧を惱亂せず、正法を斷せず、善根を斷せず、智慧を斷せざりしが故なり。此の菩薩は無量種の聲も嬈亂すること能はず。所謂る、高大の聲、惱亂の聲、人を恐怖せしむる聲、微妙の聲、不可愛の聲、六根を散亂せしむる聲なり。菩薩は是の如き等の無量無數の好惡の諸の聲を聞くも、正念に於て亂れ

ず。三昧も亂れず。境界も亂れず。微妙の法に入るも亂れず。菩薩の行も亂れず。菩提心を修習するも亂れず。念佛三昧も亂れず。眞實の法を觀察するも亂れず。衆生を敎化する智も亂れず。衆生を成就するも亂れず。衆生を淸淨の智に安立するも亂れず。甚深の義を觀察するも亂れず。惡業を行せざるが故に惡業の障無く、煩惱を行せざるが故に煩惱障無く、不恭敬を行せざるが故に不恭敬の障無く、謗法を行せざるが故に謗法の障無し、是の如き等の無量種の聲、一一の音聲、十方無量無邊の阿僧祇の世界に充滿し、無量無邊の阿僧祇劫に於て、未だ曾て斷絶せず。悉く能く、衆生の諸根を壞亂し、其をして發狂せしむとも、而も此の菩薩の甚深の三昧を亂すこと能はず。

菩薩は三昧の中に於て、一切音聲の生住滅の相を思惟し分別し、善く分別して生住滅の性を知り、亦能く諸の聲を聞く者を觀察して、好惡の聲を聞くも心に憎愛無く、正念にして亂れず。彼の諸の聲に於て善く其の相を取りて、而も染著せず。一切の聲は皆所有無く、眞實の性に非ず、造者有ること無く、亦本際も無く、法性と等しく、差別有ること無しと知る。

【三】次に功德を引生する禪を明かす。

(三)是の菩薩、寂靜なる身口意の行を成就すれば、復た退轉せず、諸禪の三昧正受に安住して、一切の法を悟り、智慧成就して、一切の音聲を離れたる三昧を得、阿僧祇の三昧門を以て眷屬と爲し、

大悲を長養し、念念の中に於て、能く無量阿僧祇の三昧を得、究竟じて一切種智を成就せん。

三 菩薩は、此の能く諸根を壊する大悪の音聲を聞き已りて、是の如きの念を作さく、「我當に一切の衆生をして、清淨の正念に安住せしめ、一切智に於て、不退轉を得、究竟じて無餘涅槃を成就せしめん」と。

【三】後に衆生を利益する釋を明かす。

是を菩薩摩訶薩の第五の離癡亂行と名く。

卷の第十二

功德華聚菩薩十行品第十七の二

(一)佛子よ、何等をか菩薩の第六善現行と爲す。

(二)此の菩薩、寂滅の身口意業を成就して、所有無く示現する所無く、身口意の業に、縛無く脫も無し。身口意の業に、縛無く脫無ければ、諸の示現する所は、所依無く所住無し。心に隨ひて住し、無量の心性に等しく、一切の法性に等しく、性相無し。無相の相を示現して、甚深にして底無く、如如の性は、業報を離るるも、善方便をもつて出生離生す。不生不滅にして、寂滅の涅槃に等しく、有に非ざるも有と說き、語言の道斷え、一切の世間を離れ、依住する所無し。菩薩の起す所の善根を長養して、虛妄を離れて無縛無著の法門に入り、眞實の法門に入り、離世間の法門に入りて、一切世間の法を分別す。菩薩は是の如きの念を作さく、「一切の衆生は、無性を性と爲し、一切の諸法は、無爲を性と爲し、一切の佛刹は、無相を相と爲し、三世を究竟するに皆悉く無性にして、言語の道斷え、一切の法に於て而も所依無し」と。

【一】第六善現行。
【二】初に行相を明かす。

㈢菩薩は是の如き等の、諸の甚深の法を解り。一切世間は悉く皆寂滅なりと解り。一切諸佛の甚深の妙法を解り。佛法と世間法と等しくして、差別無しと解り。世間の法は佛法に入り、佛法は世間の法に入り、佛法と世間の法とは而も雜亂せず。世間の法は佛法を壞せず、眞實の法界は破壞す可からず、三世の平等なる正法に安住して、亦菩提心を捨てず、衆生を教化する心を捨てず、大慈大悲の心を增長し、悉く一切の衆生を救度せんと欲し。菩薩は是の念を作さく、「我衆生を成就せずんば、誰か當に成就すべき。我衆生を調伏せずんば、誰か當に調伏すべき。我衆生を寂靜にせずんば、誰か當に寂靜にすべき。我衆生をして歡喜せしめずんば、誰か當に歡喜せしむべき。我衆生を清淨にせずんば、誰か當に清淨にすべき」と。

菩薩は復た是の念を作さく、「我此の甚深の法を解了せしを以て、諸の衆生を見るに大苦惱を受け、危險の徑に趣き、諸の煩惱の爲めに纏縛せられて、重病人の如く常に苦痛を被り、恩愛に繫縛せられて生死の獄に在り、常に地獄、餓鬼、畜生、閻羅王の處を離れず、永く無量の苦聚を滅すること能はず、三障を離れずして、常に愚癡の闇に處し、眞實の明を見ずして、無窮に生死を受け、解脫の道を得ず。八難に輪廻し、愚癡に病まされ、諸垢に染せられて、無量の深き煩惱海に沒在し、邪見に惑はされて正道を覩ず」と。

菩薩は是の如きの觀察を作さく、「衆生若し未だ成就せざるに、而も捨てて正覺を取らば、是れ應せざる所なり。我當に先づ衆生を教化して、無量劫に於て菩薩の行を修し、未だ成就せざるは教へて成就せしめ。未だ調伏せざるは教へて調伏せしめ。諸の未度の者は教へて得度せしむべし」と。

(三)是の菩薩、是の行に住する時、諸天、世人、魔王、釋梵、沙門、婆羅門、諸天、乾闥婆等、此の菩薩を見て歡喜し敬仰す。若し衆生有りて、恭敬し供養し、尊重し禮拜し、乃至見聞せば、皆悉く虛しからず、畢定して阿耨多羅三藐三菩提を究竟せん。是を菩薩摩訶薩の第六善現行と名く。

(四)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第七の無著行と爲す。

(五)此の菩薩は無著の心を以て、念念の中に於て、能く阿僧祇の世界に阿僧祇の佛刹を嚴淨することを觀察し、諸佛の刹に於て心に染著無く、阿僧祇の諸の如來の所に往詣して、禮拜し恭敬し、阿僧祇の華香、塗香、末香、衆寶の華鬘、天衣、雜寶の寶蓋、幢旛、諸の莊嚴具、各阿僧祇を以て、以用ゐて供養したてまつり、心に所著無く。阿僧祇の諸の方便をもつて行じて、而も所行無く。阿僧祇の思は無思法に住し、念念の中に於て無量の諸佛を見たてまつり、諸佛の所に於て心に所著無く。佛の相好に於て、心に所著無く。佛の光明に於て、心に所著無く。諸佛の刹に於て、

【三】後に行の益用を明かす。
【四】第六無著行。
【五】初に自分行（無著行を修すること）を明かす。

心に所著無く。佛の説法を聞くも、心に所著無く。十方の世界に於て、心に所著無く。如來の衆に於て、心に所著無く。菩薩の衆に於て、心に所著無く。法を聞きて歡喜し、心に所著無く。正心增廣し、意を攝して亂れず、菩薩の行を行して佛法に著せず。此菩薩摩訶薩は、十方の刹の一一の佛の所に於て、無量無邊の阿僧祇劫に、恭敬し、禮拜し、供養して、心に厭足無く。佛を見、法を聞きて心に所著無ければ。諸の如來の菩薩の大衆を見るも、以て莊嚴と爲して、心に所著無し。不淨の刹を見るも、心に憎惡せず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は、寂滅平等にして諸法を觀ずるが故に。諸法には垢無く淨無く、闇無く明無く、分別無く不分別無く、虚妄無く眞實無く、安隱無く危險無く、正道無く邪道無ければなり。

菩薩は是の如く眞實の法性を觀じて、衆生の性に入り、衆生を敎化し、調伏し、成就し、彼の衆生に於て、心に所著無く。諸法を受持して、而も諸法に於て心に所著無く。菩薩の心を捨てずして、而も佛の所住に住し心に所著無く。種種の語言の道に入りて、語言の道に於て心に所著無く。衆生の道に入りて、衆生の道に於て心に所著無く。諸の三昧正受を分別して、皆悉く能く入りて心に所著無く。無量無邊の不可説の諸佛の國土に往詣し、彼の佛國を見て心に所著無く。若くば佛國を去るも、心に餘戀無し。

(六)菩薩摩訶薩は、諸佛の國に於て貪著の心無きを以て、佛の實敎を解り、無上道に於て障礙無く、佛の正敎に於て已に安立することを得、菩薩の行を具足し、菩薩の心に安住し、菩薩の寂滅なる解脫を成就し、菩薩の所行を念ぜず著せず、菩薩の淨道に住して眞實の記を受く。記を受くることを得已りて、是の念を作さく、「凡夫は愚癡にして眞諦を知らず、眞諦を見ず、闇鈍にして信無く、心眞實ならず、常に染著を行じて生死に流轉し。諸佛を見たてまつらず、善知識を離れ、正道を離れ、邪見に迷惑して、調御の師を求めず、十力の王を敬はず、菩薩の恩を知らず、惡知識に親近し、諸法の空なるを聞きて心大いに恐怖し、正しく思惟せずして正法を誹謗し、正道を棄捨して好んで邪徑に從ひ、魔の羅網に入りて諸佛を遠離し、常に諸有に著して種種の苦を受く」と。

【六】次に勝進行を明かす。

爾の時に菩薩は、彼の衆生の諸の苦を受くることを見已りて、大悲を增長し、諸の善根を觀じて、心に所著無し。爾の時に菩薩、是の如きの念を作さく、「我當に十方の一一の衆生の爲めの故に、無量無邊の阿僧祇劫に住して、衆生を成就して心に疲厭することなく、常に共に止住し、捨離して去らんことは毫端の如きも欲せず。一毫の端を以て、悉く徧く十方の世界を量度し、一りの衆生の爲の故に、一一の毫端の處に於て、各無量無邊の阿僧祇劫に住せん。一りの衆生の爲めの如く、一切の衆生

の爲めにも亦復た是の如くならん」。

此の大悲心を以て念念に次第して、未だ曾て斷絶せず、而も衆生に於て心に所著無し。一一の毫端の處に於て、過去未來際を盡す。諸の菩薩行を具足し修習して、身に著せず、法に著せず、念に著せず、願に著せず、三昧に著せず、行に著せず、寂靜に著せず、境界に著せず、衆生を教化し成就することに著せず、深法界に入ることに著せず。何を以ての故に。菩薩は是の如く一切の法界は幻の如く、諸佛の法は電の如く、菩薩の行は夢の如く、聞く處の法は響の如く、一切の世界は化の如く、業報の起す處は（七）摩㝹摩の化身の如くなることを觀察し、一切の衆生は猶ほ畫像の如く、種種の異形は皆心に由りて畫かれ、所說の諸法は、皆實際の如しと知ればなり。

（八）一念の中に於て徧く十方に滿ちて、菩薩の行を修し、廣大なること法界の如く、究竟なること虛空の如く、一念の中に於て、悉く諸佛の決定方便を知り、心相の回轉すること迅速なるを了知し、而も此の心に於て染著する所無し。菩薩は是の如く無我なるを觀察し、佛の一切の衆生を化度したまふを見て、佛法の中に於て無量の喜を得、大慈悲を起して一切を救護し、心に憂惱無くして、歡喜を得、未だ成就せざる者は、當に成就せしむべく、未だ調伏せざるものは當に調伏せしむべく、世間を

【七】摩㝹摩　又は摩奴末耶（Manomaya）意生身と譯し、諸佛菩薩等の意に隨ひて化生する身をいふ。

【八】次に成滿行を明かす。

遠離して而も能く一切の世間に隨順せんと願ふ。若し諸方の國土の衆生の音聲、衆生の諸業、衆生の施設、衆生の和合、衆生の流轉、衆生の諸行、衆生の境界、衆生の諸地、衆生の興起を聞かば、我當に大願の力に乘じて、普く彼の處に至り、終に弘誓を捨てずして衆生を教化し、乃至一念の染著をも起さざるべし。所以は何ん。所著無きを以ての故に、自ら利し、彼を利して、清淨に滿足す。是を菩薩摩訶薩の第七の無著行と名く。

(九)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第八の尊重行と爲す。

(一〇)此の菩薩は尊重の善根、不壞の善根、最勝の善根、不思議の善根、無盡の善根、不退の善根、無比の善根、寂靜の善根、一切佛法の善根を成就せり。此の菩薩は行を修習する時、心常に諸佛の妙法を愛樂し、一向に專ら無上の菩提を求めて、未だ曾て暫くも菩薩の大願を捨てず、無量劫に於て菩薩の道を行じ、衆苦を計して憂惱を生せず。一切の衆魔も壞すること能はざる所、一切の諸佛は悉く共に護念したまひ、常に菩薩の諸の清淨行を行じ、精勤して一切の菩薩の無量なる苦行を修習し、未だ曾て懈倦せず、大乘の宏願を退轉せざることを得たり。

此の菩薩は尊重菩薩の行に安住し已りて、念念の中に於て、能く阿僧祇劫の生死の苦難を轉じて、

【九】第八尊重行。
【一〇】初に自分行を明かす。

菩薩の無量の大願を長養す。若し衆生有りて恭敬し供養し、乃至見聞せば、斯等は皆不退轉に住し、決定して無上菩提を究竟することを得ん。

(二)彼の菩薩、衆生を觀察して非有なるを了達し、而も一切を捨てず。譬へば河水の彼の岸に至らず、此の岸に來らず、中流を斷たずして、能く衆生を彼此の岸に度すが如し。流通を以ての故に、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、生死に趣かず、涅槃に趣かず、亦復た生死の中流に住せず、而も能く此の岸の群生を濟度して、彼の岸の安隱無畏にして、憂惱無き處に至らしむ。衆生數に於て心に所著無く、一りの衆生を離れて多くの衆生に著せず。多くの衆生を離れて、一りの衆生に著せず。衆生界を増さず、衆生界を損せず。衆生界を生せず、衆生界を滅せず。衆生界を盡さず、衆生界を長せず。衆生界を虚ふせず、衆生界を二にせず。何を以ての故に。菩薩は深く、衆生界は法界の如く、衆生界と法界と二有ること無く、無二の法の中には、増無く損無く、生無く滅無く、法性は眞實に無來無去なりと解りて、倚著する所無く、二相を作さざればなり。何を以ての故に。菩薩は一切の法界は二相無しと解るが故なり。

【二】後に轉進行を明かす。

菩薩は是の如く善方便を以て、深法界を解りて、無相の住に住し、清淨なる妙相をもつて其の身を莊嚴し、善能く一切の諸相を分別し、決定究竟じて、彼岸に到り、悉く分別して衆生の數を知り、普

く能く身を一切の佛刹に現ずるも、諸佛の刹に於て心に所著無く、深く佛法に入るも亦所染無く、義味を分別して廣く人の爲めに說く。一切の法に於て諸の欲際を離れ、而も菩薩の道を斷ぜず。菩薩の行を捨てず、無盡の功德を行じて淸淨の法界に入る。譬へば火珠の火を出すこと、窮盡す可からざるが如し。是の如く菩薩の諸の功德藏は、窮盡すべからず。衆生を敎化することも亦窮盡すべからず。而も菩薩摩訶薩は、究竟に非ず究竟せざるに非ず。取を離るるに非ず、取を離れざるに非ず。依に非ず、依無きに非ず。世間の法に非ず、佛の法に非ず。凡夫に非ず、得果に非ざるなり。

是の如く菩薩は尊重心を成就して、菩薩の行を修習し、聲聞、辟支佛の乘を敎へず、佛の法を敎へず、世間の法を敎へず、衆生を敎へず、衆生を壞せず、正道を敎へず、正道を壞せず、垢を敎へず、淨を敎へず。何を以ての故に。菩薩は諸法の垢無く淨無きを解了し、一切法の(三)受無く、轉無く、亦退有ること無きを知ればなり。是の寂滅なる甚深の法を行ずる時に、亦我今此の法を行じ、已に此の法を行じ、當に此の法を行ずべしとの念を生ぜず。未だ曾て陰界入、內世間、外世間、內外の世間、一切の大願、諸の波羅蜜有りとの念を生ぜず。何を以ての故に。一切法の中には聲聞、緣覺、菩薩、佛乘に向ふ無く、亦復た諸の凡夫界に向ふ無く、亦復た垢淨、生死及び涅槃界に向ふ無ければなり。何を以ての故

【三】受、轉。正法の領受すべきなく、邪惑の轉滅すべきなしとの意。

に、諸法は二無く、不二無きが故なり。譬へば虚空の之を求むるに、十方差別有ること無けれども、虚空無きに非ざるが如し。菩薩も是の如く、一切の法は、悉く差別無しと觀ずれども、究竟じて等正覺を成せざるに非ず。彼最も眞實にして、正行に違はず、普く能く菩薩の所行を示現して、無量の大願を捨離せず、衆生を調伏し、大法輪を轉じ、因果を壞せず、寂滅平等の觀法に違はず。此の菩薩は悉く三世の諸の如來と等しくして、佛性を斷せず、正法を壞せず、正法を興隆し、辯才盡くること無く、諸法の中に於て心に所著無く、法堂に安住し、深法を分別し、無所畏に住し、佛法を捨てず、無法に違はず、普く世間に現じ、世間に等しくして、心に所著無し。

菩薩は是の如く尊重智慧を成就して、菩薩の行を修し、一切衆生をして、永く世間惡道の諸難を離れ、敎化し成就して、三世の諸佛の法の中に安置し、堅固にして動せざらしむ。是の如く敎へ已りて、復た此の念を作さく、

「一切の衆生は恩義を知らずして、更 相殺害し、邪見增盛にして、正道に迷惑し、煩惱充滿して、癡冥に覆はる。設ひ善知識有りて、世間に充滿し、皆悉く明達にして、智慧具足する者ならんも、我此等の爲に菩薩の行を修せず。何を以ての故に、我善惡の人の所に於て、利養を求めず、名譽乃至【三】

【三】一縷。絲の一すじのことにして、利の極少なるをいふ。

一縷及び一愛の言にも徇はず、無量劫に於て菩薩の道を行じて、一念をも生じて自ら己が安きを求めず。但一切の衆生を調伏し、一切の衆生を淨くし、一切の衆生を度せんと欲するのみ。何を以ての故に、一切諸佛の法は是の如くなるが故なり。利養を求めず、人の惡を計らず、常に應に等心にして菩薩の道を行じ、怨親等しく觀じて、差別無く、究竟じて彼岸に到り、具足して無上の菩提を成就せしめんと欲すればなり」と。

是を菩薩摩訶薩の第八の尊重行と名く。

(二四)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第九の善法行と爲す。

(二五)此の菩薩は諸の天人、沙門、婆羅門、乾闥婆等の、一切の衆生の爲めに、清涼の法池と作り、正法を守護して、佛種を絶たず。清淨の陀羅尼を得るが故に、説法に障礙無く、義陀羅尼を得るが故に、義辯盡す可からず。法陀羅尼を得るが故に、法辯盡す可からず。正語陀羅尼を得るが故に、辭辯盡す可からず。無障礙陀羅尼を得るが故に、義味を説くこと盡す可からず。佛の甘露灌頂の陀羅尼を得るが故に、衆生をして歡喜せしむる辯盡す可からず。自ら覺悟する陀羅尼を得るが故に、同辯盡す可からず。同辯陀羅尼に入るが故に、種種の義名味句身を說きて盡す可からず。正語陀羅尼を得るが故に、無量の辯盡す可からず。無量讃歎の陀羅尼を得るが故に、三千大

【二四】第九善法行。
【二五】初に自分行を明かす。

千世界に於て身を變ずること佛の如く、妙音具足して一切の法に於て障礙する所無く、而も佛事を作して、所應に從ひて化す。解する所の音に隨ひ、衆生の根に隨ひ、廣長舌の清淨の音淨を以て、時に隨ひて法を說き、大悲に違はず。其の所應に隨ひて、一一の言に於て無量の音を出し、皆歡喜せしむ。設ひ衆生有りて、悉く無量にして計る可からざる阿僧祇の諸の語言の法を知り、無量の業を知り、無量の報を知り、是の如き等の無量無數阿僧祇の衆生、無量無邊の阿僧祇の世界に充滿して、菩薩の與めに眷屬と爲らんも、菩薩は此の會の中に處して、一法言を出し、悉く此等の衆生をして皆開解を得しむ。是の如き等の無量無邊の阿僧祇の諸の大衆有りて、菩薩の與めに眷屬と爲らんも、亦復た是の如くならん。爾の時に菩薩、復た是の念を作さく、「設ひ一毛端の處に一念の中に於て、無量無邊の阿僧祇の大衆の來會する有り。是の如く念念に次第して、過去未來の一切の諸劫を盡すも、大衆の來會は猶故盡さざらん。彼の諸の大衆の言聲同じからず、問ふ所各異ならんも、菩薩は是の如き等の一切の問難を聞きて、心に畏るる所無く、而も是の念を作さく、「設ひ一切の衆生をして、悉く來り問難せしむとも、猶ほ一言を以て其の疑網を決し、皆歡喜せしめん」と。

菩薩は法を說きて言虛妄ならず。一一の言に於て、無量無邊の智慧莊嚴有り、無邊の諸の功德藏を成就して、慧光普く一切の諸法を照し、一切種智を具足し成就せり。

(二六)此の菩薩は善法行に安住し已りて、能く自ら清淨となり、亦能く一切の衆生を饒益す。此の如く三千大千世界、乃至無量無邊の、稱り數ふ可からざる諸の世界の中にも、自ら其の身を化して、眞金の色と爲り、妙音具足して、一切の法に於て、障礙する所無く、而も佛事を作し、無量無邊の清淨の法門を以て衆生を化度す。

佛子よ、此の菩薩摩訶薩に十種の身有り。無量無邊の法界に入る身、一切の世間を除滅するが故に。未來身、一切趣に生ゆるが故に。不生身、深く不生の平等法を樂ふが故に。不滅身、一切の諸法は言語斷えたるが故に。不實身、如如眞實の故に。癡妄を離れたる身、應に隨ひて化するが故に。來去無き身、此に死し彼に生るることを離るるが故に。不壞の身、法界の性は壞すること無きが故に。一相の身、三世は語言の道斷えたるが故に。無相の身、善く諸法の相を分別するが故に。菩薩摩訶薩は、是の如き十種の身を成就すれば、能く一切衆生の爲めに舍と作る、善根を長養するが故に。一切衆生の救護と爲る、大無畏を與ふるが故に。一切衆生の歸依と爲る、大安隱に住せしむるが故に。一切衆生の尊導と爲る、無上道の門を開示するが故に。一切衆生の師と爲る、方便をもつて眞實の法に入らしむるが故に。一切衆生の燈と爲る、業報を見しむるが故に。一切衆生の明と爲る、甚深の法を得しむるが故に。一切衆生の炬と爲る、愚癡を離

【二六】後に勝進行を明かす。

れ眞法を解らしむるが故に。一切衆生の光と爲る、明地を得しむるが故に。一切衆生の趣趣の燈と爲る、如來の自在力を顯現するが故に。是を菩薩摩訶薩の第九の善法行と名く。此の菩薩摩訶薩は、善法行に安住し已りて、一切衆生の爲めに、清涼の法池と作る。佛の甚深なる諸法の底を得るが故なり。

(一七)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第十の眞實行と爲す。

(一八)此の菩薩は、第一誠諦の語を成就して、說の如く能く行じ、行の如く能く說く。此の菩薩は三世の諸佛の眞實語を學び、三世の諸佛の性に入り、三世の諸佛の善根と等し。是の菩薩は是の如き等の一切の善根を成就して、三世の諸佛の無二の語を學び、如來の一切の智慧に隨順す。

此の菩薩は衆生の是處非處の智、衆生の去來現在の一切の業報の智、衆生の諸根の具足不具足の智、衆生の種種なる性の智、衆生の種種なる欲の智、衆生の一切至處道の智、一切の禪定解脫三昧正受、垢淨起、時非時轉の智、過去の一切世界の成壞の智、無障礙の天眼智、漏盡智を成就して、而も一切の菩薩の所行を捨てず。何を以ての故に、一切の衆生をして、調伏し清淨ならしめんと欲するが

【一七】第十眞實行。
【一八】初に本誓の言を擧ぐ。

故なり。菩薩は復た是の念を作さく、

「我衆生の無量の苦を受くるを見て、若し未だ此等を度せざるに、先づ正覺を成ぜんは、是れ應せざる所なり。我當に大願を滿足して、然る後に成佛し、一切の衆生をして、菩提を志求し、無餘涅槃を究竟せしむべし。何を以ての故に。衆生我に請ふて、菩提心を發し、菩薩の行を行せしむるに非ず。我自ら發心して、普く衆生の爲めに、究竟じて一切種智を得しめんと欲すればなり。是の故に我は一切に於て、最も爲殊勝なり、衆生に著せざるが故に。我は一切に於て最上爲ることを得、衆生を調御するが故に。我は一切の闇を離る、無衆生際を解るが故に。我は應に得べき所を得たり、本願具足するが故に。我は善く變化す、菩薩の功德をもつて莊嚴するが故に。我は善の攝取を有す、三世の諸佛に護念せらるるが故に」と。

【一九】本誓の言に依つて行成じ、德の立することを明かす。

(一九)此の菩薩摩訶薩は、本願を捨てざるが故に、無上の智慧莊嚴に入ることを得。一切衆生の所應に隨ひて、悉く能く化度し。其の本願に隨ひて、悉く滿足し已りて◎一切法の自在の智慧を得、一切の衆生をして皆清淨なることを得しむ。念念の中に於て、悉く能く徧く十方の世界に遊び、念念の中に於て、悉く能く無量の佛國に往詣し、念念の中に於て、悉く無量無數の諸佛、及び莊嚴の刹を見て、如來の自在神力を示現し、究竟じて法界虚空界に等しく、其の身は無量にして應に隨ひて悉く

現じ、無量無礙にして、所依無し。自身の中に於て、普く佛刹の一切の衆生と、一切の諸法とを現じ、三世の諸佛、皆悉く顯現す。此の菩薩は衆生の種種の想、種種の欲、業報の清淨なることを知り、其の所應に隨ひて、爲めに其の身を現じて之を調伏す。一切の法は幻の如く、化の如く、電の如く、衆生は夢の如しと解る。此の菩薩の義身、味身は窮盡す可からず、清淨の正念は決定して一切の諸法を了知し、諸の三昧と、無上の智慧とに入りて、寂靜に不二の地を觀察するに、一切の衆生は皆二法に依るなり。

【三〇】説の利益を明かす。

菩薩摩訶薩は大悲心に住して、是の如きの諸の深妙の法を修習して寂靜究竟せり。佛の十力を得て、因陀羅網の法界の自在に入り、如來の無礙の解脱を成就すれば、人中の雄猛となりて、大師子吼し、無所畏を得て、法の轉輪王と爲り、能く無礙清淨の法輪を轉じ、智慧解脱を成就して、一切世間の所行を了知し、生死を絶ち、流を回して智慧の大海に入り、悉く能く一切の衆生を饒益し、三世の諸佛の正法を護持し、諸佛の方便の大海を窮盡す。是を菩薩摩訶薩の第十の眞實行と爲す。

此の菩薩、眞實行に安住し已りて、能く一切の天龍八部、無量の衆生をして清淨に歡喜せしむ。」

〔三〇〕爾の時に佛の神力の故に、十方の世界、六種に震動せり。如來の威神は法應に是の如くなるべ

し、天の華雲を雨らし、天の香雲を雨らし、天の末香雲を雨らし、天の鬘雲を雨らし、天の衣雲を雨らし、天の寶雲を雨らし、天の莊嚴雲を雨らせり。又自然に天の妓樂の音を出し、天の妙光明は、普く一切を照して、諸天の微妙の音聲を演出せり。

〔一〕此の四天下の夜摩天宮に、十行の法を說きしが如く、佛の神力の故に、十方の世界も亦復た是の如し。

〔二〕爾の時に十方各十萬の佛刹塵數の世界を過ぎて、十萬の佛刹塵數の菩薩有り、十方に充滿して此土に來詣せり。到り已りて功德林菩薩に語げて言はく、

『善い哉、佛子よ、乃ち能く諸の菩薩の行を演說せり。我等諸の來りし菩薩は、皆同一の字にして功德林と名く。我等の世界は皆功德幢と名け、佛は同じく普功德と號けたてまつる。我等の佛の所にも、亦十行を說き、名味句身、次第義味、衆會眷屬も亦復た是の如くして、增さず減らざるなり。是の故に、佛子よ、我等は佛の神力を承けて此の土に來詣し、汝が爲めに證を爲す。此の四天下の夜摩天宮の寶莊嚴殿に十行の法を說き、我來りて證を爲すが如く、十方の世界も亦復た是の如し。』

〔三〕爾の時功德林菩薩、佛の神力を承けて、普く十方一切の法界、及び諸の眷屬を觀じ、佛種をして

〔一〕結通。
〔二〕證成。
〔三〕重頌。

永く斷絕せざらしめんと欲し、菩薩の種性を淸淨ならしめんと欲し、菩薩の願種を轉ぜざらしめんと欲し、行種を斷ぜざらしめんと欲し、三世の佛種を攝取せしめんと欲し、分別して衆生の善根種を說かんと欲し、一切の衆生の時と根と欲樂と、垢淨の心の所行の種とを觀察せんと欲し、普く一切の諸佛菩薩の種を照さんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

(三四)「敬心に十方の尊を頂禮したてまつる、淸淨なる離苦の慧は無礙に、境界は深遠にして等倫無く、其の道は淸淨なること虛空の如し。

人中の最勝は障礙無く、功德は無量にして畏るる所無く、智慧は無二にして無等等に、一切の所行は皆淸淨なり。

十方現在の諸の導師は、眞實の義を解りて畏るる所無く、無等の功德は諸の惡を離る、彼速かに無上の道を究竟す。

一切の如來は人中の雄なり、先に已に具さに大慈悲を發して、心を淸淨の法界の中に遊ばし、行ずる所は諸の群生を饒益す。

十方三世に與等無く、自然に正覺して癡冥を滅し、一切の佛法は悉く平等なり、彼の功德は壞す可からず。

【三四】初の五頌は佛の功德を歎じて願ひ求めしむ。

(二五)十方一切の世界の中に、悉く、諸の如來を覲見たてまつることを得、諸の如來に於て虛妄無ければ、彼の人の所行は退轉せず。

若し清淨なる眞の法界の、甚深微妙の第一義を見ば、一切の癡妄も能く惑はすこと莫く、彼の行は能く功德の藏を成ぜん。

方便をもつて善く衆生の類を知り、眞實の妙法界に入り、自然に覺悟して他に由らざれば、彼の人の所行は虛空の如し。

無量無邊の諸の世界を、觀察するに究竟じて悉く寂滅し、一切の諸法は障礙無し、彼の人の所行は牟尼に勝る。

具足し堅固にして轉ず可からず、尊重なる最勝の法を成就せば、清淨の願滿ちて彼岸に到らん、諦かに菩薩の諸の所行を聽け。

無量無邊の一切の地は、智慧明達にして障礙無く、甚深微妙を境界と爲す、是を無畏の論師子と名く。◎

(二六)句句廣く分別して、深く妙智慧に入り、眞實に諸法を解れば、彼大牟尼を修するなり。

(二七)一切の惡を遠離して、常に能く衆生を利すれば、彼の人の功德藏は、諸の調御師に等し。

【二五】以下菩薩の行を頌す、中に於て、初の六偈は前の行業不思議を頌す。
【二六】總じて十行を頌す。
【二七】以下別して頌する中に初の六偈は歡喜行を頌す。

普く諸の群生に於て、常に施すに無畏を以てし、清淨にして染著無ければ、行ずる所倫比無し。意淨くして所著無く、寂靜にして口の過無く、妙功德を具足すれば、彼最勝の行を修するなり。究竟じて深義に度り、功德定りて盡くること無ければ、彼不死の行を修し、諸佛常に護念したまふ。

我と瞋恚の心とを離れ、妙音十方に滿ち、正法の敎に安住すれば、所行喩ふ可き無し。布施彼岸に到り、百福をもつて自ら莊嚴すれば、彼の慧は最も第一にして、能く衆をして歡喜せしむ。

〔三八〕普く深智の地に入り、安住して心動ぜざれば、彼の行は金剛の如く、堅固にして沮む可からず。

悉く諸の法界に入り、隨順して彼岸に到り、究竟じて自在を得るは、法日の所行なり。無等等の牟尼は、不二の法を修習して、心常に寂靜を樂ひ、智慧障礙無し。細微の世界の中に、大なる世界を容受して、境界了ぜざること無きは、智慧山王の行にして、普く諸の世間に於て、心淨くして所著無し。戒を持ちて彼岸に到るは、淨行の所行なり。

〔三九〕智慧量る可からず、虛空法界に等しく、深く具足の智に入るは、是れ勝れたる金剛の行なり。

【三八】 次の五偈は饒益行を頌す。

【三九】 次の四偈は無恚恨行を頌す。

智慧悉く、三世の諸の法界に充滿して、心常に懈怠無ければ、最勝の境に入る。
一切所至の道に、十力の法を分別して、身行に障礙無きは、勝智の所行なり。
一切十方界の、無量なる衆生の類を、菩薩は悉く救護するは、離癡の所行なり。
(二〇)諸佛の法を修習し、精勤にして懈怠無く、普く世間をして淨からしむるは、大龍の所行なり。
悉く衆生の根を知り、種種の欲を究竟じて、無量の性に了達するは、平等の所行なり。
普く十方界に於て、久しく無量の苦を受け、其の心に憂惱無きは、歡喜の所行なり。
諸の光明網を放ちて、普く諸の世間を照し、智慧の明を具足するは、善く慧を修するものの所行なり。
皆悉く能く、十方の無量界を震動して、常に能く一切を利して、恐怖を生ぜしめず。
(二一)善く語言の法を解り、分別して彼岸に到り、離垢の智慧明かなるは、不動の所行なり。
善く俯仰の國を解り、分別して彼岸に到り、無盡地を成就するは、最勝慧の所行なり。
(二二)無量なる諸の功德を、常に行じて菩提を求め、彼の功德の岸に到るは、大稱無盡の行なり。
無上の大論師、最勝の師子吼をもつて、衆をして悉く清淨ならしむるは、離垢の所行なり。

(二〇) 次の五は無盡行を頌す。
(二一) 次の二偈は離癡亂行を頌す。
(二二) 次の二偈は善現行を頌す。

【三】佛の甘露の灌頂は、授くるに法王の記を以てし、方便の法を究竟するは、大心の所行なり。
一切の衆を分別して、其の心に染著無く、決定して法藏を持するは、法王の所行なり。
一一の語言の中に、能く無量の音を出し、衆生各各解するは、無礙慧の所行なり。
語言の法を究竟して、分別して悉く了知し、諸の虚妄を遠離するは、眞實行の所行なり。
【四】法海印に安住して、善く一切の法を印し、法に實相無きことを了るは、方便身の所行なり。
能く一一の刹に於て、無量無數の劫に、諸劫を窮盡して行じ、其の心に憂厭無く、

【三】次の四偈は無著行を頌す。
【四】次の八偈は尊重行を頌す。

無數の諸の如來は、名號各同じからず、之を一毛孔に見るは、善修の所行なり。
一毛端の處に、普く無量の佛を見るが如く、一切諸の世界に、佛を見たてまつることも亦是の如し。
無量無數の劫を、能く一念の頃と作し、長に非ず亦短に非ざるは、解脱人の所行なり。
見る者悉く空しからず、修する所皆眞實にして、業行を壞す可からざるは最勝の所行なり。
無量無數の劫に、佛を觀たてまつりて厭き足ること無く、能く衆をして歡喜せしむるは、無礙慧

の所行なり。

無量無數の劫に、衆生界を觀察して、衆生も衆生に非ざるは、堅固士の所行なり◎

(三五)智慧の藏を具足し、清涼の功德池となりて、一切の衆を饒益するは、第一人の行ずる所なり。

法界は邊際無く、無量なること虛空の如く、語言に所著無きは、無畏の論師子なり。

一三昧の中に於て、無量の三昧に入り、彼の無上の堂に升るは、淨月論師の行なり◎

(三六)忍の彼岸を究竟じて、寂滅の法を堪忍し、瞋恚の心を遠離するは、無量智の所行なり。

一世界を離れず、一の坐處を起たずして、普く十方の刹に現ずるは、無量身の所行なり。

無量なる諸佛の刹は、能く一世界に入りて、佛刹增減せざるは、不思議の所行なり。

處と非處とを分別して、審諦に諸力に入り、無上の力成就するは、第一力の所行なり。

去來現在世の、一切諸の業報に、智慧退轉せざるは、明智の所行なり。

善く時と非時とを知りて、一切の衆を調伏し、教化時を失はざるは、善知時の所行なり。

【三五】次の三偈は善法行を頌す。

【三六】次の四十六偈は眞實行を頌す。

身行悉く皆善に、口意の行も亦然なり、一切に所著無きは、淨智意の所行なり。
智慧善く分別して、法辯窮盡すること無く、境界如實に等しきは、如來の所行なり。
無礙の功德藏と、喜樂の總持門とをもつて、深く諸の法界に入るは、隨入の所行なり。
悉く三世の佛と、等心にして異想無く、一相にして差別無きは、無礙の境界の行なり。
深く智慧の海に入り、諸の癡闇を除滅して、能く淸淨眼を與ふるは、淨眼の所行なり。
一切諸の導師は、常に不二の法を行じ、神通の力自在なるは、具足行の所行なり。
十方の佛刹の中に、普く妙法の雨を雨らし、衆をして實義を解らしむるは、法雲の所行なり。
普く諸佛の所に於て、堅固の信を逮得して、一切の智解脫すれば、所學悉く究竟す。
彼一念の中に於て、悉く衆生の心を知り、究竟じて心性を解るは、無性性の所行なり。
不思議の世界に、無量の身を變化して、無等に徧く遊行するは、諸行の中に比無し。
無量の世界の中の、現在の諸の如來と、菩薩摩訶薩とは、常に彼の佛の前に現ず。
菩薩は三昧に入りて、衆生は一身なるを見、菩薩三昧を出でて、衆は無量身なるを見る。
所行甚だ深妙にして、未だ曾て口の過有らず、悅樂の心無量にして、衆をして悉く歡喜せしむ。

無著の智を逮得して、分別して諸根を知り、其の心に所染無きは、無上なる調伏の行なり。
方便をもつて法を分別し、法に於て自在を得、一切の世界の中に、常に諸の佛事を作す。
菩薩の微妙の行は、所行虚空の如く、何人か此を聞くことを得て、其の心忻悦せざる。
彼の智は與等無く、慧眼一切を見、方便倫匹無きは、無等智の所行なり。
無盡の妙功德は、能く一切の惡を滅して、彼の淸淨の岸に到るは、無比の所行なり。
莊嚴の法を成就して、不退轉に安住し、無量の衆を度脫して、而も衆生の想無きは、
所修無諍の行なり。一切の智微妙にして、正法をもつて衆生を化するは、淨眼の所行なり。
一切の佛を恭敬したてまつりて、究竟の慧を具足し。無所畏を成就するは、方便智の所行なり。
普く能く一切の、世界と及び諸法とに入り、亦群生の類に入りて、無量の衆を度脫し、
偏く十方界に於て、無上の法鼓を撃ち、常に無量の法を施すは、不死の所行なり。
一身跏趺して坐して、無量の刹に充滿し、衆生迫迮せざるは、淸淨なる法身の力なり。
一味一義の中に、無量の義を分別し、演說して窮盡すること無きは、無邊慧の所行なり。
佛の解脫を修習して、智慧障礙無く、無所畏を成就するは、無量なる方便の德なり。
諸の世界海と、一切の佛刹海と、法海智慧海とを了りて、衆生界を度脫す。

或は菩薩の、入胎と及び出生とを見る有り、或は正覺を成ずることを見るは、無量の功德行なり。

處處の佛刹の中に、般涅槃を示現するも、眞實には涅槃無く、無畏の師は常住なり。

金剛の身には異り無く、應に隨ひて衆生に現ずるも、眞實に差別無きは、一身行の所行なり。

平等の法界は一にして、無量の義を具足し、常に三世の、一相無相の法を樂觀して、

彼の諸持の岸に到り、正法をもつて衆生を安んじ、諸佛の持を逮得するは、最勝の所行なり。

無染の妙法身には、慧の眼、清淨の耳あり、是れ悉く障礙無きは、無礙の所行なり。

諸の神通を究竟じて、深智慧を具足し、智慧最も殊勝なるは、方便智の所行なり。

心定まりて未だ曾て亂れず、智慧量る可からず、境界照さざる無きは、一切見の所行なり。

彼の功德の岸に到りて、無量の衆を度脫し、其の心に疲厭無きは、常修の所行なり。

一切知見の人は、諸佛の家に在りて生れ、普く三世の佛の、法の中に於て化生す。

語言の法成就して、諸の論師を摧伏し、無量の行を究竟し、隨ひて佛の菩提に隨入す。

能く一光明を放ちて、普く無量の刹を照し、世間の大明耀は、一切の闇を除滅す。

其の應に見るべき所に隨ひ、爲めに如來の身を現じて、群生の類を調伏し、一切の刹を嚴淨す。

(三七)菩薩の行は無量にして、一切能く知ること莫し、一切の行を示現して、衆生を度せんと欲するが故なり。

無量にして數ふ可からざる、衆生の法界に等しきありて、無數の劫に讃歎すとも、菩薩の德を盡すこと無し。

菩薩の德は無量にして、一切の德を究竟す、諸佛は無量の劫に、此の德を歎じたまふも盡すこと無し。

何に況んや世間の人、聲聞及び緣覺にして、無量劫に讃歎すとも、而も能く窮盡することを得ん。』

【三七】後の四偈は結歎顯勝を頌す。

卷の第十三

菩薩十無盡藏品第十八

爾の時に功德林菩薩摩訶薩、復た諸の菩薩に告げて言はく、

「佛子よ。菩薩摩訶薩に十種の藏有り、三世諸佛の演說したまふ所なり。何等をか十と爲す。信藏、戒藏、慚藏、愧藏、聞藏、施藏、慧藏、正念藏、持藏、辯藏、是を十と爲す。

(一)何等をか菩薩の信藏と爲す。此の菩薩は、一切の法は空にして眞實無しと信じ、一切の法は無相なりと信じ、一切の法は無願なりと信じ、一切の法は作者無しと信じ、一切の法は不實なりと信じ、一切の法は堅固無しと信じ、一切の法は無量なりと信じ、一切の法は無上なりと信じ、一切の法は度る可からずと信じ、一切の法は不生なりと信ず。若菩薩、是の如きの隨順せる淨信を成就せば、諸佛の法の不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず。一切の佛の不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず、衆生の不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず。法界の不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず。虛空界の不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず。涅槃界の不可思

【一】一、信藏。

議なるを聞くも、心に驚怖せず。過去世の不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず。未來世の不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず。現在世の不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず。一切の劫に入ること不可思議なるを聞くも、心に驚怖せず。何を以ての故に。菩薩は諸佛の所に於て、一向に信堅くして、沮壞す可からず。佛は是の如く佛の無盡無邊の智を知したまへり。十方一切の世界の、一一の世界の中の三世の無量無數の諸佛、世に出興したまひ、佛事を施行して、般涅槃したまふ。彼の諸佛の智慧は增さず減らず、生ぜず滅せず、盡きず去らず、近からず遠からず、智ならず、亂ならざるなり。

菩薩は是の如き等の無邊無盡の信藏を成就すれば、則ち能く如來の乘に乘ず。此の菩薩は是の如き等の無量無邊の信、不退轉の信、不亂の信、不壞の信、不著の信、有根の信、聖人に隨順する信、如來家性の信を成就すれば、則ち能く一切の佛法を護持し、一切の菩薩の善根を長養し、一切の如來の善根に隨順し、一切の佛の善方便より生る。是を菩薩摩訶薩の無盡の信藏と爲す。菩薩は此の信藏に住すれば、悉く能く諸の如來の法を聞持し、廣く一切の衆生の爲めに演說す。

【三】二、戒藏。

(三)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の戒藏と爲す。此の菩薩は饒益戒、不受戒、無著戒、安住戒、不諍戒、不惱害戒、不雜戒、離邪命戒、離惡戒、淸淨戒を成就す。何等をか饒益戒と爲す。此の菩薩は先

づ當に衆生を饒益し安樂にすべし。何等をか不受戒と爲す。此の菩薩は外道の戒を受けずして、三世の諸佛の平等なる淨戒を具足し奉持す。何等をか無著戒と爲す。此の菩薩は、欲界の戒に著せず、色界の戒に著せず、無色界の戒に著せず。何を以ての故に、彼に回向せざるが故なり。何等をか安住戒と爲す。此の菩薩は、清淨にして疑悔無き戒を成就す。何を以ての故に、菩薩は〔三〕五無間の罪を作らず、永く故らに一切の戒を犯さざるが故なり。何等をか不諍戒と爲す、此の菩薩は先制を非とせず、更に造立せず、心常に涅槃に向ふ戒に隨順して皆具足して持ち、毀犯する所無く、此の戒に由りて衆生を惱亂し共に相違諍せず。菩薩の戒を持つは、但衆生を饒益し、歡喜せしめんが故なり。何等をか不惱害戒と爲す。此の菩薩は持戒に因りて諸の呪術藥草を學び、衆生を惱害せず。何を以ての故に、菩薩は衆生を救護せんと欲するが故に、清淨の戒を持てばなり。何等をか不雜戒と爲す。此の菩薩は斷常の見を離れ、雜戒を持たず。但十二緣起を觀察して、清淨の戒を持つ。何等をか離邪命戒と爲す 此の菩薩は淨戒を持つの相を作して、他をして知らしめんと欲し、內に實德無くして實德の相を現ぜず。但淨戒を持ちて、一向に法を求め薩婆若を究竟せんのみ。何等をか不惡戒と爲す。此の菩薩は自ら貢高して我戒を持つと言はず。戒を犯す人を見るも、輕賤し

【三】五無間罪。父を殺し、母を殺し、阿羅漢を殺し、僧侶の和合を破り、佛身の血を出す之を五逆罪といふ、無間地獄に墮する因なるが故に五無間罪とも名く。

訶罵して、其をして憂惱せしめず。但其の心を一にして淸淨の戒を持つのみ。何等をか淸淨戒と爲す。此の菩薩は殺、盜、邪婬、妄語、惡口、麤言、兩舌、雜語、貪瞋恚、邪見を捨離して、具さに十善を持つ。是の菩薩は是の如き等の淸淨の戒を持つ時、是の念を作さく、

「若し衆生有りて淨戒を犯さん者は、斯れ顚倒 諸の煩惱に由るが故なり。一切の諸佛は、悉く分別して是の一切の衆生は、諸の顚倒に由りて、淨戒を毀犯すと知りたまふ。是の故に、我當に專ら佛道を求めて、無上菩提を究竟し、廣く衆生の爲めに眞實の法を說き、顚倒を離れ、淨く禁戒を持たしめ、悉く無上の菩提を究竟せしむべし」と。

是を菩薩摩訶薩の第二の無盡の戒藏と爲す。

(四)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の慚藏と爲す。此の菩薩は自ら宿命を憶ふに、無數世より來、(五)六親の所に於て無慚の行を行せり。或は侮慢して禮無く、或は婬亂にして節無く、忍害して親み無く、師を興して相伐ち、迷惑顚倒して、惡として造らざること無し、斯れ三毒、邪疑、使纏、虛僞、諂曲、諸の不善に由るが故なり。一切の衆生も亦復た是の如く、皆悉く諸の無慚の行を積習せり。斯れ無智乃至諂曲に由るが故なり。尊卑序を失ひて相ひ敬順せず、謙下して明哲を遵奉すること能はず、常に毒念を懷き、怨結滋甚だしく更に相屠害し、曾て恥ぢ懼るること無

【四】 三、慚藏。
【五】 六親。在家にては父母妻子兄弟を六親といひ、出家にては父母兄弟姉妹をいふ。

し、自ら我が身及び餘の衆生を惟ふに、去來現在に無慚の法を行せり、三世の諸佛知見したまはざることと無し。我當に云何んぞ猶ほ無慚を行ずべき、甚だ爲不可なり。是の故に、我當に慚の法を修習して、菩提を究竟し、廣く衆生の爲めに眞實の法を說き、其をして永く諸の無慚の法を離れ、菩提を成就せしむべし。

是を菩薩摩訶薩の第三の無盡の慚藏と爲す。

【六】四、愧藏。

六 佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の愧藏と爲す。此の菩薩は自ら愧づらく、「昔より來、色聲香味觸法、妻子眷屬、錢財寶物、僮僕車乘を貪り求めて、心に厭き足ること無し。我是の諸の非法の事を行ずべからざるなり。是に因りて貪恚愚癡、乃至諂曲を生長すること、復た是の念を作さく、

「衆生の行ずる所の、無愧の法は、皆無智、乃至諂曲、諸の惡法を以ての故に、相ひ承順し尊敬し供養せず、常に毒心を懷きて迭に相殘害す。我及び衆生は、去來現在に、愛樂し貪求して、是の法を習行せり。是の法に因るが故に、生死に受胎して、無量の諸苦あり、三世の諸佛に、皆悉く知見したまふ。我猶ほ是の無愧の法を行せば、三世の諸佛は皆歡喜したまはじ。我當に愧法を修習して、菩提を究竟し、廣く衆生の爲めに、是の如きの法を說きて、無愧を離れ佛道を成就せしむべし」と。

是を菩薩摩訶薩の第四の無盡の愧藏と爲す。

(七)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の多聞藏と爲す。此の菩薩、聞くこと多きとは、所謂る、是の事有るが故に、是の事有り。是の事無きが故に是の事無し。是の事起るが故に是の事起り。是の事滅するが故に是の事滅す。是れ世間の法、是れ出世間の法。是れ有爲の法、是れ無爲の法、是れ有記の法、是れ無記の法なりと知るなり。何等をか是の事有るが故に是の事有りと爲す、所謂る、無明有るが故に行有り。何等をか是の事無きが故に是の事無しと爲す、所謂る、識無きが故に名色無し。何等をか是の事起るが故に是の事起ると爲す、所謂る、愛起るが故に苦起る。何等をか是の事滅するが故に是の事滅すと爲す、所謂る、有滅するが故に生死滅す。何等をか世間の法と爲す、所謂る、色受想行識なり。何等をか出世間の法と爲す、所謂る、戒身、定身、慧身、解脫身、解脫智見身なり。何等をか有爲の法と爲す。所謂る、欲界、色界、無色界、衆生界なり。何等をか無爲の法と爲す、所謂る、虛空、涅槃、(八)數緣滅、(九)非數緣滅、十二緣起、及び法界なり。何等をか(一〇)有

【七】五、多聞藏。

【八】數緣滅。數とは慧の心所にして慧は揀擇力なり、慧の揀擇力に緣りて諸惑を斷じて得たる滅理の義、新譯三藏は擇滅と譯せり。

【九】非數緣滅。慧の力を以て惑を斷じて得るに非ずして本性淸淨及び緣闕けて生ぜざる所に顯はるる滅理をいふ、所謂、非擇滅無爲なり。

【一〇】有記。記とは記別又は記錄の義にして、通じていはば、果を感招する力ある善惡の法をいふ、今は記別せらるべき法の意にして、唯善のみを取る。されば此に有記無記といふは普通の善惡無記の相對と義を異にすることを知るべし。

記の法と爲す。所謂る、（二）四眞諦、四沙門果、四辯、（三）四無所畏、四念處、四正勤、四如意足、五根、五力、七覺支、八聖道分なり。何等をか（三）無記の法と爲す。所謂る、世間は有邊なり、世間は無邊なり、世間は有邊無邊なり、世間は有邊に非ず無邊に非ず、世間は有常なり、世間は無常なり、世間は有常無常なり、世間は有常に非ず無常に非ず。如來の滅後は、去るが如しといふも受けず。如來の滅後は去るが如くならずいふも亦受けず。如來の滅後は去るが如く去るが如くならずといふも亦受けず。如來の滅後は如去に非ず如去にあらざるに非ずといふも亦受けず。我有り衆生有り。我無く衆生無く。我有り我無く。衆生有り衆生無く。有我に非ず無我に非ず。衆生有るに非ず衆生無きに非ず。過去に幾の如來滅度したまひ、幾の聲聞、緣覺滅度したる有りや。未來に幾の如來、幾の聲聞緣覺、幾の衆生の生ること有らんや。現在に幾の佛、幾の聲聞緣覺有るや。何等の如來か最初に出世したまひしや。何等の聲聞緣覺か最初に出世したるや。何等の衆生か最初に生れしや。何等の如來か最後に出世したまはん。何等の聲聞緣覺か最後に出世せん。何等の衆生か最後に生れん。何等の諸法か

【二】四眞諦。苦集滅道の四聖諦のこと。

【三】四無所畏。佛の說法し給ふとき畏怖の相なきこと、一に一切智無所畏、二に漏盡無所畏、三に說障道無所畏、四に說出苦道無所畏これなり、又菩薩の說法にも四無畏の相あり。

【三】無記法。通じていはば、善惡を記別すべからざる非善非惡の中間性の者にして果を感招する力なきものをいふ、今は虛妄の推度、非理の問難の答ふべきものにあらざるをいふ

最も初に在りしや。何等の諸法か最も後に在らん。世間は何の處よりか來り、去るに何の所にか去る。幾の世界の成ずること有るや。幾の世界の壞すること有るや。世界は何の所よりか來り、去るに何の所にか到る。何等か爲生死の最初の際なる。何等か爲生死の最後の際なる。是を無記の法と名く。菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、

「衆生は長夜に生死に流轉して、童蒙凡夫は道を修することを知らず。我當に晝夜に精勤に學問して、一切の諸佛の法藏を受持し、究竟じて無上菩提を成就し、廣く衆生の爲めに、眞實の法を說きて、普く一切をして無上道を成せしむべし」と。

是を菩薩摩訶薩の第五の無盡の多聞藏と爲す。

【四】六、施藏。

（四）佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の施藏と爲す。此の菩薩は十種の施を修行す。所謂、修習施法、最後難施法、內施法、外施法、內外施法、一切施法、過去施法、未來施法、現在施法、究竟施法なり。

何等をか菩薩の修習施法と爲す。此の菩薩は本より以來、平等の施を修し、珍饌美味をも自ら貪著せずして一切に惠み施す。其の餘の諸の物も亦復た是の如し。施せし所の餘あれば然る後に自ら食して、是の念言を作さく、「我が身中の八萬戶の蟲の爲めの故なり。我が身安樂なれば彼も亦安樂なり。我が身饑に苦めば彼も亦饑に苦む」と。是の故に菩薩の食を服する所有るは、皆諸蟲の爲めに安

樂ならしめんと欲して、其の味を貪らず。菩薩は復た是の念を作さく、「我長夜に身の爲めに飮食を貪り求む。當に勤めて精進して、速かに此の身を離るべし」と是を菩薩の修習施法と爲す。

何等をか菩薩の最後難施法と爲す。此の菩薩、若し種種の上味の飮食、香華、衣服、資生の具を得んに、若し自己に受用せば、則ち快樂にして長壽ならんも、若し悉く以て人に施さば、則ち窮苦にして夭命せん。時に乞人有りて一切を求索せんに。菩薩は自ら念へらく、「吾本際より以來、身を喪ふこと無數なるも、未だ曾て己を損して一りの衆生をも利せず。今大利を獲たるは希有の慶なり。當に身命を捐棄し、悉く一切を捨てて衆生を饒益し、大施を究竟すべし」と。是を菩薩の最後の行じ難き施法と爲す。

何等をか菩薩の內施法と爲す。此の菩薩は少壯の時に於て形體端嚴にして顏容殊特に、澡浴清淨にして、上妙の衣を服し、嚴飾の具をつけ、灌頂轉輪王の位を受け、〔一五〕七寶具足して、四天下に王たり。時に乞人有り、來りて王の所に詣り、自ら陳白すらく、「大王當に知るべし。我今衰老して、身は重疾に嬰り、煢獨にして苦厄するも、人の贍救する無く、生路既に窮り、必ずや死地に之かん。若し王身を得ば、應に用ふべき處に隨ひて、或は手足を須ゐ、或は血肉を須ゐ、或は頭目を須ゐ、或は髓腦を須ゐん。若し大王仁慈をもつて、窮老を矜哀したまひ、貪身を捨

【一五】七寶。轉輪聖王の感得する七種の寶にして金輪（或は銀、銅、鐵の輪あり）象寶、紺馬寶、神珠寶、主藏臣寶、玉女寶、主兵臣寶これなり。

離して、以て我を救ひたまはば、必ずや天施を蒙りて性命を全うしたまふことを得んこと、菩薩は卽ち是の念を作さく、「今我が此の身も、亦當に彼の如くなるべし。會應に死に歸しなば、一の饒益することも無けん。宜しく時に、身を捨て以て其の命を濟はん」と。念じ已り、歡喜して彼の衆生に施せり。是を菩薩の內施法と爲す。

何等をか菩薩の外施法と爲す。此の菩薩は少壯の時に於て、形體端嚴にして、顏容殊特に、澡浴清淨にして、上妙の衣を服し、嚴飾の具をつけ、灌頂轉輪王の位を受け、七寶具足して、四天下に王たり。時に乞人有り、來りて王の所に詣り、是の如き言を作さく、「大王當に知るべし、我今衰老して、身又疾に嬰り、餘命幾くも無く、此の貧苦に終らんとす。而も王は一切の快樂を具足したまへり。善い哉、大王、願はくは王位を捨てて我に哀み施したまへ。我當に天下を統領して、王の福樂を受くべし」と。菩薩卽ち是の念を作さく、「富貴は無常なり、必ず貧賤に歸せん。若し貧賤に在らば、饒益する處無く、衆生の願ふ處を遂げ滿ずること能はじ。是の故に我今宜しく速に、位を捨てて其の意を稱悅せしめん」と。念じ已りて、歡喜して卽ち之を捨て與へたり。是を菩薩の外施法と爲す。

何等をか菩薩の內外施法と爲す。此の菩薩は少壯の時に於て、形體端嚴にして、顏色殊特に、澡浴清淨にして、上妙の衣を服し、嚴身の具をつけ、灌頂轉輪王の位を受け、七寶具足して、四天下に王た

り、時に乞人有り、來りて王の所に詣り、是の如き言を作さく、「大王當に知るべし、今我老邁して身又疾に嬰れり。衰賤を以てせず、竊かに美號を悕ふ。善い哉、大王、願はくは、王の身と、七寶の天下と、轉輪王の位とを以て、以て我に授け、我をして具足して王の慶樂を受けしめたまへ」と。菩薩卽ち是の念を作さく、「我が身と財寶とは、倶に堅固に非ずして、無常危脆なる磨滅の法なり。我今盛壯にして、富は天下を有し、乞ふ者も現前して、三事具足せり。是の故に此の不堅固の法に於て、當に堅固なることを求むべし」と。是の念を作し已りて、倍大いに歡喜し、卽ち內外を捨てて、之を施與せり。是を菩薩の內外施法と爲す。

何等をか菩薩の一切施法と爲す。此の菩薩は少壯の時に於て、形體端嚴にして、顏容殊特に、香湯に沐浴し、上妙の衣を服し、嚴身の具をつけ、灌頂轉輪王の位を受け、七寶具足して四天下に王たり。時に乞人有り、來りて王の所に詣り、是の如き言を作さく、「大王當に知るべし、大王の名稱は、普く十方に聞えたり。我乃ち彼の國に在りて、王聞を伏承し、自ら遠くより來り、請ふ所有らんと欲す。善い哉大王、願はくは欲する所に隨ひて、我が意を充滿せしめたまへ」と。爾の時に乞ふ者、或は國域、妻子、眷屬、肢節血肉、頭目髓腦を求めたり。爾の時に菩薩、是の思惟を作さく、「一切の恩愛は、會はゞ當に別離すべし、饒益する所無くば、衆生の諸願を果し遂ぐること能はじ。我今應當に負

愛の行を離れ、一切速かに捨てて、衆生を饒益すべし」と。是の念を作し已りて、倍大いに歡喜し、悉く一切を捨てて、衆生に惠み施せり。是を菩薩の一切施法と爲す。

何等をか菩薩の過去の施法を修習すと爲す。此の菩薩は過去の諸佛菩薩の所行と、具足せる功德とを聞き、聞き已りて著せず。非有なりと了達して妄想を起さず。不貪不味にして、諸法を觀察し、心に所倚無く、諸法は夢の如く、堅固有ること無ければ、諸の善根に於て、有想を起さず、心に所著無し。但衆生を化せんが爲めの故に、其の身を示現して、廣く道教を說き、衆生をして佛法を成就せしめんと欲す。又復た過去の諸法を觀察し、十方推求して、觀んとすれども得可からず。菩薩は是の如く觀じ已りて、復た此念を作さく、「過去の諸法は皆悉く捨離せん」と。是を菩薩の修習過去施法と爲す。

何等をか菩薩の未來の施法を修習すと爲す。此の菩薩は、未來世の諸佛菩薩の所行の善根は、功德を具足せることを聞き、聞き已りて相を取らず、心に所有無く、彼の方の佛刹に往生せんことを求めず、諸求の想無く、行願を生ぜず、心を攝して散ぜず、味はず厭はず、善根を以て彼に回向せず。彼に生ぜんが爲めに、專ら善根を修せず亦廢捨せず。但彼の境界に因りて、衆生を敎化し、衆生をして佛法を具足せしめんと欲して、眞實を觀察す。此の眞實の法は處所有るに非ず、處所無きに非ず。內に非ず外に非ず、遠きに非ず近きに非ず、復た是の念を作さく、「若し法有に非れば、捨てざる可か

らず」と。是を菩薩の修習未來施法と爲す。

何等をか菩薩の現在の施法を修習すと爲す。此の菩薩は、四天王天、三十三天、夜摩天、兜率陀天、化樂天、他化自在天、梵天、梵身天、梵輔天、梵の眷屬天、大梵天、光天、少光天、無量光天、光音天、淨天、少淨天、無量淨天、徧淨天、密身天、少密身天、無量密身天、密果天、不煩天、不熱天、善現天、善見天、色究竟天、聲聞緣覺の功德を具足せることを聞き、聞き已りて心惑亂せず、正念不妄にして、懈けず沒せず、亦憂慼せず。其の心寂滅にして、而も所取無し。菩薩は唯是の念を作さく、「一切の諸行は皆悉く夢の如く、一切の所行は皆眞實に非ず。衆生は知らざるが故に、惡道に流轉すと」。菩薩は彼に於て廣く爲めに法を說き、諸惡を遠離して、佛法を成就せしめ、菩薩の道を修して、心に惑亂無し。是を菩薩の修習現在施法と爲す。

何等をか菩薩の究竟施法と爲す。此の菩薩摩訶薩は無量の衆生の、形類同じからざる有りて、其の所に往詣し、是の如きの言を作さく、「我須むる所有り、幸に周給を垂れたまへ。我か意既に足らば仁の願も亦滿せん」と。菩薩是の語を聞き已りて、歡喜踊躍して、其の求むる所に隨ひ、施して滿足せしむ。菩薩摩訶薩は內に自ら初の入胎よりして不淨(二六)微形、(二七)胞段諸根、生老病死を觀察し、

【二六】微形。微は[illegible]又は痏なり、身の不淨なること痏の如し故に不淨の微形といふ。

【二七】胞段。胞は胞胎なり、肉身は胞胎の聚合なるが故に胞段といふ。

又具さに此の身を觀ずるに眞實有ること無く、所有の相無く、無慚愧の物にして、賢聖の捨つる所、惡露臭の所にして、猶ほ死屍の如し。骨節相ひ持して、血肉泥塗し、九竅の門は常に不淨を流がす。菩薩は身の無量なる過患を見て、乃至一念をも起して是の身を貪惜せず。復た是の念を作さく、「此の身は危脆なり。我當に云何んが、旣に此の身の無量なる過患を見て、而も貪著を生ずべき。應當に喜捨して彼の衆生に施し、其の願を充滿せしむべし。我當に此の不堅の法の中に於て堅固の法を求め、一切の衆生をして、其の願ふ所に隨ひて、悉く滿足することを得しむべし。開悟示導して、皆淸淨の法身を逮得し、無所住に住し、身心の相を離れしむべし」と。

是を菩薩摩訶薩の第六の無盡の施藏と爲す。

【八】七、慧藏。

(一八)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の無盡の慧藏と爲す。此の菩薩は、色の苦を知ること實の如く、色の集を知ること實の如く、色の滅を知ること實の如く、色の道を知ること實の如く。受想行識の苦を知ること實の如し。識の集を知ること實の如く、識の滅を知ること實の如く、識の道を知ること實の如く、無明の苦を知り、無明の集を知り、無明の滅を知り、無明の道を知る。愛の苦を知り、愛の集を知り、愛の滅を知り、愛の道を知る。聲聞を知り、聲聞の法を知り、聲聞の集を知り、聲聞の涅槃を知る。緣覺を知り、緣覺の法を知り、緣覺の集を知り、緣覺の涅槃を知る。菩薩を知り、菩薩の法

を知り、菩薩の集を知り、菩薩の涅槃を知る。云何んが知る、業報と因緣とに從ひて造らるる諸行は、我に非ず、堅固に非ず、眞實無く、空にして所有無しと知り。諸法の堅固の相を取らず、諸法に所有の相を取らざるなり。一切の法は悉く所有無しと知りて、廣く衆生の爲めに眞實の法を說く。云何んが爲めに說く。一切法は壞す可かずと。何等か不可壞なる。色も不可壞なり、受想行識も不可壞なり、無明も不可壞なり、聲聞の法、緣覺の法、菩薩の法も不可壞なり。何を以ての故に、一切の法は自作にあらず、他作にあらず、言語の道斷え、一切の處を離れ、生ぜず、起らず、施さず、受けず、心意有ること無ければなり。菩薩は是の如き等の無盡の慧藏を成就し、少しの方便を以て、則ち能く一切諸法の善妙の方便を逮得し、自然に明達して、他に由りて悟らず。此の智慧藏に十種の不可盡有り。何等をか十と爲す。多聞善方便の不可盡。善知識に親近する不可盡。一句の法を演ぶる不可盡。深法界に入る不可盡。無量の智慧莊嚴に入る不可盡。諸の功德藏を出生し長養して、心に憂厭無き不可盡。一切の陀羅尼門に入る不可盡。一切衆生の語言音聲を分別し了知する不可盡。善く衆生をして諸の疑惑を離れしむることを得る不可盡。一切の佛の自在を得て衆生を敎化する所行を示現して成就する不可盡。是を十種の不可盡の法と爲す。

是を菩薩摩訶薩の第七の無盡の慧藏と爲す。菩薩此の無盡の慧藏に住せば、疾く無上平等の正覺を

得ん。

(一九)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の無盡の念藏と爲す。此の菩薩は癡冥を捨離して、過去の一生、十生、百生、千生、萬生、乃至阿僧祇の思議す可からざる、分際無き、不可說の億那由他の生、成劫、壞劫、成壞劫、一成劫に非ず、一壞劫に非ず、一成壞劫に非ず、百劫千劫、百千億那由他劫、乃至阿僧祇の思議す可からざる無分齊、不可說の億那由他劫を憶念す。一佛の名號、乃至不可說不可說の諸佛の名號を念知し。一佛の記を授くることを、乃至不可說不可說の諸佛の記を授くることを念知し。一佛の出世を念知し、乃至不可說不可說の諸佛の出世を念知し。一佛より受けし所の一修多羅、乃至不可說不可說の佛に受けし所の、不可說不可說の修多羅を念知し、(二〇)祇夜、授記、(二一)伽陀、因緣、(二二)優陀那、(二三)本事、本生、(二四)方廣、(二五)未曾有、譬喩、(二六)優波提舍も亦復た是の如し。一會衆の一時の說法、乃至不可說不可說の時會の說法を念知し。一根、乃至不可說不可說の諸根を念知し。一煩惱、乃至不可說不可說の諸の煩惱を念知し。一三昧、乃至不可說不可說の諸の三昧を念知

【一九】八、念藏。
【二〇】祇夜(Geya)、重頌と譯す。
【二一】伽陀(Gāthā)、不重頌、諷頌等と譯す。重頌に非ざる單獨の韻文をいふ。
【二二】優陀那(Udāna)。無問自說と譯す。多くは偈の形を以て說かれたり。
【二三】本事。菩薩の過去世に於ける生處、事緣等を說きたるもの。
【二四】方廣。義豐かなる圓滿の法理を說きたるもの。
【二五】未曾有。希有不可思議の事を說きたるもの。
【二六】優波提舍(Upadeśa)。論議と譯す。佛自ら法相を分別し論議問答して理を辨明したるもの。

す。菩薩は是の如きの念を作さく、
「妙念、淨念、不濁念、偏淨念、離塵念、種種の塵を離れたる念、離垢念、光耀念、樂念、無障礙念なり」と。
此の菩薩は是の念を作す時、一切の世間も嬈亂すること能はず、諸根淸淨にして復た染著せず。一切世間の衆魔外道も壞すること能はざる所なり。一切諸佛の法藏を念持し、決定して明かに了り、未だ曾て錯亂せず。
是を菩薩摩訶薩の第八の無盡の念藏と爲す。
(二七)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の、無盡の聞持藏と爲す。此の菩薩は諸佛の所に於て、一品の修多羅を聞持し、乃至不可說不可說の修多羅を聞持して、未だ曾て一字一句をも忘失せず。一生の中に於て忘失せず、乃至不可說不可說の生にも、未だ曾て一字一句をも忘失せす。一佛の名號を聞持し、乃至不可說不可說の佛の名號を聞持し。一世界の名字を聞持し、乃至不可說不可說の世界の名字を聞持し。一劫の名字を聞持し、乃至不可說不可說の劫の名字を聞持し。一如來の記を聞持し、乃至不可說不可說の如來の記を聞持し。一修多羅を聞持し、乃至不可說不可說の修多羅を聞持し、一會の名字を聞持し、乃至不可說不可說の會の名字を聞持し。一時の說法を聞持し、

【二七】九、聞持藏。

乃至不可說不可說の時の說法を聞持し、一根を聞持し、乃至不可說不可說の諸根を聞持し。一煩惱を聞持し、乃至不可說不可說の煩惱を聞持し。一三昧を聞持し、乃至不可說不可說の三昧を聞持す。是を菩薩摩訶薩の第九の甚深なる無盡の聞持藏と爲す。此の聞持藏は唯佛のみの境界にして、餘は能く及ぶこと無し。

【二八】十、辯藏。

(二八)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の無盡の辯藏と爲す。此の菩薩は甚深の智慧を成就して、廣く衆生の爲めに諸法を演說して、一切諸佛の經典に違はず。一品の法を說き、乃至不可說不可說品の法を說き。一佛の名號を說き、乃至不可說不可說の諸佛の名號を說き。一世界の名字を說き、一佛の記を說き、一修多羅を說き、一會を說き、一時の說法を說き、一根を說き、一煩惱を說き、一三昧を說き、乃至不可說不可說の諸の三昧を說く。或は一日に一句一味の法を說きて盡すこと無く、乃至不可說不可說の劫に、一句一味の法を說きて而も窮盡すること無く。一切の諸劫は尙ほ窮盡す可くとも、一句一味を說くことは窮盡す可からず。何を以ての故に、此の菩薩は十種の無盡藏を成就するが故なり。此の藏を成就するが故に、一切の法を攝する陀羅尼門を得て現在前し、百萬阿僧祇の陀羅尼を以て眷屬と爲せり。此の菩薩、百萬阿僧祇の陀羅尼の眷屬を成就し已りて、法の光明辯才を以て廣く衆生の爲めに、深法を演說し、廣長舌を以て妙

音聲を出し、一切十方の世界に充滿して、諸根に隨順して煩惱を除滅し皆歡喜せしむ。善く一切の音聲に入り、一切の文字に於て、不斷の辯を得、普照の法門に入りて、一切の衆生は如來の種子の斷ず可からざることを說くが故に、菩薩の一切の諸行を捨てず、心に憂厭無し。何を以ての故に、此の菩薩は虛空法界に充滿する淸淨の法身を成就するが故なり。是を菩薩摩訶薩の第十の無盡辯藏と爲す。此の藏は無量にして分齊無く、無閒にして壞す可からず、無斷にして斷ず可からず、退轉せず、甚深にして底無く、一切の法門を以て一切の佛法に入る。

【三九】十無盡藏を結歎す。

〔三九〕佛子よ、是れ爲菩薩摩訶薩の十種の無盡藏にして、一切の衆生をして、無上菩提を究竟成就せしむるなり。此の藏に十種の無盡の深法有り。何等をか十と爲す。一切の衆生を饒益するが故に。善く回向するが故に。本願を斷たずして、一切の功に行ずるが故に。心無量無邊にして、平等なること虛空の如しと觀察するが故に。有爲に回向して無爲に著せざるが故に。一切の法は無盡にして、念念に境界を知るが故に。大願壞す可からざるが故に。諸力と陀羅尼行とを究竟するが故に。諸佛護念したまふが故に。一切の法の幻化の如きに入るが故に。是は爲十種の無盡法にして、能く一切の衆生をして無盡藏を得しむ」

如來昇兜率天宮一切寶殿品第十九の一

(一)爾の時に佛の威神力の故に、十方一切の世界の、諸の四天下の、一一の閻浮提に、皆如來の菩提樹に坐したまふ有りて、顯現せざる無し。彼の諸の菩薩は、佛の神力を承けて、種種の法を說き、皆悉く自ら佛の所に在りと謂へり。爾の時に如來、自在の神力を以て、菩提樹の座及び須彌頂の妙勝殿上の、夜摩天宮の寶莊嚴殿を離れずして、兜率天宮の一切寶莊嚴殿に趣きたまへり。

(二)時に彼の天王遙かに如來の來りたまへるを見たてまつりて、即ち殿上に於て、如意寶藏の師子座を敷き、種種の天寶を以て之を莊嚴せり。過去に修習せし善根の得る所、一切如來の威神に護持せられ、數ふ可からざる那由他の阿僧祇の善根の生ずる所、一切の諸佛の淨法の起す所、一切衆生の共に莊嚴する所、無量の功德の成就する所、一切の惡を離れたる淸淨の業報にして、一切樂觀して厭足有ること無く、世間を出離したる諸法の起す所、淸淨にして汚無く、一切世間の因緣の起す所、一切の衆生見るとも盡すこと能はざるなり。無量の莊嚴具を以て之を莊嚴せり。所謂る、百萬億の欄楯あり、百萬億の寶網を其の上に羅覆し、百

【一】第五會序說。初めに本會圓現を敍す。
【二】天王道場を莊嚴することを敍す。

萬億の華帳を以て其の上に張り、百萬億の華鬘を以て四邊に垂れ、百萬億の香帳普く十方に熏じ、百萬億の寶帳を以て其の上に帳り、百萬億の華蓋を諸天執持し、百萬億の華鬘の蓋、百萬億の寶蓋を以て其の上に蓋ひ、百萬億の寶衣を以て其の上に敷き、百萬億の妙寶の樓閣は、百萬億の如意寶王網其上に羅覆し、百萬億の勝妙なる雜網、百萬億の衆寶の瓔珞、間錯して垂れ下り、百萬億の衆妙の雜寶、百萬億の雜寶の網蓋を以て其の上に覆ひ、百萬億の雜寶の網衣あり、百萬億の妙寶の蓮華は開敷し光曜し、百萬億の無厭の香網は普く十方に熏じ、百萬億の大寶の帳網を以て其の上に覆ひ、百萬億の寶鈴は微動して和雅の音を出し、百萬億の旃檀の寶帳は普く十方に熏じ、百萬億の雜寶の妙華を以て其の上に散じ、百萬億の雜色の寶衣を以て其の上に覆ひ、百萬億の菩薩の大帳、百萬億の雜寶の蓋帳、百萬億の清淨の金の帳、百萬億の淨き琉璃の帳、百萬億の雜寶藏の帳、百萬億の一切寶の帳を以て其の上に覆ひ、百萬億の雜寶の妙華は周帀圍繞し、百萬億の寶形像の帳、百萬億の衆の妙寶の鬘あり、百萬億の香鬘は普く十方に熏じ、百萬億の天の曼陀羅、旃檀の色香具足して、普く十方に熏じ、百萬億の天の莊嚴具、百萬億の妙寶の華鬘、百萬億の勝妙なる寶藏、百萬億の勝寶藏の鬘、百萬億の清淨の寶鬘、百萬億の海寶藏の鬘、百萬億の因陀羅金剛の妙寶あり、百萬億の妙寶の繒綵は以て垂帶と爲し、百萬億の無量自在の妙寶、百萬億の眞金の寶藏は清淨微妙にして、百萬億

の毘樓那の寶を以て照耀と爲し、百萬億の(三)因尼羅寶、雜寶校飾し、百萬億の(四)首羅幢の寶は、光曜明淨に、百萬億の火珠寶は、大光明を出して普く十方を照し、百萬億の天の堅固寶を以て窻牖と爲し、百萬億の淨功德の寶は無量の妙色あり、百萬億の雜寶の徧閣、淸淨の妙藏あり、百萬億の大海月の寶、百萬億の離垢藏の寶あり、百萬億の心王の寶は無量にして歡喜し、百萬億の師子面の寶、百萬億の閻浮檀の寶、百萬億の一切世閒の淸淨藏の寶、百萬億の一切世閒の因陀羅幢の寶、百萬億の(五)羅闍藏の寶、百萬億の須彌山王の殊勝幢の寶、百萬億の解脫の妙寶あり、百萬億の瑠璃の鬘網、周帀して垂れ下り、百萬億の赤色の寶鬘、百萬億の樂摩尼の寶、百萬億の淸淨の樂寶、百萬億の衆の雜寶藏、百萬億の赤色にして解脫樂見の妙寶・百萬億の無量の色寶の鬘、百萬億の無比の寶、百萬億の淨光明の寶には、普く照して殊勝に百萬億の摩尼の寶像、百萬億の因陀羅の寶あり。百萬億の黑沈水香は普く十方に熏じ、百萬億の不可思議なる衆雜の妙香は、普く十方の一切佛刹に熏じ、百萬億の十方の妙香は、普く世界に熏じ、百萬億の最殊勝の香は、普く十方に熏じ、百萬億の香像は、香十方に徹し、百萬億の所樂に隨ふ香は、普く十方に熏じ、百萬億の淨き光明の香は、普く衆生に熏じ、百萬億の種種の色香は、普く佛刹に熏じ、

【三】因陀羅寶 Indranīla。帝釋青寶と譯す。

【四】首羅(Śilā)。玻璃又は璧玉と譯す。

【五】羅闍(Rāja)。譯して王といふ。

不退轉の香、百萬億の塗香、百萬億の旃檀塗香、百萬億の香熏香、百萬億の蓮華藏の黒沈香の雲は十方に充滿し、百萬億の丸香の煙雲は十方に充滿し、百萬億の妙光明の香は常に熏じて絶えず、百萬億の妙音聲の香は、能く衆の心を轉じ、百萬億の明相香は普く衆味に熏じ、百萬億の能く開悟する香は瞋恚を遠離し、諸根を寂靜にして十方に充滿し、百萬億の香王香は普く十方に熏じ、百萬億の天の華雲雨、百萬億の天の香雲雨、百萬億の天の末香雲雨、百萬億の天の妙蓮華雲雨、百萬億の天の種種の寶華雲雨、百萬億の天の靑蓮華不斷雲雨、百萬億の天の寶蓮華雲雨、百萬億の天の分陀利華雲雨、百萬億の天の曼陀羅華雲雨、百萬億の天の一切雜華雲雨、百萬億の天の種種なる衣雲雨、百萬億の天の雜寶普照十方雲雨、百萬億の天の種種なる蓋雲雨、百萬億の天の無量色の旛雲雨、百萬億の天の冠雲雨、百萬億の天の種種に莊嚴せる天冠雲雨、百萬億の天の莊嚴具雲雨、百萬億の雜色の天蓋雲雨、百萬億の種種なる大莊嚴の天蓋雲雨、百萬億の種種なる色の天の旃檀雲雨、百萬億の天の沈水香雲雨を雨らす。百萬億の天の寶幢、百萬億の天の雜旛、百萬億の天帶垂れ下り、百萬億の天の和香は、普く十方に熏じ、百萬億の天の妙功德の寶鬘垂れ下り、百萬億の天の(六)多羅寶は懸布光曜し、百萬億の天拂を執持して侍立し、百萬億の天の金鈴網は微風に吹動せられて妙なる音聲を出し、百萬億の天寶欄楯は周帀圍繞し、百萬億の天の多羅寶の鐸は

【六】多羅(Tāla)。貝多羅樹のこと。

周囘して四もに繞り、百萬億の天の雜寶樹は圍繞して覆蔭し、百萬億の天の雜寶の樓閣は其內を莊嚴し、百萬億の天の勝寶門あり、百萬億の天の眞金の鈴は微風に吹動せられて和雅の音を出し、百萬億の淸淨なる天鬘は布列して垂れ下り、百萬億の天の(七)蘇婆提寶雜りて相解脫し、百萬億の天の金剛藏の衆妙の瓔珞、百萬億の天の雜寶蓋を諸天執持し、百萬億の天の雜寶網、百萬億の天の雜寶藏光曜殊特にして、百萬億の天の淨き光明は、普く十方を照し、百萬億の大光普く曜き、百萬億の日藏光明は普く一切を照し、百萬億の雜色の月光、百萬億の離癡の淨香、百萬億の天の妙華藏は開敷鮮茂し、百萬億の寶網藏、百萬億の華網、百萬億の香網を以て其の上に覆ひ、百萬億の天の雜寶衣を以て其の上に敷き、百萬億の天の諸寶衣は處處に敷置せられ、百萬億の天の靑色衣、百萬億の天の雜黃衣、百萬億の天の雜朱衣、百萬億の天の雜色衣、百萬億の天の雜寶衣、百萬億の種種の熏衣、百萬億の殊勝の寶衣は、能く衆生をして歡喜の心を發さしむ、是の如き等の衣を以て其の上に敷き、百萬億の白淨の妙衣を以て其の上に覆ひ、百萬億の天の幢寶鈴は微妙の音を出し、百萬億の白淨の寶幢は微風に吹動せられて、妙なる音聲を出し、百萬億の天の繒綵幢、百萬億の香幢は衆の香網を出し、百萬億の華幢は一切の華を雨らし、百萬億の天の妙衣の幢、百萬億の摩尼寶の幢、百萬億の天の一切莊嚴具の幢、百萬億の天の鬘

【七】蘇婆提。具さには塞縛悉底迦(Svastika)。吉祥又は有樂と譯す。其の形滿字の如き寶なり。

幢は四面に行列せり。百萬億の天の蓋幢の一切の寶鈴は妙なる音聲を出す。

〔八〕百萬億の天蝶は妙音聲を出し、百萬億の天鼓は大音聲を出し、百萬億の天琴は微妙の音を出し、百萬億の天の〔九〕牟陀羅は大音聲を出し、百萬億の天の娛樂具、百萬億の天樂の音聲は十方一切の佛刹に充滿し、百萬億の化音聲は聲十方に徹し、衆生の聞く者は悉く響の如しと解り、百萬億の天の妓樂の音は同時に倶に作り、百萬億の天の神力妓樂は相和の音を出し、百萬億の一切諸天の娛樂の具は妙音聲を出し、百萬億の妙音は如來を讃歎し、百萬億の勝妙の喜音は如來を讃歎し、百萬億の甚深の音聲は如來を讃歎し、百萬億の種種の音聲は佛の果報を歎じ、百萬億の細微の音聲は三界を出づるの法を稱揚し讃歎し、百萬億の寂靜の音聲は如來の本修行せし所を讃歎し、百萬億の音は如來の百萬億の劫に永く瞋恚を離れたることを讃歎し、百萬億の供養をもつて過去の諸佛を供養したることを讃歎し、百萬億の法門は如來を讃歎し、百萬億の音は一切の菩薩の功徳の窮盡す可からざることを讃歎し、百萬億の音は菩薩の一切諸地の功徳具足したることを讃歎し、百萬億の音は、諸佛の厭足有ること無きを讃歎し、百萬億の音は見佛の行を稱揚し讃歎し、百萬億の音は深法を讃歎し、其の音を聞く者は、深智慧を得て障礙有ること無し、百萬億の妙音は十方一切の世界に充滿し、百萬億の妙音は諸の衆生を歎じ、其の志願に

【八】以上は色相の莊嚴、以下は音聲の莊嚴を叙す。

【九】牟陀羅（Mardala?）譯して鉢鼓と云ひ、三面の鼓なり。

隨ひて皆歡喜せしめ、百萬億の音は一切の世間を歎じ、其の音を聞く者は一切法の眞實の性を解り、百萬億の音は如來を讃歎し、其の音を聞く者は悉く能く一切の如來を恭敬し、百萬億の音は佛の境界の一切の功德を歎じ、百萬億の音は諸の總持の善妙なる方便を歎じ、善く一切の諸法を分別することを知り、一切諸の如來の法を聞持し、百萬億の音は甚深具足の諸法を讃歎し、百萬億の音は發心の菩薩の一切種智を修習し長養することを歎じ、百萬億の音は治地の菩薩の其の心歡喜せることを歎じ、百萬億の音は修行地の菩薩の清淨の解脫を歎じ、百萬億の音は生貴の菩薩の心に安住を得たることを歎じ、百萬億の音は方便具足の菩薩の摩訶衍に於て究竟じて決定せることを讃歎し、百萬億の音は善現の菩薩の一切の菩薩の所行を具足せることを歎じ、百萬億の音は不退の菩薩の所行は一切の諸地に皆悉く清淨なることを讃歎し。百萬億の音は童眞の菩薩の光明普く一切の十方を照すことを歎じ、百萬億の音は王子の菩薩の善く甚深不可思議の諸佛の境界に入ることを歎じ、百萬億の音は灌頂の菩薩の能く一切諸の如來力を現ずることを歎ず。

(10)百萬億の神力自在ありて、百萬億の清淨の解脫は百萬億の清淨解脫を出生し、百萬億の大歡喜の法を長養し、百萬億の不壞の信に住し、百萬億の勇猛の力を長養し、百萬億の名聞の法を長養し、百萬億の法義を分別

【一〇】以上、外事の莊嚴を叙し竟り、以下內法の莊嚴なり、卽ち勝德を出生し、座の德用を顯はす。

して廣く定慧を說き、百萬億の正念淸淨にして亂れず、百萬億の定慧を出生し、百萬億の陀羅尼は悉く能く一切の佛法を受持し、百萬億の廣大の智慧を出生し、百萬億の深心を出生して佛を信じ、信根堅固となり、百萬億の淸淨の檀波羅蜜を出生し、百萬億の尸波羅蜜を出生し、百萬億の羼提波羅蜜を出生して、恚心を生ぜず諸佛の羼提波羅蜜を具足し、百萬億の毗梨耶波羅蜜を出生して、究竟して無量の毗梨耶波羅蜜を具足し、百萬億の禪波羅蜜を出生して、無量の諸禪は寂靜にして照明なり、百萬億の般若波羅蜜を出生して、一切の法を照し、百萬億の淸淨の大願を出生し、百萬億の諸の深法門の智慧の燈明を出生し、十方の諸佛の百萬億の深妙の法門を出生し、百萬億の癡を離れて示現する善妙の方便を出生し。百萬億の諸法の行を出生し、普く百萬億の諸佛の刹に入り、百萬億の淸淨の法身十方一切の佛刹に往詣し、百萬億の如來の微妙なる音聲を出生し、百萬億の一切種智、善妙の方便を出生し、百萬億の具足の法門を出生し、百萬億の正法智見を出生して、悉く一切諸佛の實法を見ること猶ほ寶幢の如く、百萬億の智慧を出生して、如來の境界の障礙する所無きを示現す。

〔二〕百萬億の諸天神王は恭敬して禮拜し、百萬億の龍王は一心に諦觀して厭き足ること無く、百萬億の夜叉王は合掌して敬立し、百萬億の乾闥婆王は一心に恭敬して目暫くも捨てず、百萬億の阿修羅

【二】以上器世間の莊嚴を竟り、以下は衆生世間の莊嚴を辯す。

王は憍慢を斷除して敬心に侍立し、百萬億の寶金翅鳥王は口に繒帶を銜み。百萬億の緊那羅王は歡喜して立侍し、百萬億の摩睺羅王は踊躍歡喜して一心に諦觀し、百萬億の婆羅門王は恭敬して禮拜し、百萬億の一切世間の諸王は恭敬頂禮し、百萬億の諸の釋天王は恭敬し尊重して一心に觀察し、百萬億の夜摩天王は踊躍歡喜して高聲に讃歎し、百萬億の兜率陀天王は恭敬して禮拜し、百萬億の化樂天王は恭敬し讃歎し、百萬億の他化自在天王は合掌し恭敬して一心に侍立し、百萬億の梵天王は一心に觀察し、百萬億の摩醯首羅天王は恭敬し讃歎し、百萬億の菩薩は恭敬し讃歎し、百萬億の天女は恭敬し供養し、百萬億の願天は敬心に頂禮し、百萬億の宿命に善知識に親近せる天は妙聲に讃歎し、百萬億の梵身天は布身敬禮し、百萬億の梵輔天は恭敬頂禮し、百萬億の梵の眷屬天は圍繞して侍衞し、百萬億の天の梵王は無量の功德を讃歎し稱揚し、百萬億の光天は五體を地に投じ。百萬億の少光天は佛世の値ひ難きを宣揚し讃歎し、百萬億の無量光天は讃歎し禮拜し、百萬億の光音天は如來の遇ひ難く見難きことを讃歎し、百萬億の淨天は恭敬し禮拜し、百萬億の少淨天は恭敬し禮拜し、百萬億の無量淨天は佛を見たてまつらんことを樂ふが故に、虛空の中より自ら投じて來下し。百萬億の徧淨天は合掌して敬住し、百萬億の密身天は本の功德を憶ひて稱揚し讃歎し、百萬億の少密身天は如來の想を生じて一心に見んことを求め、百萬億の無量密身天は淸淨の善業をもつて恭敬し禮拜し、百萬億の密

果天は布身敬禮し、百萬億の無煩天は堅固の信を得て恭敬し禮拜し、百萬億の無熱天は合掌し觀察して心に厭足無く、百萬億の善現天は恭敬し禮拜し、百萬億の善見天は無量の佛所を憶念して恭敬し供養して心に厭足無く、百萬億の(三)阿迦尼吒天は恭敬し禮拜し、百萬億の種種の天は皆大いに歡喜し恭敬し讃歎し、百萬億の諸天は種種の善慧を以て之を莊嚴せり。

【三】阿迦尼吒天。具さに阿迦尼師吒(Akaniṣṭha)と譯して色究竟天といふ、色界十八天の最上天なり。

卷の第十四

如來昇兜率天宮一切寶殿品第十九の二

百萬億の諸大菩薩は頂戴護持し、百萬億の華手菩薩は一切の華を雨らし、百萬億の香手菩薩は一切の香を雨らし、百萬億の鬘手菩薩は一切の鬘を雨らし、百萬億の抹香手菩薩は一切の抹香を雨らし、百萬億の衣手菩薩は一切の寶衣を雨らし、百萬億の幢手菩薩は一切の幢を雨らし、百萬億の旛手菩薩は一切の旛を雨らし、百萬億の寶手菩薩は一切の寶を雨らし、百萬億の莊嚴手菩薩は一切諸の莊嚴具を雨らし、百萬億の諸天は天の種種に莊嚴せる宮殿を以て而も以て莊嚴し、歡喜天子は百萬億の諸天の莊嚴せる宮殿を以て之を莊嚴し、百萬億の生貴天子は法身普く覆ひ、百萬億の灌頂天子は舉身に座を持せり。百萬億の菩薩の清淨の大願を出生し、百萬億の菩薩の初の清淨身を出生し、菩薩の百萬億の柔輭利根を出生し、百萬億の禪藏皆悉く清淨なり、菩薩の百萬億の清淨の解脱は、菩薩の百萬億の諸の清淨業を嚴治し、菩薩の百萬億の安住生貴地を出生し、菩薩の百萬億の法門を出生して、普く一切を照し、百萬億の菩薩の諸地を成就して、百萬億の大衆を教化し調伏す。百萬

億の諸の善根の起す所、百萬億の諸佛護持し、百萬億の功德の成ずる所、百萬億の直心の莊嚴淸淨に、百萬億の大願の莊嚴淸淨にして、百萬億の善行の起す所、百萬億の諸法充滿し、百萬億の自在神力の成就する所、百萬億の諸の功德の起す所、百萬億の讚法を以て之を讚歎せり。

此の世界の四天下の兜率陀天宮の、一切寶莊嚴殿に、如來の爲めに摩尼寶藏の師子の座を敷くが如く、十方一切の諸佛の世界の諸の四天下の兜率陀天宮の、一切寶莊嚴殿に、如來の爲めに摩尼寶藏の師子の座を敷くことも亦復た是の如し。

〔二〕爾の時に兜率陀天王、如來の爲めに高座を敷き竟りて、計る可からざる阿僧祇の兜率陀天子と倶に、如來を奉迎へたてまつり、阿僧祇の色の上妙なる諸華を雨らして如來を供養したてまつり、不可思議の香を雨らし、無量色の鬘を雨らし、上妙の旃檀を雨らし、無量種種の寶蓋を雨らし、細妙の天衣を雨らし、無量の雜寶を雨らして如來を供養したてまつり、歡喜の心を以て天の上妙なる諸の莊嚴具を雨らし、種種の香を燒きて、香氣普く十方の世界に熏じ、旃檀抹香、沈水抹香、堅固抹香を雨らして如來を供養したてまつり、無量の天子は、各其の身より無量無數の諸の天子の身を出し、阿僧祇の兜率陀天子、及び他方より來りし諸の天子衆は、皆大いに歡喜し、恭敬して禮を作し、阿僧祇の天女衆も歡喜すること無量にして、一心に寂然として如

【二】以上は十方の天王、主伴の座を莊嚴すること竟り、以下は佛を迎へ供養を興すことを叙す。

來を諦觀したてまつり、數ふ可からず說く可からざる諸の大菩薩は、悉く他方の兜率天より來りて、虛空に住し、不可思議なる諸の供養の具を以て、如來を供養したてまつりて、一切諸天の供養に出過し、阿僧祇の勝妙なる音聲を以て如來を讚歎したてまつれり。

(三)佛の神力の故に、過去の諸佛の所にて善根を修せしが故に、如來の不可思議なる自在神力の故に、一切の兜率陀天子、及び諸の天女は、一心に恭敬し靜默にして佛を觀たてまつり、咸是の念を作さく、『如來の出世は甚だ值遇すること難く、功德具足し、智慧無礙にして、平等に正覺したまへるを我今見たてまつることを得たり』と。◎是の念を作し已りて、皆大いに歡喜し、阿僧祇那由他の兜率陀天子、佛の所に來詣して、各身上の天衣を以て種種の寶を盛り、又身上の天衣を以て種種の香を盛りて、一切の寶衣、諸の莊嚴具、旃檀の抹香、沈水の抹香、天の妙寶の抹香、諸天の香華、天の曼陀羅華を盛りて、普く十方に散じて如來を供養したてまつり。◎億那由他の無數の天子は、種種上妙の供具を以て虛空を莊嚴し、衆の妙香を燒きて香氣雲を成し、十方一切の虛空に充滿せり。智境界の心の故に、天の華雲を雨らして虛空を莊嚴せり。如來の所に於て歡喜の心を起すが故に、一切天の蓋雲を雨らして虛空を莊嚴し、十方に充滿せり。佛を敬ふの心を得るが故に、一切の天の鬘雲を雨らして虛空を莊嚴し

【三】以上自分の供、以下は勝進の供なり。

十方に充滿せり。佛を供養するが故に、阿僧祇の白淨の寶網を以て、徧く虚空に滿たし以て莊嚴を爲し、衆の金鈴を懸けて之を間錯し、自然に微動して妙なる音聲を出し、三乘を悟る者には解脫を得しめ、無數の寶帳虚空を莊嚴し、十方に彌覆せり。如來の所に於て深信を得たるが故に、普く一切の妙寶鬘雲を雨らして未だ曾て斷絕せず、阿僧祇の諸天の宮殿を以て虚空を莊嚴し、一切の天樂は微妙の音を出して十方に充滿せり。至心に踊悅して佛を尊敬するが故に、阿僧祇の種種の妙衣を以て、虚空を莊嚴せり。佛の出生には遇ひたてまつること難しとの心を得るが故に、阿僧祇の諸天の寶冠を雨らして虚空を莊嚴せり。如來の所に於て欣敬の心を得るが故に、阿僧祇の上妙なる衆寶、及び天の寶鬘を雨らして虚空を莊嚴せり、無數億那由他の天子は各身より阿僧祇の種種なる色の華を出して、如來を供養したてまつり窮盡有ること無し。如來の所に於て歡喜し恭敬するが故に、無數の種種なる所樂に隨ふ香を以て如來を供養したてまつる。如來の所に於て歡喜し恭敬するが故に、阿僧祇の旃檀の抹香を以て如來を供養したてまつる。如來の所に於て無比の歡喜を得るが故に、種種の寶蓋を以て如來を供養したてまつる。念佛三昧を長養するが故に、無數の種種なる上妙の寶衣を以て道路に布き如來を供養したてまつる。如來の所に於て歡喜恭敬を得るが故に、無量無數の雜色の寶幡を以て如來を供養したてまつる。如來の所に於て無量の歡喜心を得るが故に、阿僧祇の雜色の寶幢を以て如來を供養した

てまつる。如來の所に於て歡喜恭敬を得るが故に、無數の天の樂を以て微妙の音を出して如來を供養したてまつり、其心常に定まり未だ曾て散亂せず。不可說億那由他の菩薩は、兜率陀天宮に於て、三界を離れたる一切の供具を以て、眞實の法より生じ、諸の煩惱を離れ、大慈の心十方に充滿して障礙有ること無く、方便諸の甚深の法を具足せり、唯諸佛のみ有りて、乃ち能く測量し、餘は能く及ぶこと無し。堅固なる淨信の長養する所、不可思議なる善根の生ずる所、無數の變化因力の起す所、諸の如來の眞法より化生せる無行の法印なり。一切の寶蓋は普く法界を覆ひて、如來を供養したてまつり、諸天の一切の供ふる所に出過し、一切の波羅蜜の起す所なり。一切の華帳普く法界を覆ひ、諸天の供養する所の上なるに出過して、如來を供養したてまつる。淸淨の解脫は一切諸佛の境界に充滿すればなり。一切の寶衣普く覆ひて、一切の法界を莊嚴し、諸天の供養する所の上なるに出過して如來を供養したてまつる、無生法忍の起す所なり。雜寶の鈴網普く覆ひて、一切の法界を莊嚴し、諸天の供養する所の上なるに出過して如來を供養したてまつる、無礙の智慧に入ればなり。一切の堅固の香を以て法界を莊嚴し、諸天の供養する所の上なるに出過して、如來を供養したてまつる、一切の法は猶ほ幻化の如しと解ればなり。一切妙寶の高座を敷置して法界を莊嚴し、諸天の供養する所の上なるに出過して、如來を供養したてまつる、其の心の境界は如來と等しく、座處の境界も亦如來と同じ

ければなり。一切の寶幢を建てて法界を莊嚴し、諸天の供養する所の上なるに出過して、如來を供養したてまつる、善く時に應じて如來を供養したてまつることを解ればなり。一切の寶殿を以て法界を莊嚴し、諸天の供養する所の上なるに出過して、如來を供養したてまつる、一切の法は夢の如しと解ればなり。種種の寶華を以て法界を莊嚴し、諸天の供養する所の上なるに出過して、如來を供養したてまつる、無著の善根の生ずる所にして一切の法界に充滿すればなり。此等の無量の菩薩は皆身より一切の堅固の香雲、一切の雜色華雲、一切の雜色衣雲、一切の栴檀香雲、一切の莊嚴寶蓋雲、一切の種種の香雲、一切の華鬘雲、一切の淸淨莊嚴具雲を出し、諸天の供養する所の上なるに出過して、如來を供養したてまつる。無量の菩薩は如來の眞實の功德を稱歎し、永く顚倒を離れて、正法に安住し、一切の力を具へて能く衆生をして諸の惡難を離れ、善道を開示せしめ。一音の中に於て無量の法を演べ、一切の陀羅尼より生ずる辯才の藏は窮盡す可からず、無畏を具足して、心常に歡喜せり。菩薩は是の如き等の無量の妙法を以て、如來を讚歎したてまつり、法身は虛空法界に充滿し、心は三世の諸の如來と等し。

【三】爾の時に一切諸の天衆、及び他方より來れる諸の天子衆、幷びに數ふ可からざる諸佛の刹の一切の菩薩は、如來等正覺を見たてまつり、不可思議なる人中の雄は、其の身無量にして、稱り數ふ可

【三】佛の勝德を觀ることを叙す。初に法界身の無邊の德用を見ることを明かす。

からず、不可思議の神足を示現し、一切の衆生をして皆大いに歡喜せしめ。周徧して一切の虚空に充滿し、諸佛の功德は一切の法界を莊嚴して、一切の衆生をして一切の善根に安住せしむ。神力を成就して、一切諸の語言の道を出過し、一切の菩薩は恭敬し供養し。應に化すべき所に隨ひて身を現じて救度し、一切の清淨なる善根を具足す。如來の無上なる功德を顯現し、智慧の境界は窮盡す可からず、無比の三昧の出生する所、法身は、普く一切の衆生に至りて分際有ること無し。一切の衆生をして皆大いに歡喜せしめ。一切種智を斷たず、佛の所住に住し、三世の諸佛の家に於て生れ、無盡の衆生を皆清淨ならしめ、悉く能く一切の菩薩の清淨なる智慧を出生して、一切の菩薩の諸根を發起せしむ。一切の法雲は普く法界を覆ひ、如來の教化は究竟じて餘すこと無く、其の願ふ所に隨ひて、悉く滿足せしめ、淸淨なる平等正智に安立して、一切衆生の上に出過し、一切智を得。正覺の眼を以て普く世間を觀じ、其の先世に修せし所の善根に隨ひて、悉く能く示現して、普く大心を發さしめ、衆生愛樂し、智慧安住して能く壞る者無く、善く衆生を知り、諸刹を分別して。不退轉の善法の中に於て生れ、法性を壞せずして、法界を分別し、如來の身を現ずること無量無邊なり。癡妄を遠離して眞實に安住し、一切の衆生數ずとも能く盡すこと無し。一切を教化して念佛三昧を修せしめ、法界に充滿して衆生を度脫すること無量無邊なり。本の請ふ所悉く能く化度し、其の所應に隨ひて法を以

て惠み施し、種種の方便をもつて衆生を調伏し、彼の欲性に隨ひて悉く淸淨ならしむ。色身の不可思議なるを示現して等しく衆生を觀じ、心に所著無く、無礙の住に住して、所見障ふること無し。善く如來の一切の諸力を解りて、心常に寂定にして、未だ曾て散亂せず。一切智に住して、善能く句身味身の眞實の義を演說して、悉く能く深く無量の智海に入り。無量の功德慧藏を出生せしむ。如來日出でて、普く法界を照し、衆生の願力は常に住して沒せず。佛の所住に住して堅固不壞なり。我我所に於て心に所著無く、行ずる所の諸法は永く世間を離れ、一切の世に於て染汚する所無し。大衆會に在りて智慧の幢を建て、智慧は一切の世間を超出して染著する所無し。大悲心を以て衆苦を拯拔して、衆生を深妙の智に安立せしめ、衆生を饒益するの功德は盡ること無く、悉く善く菩薩の智慧を分別して、佛に向ふ道を信じて最正覺を成じ、大慈を出し大悲を顯現するなり。佛身に量無くして、諸法の莊嚴、種種の音聲は、無量の法を演べ、其の所應に隨ひて其の願を充滿し、去來今に於て心常に淸淨にして、悉く群生をして境界に著せざらしめ、能く一切諸の菩薩に記を與へ、三世の諸の如來の家に生れしめ、普く十方に於て智慧礙ふること無く、一切悉く至りて、而も所著無く、諸佛の世界に於て、眞實を了達し、善能く一切衆生の出生の功德を分別して、普く一切世間の燈明と爲り、生死の垢惱も能く染著すること無し。佛の智慧の月は普く法界を照して、諸法の無眞實

の性に了達し、無量の深智をもつて、平等なることを觀察し。慧心明淨にして、普く十方を照し、諸法の夢の如く化の如きを解了して。一切世間の心と諸佛の心と及び諸の業報と、其の所應に隨ひて眞實を顯現す。衆生の根に隨ひて爲めに佛身を現じ、如來の境界は、悉く能く一切の衆生を容受して、普く衆生の行ずる所の諸法を知り、其の相自性有ること無しと解了し。一切世間の一性と非性とを知り。衆生に隨順して有性に示現し、衆生をして三界を超出し、一向に正しく無上菩提に趣かしめんと欲し、一切の衆生を救護し拯濟して、未だ曾て世間の相を妄取せずして、諸の煩惱を滅し。正しく世間を觀じ、大乘の(四)轡勒にて行ずる所亂れず、一切諸法の善利を成就して、悉く能く衆生の善根を分別し、業報清淨に智慧明了にして、等しく三世に入り、永く世間の一切の虚妄を離る。光明網を放ちて普く十方を照し、一切の衆をして普く如來を見たてまつらしめ、一切十方の佛刹の相好具足せることを分別し樂觀するに厭くこと無からしむ。菩薩の行ずる所は功德智慧の興起する所にして、善能く諸根の境界を分別し、行ずる所の佛事は其の時を失はず。三世の諸佛の無量の方便を成就して、慈悲普く一切の衆生を覆ひ、周徧して普く陀羅尼の雨を降らし。皆諸佛の功德を成就し、無量の妙色をもつて佛身を莊嚴し、十方の衆生瞻視せざる靡く、一切世間の障礙を除滅し、諸法を分別して、眞

【四】轡勒。勒は馬のくつわ、轡はくつわづななり。大乘の教を轡勒として、行を制御するの意。

實の義を解り、功徳を成就せしむ。自在の法王は、功徳日の王にして、普く能く一切世間を照曜し、最上の福田は一切智慧の縁に依因りて生じ、化身は一切の世間に充滿し、一一の化身は普く無量の智慧光明を放ち。無礙の天繒を頂に冠むれる法王は、功徳無量にして悉く能く隨順して世間を分別し。無上の導師は群生を開化し、如來の智慧は一切世間の無畏の乘なり。一切世間の無上なる醫王は、衆生の病む所の輕重を了知し、永く癡冥を離れ、堅固不退ならしめ、淨慧の眼藏をもつて善能く一切の世間を分別し、衆生の一切の業報を開示して、衆生の苦病を悉く能く除滅し、無量の方便をもつて之を度脱せしめ、其の所應に隨ひて、常に時を失はず、等しく衆生を觀じて、諸惡を遠離し、業報を示現すること猶ほ幻化の如く。其の所應に隨ひて爲めに佛身を現じ、普く衆生をして悉く導師を見たてまつらしめ、世間の一切の諸法を分別し、歡喜して佛を敬ひ、善根を長養して、不退轉を得しめ、彼の所業に隨ひて皆分別して知る。一切の衆生は長へに生死に眠る、如來世に出でたまひて能く之を覺悟し、世間を安慰にし、怖畏すること無からしめ、心に所著無く、能く壞する者無く、智慧に安住して方便具足せり。如來最勝は衆生を嚴淨し、智慧山王は淨き法門を開き、或は佛身を現じ、或は菩薩を現じて、衆生を開導して衆惡を遠離し、善地に安置せしむ。無量の功徳は佛身を莊嚴し、業行の成する所世間に示現し、一切の智慧彼岸に到ることを得、佛道を成ずる時悉く清淨ならしむ。能く

世間の一切の願ふ所を滿し、世間に堅固の善友を開示す。光明清淨にして徧く十方を照し、普く衆生の爲めに其の身を示現して、無量の衆生の慳垢を滅除し。悉く衆生の善根を清淨ならしめ、其の願ふ所に隨ひて皆滿足することを得。等しく衆生を觀ずるに上中下無く、善根を攝取して清淨の業を起し、衆魔を降伏し煩惱を除滅して、無量なる無礙の力を出生す。一切世間の淨光明王は、無礙の慧日にして、癡冥を照除し、常に法を以て一切の衆生に施し。無量無邊の如來の智藏は、光明清淨にして普く十方を照し、一切の衆生をして怨仇を遠離し、其の願ふ所に隨ひて皆悉く充滿せしむ。最勝の福田には歸依せざる靡く、果報無量にして、具足清淨に、少しく善根を修して大功德を獲、衆生を無盡智の地に安置す。一切の善根は皆心に由りて起り、無量の歡喜清淨の功德は、能く衆生の惡道の諸難を除く。是の如く如來を正念し、是の如く正覺を觀察し、是の如く智慧の淵に入り、是の如く功德の海に入り、是の如く虛空の智慧に至り、是の如く衆生の福田を知り、是の如く正しく如來を知り、是の如く淨業相好を觀察し、是の如く正しく法身の普く十方を照すことを知り、是の如く佛の一切の不可思議なる自在神力を示現したまふことを知る。

【五】二に佛身の光明の妙用を見ることを明かす。

(五)爾の時に諸天、如來の身を見たてまつるに、一一の毛孔より阿僧祇億那由他の光明を出し、一

一の光明に阿僧祇の妙色有り、阿僧祇の淸淨照明、阿僧祇の佛刹、阿僧祇の衆生、阿僧祇の歡喜長養、阿僧祇の佛の勇猛精進淨、阿僧祇の寂滅三昧、阿僧祇の諸根淸淨柔輭、阿僧祇の如來を恭敬するあり。◎爾の時に諸天復た佛身を見たてまつるに、不可思議なる雜色の光明輪を出し、一一の光明輪に不可思議の色有り、不可思議の照明、普く十方無量無邊の一切の法界を照し。如來の無量無數なる自在神力を示現し。衆生は皆淸淨の妙香を聞ぎ、又自然に不可思議の偈を出して、出世間の法を宣揚し演說し、世を離れたる善根を具足し成就して。阿僧祇億那由他の不可思議なる上妙の莊嚴を顯現し、不可思議の劫に光明を讚歎すとも窮盡すること能はず、如來の無盡なる自在の中より生ずればなり。悉く普く不可思議の刹を照現し、諸佛出世したまひて、衆生を智慧門に安立し、眞實の義に入らしめ。不可思議なる如來の化身を顯現して。普く無量無數の不可思議なる諸佛の世界、及び諸の法界、十方一切の世界、究竟の法界、虛空界を照し。一切の世界を持するが故に起り、普く衆生をして淸淨に平等ならしむ、如來の無礙一切智なる佛の所住より生ずればなり。又佛身の中より無量無數の不可思議なる妙寶の光明を出す。本無量無數の不可思議なる諸の如來の所に於て、功德を修せしが故に、是の光明を得たり。淸淨なる大願善根の起す所。無量の佛の所にて淸淨なる不放逸の行を修習し、一向に專ら無上の菩提を求めたれば、是の光明を得たり。無量無邊の善根を出生して、

普く衆生をして如來の所に於て疑惑を除滅し、如來を見たてまつることを得しむ。又自在の神力を觀て、無量の衆生を勝れたる善根門に安立し、衆生海を度し、一切の佛刹に於て諸の菩薩の爲めに、諸佛の不思議の法を演說す。

〔六〕爾の時に如來、大慈悲を以て普く一切を覆ひ、一切の智慧莊嚴を示現して、無量無邊の不可思議なる諸佛の世界の、一切の衆生をして未だ信ぜざる者には信ぜしめ、已に信ずる者は善根を增長せしめ、已に增長せる者は其をして淸淨ならしめ、已に淸淨なる者は其をして成熟せしめ、已に成熟せる者は其をして解脫せしめんと欲して、甚深の法を得、無量の智慧光明を具足す。誓願を滿足して一切智の心堅固にして轉ぜず、法性を壞せず、眞實際を聞きて驚怖せず、如來の實法を具足し解達して、一切諸の波羅蜜を滿足し、淸淨なる出世の善根を成就し、普賢の所行を具足し修習し、如來の無量なる自在を成就す。魔界を遠離して佛の境界に入り、甚深の法を解りて不思議の智を得、大乘の宏願は堅固にして轉ぜず、常に諸佛を見たてまつりて、無量の智と無量無邊の功德藏の力とを得、勝妙の心を發して、疑網地を離れ、惡を滅して淸淨となり、常に如來に依りて、眞實の法に於て堅固にして轉ぜず、一切諸の菩薩衆に入ることを得て、常に三世の諸の如來の家に在り。如來は是の如き等の類の無量無數の淸淨なる善根を顯

【六】次には此の身雲を現ずる意を明かす。

現して、衆生を調伏し、悉く彼をして佛の功徳を知らしめんと欲するなり。一切の無礙の慧藏を照明し、如來の不可思議なる大神通力は、一切趣に於て普く自在を現じ、本志願せし所は皆悉く滿足して淨慧を具足し、諸佛の最勝善逝を究竟し、法王の一切の自在を成就して、一切の智門を具足し出生し、最勝の清淨なる法身を成就し、三世の諸佛の功徳は平等にして、一切の世間に能く喩と爲すもの無く、相好にて身を嚴り。諸力を具足して見るに厭き足ること無し。一切劫に於て、如來の智慧の功徳、自在の示現を稱說すとも、窮盡す可からず、一切の菩薩は究竟する能はず、普く衆生の爲めに慧日を圓滿して、三世の闇を滅し、法王の神力自在を逮得して、無量なる清淨の功徳を出生す。

(七)爾の時に兜率天王は、如來の爲に是の如き等の諸の供具を設け已りて、無量無數の阿僧祇の兜率陀天子と倶に恭敬し合掌して、佛に白して言さく、『善來世尊、善來正覺、唯願はくば哀愍して、此の宮殿に處したまへ。』

(八)爾の時に世尊、佛の莊嚴を以て自ら莊嚴し、衆生の見たてまつる者は敬樂せざる無く、一切の菩薩の願ひ求むる所、兜率の諸天をして皆大いに歡喜せしめ、普く衆生をして佛の境界を修し、佛の善根を種ゑ、功徳無盡にして、清淨不可壞の信を逮得せしめ、常に佛を供養したてまつりて心に厭ひ

【七】天王の敬請を叙す。
【八】佛請を受け益を成することを明かす。

倦むこと無く、正心清淨にして衆生を發起し、一切智を求めしめんが故に、兜率天王の請を受けて、卽ち一切寶莊嚴殿の、如意寶藏の師子の座に昇りたまひぬ。此の四天下の兜率天宮の如來、請を受けて一切寶莊嚴殿の、如意寶藏の師子の座に昇りたまひしが如く、一切十方の諸の四天下の兜率天宮の、一切寶莊嚴殿の如意寶藏の師子の座も亦復た是の如し。

爾の時に一切寶莊嚴殿は、自然に殊特となり、妙寶をもつて莊嚴せること、諸天の莊嚴の上なるに出過し、一切の寶網其の上に彌覆し、普く一切の妙寶雲雨、一切の寶莊嚴雲雨、一切の寶衣雲雨、一切の栴檀雲雨、一切の堅固香雲雨、一切の雜寶莊嚴雲雨、不可思議なる衆の華雲雨を雨らし、自然に不可思議なる妓樂の音聲を演出して、如來の一切種智、微妙の法言を宣揚せり。是の如きの一切の諸の供養の具は、悉く諸天の供養する所の上なるに過ぎたり。

爾の時に佛の威神力は、兜率天王の爲めの故に、一切の音樂寂然として聲無く、復た天王の正念を擾亂せず、善根を長養し、大心を增益し、勇猛精進して、甚だ大いに歡喜し、正心清淨にして、卽ち無上菩提の心を發し、諸の法門に於て、總持して忘れず。

爾の時に兜率天王、佛の神力を承けて、卽ち自ら過去佛の所にて種ゑし所の善根を憶念して、偈を以て頌して曰はく、

『無礙の如來は猶ほ滿月のごとく、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて衆寶莊嚴殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

無邊の如來は智甚だ深く、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて淸淨金色殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

普眼如來は甚だ明淨にして、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて寶藏蓮華殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

珊瑚如來は色鮮潔にして、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて淸淨寶藏殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

最勝如來は論師子にして、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて因陀寶山殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

滿月如來は德無量にして、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて妙華寶藏殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

無量如來は光際無く、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて寶樹莊嚴殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

寶幢如來は疑惑を離れ、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて妙寶莊嚴殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

無量慧佛は人師子にして、諸の吉祥の中にて、最も第一なり、來りて香山莊嚴殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。

功德如來は光普く照し、諸の吉祥の中にて最も第一なり、來りて勝寶莊嚴殿に入りたまひき、是の故に此の處最も吉祥なり。』

此の閒の兜率天王、佛の神力を承けて、過去の諸の等正覺を憶念し、偈を以て讃歎せしが如く、是の如く十方一切の世界の兜率天王も、各自ら過去佛の所にて種ゑし所の善根を憶念し、偈を以て讃歎したてまつること亦復た是の如し。

爾の時に世尊、一切寶莊嚴殿の如意寶藏の師子の座に昇りて、結跏趺坐したまひぬ。淸淨の法身三世の諸佛の境界自在は皆悉く平等にして、一向に寂靜なり。一切諸佛の莊嚴を以て自ら莊嚴し、無量無數の不可思議なる淸淨の大菩薩衆は、悉く他方の世界より來り集り、如來時を知して爲めに法を說きたまふ。法身不二にして染著する所無く、諸佛の起す所の如來の法身は、諸の所行を離れたり。◎爾の時一切寶莊嚴殿は、自然に無量無數なる不可思議阿僧祇の諸の供養具ありて、殊特奇妙

にして、諸天の供養する所の上なるに出過せり。所謂る、華鬘、塗香、抹香、寶衣、幢蓋、繒旛、種種の衆寶、妓樂をもつて恭敬し供養して如來を讃歎したてまつる。是の如き等の不可思議なる一切の供養の諸の莊嚴具は、此の世界の四天下の兜率天宮の一切寶莊嚴殿の如意寶藏の師子の座の如く、一切十方の諸佛の世界も亦復た是の如し。

兜率天宮菩薩雲集讃佛品第二十

[一]爾の時に佛の神力の故に、十方各萬の佛世界塵數の刹を過ぎて、外に世界有り、堅固寶と名け、次を堅固樂と名け、次を堅固寶王と名け、次を堅固金と名け、次を堅固摩尼と名け、次を堅固金剛と名け、次を堅固蓮華と名け、次を堅固青蓮華と名け、次を堅固栴檀と名け、次を堅固香と名く。其の佛を壽無盡幢と號け、次を風幢と號け、次を淸白幢と號け、次を威儀幢と號け、次を明相幢と號け、次を常幢と號け、次を上幢と號け、次を自在幢と號け、次を梵幢と號け、次を寧泰幢と號けたてまつる。彼の諸の菩薩の名字は悉く同じく、其の名を金剛幢と曰ひ、次を堅固幢と名け、次を勇猛幢と名け、次を夜光幢と名け、次を智幢と名け、次を寶幢と名けヽ次を精進幢と名け、次を離垢幢と名け、次を眞寶幢と名け、次を法幢と名く。彼の諸の菩薩は各其の國の佛の所に於て梵行を淨修しき。一一の菩薩は各萬の佛世界微塵數に等しき菩薩の眷屬を將ゐて、佛の所に來詣し、稽首し禮敬し、佛の神力の故に、來りし所の方に隨ひて如意寶藏の師子の座を化作し、十方に充滿して、結跏趺坐せり。白淨の寶網を以て其の身を覆ひ、又阿僧祇千億那由他の光明、離垢の光明、無量の光明を放ちて、普く十方を照せり。正直心を以て、三寶を攝取して諸

【一】集衆と放光とを叙す。

の惡を遠離す、菩薩の大願の興起する所なり。一切の衆生觀て厭足無く、見る者は虚しからず、調伏せざること無く、一切の佛の自在の淨法を顯はして、一切の衆生の爲めに歸依の處と作り、勸化して菩薩の大願を發さしむ。此の諸の菩薩は、皆悉く無量の法門を成就せり。所謂る、徧く十方一切の佛刹に遊びて、障礙する處無き神足の法門。淨法身を見て著すること無き法門。慧身を住持して能く無數變化の身と爲り、無量の佛の所に往詣する法門。無量無邊の不可思議なる如來の自在に入る法門。無量無邊の一切智の法門。無量の光明普く諸法を照す無畏方便の法門。未來劫を盡して諸の功德藏を分別し演說すとも盡すこと無き辯の法門。一切の陀羅尼の慧光普く照す法門。淸淨の慧眼を成就して徧く法界を觀ずる法門。智慧の境界は無量無邊にして、縛無く著無く、究竟なること虚空の如き法門なり。此の世界の兜率天宮に菩薩雲集せるが如く、一切世界の諸の四天下の兜率天宮に雲集せる菩薩の、從來せし所の國も、諸佛の名號も亦復た是の如し。

爾の時に世尊、兩膝より百千億那由他の光明を放ちて、徧く十方の虚空法界に等しき一切の世界を照し、諸の四天下の兜率天宮の、一切の如來の神力自在は皆悉く顯現せり。彼の諸の菩薩、其の如來の神力自在を見たてまつることを得る有る者は、皆是れ盧舍那如來應供等正覺の、菩薩の道を行じ無量なる諸の法門を修習せし時の善知識なり。是の諸の菩薩は常に諸佛の甚深の解脫と、自在の神

力とを樂ひて、不壞の法界身を得、無礙の三昧を得、不可思議の佛を見たてまつりて、心に所著無く無礙の心を以て法界に充滿し、離垢の寶心は、常に諸佛の爲めに護念せられ、佛の無量なる住持の神力を得て決定究竟じて彼岸に到り、清淨の正念をもつて、速かに等覺を成じて、諸の如來心の源底を得、深智慧に入りて自在を得、甚深の智に於て彼岸を究竟し、清淨の法身は佛の所住に住す。一切智を得て如來と等しく、智寶より起りて皆如來の妙趣の中に於て生れ、清淨なる智慧の法門を開發して、金剛大智の彼岸を究竟し、金剛の方便三昧を成就し、永く一切の愚癡闇冥を離れ、無量無邊無數の衆生を成就し、諸佛の一切の決定自在は彼岸を究竟し、一切の數に著せずして善く一切の數を學び、一切の數の智を究竟し、善く眞實の法に住せり。是の如き等の無量無邊の稱り數ふ可からず、窮盡す可からず、言說す可からざる諸の功德藏を成就せり。

㈡爾の時に金剛幢菩薩、佛の神力を承けて徧く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

㈢『如來出世せず、亦涅槃有ること無し、本の大願力を以て、自在の法を顯現したまふ。
是の法は思議し難く、心の境界に非ず、彼岸を究竟する智は、乃ち諸佛の境を見る。
色身は如來に非ず、音聲も亦是の如し、亦色聲を離れずして、佛の自在力有り。

【二】偈を以て佛を讚歎す、十段あり。
【三】十偈あり、佛の寂用無礙の德を歎ず。

少智は、甚深なる佛の境界を知ること能はず、本業を成就する智は、乃ち諸佛の境に達す。
諸佛は來る處無く、去るも亦至る所無し、清淨の妙法身は、自在力を顯現したまふ。
無量の世界の中に、如來の身を示現して、廣く微妙の法を說き、其の心に所著無し。
無量無邊の慧は、諸法に障礙無く、深法界に入りて、自在力を顯現す。
衆生及び諸法に、了達して障礙無く、變化身無量にして、徧く一切の刹に現ず。
一切智を求め、自然に正覺を成ぜんと欲せば、先づ當に其の心を淨くし、具さに菩薩の行を修すべし。
是の如くして如來の、無量なる自在力を見ば、疑を除きて常に、無上の善知識に親近せん。』

(四)爾の時に堅固幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『最上無過の者は、甚深にして說く可からず、一切の言語斷えて、清淨なること虛空の如し。
人師子を諦觀するに、無量なる自在力あり、諸佛に虛妄無く、世間は妄想より生ず。
導師の演說する所、其の法は甚だ深妙、因緣に隨順して、如來の清淨身を起す。
斯等の大乘智は、諸佛の境界なり、若し此の智を求めんと欲せば、常に應に佛に親近すべし。

【四】十偈あり、佛の物の所依となる德を明かす。初の七は佛の勝德を歎じ、次の二は修入を勸め、後の一は見聞の益を結す。

清淨の心をもつて、一切諸の導師を供養したてまつり、心常に厭足無くば、究竟じて佛道を成ぜん。

無盡の功德藏は、菩提心を增長し、諸の疑惑を遠離し、佛を觀じて厭き足ること無し。

一切の法を究竟じて、法化より生れたる佛子は、彼悉く能く、諸佛の自在力を解了す。

智慧王の說く所は、欲を諸法の本と爲す、應に清淨の欲を起して、無上の道を志求すべし。

若し能く諸佛を敬ひ、如來の恩を報ゆることを知らば、彼の人は未だ曾て、一切諸の導師を離れず。

是の如く、諸佛及び佛法を見聞することを得ば、清淨の願を具足して、無上の道を究竟せん。』

【五】十偈あり、佛の見聞弘益の德を顯はす。初の七は佛を歎じて修行の勝緣となし、後の三は佛の自在の德を顯す。

(五)爾の時に勇猛幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『眼有り日光有りて、能く微細の色を見るがごとく、最勝の神力の故に、淨心のもの諸佛を見たてまつる。

勇猛に勤め方便して、能く海の源底を盡す、智慧の力も是の如く、諸の佛海を究竟す。

譬へば好良の田に、種を植うれば、必ず滋え繁るが如く、是の如く淨心の地は、諸佛の法を出

生す。
貪の寶藏を得て、饑寒の苦を除滅するが如く、菩薩は佛の法を得れば、垢を離れ心清淨となる。
譬へば伽陀藥の、能く一切の毒を消すが如く、天尊も亦是の如く、煩惱の毒を滅除す。
善知識に因緣りて、佛を信ずる心を生長し、善知識に因緣りて、諸佛の法を聞くことを得。
無量無數の劫に、常に無上の施を行ぜんも、若し能く一人を化せば、功德は彼に超えん。
如來の相莊嚴、功德は思議し難く、諸佛の功德藏は、一切能く知る莫し。
如來等正覺は、一座を起たずして、悉く能く十方の、一切諸の世界に徧じたまふ。

【六】十偈あり化用體を離れずして周遍する德を歎ず。初の一は佛の用廣、次の七は佛の用深、後の二は深廣を結す。

譬へば虛空の性は、生せず亦滅せざるが如く、諸佛の法も是の如く、亦復た生滅無し。」

(六)爾の時に夜光幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
「十方の諸の世界の、一切の群生の類は、普く天人尊の、清淨なる妙法身を見たてまつる。
譬へば一心の力、能く種種の心を生ずるが如く、如來の一法身は、諸佛の身を出生す。
菩提に二法無く、亦自性有ること無く、無二の淨法身は、莊嚴せられて現せざる無し。
究竟すること虛空の如く、猶は幻化の現ずるが如く、功德は盡す可からず、其は唯諸佛のみの境

なり。

三世一切の佛は、法身悉く淸淨にして、其の應化する所に隨ひて、普く妙色身を現じたまふ。

未だ曾て、我是の如きの像を爲すとの想念を生ぜず、諸の希望を遠離して、自然に衆生に應ず。

諸法の性を壞せず、亦法界に著せず、種種の形に應現して、衆生を敎化するが故に。

法身は變化に非ず、亦變化に非ざるに非ず。諸法に變化無けれども、變化有ることを示現す。

正覺は量る可からず、究竟じて法界に等しく、深廣にして涯底無く、

言語の道悉く斷えたり。

一切趣の道法において、如來は實義を知りて、一切の刹に遊行したまふ、未だ曾て障礙有らず。』

爾の時に智幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『深智慧に入れば、一切障礙無く、其の心齊限無くして、菩薩の行を修習す。

普く十方の刹に於て、常に一切の佛を見たてまつり、彼の佛に處所無く、法にも亦所著無し。

一一の諸の如來は、自在力無量にして、不可思議の劫に、之を說くとも窮盡すること無し。

【七】十偈あり、佛の應現出生の無盡無礙なる德を歎ず。初の四は佛德の無限、次の四は佛の一異無礙、後の二は佛の生滅自在を歎ず。

三世の諸の衆生は、悉く其の數を知る可くも、導師の功德藏は、其の數を盡す可からず。
無二不思議にして、種種の身に應現し、十方見ざること無く、未だ曾て別異有らず。
譬へば淨滿月の、普く一切の水に現じ、影像は無量なりと雖も、本の月は未だ曾て二ならざるが如し、
是の如く無礙の智は、等正覺を成就して、一切の刹に應現するも、佛身は初より無二なり。
一に非ず亦二に非ず、亦復た無量に非ず、其の應化する所に隨ひて、無量の身を示現す。
佛身は過去に非ず、亦復た未來に非ず、一念に出生と、成佛と入涅槃とを現ず。
譬へば幻化の色は、生ぜず亦滅せざるが如く、佛身も亦是の如く、寂然として生滅無し。』

【八】十偈あり、佛の心身自在にして出世無礙の德を歎ず。

(八)爾の時に寶幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
『如來の身は無量なるも、衆生は量有りと見る、彼の應化する所に隨ひて、導師は爲めに身を現じたまふ。
法身は處所無くして、十方界に充滿し、佛身は思議し難く、空の分際無きが如し。
彼に心意識無く、亦心想を起すことも無く、諸佛の境界は、究竟して生滅無し。

譬へば目無き人の、內外の色を視ざるが如く、如來出世したまはざれば、一切の法を見ず。
衆生を饒益せんが故に、如來は世閒に出でたまひ、衆生は出でたまふ有るを見るも、而も實には
世に興ること無し。
佛刹は如來に非ず、晝夜も亦是の如く、年月より一念に至るまで、悉く等正覺に非ず。
衆生は咸說いて言ふ「佛日世閒に出でたまふ」と、導師は自ら覺悟し、如來は淨日に非ず。
虛妄にして所有無く、言語の道悉く斷ゆ、三世の諸の如來の、出世も亦是の如し。
譬へば清淨の日は、昏夜と倶ならざるも、而も日夜の相を說くが如く、諸佛も亦是の如し。
三世一切の劫は、如來と倶ならざるも、而も三世の佛を說く、導師の法も是の如し。』

【九】十偈あり佛の德は同じくして異に應ずるを明かす。

(九)爾の時に精進幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
『一切諸の導師は、身同じく義も亦然り、普く十方界に於て、應に隨ひて各別異なり。
牟尼尊を觀察するに、境界甚だ深妙にして、諸の法界に充滿し、一切悉く餘すこと無し。
如來の淨法身は、是れ內心の數に非ず。如來の淨法身は、亦外身の數に非ず。
彼の衆生の行ずる、種種無量の業に隨ふ、是の故に如來を見たてまつるに、各各、悉く同じか

らす。

如來の妙法身は、一切能く數ふること莫く、甚深にして思議し難し、唯是れ佛のみの境界なり。

我は境界に非ず、思量の及ばざる所なるが如く、佛の法身も是の如く、一切能く測ること莫し。

刹には思議し難くして、而も淨き莊嚴を見るが如く、佛身も亦是の如く、妙相現ぜざる無し。

猶ほ一切の法は、因緣和合して生ずるが如く、是の如く因緣會へば、

諸の如來を見たてまつることを得。

譬へば隨意珠の、悉く衆生の意を滿すが如く、諸佛の法も是の如く、

能く一切の願を滿ず。

無量の世界の中に、導師世に興り、如來の本願力にて、普く十方界に應じたまふ。」

〔一〇〕爾の時に離垢幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

諸佛の智慧の光は、圓滿にして世間を淨む、能く世間を淨め已りて、諸佛の法に入らしむ。

設ひ人有りて、衆生の數に等しき佛を見たてまつらんと欲せば、如來は一切に應じたまひて、而も實には來處無し。

専ら佛の境界を念じて、無量の心を生起すれば、見たてまつる所の諸の如來は、其の數、心と

【一〇】十偈あり、佛の淨德を歎ず。初の三は佛の身智淨、次の二は三業淨、次の三は隨攝淨、次の二は離妄淨を歎ず。

等し。
白淨の法を具足して、名聞十方に滿ち、彼一切智に於て、其の心安んじて動ぜず。
導師は衆生の爲めに、應の如く法を演說し、所宜見の處に隨ひて、普く最勝の身を現じたまふ。
佛身は我所に非ず、世界も亦是の如し、心は我所に非ずと說きて、無我の菩提を覺る。
一切の人師子は、無量の自在力をもつて、念に等しき身を示現して、種種の相をもつて莊嚴す。
世閒は卽ち是れ身、身は卽ち是れ最勝なり、身の眞實性を知るは、是れ佛の無礙智なり。
一切知見の人は、普く諸法を明照し、佛法と及び菩提とを、求むるに悉く不可得なり。
導師には去來無く、亦復た所住も無く、諸の顚倒を遠離したる、淸淨の等正覺なり。」

(二)爾の時に眞寶幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
「正覺は十方の、一切諸の世界に遊びて、一刹を離れずして、普く諸の國土に現じたまふ。
如來の自在力は、一切の身に應現して、道を得、法輪を轉じ、般涅槃を究竟したまふ。
誰か佛を思議すと爲し、誰か思議せずと爲す、誰か諸の如來を見たてまつる、誰か等正覺と爲す。

【二】十偈あり、佛の無方の大用は體に同ずることを明かす。初の二は無方の大用、後の八は用を會して體に同ず。

一切の法は皆如なり、諸佛の境も亦然り、乃至一法として、如の中に生滅有ること無し。
衆生は虚妄の故に、是れ佛なり是れ世界なりとなす、若し眞實の法を解らば、佛も無く世界も無し。
衆をして歡喜せしめんが故に、普く一切の前に現ずるも、如來の現じたまふ所の身は、畢竟不可得なり。
一切の障を遠離して、無礙安隱に住し、諸の留難を除滅して、諸佛の法を具足す。
一切諸の如來は、神通の力自在にして、悉く三世の中に於て、之を求むるも不可得なり。

【二三】十偈あり、佛法を見聞する利益を明かす。

是の如く心識を知り、明かに一切の法を解れる、一切知見の人は、速かに等正覺を成ぜん。
如來の自在力は、但假りの言說有るのみ、諸佛及び自在は、一切の言語斷えたり。』
(二三)爾の時に法幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、
(三)『寧ろ無量の劫に於て、具さに一切の苦を受けんも、終に如來を遠ざからず、自在力を覩ざらんや。
無量の生死の中に、未だ曾て道心を發さざるも、若し如來を見聞せば、佛の菩提を具足せん。

（一四）聰達明慧の者、若し一たび道心を發さば、汝疑惑を生じて、自ら成佛せじと謂ふこと莫れ。
無量無數の劫にも、菩提心は得難し、若し能く一心に求めなば、無上の道を究竟せん。
設ひ念念の中に於て、無量の佛を供養すとも、是の方便を知らざれば、彼猶は供養に非ず。
若し是の如きの法を聞かば、諸佛は此より生れ、無量劫に苦を受くとも、決定して菩提を求めん。
一たび摩訶衍は、諸佛所乘の乘なりと聞かば、一切の法界の中にて、三世に導師と爲らん。
（一五）未來劫に、一切諸佛の刹を盡すと雖も、方便を解らざる者は、終に菩提を成ぜじ。
過去無量の劫に、生死に流轉して、眞實の法と、如來の所起の處とを知らず。
諸法は壞す可からず、亦法を壞する者無し、諸の世間を照明して、自在の法を示現す。』

【一三】初の二は佛に近づく益。
【一四】次の三は佛所に於て發心する益。次の二は佛所に於て法を聞く益。
【一五】後の三は佛所に於て解を生ずる益。

卷の第十五

金剛幢菩薩回向品第二十一の一

(一)爾の時に金剛幢菩薩、佛の神力を承けて、菩薩の明智三昧に入りて正受せり。正受し已りて、十方各百萬の佛刹微塵數に等しき世界の外を過ぎて、各百萬の佛刹塵數の諸佛を見たてまつる。是の諸の如來は悉く金剛幢と號く。時に彼の諸佛、金剛幢菩薩に告げて曰はく、

「善い哉、善い哉、佛子よ、乃ち能く是の菩薩の明智三昧に入りて正受せり。善男子よ、十方各百萬の佛刹微塵數に等しき世界の諸佛は、汝に神力を加したまふが故に、乃ち能く是の三昧正受に入れり。◎又盧舍那佛の本願力の故に、威神力の故に、汝が智慧清淨なるが故に、諸の菩薩の善根力の故なり。◎菩薩をして清淨なる無所畏を得しめんと欲するが故に、無礙不斷の辯を得しめんが故に、無礙智の地に入らしめんが故に、佛の一切智廣大心に入らしめんが故に、無盡の諸の善根を具足せしめんが故に、無礙の白淨法を滿足せしめんが故に、普門の法界に入らしめんが故に、一切の佛の神力變化を顯現せしめんが故に、過去際を淨念する智慧を斷せざらしめんが故

【一】入定及び佛の加被力を叙す。

に、一切の佛を分別して諸の善根を住持せしめんが故に、無量の法門を以て廣く法を說かしめんが故に、無量の法を聞持し了知せしめんが故に、十回向を具足し演說せしめんが故に、一切菩薩の諸の善根を攝取せしめんが故に、出世閒の法に安住せしめんが故に、一切智を斷絕せざらしめんが故に、大願を開發せしめんが故に、眞實の義に入らしめんが故に、法界を知らしめんが故に、一切の菩薩をして悉く歡喜せしめんが故に、一切の佛と同じき善根を修せしめんが故に、一切如來の性を護持せしめんが故なり。◎善男子よ、汝當に佛の神力を承けて此の法を演說すべし。佛の家に安住せんが故に、出世閒の諸の功德を長養せんが故に、陀羅尼の光明に入らんが故に、諸佛の滅度せざる法に入らんが故に、普く法界を照さんが故に、白淨離惡の法を積集せんが故に、廣き智慧の境界住に住せんが故に、無障礙の法光明住に住せんが故に。』

爾の時に諸佛は卽ち金剛幢菩薩に無量の智慧を與へ、善方便をもつて句身を分別し、無留礙の辯を與へ、無障礙の法明を與へ、一切如來の共にする所の身を與へ、無量なる微妙の音聲を與へ、諸の菩薩の不可思議なる三昧方便を與へ、等心に善根を回向する智慧を與へ、一切の法を觀察して出生する無量の方便を與へ、一切處に說法して斷ずること無き辯才を與へたまへり。何を以ての故に、彼の三昧の善根力の故なり。

爾の時に諸佛は、各右の手を申べて金剛幢菩薩の頂を摩でたまへり。其の頂を摩でたまふこと已りし時に、彼の菩薩は、即ち定より起ちて、衆の菩薩に告げて言はく、

「〔二〕佛子よ、是の菩薩摩訶薩の不可思議の大願は、悉く普く一切の衆生を救護せんとす。菩薩摩訶薩は此の願を立て已りて、三世の諸佛の回向を修學す。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の回向と爲す。菩薩摩訶薩の回向に十有り、去來今の佛は悉く共に演說したまふ。何等をか十と爲す。一には一切の衆生を救護して衆生の相を離れたる回向。二には不壞の回向。三には一切の佛に等しき回向。四には一切處に至る回向。五には無盡の功德藏の回向。六には平等に隨順する善根の回向。七には隨順して等しく一切の衆生を觀ずる回向。八には如相回向。九には無縛無著の解脫回向。十には法界無量回向なり。佛子、是の菩薩摩訶薩の十種の回向は三世の諸佛の共に演說したまふ所なり。

〔三〕佛子よ、何等をか救護一切衆生離衆生相回向と爲す。

此の菩薩摩訶薩は、檀波羅蜜を行じ、尸波羅蜜を淨め、羼提波羅蜜を修し、毘梨耶波羅蜜を行じ、禪波羅蜜に入り、般若波羅蜜を分別し、慈哀、悲愍、歡悅、喜、堪忍、捨を修行し積集す。是の如き等

【二】以下、十回向本說。

【三】第一、救護一切衆生離衆生相回向。初めに行相を明かす。

の無量の善根を修す。(四)善根を修し已りて、是の如きの念を作さく、(五)「我が修習する所の善根は、悉く以て一切の衆生を饒益し、究竟清淨ならしめん。此の修する所の善根を以て、一切衆生をして、皆悉く地獄、餓鬼、畜生、閻羅王等の無量の苦惱を除滅せしめん」と。復た此の念を作さく、「我此の善根を以て回向して、一切衆生の爲めに舍と作らん、苦陰を滅せんが故に。一切衆生の爲めに護と作らん、煩惱を解脫せしめんが故に。一切衆生の爲めに歸と作らん、恐怖を離れしめんが故に。一切衆生の爲めに趣と作らん、一切智地に至らしめんが故に。一切衆生の爲めに安隱と作らん、究竟安隱の處を得しめんが故に。一切衆生の爲めに大明と作らん、癡冥を滅して慧光を得しめんが故に。一切衆生の爲めに炬と作らん、無明の闇を滅せしめんが故に。一切衆生の爲めに燈と作らん、究竟明淨に安住することを得せしめんが故に。一切衆生の爲めに導と作らん、方便の法に入らしめんが故に。一切衆生の爲めに主寶臣と作らん、無礙の淨智身を得しめんが故に。」佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如き等の無量の善根を以て回向して、一切衆生をして一切智を究竟せしむ。

(六)佛子よ、此菩薩摩訶薩は、怨親の爲めの故に、諸の善根を以て回向し、等しくして差別無し。何

【四】第一、衆生及び菩提に回向し、衆生を救護することを明かす。中に四段あり

【五】初に衆を利益し安樂にせんが爲めに回向なすことを明かす。

【六】次に怨惡の衆生に於て深悲を調練し苦惱を受けて回向することを明かす。

を以ての故に。菩薩摩訶薩は平等觀に入りて怨親無きが故に、常に愛眼を以て諸の衆生を視ればなり。若し衆生惡を懷き、菩薩の所に於て怨逆の心を起さば、菩薩摩訶薩は、一切衆生の爲めに、善知識と作りて、廣く爲めに諸の深妙の法を分別す。譬へば大海の一切の衆毒も壞すること能はざる所なるが如し。菩薩も亦復た是の如し。一切の童蒙愚癡にして智無く、恩を報ゆることを知らず、瞋恚貢高にして、破戒生盲なる、是の如き等の類の無量の過惡も、菩薩の道心を動亂すること能はず。譬へば日天子出でて、普く天下を照すとき、盲人を以ての故に、隱れて現ぜざるにあらず。又復た（七）乾闥婆城、四域の塵曀、阿修羅の障、閻浮樹の蔭、及び餘山の障、是の如き等の類の無量の障蔽を以ての故に、隱れて現ぜざるにあらざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、常に正しく憶念して未だ曾て散亂せず、深廣安諦にして、心に憂感無く。正意に思惟して、悉く功德智慧を究竟せんと欲し、淸淨の法光普く世間を照して、眞實の義を示し、一切諸法の智門を淨修し、諸の衆生の爲めに常に善根を修す。一切衆生に無量の惡有るも、菩薩摩訶薩は惡衆生を以ての故に、嫌恨退沒して回向を行ぜざるにあらず。調伏し難き衆生を以ての故に、善根を退捨して回向を行ぜざるにあらず。衆生の邪見瞋濁なる有りと雖も、大莊嚴に於て其心轉ぜず、大願を捨てずして衆生を救護す。若し衆生の濁惡にして信無く、恩を報ゆる

【七】乾闥婆城（Gandharva）。龍神が空中に示現する城廓にして蜃氣樓のことなり。

ことを知らざるを見るも、菩提を修習して未だ曾て懈廢せず。若し愚癡童蒙と事を共にするも、心に憂惱無し。何を以ての故に、我明淨圓滿の慧日を以て世間に出で、清淨に一切の衆生を調伏すればなり。菩薩摩訶薩は一りの衆生の爲めの故に、發心して阿耨多羅三藐三菩提を求め、善根を回向せず。一佛刹を嚴淨せんが爲めの故ならず、一佛を信ぜんが爲めの故ならず、一佛を見んが爲めの故ならず、一佛の法を聞かんが爲めの故ならず、一願を滿足せんが爲めの故ならず。菩薩摩訶薩は悉く一切の衆生を救護せんと欲するが故に、善根を以て回向す。一切の佛刹を具足し嚴淨し、一切の佛を信じ、一切の佛を見、一切の諸佛を恭敬し供養し、一切の佛の說きたまふ所の正法を聞き、一切の大願を滿足せんが故に、諸の善根を以て、阿耨多羅三藐三菩提に回向す。菩薩摩訶薩は復た是の念を作さく、「菩提心の寶を發すは、卽ち是れ如來の境界の力なり、廣大、平等にして、懈怠有ること無く、一切の劫に於て修學するも得難く、諸佛と等し」と。菩薩摩訶薩は是の如く諸の善根を觀じて、信心清淨にして大悲を長養し、諸の善根を以て、普く衆生の爲めに深心に回向し、但口言のみに非ず。諸の衆生に於て歡喜の心、明淨の心、柔輭の心、慈の心、愛念の心、攝取の心、饒益の心、安樂の心、最勝の心を發して、諸の善根を以て回向す。菩薩摩訶薩は諸の善根を以て回向する時、是の如きの念を作さく、「若し我が有する所の回向の功德をもつて、一切の衆生をして清淨の趣を得、清淨の生を得

しめば、功德滿足して一切世間に能く壞する者無く、窮盡す可からず、常に尊重なることを得る心錯謬せず、一切の諸趣を分別し了知し、諸佛の身口意業を具足し莊嚴したまふことを思量して、一切の功德を具足し莊嚴せん」と。復た是の念を作さく、「此の善根回向の功德を以て、一切の衆生をして常に諸佛を見たてまつらしめ、彼の佛の所に於て不壞の信を得、諸佛の所に於て正法を聽受し、諸の疑惑を離れ、憶持して忘れず、說の如く修行して、如來の所に於て、柔輭の心を得、身口の業を淨め、心常に勝妙なる善根に安住し、永く貧の法を離れて、(八)七財を滿足せしめ、一切諸佛の所學を修學し、諸の善根を得て、平等なる淨妙の解脫と、一切種智とを成就し、一切の衆生に於て、慈愛の眼を得、其身淸淨にして相好莊嚴し、言論辯慧の功德具足して、諸根を調伏し、十力を成就し、諸の善を發起し、心住滿足して染著する所無く、一切の衆生をして佛の快樂を具へ、無量住を得、佛の所住に住せしめん」と。

【八】七財。出世間の七種の法財、所謂る信財(信心)進財(精進)戒財(戒律)慚愧財、聞法財、捨財(布施)定慧財(止觀)なり、此の七種に依りて道果を得るが故に財と名く。

【九】三、苦を受くる衆生に對して、深厚の大悲を以て苦に代りて回向することを明かす。

(九)此の菩薩摩訶薩は、復た是の念を作さく、「一切の衆生は無量なる諸の不善業を造作す。是の業に因るが故に無量の苦を受け、如來を見たてまつらず、正法を聞かず、淨僧を識らず。此の諸の衆生には具さに無量の大惡罪業有りて、應に無量無邊の楚毒を受くべし。我當に彼の三惡道の中に於て、悉く

代りて苦を受け、解脱を得しむべし。我當に代りて無量の苦惱を受くるも、苦の故を以て其の心退轉し、恐怖し、懈怠して衆生を捨離せざるべし。何を以ての故に。我衆生の爲めに重擔を荷負して平等の願を滿じ、一切の生老病死、愁憂苦惱、無量の諸難ありて、生死に流轉し、一切の邪見をもつて諸の善法を失ひ、愚癡にして智無きものを度脱す。我當に悉く度して此の衆苦を免かれしむべし」と。衆生は常に愛網の爲に纏はれ、無明に覆蔽せられ、有愛に染著して之が爲に走使せられて、自在を得ず、苦獄に縛在し、諸魔の業に隨ひ、諸佛の所に於て心に疑惑を生じ、出世の道を得ず、安隱の處を見ず、常に無量の生死の曠野に馳せて無量の苦を受く。◎菩薩摩訶薩は彼の衆生の生死の泥に沒して、衆の楚毒を受くるを見て、大悲の心を起し、衆生を饒益して善利を得、苦難を免度せしめんとて善根を回向す。大回向を以て回向し、三世の菩薩の回向の如くし、諸佛の說きたまふ所の大回向經の回向の如くし、一切の衆生をして悉く淸淨を得、善根を具足し、一切智を究竟せしむ。◎復た是の念を作さく、「我當に悉く一切の衆生をして、無上の智王の安隱の住處を得しむべし。自度の爲にあらず、但彼をして生死の淵を出でて、一切智の心を得しめんと欲す。衆生を惡道、險谷より拔ひ出し、無量の苦を救ひ、生死の流を度らしむべし」と。◎復た是の念を作さく。「我當に一切衆生の爲めに、無量の苦を受け、諸の衆生をして、悉く生死の沃焦を免れ出づることを得しむべし。我當に一切衆生の爲めに、一切の刹、一

切の地獄の中に於て、一切の苦を受けて終に捨離せざるべし。我當に一切の惡道に於て、未來劫を盡して諸の衆生に代りて無量の苦を受くべし。何を以ての故に、我寧ろ獨り諸の苦を受けんも、衆生をして諸の楚毒を受けしめじ、當に我が身を以て一切の惡道の衆生を免贖して、解脱を得しむべし」と。菩薩摩訶薩復た是の念を作さく「我悉く當に一切衆生の爲に、誠實に語る者と作り、惱害の心を離れて衆生を捨てざるべし。何を以ての故に、我衆生に因りて菩提心を發し、一切を度脱せんとし、尊貴を求めず、五欲を求めず、世間の種種の樂を求めざるが故に、菩薩の道を行ず。何を以ての故に、五欲は是れ世間の法、諸魔の境界にして、愚人の行ずる所、諸佛訶責したまふ。彼は能く一切の苦惱、地獄、餓鬼、畜生、閻羅王の處に出生して、忿恚、鬪諍して、更に相訟說するは、皆五欲に由る。五欲を積習すれば、諸佛を遠離し、能く生天を障ふ、況んや無上の道をや」と。菩薩は明らかに五欲には是の如きの無量の過患有るを見る。是の故に五欲を以て菩薩の行を修せず。但衆生を饒益し安隱にして菩提心を發し、無上の道を求めしめ、一切の衆生をして一切の利を得しめ、諸の大願を具へ、衆生の煩惱鉤餌を斷絕し、無量の苦を離れしめんと欲す。菩薩摩訶薩、復た是の念を作さく、「我當に諸の善根を以て回向して、一切の衆生をして種種の樂、究竟の樂、饒益の樂、不共の樂、寂靜の樂、無染の樂、無動の樂、無量の樂、不死不轉の樂、不滅の樂、一切智の樂を得しむべし。我當に一切の衆生の爲めに、

調御士と作り、主藏臣と作り、大明炬と作りて、安隱の趣を示し、諸難を離れ、一切の法を解らしむべし。我當に諸の甚深の義を解らしむべし。我當に爲に一切智の船と作りて、生死の海を度らしむべし。我當に無量の善根の回向を知らしむべし。我當に悉く爲めに彼岸を示現すべし」と。菩薩摩訶薩は是の無量の善根回向を以て、一切を救護して、生死の海を度らしめ、諸の如來をして皆悉く歡喜せしめ、一切智を得て衆魔を捨離し、惡知識を遠ざけて、菩薩の勝れたる善知識に親近し、淨業を成就して盡く衆惡を滅し、菩薩の無量の願行、一切の善根を具足す。

(一〇)菩薩摩訶薩は諸の善根を以て正しく回向し已りて、是の如きの念を作さく、「四天下の一一の衆生を以ての故に一一の日出でず、但一の日世に出でて、悉く能く普く一切の天下を照す。又諸の衆生は自身の光明を以て、晝夜有ることを知り、遊行し觀察して諸業を興造せず。皆日天子出でて普く天下を照すに由り、一切の衆生業として就らざる無し」と。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く諸の善根を修して回向し、普く衆生の爲めにし、是の如きの念を作さく、「彼の諸の衆生は智慧の光無く、尚自ら照らさず、何に況んや他を照すをや。唯我一人の志のみ獨にして侶無く、諸の善根を修して回向し、一切の衆生を度脱せんが爲めに、普く一切の衆生を照し、一切の衆生を分別し、一切の衆生に了達し、一切の衆生をして甚深の法に入らしめ、一切の

【一〇】四、大志を孤標して普く衆生の爲めに無念に回向することを明かす。

衆生を攝取し、一切の衆生を成就し、一切の衆生を悅樂し、一切の衆生を柔輭にし、一切衆生の疑惑を滅除せしめんと欲す」と。菩薩摩訶薩復た是の念を作さく、「我當に修學して、日天子の普く一切を照すが如くなるべし。恩報を求めず、惡衆生の爲めの故に大莊嚴を捨てず、亦一りの惡衆生を以ての故に、一切を捨離して度脫せざることをせず。但勤めて善根を修習して回向し、衆生をして一切の樂を得、少善根を攝して廣大に回向せしめんと欲す。若し諸の善根にして衆生を饒益する能はずんば我終に善根を以て回向せじ。諸の善根を以て、悉く衆生に與へて發心し、回向し、一切の衆生をして諸法に著せざらしめんが故に回向し、衆生の性を以て回向して所至無し。」

【二】後に離衆生相即ち實際回向を明かす。初に相を會して實に入ることを顯はす。

〔二〕菩薩は是の如く回向して亦所著無し。所有の性を取して、諸の善根に安住せず、相を取せずして回向し、業報は虛妄にして所有無く、亦所著無し。五陰の相を取せずして回向し、五陰の相を壞せずして回向し、虛妄の業を取せずして回向し。報を求めず、起らず。虛妄の因緣なれば、生せず、起らず、住せず、堅固の相に住せず、虛妄の法に住せず、衆生の相を取らず、世界を分別せず、心の顚倒、想の顚倒、見の顚倒に住せず、語言の道に著せず。但衆生をして眞實の法を解らしめんと欲して回向し、一切の衆生は平等なりと觀じて回向し、法界印をもつて諸の善根を印して回向し、欲等の法を離れ善根を觀察して回向し、一切の法を解りて顚倒を

離れ諸の善根を得、無二の法を以て法界を觀察して回向し、彼の回向は諸法を生ぜす、諸法を滅せず、是の如き等の善根を以て回向す。清淨なる諸の對治法を修行して回向し、一切の善根を觀じて皆悉く出世間の法に回向し、彼の善根に於て、二相を作さず、薩婆若は卽ち是れ業に非ず亦業を離れずと回向し、薩婆若を觀察するに、卽ち是れ業にあらず亦業を離れずして薩婆若を得、願智の業照明淸淨なるが故に、報も亦照明淸淨なり、報照明淸淨なるが故に、薩婆若も亦照明淸淨なり。一切の動亂、覺觀、憍慢、放逸を捨離す。

(二)方便智に隨ひて諸の善根を以て回向し、一切の衆生をして悉く眞實の究竟解脱を得しめ、法性に著せずして無量無邊の善根をもつて回向すれば、諸法は業報無くして而も業報を出生す。菩薩摩訶薩は是の如き等の善根回向を以て、則ち能く永く一切の諸惡を離れ、佛の讃歎したまふ所となる。佛子、是を菩薩摩訶薩の第一の救護一切衆生離衆生相回向と爲す。』

(三)『爾の時に金剛幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方、及び一切の衆を觀じ、法界を觀察して深き句義味に入り、大悲普く一切の衆生を覆ひ、三世の佛種を護持して斷たず、一切の佛の諸の功德藏に入りて、諸佛の淸淨なる法身を出生し、善能く諸の衆生心の、過去に種ゑし所の一切の善根と

【二】次に實に依つて用を起すことを明かす。

【三】重頌。廿八偈あり。

を分別し、時を知りて失はず、法身を具足して、善能く清淨の色身を示現し、偈を以て頌して曰はく、

『(二四)不思議の劫に修行する所は、常に諸の群生を饒益せんが爲めなり、精進堅强にして意礙ふること無く、常に諸佛の妙功德を求む。

其の心清淨にして瞋恚を離れ、調御師を恭敬し供養して、深く諸法を解りて衆生を救はば、彼能善く回向藏に入らん。

勇猛精進の力を具足し、智力照明にして甚だ清淨、忍心堅固にして傾動せずんば、常に能く諸の群生を救護せん。

無等の所に於て心安住し、踊悦歡喜して意清淨となり、菩薩の忍力は大地の如くにして、悉く能く諸の衆生を饒益せん。

苦行を以て自ら樂を求めず、大慈悲を以て無量の行を起し、常に能く諸の群生を救護せば、彼の人速かに無礙地に入らん。

(二五)十方一切の諸の世界、其の中の衆生を皆攝取して、常に衆生の爲めに心安住し、無量なる諸の回向を修學す。

歡喜の心を以て布施を行じ、清淨の戒を具足し護持し、勇猛精進の心堅固にして、清淨の智

【二四】初の五偈は總じて殊勝なることを歎ず。

【二五】次に前文を頌す、中に於て初の三偈は行體を頌す、初の一は四等の行、次の二は六度の行。

慧をもつて善く回向す。
其の心廣大にして量る可からず、忍力堅強にして常に回向し、一切諸の禪定を淨修し、智慧深妙にして思議し難し。

(二六)十方一切の世界の中に、清淨の行を具足し修習して、智慧をもつて諸の功德を回向し、一切の樂を以て衆生を益す。
彼の人、諸の善業を積集すること、無量無邊にして數ふ可からず、衆生をして具さに修習し、不思議なる深妙の智に住せしめんと欲す。
普く一切の衆生の爲めの故に、不思議の劫に地獄に住して、菩薩の心常に懈怠無く、決定して功德を常に回向す。
諸の色聲香味を求めず、亦一切の觸を悕望せず、常に無上なる最勝智を求めて、一切諸の群生を度脫す。
菩薩の智は淨きこと虛空の如く、普く無量なる大士の行を行じ、最勝の行じたまふ所の淨き業道を、無量の名稱は常に修行す。
菩薩は諸の世界に遊行して、常に能く群生の類を安穩にし、悉く一切をして皆歡喜せしめ、菩薩

【二六】次の十偈は前の衆生菩提に廻向するとを頌す。初の二は衆生を利樂する回向、次の一は、苦に代る回向、次の四は悲智行の回向、次の二は染心を離れたる回向、次の一は五蘊三界に著せざる回向、後の一は菩薩の攝生の行を總結す。

の行を修して厭き足ること無し。
一切の心の垢穢を除滅して、無上の智を思惟し修習するも、自ら己が爲めに安樂を求めず、常に諸の群生を利益せんと欲す。
菩薩は回向して彼岸に到り、無量なる心の穢濁を除滅し、三世の佛の、無量清淨なる諸の功德を具足し修習す。
菩薩は未だ曾て色に染著せず。受想行識にも亦是の如し、一切諸の三昧に住せずして、所有る功德を悉く回向す。
諸佛の知しめす所の衆生の類は、皆悉く攝取して餘り有ること無く、究竟じて諸の群萠を度脱す、是を菩薩の殊勝の行と名く。

【二七】次の十偈は實際回向を頌す。初の三は相を會して實に入らしめ、後の七は實に依りて用を起すことを頌す。

(二七)菩薩は一切の心安住し、開悟彌廣くして稱る可からず、癡を離れて正念に諸根を伏し、身口意の業は常に寂然たり。
一切內外の所有る法は、皆悉く虛妄にして眞實無く、風の空を行くに礙へる所無きが如く、菩薩の心行も亦是の如し。
起す所の身業は常に清淨にして、能く諸佛をして悉く歡喜せしめ、最勝の所に於て言虛しから

ず、意は常に專ら諸の如來に向ふ。

十方の無量なる諸の世界の、所有る最勝に悉く往詣して、彼に於て大悲の尊を覲見たてまつり、

悉く能く之を恭敬し供養したてまつる。

心常に一切の惡を遠離し、大衆の中に處して畏る所無く、心常に如來の道に安住し、彼は三有の淸涼池と爲る。

善く修して一切の法を分析し、具足して諸の有無に了達し、善能く眞の法性に趣向し、深く無諍の勝三昧に入る。

菩薩の堅固の行を修習すれば、一切の衆生能く壞すること無く、明かに學びて甚深の義に了達すれば、三世の法に於て所著無し。

回向を究竟じて彼岸に到り、普く衆生をして悉く淸淨ならしめ、一切諸の味著を遠離し、菩薩の所行には所倚無し。

一切衆生の語言の法は、彼に於て智慧障礙無く、談論巧妙にして愛著無く、心常に無礙の住に安處す。

菩薩是の如く回向を行じたる、無量の善心、功德の藏は、能く十方諸の世界の、一切の如來を

して皆歡喜せしむ。』

〔二八〕『佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第二の不壞回向と爲す。此の菩薩摩訶薩は去來今の諸の如來の所に於て、不壞の信を得、一切の諸佛皆悉く歡喜したまふ。諸の菩薩の所に於て、乃至初發の一念に、菩薩の善根、及び一切智を求め、彼の菩薩に於て不壞の信を得。悉く一切諸佛の法の中に於て、一向直心にして壞す可からず、諸佛の教に於て不壞の信を得。一切諸の如來の法を守護して、不壞の信を得。常に愛眼を以て等しく一切を觀じ、善根の回向を以て、彼の衆生をして諸の善利を獲しめて不壞の信を得。白淨の善根に於て、不壞の信を得。何を以ての故に、一切諸の善根を修習するが故なり。一切の菩薩の回向に於て不壞の信を得、直心解脫して滿足を得るが故なり。一切の菩薩、諸の法師の所に於て、不壞の信を得、具足して如來の想を起すが故なり。如來の自在神力に於て不壞の信を得、諦かに諸佛の難思議なるを信ずるが故なり。一切の菩薩の方便に於て不壞の信を得、種種無量無數の行の境界を攝取するが故なり。佛子よ、菩薩摩訶薩は是の如く壞す可からざる信に安住し、佛、菩薩、聲聞、緣覺、如來の正敎、一切の衆生、是の如き等の無量の境界に於て、諸の善根を種ゑ、諸の善根を分別して、菩提心を長養し、大慈を長養し、生ずる所の善根あり。廣く大悲の平等の觀察を

【八】第二不壞回向。初に行體を擧ぐ。

修習し、佛の所學を學び、諸佛に隨順して、一切の淸淨なる善根を攝取し。深く實義に入り、功德の藏を集め、大惠施を行ひて諸の功德を修し、等しく三世を觀ず。

(一九)菩薩摩訶薩は、是の如き等の善根功德を一切智に回向して、常に諸佛を見たてまつり、善知識に親近し、常に無量なる諸の菩薩と會し、薩婆若を念じて心に散亂無く、諸佛の敎を受けて護法の心を興し、一切の衆生を敎化し成就して、心常に出世の回向を離れず、一切の法師を供養し守護して、諸法を解了し、一切の大願を修習し滿足す。菩薩摩訶薩は是の如く精勤して、無量の善根を修習し、善根を積集し長養して、正念に思惟し、境界の眞實の等義を觀察し、恭敬し供養し、威儀具足して善根を回向す。

【一九】次に菩提及び衆生回向を明かす。

菩薩摩訶薩、善根を回向し已りて、是の如きの念を作さく、「此の善根の回向の得る所の依果を以て、我をして菩薩の行を修せしむる時、念念の中に於て、一切の佛を見たてまつり、彼の諸佛をして皆悉く歡喜せしめ、諸の如來應供等正覺に於て、佛の所應の如くに以て供養したてまつり。阿僧祇の寶、阿僧祇の華、阿僧祇の香、阿僧祇の塗香、阿僧祇の鬘、阿僧祇の衣、阿僧祇の蓋、阿僧祇の幢、阿僧祇の旛、阿僧祇の莊嚴、阿僧祇の莊嚴具、阿僧祇の供給、阿僧祇の抹香、阿僧祇の信樂、阿僧祇の敬念、阿僧祇の淨信、阿僧祇の堅固の香を燒き、阿僧祇の上味の飯食、阿僧祇の恭敬、阿僧祇の禮拜、

阿僧祇の一切の寶座、阿僧祇の一切の華座、阿僧祇の一切の香座、阿僧祇の一切の鬘座、阿僧祇の一切の清淨なる栴檀の座、阿僧祇の一切の衣座、阿僧祇の一切の金剛座、阿僧祇の一切の摩尼寶座、阿僧祇の一切の寶繒座、阿僧祇の一切の寶色座、阿僧祇の一切の寶輪、阿僧祇の一切の華輪、阿僧祇の一切の香輪、阿僧祇の一切の鬘莊嚴輪、阿僧祇の一切の寶衣輪、阿僧祇の一切の寶莊嚴輪、阿僧祇の一切の寶繒敷輪、阿僧祇の一切の寶多羅高顯輪、阿僧祇の一切の寶欄楯輪を建立したる、阿僧祇の一切の寶網輪を其の上に羅覆したる、阿僧祇の一切の妙寶宮殿の嚴飾殊特にして諸天に出過せる、阿僧祇の一切の華宮殿、阿僧祇の一切の香宮殿、阿僧祇の一切の寶鬘宮殿、阿僧祇の一切の栴檀宮殿、阿僧祇の一切の堅固香藏宮殿、阿僧祇の一切の金剛宮殿、阿僧祇の一切の摩尼寶宮殿、皆悉く殊妙にして諸天に出過せる、阿僧祇の諸の雜寶樹、阿僧祇の種種の香樹、阿僧祇の諸の寶衣樹、阿僧祇の妙音樂樹、阿僧祇の妙音聲樹、阿僧祇の無厭寶樹、阿僧祇の垂寶繒旛樹、阿僧祇の寶莊嚴樹、阿僧祇の一切の華、一切の鬘、一切の香、一切の塗香、一切の蓋、一切の幢、一切の旛樹、是の如き等の諸の妙寶樹、莊嚴殊特なるを以用て莊嚴したる無數の宮殿、阿僧祇の寶欄楯の莊嚴、阿僧祇の寶窗莊嚴、阿僧祇の寶偏樓閣莊嚴、阿僧祇の內帳莊嚴、阿僧祇の半月莊嚴、阿僧祇の樓閣莊嚴、阿僧祇の寶帳莊嚴、阿僧祇の白寶の網を其の上に羅覆し、阿僧祇の堅固の香を燒き、阿僧祇の寶衣を以て其の地に

敷ける、是の如き等の諸の莊嚴具を以て、莊嚴せる無數の宮殿の、諸天に出過せる、是の如き等の上妙の供養を以て、無量無數の不可說不可說の劫に於て、諸根を調伏し、敬心に一切の如來を供養したてまつる。此の諸の最勝の般涅槃の後は、舍利を供養したてまつり、一切の衆生をして皆悉く歡喜し、一切衆生の善根を攝取せしめ、一切衆生をして無量の苦を離れて、菩提心を發さしめ、一切衆生をして大莊嚴を以て自ら莊嚴し、無量の莊嚴は一切衆生の境界を超出せしめんと欲す。佛法の値遇す可きこと難きを示現し、阿僧祇の諸の如來力を滿足し。清淨の信心をもつて導師を供養し、一切の佛法を受持し守護し。是の如くして現在の諸佛を供養したてまつり、及び涅槃の後は、舍利を供養したてまつり、無量の阿僧祇劫に於て、供養の具を說くも窮盡す可からず。諸佛は無量の功德を成就して、一切の衆生を敎化し度脫したまへば、我常に彼の諸の如來を供養したてまつりて、心退轉せず、休息有ること無く、未だ曾て懈怠せず、憂惱を懷かず、亦所著無く、心想有ること無く、諸法の中に於て所染無く、依止する所無く、善根に味せずして一切の著を離れ、實法の印を以て業法門を印し、一切の法を生じて佛の所住に住す。

(三〇)無生の性境界を觀じ、法印は彼の發心に印し、如來の清淨を受持して回向し。平等の法性を觀察して回向し。無行の方便に入りて諸行を出生し、心に一切を捨して回向し。無量の方便をもつて回向し、

【三〇】以下實際廻向を明かす。

一切の有を離れて回向し。離相の方便に安住し、法門を修習して善根回向し、菩薩は初發心より一切諸の妙善根を修習して皆悉く回向す◎此の善根を以て、生死の中に於て而も壞す可からず。一切智を求めて心退轉せず。一切の有に處して寂定にして亂れず。一切衆生を度脫して生死に著せず。無礙の智門を得、菩薩の行を修して、彼の善根は窮盡す可らず。世間の諸法は壞すること能はざる所。淸淨なる諸の波羅蜜を具足して。一切智の力を究竟す。

【三】以上は始修、次は終成の行。

(三)菩薩摩訶薩は是の如く癡闇を捨離して菩提心を成じ、普く一切を照して白淨の法を長じ、善根を回向して衆の行を具足し。淸淨の直心をもつて平等を觀察して、深く諸法に入る。業は幻の如く、業報は電の如く、諸行は化の如く、因緣より生じたる法は響の如く、菩薩の行は影の如しと知り、無著法眼の出生する所、無作の所作は其の性寂滅し、有爲無爲に入り、一切の法に於て無二なりと了達して、如實の性を解る◎菩薩の一切の行相を分別して、諸相に著せず、善く方便を知りて、同事業に入り、一切の白淨善法を捨てず。一切の障を離れて無礙無著となり。常に諸佛の爲めに護念せられて愚癡を遠離す。是の如く菩薩摩訶薩は善根を成就し、善法を出生して、業報を壞せず、明かに眞實を見、善く回向を解り、方便の力を以て業報を出生し、法性を究竟じて彼岸に到ることを得、諸法に了達して大智に回向し、諸業の善根において、其の心淸淨にして行に所行無し。

〔二一〕菩薩摩訶薩は是の如く善根回向して、一切の衆生を度脫し、佛種を斷ぜず、諸の惡業と業報とを滅せんと欲し。一切の衆生に回向して無量の智を得、一切智を成じて世の境界を離れ、諸の煩惱を滅し。究竟清淨にして智慧を成就し、深方便に入りて生死の苦を捨て、諸佛の無量の善根を成就して魔業を摧伏し。平等の法印を得て以て諸業を印し、薩婆若の無上菩提に隨順せしむ。菩薩摩訶薩は、是の如きの善根回向を行ずれば、善根明淨にして、普く一切を照し、薩婆若乘を具足し成就す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第二の不壞回向と爲す。

〔二二〕菩薩摩訶薩は此の回向に安住すれば、無量阿僧祇の佛を見たてまつることを得、悉く無量の清淨なる妙法を得、普く衆生に於て平等の心を得、愚癡を捨離して一切の法に入り、諸の如來の自在神力を得て、衆魔を降伏し、諸魔の業を滅し、生貴の菩提心を具足し、無礙の智を得て、他に由りて悟らず、一切の法に於て眞實の義を見、一佛刹に於て悉く能く受持して其の相を分別し、智慧具足して普く衆生を照す。菩薩摩訶薩は此の不壞回向の力を以て一切の善根を攝取して回向す。』

〔二三〕廻向の益相を明かす。
〔二三〕位果を明かす。
〔二四〕重頌、二十五偈あり。
〔二五〕初の二偈は行體を頌す。

〔二四〕爾の時に金剛幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、乃至偈を以て頌して曰はく、

『〔二五〕無量無數の業を修習し、所乘堅固にして壞す可からず、能く諸佛をして悉く歡喜せしむ、是

を智者の回向する所と名く。
供養する所の佛は思議し難く、布施持戒して諸根を伏し、彼一切の爲めに回向を修するは、無量の衆生を淸淨にせんが故なり。

(三六)一切の上妙なる諸の華香、無量無數の衆寶の衣、種種の莊嚴及び寶蓋をもつて、一切諸の如來を供養したてまつる。
是の如きの無量なる諸の供具をもつて、不可思議なる曠劫の中に、調御師を恭敬し供養したてまつり、心常に歡喜して厭足無し。
專心に諸の最勝を觀察するに、一切世間の大明燈にして、現在の十方一切の佛は、皆悉く覩見たてまつりて目前の如し、
不可思議なる無量の劫に、布施を修行して厭き足ること無く、不可思議なる無量の劫に、諸の善根を修するも亦厭くこと無し。
善く分別して諸の心想を知り、如實に觀察して虛妄無く、悉く諸根を知りて餘り有ること無く、常に能く一切の衆を饒益す。
心大いに歡喜して量有ること無く、信心淸淨にして恭敬し、不思議劫の世に忍住して、一切の

【三六】次の九偈半は前の衆生及び菩提に回向することを頌す。中に於て初の四は回向に因りて勝報を得、諸佛を供養することを頌し、次の二は供養の所爲は衆生を益せんが爲なることを頌し、次の二半は舍利を供養すること、次の一は供佛回向の行を頌す。

衆を饒益し救度す。

一切の諸佛滅度し已りては、舍利を供養して厭き足ること無く、悉く無量なる妙雜の寶を以て、恆沙の諸の塔廟を建立す。

無數の尊形像を造作して、寶藏淨金をもつて莊嚴し、巍巍として高大なること山王の如く、其の數無量にして不思議なり、

修學して諸の功德を積集し、勝妙堅固にして壞す可からず。

菩薩善く知りて回向を行じ、分別するに有に非ず亦無に非ず。

若し能く是の如く回向を修せば、功德無量にして盡す可からず。

(三七)勝妙の智慧をもつて諸法を觀じ、皆能く所生無しと了達し、方便し修習して心を淨からしめば、悉く一切の如來と等し。

盡す可からざる諸の方便を以て、無盡の如來藏に回向し、無上の菩提心を發起して、一切世間に所依無し。

普く十方の諸の世界に至り、一切の衆に於て心礙ふること無く、方便をもつて衆生の心を啓導し、悉く佛の菩提を出生せしむ。

【三七】次の七偈半は實際回向を頌す。中に於て、初の三は觀理順緣の行、次の二は推緣入實の行を明かす。次の一半は雙融無礙の行、後の一は行成の相を結することを明かす。

衆生心の平等なることを觀察し、眞實を推求するに不可得なり、一切の諸法悉く除すこと無く、
其の性を了達するに所有無し。
無著の清淨眼を回向して、永く一切世間の苦を離れ、諸有をして悉く清淨ならしめんと欲し、
心に諸法の相を妄取せず。
所有に所有無しと分別すれば、能く心を淨くし大いに歡喜せしめ、一佛刹に於て所著無く、諸佛
の土は堅固なること無しと了り、一切の有爲の法を取らず、亦法の自性に染著せず。
方便をもつて薩婆若に回向し、無上の智慧をもつて自ら莊嚴し、普く
諸佛をして悉く歡喜せしむ、是を菩薩の回向業と爲す。

【三八】後の六偈は廻向の益相を顯す。

(三八)菩薩は一心に諸佛を念じ、無上の智慧、巧方便は、諸の如來の如くにして所著無し、我をして
悉く此の功德を獲しめたまへ。
常に一切の衆を救護せんと欲して、無量なる諸の惡業を遠離し、常に衆生を饒益する心を行じ、
饒益の心に於て虚妄無し。
住する所の地に隨ひて法を守護し、涅槃を示現するも實には滅せず、一切の如來に二法無し、願
はくば我が回向も亦是の如くならん。

一切世界の諸趣の中に、有爲の法に於て所著無く、菩薩は語言の道に緣らず、亦無語言に染著せず。

十方一切の諸の如來は、悉く諸法を攝して餘り有ること無く、一切の趣を離れて而も生を受け、所離の生に於て虛妄無し。

一莊嚴を以て一切を嚴り、亦此の諸法を分別せず、世間は悉く虛妄なりと了達して、一切の所行に所有無し。』

卷の第十六

金剛幢菩薩回向品第二十一の二

〔一〕『佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第三の等諸佛回向と爲す。

〔二〕此の菩薩摩訶薩は、隨順して過去未來現在の諸佛の回向を學ぶ。此の菩薩は菩薩の行を修する時、好惡の色を見るも、其の心清淨にして憎愛無く、歡喜悅樂して無壞の心を起し、諸の憂惱を離れて、正直心を得、身意柔輭にして、諸根清淨となる。此の菩薩は是の如きの樂を得る時に諸佛に回向して、是の如きの念を作さく、「一切の諸佛には無上なる淨明の快樂有りと雖も、復た願はくは諸佛は、不思議なる佛の所住の樂を具し、稱量す可からざる佛の三昧の樂を具足し攝取し、無量なる大悲快樂を成就し、不思議なる佛の解脫の樂を具足し成就し、諸佛の神足自在の快樂を攝取し、無上尊重の最妙の快樂は普く如來を覆ひ、常に諸佛の無量力の樂、永く一切の諸覺を離るる樂、無上寂靜にして變易せざる樂を具足し、無礙の法門に心常に寂常にして、散亂すること無き、佛の

【一】第三、等諸佛回向。

【二】衆生及び菩提の回向。初めに事に因りて行ずる回向を明かす。

無二の行不可壞の樂を具足せしめん」と。

菩薩摩訶薩は是の如き善根を以て諸佛に回向し已りて、又復た一切の菩薩に回向すらく、『願はくは未だ滿せざる者は悉く滿足せしめ、未だ直心を淨めざる者は直心を淨めしめ、未だ諸の波羅蜜を滿せざる者は悉く滿足せしめ、金剛菩提の心に安住して、一切智に於て不退轉を得。大莊嚴を捨てずして菩提の門、及び諸の善根を守護し、能く一切衆生をして、放逸を捨離して菩提心を發し、所願を成滿せしめ。一切の菩薩の所住に安住し、諸の菩薩の明利なる諸根を得て善根を修習し、薩婆若を證せしめん』と。是の如く菩薩摩訶薩は諸の善根を以て菩薩に回向し已りて、又復た一切の衆生に回向す。一切の衆生をして佛を見、法を聞き、敬心に僧に近かしめんと回向し、具足して專心に佛を念ぜしめんと回向し。具足して淨妙の法を念ぜしめんと回向し。僧を念じ尊重し恭敬せしめんと回向し。佛を見たてまつりて未だ嘗て遠離せざらしめんと回向し。諸の淨心を成就せしめんと回向し。諸の如來の法を分別せしめんと回向し、無量の功德を成就せしめんと回向し、諸通善根を清淨ならしめんと回向し、一切の疑惑を除滅せしめんと回向す。佛、回向して、一切の衆生、聲聞、緣覺、及び諸の菩薩を開化したまふが如く、菩薩の善根を一切の衆生に回向するも亦復た是の如く、一切の衆生をして永く地獄、餓鬼、畜生、閻羅王の處、一切の惡趣、無量の衆難を離れしむ。菩薩摩訶薩は彼の一切衆生を

して悉く無上菩提の心を發し、無上菩提の心を長養し、一心に專ら一切種智を求め、諸佛の正法を誹謗することを捨離し、常に一切智地を具足せんことを樂はしめ、一切の衆生をして究竟清淨に一切智を得しむ。菩薩摩訶薩の行ずる所の善根は、諸の大願を以て攝取して行じ、〔三〕等しく行じ、〔四〕積聚し、等しく積聚し〔五〕長養し、等しく長養し、皆悉く廣大にして具足し充滿せしむ。

〔六〕菩薩摩訶薩、若し家に在る時は、妻子と倶なるも、未だ曾て暫くも菩提の心を離れず、薩婆若の境界を正念し思惟して、自ら度し他を度し、直心平等にして、方便をもつて妻子眷屬に示現し、菩薩は善く方便智をもつて、皆悉く究竟の解脱を成就せしめ、與に同止すと雖も心に所著無し。本の大悲を以ての故に、在家の屬に處し、大慈を以ての故に、妻子に隨順するも、菩薩の淨道に於て障礙する所無し。菩薩摩訶薩、若し家に在る時は、應に是の如き薩婆若の心を以て善根を回向すべし。所謂、衣裳を被著し、若くは飲み若くは食し、諸の湯藥を服し、行住坐臥するも、身口意の業、具足清淨にして、諸根調伏し、皆悉く安諦に、洗浴して身に塗り、寂靜に徐歩し、回旋顧眄

【三】等行。大願廻向の力を以て所有る善根を攝して勝行を成ぜしめ、諸行を齊しく行ずるが故に等行といふ。

【四】積聚。願力に由りて善根所成の諸行を攝して散失せざらしむるの義なり、行有れば斯に積る故に等積聚といふ。

【五】長養。善根の積聚する諸行は復更に諸行を生ずるが故に長養といひ、一一の行の中より一切の諸行を生ずるが故に等長養といふ。

【六】次に緣に隨つて善を攝し回向するを明かす。

し、足を擧げ足を下すも、若くは眠り若くは覺るも、威儀を失はず、善く諸根を攝して、未だ曾て散亂せず。菩薩摩訶薩は是の如き等の一切の諸行を以て、未だ曾て薩婆若の心を遠離せず、善根を回向して、一切の衆生を饒益し安樂にして、無量の諸願皆悉く成就し、無量廣大の善根を攝取し、善根を修習して、一切を救護し、一切の放逸憍慢を除滅し、一心に一切種智を正念し、一切諸佛の菩提を覺らんと欲し、煩惱及び順煩惱の法を捨離して、一切の菩薩の所學を修習し、一切智の道に於て障礙する所無く、智地及び諸の善根を樂修し、常に樂うて愛語し、善根を增長し、一切の衆生をして永く苦惱を離れ、所行に著せずして一心に諸佛の教法を受持せしむ。是は爲菩薩摩訶薩在家の屬に處して、善根を攝取し、一心に無上の菩提に回向するなり。

菩薩摩訶薩復た是の念を作さく、「乃至小大及び餘の畜生をも、當に此等をして不放逸の行を具足し修習して、畜生の趣を離れ、饒益の樂を得て解脫を究竟し、永く苦海(七)苦受、(八)苦陰、(九)苦覺、(一〇)增上の大苦、苦行、苦藏、(一一)苦根、(一二)苦舍、是の如き等の無量無邊の一切衆の苦を度らしむべし」と。菩薩摩訶薩は衆生をして悉く除滅するこ

【七】苦受。三受の一にして、身體に受くる所の苦痛の感覺をいふ。
【八】苦陰。惡趣に生じたる五蘊身心の苦なり。
【九】苦覺。怨憎會苦、愛別離苦等の精神上の苦惱をいふ。
【一〇】增上大苦。總じて麁重の苦惱をいふ。
【一一】苦根。惑業は苦を所依とし根本とする義、即ち苦因なり。
【一二】苦舍。苦を以て自ら覆ふ義、即ち苦果なり。

とを得しめんと欲し、淨き善根を以て無上菩提に回向し、一切の衆生を教へて、是の如きの境界に回向せしめ、彼の諸の善根を正念し思惟するを以て上首と爲す。所謂、一切種智に回向して、菩提心を發し、菩提心を攝し、生死を遠離して、善根を修習し、生死の淵を出でて、諸の如來の無礙の快樂を得。如來の慈を修して十方に充滿し、大悲をもつて一切の衆生を饒益し、普く一切をして清淨の樂を得しめて、一切諸の勝れたる善根を守護し、一切の衆生をして佛法を究竟じて、一切諸魔の境界を遠離せしめ、彼の如來の甚深の境界に入つて、普く能く一切の世間を拔出し、一切如來の善根を具足して、三世の佛の平等法の中に住せしむ。是の如く菩薩摩訶薩は今集むる善根、已に集めたる善根、當に集むべき善根を皆悉く回向す。

【三】次に實際回向を明かす。

〔三〕復た是の念を作さく、「彼の過去の菩薩の所行の如きは、一切の諸佛を恭敬し供養し、衆生を度脫し、一切を救護し、諸の善根を修めて、菩提に回向し。而も所著無く、色に依らず、受に著せず、想を顚倒せず、行を作さず、識を取せず、六入を離れ、世法に住せずして出世の法を樂ひ、法の空の如きを知り、究竟じて非趣の彼岸に至ることを得、諸法の不生不滅にして、眞實の相無きことを照解して、染著する所無く、一切の諸法は虛妄有ること無く、歸趣する所無く、破壞する所無く、實際に安住す。自性有ること無く、諸の性を離る、故に一念の中に於て一切法を解り、無性を性と爲す。常に樂

りて普門の善根を修行し、如來の圓滿なる功德を具足して、一切を顯現せり、彼の過去の一切の如來の善根回向の如く、我も亦是の如くして、是の如き法を樂ひ、是の如き法を證し、是の如く發心して、諸法を修習し、法相に違はず、所有る起法は猶ほ幻化、電光、水月、鏡中の像の如く、因緣和合して假に諸法を持するも、悉く分別して業因より起ると知る。唯如來地のみ是れ究竟の處なり」と。菩薩摩訶薩は是の如く、過去の諸佛の所學を隨學して回向す。未來現在も亦復た是の如し。菩薩摩訶薩は三世の佛の所學を學び、諸の善根を回向し已りて、是の如きの念を作さく、「彼の諸佛の知りたまひし所の菩薩の回向の如く、我も亦是の如く回向せん。第一の回向、勝回向、最勝の回向、上回向、無上の回向、無等の回向、無等等の回向、無比の回向、無對の回向、尊回向、妙回向、平等の回向、正直の回向、大功德の回向、大願の回向、明淨の回向、善根の回向、清淨の回向、離惡の回向、不隨惡の回向なり」と。

【二四】次に回向の成益を明す。

〔二四〕是の如く菩薩摩訶薩は、諸の善根を以て正しく回向し已りて、清淨なる妙身口意を成就し、作す所の行業は皆悉く清淨となり、菩薩の住に住して諸の惡住を離れ、善根を修習して身口の惡業を離れ、心に選擇無く、薩婆若を修して、無量の住に住し、一切の法は空にして自在無しと入りて、出世の法を修し、世間の法に於て心に染著無く、無量の諸業を分別し了知して、巧方便を成就し、諸法

に回向して心に所倚無し。佛子、是を菩薩摩訶薩の第三の等諸佛回向と爲す。

（一五）菩薩は此の回向に安住し已れば、深く一切諸の如來の業に入り、諸の如來の勝妙なる功德に趣き、深き清淨智慧の境界に入り、一切諸の菩薩の行を離れず、善能く巧妙の方便を分別して、深法界に入り巧妙の方便をもつて、次第に菩薩の善根を成就し、一切諸の如來の性に入り、巧方便を以て無量無邊の一切の諸法を分別し了知す、復た世界の中に示現して生ると雖も、諸の世界に於て心に所著無し。佛子、是を菩薩摩訶薩の等諸佛回向と爲す。』

（一六）爾の時金剛幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

（一七）『彼の諸の菩薩摩訶薩は、過去の佛の回向の法を修し、亦未來現在世の、無量の導師の所行を學す。

（一八）一切種種の微妙の樂は、諸佛如來の讃歎したまふ所、明淨なる勝法眼を成就して、一切諸の導師に回向す。

菩薩の身根の種種の樂、眼耳鼻舌の諸の情根、種種の上妙なる無量の樂を、一切諸の最勝に回向す。

【一五】位果を明かす。
【一六】重頌。廿四偈あり。
【一七】初の一偈は釋名。
【一八】次の二偈は前の佛に回向することを頌す。

(一九) 一切世間の諸の善根、及び諸の如來の成就する所は、彼に於て悉く攝して餘り有ること無く、
隨喜し回向して衆生を益す。
菩薩の隨喜に量有ること無く、亦以て一切の衆に回向し、人中の師子の所有の樂を、願はくは衆生をして悉く具足せしめん。
諸佛如來の知見したまふ所の、一切の衆生の清淨の樂、衆生をして皆悉く、世間の燈明の受くる所の樂を得しめんと欲す。
菩薩の得る所の種種の樂を、諸佛に回向して衆生の爲めにし、衆生をして常に安樂ならしめんと欲し、彼に於て回向して所著無し。
菩薩此の回向を修する時、無量の大悲心を興發すらく、佛の知しめす所の回向の德の如きを、我をして具足して悉く成滿せしめん。
諸の最勝の知見する所の如き、一切智乘の微妙の樂と、我が在世の諸の所行の如き、一切菩薩の無量の樂と、
一切趣の中の衆の快樂と、諸根を柔輭にし調伏する樂とを、皆悉く回向して衆生の爲めにし、
普く無上の智を成就せしめん。

【一九】次の十一偈は衆生に回向して成佛せしむることを願す。中に於て、初の四は隨喜及び樂を以て衆生に回向し、次の四は佛と同じく回向して、衆生を利益することを願し、次の三は正しく回向を念じて、衆生を安樂にすることを明かす。

身口意淨くして諸惡を離れ、巧妙の方便をもつて心平等となり、此を以て群生の類に回向し、
悉く無上の智を成就せしめん。

菩薩の修する所の諸の行業は、無量の淨功德を積集し、如來に隨順して佛の家に生れ、寂然として亂れず正しく回向す。

十方無量の世界の中の、一切の衆生の類を攝取し、無量の善根を悉く回向して、普く衆生をして安樂を得しめん。

己が身の爲めに自ら樂を求めず、一切をして悉く安樂ならしめんと欲し、一切の虛妄の心を遠離して、悉く諸法の空無我を解る。

【三】次の四偈は菩提の回向を頌す。

〔三〕十方無量の諸の最勝の、見たまふ所の一切の眞の佛子は、諸の功德を以て彼に回向し、速かに無上の道を究竟せしめん。

一切世間の衆生の類を、等心に攝取して餘り有ること無く、我が行ずる所の諸の淨業を以て、彼の衆生をして速かに成佛せしめん。

無量無邊の淸淨の願は、無等なる最勝の演說したまふ所、皆悉く淸淨にして諸の垢を離るるを、普く佛子をして究竟して滿せしめん。

一切の功德を盡く回向して、悉く十方諸佛の剎を、種種淨妙に莊嚴せしめ、菩薩は是の如く回向を學ぶ。

(二)心は諸の二法を稱量せず、了達して法の無二なることを覺悟し、諸法は二に非ず不二に非ず、虛妄を作さざるは是れ佛子なり。

一切世間の所有る想は、究竟じて悉く度して餘り有ること無く、亦想及び非想を壞せずして、決定して衆生の想を了知す。

(三)彼の諸の菩薩身を淨くし已れば、則ち意淸淨にして玼穢無く、口業已に淨くして散亂無ければ、當に知るべし意淨くして所著無し。

一心に過去佛を正念し、未來の諸の導師と、現在の十方の天人尊とを分別して、菩薩は徧く彼の佛の教を學ぶ。

三世の無量なる諸の最勝は、慧心明達して障礙無く、行ずる所無量にして菩提を求め、回向して諸の世間を饒益す。

彼の勝妙の慧、廣大の慧、四眞諦の慧、離倒の慧、平等實の慧、淸淨の慧、無比の慧等を皆回向す。

【二】次の二偈は實際回向を頌す。

【三】後の四偈は成益を頌す。中に於て、初の一は三業淨、次の二は三世佛の回向を學ぶことを頌し、後の一は、勝を歎じて七慧を擧ぐ。

(三三)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第四の至一切處の回向と爲す。

(三四)此の菩薩摩訶薩は、一切諸の善根を修習する時、彼の善根を以て、是の如く回向すらく、「此の善根功德の力をして一切處に至らしめん。譬へば實際の、處として至らざる無く、一切の世間に至り、(三五)一切の有に至り、一切の衆生に至り、一切の刹に至り、一切の法に至り、一切の虚空に至り、一切の三世に至り、一切の有爲及び無爲の法に至り、一切の語言音聲に至るが如く、我が此の善根も亦復た是の如く、徧く一切諸の如來の所に至り、三世の一切諸佛を供養せん。過去の諸佛の所願を悉く滿せしめ、未來の諸佛に、佛の莊嚴を具へしめ、虚空法界に等しき世界の中の、現在の諸佛、及び無量の大衆には、以て莊嚴を爲し、皆悉く供養せん。猶ほ諸天の如く、一念の中に於て、悉く能く無量無邊の一切の世界に充滿せん。廣大の功德、智慧無礙にして善根を回向するが故なり」と。菩薩摩訶薩は復た是の念を作さく、「此の善根を以て、虚空界に等しき一切の世界、世界の性、種種の業の起す所の、十方不可說の世界、不可說の佛刹、種種の世界、諸佛の境界、分齊無き世界、轉翻覆世界、伏世界、轉世界、一切無餘の世界の中の、現在の諸佛は、無量の自在神力を顯現したまふ。彼に菩薩有り、虚空法界に等しき

【三三】第四、至一切處回向。
【三四】初に衆生及び菩提の回向。初に善根を回向して三寶に供養すること明かす。
【三五】一切の有。三有、二十五有等なり。

一切の諸法を解り、諸の衆生の爲めに、一切の世界の中に於て、現じて如來と爲りて世に出興し、一切處に至るの智を示現し、無量無邊の自在をもつて、生を受け、法身徧く至り、法界を壞せずして平等に普く入り、佛身藏に同じく、不生不滅にして普く一切に應じ、善巧の方便をもつて世間に出現し、眞實の法性より起り、堅固にして轉せず、無礙に持せられ、諸佛の無礙の功德の所生なり」と。

菩薩摩訶薩は、諸の如來應供等正覺の所に於て諸の善根を種ゑ、衆の雜華、種種諸の香、鬘、蓋、幢旛、珍寶、燈明を以て、是の如き等の諸の妙供具を以て、尊像及び諸の塔廟を供養し、此の一切の善根を以て回向す。一心、不亂心、不動心、尊重心、離瞋心、無住心、無著心、無衆生心、無諂害心寂靜心を以て回向す。◎復た是の念を作さく。

「虛空法界に等しき一切劫の中の、去來今の佛は相好具足して、自ら莊嚴し、妙法界の莊嚴を以て自ら莊嚴し、彼の佛の眷屬は虛空法界に等しき一切の世界に充滿し、隨時に世に出でて、未だ曾て時を失はず。我善根を以て回向して、諸佛を供養せん。無量の香蓋、無量の香幢、無量の香旛、無量の香宮殿、無量の香寶網、無量の香像、無量の香光、無量の香炎、無量の香雲、無量の香座、無量の香輪、無量の香住處、無量の光佛世界、無量の香須彌山王、無量の香海、無量の香河、無量の香樹、無量の香衣、無量の香蓮華を以て、是の如き等の無量無數の衆の香莊嚴を以て、以て供養を爲さん。無

量の華蓋、廣く説かば上の如き、乃至無量無數の衆の華莊嚴を以て、以て供養を爲し、無數の鬘蓋、乃至無數の衆の鬘莊嚴を以て、以て供養を爲し、不可思議の塗香蓋、乃至不可思議の塗香莊嚴を以て、以て供養を爲し、不可稱の抹香蓋、乃至不可稱の抹香莊嚴を以て、以て供養を爲し、無分齊の妙衣莊嚴を以て、以て供養を爲し、無邊の寶蓋、乃至無邊の衆の寶莊嚴を以て、以て供養を爲し、無量の燈蓋、乃至無量の衆の燈莊嚴を以て、以て供養を爲し、不可説の莊嚴具蓋、乃至不可説の衆の莊嚴具を以て、以て供養を爲し、不可説不可説の摩尼寶蓋、是の如きの摩尼寶の幢、摩尼寶の旛、摩尼寶の帳、摩尼寶の網、摩尼寶の鬘、摩尼寶の光、摩尼寶の炎、摩尼寶の雲、摩尼寶の座、摩尼寶の輪、摩尼寶の宮殿、摩尼寶の世界、摩尼寶の須彌山王、摩尼寶の海、摩尼寶の河、尼摩寶の樹、摩尼寶の衣、摩尼寶の蓮華、是の如き等の不可説不可説の摩尼寶の莊嚴を以て、以て供養を爲さん。一一の境界に於て、各阿僧祇の欄楯、阿僧祇の莊嚴、阿僧祇の宮殿、阿僧祇の樓閣、阿僧祇の偏樓閣、阿僧祇の半月莊嚴、阿僧祇の內小幃帳、阿僧祇の窻牖阿僧祇の清淨寶、阿僧祇の一切寶莊嚴有りて、一切の世界を清淨にして、悉く餘り有ること無けん。」

【三六】供養の所爲を明かし正しく回向を顯はす。

〔三六〕是の如く莊嚴して、一切の衆生をして生死を超出して、如來の十種力の地を成就せしむ。諸法の中に於て、無礙の法明を得て衆生を敎化し、一切の善根を回向して、衆生を調伏し、無量の心は、

虚空法界に等しき一切の佛刹に充滿し、法に所至無くして、三世の無量なる善根を出生せしめ、一切の衆生をして、悉く無量の諸佛を覩見たてまつることを得しめ、一切諸の善根の中に安住して、大乘を成就し、諸法に著せず、諸の善根を具足して、無量の行を究竟し、普く無量無邊の一切の法界に入り、善根を回向して、一切如來の自在神力に入らしめ、一切の衆生をして此の善根に因りて薩婆若を得、無上道を成ぜしむ。

(三七)譬へば無我にして諸法を離れざるが如く、我が諸の善根も亦復た是の如し。一切の佛を攝取す、恭敬し供養するが故に。一切の法を攝取す、障礙を離るるが故に。一切の菩薩を攝取す、一切の同善根を究竟するが故に。菩薩の一切の行を攝取す、諸願を滿ずるが故に。菩薩の一切の法明を攝取す、決定して無礙なるが故に。一切の佛の自在力を攝取す、無量なる諸の善根を成就するが故に。一切の佛の力無所畏を攝取す、無量の心を發して、一切を滿ずるが故に。一切の菩薩の三昧、辯才、陀羅尼門を攝取す、世間に二法無きことを解了するが故に。一切の佛の巧妙なる方便を攝取す、如來の大神力を示現するが故に。三世一切の諸佛出生して、道を得、淨法輪を轉じ、涅槃を示現したまふことを攝取す、供養を興發して衆生を化するが故に。一切の世界を攝取す、無上の佛刹を莊嚴するが故に。一切の劫を攝取す、一切の菩薩の行を斷せ

【三七】善根の攝德勝用を明かす。

ざるが故に。一切の趣を攝取す、受生を示現するが故に。一切の衆生を攝取す、普賢菩薩の行を具足するが故に。一切の衆生を攝取す、煩惱習を淨めしむるが故に。一切衆生の諸根を攝取す、化度無量なるが故に。一切衆生の諸欲を攝取す、諸の煩惱を淨めしむるが故に。一切の衆生を調伏し成就することを攝取す、其の所應に隨ひて爲めに身を現ずるが故に。一切の衆生を攝取す、衆生の變化の如くなることを解らしむるが故に。一切如來の性を攝取す、一切の佛法を守護し受持するが故なり。

(二八)菩薩摩訶薩は、是の如く善根を回向して所有無しと了り、業の中に虛妄の報を取らず、報の中に虛妄の業を取らず。諸の虛妄を離れて、深法界に入り、心常に勝妙の善根に安住し、(二九)散心を遠離して善法を修習し、一切の諸法を信せず入らず、法の自性有ることを見ずして成就せり。作者、壞者、皆得可からず、一切の法は悉く自在無しと知りて、法界に見者有ること無く、知者有ること無しと解了すればなり。◎是の如く菩薩摩訶薩は圓滿具足して、諸法を解了すれば、一切法の衆の因緣地なることを得て、一切の法身の離欲の實際を見、諸法を等觀して世間を解了するに、猶ほ幻化の如く、衆生を明達すれば、皆是れ一法にして分別するに無二なるも、諸業の境界の方便を捨てず。有爲界に於て無爲界を出すも、而も亦有爲の性を壞せず、無爲界

【二八】次に實際回向を明かす。
【二九】散心。定心に對して散亂の心をいふ。

に於て有爲界を出すも、而も亦無爲の性を壞せざるなり。◎是の如く菩薩摩訶薩は、諸法の寂滅の相を樂觀して、一切の清淨なる善根を出生し、皆悉く回向して衆生を救護し。精勤し修習して愚癡の法を離れ、深く達して一切の法海を明了し、虚空に等しき一切の善根を以て回向して、無上なる堅固の功德を具足し、癡冥を離れたる明淨の法眼を得、善く方便回向の功德を知る。

(三〇)菩薩摩訶薩は是の如く善根を回向して、一切の衆生をして一切の刹を淨めしめ、佛の自在を得、衆生を敎化して、諸佛の法を持し、一切世間の最上の福田となり、諸の衆生の爲めに採寶の導師と作り、一切世間の爲めに明淨の日を出し、一一の善根は法界に充滿し、善根回向して衆生を救護し、一切の衆生をして悉く皆清淨の功德を成就せしむ。菩薩摩訶薩は是の如く善根を回向して諸の如來の性を守護し受持す。諸の衆生を敎化し成就する性、一切諸佛の刹を嚴淨し、業性を壞せざる性、法を分別する性、等しく不二の法を觀ずる性、徧く十方に遊ぶ性、廣く離欲を說く性、解脫を具足する性、普く諸根を照す性なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の第四の至一切處の回向と爲す。

(三一)菩薩摩訶薩は此の回向に安住すれば、能く一切の善根を以て回向して、一切處に至る身業を得、善く一切の世界に應現するが故に。一切處に至る口業を得、微妙の音聲は十方一切の世界に充滿す

【三〇】利益を擧げて結す。
【三一】後、位果を辨ず。

るが故に。一切處至るに意業を得、悉く能く一切諸佛の說きたまふ所の法を受持するが故に。一切處に至る神足を得、善能く一切世間の行に隨順するが故に。一切處に至る法を得、一切の法に隨順するが故に。一切處に至る隨順法陀羅尼の辯才を得、一切の衆生をして悉く歡喜せしむるが故に。一切處に至る順入法界を得、一毛道に於て悉く能く普く一切の世界に入るが故に。一切處に至る身を得、一切の衆生の身をして一りの衆生身に入らしむるが故に。一切處に至る劫を得、一切の劫の中に於て常に諸佛を見たてまつるが故に。一切處に至る刹那を得、一刹那に於て一切の佛世に興りたまふことを現ずるが故に。佛子、菩薩摩訶薩は一切處に至る善根回向を得て、能く一切の善根を以て回向す。』

〔三〕爾の時金剛幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

〔三〕『一切內外の諸の世間に、菩薩大士は所著無く、衆生を饒益する事を捨てず、是の如きの妙智は人中の勝なり。

一切諸の世界に著せず、十方堅固の性を取らず、衆生壽命の相を取らず、亦諸の世間を妄取せず。

〔三〕重頌十一偈あり。

〔三〕初の七偈は衆生及び菩提の回向を頌す。中に於て、初の四は行眞理に稱ふて善く回向することを明かし、後の三は、諸業は佛に同じくして回向を學ぶことを明かす。

一切十方の世界の中の、衆生を攝取して悉く餘すこと無く、有無を觀察して自在を得、一切處に至りて善く回向す。

有爲無爲の法を攝取して、心諸の世間を妄取せず、世間の諸法には差別無し、世を照す燈明は是の如く覺る。

一切行ずる所の諸の業行は、上中下品各同じからず、智者は諸業を、悉く一切十方の諸の如來に回向す。

菩薩は回向して彼岸に到り、如來の學に隨ひて悉く成就し、甚深微妙の智を分別して、最勝の殊特なる法を具足す。

【三三】次の三偈は實際回向を頌す。

清淨の善根を悉く回向して、常に能く諸の群生を利益し、悉く十方の一切衆をして、無上なる照世の燈を成就せしむ。◎

（三四）未だ曾て虚妄に衆生を取らず、亦妄想して諸法を念せず、一切世に染せず著せず、亦復た諸の衆生を捨てず。

菩薩は常に寂滅の法を樂ひ、隨順して寂滅の境に至ることを得、亦衆生の道を捨離せずして、是の如き等の微妙の智を得。

諸業の虚妄の想を起さず、諸の果報に於ても亦著せず、一切の世間は縁より起る、因縁を離れて諸法を見ず。

(三五)是の如き境界に隨順して至り、一切虚妄の想を遠離すれば、一切衆生の調御師にして、具足明了にして善く回向す。

(三六)佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第五の無盡功德藏の回向と爲す。

(三七)此の菩薩摩訶薩は、悔過の善根を修して、一切の業障を離る。去來今佛の一切の善根、及び三世一切の衆生の善根に於て、皆悉く隨喜す。諸の如來に於て、尊重し、恭敬し、禮拜し、供養して生ずる所の善根。諸佛を勸請して生ずる所の善根。佛の所說の法を、聞持し憶念し、說の如く修行して、不思議の境界に入る善根。三世の諸佛の無盡の善根。一切の菩薩の修する所の善根。三世の諸佛の菩提を得る時の無上の善根なり。菩薩摩訶薩は、此の一切の善根に於て皆悉く隨喜す。隨喜し已りて彼の善根に安住し、三世の諸佛は淨法輪を轉じて、無量の衆生を度し、彼の諸の衆生の得る所の善根を、菩薩摩訶薩は皆悉く隨喜す。三世の諸佛の初發心より菩薩の行を修し、乃し成佛して涅槃を示現するに至るまで、其の中間に於て獲る所の善根を皆悉く隨喜す。彼の諸の如來般涅槃

【三五】後の一偈は所成の果を回向することを頌す。
【三六】第五、無盡功德藏回向。
【三七】初に所依の行體を明かす。

し已りて、諸佛の正法を受持し守護し、乃し法の滅するに至るまで修する所の善根、佛の境界を念じて修する所の善根、自己の境界に修する所の善根、乃至無上菩提の境界の善根なり。

（三八）菩薩摩訶薩は此の諸の善根を以て、皆悉く囘向す。菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、此の諸の善根を、若くは修し、若くは學し、若くは積集し、若くは開解し、若くは隨喜し、若くは具足し、若くは成就し、若くは所行有り、若くは所得有り、若くは正憶念し、若くは受持し、若くは堅固にして壞し難し。此の如きの善根は過去際の劫を盡して、一切の諸佛の莊嚴する世界に、無量の行業の興起す所、佛智の知る所、菩薩の識る所、衆生に應じて起り、欲に隨ひて清淨に、如來の持する所、如來の出世の淨業の成ずる所、普賢菩薩の淨業の起こす所なり。彼の諸の世界に、若し衆生有らば無上道を成じ、自在力を現ぜん。未來の一切の如來應供等正覺の莊嚴する佛刹は法界と等しく、無量無邊の虛空法界に等し、一切世界の中に、未來際の劫を盡して、一切の諸佛、彼の諸の如來は智慧を成就して、當に佛刹を淨むべし。雜寶をもつて莊嚴し、一切の厭くこと無き上香をもつて莊嚴し、一切の華を雨らして莊嚴し、一切の衣雲をもつて莊嚴し、一切の功德藏をもつて莊嚴し、一切如來の持智をもつて莊嚴し、一切の佛刹をもつて莊嚴し、不可說に莊嚴し、不可思議の功德を修習し

【三八】菩提及び衆生に囘向することを明かす、初に前の善根を牒し、菩薩は囘向して佛刹の莊嚴を求むることを明かす。

て莊嚴し、如來等正覺の淨き威神をもつて莊嚴し、未來の一切諸佛の莊嚴する佛刹は、一切世間の觀ること能はざる所、菩薩の淨眼の照見する所なり。菩薩摩訶薩は勝れたる善根を修して、悉く一切諸の清淨法に入り、一切諸の清淨法を受持して、猶ほ變化の如くし、普く菩薩の諸の清淨業を行じ、菩薩の不可思議なる自在の三昧に入り、佛慧の光明は普く世間を照す。未來の諸佛の佛刹を嚴淨するが如く、現在の諸佛の世界を嚴淨することも、亦復た是の如く、種種の莊嚴清淨にして具足し、功德普く覆ひ、無量の妙色、不可思議の香、無量の雜寶、無量の寶樹、阿僧祇の莊嚴、阿僧祇の宮殿、阿僧祇の微妙の音聲あり。善知識に隨ひて、無量なる一切の功德、殊勝の莊嚴を顯現して窮盡すべからず。一切の香莊嚴、一切の鬘莊嚴、一切の華莊嚴、一切の抹香莊嚴、一切の寶莊嚴、一切の衣莊嚴、一切の幢莊嚴、一切の旛莊嚴、一切の繒綵莊嚴、一切の寶欄楯莊嚴、阿僧祇の白寶網普く覆ふて莊嚴し、阿僧祇の河をもつて莊嚴し、阿僧祇の雲雨をもつて莊嚴し、阿僧祇の自然の妙音聞えざる所無し。是の如き等の無量無邊の諸の莊嚴具を以て、無量無邊の不可思議なる諸佛の世界を莊嚴す。彼の諸の世界の中に、若くは佛刹莊嚴、佛刹清淨、佛刹平等、佛刹妙善、佛刹功德、佛刹殊勝、佛刹安樂、佛刹不壞、佛刹無盡、佛刹無量、功德不可盡、佛刹不退、佛刹無所畏、佛刹光明、佛刹快樂、佛刹無厭、佛刹普照、佛刹照明、佛刹方正、佛刹第一、佛刹勝、佛刹最勝、佛刹微妙、佛刹無比、佛

剎無等、佛剎上、佛剎無上、佛剎無等等、是の如き等の三世の一切諸佛の佛剎莊嚴あり。菩薩摩訶薩は此の善根を以て皆悉く回向して、普く一切の佛剎をして清淨に莊嚴せしむ。是の如く莊嚴して一世界の中に於て、三世一切の莊嚴せる佛剎は、具足清淨に、周徧清淨にして、積集し等起し、莊嚴具足し、莊嚴住持して、皆悉く具足せり。一世界の中の如く、無量無邊の虛空法界に等しき世界も、悉く三世諸佛の莊嚴せる佛剎を以て、之を莊嚴し、佛剎の功德、佛剎を觀るに厭足無き、佛剎の無量なる、佛剎の彌廣なる、佛剎の無數なる、佛剎の不可思議なる、佛剎の無勝なる、佛剎の稱る可からざる、佛剎の無邊なるは皆悉く具足せり。

(三九)菩薩摩訶薩は復た是の如く回向して、其の修する所の一切の佛剎に、菩薩摩訶薩を皆悉く充滿せしむ。此の菩薩は一切の清淨なる功德を具足し、智慧を成就し、善能く一切の世界、及び衆生界を分別し、深法界に入り、愚癡を捨離して、空寂界に入り、佛を念じ、不思議の法を念じ、清淨の僧を念ずることを成就し、念捨を成就し、法日圓滿にして慧光普く照じ、深智無礙にして、無所有の寂滅の法より生じ、無量なる清淨の佛法を出生し、殊特勝妙の善根、清淨の善根、最勝の善根、增上の善根を成就し、無上菩提の心を建立して、善能く隨順して如來力に入り、心常に一切種智を志求し、諸魔の業を淨め、衆生の性を了り、法の空寂なることを知りて、顚倒を捨離し、愚癡を除

【三九】次に菩薩、人寶莊嚴を求むることを明かす。

滅し、諸の善根を修し、大願を滿足す。是の如き等の無量無邊の功德を成就せる菩薩は其の刹に充滿し、悉く無量の法門の中より生れ、是の如き一切の功德に安住し、無等等の勝妙なる善根を成就して、常に佛事を作し、善巧の方便をもつて菩提の光明を得、無礙法界の智慧を具足して、一身は一切の法界に充滿して自在力を現じ、大智、一切智の境界を成就して、善巧の方便をもつて智慧を出生し、無量の法界を分別して、徧く諸刹に遊び、而も所著無く、心淨きこと空の如く、悉く能く一切の法界を分別す。諸の菩薩の不可思議なる三昧正受に於て、巧方便を以て善能く入出し、薩婆若に趣き、諸佛の刹に住し、善能く諸佛の威神を了知し、善能く阿僧祇の諸の深妙の法を分別して而も畏るる所無し。三世の諸佛の善根に隨順して、普く一切如來の法界を照し、悉く能く一切諸佛の說きたまふ所の正法を受持し、善能く不可思議なる淸淨の音聲を演出し、善能く阿僧祇の諸の語言の法を分別し、無上の道と、佛の自在地とを得。悉く能く一切の世界に周徧して而も障礙無く、悉く一切の無諍の法を攝して、心に虛妄無く、染著する所無く、菩提の心を修習し增廣し、善解の智慧は隨時に應化して權變に方無く、眞實の義を了りて具足し演說す。是の如き等の無量の功德を成就せる諸の大菩薩は、世界を莊嚴し、世界に充滿し、種種に莊嚴し、順至し安住し、善修し〔四〇〕熏修し、淳淨にして雜無く、周徧淸淨にして恢然とし

【四〇】熏修。菩薩の德は互に資けて熏成するの義なり。

て〔四一〕宴寂なり。一佛刹の少分の處所に於て、無量の菩薩、無數の菩薩、不思議の菩薩、不可稱の菩薩、不可量の菩薩、無等の菩薩、究竟す可からざる菩薩、無分齊の菩薩、不可說の菩薩、不可說不可說の菩薩有り。一佛刹の一一の少分の處に、是の如き等の大菩薩摩訶薩有るが如く、虛空法界に等しき一切の世界に、菩薩摩訶薩皆悉く充滿せることも亦復た是の如し。

〔四二〕菩薩摩訶薩は諸の善根を以て方便して回向す。一切の佛刹、一切の菩薩摩訶薩、一切の如來、一切の無上菩提、一切の大願、一切の出要、一切の衆生淨く、一切の世界に常に如來を見たてまつり、如來の壽命無量に、不退轉の法輪を轉じて法界と等しからんと回向す。

〔四三〕是の如く菩薩摩訶薩は善根回向して、一切の佛刹をして清淨ならしめ、一切の衆生海をして清淨ならしめ、一切の菩薩をして清淨ならしめ、一切の諸佛をして法界に充滿せしめ、如來の清淨なる法身をして一切の佛刹に充滿せしむ。

〔四四〕菩薩摩訶薩は是の如き等の無等等の回向を以て、薩婆若に趣き、心淨きこと虛空の如く、動ぜざること大地の如くして、不可思議の回向に入り、一切の業報は皆悉く寂滅なりと樂觀して、無盡の功德を回向して、平等に一切の法界に隨順す。○菩薩摩訶薩は是の如きの回向を行じ已りて、虛妄に

【四一】宴寂。宴は心樂しく安らかなる義。
【四二】次に受用嚴淨を明かす。
【四三】回向の所成を結す。
【四四】次に實際回向を明かす。

我及び我所を取らず、虚妄に佛及び諸佛の法を取らず、虚妄に佛刹及び刹清淨を取らず、虚妄に衆生及び調伏衆生を取らず、虚妄に諸業を取り及び業法を取らず、意業及び業の果報に著せず、因果を壊せず、有法を取らず、有法を壊せず、生死も雜亂に非ず、涅槃も寂靜に非ず、如來の（四五）境界道は他の所作に非ず、（四六）法の同止する無し。菩薩摩訶薩は、是の如く諸の善根を起して、決定して回向し、成就し具足して、等しく觀じて相を取り、善く境界を取りて、分別し稱量し、諸の虚妄を離れて所著無し。

（四七）菩薩摩訶薩は是の如く善根を回向し已りて、無盡の善根を得、常に三世一切の諸佛を念じて、一切の無盡の善根を得、無量の菩薩を度して無盡の善根を得、諸佛の刹を淨めて無盡の善根を得、衆生界を淨めて無盡の善根を得、深法界に入りて無盡の善根を得、無量の心を修して淨きこと虚空の如くにして無盡の善根を得、一切諸佛の境界を解了して無盡の善根を得、一切の菩薩の淨業を修習して無盡の善根を得、三世に了達して無盡の善根を得たり。是の如き等の善根を以て回向して、悉く能く一切の衆生を度脱す。衆生界に入りて、衆生界を見ずして回向し、一切の法は壽命有ること無しと解りて回向し、一切の法は眞實に自在有ること無しと知りて回向し、一

【四五】境界道。佛の境界、佛の所行の道を云ふ

【四六】佛果に至れば性海冥同して、能依の智と所依の理とば同處に止まることなく、能證所證を離るるの義なり。

【四七】前に得し所の無盡の善根に依り、復た將て回向することを明かす。

切の諸法は福伽羅無くして回向し、一切の諸法は諸の忿諍を離ると觀察して回向し、一切の諸法は因縁より起りて堅固有ること無くして回向し、一切の法は眞實に所著無しと知りて回向し、一切の佛刹は染著する所無くして回向し、菩薩の行に堅固の相を取らずして回向し、一切の境界は空にして所有無しと分別し了知して回向す。◎菩薩摩訶薩は、是の如く回向して、眼終に不淨の佛刹を見ず、亦復た異相の衆生を見ず、法を行じて法を見ず、智に入りて所入無く、一切は猶は虚空の如しと解了し、如來の身に於て一切法を得、無量なる諸の功德力を滿足し成就し、至一切處の善根を具足して、衆生を安樂にす。此の菩薩摩訶薩は念念の中に於て不可說不可說の十力地を得、一切種智と清淨の善根とを具足して、悉く能く一切の衆生を攝取す。彼の菩薩摩訶薩は、是の如きの功德の寶藏を成就して、所遊の方に隨ひて、悉く能く一切の佛刹を嚴淨し、不可說不可說の衆生をして諸の功德力に安住し攝取せしむ。

【四八】行德の成ずることを結す。

〔四八〕菩薩摩訶薩は是の如く回向する時、此の回向の威力を以ての故に、一切の所行倫匹有ること無く、一切世間も壞すること能はざる所、衆魔を威攝して能く瞻對する莫く、不退の功德を具足し成就し、無量の大願皆悉く成滿し、其の心彌廣くして一切智に等しく、一念の中に於て悉く能く無量の佛刹に周徧し、無量の智力を得て悉く能く諸佛の境界を了知し、常に樂ひて一切の佛法を受持し無量無

邊の大智に安住す、菩薩の初發の菩提心の力は、悉く虛空諸の法界と等し。佛子、是を菩薩摩訶薩の第五の無盡の功德藏回向と爲す。

（四九）菩薩摩訶薩は此の無盡功德藏の回向に安住すれば、復た十種の無盡の功德藏を得。何等をか十と爲す。一には常に諸佛を見たてまつる無盡功德の藏、一一の毛孔の中に於て、無量阿僧祇の諸佛を見たてまつる。二には無盡の法に入る功德の藏、如來の智慧をもつて一切の法は即ち是一法なりと等觀す。三には受持し正念する無盡功德の藏、一切の佛の說きたまふ所の正法を聞き、聞持して忘れず。四には無盡の慧を得る功德の藏、一切の如來の說きたまふ所の經法に於て、善能く次第して其の句義を解る。五には無盡の趣法功德の藏、善能く一切の法趣を分別す。六には無盡の佛願功德の藏、智慧は空の如くにして三世の一切諸法に充滿す。七には無盡の功德功德の藏、一切諸の衆生の意に充滿して、猶ほ盡す可からず。八には無盡智の功德の藏、一切衆生の愚癡障礙を悉く能く除滅す。九には無盡の辯才功德の藏、一切の衆生をして、悉く一切の佛法の平等無二なることを解らしむ。十には無盡の十力四無所畏の功德の藏、菩薩の所行を具足し修習して、法王の職を受け、一切智を得。佛子、是を菩薩摩訶薩十無盡の功德藏を得と爲す。此の無盡功德の藏を以て、皆悉く一切の功德に回向す。』

【四九】位果を明かす。

(五〇)爾の時に金剛幢菩薩、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰く、

(五一)『菩薩は直心の力を成就し、一切の法に於て自在を得、隨喜の獲る所の諸の功德を、無礙の方便をもつて善く回向す。◎

(五二)三世一切の諸の最勝は、刹土及び世閒を嚴淨し、一切の勝功德を具足す、淨刹に回向することも亦是の如し。

三世一切の最勝の法を、菩薩は悉く能く諦かに分別し、淨心をもつて一切の法を攝取し、是の如く諸佛の刹を莊嚴す。

三世の無量劫を窮盡して、一佛刹の諸の功德を獲んとするに、三世の諸劫は猶ほ盡す可くとも、佛刹の功德は窮極すること無し。

是の如きの一切諸佛の刹を、一切の最勝は悉く嚴淨し、菩薩は一切の刹を嚴淨して、諸の導師と等しくして異ること無し。

彼の眞の佛子は心清淨にして、悉く如來の法化より生れ、一切の功德をもつて莊嚴せる心は、一切諸佛の刹に充滿す。

彼の諸の菩薩は悉く、無量の相好莊嚴身を具足す、一切の諸辯を悉く成滿し、窮盡す可からざる

【五〇】重頌。二十五偈あり。
【五一】初の一偈は行體の中の隨喜の行德を頌す。
【五二】次の九偈は菩提及び衆生に回向することを頌す。中に就て、初の四は三世の佛刹を莊嚴すること、次の四は菩薩の人寶嚴土、次の一は受用淨を頌す

こと大海の如し。

境界を觀察する心平等にして、一切の三昧門に安住す、清淨なる無等の心を成就して、光明普く十方界を照す。

是の如くして餘すこと無き諸佛の刹に、此の諸の菩薩は悉く充滿し、未だ曾て聲聞乘を想念せず、亦復た緣覺道を求めず。

菩薩は是の如く心清淨にして、善根を諸の群生に回向し、普く衆生をして正覺を成じ、三世の諸佛の法を具足せしむ。◎

(五三)十方一切の諸の魔王を、菩薩の威德は悉く調伏し、勇猛に安住して能く壞ること莫く、決定して究竟の法を修行す。

菩薩は諸の願力を具足して、回向の功德障礙無く、深く無盡の功德藏に入り、三世の果報窮盡すること無し。◎

(五四)善能く一切の法を觀察して、其の性は自在ならずと了達し、已に能く空無我なるを分別せり、是の故に業報を妄取せず。

有色の法及び無色無く、亦有想も無く無想も無く、亦有法及び無法も無く、一切の諸法は所有無

【五三】次の二偈は所成の德を頌す。

【五四】次の五頌は實際回向を頌す。

し。
亦復た有に非ず亦無に非ず、亦復た因に非ず無因に非ず、彼の一切諸緣の中に於て、其の心了達
して染惑無し。
一切衆生の語言の法を、悉く能く了知して所著無く、悉く世間の施設の法を知り、諸法に我有る
こと無しと決定す。
平等に衆生の類を觀察し、諦かに諸法は二法無しと了り、普く三世の
無差別なるを觀ず、佛刹諸業も亦是の如し。
(五五)菩薩は是の如く回向を知りて、所行の業に隨ひて功德を生じ、明
かに諸佛の眞實性に達し、一切の佛の深妙の法を解る。
菩薩は是の如く淨く回向して、心能く分別し能く思量し、自性は悉く
性に非ずと了知して、一切の法に於て所著無し。
一切諸の境界を攝取して、一切群生の類に回向し、一切の愚癡の闇を除滅して、眞實の性に於
て如如を覺る。
菩薩は一切の虚妄の見を、已に滅し已に棄てて永く餘すこと無く、世間の煩惱の熱を遠離して、

【五五】後の八偈は前生の善根をもつて復た回向せんとすることを頌す。中に於て初の一は所得の十無盡の善根を頌し、次の二は前の善根を以て十種の回向を成じ、後の五は回向の益相を頌す

究竟清淨の趣に到ることを得。

一切諸法の性を壞せず、眞實に所生無しと明達し、諸法は猶は響の如しと解了して、悉く一切に於て所著無し。

三世の衆生の類は、悉く因緣の和合より起ると了知し、善く煩惱諸の習氣を解り、諸法の眞實性を壞せず。

業の性は是れ業に非ずと了達し、亦復た諸の業性を壞せず、又亦業の果報を壞せずして、緣起の法を宣揚し讚歎す。

衆生の所生に生有ること無く、亦生死の中に流轉することも無く、衆生に著せずして衆生を說き、善能く諸の世間に隨順す。』

譯號馱三本俱作陀陀下宋無羅字羅下三本俱有等字以下每卷皆同

震明作振
逾同作踰

顙三本俱作譬
燄明作炎下同

大方廣佛華嚴經卷第一

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

世間淨眼品第一之一

如是我聞。一時佛在摩竭提國寂滅道場。始成正覺。其地金剛具足嚴淨。衆寶雜華以爲莊飾。上妙寶輪圓滿清淨。無量妙色種種莊嚴。猶如大海。寶幢幡蓋。光明照耀。妙香華鬘周帀圍遶。七寶羅網彌覆其上。雨無盡寶顯現自在。諸雜寶樹華葉光茂。佛神力故。令此場地廣博嚴淨。光明普照。一切奇特妙寶積聚。無量善根莊嚴道場。其菩提樹高顯殊特。清淨瑠璃以爲其幹。妙寶枝條莊嚴清淨。寶葉垂布猶如重雲。雜色寶華間錯其間。如意摩尼以爲其果。樹光普照十方世界。種種現化施作佛事不可盡極。普現大乘菩薩道教。佛神力故。常出一切衆妙之音。讃揚如來無量功德。不可思議師子之座。猶如大海。衆妙寶華而爲嚴飾。流光如雲周徧普照無數菩薩大海之藏。大音遠震。不可思議如來光明逾摩尼寶。彌覆其上。種種變化施作佛事。一切悉覩無所罣礙。於一念頃一切現化。充滿法界。如來妙藏無不徧至。無量衆寶莊嚴寶臺。如來處此寶師子座。於一切法成最正覺。了三世法平等智身。普入一切世間之身。妙音徧至一切世界。不可窮盡。猶如虛空。平等法相智慧行處。猶如虛空。等心隨順一切衆生。其身徧坐一切道場。悉知一切衆生所行。智慧日光照除衆冥。悉能顯現諸佛國土。普放三世智海光明照淨境界。無量光明充滿十方。不壞法雲徧覆一切。以力無畏。顯現無量自在力光。開方便門教化衆生。悉能普現一切衆會。猶如虛空而無來去。了達一切無有自性。隨順諸法平等之相。一切光明普現三世諸佛所行諸佛世界。猶如大海。不可思議音聲語言悉能隨順。與十佛世界微塵數等大菩薩俱。其名曰普賢菩薩。普德智光菩薩。普明師子菩薩。普勝寶光菩薩。普德海幢菩薩。普慧光照菩薩。普寶華幢菩薩。普勝顙音菩薩。普淨德燄

耀三本俱作曜下同

力下三本俱有入於二字

主同作王

栴明作旃

菩薩。普相光明菩薩。大光海月菩薩。雲音海藏菩薩。德寶勝月菩薩。淨慧光燄自在王菩薩。超趣華光菩薩。無量智雲日光菩薩。大力精進金剛菩薩。香燄光幢菩薩。月德妙音菩薩。光明尊德菩薩。與如是等諸菩薩俱。皆是盧舍那佛。宿世善友。一切成就功德大海。諸波羅蜜周滿普照。慧眼淸淨等觀三世。於諸三昧具足明淨。辯才大海深廣無盡。普現諸佛功德光耀。善知一切衆生心行如應調伏。以金剛智普照境界。同一法性覺慧廣大。甚深智境靡不明達。住於一地。普攝一切諸地功德。無上智願皆已成滿。具足如來深廣密教。悉得一切佛所共法。皆同如來行地德力。一切三昧海門皆得自在。於衆生海如應示現。隨其所行善能建立。善入一切諸法之海。廻轉總持如來一切功德法海。充滿其身。徧遊一切佛世界海。出生一切淨土願海。悉得諸佛達未來際方便智慧。一切如來坐道場者。普能往詣禮事供養。悉得一切普賢願海。於諸衆生智身滿足。復有佛世界微塵數金剛力士。其名曰堅固光耀力士。日光耀力士。須彌華力士。淨雲音力士。阿修羅主力士。勝光明力士。樹音聲力士。師子王力士。淳厚光藏力士。珠髻華光力士。與如是等諸力士俱。已於阿僧祇劫。發大誓願。侍衞諸佛。佛願行處皆已具足。無量功德皆已淸淨。悉行深廣三昧境界。無量神力佛所遊處。無不徧至。皆悉能行不可思議解脫境界。處一切衆其身殊特無能映蔽。隨諸衆生所應度者。能現其身如應化之。復有佛世界微塵數諸道場神。其名曰淨莊嚴神。寶積光明神。吼音聲神。雨衆華神。莊嚴寶光神。善超香神。金色雲神。樂華樹神。莊嚴光神。與如是等道場神俱。皆於先佛造立願行。復與佛世界微塵數諸龍神俱。其名曰摩尼光龍。雜莊嚴龍。喜寶光龍。淨身光龍。香莊嚴龍。寶目光龍。如是一切皆於過去不可思議阿僧祇劫。常爲如來莊嚴法堂。復與佛世界微塵數諸地神俱。其名曰淨華光神。善思光明神。雜華莊嚴神。散寶燄神。隨時樂觀神。金眼勝神。氏孔散香神。應時和音神。如是一切皆同德本。於過去佛所普修願行。復與不可思議諸樹神俱。其名曰雜華雲神。雜種光神。淨勝光神。垂莊嚴神。莊嚴光神。樂和音神。普勝等神。華果味神。如是一切皆悉成就大喜普照。復與無邊藥草神俱。其名曰光燄神。栴檀香神。淨光神。普稱神。普力神。普淨神。普光神。愛香神。勝現神。如是一切皆悉成就大悲普照。復與無量諸穀神俱。其名曰勝味神。華淨神。善力神。勢味神。根果神。淨華神。樂淨神。淨光神。如是一切大喜成就。復與無量諸河神俱。其名

喜三本俱作善
多下同無羅字
伽明作迦
髻三本俱作結
荼三本俱作茶以下皆同

曰普流神。勝洄澓神。洪流聲神。養水性神。淨海光神。普愛神。妙幢神。勝水神。海具光神。如是一切常能精勤利益衆生。復與不可思議諸海神俱。其名曰寶勝光明神。金剛慧神。普涌浪神。雜華龍勝神。寶華光明神。須彌莊嚴神。海香聲神。如是一切以佛無量功德之海而自充滿。復與無量阿僧祇諸火神俱。其名曰熾然光藏神。熾然光輪神。廣明耀神。無盡神。雜寶勝神。照除諸冥神。燄雲光明神。如是一切悉爲衆生照除闇冥。復與無量諸風神俱。其名曰無礙照明虛空神。徧超勝神。散須彌神。燄淨味神。淨除味神。發行大音神。樹峯華林神。持世界神。如是一切皆能和合衆生令不分散。復與無邊虛空神俱。其名曰普光淨勝神。無邊深廣神。起風神。離一切障神。廣超神。無對光燄神。無礙力勝神。最上妙音神。示現十方神。如是一切心皆無垢堅固淨妙。復與無量主方神俱。其名曰善住神。充滿神。無量現光神。光莊嚴神。普轉漸行神。不惑轉神。淨遊虛空神。普行世間神。行甚深神。如是一切皆能善照一切衆生。復與無量主夜神俱。其名曰妙光神。淨光神。善觀衆生神。靜時堅固神。方便勝具神。生一切樹果神。無盡眷屬神。主知樂淨遊戲神。和諍神。淨福具神。如是一切於助道法深重愛樂。復與無量主晝神俱。其名曰現宮殿神。善解安立戰場神。樂莊嚴普勝神。喜華香神。普集勝藥神。樂見王神。淨目高顯普勝神。大悲豐光神。光明善照神。普勝垂華神。如是一切皆悉信樂正法莊嚴。復與無量阿修羅神俱。其名曰羅睺羅王。毗摩質多羅王。睒婆利王。明月王。金剛堅錦王。大智慧力王。勝集天女王。如是一切悉能降伏憍慢放逸。復與無量伽留羅王俱。其名曰大勇猛力王。無畏寶髻王。勇猛淨眼王。不退莊嚴王。持大海光王。持法堅固王。勝根光明王。充滿普現王。普遊諸方王。普眼等觀王。如是一切成就方便廣潤衆生。復與無量緊那羅王俱。其名曰善慧王。善幢王。雜華行王。離愛慢音王。寶樹光明王。善愛現王。莊嚴光王。善華幢王。勝地王。勝慧王。如是一切普於衆生精勤勸發能使樂法。復與無量摩睺羅伽王俱。其名曰善慧王。淨端嚴音王。衆妙慧聚王。燈幢王。猛光王。師子香薰王。雜瓔珞音王。堅固樂明王。如是一切普爲衆生除諸疑網。復與無量鳩槃荼王俱。其名曰毗樓勒王。善修幢王。足平鮮白王。能除恐怖王。淨須彌林王。無量淨眼王。無量日門王。如是一切皆悉修習無礙法門。復與無量鬼神王俱。其名曰毗沙門王。大音聲王。淨地王。大主王。燄眼王。堅固眼王。莊嚴勝軍王。大富淨身王。須彌力王。如是一切普能勤護

皆悉同作悉皆
臍三本俱作齊
姿同作婆
普同作香
梵下同無天字
令明作念
靜三本俱作淨
修同作備

一切衆生．復與無量月身天子俱．其名曰月天子．曜華天子．勝流莊嚴天子．樂諸世樂天子．眼光天子．淨光天子．普遊靜光天子．星宿王天子．淨覺天子．端嚴善光天子．如是一切勤以智慧普發衆生無上寶心．復與無量日天子俱．其名曰日天子．眼燄光天子．須彌光勝天子．淨寶眼天子．勇猛不退天子．妙華鬘光天子．寶覺天子．明眼天子．勝地童天子．普勝光天子．如是一切皆悉成就清淨善根．常欲饒益一切衆生．復與無量三十三天王俱．其名曰釋提桓因天王．普稱滿天王．髻目天王．寶光稱天王．樂喜天王．樂念天王．勝音天王．淨華天王．如是一切皆悉具足清淨善業．能令衆生生淨妙處．復與無量夜摩天王俱．其名曰善時天王．無盡智天王．妙善化天王．樂樂燄天王．須彌光天王．不思議慧天王．臍輪天王．不思議天王．月姿顏天王．普莊嚴天王．如是一切皆悉勤修出生觀喜信樂知足．復與無量兜率天王俱．其名曰善喜天王．海樂天王．勝德天王．百光明天王．善眼天王．寶山月天王．超勇月天王．金剛善曜天王．樂超天王．如是一切皆悉成就念佛三昧．復與不可思議化樂天王俱．其名曰善化天王．淨光天王．最上雲音天王．妙色莊嚴天王．樂智慧天王．華光月天王．照方天王．如是一切皆悉成就寂靜法門調伏衆生．復與無量他化自在天王俱．其名曰自在轉天王．善眼天王．雜寶冠天王．精進慧天王．衆華音天王．樂光明天王．寂靜處天王．雜色輪天王．智慧妙光天王．大力光天王．如是一切普皆勤修自在正法．復與不可思議大梵天俱．其名曰尸棄大梵．智光大梵．善光大梵．普音大梵．隨世音大梵．寂靜方便妙光大梵．淨眼光大梵．柔輭音大梵．如是一切悉具大慈度脫衆生．照除熱惱清涼柔輭．復與無量光音天子俱．其名曰樂光天子．淨光天子．大音天子．樂淨音天子．善思音天子．解脫音天子．深妙音天子．無垢光天子．最高淨光天子．如是一切安住喜光寂靜法門．復與阿僧祇徧淨天俱．其名曰淨智王天．現勝天．寂勝天．須彌時天．念淨眼天．無上愛光天．世慧音天．智慧熾然天．樂法化心天．化高天．如是一切常令衆生安住廣樂．復與無量果實天子俱．其名曰法華光天．淨堅固天．慧光天．智慧王天．普門慧眼天．不轉愛天．無垢靜光天．淨曜天．如是一切皆悉善住寂靜意門．復與摩醯首羅天等無量淨居天俱．其名曰善光天．大主天．大稱光天．功德淨眼天．大智慧光天．不動光音天．善施眼天．樂大乘天．普音聲天．樂稱光天．如是一切已修無相平等法界．悉在如來大衆海數．於一切衆生悉行平等．無量妙

樂同作業

道三本俱作導

色皆已成就.於十力中能善安住.處一切衆而不傾動.隨所至方無能壞者.如來所乘常現在前.離煩惱障其心清淨.諸結使山皆已摧滅.覩佛姿顏無量妙色光明普照.所以者何.如來往昔.於無量劫行菩薩道時.以四攝法善攝衆生.於諸如來集諸善根.種種因緣.方便教化立如來道.深植無量如來善根.皆令安立一切智道.逮得無量功德勢力.皆悉成就如來願海.菩薩所行具足清淨.各隨本行皆得出要.淨由如來光明照故.乘解脫力入如來海.於佛法門悉得自在.善海摩醯首羅天.於法界虛空寂靜方便光明法門而得自在.大自在稱光明天.於一切法普遊法門.而得自在.功德淨眼天.於一切法不生不滅方便法門.而得自在.大慧光天.於一切法方便智海遊光法門.而得自在.靜光音天於一切禪無量喜樂普起法門.而得自在.施善眼天.於轉癡畏遊靜法門.而得自在.不思議天.於無量境界入不起法門.而得自在.樂大乘天.於一切法不來不去無所依住法門.而得自在普雜音天.於佛境界寂靜法門.而得自在.樂稱光天於無量境界法門.而得自在.爾時善光海大自在天.以如來神力故.觀察一切自在天衆.以偈頌曰

無盡平等妙法界　悉皆充滿如來身　無取無起永寂滅　爲一切歸故出世　諸佛法王出世間
能立無上正教法　如來境界無邊際　世間自在稱無上　佛難思議無倫匹　相好光明照十方
大聖世尊正教道　猶如淨眼覩明珠　一切世間衆生類　不能思議佛功德　消滅一切愚癡闇
超昇無上智慧臺　如來功德難思議　衆生見者煩惱滅　得見不動自在尊　能生無量悅樂心
衆生大海癡蔽心　爲現寂靜微妙法　能然無上智慧燈　是則方便眞淨眼　如來清淨妙色身
悉能顯現徧十方　此身非有無所依　如是見佛眞實觀　如來音聲無罣礙　應受化者無不聞
湛然不動無往返　是名善慧樂法門　一切十方無邊佛　寂靜法門天人主　如來光明靡不照
是莊嚴幢妙法門　佛於無邊諸劫海　常求正覺悟衆生　無量方便化一切　清淨廣稱如是見

復有樂業光明天王.於觀一切衆生諸根法雲法門而得自在.淨堅固天於一切佛妙色方便念觀法門而得自在樂業天王.於一毛孔見不思議諸佛國土境界法門而得自在.普門慧眼天.於入普門觀察法界法門而得自

在。不轉愛天。於轉一切衆生處處受生法門而得自在。善慧光天。於入一切世間境界不可思議法門而得自在。無垢淨光天。於一切衆生一切法中出要法門而得自在。無垢光天。於受化者能使入佛境界法門而得自在。爾時樂業光明天王。承佛神力。觀察一切果實天衆。以偈頌曰

一切佛境界　甚深難思議　諸餘衆生類　莫能測量者　如來善開導　無量諸群生　能令悉願樂
志求無上道　佛以神通力　住世普開化　一切衆生類　各隨其所聞　癡惑障永除　慧命淨無穢
能觀諸如來　衆妙淨法海　諸法眞實相　寂滅無所依　如來方便力　能爲衆生現　如來於諸法
無性無所依　而能現衆像　顯相猶明燈　以諸緣譬諭　方便隨所樂　爲現諸如來　智慧神通力
因悟各異門　無量難思議　爲建正法幢　令入功德海　如來神通力　能於一毛孔　各爲衆演說
無上寂滅法　一一諸如來　各爲其眷屬　顯法無量門　功德之大海　皆悉師子吼　演說諸佛法
是則大智尊　無上方便力　十方諸佛土　一切群生類　悉能爲彼現　如來之正法　如來未曾有
去來之異相　皆令彼歡喜　不退慧境界　如來爲衆生　普現業報相　猶若日光照　衆像靡不現
又爲彼衆生　演說寂滅法　令彼見眞實　甚深智慧處　如來自觀察　甚深微妙義　隨彼衆生根
普雨甘露法　爲開諸法門　無量難思議　悉歸入寂滅　平等眞實觀　無數無量劫　廣修習大悲
逮成等正覺　度脫群生類　普雨甘露法　隨器皆充滿　如龍興慶雲　等雨於一切

復有淨智天王。於觀察衆生善根法門而得自在。顯妙天王。於一切有覺照法門而得自在。勝妙天王。於總持辯才法門而得自在。普燈天王。於樂佛出世解脫法門而得自在。智燄天王。於一切衆生甚深法中能生歡喜法門而得自在。樂化天王。於化菩薩功德周備入無盡法門而得自在。踊化天王。於普觀無量苦惱衆生慈悲智滿法門而得自在。爾時淨智天王。承佛神力。普觀徧淨天衆。以偈頌曰

諸佛正法無障礙　周滿十方無量界　現佛境界難思議　離垢法門無量海　如來處世無所依
法身清淨無起滅　而能照現無量土　一切悉見天中天　無量劫海修方便　光明普照十方界

觀下三本俱無察字
普同作晉
界明作衆

眼同作限
眼三本俱作明
喜三本俱作意
捨明作地
集三本俱作習
修集之集以下皆同

清淨法界如如住　寂滅微妙最無上　衆生愚癡瞽心目　無眼輪迴生死中　如來導以清淨道
開示無上最勝門　如來所乘無上道　一切衆生莫能思　佛現一切妙色門　善念樂觀淨眼見
佛說微妙總持門　如一切刹微塵等　調伏一切衆生故　清淨慧眼能照見　如來出世甚難值
無量億劫時一遇　離諸難處適衆會　唯佛世尊能應時　一切衆生難思議　佛能悉現淨妙法
覩見如來無量德　猶如明照見衆像　三世諸佛所得法　敎化衆生難思議　悉觀念此功德已
樂法踊躍大歡喜　衆生沒在煩惱海　愚癡邪濁大恐怖　佛以慈悲究竟度　見淨境界如天幢
佛放無量大光明　一一光明無量佛　無數方便皆悉現　化度一切衆生類

復有愛樂天子。於寂靜愛樂滅衆生苦法門而得自在。妙雜光天。於諸衆生心淨離垢廣修德海法門而得自在。自在音天。於一切衆生一劫所修功德於一念中出生法門而得自在。勝念智天。於世間生住滅種種清淨功德法門而得自在。淨樂音天。於一切菩薩在兜率宮廣說供養法門而得自在。善思音天。於一劫中說諸地義以一念頃悉能受說法門而得自在。解脫光音天。於莊嚴道場法門而得自在。甚深音天。於無盡神足諸功德海法門而得自在。離垢稱天。於一切佛諸功德海境界法門而得自在。出淨光天。於過去諸佛願力所持歡喜功德力藏法門而得自在。爾時光音天子承佛神力。徧觀光音天衆。以偈頌曰

我憶如來過去行　我行供養亦憶念　如本所修清淨喜　佛光明故今悉見　如來無垢莊嚴身
增長衆生清淨心　安住慈悲喜捨中　是名莊嚴淨法門　如來廣大方便法　無量劫海所修集
彼生滅法如如相　法主音聲方便門　如來神力徧十方　普照無量諸佛刹　十方諸佛皆悉現
勝念方便滅愚癡　無量刹海塵數佛　供養恭敬生歡喜　故能斷除群生闇　是名妙音勝境界
無量劫海甚彌曠　說方便地無倫匹　所演妙法無窮盡　心方便門得自在　如來無量自在力
於念念中普示現　降神成道權無量　是則名爲妙法門　佛持深廣無與等　神足示現不可量
能令諸根悉清淨　得住甚深微妙地　如來智慧無邊際　行淨無比無罣礙　普見一切兩足尊

無上離垢稱方便　於過去世菩薩時　供養無量諸佛海　立大誓願難思議　是故逮得無上智

復有尸棄大梵天.於照現諸法入不思議法門而得自在.智光明梵.於一切禪等觀寂靜善住法門而得自在.智光心梵.於照諸法不可思議入方便法門而得自在.普音雲梵.於一切佛妙音聲海平等度入法門而得自在.應時音梵.於攝伏衆生最勝法門而得自在.寂靜光梵.於一切剎能起安住分別諸法法門而得自在.喜光梵.於無量方便化衆生法門而得自在.堅固梵.於諸法淨相住寂行法門而得自在.樂目光梵.於一切有無來無去無所依止勇猛法門而得自在.柔輭音梵.於無盡法隨行普照法門而得自在.爾時尸棄大梵.承佛神力.徧觀一切諸大梵衆.以偈頌曰

佛身清淨常寂然　普照十方諸世界　寂滅無相無照現　見佛身相如浮雲　一切衆生莫能測
如來法身禪境界　無量方便難思議　是智慧光照法門　一佛剎塵諸法海　一音演說悉無餘
此辯塵劫演不盡　是名光照心法門　如來妙音深滿足　衆生隨類悉得解　一切皆謂同其語
梵音普至最無上　十方三世佛所得　一切菩薩方便行　悉於如來身中現　而於佛身無分別
佛身如空不可盡　無相無礙普示現　所可應現如幻化　神變淨音靡不周　佛身無邊如虛空
智光淨音亦如是　佛於諸法無障礙　猶如月光照一切　法王安住妙法堂　法身光明無不照
法性如實無異相　是名樂音海法門

復有自在天王.於教化無量衆生藏法門而得自在.善眼光天.令諸衆生得最上樂法門而得自在.雜寶冠天.於解衆生無量性欲方便法門而得自在.精進善慧天.於衆生分別義法門而得自在.勇妙雜音天於諸衆生慈念觀察法門而得自在.光明樂幢天.於諸衆生超出魔事法門而得自在.淨境界天.於諸衆生念化法門而得自在.雜色輪天.於念充滿十方諸佛法門而得自在.智華妙光天.於佛功德自在覺悟充滿念隨順法門而得自在.大力光天.於離世間境界法門而得自在.爾時自在天王.承佛神力.徧觀一切自在天衆.以偈頌曰

如來法身等法界　普應衆生悉對現　如來法王化衆生　隨順諸法悉調伏　世間一切上妙樂

難三本俱作難
障同作撓
震明作振下同
涯同作崖下同

聖寂滅樂爲最勝　無垢妙法如來室　淸淨勝眼如實見　如來普照諸世間　疑地枯林降法雨
衆生蒙潤疑網除　是寶冠幢妙法門　如來所演一妙音　廣大法海說無餘　佛以一音徧十方
是名勝勇善法門　一切十方諸佛土　入佛一毛猶不滿　佛以大慈如虛空　是名淸淨慧法門
一切衆生慢高山　佛以十力碎無餘　佛慈光明照十方　是名光幢妙法門　得覩如來滅癡惑
淨見智慧悉充滿　永離惡趣諸恐怖　是名寂境妙法門　如來毛孔悉放光　隨其所應得聞法
普導衆生至善趣　是名善幢妙法門　一切十方諸佛事　此衆一切悉得見　如來法界滿虛空
是名淨華勝法門　無量劫海諸佛國　皆是最勝慧境界　如來於此無高心　是大力幢妙法門

復有善化天王。於一切法分別化法門而得自在。靜光時天。於觀一切有及我眞實法門而得自在。化力光天。於諸衆生離癡智慧滿足法門而得自在。難勝天。於諸佛音聲發起一切歡喜勇猛法門而得自在。念光天。於一切佛相好功德具足無盡法門而得自在。踊雲音天。於淨智慧次第憶念過去無量劫法門而得自在。淨光勝天。於一切衆生長養種種功德智慧法門而得自在。樂光髻天。於一切空界結跏趺坐無礙法門而得自在。樂智慧天。於一切方便境界無盡力法門而得自在。華光髻天。於諸衆生業行苦樂等觀法門而得自在。爾時善化天王承佛神力。徧觀化樂天衆。以偈頌曰

法身於世難思議　如來普現應衆生　緣性無造非眞實　行業莊嚴現世間　方便求佛無所有
障之十方不可得　法身示現無眞實　出生自在如是見　無量劫海修諸行　斷除衆生愚癡冥
如來智慧甚淸淨　是名佛慧除癡力　一切世界妙音聲　悉無能及如來音　一音遠震徧十方
是名勝音妙法門　一切衆生諸功德　不及如來一相福　佛德如空無邊際　是名生光妙法門
三世無量劫中事　世界成敗種種相　於一毛孔悉能現　是名淸淨無上智　求空邊際猶可得
佛一毛孔無涯限　佛德如是不思議　是名如來淨知見　佛於先世無量劫　具滿一切波羅蜜
勤修精進無厭怠　是名樂見淨法門　行業因緣難思議　佛爲衆生說無餘　普現諸法淨無穢

三本俱復有以下爲卷第二世間淨眼品第一之二

臍三本俱作齊

是名無上深法門　觀見如來一毛孔　一切衆生悉入中　衆生亦無往來想　是名諸方照法門

復有兜率天王。於成就諸佛轉法輪法門而得自在。樂寶髻天。於虛空界淨光法門而得自在。勝幢天。於廣願海入諸衆生寂靜法門而得自在。百光明天。於一切法無量無相觀行法門而得自在。超踊月天。於佛境界超踊覺力法門而得自在。勝眼光天。於喜修集不可沮壞菩提心法門而得自在。宿莊嚴天。於諸十方佛調伏衆生方便法門而得自在。樂靜妙天。於無邊心海念念廻向隨器普現法門而得自在。爾時兜率天王。承佛神力。偏觀兜率天衆。以偈頌曰

如來普周等法界　爲垢衆生出現世　隨諸所欲爲說法　是名無上勝法王　如來宿世無量行
清淨願海具足滿　一切諸法悉周備　是名方便勝功德　如來法身不思議　法界法性辯亦然
光明普照一切法　寂靜諸法皆悉現　衆生癡闇結業障　高心放逸馳境界　如來爲說寂滅法
歡喜善樂悉能見　一切世間最上歸　救護群生除衆苦　衆生樂觀無上尊　猶如滿月顯高山
諸佛境界不思議　一切法界亦如是　於諸法力悉究竟　定慧方便皆成就　清淨境界功德海
一切衆生有緣者　聞佛功德發菩提　消除塵垢成最勝　如世界海微塵數　諸佛子等悉來集
供養如來聽受法　悉觀法幢方便王

復有夜摩天王。於諸衆生離憂廻向善根法門而得自在。悅樂光天。於諸境界法門而得自在。無盡慧天。於離諸患具大慈悲法門而得自在。淨莊嚴天。於分別諸根法門而得自在。持須彌天。於無量總持照明法門而得自在。不思議慧天。於諸境界業行眞實不思議法門而得自在。臍輪天。於轉法輪調伏衆生法門而得自在。不思議光天。於衆生界勝眼普觀法門而得自在。月委顏天。於諸法實普現法門而得自在。普音偏觀天。於諸天衆所應施作心淨法門而得自在。爾時夜摩天王。承佛神力。偏觀夜摩天衆。以偈頌曰

佛於無量大劫海　生死煩惱永已盡　能敎衆生淸淨道　佛爲一切智慧燈　如來法身甚彌曠
周徧十方無涯際　智慧光明方便力　寂滅禪樂亦無邊　生死病死憂悲苦　毒害逼切惱衆生

爲斯等類起慈悲　以無盡智示菩提　如來智慧隨順覺　了達三世無障礙　一切善行悉了知
是名樂化明法門　無量總持無邊際　如來辯海無窮盡　能轉淸淨妙法輪　是名須彌總持門
無上大聖一妙身　應化周滿一切世　悉現一切衆生前　是名善光勝境界　衆生一見如來身
悉能斷除衆煩惱　遠離一切諸魔事　是名淸淨妙境界　佛於一切大衆海　處此衆會悉徧照
普爲衆生雨法雨　是名善音稱法門

大方廣佛華嚴經卷第一

大方廣佛華嚴經卷第二

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

世間淨眼品第一之二

復有釋提桓因。於三世佛出興住滅決定大智念喜法門。而得自在。普稱滿天。於衆生色如來色身諸功德力清淨法門。而得自在。慈眼天。於平等慈雲蔭覆法門。而得自在。寶光稱天。於衆光色具足念佛普勢法門。而得自在。樂喜髻天。於觀衆生業報法門。而得自在。樂念淨天。於諸佛國具淨法門。而得自在。須彌勝音天。於觀世間生滅法門。而得自在。念智慧天。於起當來菩薩諸行化衆生因超念法門。而得自在。淨華光天。於一切天娛樂法門。而得自在。慧日眼天。於諸天處敎化流通善根法門。而得自在。爾時釋提桓因。承佛神力。徧觀三十三天衆。以偈頌曰。

若念一切三世佛　廣能觀察佛境界　諸佛國土成敗事　以佛神力皆悉見　佛身清淨滿十方
妙色無比應一切　光明照耀最殊特　具足廣稱如是見　本修方便大慈海　充滿一切諸衆生
悉能調伏一切衆　開清淨眼見無極　念佛功德無量故　得生廣大歡喜心　世間無與如來等
離垢稱王住法門　清淨業海滿衆生　一切悉見無有餘　種種因起深廣福　如是善見猶滿月
諸佛充滿徧十方　一切衆生無不見　既得見已悉調伏　皆得無上方便念　如來智身明淨眼
周徧一切十方剎　悉令衆生皆覩見　妙音宣化無不解　佛一毛孔現衆行　佛子見已具修習
具足成就無量德　如是善慧猶滿月　一切衆生得悅樂　皆因如來神力生　如來無量功德故
是名無垢雜華門　若能須臾念如來　乃至一念功德力　永得遠離衆惡趣　智慧日光滅癡闇

念下三本俱無淨字〇國下同有土字〇超同作起

諸明作於

日下三本俱有光字

起同作趣

復有日光天子。於照十方諸衆生身盡未來際正住莊嚴法門。而得自在。眼燄光天。於照諸色無上智海法門。而得自在。須彌光天。於起衆生轉勝清淨功德法門。而得自在。淨寶月天。於樂度一切苦行法門。而得自在。勇猛不退天。於無障礙普照法門。而得自在。妙華光天。於淨日光照衆生身法門。而得自在。勝光天。於光照世間積集功德法門。而得自在。寶髻天。於衆寶海現種種色境界法門。而得自在。明眼天。於一切趣開清淨眼觀法界藏法門。而得自在。勝地天。於諸衆生淨乘法門。而得自在。爾時日光天子。承佛神力。徧觀日天子衆。以偈頌曰

佛慧光明無邊際　普照十方無量土　令一切衆面覩佛　種種方便化衆生　衆生大海廣無量
悉能具足知其心　開發衆生智慧海　善勝光明如是見　如來普爲出興世　徧照十方悉無餘
如來法身無等等　以無上智演說法　無數劫海諸有中　難行苦行爲衆生　是故淨光如虛空
妙身顯現猶滿月　佛演妙音無障礙　周徧十方悉無餘　分別廣演一切法　因緣方便具足說
故大光明不思議　十方世界悉明淨　令人歡喜發道意　是名莊嚴勝法門　一切世間諸光明
不及佛身一毛光　佛光微妙難思議　最勝能現此神變　一切諸佛法如是　各坐十方道樹下
爲衆分別道非道　清淨妙眼如是見　癡冥衆生盲無日　爲斯苦類開淨眼　爲彼示現智慧燈
得見如來清淨身　方便自在無倒惑　悉應堪受一切供　漸敎開示解脫道　是名淨眼方便地
於一法門說無邊　無數劫中廣敷演　分別深遠清淨義　是名周徧妙法門

復有月天子。於調伏衆生普照法界法門。而得自在。耀華天。於普觀攝一切諸法境界法門。而得自在。勝光莊嚴天。於諸衆生心海境界皆悉令轉法門。而得自在。雜樂世間天。於能生一切不可思議愛樂法門。而得自在。眼光天。於令衆生實見法門。而得自在。現淨光天。於大慈悲救護一切苦惱衆生法門。而得自在。普遊靜光天。於無癡淨月法門。而得自在。妙莊嚴天。於觀諸法如幻如化空無法門。而得自在。淨菩提天。於善解一切業行所起法門。而得自在。大光燄天。於滅諸天疑照度法門。而得自在。爾時月天子。承佛神力。徧觀月天子衆。以偈頌曰

普於衆生放大光　十方國土見如來　照除一切愚癡闇　明了不可思議法　佛界無邊不可盡

無量劫中集功德　種種方便妙法門　調伏一切衆生類　如來智慧甚深遠　知他無量諸心海
隨順爲轉淨法輪　令生無量歡喜心　衆生遠離賢聖樂　沒在世間無量苦　佛與斯等清淨法
心得悅樂安隱住　如來普放大光明　分別世間諸法相　罪福報應不敗亡　清淨光天如是見
佛是一切衆生地　能持無量善果報　悉令衆生離邪道　善能安立方便地　大慈悲雲靡不覆
佛身難思等衆生　普雨法雨潤一切　是佛第一上方便　一切有無性如空　佛是衆生大光明
常勤方便利一切　最勝清淨如是見

復有持國乹闥婆王。於攝一切衆生娛樂方便法門。而得自在。樂樹光乹闥婆。於佛功德莊嚴法門。而得自在。起淨眼乹闥婆。於衆生離憂喜法門。而得自在。華樹乹闥婆。於滅結使法門。而得自在。樂遊行乹闥婆。於調伏希望法門。而得自在。妙眼乹闥婆。於一切樂喜光藏正住法門。而得自在。師子幢乹闥婆。於一切方雨寶法門。而得自在。寶光解脫乹闥婆。於現一切妙身廣智法門。而得自在。金剛樹乹闥婆。於長養諸樹喜光法門。而得自在。現諸莊嚴乹闥婆。於一切佛諸境界行悉令衆生受樂法門。而得自在。爾時持國乹闥婆王。承佛神力。徧觀乹闥婆衆。以偈頌曰

如來境界無量門　一切衆生莫能思　世尊清淨如虛空　開示衆生見正道　如來無量功德海
一一毛孔悉得見　能令一切隨意樂　清淨悅樂如是見　衆生無量憂苦海　佛能除滅悉無餘
佛以大慈多方便　能開衆生清淨眼　諸佛剎海滿十方　如來光明悉徧照　能除衆生煩惱垢
演說甚深清淨法　佛於無量諸劫海　方便廣修淨國土　以一切智無上音　安慰無邊衆生類
樂見如來普清淨　衆生悉得無盡樂　隨順能起解脫因　得解脫冠心歡喜　愚癡障蓋甚堅固
衆生輪轉生死海　如來示現廣大法　演說清淨建法幢　一切衆生無量門　如來爲現種種形
多方便門照衆生　愛音如來如是現　如來方便無邊際　善逝具足廣開現　入最勝道方便行
金剛樹下成正覺　以無量劫爲一念　佛力能現亦不積　能與衆生一切樂　是名樂見方便門

受三本俱作愛

積明作勸

趣三本俱作起

伽明作迦

復有毗樓勒鳩槃茶王。於能滅一切鬪諍法門。而得自在。長燈照光鳩槃茶。於一切行現前法門。而得自在。善修幢鳩槃茶。於專正諸趣法門。而得自在。饒益諸行鳩槃茶。於善惡平等清淨法門。而得自在。除恐怖鳩槃茶。於一切衆生無畏安隱莊嚴法門。而得自在。淨娑羅林鳩槃茶於除滅無量衆生愛海燋然法門。而得自在。起須彌鳩槃茶。於一切趣照明雲法門。而得自在。常勤鳩槃茶。於普照法門而得自在。無量淨眼鳩槃茶。於起不退轉大慈藏法門。而得自在。無量門鳩槃茶。於起一切趣所作法門。而得自在。爾時毗樓勒鳩槃茶王。承佛神力。徧觀鳩槃茶衆。以偈頌曰

如來忍力成滿足　無量劫行爲衆生　離放逸慢諸煩惱　故佛身淨照十方　普行菩薩諸行海
調伏十方無量衆　種種方便起慈門　令衆生得一切智　如來智慧濟群生　悉分別知衆生心
無量自在調衆生　一切見者皆歡喜　佛神力境難思議　於當來世一切劫　轉實法輪猶虛空
無量衆生得淨眼　衆生癡垢翳心目　如來照除見正道　救濟永離無量苦　令無恐怖得淨智
衆生沒在愛苦海　如來智照滅無餘　離欲無垢見佛身　猶如寶樹悉清淨　佛身普應無不見
種種方便化衆生　音如雷震雨法雨　是名山王慧法門　佛光無垢最清淨　照除衆生癡冥山
顯現如來無量德　無癡方便見佛身　無量劫修大悲門　悉與衆生自在樂　種種方便滅衆苦
離垢清淨如華敷　最勝現身悉周徧　於十方界無去來　自覺大聖一切現　是無量門佛能見

復有毗樓婆叉龍王。於一切龍趣中除滅燋然恐怖救濟法門。而得自在。海龍王。於一念中能轉一切不可思議龍身法門。而得自在。雲樂妙幢龍。於一切有趣轉清淨輪聞聲法門。而得自在。須彌普幢龍。於一切衆生示大功德海法門。而得自在。德叉伽龍。於離恐怖清淨法門。而得自在。無量步龍。於示現一切衆生無量雲超度無量劫住壽法門。而得自在。淨眼善住龍。於安立一切世界分別無量佛法示現方便法門。而得自在。離垢勢色龍。於一切衆生離垢歡喜知足入方便法門。而得自在。普行廣聖龍。於一切善惡音聲具滿平等觀法門。而得自在。阿那婆達多龍王。於大悲雲蔭覆一切衆生離苦法門。而得自在。爾時毗樓婆叉龍王。承佛神力。徧觀龍衆。以偈頌曰

皆悉現三本俱作悉皆見

光三本俱作毛

觀見一切最勝法　救濟十方群生類　惡趣衆生常輪轉　以大悲力能濟拔　隨諸衆生所樂色
佛一毛孔皆悉現　神足境界無有量　佛功德海淸淨現　最勝妙法無限量　譬如大海深無底
隨其所樂令得聞　妙聲柔輭發雷音　一切衆生瞋恚心　蔭蓋障覆愚癡海　如來無上大慈悲
以神足力度脫之　於如來身一毛孔　衆生功德皆悉現　入深無量功德海　須彌山幢功德現
衆生種種恐怖苦　法王智光悉救濟　最勝毛孔演妙音　無量衆生開淨眼　十方三世諸如來
於佛身中現色像　無量劫中淨佛土　是名無上大龍地　佛一毛中皆悉現　無量神變莊嚴土
佛與眷屬圍遶坐　爲衆生說微妙法　佛爲菩薩求道時　恭敬供養諸佛海　種種無量方便門
度脫一切衆生海　如來演說正法時　充滿一切衆生樂　佛音能起歡悅心　普令衆生得法喜

復有毗沙門夜叉王。於平等觀方便離一切惡饒益衆生法門。而得自在。音主夜叉。於一切普勝法門。而得自在。持地夜叉。於能除奪衆生精氣長養一切生氣法門。而得自在。一切主夜叉。於觀一切聖功德法門。而得自在。勝眼神足夜叉。於觀一切衆生智慧法門。而得自在。堅固金剛眼夜叉。於與一切衆生安樂法門。而得自在。護命夜叉。於持力救濟法門。而得自在。能破須彌山夜叉。於起隨順佛力法門。而得自在。爾時毗沙門夜叉王。承佛神力。徧觀夜叉衆。以偈頌曰

衆生罪垢甚深重　於百千劫不見佛　輪轉生死受衆苦　爲度是等佛興世　佛爲救濟一切故
悉現十方衆生前　拔濟諸趣衆苦輪　因緣音主最方便　衆生重罪惡業障　佛以方便悉除滅
安立衆生正法中　是名離癡方便見　佛昔無量劫行時　讚歎十方一切佛　故有高遠大名稱
皆悉普聞十方國　佛慧無邊等虛空　如來法身不思議　故能顯現照十方　明淨眼王妙法門
一切衆生入邪徑　佛示正道難思議　見諸衆生堪受化　種種方便令調伏　一切衆生諸功德
不及如來一光福　佛智慧海不可議　是名寶王如是見　無量劫數難思議　佛於是中修十力
是故世尊力具足　一切世間無能壞

復有金剛眼照力士。於示現如來無量色像法門。而得自在。離垢日踊力士。於諸佛無量色法門。而得自在。須彌華光力士。於離垢自在種種現法門。而得自在。淨雲音力士。於如來無邊淨音不可量法門。而得自在。阿脩羅主力士。於一切示現種種法門。而得自在。金剛光樂力士。於入一切佛法無餘法門。而得自在。雷音力士於能舉一切諸天法門。而得自在。師子端嚴王力士。於如來功德廣照法門。而得自在。勝光明力士。於除滅衆生惡心安立佛境法門。而得自在。珠髻華光力士。於菩薩示現一切世間雨寶法門。而得自在。爾時金剛眼照力士。承佛神力。徧觀力士衆。以偈頌曰

普爲三界一切衆　於諸法中爲法王　具足無量衆妙色　悉照十方無不明　佛身一切諸毛孔
普放光明不可議　映蔽一切日光明　徧照十方靡不周　如來大聖自在力　充滿一切諸法界
法身示現無涯際　悉現一切衆生前　佛音淸淨甚深妙　普震十方諸世界　柔輭微妙和雅音
滅衆生垢願滿足　十方三界諸宮殿　最勝悉現於彼坐　一一佛所無量衆　導師處中爲說法
法海無量無有邊　衆方便門悉入中　分別一切諸法界　最勝示現無窮盡　衆生大海無邊際
最勝淨眼能度脫　如來光明照衆生　一切普見大導師　悉皆恭敬興供養　無量塵海國土佛
功德無量如虛空　一切悉見大導師　如來神力不可壞　一切佛土皆悉現　如來安坐淨道場
一切衆生現前見　光明普照如雲興　衆妙莊嚴光圓滿　普照一切諸法界　示現諸佛深妙法

是時普賢菩薩。成就不可思議方便法門海。能入如來無量功德海。所謂出生究竟淨諸佛土調伏衆生法門。詣諸佛所能起一切具足功德法門。菩薩諸地願行法門。普門示現法界塵數身雲法門。持諸佛土不可思議方便輪法門。一切衆中自在顯現無量無邊菩薩境界法門。於一念中知三世劫生滅法門。分別顯現一切菩薩諸根境界海法門。其身自在充滿無量無邊法界法門。一切菩薩種種方便廣分別法入一切智方便法門。爾時普賢菩薩。劫觀一切大衆。以偈頌曰

最勝嚴淨　無數佛土　無量淨色　甚深功德　眞淨離垢　佛子充滿　常聞妙法　不思議音

見佛處此　師子座上　一切塵中　亦復如是　而如來身　亦不往彼　普現佛土　功德境界
悉入無量　衆地方便　佛示一切　諸菩薩行　說諸方便　不可思議　令諸佛子　入淨法界
離垢淨眼　住深法性　十方無量　無有邊際　微塵數等　諸化佛身　教導無量　衆主等類
一切十方　如來刹土　世尊皆悉　爲平等護　佛於方便　悉已清淨　調伏衆生　令除垢穢
一切塵數　諸佛國土　如來示現　無量自在　梵音和雅　徧諸道場　演暢最勝　菩薩本行
一切三世　所有劫數　於念念中　悉見無餘　觀彼生滅　如實法相　不可思議　世護能見
無量大衆　數不可盡　如來眞子　欲觀佛地　一切法門　無量無邊　非諸佛子　所有境界
離垢如來　猶如虛空　清淨無著　等眞法性　現化無量　不可窮盡　悉坐道樹　成等正覺
佛以一言　說一切地　一切法相　皆悉窮盡　無量方便　一一門中　演暢諸法　亦悉無餘

爾時於佛師子之座。一切妙華摩尼寶輪高臺樓觀莊嚴具中。一一各出一佛世界微塵數等大菩薩衆。其名曰海慧超越菩薩。無量師子吼菩薩。衆寶光幢菩薩。智日超慧菩薩。不思議功德智稱菩薩。方便寂靜妙華髻菩薩。金光燄菩薩。法界普音菩薩。淨雲月幢菩薩。善超淨光菩薩。如是等一一佛世界微塵數等大菩薩衆。設諸供養散衆妙華充滿虛空。燒諸雜香氣過騰雲。普現一切衆寶圓光。又放無量淨日光明。作衆妓樂諸微妙音。雜種寶樹枝葉華實一切光明猶若雲起雨無量寶。如是一一菩薩所供養具。各與一佛世界微塵數等。一一供具復與一佛世界微塵數等。皆大歡喜。供養世尊逕百千币已。隨其所應供養大衆。猶如雲雨而無斷絕。隨所出方。化作寶蓮華藏師子之座。恭敬向佛結跏趺坐。彼菩薩等。悉得無量清淨法海普明法門。於佛境界無所障礙。悉入一切辯才法海。又得不可思議照明法門。正住如來普門境界。三世智地皆已得入。具足成就大力法愛。無量功德清淨圓滿。常行法界畢竟空性。悉已具足供養諸佛。爾時一切海慧自在智明王菩薩。以偈頌曰

佛覺諸法　平等眞實　無有障礙　淨如虛空　普悉照明　十方世界　處一切衆　最勝殊特
自然正覺　無量無邊　充滿十方　衆生境界　一切悉坐　菩提樹王　諸衆生主　皆悉圍遶

中三本俱作足

品目上三本俱無大方廣佛華嚴經七字以下品題上有經名者皆同
三本俱以盧舍那佛品第二之一爲卷第三首
號同作號名號佛號等之號以下皆同
神上同有佛字

佛有如是　自在神力　於一念頃　現無量身　普令衆生　滅除垢穢　如來境界　無有邊際
無量劫海　具足修行　如來處在　一切有海　種種方便　調伏衆生　皆悉受行　最勝正法
衆會離垢　普得清淨　一切觀佛　深樂無厭　最勝妙相　莊嚴具足　處蓮華藏　寶師子座
一切衆寶　諸莊嚴具　皆出無量　微妙香薰　雜色華鬘　懸布虛空　佛處如是　寶師子座
無量衆寶　流出妙光　暉燄青淨　十方明耀　如來安住　莊嚴樓觀　演出清淨　微密梵音
宣暢最勝　無上正法　聞者歡喜　得淨妙道　金剛承座　安峙堅固　如意藏寶　以爲莊嚴
寶髻菩薩　常守護之　世尊於此　普現照明　天尊處在　寶師子座　徧照三世　一切導師
無量化佛　徧滿十方　闡揚如來　無盡法藏

爾時佛神力故．蓮華藏莊嚴世界海．六種十八相震動．所謂．動．徧動．等徧動．起．徧起．等徧起．覺．徧覺．等徧覺．震．徧震．等徧震．吼．徧吼．等徧吼．涌．徧涌．等徧涌．又令一切世界諸王．各雨不可思議諸供養具．供養如來大衆海會．所謂雨一切香華雲．衆妙寶雲．雜寶蓮華雲．無量色寶曼陀羅雲．解脫寶雲．碎末栴檀香雲．清淨柔輭聲雲．寶網日雲．各隨其力雨衆供養．如是等一一世界諸王．設不可思議諸供養雲．普供一切如來大衆．如此世界設衆供養．一切十方諸佛國土亦復如是．此世界中佛坐道場．世界諸王各隨所樂境界三昧諸方便門．歡喜厭離通達諸方勇猛之法．如來境界神力所入．諸佛無量法海之門．皆已得度．如此世界十方一切世界亦復如是

大方廣佛華嚴經盧舍那佛品第二之一

爾時諸菩薩衆．及一切世界諸王．咸作是念．何等是一切諸佛地．佛境界．佛持．佛行．佛力．佛無畏．佛三昧．佛自在．佛勝法．示現菩提．佛眼耳鼻舌身意諸根．佛光明音聲．佛智海．世界海．衆生海．法界方便海．佛海．波羅蜜海．法門海．化身海．佛名號海．佛壽量海．一切菩薩所修行海．發大乘心．出生諸波羅蜜願智慧藏．唯願如來慈悲方便．發起我心令得開解．時諸菩薩神力故．一切供養具中．出自然音而說偈言

諸同作護

邊三本俱作量

如來無量曠劫行　自然正覺出世間　於當來世無量劫　身應一切如大雲　斷衆生疑永無餘
出生勝力得解脫　滅除世間無量苦　令一切得正覺樂　無量刹塵諸菩薩　一心合掌觀最勝
隨彼所願諸境界　斷除疑惑開法門　何等一切諸佛地　大聖境界佛諸持　佛無上智力無畏
願爲佛子平等現　無量如實諸三昧　諸淸淨行深妙法　大聖神力無有邊　與大雷雲雨衆生
悉入法王如實趣　於最勝境不退轉　及無量佛諸功德　願起慈悲悉令見　如來眼根無限量
耳鼻舌身亦如是　佛意如實難思議　願令衆生悉知見　佛國土海衆生海　諸法界海調伏海
佛海無量無邊際　願令佛子平等見　波羅蜜海不思議　無上方便法門海　無量無邊法門海
願在道場具足說

爾時世尊。知諸菩薩心之所念。卽於面門及一一齒間。各放佛世界塵數光明。所謂寶幢照光明。法界妙音莊嚴光明。生樂垂雲光明。佛十種力嚴淨道場光明。一切寶燄雲光明。淸淨無礙充滿法界光明。能成一切世界光明。淨寶金剛日幢光明。往詣菩薩大衆光明。演出諸佛語輪光明。如是等一一光明。各有佛世界塵數光明。以爲眷屬一一光明。照十佛土微塵等刹。彼諸菩薩見此光已。得覩蓮華藏莊嚴世界海。佛神力故。於光明中而說偈言

無量劫海修功德　供養十方一切佛　敎化無邊衆生海　盧舍那佛成正覺　放大光明照十方
諸毛孔出化身雲　隨衆生器而開化　令得方便淸淨道　佛於往古生死中　調伏一切諸群生
於一念中悉解脫　世雄無量得自在　深心淨信普莊嚴　往修滿足波羅蜜　與諸刹海塵數等
堅固安住一切力　出微妙音徧十方　具足實智滿衆心　無量方便化衆生　是師子吼寂靜法
人尊如是德無量　應詣供養聽受法　如佛刹等微塵數　最勝諸子詣如來　各雨一切供養具
一心恭敬觀導師　如來所說一語中　演出無邊契經海　於一切衆雨甘露　恭敬往詣兩足尊
三世諸佛無上願　大聖道場分別說　亦非集在一念中　宜速時詣覲最勝　盧舍那佛大智海
光明普照無有量　如實觀察眞諦法　普照一切諸法門

一切三本俱作十方

滿上同無充字

爾時蓮華藏莊嚴世界海東.次有世界海.名淨蓮華勝光莊嚴.中有佛剎.名衆寶金剛藏.佛號法水覺虛空法王.於彼如來大衆海中.有菩薩名觀勝法妙淸淨王.爲佛光明所開發已.與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所.充滿十方一切虛空.與十種寶色光明華雲.悉皆彌覆充滿虛空.十種妙寶須彌山雲.十種日輪雲.十種寶華雲.十種妙寶樓閣藏雲.十種華樹雲.十種妙香現衆色雲.十種一切妙音聲雲.如是一切悉皆彌覆充滿虛空.來詣佛所供養恭敬禮拜已.在於東方雜華光藏師子座上.結跏趺坐.此世界海南.次有世界海.名衆寶月光莊嚴藏.中有佛剎.名無量光嚴.佛號普智光勝須彌山王.於彼如來大衆海中.有菩薩名淸淨海慧.爲佛光明所開發已.與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所.與十種一切妙莊嚴藏衆寶王雲.悉皆彌覆充滿虛空.十種普莊嚴寶王雲.十種妙寶藏熾然照明歎佛功德寶王雲.十種妙音充滿讚歎寶王雲.十種菩提樹莊嚴道場寶王雲.十種普門光明佛變化寶王雲.十種不壞衆光明示現寶王雲.十種香燈照一切剎充滿寶王雲.十種不可思議佛剎如來宮殿普現寶王雲.十種雜寶三世諸佛法身光明寶王雲.悉皆彌覆充滿虛空.來詣佛所恭敬供養禮拜已.在於南方靑色蓮華師子座上.結跏趺坐.此世界海西.次有世界海.名寶光樂.中有佛剎.名一切勝觀.佛號香光王功德寶莊嚴.於彼如來大衆海中.有菩薩名香燄平等莊嚴月光.爲佛光明所開發已.與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所.與十種一切雜寶香華樓閣雲.悉皆彌覆充滿虛空.十種一切色寶王莊嚴樓閣雲.十種一切寶幢香燄樓閣雲.十種一切解脫莊嚴樓閣雲.十種一切寶華鬘雲.十種一切寶鬘莊嚴寶樓閣雲.十種一切普光明藏照一切莊嚴樓閣雲.十種一切寶莊嚴無量莊嚴悉現樓閣雲.十種普滿莊嚴樓閣雲.十種無量華樂雲.悉皆彌覆充滿虛空.來詣佛所供養恭敬禮拜已.在於西方金色雜寶莊嚴蓮華藏化師子座上.結跏趺坐.此世界海北.次有世界海.名瑠璃寶光充滿藏.中有佛剎.名化靑蓮華莊嚴.佛號無量智慧音王.於彼如來大衆海中.有菩薩名師子光莊嚴.爲佛光明所開發已.與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所.與十種一切香雲.悉皆彌覆充滿虛空.十種一切靑色華雲.十種一切妙寶樹雲.十種一切諸雜華雲.十種一切寶莊嚴雲.十種一切寶雷音雲.十種一切妙音聲雲.如是一切悉皆彌覆充滿虛空.來詣佛所供養恭敬禮拜已.在於北方大燈變化師子

座上。結跏趺坐。此世界海東南方。次有世界海。名閻浮檀玻瓈色幢。中有佛刹。名寶莊嚴藏。佛號一切法燈無所怖畏。於彼如來大衆海中。有菩薩名無盡勝燈功德法藏。爲佛光明所開發已。與世界海塵數菩薩眷屬圍遶。來向佛所。與十種無量色蓮華藏師子座雲。悉皆彌覆充滿虛空。十種師子座雲。十種一切莊嚴具莊嚴師子座雲。十種燈明師子座雲。十種能出十方一切衆寶師子座雲。十種一切香鬘師子座雲。十種一切諸佛莊嚴示現師子座雲。十種一切寶臺欄楯莊嚴師子座雲。十種一切寶樹莊嚴師子座雲。十種日莊嚴師子座雲。皆悉彌覆充滿虛空。來詣佛所供養恭敬禮拜已。在東南方夜光幢寶藏師子座上。結跏趺坐。此世界海西南方。次有世界海。名普照莊嚴。中有佛刹。名香勝離垢光明。佛號一切衆生普歡喜王。於彼如來大衆海中。有菩薩名普智光明慧燈。爲佛光明所開發已。與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所。與十種如意寶王雲。悉皆彌覆充滿虛空。十種青色寶雲。十種一切香雲。十種一切幡雲。十種一切妙色莊嚴雲。悉皆彌覆充滿虛空。來詣佛所供養恭敬禮拜已。在西南方衆寶師子座上。結跏趺坐。此世界海西北方。次有世界海。名善光照。中有佛刹名意入。佛號普門智慧意入明淨音。於彼如來大衆海中。有菩薩名無量華照垂髻。爲佛光明所開發已。與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所。與十種一切雜寶輪蓋雲。悉皆彌覆充滿虛空。十種華蓋雲。十種解脫蓋雲。十種寶王蓋雲。十種雜寶蓋雲。十種普寶蓋雲。十種瑠璃寶王蓋雲。十種一切香蓋雲。悉皆彌覆充滿虛空。來詣佛所供養恭敬禮拜已。在西北方衆善光明幢師子座上。結跏趺坐。此世界海東北方。次有世界海。名寶照光明藏。中有佛刹。名香莊嚴樂勝藏。佛号無量功德海。於彼如來大衆海中。有菩薩名無盡淸淨光明王。爲佛光明所開發已。與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所。與十種一切寶光輪雲。悉皆彌覆充滿虛空。十種光輪雲。十種華雲。十種如來變化輪雲十種一切佛境界輪雲。十種一切功德寶雲。十種一切衆生樂不可盡示現雲。十種一切諸佛所願示現雲。悉皆彌覆充滿虛空。來詣佛所供養恭敬禮拜已。在東北方淸淨光明不可盡師子座上。結跏趺坐

大方廣佛華嚴經卷第二

大方廣佛華嚴經卷第三

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅譯

盧舍那佛品第二之二

此世界海下方.次有世界海.名蓮華妙香勝藏.中有佛刹.名寶師子光.佛號明照法界.於彼如來大衆海中.有菩薩名光照分別法界.爲佛光明所開發已.與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所.與十種一切寶光明雲.悉皆彌覆充滿虛空.十種一切香光明雲.十種諸佛師子吼雲.十種一切佛刹功德莊嚴雲.十種一切華樓閣雲.十種一切座莊嚴雲.悉皆彌覆充滿虛空.來詣佛所.在於下方寶藏師子座上.結跏趺坐.此世界海上方.次有世界海.名雜寶光海莊嚴.中有佛刹.名樂行清淨.佛號無礙功德稱離闇光王.於彼如來大衆海中.有菩薩名無障礙力精進慧.爲佛光明所開發已.與世界海塵數菩薩眷屬圍遶來向佛所.與十種一切無量妙色寶照雲.悉皆彌覆充滿虛空.十種無量光普照雲.十種一切莊嚴照明雲.十種香燄雲.十種一切莊嚴雲.十種佛光燄雲.十種寶樹華燄雲.十種一切寶樹堅固光明雲.十種一切勝光明雲.十種一切菩薩所行示現雲.十種一切解脫光明雲.悉皆彌覆充滿虛空.來詣佛所供養恭敬禮拜已.在於上方妙音勝蓮華藏師子座上.結跏趺坐.如是等十億佛刹塵數世界海中.有十億佛刹微塵數等大菩薩來.一一菩薩各將一佛世界塵數菩薩.以爲眷屬.一一菩薩各與一佛世界微塵數等妙莊嚴雲.悉皆彌覆充滿虛空.隨所來方結跏趺坐.彼諸菩薩次第坐已.一切毛孔各出十佛世界微塵數等一切妙寶淨光明雲.一一光中各出十佛世界微塵數菩薩.一一菩薩一切法界方便海充滿一切微塵數道.一一塵中有十佛世界塵數佛刹.一一佛刹中三世諸佛皆悉顯現.念念中於一一世界.各化一佛刹塵數衆生.以夢自在示現法門教化.一切諸天化生法門教化.一切菩薩行處音聲法門教化.震動一切佛

數下三本俱無道字

辭同作詞

覺下同無之字

敬三本俱作右

刹建立諸佛法門敎化。一切願海法門敎化。一切衆生言辭入佛音聲法門敎化。一切佛法雲雨法門敎化。法界自在光明法門敎化。建立一切大衆海於普賢菩薩法門敎化。以如是等一切法門。隨其所樂而敎化之。於一念頃。能滅一切世界中各如須彌山塵數衆生諸惡道苦。各如須彌山塵數衆生令離邪定立正定聚。各如須彌山塵數衆生令立聲聞緣覺之地。各如須彌山塵數衆生立無上道。各如須彌山塵數衆生立一切不可盡功德智慧地。各如須彌山塵數衆生令立盧舍那佛願性海中。爾時諸菩薩光明中。以偈頌曰

一切光明出妙音　說諸菩薩具足行　佛子功德悉成滿　普徧一切十方界　無量劫海修行道
欲令衆生離苦故　不自計己生死苦　佛子善入大方便　無量無邊無有餘　窮盡一切大海劫
徧行一切諸法門　善說微妙寂靜法　一切三世佛所願　皆得清淨具足滿　佛子饒益諸衆生
能自具行清淨道　皆能往詣諸佛所　清淨法身照十方　佛子智海無邊底　普觀諸法寂滅相
一光明中有無量　無上大慈難思議　清淨慧眼照諸法　此是佛子妙境界　一毛悉受諸佛刹
又能震動諸國土　能令衆生無怖想　是名清淨方便地　一一塵中無量身　復現無量莊嚴刹
於一念中皆悉見　是無障礙淨法門　三世所有一切劫　於一念中能悉現　猶如幻化無所有
是名諸佛無礙法　普賢諸行皆具足　能令衆生悉清淨　諸佛子具自在法　一一毛孔師子吼

爾時世尊。欲令一切菩薩大衆。知佛無量無邊境界自在法門故。放眉間白毫相一切寶色燈明雲光。名一切菩薩慧光觀察照十方藏。此光徧照一切佛刹。於一念中。皆悉普照一切法界。於一切世界。雨一切佛諸大願雲。顯現普賢菩薩。示大衆已。還從足下相輪中入。於彼復有大蓮華生。以衆寶爲莖。一切寶王爲莊嚴藏。其葉徧覆一切法界。一切寶香莊嚴其鬚。閻浮檀金以爲其臺。此華生已。如來眉間有一大菩薩出。名曰一切諸法勝音。與世界海塵數菩薩衆俱。敬遶世尊無量帀已。退坐蓮華臺上。眷屬菩薩坐蓮華鬚。一切諸法勝音菩薩。成就無量法界歡喜。隨順諸佛境界深智。度不可思議佛海光明。悉能往詣一切佛所。爾時一切諸法勝音菩薩。以偈頌曰

佛身充滿諸法界　普現一切衆生前　應受化器悉充滿　佛故處此菩提樹　一切佛刹微塵等

爾所佛坐一毛孔　皆有無量菩薩衆　各爲具說普賢行　無量刹海處一毛　悉坐菩提蓮華座
徧滿一切諸法界　一切毛孔自在現

爾時師子燄光奮迅音菩薩.以偈頌曰

盧舍那如來　轉淸淨法輪　一切法方便　如來雲普覆　十方國土中　一切世界海　佛願力自在
普現轉法輪　一切佛土中　無量大衆海　言號各不同　而轉淨法輪
盧舍那佛神力故　一切刹中轉法輪　普賢菩薩願音聲　徧滿一切世界海　法身充滿一切刹
普雨一切諸法雨　法相不生亦不滅　悉照一切諸世間　無量無數億劫中　一切佛刹微塵道
盧舍那佛妙音聲　具足演說本所行　一切佛刹微塵數　大光明網照十方　一一光中有諸佛
以無上道化衆生　法身堅固不可壞　充滿一切諸法界　普能示現諸色身　隨應化導諸群生
三世無量諸佛刹　其中一切諸導師　一切音聲及名字　普見諸佛力自在　過去未來及現在
如是一切諸導師　彼聖能令一切聞　不可思議正法輪

如此四天下道場上見佛神力一切菩薩大衆雲集.一切世界海中亦復如是.爾時普賢菩薩.於如來前.坐蓮華藏師子之座.卽入一切如來淨藏三昧正受.普照一切法界諸如來身無所障礙.離垢滿足猶如虛空.普賢菩薩.於此世界三昧正受.盡法界虛空界等一切佛刹亦復如是.普賢菩薩.入是三昧已.十方世界海諸佛悉現.彼諸如來各各讃言.善哉善哉.善男子.汝乃能入此三昧正受.是皆盧舍那佛本願力故.又汝於諸佛所淸淨行願力故.所謂轉一切諸佛法輪故.開一切如來智慧海故.盡度一切諸法方便及十方海悉無餘故.除一切衆生煩惱得淸淨故.能到一切諸佛國土無障礙故.入一切諸佛境界無礙故.一切諸佛普門功德滿足故.入一切法方便深樂一切智故.方便觀察一切世間法故.知一切衆生諸根海故.爾時一切諸佛.與普賢菩薩入一切智力.與入無量無邊法界智.與能詣三世諸佛所智.與一切世界海成壞智.與入無量衆生界智.與佛甚深法門智.與一切不壞三昧住智.與入一切菩薩諸根海智.與一切衆生語言海轉法輪辭辯智.與一身徧滿一切世界智.與一切

申三本俱作伸次同方下同無諸字

諸佛音聲智。何以故。以得此三昧法故。爾時十方諸佛各申右手。摩普賢菩薩頂。爾時一切菩薩。見十方諸佛各申右手摩普賢菩薩頂已。彼諸菩薩。一心恭敬觀察普賢菩薩。即時同聲以偈頌曰

於諸佛所修善法　滿足一切大願力　出生清淨妙法身　如實平等同虛空　一切諸佛國土中
普賢菩薩常依住　十方世界無不見　無量功德智慧海　悉見十方一切佛　清淨身行功德海
能於一一微塵道　普皆示現一切剎　一切十方佛世界　無量微塵諸劫數　常見普賢眞佛子
無量三昧方便行　法身充滿諸法界　一切十方佛國土　徧遊一切衆生海　安住深妙清淨法
永度無量諸法界　離衆煩惱不可壞　其身周徧滿虛空　廣說無量諸佛法　一切功德海中生
普放光明如大雲　堅固衆生清淨行　微妙音說佛境界　無量無數大劫中　修習普賢甚深行
無量無邊諸法雲　雷震演說勝法界　一切佛土如實性　十方修集海莊嚴　普入一切衆生海
如應爲說清淨法　無量無邊大衆海　一心恭敬觀普賢　無量深廣智慧海　願轉清淨妙法輪

爾時普賢菩薩。承佛神力。觀察一切諸世界海。一切衆生海。法界業海。一切衆生欲樂諸根海。一切三世諸佛海已。普告菩薩大衆海言。佛子。諸佛一切世界海成敗清淨智。不可思議一切衆生界起智。觀察法界智。一切如來自在智。清淨願轉法輪智。力無所畏不共法智。光明讚歎音聲智。三種教化衆生智。無量三昧法門。不壞智。如來種種自在智。如是等一切皆不可思議。我當承佛神力具足滿說。欲令一切衆生入佛智海。爾時普賢菩薩。從彼三昧起。從世界微塵等三昧起。念念中不壞方便智一切三世三昧起。時彼一切諸菩薩衆。一一皆得世界塵數諸三昧。世界塵數方便法海。方便辯海。諸行願海。如此會菩薩所得功德。一切世界海。一切如來衆海。諸菩薩衆所得功德亦復如是。是時一切世界六種震動。一切衆生安隱悅樂。一切衆寶種種莊嚴。一切如來大衆海中。雨十種寶王雲。所謂勝金色幢寶王雲。佛光明照寶王雲。金蓮華寶王雲。菩薩辯才光明寶王雲。一切妙音衆寶王雲。莊嚴佛土道場寶王雲。一切菩薩無量功德光明輪妙音寶王雲。一切如來毛孔及諸光明。以偈頌曰

普賢悉在　一切佛剎　坐寶蓮華　師子座上　如是示現　徧一切界　普入無量　無邊諸行

有三本俱作見

悉能示現　無量種身　變化充滿　十方世界　妙音和雅　說法無礙　一切三昧　方便自在
一切佛土　諸如來所　一切三昧　皆得自在　悉能了知　最勝境界　示現普賢　無量自在
如一切土　諸如來前　一切刹塵　諸世界中　普賢自在　亦復如是　盡盧舍那　本願底故
普賢身相　猶如虛空　依於如如　不依佛國　現身無量　普應衆生　隨群萠類　爲現化故
一切世界　無量佛土　悉能示現　入諸法門　普賢菩薩　具足淨願　如是等比　無量自在
一切衆海　無量無邊　各於佛土　示現淸淨　如是一切　身中悉現　隨其起滅　一念悉知

爾時普賢菩薩。欲令大衆重歡喜故。以偈頌曰

諸佛深智功德海　充滿無量無邊刹　方便隨衆所應見　盧舍那佛轉法輪　不可思議佛刹海
於無量劫令清淨　最勝導師照一切　悉能調伏衆生海　衆生大海難可測　諸佛境界不思議
衆生樂惡著諸有　不能了知無上道　功德法海長養心　常能親近善知識　恒爲諸佛所護念
是等能度得上智　離諸諂曲心淸淨　廣大慈悲無邊際　深心淨信無厭足　彼聞是法喜無量
普賢菩薩諸地願　安諦善住能順行　遊心法界如虛空　是人乃知佛境界　一切菩薩得善別
能見自在最勝尊　非餘境界之所知　普賢方便皆得入　無量無邊諸衆生　一切如來所護念
於一切處轉法輪　盧舍那佛境界力　一切刹土及諸佛　在我身內無所礙　我於一切毛孔中
現佛境界諦觀察　普賢菩薩所願行　無量無邊悉具足　普眼境界淸淨身　我今演說仁諦聽

爾時普賢菩薩。告諸菩薩言。佛子。世界海有十種事。去來今佛之所演說。所謂說世界海。起具因緣世界海。住世界海。形世界海。體世界海。莊嚴世界海。淸淨世界海。如來出世世界海。劫世界海。壞方便世界海。諸佛子世界海。有如是等十種事爲首。乃至有世界海塵數種事。諸佛子當知。一切世界海。有世界海塵數因緣具故成。已成今成當成。所謂如來神力故。法應如是故。衆生行業故。一切菩薩應得無上道故。普賢菩薩善根故。菩薩嚴淨佛土願行解脫自在故。如來無上善根依果故。普賢菩薩自在願力故。如是等世界海塵數因緣具故。一切世界海成。

爾時普賢菩薩.以偈頌曰

佛智境界　不可思議　自在善住　悉皆如是　無量無邊　諸世界海　盧舍那佛　悉皆嚴淨
如應化度　一切菩薩　無量願海　皆悉清淨　十方佛土　一切衆生　以不思議　而覺悟之
一切菩薩　無量自在　度一切智　方便法門　出生一切　無量願海　起諸世界　猶如虛空
普行一切　菩薩善行　入佛境界　無量無邊　悉能嚴淨　十方佛刹　一一佛土　無量劫行
衆生心境　不可思議　業能悉起　一切刹海　衆生垢穢　國不清淨　行業無量　世界不同
諸佛刹海　淨莊嚴藏　離垢雜寶　以爲校飾　長養無垢　弘誓願海　佛子能淨　無數國土
若有菩薩　修普賢行　常能履行　清淨法界　當地是等　功德如佛　能出無量　如來刹海
於一念中　悉徧十方　能現一切　菩薩所行　甚深清淨　猶如虛空　等空界者　自在如是
一切道場　諸如來前　坐寶蓮華　現衆妙色　於其身內　容一切刹　又一念中　示現三世
入巧方便　起諸刹海　於三世國　示現成佛　盧舍那佛　此土清淨　衆寶成就　無有邊際

爾時普賢菩薩.告諸菩薩言.佛子.一一世界海所依住.如世界微塵數.所謂依一切莊嚴住.或依虛空住.或依一切寶住.或依佛光明住.或依幻業住.或依摩訶那伽金剛力士掌中住.或依普賢菩薩願力住.是時普賢菩薩.以偈頌曰

無量無邊佛刹海　離垢妙寶以莊嚴　摩尼寶王清淨照　最勝威神靡不見　清淨刹海住虛空
寶王妙藏光普照　暢發無量微妙音　宣揚佛道靡不欣　種種華光善喜樂　如意寶珠爲莊嚴
無量光網彌覆上　種種香雲徧充滿　無量無邊妙蓮華　青瑠璃寶以爲臺　清淨國土甚奇妙
一切諸佛莊嚴故　或有諸佛清淨土　以佛威神得安住　見離垢淨衆妙寶　無量菩薩悉充滿
或有諸佛清淨土　金剛力士掌中住　十力世雄盧舍那　常爲一切轉法輪　或依寶樹平正住
依香燄雲亦如是　有依水輪住堅固　或依金剛海座住　有住金剛勝妙幢　種種寶華彌覆上

一一　三本俱作一切

力　同作方

無量自在一切處　盧舍那佛令衆見　衆雜異色長光明　普流一切佛世界　悉見種種莊嚴藏
離垢微妙甚清淨　彼以一切願海力　無量種種所依住　諸如來雲悉充滿　常依清淨虚空住
或有佛刹處上方　依淨菩薩天冠住　彼現無量佛自在　佛子妙音淨業化　諸法界等佛國土
譬如電光亦如幻　紺瑠璃寶廣清淨　悉從離垢淨業起　普現種種莊嚴藏　依止虚空靜安住
行業境界不可議　佛令衆生普得見　一切塵等諸佛刹　普賢菩薩一念超　無量劫行化衆生
充滿法界現自在

一一微塵中　佛國海安住　佛雲徧護念　彌綸覆一切　於一微塵中　佛現自在力　一切微塵中
神變亦如是　諸佛及神力　盧舍那示現

爾時普賢菩薩.告諸菩薩言.佛子.諸世界海有種種形.或方或圓.或非方圓.或如水洄復.或復如華形.或種種衆生形者.爾時普賢菩薩.以偈頌曰

刹海無有量　殊形異莊嚴　十方世界海　見諸雜種相　或圓或四方　或復非方圓　三維及八隅
狀若摩尼寶　一切諸業海　種種別異故　有如金剛掌　莊嚴坦平正

鍊眞金色　清淨妙形　入於無量　正法之門　諸佛刹海　種種之藏　猶如大雲　懸處虚空
彼寶輪地　妙淨分明　盧舍那佛　光明悉照　諸佛國土　起由心業　無量種形　而以莊嚴
彼國一切　各各自在　如來刹海　現無量相　或有淨穢　苦樂不同　法常流轉　變現如是
一切業海　不可思議　一毛孔中　無量佛刹　莊嚴清淨　曠然安住　彼一切處　盧舍那佛
於衆海中　演說正法　於一塵內　微細國土　一切塵等　悉於中住　一切世界　有種種形
悉於其中　轉尊法輪　是弘誓願　自在之力　一一塵中　現一切刹　譬如幻化　亦如虚空
諸心業力　之所莊嚴　一一塵中　衆生數等　諸化佛雲　神力自在　於微塵中　普住佛刹
盧舍那佛　現法如是

爾時普賢菩薩.告諸菩薩言.佛子.諸世界海有種種體.悉應當知.所謂一切寶莊嚴體.或一寶體.或金剛堅固地體.或衆香體.或日珠輪體.爾時普賢菩薩.以偈頌曰

或有世界海　衆寶所合成　堅固不可壞　安住寶蓮華　或勝光明起　淸淨輝燄照　衆妙莊嚴刹
依止虛空住　或有光明刹　依止光明住　光明雲莊嚴　諸菩薩宮殿　或有佛刹海　猶如電光住
言取不可得　斯由願力起　或有摩尼寶　日光明藏照　貫眞珠輪地　菩薩悉充滿　或有寶燄刹
光明雲蔭覆　一切寶莊嚴　悉皆有變化　或有衆相體　微妙相莊嚴　間錯雜寶冠　一切佛所化
心海業所起　國土隨樂住　諭如幻無方　皆從妄想生　如來身光明　摩尼刹安住　正覺雲彌覆
一切佛自在　或普賢菩薩　化現佛刹海　一切寶校飾　願力所莊嚴

爾時普賢菩薩.告諸菩薩言.佛子.諸世界海.有世界海微塵等莊嚴.悉應當知.所謂一切境界種種雲莊嚴.一切世界衆生行業莊嚴.三世諸佛及普賢菩薩願力莊嚴.有如是等下界海微塵數莊嚴.爾時普賢菩薩.以偈頌曰

如世界海微塵等　不可思議業果報　一切十方世界海　種種嚴淨廣無邊　無量淨色普莊嚴
上妙功德常充滿　雜光明雲出梵音　聞于一切諸佛刹　菩薩無量功德海　妙聲徧滿一切刹
諸誓願雲具莊嚴　聲震十方世界海　衆生業海廣無際　淨莊嚴雲出妙音　業報如實隨應變
諸佛力故悉周滿　一切三世諸如來　自在普現無量刹　一一境界一切佛　莊嚴刹海皆悉見
過去未來現在劫　一切十方諸世界　於無量劫淨莊嚴　一一佛刹皆悉見　一切境界諸佛雲
數等衆生滿十方　佛自在行令衆知　是謂如來莊嚴刹　衆香燄流及華流　一切衆寶摩尼流
種種衆妙莊嚴雲　皆悉校飾諸佛刹　十方世界諸道場　一切衆具妙莊嚴　靡不覩見此刹海
猶如空中電光現　普賢菩薩佛子等　悉能莊嚴諸佛刹　衆生等劫淨行海　於此世界悉顯現

爾時普賢菩薩.告諸菩薩言.佛子當知.諸世界海.有世界塵數淸淨.所謂菩薩親近善知識.成就諸善根.等利一切衆生.淨滿一切諸波羅蜜.安住一切行地.有如是等世界塵數淸淨.爾時普賢菩薩.以偈頌曰

立三本倶作生

三本倶爾時以下爲卷第四盧舍那佛品第二之二

一切佛刹諸莊嚴　無數願海方便生　一切佛刹清淨色　無量行海所修業　久遠親近善知識
一切淨妙諸業行　慈悲普流潤衆生　是故清淨佛刹海　一切法門三昧地　一切佛所淨德海
禪門方便淸淨地　是故嚴淨佛刹海　能起無量清淨心　信佛堅固不可壞　以忍方便淨無垢
莊嚴刹海微妙色　與功德雲滿虚空　利益一切修淨行　衆生普獲無量德　是故嚴刹佛刹海
刹海方便等無量　悉淨諸度無有餘　修無盡願波羅蜜　是故嚴淨佛刹海　幻化行起無有量
一切諸法廣清淨　種種方便淨衆生　起是可樂佛刹海　方便嚴淨一切地　具足諸佛功德海
令諸衆生竭苦源　是故嚴佛淨刹海　修淨力海無與等　能淨一切衆生根　恭敬供養無量佛
是故嚴淨佛刹海

爾時普賢菩薩.告諸菩薩言.佛子當知.一一世界海.有世界海塵數諸佛.出興于世.所謂有佛興世.色身示現徧滿法界.或有短壽.或無量劫.如是一一世界海.有世界塵數佛出興于世.爾時普賢菩薩以偈頌曰

佛以無量方便門　能起一切佛刹海　隨順衆生所欲樂　諸佛法王出興世　如來法身不思議
無色無相無倫匹　示現色身爲衆生　十方受化靡不見　或爲衆生現短命　或現長壽無量劫
法身多門現十方　常爲世間良福田　或有能令不思議　十方刹海悉清淨　或有能淨一刹土
是彼方便願所立　或説不可思議乘　佛普示現隨所樂　或有如來説一乘　是佛方便無有量
自然無師得正覺　或有濟度少衆生　或有能於一念中　化度無量衆生海　或有於一毛孔中
化佛雲出不思議　充滿一切十方界　無量方便化衆生　或佛音聲震十方　隨諸衆生所欲樂
無量億劫不斷絶　度衆生海無有邊　或有無量莊嚴刹　清淨大衆圍遶坐　充滿一切世界海
佛徧處衆如空雲　是佛方便不思議　慈海充滿徧一切　入諸莊嚴方便門　悉現一切衆生前

爾時普賢菩薩.告諸菩薩言.佛子當知.世界海.有世界海微塵等劫住.所謂佛刹海.或住不可數劫.或住可數劫.有如是等世界海微塵數劫住.爾時普賢菩薩.欲分別開示故.告一切衆言.諸佛子.當知此蓮華藏世界海.是盧

名下三本俱無曰字
剛下同有圍字

舍那佛。本修菩薩行時。於阿僧祇世界微塵數劫之所嚴淨。於一一劫。恭敬供養世界微塵等如來。一一佛所。淨修世界海微塵數願行。佛子當知。有須彌山微塵等風輪。持此蓮華藏莊嚴世界海。最下風輪名曰平等。彼持一切寶光明地。次上風輪名種種寶莊嚴。持淸淨光明地。次上風輪名功德勢。持密寶地。次上風輪名曰寶燄。持日不壞寶地。次上風輪名普莊嚴。持具足寶光明地。次上風輪名離垢淸淨平等。持寶華燄地。次上風輪名曰方行。持一切眞珠地。次上風輪名曰一切年。持一切時一日半月一月一年。次上風輪名普持勢。持一切須彌山地。次上風輪。名莊嚴光明。能持一切有。如是次上有。須彌山微塵等風輪。最上風輪名勝藏。持一切香水海。彼香水海中有大蓮華。名香幢光明莊嚴。持此蓮華藏莊嚴世界海。此世界海邊有金剛山周帀圍遶。爾時普賢菩薩。以偈頌曰

於此蓮華藏　莊嚴世界海　一切妙寶藏　種種淨光明　一切微塵等　過去佛所住　昔於諸有海
離垢悉淸淨　無量大悲雲　充滿諸衆生　捨離自己身　如佛刹塵數　於無量行海　常修令淸淨
是故蓮華藏　世界海莊嚴　一切虛空界　光明徧充滿　安住不可動　勝風輪常持　一切寶莊嚴
妙風常流行　盧舍那曠願　令國土嚴淨　如意寶徧布　種種妙華敷　以本願力故　處在於虛空
堅固善安住　一切寶莊嚴　十方一切界　放淸淨光雲　諸摩尼寶中　無量菩薩雲　徧遊十方國
光明極熾盛　寶華盛妙色　莊嚴光明輪　充滿諸法界　十方靡不徧　一切衆淨寶　悉放光明雲
十方諸世界　一切皆充滿　滅除一切苦　安立無上道　妙色悉普照　一切世界海　於此蓮華藏
世界海之內　一一微塵中　見一切法界　一切諸佛雲　放寶光明照　是盧舍那刹　有無量自在
一切衆生等　蓮華中諸佛　興種種無量　自在變化雲　釋梵諸天衆　及轉輪聖王　一切衆生類
皆悉得安住　變化放光明　悉與法界等　一切光明中　出諸佛妙音　知諸衆生心　所念無有餘
無數方便門　調伏群生類　離一切顚倒　常住於寂靜　無量光明雲　悉與法界等　普賢所行智
無上勝妙地　於光莊嚴中　皆悉具足聞

栴明作旃下同
華三本俱作草

佛子當知。此蓮華藏世界海金剛圍山。依蓮華日寶王地住。彼有一切香水海一切衆寶徧布其他。金剛厚地不可破壞。出生一切衆寶。又能明照一切世界。爾時普賢菩薩。以偈頌曰

一切世界海　有無量莊嚴　寶輪無邊色　如來神力起　莊嚴斫迦羅　寶輪及香輪　依住眞珠輪
及依種種寶　堅固寶莊嚴　閻浮檀淨藏　香光滿十方　照現斫迦羅
持以堅固金剛寶　金剛莊嚴不可壞　種種衆寶相莊嚴　一身莊嚴清淨法　香水普流無量色
散華摩尼栴檀香　天衣徧覆華莊嚴　衆寶香華熏無量　清淨寶樹雲莊嚴　普能照明一切身
光明妙雲悉具足　樹下安坐靡不照　種種華香及幡蓋　一切菩薩充法界　能說一切語言海
是盧舍那轉法輪　彼處悉有珍寶幢　一切寶樹出光明　盧舍那佛身清淨　彼莊嚴內一切見
諸莊嚴中無數身　如來變化色無量　充滿一切十方界　調伏衆生無限量　一切莊嚴出妙聲
盧舍那佛所願輪　隨其清淨佛刹海　佛自在力皆悉聞

彼大斫迦羅山內世界海中。有不可破壞摩尼寶王。映現一切衆生之身。衆寶蓮華以爲莊嚴。大地一切莊嚴妙雲皆悉充滿。一切妙香而以熏之。以三世佛刹莊嚴而莊嚴之。爾時普賢菩薩。以偈頌曰

其地平正淨圓滿　斫迦羅內不可壞　平等安住甚清淨　種種雜寶而莊嚴　金剛寶地可悅樂
寶輪羅網彌覆上　種種寶華爲莊嚴　雜種寶衣珍妙輪　隨次徧布一切地　菩薩天冠寶瓔珞
離垢莊嚴光明照　妙香碎寶悉充滿　光明衆寶華莊嚴　普放一切滿十方　寶華徧覆一切地
悉能長養佛功德　與一切雲滿虛空　光明普照不可盡　光明悉滿一切刹　具足佛法甘露味
悉入一切佛所願　常能廣見三世法　隨順菩薩大士行　於此大地皆悉見　此清淨地寶莊嚴
一切佛刹悉來入　其地一一微塵中　一切佛刹亦悉入　衆寶妙華莊嚴藏　十方菩薩常往來
常聞菩薩一切願　及諸菩薩自在德　有寶光明相莊嚴　離垢嚴淨出光明　示現一切諸佛法
充滿法界如虛空　有得普賢所願者　諸佛境界無量智　彼得無量勝自在　能入無邊佛刹海

塵上三本俱有微字

寶華同俱作華
寶廻復同作洄
澓

彼大地處。有不可說佛剎微塵等香水海。衆寶莊嚴。一切香摩尼寶王。以爲其岸寶王羅網彌覆其上。衆寶色水盈滿其中。一切衆華皆悉開敷。細末栴檀以香其水。常出如來妙音不絕。衆香次第普熏十方。雜寶階道眞珠欄楯。衆寶潮浪出妙音聲。恒沙佛剎微塵數等寶華樓閣。周帀圍遶。無量佛剎微塵等衆寶華城。以周其外。十大千世界微塵數華。一一蓮華各十由旬。開敷鮮茂徧布水上。其香普熏一切世界。十佛國土塵數香樹。以爲莊嚴。爾時普賢菩薩。以偈頌曰

於彼嚴淨大地處　香水寶海而莊嚴　清淨寶地常安住　金剛堅固不可壞　衆香寶王以爲岸
寶雲光明如日照　眞珠寶華妙瓔珞　離垢清淨普莊嚴　清淨香水湛然滿　衆寶華光爲旋流
妙聲悅樂常不斷　自在普聞佛世界　衆珍校飾淨階道　寶莊嚴地安不動　眞珠妙寶爲欄楯
光明寶華可悅樂　寶樹羅生緣道側　摩尼寶樂煥明耀　演出無量和雅聲　莊嚴淨音歎三寶
香水柔輭湛然滿　分陀利華徧圍遶　一切香華出光明　清淨具足而莊嚴　於寶幢中有光明
垂寶旗旛而莊嚴　摩尼寶網出妙聲　聞者能入一切智　衆寶華城甚微妙　無量寶色淨光明
十方世界靡不照　一切具足光嚴飾　垣墻周帀而圍遶　種種雜寶爲莊蓮　清淨寶燄相任持
具足莊嚴寶香海　盧舍那佛過去行　令佛剎海甚清淨　無數無量無邊際　彼處一切自在轉

一一香水海。有四天下微塵數香水河圍遶。種種寶華彌覆其上。彼諸香水河。從佛眉間白毫相出。摩尼寶王汎上隨流。爾時普賢菩薩。以偈頌曰

離垢清淨香水流　金剛寶華悉彌覆　寶衆輸地布金沙　無量珍琦普莊嚴　淨沙階道七寶成
諸欄楯上植蓮華　眞珠寶華常敷榮　懸雜華鬘爲莊嚴　一切寶光微妙色　清淨香水雜寶流
種種寶華爲波浪　衆音諧雅演佛聲　栴檀寶末和清流　無量雜寶爲廻復　普出種種香光燄
常流一切十方界　一切香河出無量　雜種妙勝諸珍寶　衆寶積集爲華蓋　光明普照香水河
十方無量世界中　佛光明照見寶王　如來道場寶輪地　衆寶香河盈流滿　諸寶羅網相扣摩

演佛音聲常不絕　一切菩薩諸佛法　普賢大士所修行　諸佛世尊願音聲　於彼寶岸常得聞
一切如來過去行　皆悉徧聞十方國　一切香河諸旋流　一切菩薩功德雲　漸漸盈滿諸法界
見一切剎無不至　彼諸一切香水河　淨寶王雲彌覆上　佛白毫相出寶王　其光明耀等如來

大方廣佛華嚴經卷第三

大方廣佛華嚴經卷第四

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅譯

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

盧舍那佛品第二之三

彼香河中間一切平正。諸妙寶樹以爲莊嚴。雜種寶幔彌覆其上。一切菩薩願力所起。佛所護念。三世莊嚴而莊嚴之。爾時普賢菩薩。以偈頌曰

盧舍那佛徧十方　出一切化莊嚴身　彼亦不來亦不去　佛願力故皆悉見　一切佛刹微塵中
無量佛子修諸行　悉受淸淨國土記　見嚴淨刹稱本行

佛子當知。此蓮華藏世界海中。一一境界。有世界海微塵數淸淨莊嚴。諸佛子。此香水海上。有不可說佛刹微塵數世界性住。或有世界性蓮華上住。或在無量色蓮華上住。或依眞珠寶住。或依諸寶網住。或依種種衆生身住。或依佛摩尼寶王住。或須彌山形。或河形。或轉形。或旋流形。或輪形。或樹形。或樓觀形。或雲形。或網形。爾時普賢菩薩。以偈頌曰

堅固淸淨諸佛刹　離垢解脫光明藏　依止摩尼寶海住　或有依止香海住　或依種種方便住
或依莊嚴衆色住　或復須彌樹圓形　種種方門佛刹住　或光明身諸華藏　寶雲普放淨光明
光明充滿勝世界　寶地海藏不可壞　或淨佛刹無量色　光明燄雲衆色等　或有妙音諸世界
自然常音不思議　無數願樂種種身　自在行雲音聲身　衆生無量德音身　最勝一切德音身
種種門入諸佛刹　漸至無盡不思議　無數一切滿十方　無盡無量普自在　一切諸方如來刹
廣大方便入佛界　見十方刹漸次至　國土不增亦不減　以一國土滿十方　十方入一亦無餘

有上三本俱無復字

金同俱作光

世界本相亦不壞　無比功德故能爾　一切佛刹微塵中　見盧舍那自在力　弘誓願海震音聲
調伏一切衆生類　佛身充滿一切刹　無數菩薩亦如是　教化衆生無有量　佛現自在無倫匹
爾時普賢菩薩。告諸菩薩言。佛子。彼衆香水海中。有一香水海。名樂光明。有一切香摩尼寶王莊嚴蓮華。上有世界。名清淨寶網光明。佛號離垢淨眼廣入。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名離香蓮華勝妙莊嚴。依寶網住。形如師子座。佛號師子座光明勝照。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名寶莊嚴普光明。依諸華住。形如日輪雲。佛號廣大光明智勝。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名離光蓮華。佛號金剛光明普精進善起。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名無畏嚴淨。佛號平等莊嚴妙音幢王。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名華開淨燄。佛號愛海功德稱王。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名總持。佛號淨智慧海。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名解脫聲。佛號善相幢。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名勝起。佛號蓮華藏光。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名善住金剛不可破壞。佛號那羅延不可破壞。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名華林亦蓮華。佛號離寶華鬘智王。彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國名淨光勝電如來藏。佛號能起一切所願功德。彼世界上。有香水海。名淨光燄起。中有世界性。名善住。次上復有香水海。名金剛眼光明。中有世界性。名法界等起。次上復有香水海。名蓮華平正。中有世界性。名出十方化身。次上復有香水海。名寶地莊嚴光明。中有世界性。名寶枝莊嚴。次上復有香水海。名華香燄。中有世界性。名清淨化。次上復有香水海。名寶幢。中有世界性。名佛護念。次上復有世界性。名衆色普光。如是次上。復有世界塵數香水海及世界性。如一方。十方亦如是。盧舍那佛常轉法輪處。爾時普賢菩薩。以偈頌曰

法界不可壞　蓮華世界海　離垢廣莊嚴　安住於虛空　此世界海中　刹性難思議　善住不雜亂
各各悉自在　平正住莊嚴　依種種色住　如來世界海　佛刹相隨順　種種身音聲　一切佛自在
普見諸世界　種種業莊嚴　須彌山城網　水旋輪圓形　清淨色蓮華　彼彼悉圍遶　尸羅幢燄形
隨順轉色形　如是難思議　諸佛國土形　不思議世界　依止蓮華住　於大光明網　普照於一切

衆三本俱作業
現同作珠
可同作思
切同作佛
見同俱作有

一一如來剎　放諸光明網　照一切佛國　充滿十方海　一切諸佛剎　一切境界門　一切方便入
皆悉見無量　不思議佛剎　不壞不可盡　無量淨莊嚴　大仙威神力　彼如來剎頂　不思議世界
或成或有敗　不生亦不滅　譬如諸樹林　華葉或生落　如是諸佛剎　成敗亦復然　如依種種樹
有種種果生　如是種種剎　有種種衆生　種子差別故　果實生不同　行業若干故　佛剎種種異
譬如意寶珠　隨意現衆色　除諸妄想故　悉見清淨剎　譬如空中雲　龍王力能現　如是佛願力
一切佛剎起　猶如工幻師　能現種種衆　如是衆生業　佛剎不思議　如見彩畫像　知是畫師造
如是見佛剎　心畫師所成　衆生心不同　隨起諸妄想　如是諸佛剎　一切皆如化　猶如見導師
種種無量色　隨衆生心行　見佛剎亦然　無量眞珠華　悉覆諸佛剎　色現各不同　離垢莊嚴現
彼蓮華網中　佛剎網依住　種種妙莊嚴　衆生所依處　或有佛剎地　垢穢不平正　衆生煩惱故
起如是佛剎　清淨不清淨　佛剎不可議　衆生希望起　菩薩之所持　清淨不清淨　無量諸佛剎
業海因緣起　菩薩之所化　或放清淨光　離垢衆寶體　種種妙莊嚴　諸佛令清淨　一切國土中
火烖不可議　示現不清淨　而剎常堅固　或依風輪住　或復依水輪　無量剎成敗　衆生行業故
見無量佛剎　或成或有敗　彼亦無有成　亦復無有敗　於一一念中　無量佛剎起　諸佛所持故
國清淨離垢　或有佛剎起　泥土不清淨　離明常闇冥　罪衆生所住　或有泥土剎　煩惱大恐怖
樂少憂苦多　薄福不所處　或有鐵世界　或有赤銅國　諸石山穢惡　衆生業故起　或有泥土剎
衆生常苦惱　長冥離光明　光明海能照　諸畜生趣中　受無量種身　隨宿行業故　長受無量苦
閻羅王界中　飢渴苦常逼　登上大火山　長受無量苦　或有七寶剎　平正住莊嚴　清淨業力起
微妙善安隱　彼佛剎土中　唯見人天趣　功德果成就　常受諸快樂　一一毛孔中　不思議億剎
無量形莊嚴　種種業所起　隨其自業起　衆生界難議　取種種相已　或受樂受苦　或剎光無量
一切寶爲地　金剛華徧覆　離垢淨莊嚴　或剎光明體　光明輪安住　金色栴檀香　光明雲常照

見三本俱作現

隅同作[illegible]

或刹日輪體　布衆香寶衣　或一蓮華中　菩薩悉充滿　或有無量色　離垢寶佛刹　紺寶光明網
光明網電照　或有佛刹土　金剛華爲體　或布衆寶華　觀察甚清淨　普賢菩薩願　所得清淨國
三世莊嚴刹　悉現於此中　諸佛子汝觀　佛世界自在　未來一切刹　悉見皆如夢　十方一切刹
過去佛國海　於一世界見　一切刹如化　三世一切佛　幷一切佛土　於一世界見　三世佛及刹
觀微塵上刹　一切佛自在　無量妙莊嚴　皆悉如電光　或無量佛土　其形猶如海　有如須彌山
世界難思議　有國如珠貫　衣紺寶網住　或依樹莊嚴　一切佛充滿　或依摩尼輪　或依止蓮華
八隅難莊嚴　離垢種種色　或如師子座　或有國如金　或如衆寶形　或如梵世處　或天主月形
又復形如日　或如摩尼寶　栴檀香莊嚴　或如旋香鬘　佛世界安住　或如光明輪　種種色莊嚴
或壽命一劫　或復壽百劫　或復有壽命　佛刹微塵等　或於一劫中　見無量刹起　無量不可數
不思議刹壞　或國土無佛　或國土有佛　或國土一佛　或有無量佛　若國土無佛　他方異世界
有諸化佛來　示現自在教　從兜率捨壽　降神處胎生　降魔成正覺　轉無上法輪　隨衆生所樂
種種色示現　一切時不壞　轉清淨法輪　若衆生非器　非佛令不見　煩惱所障礙　不見如來意
或刹極濁惡　常聞弊惡音　剛強麁獷聲　不愛大恐怖　彼地獄畜生　餓鬼趣受苦　是濁惡佛刹
衆生憂惱海　或刹甘露音　常聞柔輭聲　清淨業道音　普聞一切刹　或有佛刹聞　釋提桓因聲
梵天王妙聲　諸世界主聲　光明旋音聲　佛化身無盡　諸菩薩音聲　常聞佛刹海　或不思議刹
聞轉法輪聲　不可盡願聲　所修行音聲　聞三世諸佛　具足尊名号　隨緣起佛刹　音聲不可盡

諸佛子.乃往久遠過世界海微塵數劫.復過是數.爾時有世界海.名淨光普眼.中有世界性.名勝妙音.依止摩尼華網海住.清淨無穢.有須彌山塵數世界以爲眷屬.無量寶莊嚴地.有三百重衆寶圍山.高廣嚴淨周帀圍遶.其世界性形如須彌山.天宮莊嚴以念爲食.彼世界性中.有香水海名清淨光.彼香海中.有須彌山名.大蓮華莊嚴幢.以十種寶欄楯圍遶.彼須彌山.有林觀名寶華枝.以無量華樓閣.無量寶幢樓閣.無量紺寶網.種種色華而莊

大元明俱作天　寮三本俱作樓　天三本俱作大　萬同作百　采同作婇　第同作弟

嚴之。無量香雲彌覆其上。十億百千城周帀圍遶。於彼林東。有一大城名曰燄光。純香所成面千由旬。七寶爲郭周帀闉遶。其城寮觀雜寶莊嚴。覆以雜華及諸寶網。微風吹動出妙音聲。其城有門一萬二千。建雜寶幢而莊嚴之十億園林周帀圍遶。城中衆生皆悉成就業報神足。行同諸天。一切所欲應念卽至。於彼林南。有一天城。名樹華莊嚴。次有龍城。名曰究竟。次有夜叉城名金剛勝妙莊嚴幢。次有乾闥婆城。名離垢善。次有阿修羅城。名寶輪地。次有迦樓羅城。名衆寶莊嚴善光。次有緊那羅城。名娛樂莊嚴。次有摩睺羅伽城。名寶金剛幢。時彼林中。有一道場名寶華莊嚴。其道場前。有大蓮華名華燄具足。縱廣百億由旬。十億蓮華眷屬圍遶。時彼世界過百歲已。有佛出世。如是次第。有十須彌山塵數如來。出興于世。其最初佛。名一切功德本勝須彌山雲。時佛處彼大蓮華上。眉間白毫放大光明。名一切功德覺。有十佛世界塵數光明。以爲眷屬。彼光滅除一切衆生煩惱蓋障。令得淨心起功德海。永離三惡八難諸趣。發菩提心。諸佛子。時彼燄光城中。有王名愛見善慧。其王統領萬億諸城。有三萬七千夫人采女。二萬五千子。其第一子名功德勝。次名普莊嚴童子。時彼童子。見佛無量自在功德善根因緣故。卽得十種三昧。名曰諸佛具足功德三昧。普門方便三昧。淨方便雲三昧。教化衆生三昧。一切音聲充滿三昧。無量功德誠向三昧。如實覺諸法三昧。廣地方便海三昧。勝解脫三昧。一切智光三昧。爾時普莊嚴童子。以偈頌曰

猶如千日出　虛空靡不照　離垢坐道場　光明亦如是　無量萬億劫　難遇之導師　出興於世間
一切見最勝　觀察佛光明　如雲難思議　一切處悉見　如對現目前　毛孔放光明　如雲不可盡
隨諸衆生音　讃佛無量德　衆生遇佛光　離苦永寂滅　悉安隱快樂　歡喜徧充滿　觀察諸菩薩
充滿十方界　放摩尼寶雲　讃歎諸最勝　常於道場開　深妙音聲海　滅諸衆生苦　覩佛自在力
一切興恭敬　歡喜心無量　往詣法王所　瞻仰禮供養

時彼童子說偈音聲。於彼世界無不普聞。爾時愛見善慧王。聞說是偈歡喜無量。以偈頌曰

宜時普宣告　諸王大臣等　令知吉祥相　咸速詣最勝　莊飾一切城　宜令悉淸淨　建諸妙幢幡
種種寶莊嚴　設衆妙寶帳　彌覆羅其上　興妓樂音雲　令充徧虛空　掃除諸街巷　降以雜寶雨

從下三本俱無大字

莊嚴衆寶乘　當詣見最勝　各於其帳內　雨種種雲雨　一切莊嚴雲　流行虛空中　香蓮華光雲
華蓋難思議　瓔珞半月雲　雨衆妙寶衣　須彌山香水　摩尼寶莊嚴　清淨衆雜寶　顯現虛空中
摩尼寶華鬘　離垢衆寶鬘　摩尼寶燈雲　疑照停虛空　瞩想皆念佛　生無量歡喜　妻子眷屬俱
當詣見最勝

爾時愛見善慧王．與七十七億那由他眷屬俱．往詣一切功德本勝須彌山雲佛所．到已頭面禮足於一面坐．無量天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽等．往詣佛所．頭面禮足於一面住．爾時如來．教化一切諸衆生故．於彼大衆海中說經．名現三世一切諸佛集會世界塵數修多羅以爲眷屬．隨諸衆生所應解故．爾時普莊嚴童子．聞是經已．宿世功德因緣故．得一切法具足三昧．一切法來入安住菩提心三昧．法界師子光方便三昧．法眼清淨三昧．爾時童子．以偈頌曰

我聞最勝法　清淨慧眼開　能見一切佛　過去功德海　我見一切生　如本色具足　隨本名身業
供養一切佛　過去諸佛所　無量劫海行　我見諸佛海　清淨佛刹海　於生死海中　捨自身無量
修菩薩勝行　嚴淨佛刹海　捨無量耳鼻　頭目及手足　王身大臣身　具足修淨國　一一佛刹中
難思議億劫　修行菩薩道　令佛刹海淨　普賢菩薩願　修習諸行海　一切刹海中　令佛土清淨
如日光明淨　悉見色具足　佛智光照已　見我本修行　見無量諸佛　離垢清淨刹　成等正覺聲
悉充滿法界　如彼修清淨　具足佛刹海　一切佛神力　應修菩薩行

說是偈時．如須彌山塵數衆生．悉發無上道心．時彼如來．爲此童子而說頌曰

善哉普莊嚴　德藏大名稱　能爲衆生故　勇猛求菩提　能發智慧光　滿一切法界　無上道德雲
當得智慧海　一國中修行　一切微塵劫　當逮是智慧　如我之所得　懈怠者不能　解深方便海
精進力成就　能淨佛世界　一切微塵數　劫海修衆行　彼得淨如海　如我佛刹海　一一衆生故
無量劫苦行　不厭生死難　能爲大導師　無量無邊願　一切諸佛海　能度無上道　方便海具足

恭敬供養我　普莊嚴大力　勝須彌山佛　成汝無上道　普賢常勇猛　具足大名稱　一切法界滿
淨諸佛刹海

爾時一切功德本勝須彌山雲如來．壽五十億歲．彼佛滅度後．有佛出世號一切度離癡清淨眼王如來．普莊嚴童子．見是如來已．即得念佛三昧．普門海藏三昧．無量智持轉法三昧．甚深法樂三昧．時佛說經．名一切法界自性離垢莊嚴．有世界微塵等修多羅．以爲眷屬．普莊嚴童子．聞是經已．即得三昧．名一切法普門歡喜藏三昧．入一切法方便海三昧

大方廣佛華嚴經如來名號品第三

佛在摩竭提國寂滅道場初始得佛．普光法堂．坐蓮華藏師子座上．善覺智無二念．了達法性．住佛所住．等諸如來至無礙趣．具不退法無壞境界．住不思議等達三世．與十佛國土微塵數等大菩薩俱．盡一生補處．悉從他方世界來集．了衆生性深入法界．常善思量世間涅槃．明了業報衆生心行．悉能解知諸法義味．觀察世間離世間法．究竟分別爲無爲性．去來現在靡不貫達．時諸菩薩咸作是念．唯願世尊哀愍我等．隨所志樂示現佛刹．示佛所住示佛國莊嚴．示諸佛法．示佛土清淨．示佛所說法．示佛刹體．示佛功德勢力．示隨佛刹起．示成正覺．開示十方一切如來所可分別菩薩十住十行十迴向十藏十地十願十定十自在十頂．菩薩隨喜心不斷如來性．救衆生滅煩惱．知衆行解諸法離垢穢拔衆難．決疑網竭愛欲．佛無上地．佛境界．佛住壽．佛行．佛力．佛無所畏．佛定．佛神足．佛勝法．佛不動轉．佛六情根．佛光．佛智．佛無上功德一切具足．如是等事悉爲我現．爾時世尊．知諸菩薩心之所念．即如其像現神通力．現神力已．東方過十佛刹微塵數國．有世界名金色．佛號不動智．有菩薩字文殊師利．與十佛土塵數菩薩．來詣佛所恭敬供養頭面禮足．即於東方．化作蓮華藏師子之座．結跏趺坐．南方過十佛刹微塵數國．有世界名樂色．佛號智火．有菩薩字覺首．與十佛土塵數菩薩．來詣佛所恭敬供養頭面禮足．即於南方．化作蓮華藏師子之座．結跏趺坐．西方過十佛刹微塵數國．有世界名華色．佛號習智．菩薩字財首．與十佛

勝下三本俱無法字○智下同無佛字

智火同作大智

寶三本俱作賓

土塵數菩薩。來詣佛所恭敬供養頭面禮足。卽於西方。化作蓮華藏師子之座。結跏趺坐。北方過十佛剎微塵數國。有世界名薝蔔華色。佛號行智。菩薩字寶首。與十佛土塵數菩薩。來詣佛所恭敬供養頭面禮足。卽於北方。化作蓮華藏師子之座。結跏趺坐東北方過十佛剎微塵數國。有世界名靑蓮華色。佛號明智。菩薩字德首。與十佛土塵數菩薩。來詣佛所恭敬供養頭面禮足。卽於東北方。化作蓮華藏師子之座。結跏趺坐。東南方過十佛剎微塵數國。有世界名金色。佛號究竟智。菩薩字目首。與十佛土塵數菩薩。來詣佛所恭敬供養頭面禮足。卽於東南方。化作蓮華藏師子之座。結跏趺坐。西南方過十佛剎微塵數國。有世界名寶色。佛號上智。菩薩字進首。與十佛土塵數菩薩。來詣佛所恭敬供養頭面禮足。卽於西南方。化作蓮華藏師子之座結跏趺坐。西北方過十佛剎微塵數國。有世界名金剛色。佛號自在智。菩薩字法首。與十佛土塵數菩薩。來詣佛所恭敬供養頭面禮足。卽於西北方。化作蓮華藏師子之座。結跏趺坐。下方過十佛剎微塵數國。有世界名玻瓈色。佛號梵智。菩薩字智首。與十佛土塵數菩薩。來詣佛所恭敬供養頭面禮足。卽於下方化。作蓮華藏師子之座。結跏趺坐。上方過十佛剎微塵數國。有世界名如寶色。佛號伏怨智。菩薩字賢首。與十佛土塵數菩薩。來詣佛所恭敬供養頭面禮足。卽於上方。化作蓮華藏師子之座。結跏趺坐。是時文殊師利菩薩。承佛神力。觀察大衆。歎曰快哉。今菩薩會爲未曾有。諸佛子。當知佛剎不可思議。佛住。佛國。佛法。佛剎淸淨。佛說法。佛出世。佛剎起。諸佛阿耨多羅三藐三菩提。皆不可思議。何以故。十方諸佛說法。知彼心行隨化衆生。與虛空法界等。何以故。此娑婆世界中。諸四天下敎化一切。種種身。種種名。處所形色長短壽命。諸得。諸入。諸根。生處。業報。如是種種不同。衆生所見亦異。何以故。諸佛子。此四天下佛號不同。或稱悉達。或稱滿月。或稱師子吼。或稱釋迦牟尼。或稱神仙。或稱盧舍那。或稱瞿曇。或稱大沙門。或稱最勝。或稱能度。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此東方。有四天下名曰善護。彼稱如來。或號金剛。或號尊勝。或號大智。或號不壞。或號雲王。或號無諍。或號平等。或號歡喜。或號無比。或號默然。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此南方。有四天下名曰難養。彼稱如來。或名甘露灌。或名善名稱。或名離垢。或名實論師。或名調御。或名樂慧。或名大音。或名衆莂。或名無量。或名勝慧。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此西方。有四天下

滅三本俱作彼

彌下同有山字

親同作現

到下同無或稱乃至大悲三十六字

名曰佛慧。彼稱如來。或謂性慧。或謂愛現。或謂無上王。或謂無恐怖。或謂實慧。或謂常化。或謂知足。或謂法慧。或謂究竟。或謂能忍。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此北方。有四天下名師子言。彼稱如來。或稱大牟尼。或稱苦行。或稱婆伽婆。或稱福田。或稱一切智。或稱善意。或稱清淨。或稱伊那婆那。或稱勝鎧。或稱願行滿。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此東北方。有四天下名曰安寧。彼稱如來。或號法王。或號等起。或號寂靜。或號妙天。或號離欲。或號勝慧。或號等心。或號無壞。或號慧音。或號遠來。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此東南方。有四天下名曰喜樂。或稱如來。或名蓮華。或名慧火。或名智人。或名密教。或名解脫。或名自然安住。或名妙行成就。或名清淨眼王。或名上勇。或名精進力。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此西南方。有四天下名曰堅固。彼稱如來。或稱不動。或稱慧王。或稱滿慧。或稱無動慧。或稱常悲。或稱頂王。或稱勝音。或稱一切施。或稱持仙。或稱勝須彌。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此西北方。有四天下名須菩提。彼稱如來。或號普慧。或號光明成就。或號寶髻。或號應敬念。或號無上義。或號悅樂。或號本性清淨。或號光明滿。或號脩臂。或號本善住。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此下方。有四天下名曰啖道。彼謂如來。或名長養善根。或名師子色。或名利智。或名眞金啖。或名普親。或名梵音。或名饒益。或名究竟來。或名眞天。或名平等施。如是等稱佛名號其數一萬。諸佛子。次此上方。有四天下名曰持地。彼謂如來。或稱猛慧。或稱無量清淨。或稱覺慧。或稱勇音。或稱妙莊嚴。或稱能發歡喜。或稱意成滿。或稱火光。或稱精進。或稱一乘。諸佛子。如是持地四天下。稱佛名號其數一萬。此娑婆世界。有如是等百億四天下。彼稱如來。亦各不同有百億萬。諸佛子。此娑婆世界東。次有國土名曰密訓。彼謂如來。或稱平等。或稱最勇。或稱安慰。或稱調意。或稱聞慧。或稱一切捨。或稱自在。或稱堅固身。或稱大超越。或稱無比智。諸佛子。如是密訓國土稱佛名號有百億萬。諸佛子。此世界南。次有國土名曰最勇。彼謂如來。或稱自然清淨。或稱意至到。或稱能仁。或稱解脫王。或稱智惠王。或稱明行足。或稱善誓。或稱能寂滅。或稱大慈。或稱大悲。如是等稱佛名號有百億萬。諸佛子。此世界西。次有國土名曰離垢。彼謂如來。或稱具足直心。或稱分別道。或稱善持。或稱解脫衆亂。或稱論師。或稱分別衆寶。或稱無上現。或稱來化。或稱一切苦行。或稱具足力。如是等稱佛名號

寶同作寶

訶同作呵訶責呵以下皆同

根同作相

鮮三本俱作尠鮮少之鮮以下皆同

起同作起

是皆同作皆是

三本俱以四諦品爲卷第五首品目四下俱無之一二字

有百億萬。諸佛子。此世界北。次有國土名寶境界。彼謂如來。或稱薝蔔華色。或稱日藏。或稱依精進住。或稱等起住壽。或稱超實。或稱慧日。或稱無障礙。或稱月出。或稱慧火勢。或稱清淨身。如是等稱佛名號有百億萬。諸佛子。此世界東北。次有國土名曰訶尼。彼稱如來。或號離苦。或號一切解脫。或號因緣具足。或號解脫智慧。或號過去藏。或號寶光。或號離世間。或號至離身地。或號端嚴藏。或號離瞋恚心。如是等稱佛名號有百億萬。諸佛子。此世界東南。次有國土名曰饒益。彼稱如來。或號因緣。或號盡智。或號美音。或號根勝。或號莊嚴蓋。或號淨根。或號殊特。或號分別到彼岸。或號勝定。或號慈父。或號智海。如是等稱佛名號有百億萬。諸佛子。此世界西南。次有國土名曰鮮少。彼稱如來。或號牟尼主。或號樂寶。或號不二觀。或號知智。或號謙意。或號有緣見。或號根主。或號天人師。或號建業。或號金剛華。如是等稱佛名號有百億萬。諸佛子。此世界西北。次有國土名曰知足。彼稱如來。或號華聚。或號栴檀蓋。或號蓮華藏。或號超越諸法。或號法顯。或號次起。或號善淨蓋。或號離垢善根。或號善言。或號專念法。或號五法藏。如是等稱佛名號有百億萬。諸佛子。此世界下。次有國土名離搏食。彼稱如來。或號眞珠蔽。或號普化。或號法命主。或號無爲。或號覺根。或號離塵。或號風無礙。或號欣施。或號分別道。或號建幢。如是等稱佛名號有百億萬。諸佛子。此世界上。次有國土名解脫音。彼稱如來。或號猛幢。或號無量寶。或號樂大施。或號天光。或號吉祥興。或號離死地。或號最勝。或號不退輪。或號離非法。或號修一切智。諸佛子。此解脫音世界。稱佛名號有百億萬。如娑婆國土及十世界。如是東方百千億不可量不可數不可思議不可稱無等無邊無分齊不可說。虛空法界等世界中衆生。稱佛名號各各不同。南西北方四維上下亦復如是。是皆如來爲菩薩時。有因緣者爲度此故。種種方便口業音聲行業果報。法門權道諸根所樂。令諸衆生知如來法

大方廣佛華嚴經四諦品第四之一

爾時文殊師利。告衆菩薩言。佛子。所說苦諦者。於此娑婆世界。或言害。或言逼迫。或言變異。或言境界。或言聚。或言刺。或言依根。或言不實。或言癰。或言童蒙行。所說苦集諦者。或言火。或言能壞。或言受義。或言覺。或言方便。或

元同作無分下同有別字

刄三本俱作忍

分下同有別字

出下同有家字

分下同有別字
忍同作刄

印同作卯

全同作金

言決定.或言網.或言念.或言順衆生.或言顚倒根.所說苦滅諦者.或言無障礙.或言離垢淨.或言寂靜.或言無相.或言不死.或言無所有.或言因緣斷.或言滅.或言眞實.或言自然住.所說苦滅道諦者.或言一乘.或言趣寂靜.或言引導.或言究竟希望.或言常不離.或言能捨擔.或言至非趣.或言聖人隨行.或言仙人行.或言十藏.諸佛子此婆婆世界中.如是等四諦名字.有四十億百千那由他.隨諸衆生所應調伏.作如是說.諸佛子.如娑婆世界所稱苦諦.於密訓世界.或名求根.或名不可出.或名不縛根.或名作不應作.或名一切不實.或名分別羸.或名處所成就.或名第一害.或名動.或名身事.所名苦集諦者.或名受.或名枝.或名燒.或名堅固.或名壞根.或名相續.或名害行.或名喜忘.或名生元.或名分.所名苦滅諦者.或名正義.或名堅固.或名讃歎.或名安隱.或名善趣.或名調伏.或名一道.或名離煩惱.或名不亂.或名究竟.所名苦滅道諦者.或名猛將.或名不沒.或名超出.或名勤方便.或名普眼.或名離邊.或名覺悟.或名得妙.或名無上目.或名觀方.諸佛子.彼密訓世界如是等四諦名字.有四十億百千那由他.隨諸衆生所應調伏作如是說.諸佛子.如娑婆世界所名苦諦.於最勇世界.或名恐怖.或名福斷.或名應訶責.或名常給.或名麁澀.或名常怨.或名離勝.或名奪利.或名難共事.或名虛妄.或名勢力.所名苦集諦者.或名因緣.或名癡元.或名怨林.或名刃枝.或名滅味.或名仇對.或名味著.或名導引.或名增闇.或名害利.所名苦滅諦者.或名大義.或名饒益分.或名義中義.或名無量.或名見.或名虛妄斷.或名最勝.或名常.或名住.或名無為.所名苦滅道諦者.或名滅火.或名勝枝.或名定分別.或名不退.或名深方便.或名出.或名最上.或名至非趣.或名解脫.或名能令解脫.諸佛子.彼最勇世界如是等四諦名.有四十億百千那由他.隨諸衆生所應調伏作如是說.諸佛子.如娑婆世界所說苦諦.於離垢世界.或名悔恨.或名資待.或名分別.或名輪廻.或名前行.或名一味.或名非法.或名現前地.或名最邪.或名邪見.或名不可忍.所名苦集諦者.或名虛器.或名分.或名甘忍.或名生地.或名取.或名棄.或名增.或名擔.或名能生.或名堅縛.所名苦滅諦者.或名等等.或名空.或名無垢.或名勝根.或名勝等.或名無作.或名滅使.或名最上.或名畢竟.或名破印.所名苦滅道諦者.或名眞堅固.或名方便分別.或名義根.或名眞性.或名離愛.或名勝淨.或名有邊.或名寄全.或名究竟.或名淨虛妄.諸佛子.離垢世界如是等四諦名.有四十億

梁明作染
色同作名

百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。諸佛子。如娑婆世界所說苦諦。於眞實境世界。或名愛欲。或名險根。或名海分。或名邪方便。或名分別根。或名流轉。或名生滅。或名障礙。或名倒根。或名有數。所名苦集諦者。或名愛。或名陷溺。或名不可盡。或名分。或名不正趣。或名津梁。或名事。或名障礙。或名器。或名動。所名苦滅諦者。或名相續斷。或名解散。或名無名。或名不作。或名不現。或名無作。或名無色。或名無燒。或名明。或名淨。所名苦滅道諦者。或名寂行。或名正行。或名修證。或名安隱道。或名無量壽。或名修究竟。或名常道。或名難得。或名彼岸。或名無敵。諸佛子。眞實境世界如是等四諦名。有四十億百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。諸佛子。如娑婆世界所名苦諦者。於訶尼世界。或名掠取。或名非善友。或名戰怖。或名多言。或名眞地獄。或名非法調伏。或名重擔。或名壞根。或名虛妄。或名虛妄根。所名苦集諦者。或名貪。或名作。或名惡。或名生。或名絞縛。或名想。或名有果。或名不愛。或名不應說。或名迴轉。所名苦滅諦者。或名不轉。或名解脫。或名無作。或名離愛。或名堅固。或名眞實。或名離癡。或名寂滅。或名賢聖。或名離怨敵。所名苦滅道諦者。或名正語。或名無諍。或名教導。或名迴向心。或名廣妙。或名分別方便。或名有數。或名趣寂靜。或名勝智。或名善解義。諸佛子。訶尼世界如是等四諦名。有四十億百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。諸佛子。如娑婆世界所言苦諦者。於饒益世界。或名重擔。或名危脆。或名賊等。或名生死。或名非歡喜。或名流轉。或名疲勞。或名醜貌。或名能生。或名利刃。所言苦集諦者。或名流散。或名擾亂。或名煩惱。或名羸劣。或名漂淪。或名乖違。或名非解脫。或名所作。或名取。或名虛妄。所言苦滅諦者。或名離獄。或名眞實。或名離諸難。或名覆護。或名善因。或名隨至。或名根。或名離枝。或名無爲。或名無次第。所言苦滅道諦者。或名達無所有。或名一切因。或名善本。或名明至。或名不轉法。或名有盡。或名大道。或名能調伏。或名安隱。或名非流轉

大方廣佛華嚴經卷第五

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

四諦品第四之二

諸佛子。饒益世界如是等四諦名。有四十億百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。諸佛子。如娑婆世界所言苦諦者。於鮮少世界。或名惡逆心。或名不長慧。或名邪念。或名流轉。或名無慙媿。或名貪根。或名熾然。或名刺棘。或名火山。或名憂惱。所言苦集諦者。或名廣地。或名來起。或名遠智。或名衆惱。或名恐怖。或名放逸。或名大失。或名著處。或名無主。或名相續。所言苦滅諦者。或名具足滿。或名甘露。或名非我所。或名無主。或名虛妄斷。或名安樂住。或名無量。或名斷流。或名非趣。或名不二。所名苦滅道諦者。或名光明。或名堅實。或名知深義。或名正業或名非生滅。或名非相續。或名淨導。或名正趣。或名淨方便。或名勝見。諸佛子。鮮少世界如是等四諦名。有四十億百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。諸佛子。如娑婆世界所名苦諦者。於知足世界。或名流轉。或名失利。或名染汙障。或名重擔。或名惡形。或名內惡。或名非專到。或名害處。或名苦惱。所言苦集諦者。或名能持。或名方便。或名過時。或名非實法。或名無底。或名攝受。或名離戒。或名煩惱法。或名無量見。或名惡聚。所言苦滅諦者。或名壞身。或名不放逸。或名眞實。或名等。等或名淸淨。或名離生。或名離曲。或名無相。或名具足。或名不生。所言苦滅道諦者。或名境界言斷。或名功德聚。或名順義。或名廣方便。或名虛妄盡。或名住壽道。或名可稱數。或名正念。或名常道。或名解脫。諸佛子。知足世界如是等四諦名。有四十億百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。諸佛子。如娑婆世界所名苦諦者。於所求世界。或名害。或名坏瓶。或名我所。或名身趣。或名流轉。或名衰主。或名苦。或名輕飄。或名無味。或名來去。所名苦集諦者。或名行。或名憤毒。或名惡行。或名受枝。或名不起疾。或名雜毒。

火三本俱作大

導同作道

等下三本俱無等字

小同作少

方下同有十字

或名虛稱。或名離勝。或名熾然。或名驚駭。所名苦滅諦者。或名非聚。或名非處。或名妙藥。或名不可壞。或名不沒。或名不可量。或名大。或名覺枝。或名離染。或名障礙。所名苦滅道諦者。或名勝行。或名離欲。或名諦究竟。或名入深義。或名實究竟。或名淨現。或名持念。或名離障。或名救濟。或名勝枝。諸佛子。所求世界。如是等四諦名。有四十億百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。諸佛子。如裟婆世界所名苦諦者。於解脫音世界。或名匿疵。或名衆生。或名依枝。或名壞勝。或名障礙。或名駛流。或名遠。或名藏。或名受。或名苦枝。所名苦集諦者。或名過調伏。或名心趣。或名能縛。或名常念。或名彼邊。或名離修。或名虛妄。或名門。或名輕飄。或名隱覆。所言苦滅諦者。或名非處。或名無上勝。或名不還。或名滅諍。或名小。或名無害。或名善住。或名無盡。或名廣。或名無價等。所言苦滅道諦者。或名自見令見。或名摧敵。或名分別印。或名入相。或名難得。或名無量義。或名能起明。或名和合道。或名向不動。或名勝義。諸佛子。解脫音世界如是等四諦名。有四十億百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。諸佛子。如此裟婆世界及十方佛剎說四諦名。如是東方百千億不可量不可數不可思議不可稱無等無邊無分齊不可說虛空法界等一切世界中。說四諦名。各有四十億百千那由他。隨諸衆生所應調伏作如是說。南西北方四維上下亦復如是

大方廣佛華嚴經如來光明覺品第五

爾時世尊。從兩足相輪。放百億光明。偏照三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億拘伽尼。百億鬱單越。百億大海。百億金剛圍山。百億菩薩生。百億菩薩出家。百億佛始成正覺。百億如來轉法輪。百億如來般泥洹。百億須彌山王。百億四天王天。百億三十三天。百億時天。百億兜率陀天。百億化樂天。百億他化樂天。百億梵天。百億光音天。百億偏淨天。百億果實天。百億色究竟天。此世界所有一切悉現。如此見佛坐蓮華藏師子座上。有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶。百億閻浮提亦復如是。以佛神力故。百億閻浮提。皆見十方各有一大菩薩。各與十世界塵數菩薩眷屬俱。來詣佛所。所謂文殊師利菩薩。覺首菩薩。財首菩薩。寶首菩薩。德首菩薩。目首菩薩。精進首

菩薩.法首菩薩.智首菩薩.賢首菩薩.是諸菩薩所從來國.金色世界.樂色.華色.薝蔔華色.青蓮華色.金色.寶色.金剛色.玻瓈色.如實色世界.各於本國佛所.所謂不動智佛.智慧火佛.淨智佛.具威儀智佛.明星智佛.究竟智佛.無上智佛.自在智佛.梵天智佛.伏怨智佛所.淨修梵行.爾時文殊師利.以偈頌曰

若有知正覺　解脫離諸漏　不著一切世　彼非淨道眼
若有知如來　觀察無所有　知法散滅相　彼人疾作佛
能見此世界　一切處無著　如來身亦然　是人疾成佛
若於佛法中　其心隨平等　入不二法門　彼人難思議
若見我及佛　安住平等相　彼住無所住　遠離一切有
色受無有數　想行識亦然　能如是知者　彼是大牟尼
見者無所有　所見法亦無　明了一切法　彼能照世間
一念見諸佛　出現于世間　而實無所起　彼人大名稱
無我無衆生　亦無有敗壞　若轉如是相　彼則無上人
一中解無量　無量中解一　展轉生非實　智者無所畏

如此處文殊師利說偈.一切處亦復如是.爾時光明過此世界.徧照東方十佛國土.南西北方四維上下亦復如是.彼一一世界中.百億閻浮提.乃至百億色究竟天.世界所有一切悉現.如此見佛坐蓮華藏師子座上.有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶.彼一一世界中.百億閻浮提亦復如是.佛神力故.皆見十方各有一代菩薩.各與十世界塵數菩薩眷屬俱.來詣佛所.所謂文殊師利.乃至賢首等.是諸菩薩所從來國.金色世界乃至如實色世界.各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所.淨修梵行.爾時一切處文殊師利.以偈頌曰

見衆生苦逼　癡覆愛欲刺　常求無上道　諸佛法如是
離斷常二邊　見法實不轉　昔所未曾轉　轉此無上輪
不可思議劫　彼弘誓德鎧　爲度生死故　大聖法如是
導師降衆魔　勇健莫能勝　愛語離衆怖　無上慈悲法
內得甚深智　能害諸煩惱　一念見一切　彼自在示現
能擊正法鼓　聲震十方國　令得無上道　自覺法如是
不壞無量境　能遊無數刹　不取一切有　彼自在如佛
無比歡喜念　諸佛常清淨　虛空等如來　彼是具足願
一一衆生故　阿鼻地獄中　無量劫燒煮　心淨如最勝
不惜身壽命　常護諸佛法　具足行忍辱　彼得如來法

爾時光明過十世界。徧照東方百世界。乃至上方亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟天。世界所有一切悉現。如此見佛坐蓮華藏師子座上。有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶。彼一一世界中。百億閻浮提亦復如是。佛神力故。皆見十方各有一大菩薩。各與十世界塵數菩薩眷屬俱。來詣佛所。所謂文殊師利乃至賢首等。是諸菩薩所從來國。金色世界乃至如實色世界。各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所。淨修梵行。爾時一切處文殊師利。以偈頌曰

如來覺諸法　如幻如虛空　心淨無障礙　調伏群生類　或見初生時　妙色如金山　住是最後身
照明如滿月　或見經行時　攝無量功德　念慧善具足　明行人師子　或見明淨眼　觀察照十方
或時見戲笑　衆生樂欲故　或見師子吼　淸淨無比身　示現末後生　所說無非實　或見出家時
解脫一切縛　修習諸佛行　常樂觀寂滅　或見坐道場　善覺一切法　度諸功德岸　癡闇煩惱滅
或見天人尊　具足大悲心　或見轉法輪　度脫諸群生　或見無畏吼　儀容甚微妙　調伏一切世
神力無障礙　或見寂靜心　世間燈永滅　或見十力尊　顯現自在法

爾時光明過百世界。徧照東方千世界。乃至上方亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟天。世界所有一切悉現。如此見佛坐蓮華藏師子座上。有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶。彼一一世界中。百億閻浮提亦復如是。佛神力故。皆見十方各有一大菩薩。各與十世界塵數菩薩眷屬俱。來詣佛所。所謂文殊師利乃至賢首等。是諸菩薩所從來國。金色世界乃至如實色世界。各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所。淨修梵行。爾時一切處文殊師利。以偈頌曰

善逝法甚深　無相亦無有　衆生顚倒故　次第現一切　無有我我所　彼境界空寂　善逝身淸淨
自覺離諸塵　等覺明解脫　無量不可數　無邊世界中　因緣和合起　無諸陰界入　永離生死苦
不在世間數　故號人師子　內外俱解脫　本來常自空　一切離虛妄　諸佛法如是　離愛諸煩惱
長流永不轉　正覺解諸法　度無量衆生　一念不二相　樂觀寂滅法　其心無所著　佛自在無量

善知因緣法　業報及衆生　最勝無礙智　甚深難思議　普見十方界　嚴淨諸佛刹　如來離虛妄
度脫無量衆　佛智如鍊金　一切有非有　隨其所應化　爲說淸淨法

爾時光明過千世界。徧照東方萬世界。乃至上方亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟天。世界所有一切悉現。如此見佛坐蓮華藏師子座上。有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶。彼一一世界中。百億閻浮提亦復如是佛神力故。皆見十方故有一大菩薩。各與十世界塵數菩薩眷屬俱。來詣佛所所謂文殊師利乃至賢首等。是諸菩薩所從來國。金色世界乃至如實色世界。各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所。淨修梵行。爾時一切處文殊師利。以偈頌曰

離諸人天樂　常行大慈心　救護諸群生　是彼淨妙業　一向信如來　其心不退轉　不捨念諸佛
是彼淨妙業　永離生死海　不退佛法流　善住淸涼慧　是彼淨妙業　身四威儀中　觀佛深功德
晝夜常不斷　是彼淨妙業　知三世無量　不生懈怠心　常求佛功德　是彼淨妙業　觀身如實相
一切皆寂滅　離我非我著　是彼淨妙業　觀察衆生心　遠離虛妄想　成就實境界　是彼淨妙業
能稱無量土　悉飮一切海　成就神通智　是彼淨妙業　計數諸佛國　色相非色相　一切盡無餘
是彼淨妙業　無量佛土塵　一塵爲一佛　悉能知其數　是彼淨妙業

爾時光明過萬世界。徧照東方十萬世界。乃至上方亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟天。世界所有一切悉現。如此見佛坐蓮華藏師子座上。有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶。彼一一世界中。百億閻浮提亦復如是。佛神力故。皆見十方各有一大菩薩。各與十世界塵數菩薩眷屬俱。來詣佛所。所謂文殊師利乃至賢首等。是諸菩薩所從來國。金色世界乃至如實色世界。各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所。淨修梵行。爾時一切處文殊師利。以偈頌曰

若以色性大神力　而欲望見調御士　是則翳目顚倒見　彼爲不識最勝法　如來身色形相處
一切世間莫能覩　億那由劫欲思量　妙色威神不可極　非以相好爲如來　無相離相寂滅法

一切具足妙境界　隨其所應悉能現　諸佛正法不可量　無能分別說其相　諸佛正法無合散
其性本來常寂滅　不以陰數爲如來　遠離取相眞實觀　得自在力決定見　言語道斷行處滅
等觀身心無異相　一切內外悉解脫　無量億劫不二念　善逝深遠無所著
普放妙光明　徧照世境界　淨眼一切智　自在深廣義　一能爲無量　無量能爲一　知諸衆生性
隨順一切處　身無所從來　去亦無所至　虛妄非眞實　現有種種身　一切諸世間　皆從妄想生
是諸妄想法　其性未曾有　如是眞實相　唯佛能究竟　若能如是知　是則見導師

爾時光明過十萬世界.徧照東方百萬世界.乃至上方亦復如是.彼一一世界中.百億閻浮提.乃至百億色究竟天.世界所有一切悉現.如此見佛坐蓮華藏師子座上.有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶.彼一一世界中.百億閻浮提亦復如是.佛神力故.皆見十方各有一大菩薩.各與十世界塵數菩薩眷屬俱.來詣佛所.所謂文殊師利乃至賢首等.是諸菩薩所從來國.金色世界乃至如實色世界.各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所.淨修梵行.爾時一切處文殊師利.以偈頌曰

最勝自覺超世間　無依殊特莫能勝　大仙化度一切有　是足淨妙諸功德　其心無染無處所
常住無想亦無依　永處吉祥無能毀　威德尊重大導師　從本淨明滅衆冥　永離諸染無塵穢
寂然不動離邊想　是名善人如來智　欲入善逝深法海　遠離身心虛妄想　解了諸法眞實性
永不隨順疑惑心　一切世界如來境　悉能爲轉正法輪　於法自性無所轉　無上導師方便說
曉了諸法無疑惑　有無妄想永已離　不生差別種種念　正意思惟佛菩提　諦了分別諸法時
無有自性假名說　隨順諸佛眞實教　法非一相亦不多　衆多法中無一相　於一法中亦無多
若能如是了諸法　是知諸佛無量德　觀察諸法及衆生　國土世間悉寂滅　心無所依不妄想
是名正念佛菩提　衆生諸法及國土　分別了知無差別　善能觀察如自性　是則了知佛法義

爾時光明過百萬世界.徧照東方一億世界.乃至上方亦復如是.彼一一世界中.百億閻浮提.乃至百億色究竟

其明作是
至同作是

天.世界所有一切悉現.如此見佛坐蓮華藏師子座上.有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶.彼一一世界中.百億閻浮提亦復如是.佛神力故.皆見十方各有一大菩薩.各與十世界塵數菩薩眷屬俱.來詣佛所.所謂文殊師利乃至賢首等.是諸菩薩所從來國.金色世界乃至如實色世界.各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所.淨修梵行.爾時一切處文殊師利.以偈頌曰

大智無有量　妙法無倫匹　究竟能度彼　生死大海岸　壽命無終極　永已離熾然　彼成大功德
是則方便力　於諸佛深法　隨覺如自性　常觀三世法　不生止足想　了達所緣境　未曾起妄想
彼樂不思議　是則方便力　常樂觀衆生　而無衆生想　示現有身趣　永離諸趣想　內常樂禪寂
而無繫心想　彼心無所著　是則方便力　方便善觀察　諦了諸法相　專念正思惟　常行涅槃性
樂於解脫道　具足平等慧　彼住寂滅法　是則方便力　隨順調御士　最勝佛菩提　攝取一切智
廣大如法性　善入眞實諦　教化諸群生　彼成最勝意　是則方便力　佛說深法義　悉能隨順知
入深廣智慧　滅除諸障礙　一切至處道　是處悉能到　行是自覺道　是則方便力　心猶虛空界
亦如變化法　一切所依性　是相則非相　行於涅槃性　猶若虛空相　能到深妙境　是則方便力
常記念晝夜　晦朔日月數　年歲時劫分　亦隨觀察知　一切諸世界　始終成敗相　悉能諦了知
是則方便力　一切群萌類　隨業受生死　有色及無色　有想亦非想　彼彼姓名號　所趣諦了知
得此不思議　是則方便力　一切過去世　未來現在法　隨順佛所說　善念諦觀察　覺三世平等
如其眞實相　是諸深妙道　無比方便力

爾時光明過一億世界.偏照東方十億世界.乃至上方亦復如是.彼一一世界中.百億閻浮提.乃至百億色究竟天.世界所有一切悉現.如此見佛坐蓮華藏師子座上.有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶.彼一一世界中.百億閻浮提亦復如是.佛神力故.皆見十方各有一大菩薩.各與十世界塵數菩薩眷屬俱.來詣佛所.所謂文殊師利乃至賢首等.是諸菩薩所從來國.金色世界乃至如實色世界.各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所.淨修梵行.爾

悉當三本俱作當悉

惸宋元俱作焭明作煢

覺三本俱作學

時一切處文殊師利。以偈頌曰

受持難行法　堅固不退轉　日夜常精進　未曾起疲厭　已度難度海　大音師子吼　一切衆生類
我今悉當度　漂浪生死流　沈淪愛欲海　癡惑結重網　昏冥大怖畏　離慢堅固士　是能悉除斷
超勇成世雄　是則佛境界　世間諸放逸　長迷醉五欲　非實興妄想　永爲大苦障　勤修不放逸
奉行諸佛法　大誓能度彼　是則佛境界　慧者滅本際　無量難見劫　衆生依吾我　無窮生死轉
令入寂滅法　奉行最勝教　誓宣此妙法　是則佛境界　見彼苦衆生　孤惸無救護　永淪諸惡趣
三毒恒熾然　無間無救處　晝夜常火焚　誓度斯等苦　是則佛境界　迷惑失正路　習行諸邪徑
見彼群生類　長處大闇冥　爲現智慧燈　令見諸佛法　誓能爲照明　是則佛境界　一切三有海
深廣無涯底　見彼群生類　漂溺莫能濟　爲彼勤方便　興造正法船　普拯所應度　是則佛境界
無有本實見　常依無明住　沈沒生死淵　愚癡心迷亂　慧者見斯苦　爲之設法橋　大悲演說法
是則佛境界　見彼生死獄　楚毒難可量　長夜老病死　三苦競侵逼　自覺深妙法　專修方便慧
誓度斯等苦　是則佛境界　聞佛甚深法　信心無疑惑　周滿十方刹　普行諸法界　觀察空寂法
其心無恐怖　現同一切身　是則天人師

爾時光明過十億世界。偏照東方百億世界。千億世界。百千億世界。億那由他世界。百億那由他世界。千億那由他。百千億那由他。不可量不可數不可思議不可稱無等無邊無分齊不可說虛空法界等一切世界。乃至上方亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟天。世界所有一切悉現。如此見佛坐蓮華藏師子座上。有十佛世界塵數菩薩眷屬圍遶。彼一一世界中。百億閻浮提亦復如是。佛神力故。皆見十方各有一大菩薩。各與十世界塵數菩薩眷屬俱。來詣佛所。所謂文殊師利乃至賢首等。是諸菩薩所從來國。金色世界乃至如實色世界。各於本國不動智佛乃至伏怨智佛所。淨修梵行。爾時一切處文殊師利。以偈頌曰

無量無數劫　一念悉觀察　無來亦無去　現在亦不住　一切生滅法　悉知眞實相　超度方便岸

皆悉三本俱作悉皆

現同作見

著同作有

三本俱以菩薩明難品爲卷第六

具足十種力　無等大名稱　普徧十方剎　永離生死難　究竟一切法　皆悉能徧至　一切諸世界
具足能敷演　淸淨微妙法　普爲衆生類　正心奉諸佛　是故獲直心　眞實淨依果　隨順分別知
了達如如相　得佛自在力　十方靡不現　從始供養佛　樂行忍辱法　能入深禪定　觀察眞實義
悉令一切衆　歡喜向如來　菩薩行是法　速逮無上道　能問十方佛　其心常湛然　信佛不退轉
威儀悉具足　一切有無法　了達非有無　如是正觀察　能見眞實佛　無量淨樂心　境界滿十方
一切國土中　能說眞實義　滅除衆垢難　安住平等法　若能如是化　斯人等如來　聞佛妙音聲
逮得無上法　常轉淨法輪　甚深難知見　最勝所說法　具足七覺義　如是無上觀　常見諸佛身
不見如來空　寂滅猶幻化　雖見無所見　如盲對五色　虛妄取相者　是人不見佛　一切無所著
乃見眞如來　衆生種種業　難可分別知　十方內外身　種種無量色　佛身亦如是　一切滿十方
難知能知者　彼是大導師　譬如無量剎　依止虛空住　不從十方來　去亦無所至　世界若成敗
本來無所依　佛身亦如是　充滿虛空界

大方廣佛華嚴經菩薩明難品第六

爾時文殊師利菩薩。問覺首菩薩言。佛子。心性是一。云何能生種種果報。或至善趣。或至惡趣。或具諸根或不具者。或生善處。或生惡處。端正醜陋苦樂不同。業不知心。心不知業。受不知報。報不知受。心不知受。受不知心。因不知緣。緣不知因。智不知法。法不知智。爾時覺首菩薩。以偈答曰

為化衆生故　乃能問斯義　諸法如實性　我說仁諦聽　諸法不自在　求實不可得　是故一切法
二俱不相知　譬如駛水流　流流無絕已　二俱不相知　諸法亦如是　亦如明燈燄　燄燄不暫停
二俱不相知　諸法亦如是　亦如長風起　鼓拂生動勢　二俱不相知　諸法亦如是　亦如深廣地
展轉相依住　二俱不相知　諸法亦如是　眼耳鼻舌身　心意諸情根　因此轉衆苦　而實無所轉

言三本作作曰

𣪠三本俱作聲

法性無所轉　示現故有轉　於彼無示現　示現無所有　眼耳鼻舌身　心意諸情根　其性悉空寂
虛妄無眞實　觀察正思惟　有者無所有　彼見不顚倒　法眼淸淨故　虛妄非虛妄　若實若不實
世間出世間　但有假言說

爾時文殊師利菩薩.問財首菩薩言.佛子.一切衆生非衆生.如來云何隨衆生時.隨命.隨身.隨行.隨欲樂.隨願.隨意.隨方便.隨思惟.隨籌量.隨衆生見.而敎化之.爾時財首菩薩.以偈答曰

明智心境界　常樂寂滅行　我今如實說　仁者善諦聽　分別觀內身　我身何所有　若能如是觀
彼達我有無　觀身一切分　無所依止住　諦了是身者　於身無所著　能解身如實　明達一切法
知法悉虛妄　其心無所染　身命相隨順　展轉更相因　猶如旋火輪　前後不可知　智者能觀察
一切有無常　諸法空無我　則離一切相　因緣所起業　無我猶如夢　果報性寂滅　前後無異相
一切世間法　唯以心爲主　隨樂取相者　皆悉是顚倒　世間所有法　一切悉虛妄　不能解諸法
眞實無有二　一切生滅法　皆悉從緣起　念念速歸滅　終始無異相

爾時文殊師利.問寶首菩薩言.佛子.一切衆生四大.悉非我非我所.云何衆生.或受苦受樂.或作惡作善.或內端正.或外端正.或受少報或受多報.或有現報或有後報.然諸法性無善無惡.爾時寶首菩薩.以偈答言

隨所行諸業　受果報亦然　造者無所有　諸佛如是說　猶如明淨鏡　隨其面像現　內外無所有
業性亦如是　亦如田種子　各各不相知　自然能作因　業性亦如是　亦如大幻師　在彼四衢道
示現種種色　業性亦如是　如匠造木人　能出種種聲　彼無我非我　業性亦如是　亦如衆鳥類
出𣪠音不同　能作種種聲　業性亦如是　如親因緣會　受生無來者　諸根各別異　業性亦如是
如大地獄中　衆生受苦惱　苦惱無來處　業性亦如是　亦如轉輪王　成就勝七寶　彼無所從來
業性亦如是　亦如諸世界　有成或有敗　成敗無來去　業性亦如是

爾時文殊師利.問德首菩薩言.佛子.如來唯覺一法.云何乃說無量諸法.音聲徧滿無量世界.悉能敎化無量衆

曀同作翳

生。出無量聲現無量身。了知無量衆生心意。示現無量神足自在。示現無量無邊世界。示現無量殊勝莊嚴。示現無量種種境界。而法性分別實不可得。爾時德首菩薩。以偈答曰

佛子乃能問　甚深微妙義　智者若知此　常樂求功德　猶如地性一　能持種種物　不分別一異
諸佛法如是　猶如火性一　能燒世間物　火性無分別　諸佛法如是　猶如大海水　注以百川流
其味無別異　諸佛法如是　猶如風性一　吹動一切物　風性無分別　諸佛法如是　猶如龍雷震
普雨一切地　雨渧無分別　諸佛法如是　猶如大地一　能生種種芽　地性無別異　諸佛法如是
猶日無雲曀　普能照十方　光明無異性　諸佛法如是　猶如空中月　世間靡不見　非至一切處
諸佛法如是　猶如大梵王　普應現大千　其身無別異　諸佛法如是

爾時文殊師利。問目首菩薩言。佛子。如來福田等一無異。云何布施果報不同。有種種色。種種性。種種家。種種根。種種財。種種奇特。種種眷屬。種種自在。種種功德。種種慧。如來平等無有怨親。爾時目首菩薩。以偈答曰

譬如大地一　能生種種芽　於彼無怨親　佛福田亦然　譬如水一味　因器故不同　諸佛福田一
衆生故有異　譬如大幻師　能令衆歡喜　諸佛聖福田　隨願令忻悅　譬如辯才王　能令衆歡喜
諸佛聖福田　令衆生悅樂　譬如明淨鏡　隨對現衆像　諸佛聖福田　衆生故有異　譬如大藥王
消滅一切毒　諸佛聖福田　能滅煩惱患　譬如日出時　能除一切闇　諸佛聖福田　普照十方界
譬如淨滿月　普照四天下　諸佛聖福田　平等無偏黨　譬如毗嵐風　震動一切地　諸佛聖福田
能動三界有　譬如火劫起　天地靡不燒　諸佛聖福田　能燒一切有

爾時文殊師利。問進首菩薩言。佛子。衆生爲見如來教斷諸煩惱耶。爲知色受想行識欲界色界無色界癡愛。斷諸煩惱耶。若知色受想行識欲界色界無色界癡愛。斷諸煩惱者。如來教法何所增損。爾時進首菩薩。以偈答曰

佛子善諦聽　我說如實義　或有速出要　或有難解脫　若欲求除滅　無量諸過惡　應當一切時
勇猛大精進　譬如微小火　樵濕則能滅　於佛教法中　懈怠者亦然　譬如人鑽火　未出數休息

愛三本俱作受
肴膳同作餚饌
學同作樂
度同作渡
讚下同無歎字
御三本俱作禦

火勢隨止滅　懈怠者亦然　譬如淨火珠　離緣而求火　畢竟不可得　懈怠者亦然　譬如明淨日
閉目求見色　於佛教法中　懈怠者亦然　譬人無手足　欲射過大地　永不從彼意　懈怠者亦然
譬如大海水　一毛渧求盡　於佛教法中　懈怠者亦然　譬如火劫起　欲以少水滅　於佛教法中
懈怠者亦然　譬人見虛空　便言我身滿　於佛教法中　懈怠者亦然

爾時文殊師利.問法首菩薩言.佛子.如佛所說.聞受法者能斷煩惱.云何衆生等聞正法而不能斷.隨婬怒癡.隨慢.隨愛.隨恚.隨慳嫉.隨恨.隨諂曲.是諸垢法悉不離心.心無所行能斷結使.爾時法首菩薩.以偈答曰

佛子善諦聽　所問如實義　非但積多聞　能入如來法　譬人水所漂　懼溺而渴死　不能如說行
多聞亦如是　譬人大惠施　種種諸肴膳　不食自餓死　多聞亦如是　譬如有良醫　具知諸方藥
自疾不能救　多聞亦如是　譬如貧窮人　日夜數他寶　自無半錢分　多聞亦如是　譬如帝王子
應受無極樂　業障故貧苦　多聞亦如是　譬如聾瞶人　善奏諸音聲　悅彼不自聞　多聞亦如是
譬如盲瞽人　本習故能畫　示彼不自見　多聞亦如是　譬如海導師　能度無量衆　拯彼不自濟
多聞亦如是　譬人處大衆　善說勝妙事　內自無實德　多聞亦如是

爾時文殊師利.問智首菩薩言.佛子.於佛法中智慧爲首.如來何故.或爲衆生.讚歎檀波羅蜜尸波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜慈悲喜捨.此一一法.皆不能得無上菩提.爾時智首菩薩.以偈答曰

難知而能知　隨順衆生心　佛子所問義　諦聽我今說　過去未來世　現在諸導師　未曾以一法
得成無上道　如來知衆生　本性所修習　善順應度者　爲說淨妙法　慳者讚布施　毀禁讚持戒
瞋恚讚忍辱　懈怠讚精進　亂意讚禪定　愚癡讚智慧　不仁讚慈愍　怒害讚大悲　憂慼爲讚喜
憎愛爲讚捨　如是修習者　漸解一切法　譬如造宮室　起基令堅固　施戒亦如是　菩薩衆行本
譬如牢堅城　防御諸敵難　忍進亦如是　防護諸菩薩　譬如大力王　威德定天下　禪智亦如是
安隱諸菩薩　譬如轉輪王　具受一切樂　四等亦如是　安隱諸菩薩

爾時文殊師利問賢首菩薩言。佛子。一切諸佛。唯以一乘得出生死。云何今見一切佛刹。事事不同。所謂世界衆生。說法敎化。壽命光明。神力衆會。佛法法住。如是等事皆悉不同。無有不具一切佛法。而能成就無上菩提。爾時賢首菩薩。以偈答曰

文殊法常爾　法王唯一法　一切無礙人　一道出生死　一切諸佛身　唯是一法身　一心一智慧

力無畏亦然　隨衆生本行　求無上菩提　佛刹及衆會　說法悉不同　一切諸佛刹　平等普嚴淨

衆生業行異　所見各不同　諸佛及佛法　衆生莫能見　佛刹法身衆　說法亦如是　本行廣淸淨

具足一切願　彼人見眞實　明達知見者　隨順衆生欲　諸業及果報　各令見眞實　佛力自在故

佛刹無異相　如來無憎愛　隨彼衆生行　自得如是見　非是一切佛　安住導師咎　無量諸世界

示現見不同　一切諸世界　所應受化者　常見人中雄　諸佛法如是

爾時諸菩薩。謂文殊師利言。佛子。我等所解各各已說。仁者辯才深入。次應敷演。何等是佛境界。何等是佛境界因。何等是佛境界所入。何等是佛境界所度。何等是佛境界隨順知。何等是佛境界隨順法。何等是佛境界分別知。何等是識佛境界。何等是決定知佛境界何等是佛境界照。何等是佛境界廣。爾時文殊師利以偈答曰

如來深境界　其量齋虛空　一切衆生入　眞實無所入　如來境界因　唯佛能分別　自餘無量劫

演說不可盡　隨順衆生故　普入諸世間　智慧常寂然　不同世所見　度脫諸群生　隨順其心智

宣暢無窮盡　唯是佛境界　如來一切智　三世無障礙　諸佛妙境界　皆悉如虛空　法界無異相

隨順衆生說　若欲具分別　唯佛之境界　一切諸世間　無量衆音聲　隨時悉了知　其實無分別

非識所能識　亦非心境界　自性眞淸淨　能示諸群生　非業非煩惱　寂滅無所住　無明無所行

平等行世間　一切衆生心　普在三世中　如來於一念　一切悉明達

爾時此娑婆世界衆生。佛神力故。見此佛刹一切衆生。如所行法。如所行業。如世間行。隨身所行。隨根所行。隨其行報所生之處。持戒毀禁說法果報。如是世界中事一切悉見。如是東方百千億世界。不可量不可數不可思議

間同作界

報三本俱作行

不可稱無等無邊無分齊不可說虛空法界等一切世界．乃至說法果報一切悉見．南西北方四維上下．亦復如是

大方廣佛華嚴經卷第五

大方廣佛華嚴經卷第六

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

淨行品第七

爾時智首菩薩。問文殊師利言。佛子。云何菩薩不染身口意業。不害身口意業。不癡身口意業。不退轉身口意業。不動身口意業。應讚歎身口意業。清淨身口意業。離煩惱身口意業。隨智慧身口意業。云何菩薩生處成就。姓成就。家成就。色相成就。念成就。智慧成就。趣成就。無畏成就。覺悟成就。云何菩薩第一智慧。最上智慧。勝智慧。最勝智慧。不可量智慧。不可數智慧。不可思議智慧。不可稱智慧。不可說智慧。云何菩薩因力具足。意力具足。方便力具足。緣力具足。境界力具足。根力具足。止觀力具足。定力具足。云何菩薩善知陰界入。善知緣起法。善知欲色無色界。善知過去未來現在。云何菩薩修七覺意。修空無相無作。云何菩薩滿足檀波羅蜜尸波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜慈悲喜捨。云何菩薩得是處非處智力。過去未來現在業報智力。種種諸根智力。種種性智力。種種欲智力。一切至處道智力。禪定解脫三昧垢淨智力。宿命無礙智力。天眼無礙智力。斷一切煩惱習氣智力。云何菩薩常爲諸天王守護恭敬供養。龍王。鬼神王。乾闥婆王。阿脩羅王。迦樓羅王。緊那羅王。摩睺羅伽王。人王梵天王等守護恭敬供養。云何菩薩爲衆生舍。爲救爲歸爲趣。爲炬爲明爲燈。爲導爲無上導。云何菩薩。於一切衆生。爲第一爲大爲勝。爲上爲無上。爲無等爲無等等。爾時文殊師利。答智首菩薩曰。善哉善哉。佛子。多所饒益多所安隱。哀愍世間惠利一切安樂天人。問如是義。佛子。菩薩成就身口意業。能得一切勝妙功德。於佛正法心無罣礙。去來今佛所轉法輪。能隨順轉不捨衆生。明達實相。斷一切惡具足衆善。色像第一。悉如普賢大菩薩等。成就如來一切種智。於一切法悉得自在。而爲衆生第二尊導。佛子。何等身口意業。能得一

離三本俱作去
處同作會
深入同作入深

切勝妙功德

菩薩在家　當願衆生　捨離家難　入空法中　孝事父母　當願衆生　一切護養　永得大安
妻子集會　當願衆生　令出愛獄　無戀慕心　若得五欲　當願衆生　捨離貪惑　功德具足
若在妓樂　當願衆生　悉得法樂　見法如幻　若在房室　當願衆生　入賢聖地　永離欲穢
著寶瓔珞　當願衆生　捨離重擔　度有無岸　若上樓閣　當願衆生　昇佛法堂　得微妙法
布施所珍　當願衆生　悉捨一切　心無貪著　若在聚會　當願衆生　究竟解脫　到如來處
若在危難　當願衆生　隨意自在　無所罣礙　以信捨家　當願衆生　棄捨世業　心無所著
若入僧坊　當願衆生　一切和合　心無限礙　詣大小師　當願衆生　開方便門　深入法要
求出家法　當願衆生　得不退轉　心無障礙　脫去俗服　當願衆生　解道修德　無復懈怠
除剃鬚髮　當願衆生　斷除煩惱　究竟寂滅　受著袈裟　當願衆生　捨離三毒　心得歡喜
受出家法　當願衆生　如佛出家　開導一切　自歸於佛　當願衆生　體解大道　發無上意
自歸於法　當願衆生　深入經藏　智慧如海　自歸於僧　當願衆生　統理大衆　一切無礙
受持淨戒　當願衆生　具足修習　學一切戒　受行道禁　當願衆生　具足道戒　修如實業
始請和尚　當願衆生　得無生智　到於彼岸　受具足戒　當願衆生　得勝妙法　成就方便
若入房舍　當願衆生　昇無上堂　得不退法　若敷牀座　當願衆生　敷善法座　見眞實相
正身端坐　當願衆生　坐佛道樹　心無所倚　結跏趺坐　當願衆生　善根堅固　得不動地
三昧正受　當願衆生　向三昧門　得究竟定　觀察諸法　當願衆生　見法眞實　無所罣礙
捨跏趺坐　當願衆生　知諸行性　悉歸散滅　下牀安足　當願衆生　履踐聖跡　不動解脫
始舉足時　當願衆生　越度生死　善法滿足　被著衣裳　當願衆生　服諸善根　每知慚愧
整服結帶　當願衆生　自檢修道　不壞善法　次著上衣　當願衆生　得上善根　究竟勝法

著僧伽梨 當願衆生 大慈覆護 得不動法 手執楊枝 當願衆生 心得正法 自然清淨
晨嚼楊枝 當願衆生 得調伏牙 噬諸煩惱 左右便利 當願衆生 蠲除汙穢 無婬怒癡
已而就水 當願衆生 向無上道 得出世法 以水滌穢 當願衆生 具足淨忍 畢竟無垢
以水盥掌 當願衆生 得上妙手 受持佛法 澡漱口齒 當願衆生 向淨法門 究竟解脫
手執錫杖 當願衆生 設淨施會 見道如實 擎持應器 當願衆生 成就法器 受天人供
發趾向道 當願衆生 趣佛菩提 究竟解脫 若已在道 當願衆生 成就佛道 無餘所|行
涉路而行 當願衆生 履淨法界 心無障礙 見趣高路 當願衆生 昇無上道 超出三界
見趣下路 當願衆生 謙下柔輭 入佛深法 若見險路 當願衆生 棄捐惡道 滅除邪見
若見直路 當願衆生 得中正意 身口無曲 見道揚塵 當願衆生 永離塵穢 畢竟清淨
見道無塵 當願衆生 大悲所薰 心意柔潤 見深阬澗 當願衆生 向正法界 滅除諸難
見聽|訟堂 當願衆生 說甚深法 一切和合 若見大樹 當願衆生 離我諍心 無有忿恨
若見叢林 當願衆生 一切敬禮 天人師仰 若見高山 當願衆生 得無上善 莫能見頂
若見刺棘 當願衆生 拔三毒刺 無賊害心 見樹茂葉 當願衆生 以道自蔭 入禪三昧
見樹好華 當願衆生 開淨如華 相好滿具 見樹豐果 當願衆生 起道樹行 成無上果
見諸流水 當願衆生 得正法流 入佛智海 若見陂水 當願衆生 悉得諸佛 不壞正法
若見浴池 當願衆生 入佛海|智 問答無窮 見人汲井 當願衆生 得如來辯 不可窮盡
若見泉水 當願衆生 善根無盡 境界無上 見山澗水 當願衆生 洗濯塵垢 意解清淨
若見橋梁 當願衆生 興造法橋 度人不休 見脩園圃 當願衆生 耘除穢惡 不生欲根
見無憂林 當願衆生 心得歡喜 永除憂惱 見好園地 當願衆生 勤修衆善 具足菩提
見嚴飾人 當願衆生 三十二相 而自莊嚴 見素服人 當願衆生 究竟得到 頭陀彼岸

行三本俱作求
訟同作誦
智同作音

耄三本俱作耗

得同作淨

意同作志

見志樂人　當願衆生　清淨法樂　以道自娛　見愁憂人　當願衆生　於有爲法　心生厭離
見歡樂人　當願衆生　得無上樂　憺怕無患　見苦惱人　當願衆生　滅除衆苦　得佛智慧
見強健人　當願衆生　得金剛身　無有衰耄　見疾病人　當願衆生　知身空寂　解脫衆苦
見端正人　當願衆生　歡喜恭敬　諸佛菩薩　見醜陋人　當願衆生　遠離鄙惡　以善自嚴
見報恩人　當願衆生　常念諸佛　菩薩恩德　見背恩人　當願衆生　常見賢聖　不作衆惡
若見沙門　當願衆生　寂靜調伏　究竟無餘　見婆羅門　當願衆生　得眞清淨　離一切惡
若見仙人　當願衆生　向正眞道　究竟解脫　見苦行人　當願衆生　堅固精勤　不退佛道
見著甲冑　當願衆生　誓服法鎧　得無師法　見無鎧仗　當願衆生　遠離衆惡　親近善法
見論議人　當願衆生　得無上辯　摧伏外道　見正命人　當願衆生　得清淨命　威儀不異
若見帝王　當願衆生　逮得法王　轉無礙輪　見帝王子　當願衆生　履佛子行　化生法中
若見長者　當願衆生　永離愛欲　深解佛法　若見大臣　當願衆生　常得正念　修行衆善
若見城郭　當願衆生　得金剛身　心不可沮　若見王都　當願衆生　明達遠照　功德自在
若見妙色　當願衆生　得上妙色　天人讚歎　入里乞食　當願衆生　入深法界　心無障礙
到人門戶　當願衆生　入總持門　見諸佛法　入人堂室　當願衆生　入一佛乘　明達三世
遇難持戒　當願衆生　不捨衆善　永度彼岸　見捨戒人　當願衆生　超出衆難　度三惡道
若見空鉢　當願衆生　其心清淨　空無煩惱　若見滿鉢　當願衆生　具足成滿　一切善法
若得食時　當願衆生　爲法供養　志在佛道　若不得食　當願衆生　遠離一切　諸不善行
見慚愧人　當願衆生　慚愧正行　調伏諸根　見無慚愧　當願衆生　離無慚愧　普行大慈
得香美食　當願衆生　知節少欲　情無所著　得不美食　當願衆生　具足成滿　無願三昧
得柔軟食　當願衆生　大悲所熏　心意柔軟　得麁澀食　當願衆生　永得遠離　世間愛味

若嚥食時　當願衆生　禪悅爲食　法喜充滿　所食雜味　當願衆生　得佛上味　化成甘露
飯食已訖　當願衆生　德行充盈　成十種力　若說法時　當願衆生　得無盡辯　深達佛法
退坐出堂　當願衆生　深入佛智　永出三界　若入水時　當願衆生　深入佛道　等達三世
澡浴身體　當願衆生　身心無垢　光明無量　盛暑燄熾　當願衆生　離煩惱熱　得清涼定
隆寒冰結　當願衆生　究竟解脫　無上清涼　諷誦經典　當願衆生　得總持門　攝一切法
若見如來　當願衆生　悉得佛眼　見諸最勝　諦觀如來　當願衆生　悉覩十方　端正如佛
見佛塔廟　當願衆生　尊重如塔　受天人敬　敬心觀塔　當願衆生　尊重如佛　天人宗仰
頂禮佛塔　當願衆生　得道如佛　無能見頂　右遶塔廟　當願衆生　履行正路　究暢道意
遶塔三帀　當願衆生　得一向意　勤求佛道　讚詠如來　當願衆生　廣功德岸　歎無窮盡
讚佛相好　當願衆生　光明神德　如佛法身　若洗足時　當願衆生　得四神足　究竟解脫
昏夜寢息　當願衆生　休息諸行　心淨無穢　晨朝覺寤　當願衆生　一切知覺　不捨十方

佛子．是爲菩薩身口意業．能得一切勝妙功德．諸天魔梵沙門婆羅門人及非人聲聞緣覺所不能動．

嚥同作咽

大方廣佛華嚴經賢首菩薩品第八之一

爾時文殊師利．以偈問了達深義淨德．賢首菩薩曰

佛子我已說　菩薩清淨行　一切諸世尊　咸共所讚歎　又諸大士衆　甚深微妙行　功德廣大義
仁者應演說　賢首菩薩答　佛子善諦聽　菩薩諸功德　無量無有邊　我當隨力說　菩薩少功德
我之所演暢　如海一微渧　菩薩於生死　最初發心時　一向求菩提　堅固不可動　彼一念功德
深廣無邊際　如來分別說　窮劫猶不盡　何況於無量　無數無邊劫　具足修諸度　諸地功德行
十方世界中　一切諸如來　說彼功德雲　亦不能究竟　今我說菩薩　功德中少分　如鳥履虛空

提三本俱作薩

如地一微塵　非是無所因　又亦非無緣　菩薩初發意　直心大功德　於佛及法僧　深起清淨信
信敬三寶故　能發菩提心　不求五欲樂　寶貨諸財利　亦不求自安　希望世名聞　滅除衆生苦
令盡無有餘　誓度斯等類　菩薩初發心　常欲令衆生　離苦求安樂　嚴淨一切刹　供養無量佛
樂立佛正法　欲得無上道　淨修一切智　菩薩初發心

深心淨信不可壞　恭敬供養一切佛　尊重正法及聖僧　信敬三寶故發心　深信諸佛及正法
亦信菩薩所行道　正心信向佛菩提　菩薩因是初發心　信爲道元功德母　增長一切諸善法
除滅一切諸疑惑　示現開發無上道　淨信離垢心堅固　滅除憍慢恭敬本　信是寶藏第一法
爲清淨手受衆行　信捨能離諸染著　信解微妙甚深法　信能轉勝成衆善　究竟必至如來處
清淨明和諸善根　信力堅固不可壞　信永除滅一切惡　信能逮得無師寶　信於法門無障礙
捨離八難得無難　信能超出衆魔境　示現無上解脫道　一切功德不壞種　出生無上菩提樹
長養最勝智慧門　信能示現一切佛　是故演說次第行　信樂最勝甚難得　譬如靈瑞優曇華
亦如隨意妙寶珠　若信恭敬一切佛　則持淨戒順正教　若持淨戒順正教　諸佛賢聖所讚歎
戒是無上菩提本　應當具足持淨戒　若能具足持淨戒　一切如來所讚歎　若信恭敬一切佛
則能奇特供最勝　若能奇特供最勝　彼信佛心難思議　若信如來正眞法　則常樂聞無厭足
若樂聞法無厭足　欣悟不可思議法　若信恭敬清淨僧　則信堅固不可壞　若信堅固不可壞
彼人信力不可動　若信堅固不可動　諸根明利悉清淨　若根明利悉清淨　則離一切惡知識
若能遠離惡知識　則能親近善知識　若能親近善知識　則修無量諸功德　若能廣修諸功德
則能善解諸因果　若能善解諸因果　則成殊勝妙解脫　若成殊勝妙解脫　則爲一切佛所護
若爲一切佛所護　則生無上菩提心　若生無上菩提心　則能勤修佛功德　若能勤修佛功德
則能得生諸佛家　若能得生諸佛家　則於諸法無所著　若於諸法無所著　則得深心妙清淨

能同作修

坐宋明俱作座

若得深心妙清淨　則得殊勝無上心　若得無上殊勝心　則修一切波羅蜜　若修一切波羅蜜
則能具足摩訶衍　若能具足摩訶衍　則法供養一切佛　若法供養一切佛　則念佛定不可壞
若念佛定不可壞　則常覩見十方佛　若常覩見十方佛　則知如來常安住　若知如來常安住
則於其人法永存　若於其人法永存　則得辯才無窮盡　若得辯才無窮盡　則能演說無量法
若能演說無量法　則能度脫一切衆　若能度脫一切衆　則得大悲心堅固　若得大悲心堅固
則常喜樂甚深法　若能喜樂甚深法　則能捨離有爲過　若能捨離有爲過　則離我慢諸放逸
若離我慢諸放逸　則能兼利一切衆　若能兼利一切衆　則處生死無憂慼　若處生死無憂慼
則能精進無有上　若能精進無有上　則得一切諸神通　若得一切諸神通　則解一切衆生行
若解一切衆生行　則能成就諸衆生　若能成就諸衆生　則得成就衆生智　若得成就衆生智
則能具足四攝法　若能具足四攝法　則與衆生無量利　若與衆生無量利　則能具足方便慧
若能具足方便慧　則能安住無上道　若能安住無上道　則一切魔不能壞　若一切魔不能壞
則能超出四魔道　若能超出四魔道　則至堅固不動地　若至堅固不動地　則得無生深法忍
若得無生深法忍　則爲諸佛所授記　若爲諸佛所授記　則常普現諸佛前　若常普現諸佛前
則解諸佛微密教　若解諸佛微密教　則爲諸佛常護念　若爲諸佛常護念　以佛功德自莊嚴
若佛功德自莊嚴　則得無量功德身　若得無量功德身　其身顯耀如金山　若身顯耀如金山
具足衆相三十二　若具衆相三十二　八十種好自莊嚴　八十種好自莊嚴　其身光明無有量
若身光明無有量　光明莊嚴難思議　若光莊嚴難思議　則出無量寶蓮華　若出無量寶蓮華
一一華坐無量佛　普現十方無量刹　教化度脫一切衆　若能度脫一切衆　則得無量自在力
若得無量自在力　則能嚴淨諸佛刹　解說甚深微妙法　不可思議衆歡喜　若說微妙甚深法
不可思議衆歡喜　則能具足四辯力　自在能度一切衆　若能具足四辯力　自在能度一切衆

實三本俱作寶次亦同

授三本俱作受

三本俱入微塵數以下爲卷第七賢首菩薩品第八之二〇入微塵數同作或入微塵

彼人智慧常在前 身口意業無錯謬 彼人願力得自在 隨衆所宜現其身 若彼願力得自在
隨衆所宜現其身 爲諸衆生說法時 音聲微妙難思議 若爲衆生說法時 音聲微妙難思議
於彼一切衆生類 一念之中悉知心 若彼一切衆生類 一念之中悉知心 其人生死永無餘
寂滅一切煩惱患 若人生死永無餘 寂滅一切煩惱患 法身功德智慧具 深解一切諸法實
若身功德智慧具 深解一切諸法實 十地十種自在力 皆悉究竟勝解脫 若十地種自在力
皆悉究竟得解脫 授記莊嚴悉具足 無量法門得自在 若記莊嚴悉具足 無量法門得自在
盡爲一切十方佛 皆與授記無有餘 若爲一切十方佛 皆與授記無有餘 甘露法水灌其頂
十方諸佛授記竟 若甘露水灌其頂 十方諸佛授記竟 法身充滿徧虛空 安住不動十方界
若身充滿徧虛空 安住不動十方界 一切諸天及世人 無等等界莫能知 於本所行無不果
其見聞者悉不空 此是無上大福田 供養施者大果報 彼善男子威神力 正法常住永不滅
十善功德諸妙行 無量法寶最無上 彼威神力佛法海 法寶堅固如金剛 智慧滿足不可盡
如是無量功德海 或有刹土無有佛 於彼示現成正覺 或有國土無有法 於彼示現說法藏
菩薩希望一切斷 於一念頃遊十方 示現十方如滿月 無量方便化衆生 於彼十方世界中
念念示現成佛道 轉正法輪入涅槃 現分舍利爲衆生 或現聲聞緣覺道 示現成佛普莊嚴
現無量劫度衆生 以三乘門廣開化 或現男女種種形 天人龍神阿脩羅 隨諸衆生若干身
無量行業諸音聲 一切示現無有餘 海印三昧勢力故 不可思議莊嚴刹 恭敬供養一切佛
光明莊嚴難思議 教化衆生無有量 智慧自在不思議 說法教化得自在 施戒忍辱精進禪
方便智慧諸功德 一切自在難思議 華嚴三昧勢力故 入微塵數諸三昧 一三昧生塵等定
一塵中現無量刹 而彼微塵亦不增 一塵內刹現有佛 或現有刹而無佛 或現有刹淨不淨
或現大刹及中下 或刹伏住或隨順 或如野馬或四方 或有國土如天網 世界成敗無不現

如一微塵所示現　一切微塵亦如是　是名三昧自在力　亦無量稱解脫力　若欲供養一切佛
出生無量三昧門　能以一手覆三千　供養一切諸如來　十方國土勝妙華　無價寶珠殊異香
皆悉自然從手出　供養道樹諸最勝　無價寶衣雜妙香　寶幢幡蓋而莊嚴　金華寶帳妙校飾
十方一切上供具　悉從手中自然出　供養道樹諸最勝　一切十方諸妓樂　無量和雅妙音聲
及以種種衆妙偈　讃歎諸佛實功德　音聲徧滿十方界　悉從掌中自然出　無量淸淨諸行業
所得右手放光明　香水普灑十方國　供養一切照世燈　放妙莊嚴大光明　出生無量寶蓮華
於蓮華中無量佛　相好具足自莊嚴　放華莊嚴淨光明　莊嚴妙華以爲帳　散諸雜華徧十方
供養一切諸如來　放香莊嚴淨光明　莊嚴妙香以爲帳　散諸雜香徧十方　供養一切諸如來
放細末香淨光明　莊嚴末香以爲帳　散諸末香徧十方　供養一切諸如來　放衣莊嚴淨光明
莊嚴寶衣以爲帳　散諸寶衣徧十方　供養一切諸如來　放寶莊嚴淨光明　莊嚴妙寶以爲帳
散諸妙寶徧十方　供養一切諸如來　放妙蓮華淨光明　衆妙蓮華以爲帳　散諸蓮華徧十方
供養一切諸如來　放諸瓔珞淨光明　諸妙瓔珞以爲帳　散諸瓔珞徧十方　供養一切諸如來
放莊嚴幢淨光明　其幢靑黃赤白色　無量種種而莊嚴　以幢嚴飾諸佛剎　執持雜寶莊嚴蓋
衆寶繒綵爲垂帶　寶鈴演出最勝音　以此供養諸如來　手出供具難思議　如是供養一導師
供一切佛亦如是　大仙三昧自在力　欲安一切衆生類　出生自在勝三昧　一切所行諸功德
無量方便度衆生　或現供養如來門　或現一切布施門　或現具足持戒門　或現無盡忍辱門
無量苦行精進門　禪定寂靜三昧門　無量大辯智慧門　一切所行方便門　現四無量神通門
大慈大悲四攝門　無量功德智慧門　一切緣起解脫門　淸淨根力道法門　或現聲聞小乘門
或現緣覺中乘門　或現無上大乘門　或現無常衆苦門　或現無我衆生門　或現不淨離欲門
寂靜滅定三昧門　隨諸衆生起病門　一切對治諸法門　隨彼衆生煩惱性　如應說法廣開化

放三本俱作散

肴膳同作餚饌

偁三本俱作稱偁揚偁歎等之偁以下皆同

如是一切諸法門　隨其本性而濟度　一切天人莫能知　是自在勝三昧力　出生隨樂勝三昧
分別了知衆生心　隨順敎化諸群生　令離憂惱得歡喜　劫中栽離饑饉時　一切資生諸樂具
隨其所須普周給　是爲能作大施主　肴膳香美上味食　寶衣莊嚴隨所樂　己身國土珍愛施
好施衆生悉從化　以諸相好莊嚴身　上妙衣服及衆華　雜種末香以塗身　現此嚴飾度衆生
一切世間所喜樂　種種殊勝淨妙色　隨其所應普示現　令樂色者得解脫　柔輭美聲如哀鸞
拘眞羅等微妙音　具足八種梵音聲　隨其所樂爲說法　八萬四千諸法門　諸佛以此度衆生
分別諸法無量門　隨衆生性化導之　衆生苦樂利無利　一切世間所行法　悉能普應同其事
以此攝法度衆生　無量無邊大苦海　爲衆生故悉能忍　與彼同事不念苦　饒益衆生令安樂
若有不識出家法　樂著生死不求解　是故菩薩捨國財　常樂出家求寂靜　五欲所縛不離家
欲令衆生解脫故　示現不樂處愛欲　是故出家求解脫　欲令具足十種行　是佛如來本所修
菩薩所行無有餘　修習是法度衆生　或有衆生壽無量　煩惱微細樂世間　爲斯一切衆生類
示現生老病死患　或有貪欲瞋恚癡　煩惱猛火常熾然　爲現生老病死苦　化度一切衆生故
如來十力無所畏　及佛十八不共法　最勝無量諸功德　以此妙法度衆生　說法敎誡及神足
住持自在神通力　菩薩示現斯功德　以此濟度諸群生　如是方便無有量　隨順世間度衆生
不著世間如蓮華　能令衆生大歡喜　博綜多識辯才王　文頌談論過世間　示現世間衆技術
譬如幻師現衆像　或爲長者邑中主　或爲賈客商人導　或爲國王及大臣　或爲良醫療衆病
或於曠野作大樹　或爲良藥無盡藏　或作寶珠隨所求　迷道衆生示正路　若見世界始成立
衆生未知資生法　是時菩薩爲工匠　爲之示現種種業　不作惡業害生具　欲令群生壽安樂
呪術藥草學衆論　悉爲諸佛所偁歎　或現仙人殊勝行　一切群生所愛樂　示行苦行及深法
隨其所應悉能現　或作外道出家人　或復示現事火法　或現裸形無衣服　能爲彼人作師長

見有邪命種種行　習行非法以爲勝　一切梵志諸苦行　能於其中而化度　五熱炙身隨日轉
或受牛鹿畜生戒　被服草衣奉事火　爲化是等作導師　現樂遊行諸天廟　自投恒河求解脫
食果服氣而飲水　思惟正法不放逸　或現胡跪翹一足　或臥刺棘灰土上　或臥杵石求解脫
爲彼師導教化故　如是等類諸外道　具觀彼意如應化　菩薩苦行無與等　外道由是得解脫
若見世間無正見　常依一切邪見住　方便爲諸甚深法　悉令得解眞實諦　或爲鬼神邊地語
爲斯等類說四諦　或以正語說四諦　或人天語說四諦　或以法辯說四諦　或以義辯說四諦
或以辭辯說四諦　或無盡辯說四諦　或八部音說四諦　或一切音說四諦　隨彼所解語言音
爲說四諦令解脫　知一切語不思議　是名說法三昧力　安隱衆生勝三昧　爲度一切衆生故
放大光明難思議　以此光明救群生　所放光明名善現　若有衆生遇斯光　彼獲果報無有量
因是究竟無上道　由彼顯現諸如來　亦現一切法僧道　又現最勝塔形像　故獲光明名善現
又放光明名清淨　映蔽一切天人光　除滅一切諸闇冥　普照十方無量國　彼光覺悟一切衆
執持燈明供養佛　以燈供養諸佛故　得成最勝世間燈　然諸香油及酥燈　或以竹木爲炬明
以能然此諸燈明　得是清淨妙光明　又放光明名濟度　彼光覺悟一切衆　當發無上菩提心
度脫欲海諸群生　若發無上菩提心　度脫欲海諸群生　彼悉能度四駛流　示導無畏解脫處
造立無量諸橋梁　或作舟船度衆生　毀呰有爲讚寂靜　因此得成度光明　又放光明名除愛
彼光覺悟一切衆　捨離五欲諸渴愛　思樂解脫甘露水　若能遠離五欲渴　思樂解脫甘露水
以佛解脫甘露雨　滅除衆生諸渴愛　惠施池井諸泉流　以求無上佛菩提　毀呰五欲讚諸禪
因此得成滅愛光　又放光明名歡喜　彼光覺悟一切衆　歡喜愛樂佛菩提　發心願求無師寶
建立如來大慈像　相好具足坐蓮華　讚歎最勝諸功德　因是得成喜光明

大方廣佛華嚴經卷第六

辭三本俱作詞以下皆同

大方廣佛華嚴經卷第七

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅 譯

賢首菩薩品第八之二

又放光明名愛樂　彼光覺悟一切衆　心常愛樂諸如來　無上法寶清淨僧　常會十方諸佛前
逮成無上深法忍　教化無量群生類　心常念佛深妙法　開發衆生菩提心　因是得成愛樂光
又放光明名德聚　彼光覺悟一切衆　普行種種無量施　以此願求無上道　隨其所求皆滿足
一切施會悉清淨　隨其所求惠施故　因是得成德聚光　又放光明名深智　彼光覺悟一切衆
於一法門一念中　悉解無量諸法門　分別諸法化衆生　及諸法相如實義　說法說義具足故
因是得成深智光　又放光明名慧燈　彼光覺悟一切衆　諸法空寂無生滅　解達非有亦非無
譬如野馬水月形　亦如幻夢鏡中像　諸法無主悉空寂　因是得成慧燈光　又放光名法自在
彼光覺悟一切衆　陀羅尼藏不可盡　能持如來一切法　恭敬供養持法者　防衛守護衆賢聖
以無量法施衆生　因是得成自在光　又放光明名無慳　彼光覺悟除貪惜　解知財寶非常有
悉能捨離無所著　難制慳心能調伏　解財如夢如浮雲　常能歡喜樂布施　因是得成無慳光
又放光明名清涼　彼光覺悟毀禁者　安立衆生淨戒中　啓導令逮無師寶　十善業迹悉清淨
勸化衆生持淨戒　開發衆生求佛道　因是得成清涼光　又放光名忍莊嚴　彼光覺悟瞋恚者
捨離瞋恚增上慢　常樂柔和忍辱法　衆生惡性難忍者　悉能堪忍求佛道　常能讚歎忍辱法
因是得成莊嚴光　又放光明名轉勝　彼光覺悟懈怠者　常能勤修三種業　恭敬供養佛法僧

若能勤修三種業　恭敬供養佛法僧　彼能超出四魔境　速成無上佛菩提　勸化衆生令精進
恭敬供養佛法僧　佛法欲滅能護持　因是得成轉勝光　又放光明名寂靜　彼光覺悟亂意者
捨離貪欲瞋恚癡　正住甚深諸三昧　遠惡知識不善行　又離十種非法語　讚歎坐禪空閑處
因是得成寂靜光　又放光名慧莊嚴　彼光覺悟愚癡者　善知緣起得解脫　智慧照明了諸根
若知緣起得解脫　智慧照明了諸根　得聖智慧諸三昧　逮等正覺照世間　捨國財寶所愛身
精勤求法爲佛道　專心說法爲衆生　因是得成慧光明　又放光明名佛慧　彼光覺悟一切衆
見不思議無量佛　各各坐寶蓮華上　讚歎諸佛佛解脫　說佛自在無有量　廣說佛力諸神通
因是得成佛慧光　又放光明名無畏　彼光安慰恐怖者　非人所持諸毒害　無量恐怖悉除滅
普於衆生施無畏　心常慈忍離惱害　拯濟危難無救者　因是得成無畏光　又放光明名安隱
彼光所觸疾病者　滅除一切諸苦痛　悉得正受三昧樂　施諸良藥療衆患　摩以寶珠香塗身
或酥油乳石蜜施　因是得成安隱光　又放光明名見佛　彼光覺悟命終者　念佛三昧必見佛
命終之後生佛前　見彼臨終勸念佛　又示尊像令瞻敬　又復勸令歸依佛　因是得成見佛光
又放光明名樂法　彼光覺悟一切衆　聽法講說及書寫　於正法中常愛樂　佛法欲滅能護持
令求法者意充滿　精勤修習佛正法　因是得成樂法光　又放光明名妙音　彼光覺悟諸佛子
一切世間所有聲　聞者皆是如來音　大音讚揚諸如來　妓樂鐘磬供養佛　又常偁歎佛音聲
因是得成妙音光　又放光名施甘露　彼光覺悟一切衆　遠離一切放逸行　皆悉具足諸功德
分別無量大苦海　有爲危脆非安隱　宣揚讚歎寂滅樂　因是得成甘露光　又放光明名殊勝
彼光覺悟一切衆　於如來所聞勝戒　勝妙三昧勝智慧　常歎諸佛勝妙戒　勝妙三昧勝智慧
一心修習求菩提　因是得成勝光明　又放光名寶莊嚴　彼光覺悟一切衆　得勝寶藏不可盡
以此供養諸世尊　以寶獻佛及塔廟　兼施一切諸貧乏　以衆珍奇供最勝　因是成寶莊嚴光

揚本三俱作持

膳同法饍下同

又放光明名妙香　彼光覺悟一切衆　其有衆生聞是香　具足得佛諸功德　以人天香塗其地
供養一切諸如來　以香造像及塔廟　因是得成妙香光　又放光名雜莊嚴　以幢幡蓋而嚴飾
和雅妓樂微妙音　散衆寶華滿十方　本以微妙妓樂音　和末塗香衆雜華　幢蓋幡帳供諸佛
因是得成莊嚴光　又放光明名端嚴　令十方地平如掌　掃除僧坊大仙塔　因是得成端嚴光
又放光明名大雲　彼光能雨妙香水　香水灑塔及僧坊　因是得成大雲光　又放光名衣莊嚴
令裸形者得上服　以莊嚴服施衆生　因是成衣莊嚴光　又放光明名上味　令飢餓者得美膳
大施種種上味食　因是得成上味光　又放光名示現寶　令諸貧乏得寶藏　以無盡藏施三寶
因是得成示寶光　又放光名眼清淨　能令盲者見衆色　以燈供佛及塔廟　因是得成淨眼光
又放光名耳清淨　能令聾者聞衆音　妓樂供佛及塔廟　因是得成淨耳光　又放光名鼻根淨
聞若不聞悉令聞　衆香供佛及塔廟　因是得成鼻淨光　又放光名舌根淨　以柔輭音讚諸佛
永離麁獷不善語　因是得成淨舌光　又放光名身根淨　諸根毀壞令具足　禮拜諸佛及塔寺
因是得成身淨光　又放光名意根淨　令失心者得正念　修習三昧禪定力　因是得成意淨光
又放光名色清淨　覩見不可思議佛　以衆妙色莊嚴塔　因是得成色淨光　又放光名聲清淨
解聲非聲悉空寂　化衆令知聲如響　因是得成聲淨光　又放光名香清淨　令諸臭穢成妙香
香水洗塔菩提樹　因是得成淨香光　又放光名味清淨　悉除一切味中毒　供養佛僧及父母
因是得成味淨光　又放光名觸清淨　堅强麁澀皆柔輭　雨刀輪戟諸鋒刃　皆悉變成寶華鬘
柔輭妙衣布道巷　最勝行時足蹈上　香華上服用布施　因是得成觸淨光　又放光名法清淨
一一毛孔無量佛　各說妙法難思議　悉令衆生得歡喜　因緣所生非生性　如來法身非是身
湛然常住如虛空　因此化導成法光　如是等比光明門　無量無邊恒沙數　悉從大仙毛孔出
一切業果皆悉現　如一毛孔所放光　無量無邊恒沙數　一切毛孔亦如是　是大仙定自在力

返三本俱作反下同

隨其本行得光明　宿世同行有緣者　如其所應放光明　是名大仙智自在　所修行業有同者
及行隨喜功德分　聞見菩薩淸淨行　彼人得見此光明　若修無量諸功德　恭敬供養無量佛
心常樂求無上道　彼人覺悟是光明　譬如生盲不見日　非爲無日出世間　諸有目者如觀見
各隨所務修其業　大聖光明亦如是　或有衆生見不見　邪見惡害所不覩　勝智慧者乃能見
摩尼寶殿上輦乘　衆寶香味莊嚴具　有功德者自然備　非無德者所能獲　大聖光明亦如是
隨其行業見不見　聞是分別諸光明　精勤恭敬信向者　滅除一切諸疑惑　速成無上功德幢
出生微妙勝三昧　諸佛眷屬大莊嚴　神力於此得自在　悉能顯現示衆生　三千大千妙莊嚴
化一蓮華滿世界　結跏趺坐悉充滿　是名自在三昧力　十方世界微塵剎　化作七寶大蓮華
佛子眷屬共圍遶　是名自在勝三昧　宿世成就善因緣　具足功德求佛道　彼等衆生遶菩薩
一切合掌觀無厭　彼大仙人法如是　甚深正受三昧力　菩薩處彼淸淨衆　如月在星獨明耀
如此一方所示現　諸佛子等爲眷屬　一切十方亦如是　示現三昧自在力　十方世界有緣故
住返出入度衆生　或見菩薩入正受　或見菩薩從定起　或東方見入正受　或西方見三昧起
或西方見入正受　或東方見三昧起　如是出入徧十方　或異方見入正受　或異方見三昧起
是大仙定自在力　東方世界無有餘　佛剎如來難思議　菩薩常現彼佛前　是名寂靜三昧力
東方一切諸佛前　常見安住入正受　西方一切諸佛前　常見菩薩供養佛　西方世界無有餘
佛剎如來難思議　於彼一切諸佛前　常見菩薩入正受　西方見彼入正受　東方佛剎無有餘
於彼佛前三昧起　恭敬供養一切佛　如是十方諸佛前　出入三昧無有餘　或見菩薩入正受
或見恭敬供養佛　於眼根中入正受　於色法中三昧起　示現色法不思議　一切天人莫能知
於色法中入正受　於眼起定念不亂　觀眼無生無自性　說空寂滅無所有　於耳根中入正受
於聲法中三昧起　分別一切諸音聲　諸天世人莫能知　於聲法中入正受　於耳起定念不亂

諸同作說

觀耳無生無自性　說空寂滅無所有　於鼻根中入正受　於香法中三昧起　分別一切諸香法
諸天世人莫能知　於香法中入正受　於鼻起定念不亂　觀鼻無生無自性　說空寂滅無所有
於舌根中入正受　於味法中三昧起　分別一切諸味法　諸天世人莫能知　於味法中入正受
於舌起定念不亂　觀舌無生無自性　說空寂滅無所有　於身根中入正受　於觸法中三昧起
分別一切諸觸法　諸天世人莫能知　於觸法中入正受　於身起定念不亂　觀身無生無自性
說空寂滅無所有　於意根中入正受　於諸法中三昧起　分別一切諸法相　諸天世人莫能知
於諸法中入正受　於意起定念不亂　觀意無生無自性　說空寂滅無所有　現童子身入正受
於壯年身三昧起　現壯年身入正受　於老年身三昧起　現老年身入正受　於善女人三昧起
現善女人入正受　於善男子三昧起　現善男子入正受　比丘尼身三昧起　比丘尼身入正受
於比丘身三昧起　現比丘身入正受　於學無學三昧起　現學無學入正受　於緣覺身三昧起
現緣覺身入正受　於如來身三昧起　現如來身入正受　於諸天身三昧起　現諸天身入正受
於龍神身三昧起　現龍神身入正受　於大鬼神三昧起　現大鬼神入正受　一切鬼神三昧起
一切鬼神入正受　一毛孔中三昧起　一毛孔中入正受　一切毛孔三昧起　一切毛孔入正受
一毛端頭三昧起　一毛端頭入正受　一切毛端三昧起　一切毛端入正受　一微塵中三昧起
一微塵中入正受　一切微塵三昧起　一切微塵入正受　於金剛地三昧起　現金剛地入正受
摩尼寶樹三昧起　摩尼寶樹入正受　諸佛光明三昧起　諸佛光明入正受　於大海水三昧起
現大海水入正受　於大盛火三昧起　現大盛火入正受　於風起定心不亂　現於風大入正受
於地大中三昧起　現地大中入正受　於天宮殿三昧起　現天宮殿入正受　於虛空中三昧起
是名無量功德者　三昧自在難思議　十方一切諸如來　不思議劫說不盡　一切諸佛皆共說
衆生業報難思議　諸龍神變佛自在　禪定三昧亦難思　今說聲聞自在力　無可爲之作譬諭

智慧明了聰達者　乃能解是甚深義　得八解脫心自在　一身能作無量身　以無量身作一身
於虛空中入火定　身上出水身下火　身上出火身下水　行住坐臥虛空中　於一念中自在變
彼不具足大慈悲　不爲衆生求佛道　尚能示現難思議　況大饒益自在力　現作日月遊虛空
普照十方諸世界　或作河池井泉水　或作大海衆寶器　如是等比難思議　普現十方諸世界
深達三昧諸解脫　唯有諸佛能證知　如淨水中四兵像　各各別異皆明了　刀劍輪戟衆兵器
如是等仗皆悉現　隨其器仗本形相　悉現於彼淨水中　水影四兵無憎愛　是名大仙定自在
海中有天名妙音　其中衆生若干種　解彼一切諸音聲　皆悉令得大歡喜　彼有貪欲瞋恚癡
猶能分別一切音　況復總持自在力　而不能令衆生喜　有一女人名辯才　父母求天由此生
離諸惡法樂眞實　能令衆生得辯才　彼有貪欲瞋恚癡　猶能與衆勝辯才　亦能令彼得歡喜
何況菩薩無量智　譬如幻師善術法　能現種種無量色　示現晝夜須臾頃　或現須臾作百年
彼有貪欲瞋恚癡　幻力自在悅世間　況禪解脫神通行　云何不令衆生喜　天阿脩羅鬪戰時
阿脩羅衆卽退散　心大恐怖而奔走　四兵悉入藕絲孔　彼有貪欲瞋恚癡　能作自在不思議
況住自在無畏法　云何不能現神變　釋提桓因有象王　彼知帝釋欲行時　彼化作頭三十三
一一口中有六牙　一一牙上七浴池　清淨香水湛然滿　一一清淨池水中　各七蓮華爲莊嚴
彼諸嚴飾蓮華上　各各有七天玉女　諸女竝奏微妙音　與彼帝釋相娛樂　或時捨彼龍象身
化作天女極莊嚴　威儀巧妙最無比　是名龍象自在力　彼有貪欲瞋恚癡　能作如是諸神變
何況具足方便智　而於諸定不自在　如阿脩羅化作身　金剛地上安其足　海水至深僅半身
其首廣大如須彌　彼有貪欲瞋恚癡　乃能現是大神力　況伏魔怨照世燈　而不能現大神變
天阿脩羅共戰時　帝釋自在難思議　隨阿脩羅軍衆數　現身等彼而交戰　諸阿脩羅發是念
釋提桓因來向我　必取我身五種縛　阿脩羅衆大恐怖　帝釋現身有千眼　手執金剛出火燄

三三本俱作二
莊同作端

被甲持杖自莊嚴　阿脩羅見卽退散　彼以微小功德力　猶能摧破大怨敵　何況救度一切者
無量功德不自在　教化忉利諸天故　得此果報妙音聲　以諸天等放逸行　空中自然出此音
一切五欲悉無常　虛僞無實如水沫　如幻野馬水中月　有爲如夢如浮雲　一切放逸有憂諍
非甘露道生死徑　若有行諸放逸者　入於生死摩竭口　我所有者衆苦本　一切賢聖所厭患
五欲功德磨滅法　常樂淸淨眞實行　三十三天聞此音　一切來集善法堂　帝釋爲說微妙法
隨順離欲寂靜行　彼音無形不可見　猶能饒益諸天衆　何況應化衆生身　不能大利一切世
天阿脩羅共鬪時　諸天衆侶大恐怖　諸天功德勢力故　空中出聲言勿懼　諸天聞此安慰聲
卽離恐畏生大力　時阿脩羅心震懼　所將兵衆悉退散　何況甘露妙音聲　能滅衆生諸恐怖
大慈具足摧衆魔　寂靜妙音除煩惱　帝釋普應諸天女　九十有二那由他　天女各各心自謂
天王獨與我娛樂　現身集在善法堂　爲天說法令歡喜　帝釋能於一念中　悉界現此大神變
釋有貪欲瞋恚癡　能令眷屬悉歡喜　況無量劫修神力　而不能令一切悅　他化自在六天王
於欲界中得自在　以業煩惱爲羅網　繫縛一切諸凡夫　彼有貪欲瞋恚癡　能伏欲界諸群生
況具十種自在力　而不令衆同其行　三千世界大梵王　一切諸梵所住處　悉能現身於彼坐
演暢微妙梵音聲　彼於世間四梵道　禪定五通得如意　何況超出一切世　禪定解脫不自在
摩醯首羅智自在　大海龍王降雨時　悉能分別數其渧　於一念中皆明了　無量億劫勤修學
得是無上菩提智　云何當於一念中　不知一切衆生心　衆生業報難思議　因大風輪起世界
巨海諸山天宮殿　衆寶光明萬物種　亦能興雲降大雨　亦能散滅諸雲氣　亦能成熟一切穀
亦大饒益群生類　風不能學波羅蜜　亦不學佛諸功德　猶成不可思議事　何況具足諸願者
男子女人諸異類　海龍雷震大音聲　悉能了知皆如響　逮無障礙無盡辯　爲一切衆說妙法
其有聞者悉歡喜　如海奇特未曾有　印現一切衆像類　大身衆生妙寶藏　衆流悉入無增損

王天宋明俱作天王
薝明作瞻
絞絡三本俱作交珞下同
固同作黑
軸同作輪
耶同作伽
薝明作瞻

如是衆生平等印　無盡功德禪解脫　一切智慧諸功德　增長衆善無厭足　龍王示現自在時
從金剛際至他化　興雲充徧四天下　其雲種種莊嚴色　第六他化自在天　於彼雲色如黃金
化樂天上雲赤色　兜率陀天白寶色　夜摩天上瑠璃色　三十三天碼碯色　四王天上玻瓈色
於大海上金剛色　緊那羅中妙香色　諸龍住處蓮華色　微密天中白鵞色　阿脩羅中狀如山
鬱單越中金野馬　閻浮提境雲青色　餘二天下雜種色　隨衆所樂以應之　又復他化自在天
雲中電耀如日光　化樂天上如月光　兜率天上閻浮金　夜摩天上白寶色　釋處金雲如野馬
四王天上最妙色　於大海上走寶色　緊那羅中青瑠璃　諸龍住處寶藏色　微密天中玻瓈色
阿脩羅中碼碯色　鬱單越境火珠色　閻浮提界青寶色　餘二天下雜莊嚴　隨衆所樂以應之
他化雷震如梵音　化樂天上妙音聲　兜率天上妓樂音　夜摩天上天女音　於彼忉利諸天上
緊那羅女妙音聲　四王天上乾闥聲　緊那羅中簫笛聲　於彼一切大海中　猶如兩山相擊聲
諸龍住處頻伽聲　微密天中龍女聲　阿脩羅中天鼓聲　於人道中海潮聲　又復他化自在天
雨妙香華爲莊嚴　化樂天上薝蔔華　曼陀羅華及澤香　兜率天上摩尼珠　無上種種莊嚴寶
明淨髻珠如月光　上妙細衣鍊金色　夜摩幢蓋幡莊嚴　華鬘塗香勝莊嚴　赤眞珠衣金絞絡
種種微妙衆妓樂　三十三天如意珠　堅固殊妙栴檀香　種種鬱金諸天華　雨雜清淨華香水
四王天雨上味膳　衆味具足生氣力　又雨不可思議寶　龍王降是種種雨　又復於彼大海中
一一雨渧如車軸　無量衆寶不可盡　又雨種種莊嚴寶　緊那雨華青寶衣　摩利妙華細末香
種種妓樂悉具足　如是無量妙莊嚴　諸龍住處赤眞珠　微密天中火珠寶　阿脩羅中雨兵仗
摧伏一切諸怨敵　欝單無價寶瓔珞　弗婆俱耶二天下　婆師波利薝蔔華　清淨妙寶解脫華
閻浮提雨清淨水　柔輭悅澤常應時　長養衆果香華樹　隨時成熟益衆生　如是無量難思議
興雲雷震種種雨　自於宮殿身不動　能現自在不思議　於彼海中爲尊主　示現神變難思議

鮮同作尠

劫明作却

申三本俱作伸

三本俱以佛昇須彌頂品爲卷第八首

坐明作座

種三本俱作重次亦同

況入法海盡源底　云何不能大神變　如我所說諸譬諭　爲深智慧菩薩故　無畏大士無倫匹
逮得自在諸解脫　微妙無量勝智者　能說如是解脫門　諸未曾有奇特法　一切不能報其恩
聞是甚深勝解脫　信解受持爲他說　世間一切諸凡夫　信是法者甚難得　思惟無量諸善法
本有因力故能信　一切世界諸群生　鮮有欲求聲聞道　求緣覺者轉復少　求大乘者甚希有
求大乘者猶爲易　能信是法爲甚難　況能受持正憶念　如說修行眞實解　若以三千大千界
頂戴一劫身不動　彼之所作未爲難　信是法者爲甚難　大千塵數衆生類　一劫供養諸樂具
彼之功德未爲勝　信是法者爲殊勝　若以掌持十佛刹　於虛空中住一劫　彼之所作未爲難
信是法者爲甚難　十佛刹塵衆生類　一劫供養諸樂具　彼之功德未爲勝　信是法者爲殊勝
十刹塵數諸如來　一劫恭敬而供養　若能受持此品者　功德於彼爲最勝　賢首說此品竟時
十方世界六返動　諸魔宮殿如聚墨　光照十方惡道滅　一切十方諸如來　悉皆普現賢首前
各申右手摩其頂　賢首菩薩德無量　以其右手摩頂已　一切如來讚歎言　善哉善哉眞佛子
快說是法我隨喜

大方廣佛華嚴經佛昇須彌頂品第九

爾時如來．威神力故．十方一切諸佛世界．諸四天下一一閻浮提．皆有如來坐菩提樹下無不顯現．彼諸菩薩各承佛神力．說種種法．皆悉自謂在於佛所．爾時世尊威神力故．不起此座昇須彌頂向帝釋殿．爾時帝釋遙見佛來．即於妙勝殿上．敷置衆寶師子之座．以萬種雜寶而莊嚴之．萬種寶帳彌覆其上．以萬寶網而絞絡之．次上萬種衆妙寶蓋．天繒雜寶以爲垂帶．萬種瓔珞而莊嚴之．萬種寶衣以敷座上．一萬天子在前立侍．一萬梵天而圍遶之．一萬光明以爲照曜．爾時帝釋．爲佛莊嚴師子座已．合掌恭敬白佛言．善來世尊．唯願哀處我此宮殿．爾時世尊．即受其請昇妙勝殿．一切十方亦復如是．爾時帝釋無量樂音．佛神力故寂然無聲．即自憶念於過去佛所

種諸善根。以偈頌曰

迦葉如來具大慈　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
拘那牟尼慧無礙　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
拘樓佛身如金山　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
隨葉如來離三垢　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
尸棄如來常寂然　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
毗婆尸佛如滿月　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
弗沙明達第一義　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
提舍如來辯無礙　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
波頭摩佛淨無垢　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥
錠光如來明普照　諸吉祥中最無上　彼佛曾來入此處　是故此地最吉祥

如此閻帝釋佛神力故。以偈讚歎十佛功德。如是十方帝釋。各自憶念過去佛所所種善根。以偈讚歎亦復如是。

爾時世尊。昇師子座結跏趺坐。坐已宮殿忽然廣博。如忉利天處。一切十方亦復如是

品目十下三本俱無之一二字

大方廣佛華嚴經菩薩雲集妙勝殿上說偈品第十之一

爾時十方各過百佛世界微塵數剎。一一方各十世界。其世界名因陀羅。次名蓮華。次名衆寶。次名優鉢羅。次名妙行。次名善行。次名歡喜。次名星宿。次名無厭慈。次名虛空。其佛號不變月。次號無盡月。次號不動月。次號香風月。次號自在天月。次號清淨月。次號無上月。次號星宿月。次號不衰變月。次號無量自在月。其菩薩名法慧。次名一切慧。次名勝慧。次名功德慧。次名精進慧。次名善慧。次名智慧次名眞實慧。次名無上慧。次名堅固慧。此諸菩薩。各於其國佛所淨修梵行。爾時佛神力故。彼一一菩薩。各將一佛世界微塵數菩薩眷屬俱來詣佛所恭敬禮拜。又佛神力故。化作寶藏師子之座。結跏趺坐充滿十方。如此世界須彌山頂菩薩雲集。十方世界亦復如是。爾時世尊。從兩足指放百千億妙色光明。普照十方一切世界。諸四天下菩提樹下。須彌山頂妙勝殿上。如來大衆

佛同作歎

劫同作法

實三本俱作實

皆悉顯現。爾時法慧菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

天人師悉現　一切嚴淨刹　須彌山王頂　帝釋妙勝殿　哀受天王請　故處其宮殿　一一各以十
吉祥偈讚佛　諸佛大眷屬　清淨菩薩衆　斯從十方來　跏趺正安坐　各同其名字　如我菩薩衆
捨離於本刹　往詣諸佛所　本國諸世尊　名號皆悉同　各於其佛所　淨修菩薩行　諸佛子當知
如來威神力　一切世界中　各謂佛在前　今我等見佛　坐釋妙勝殿　十方亦如是　如來自在力
一切世界中　發心求佛者　先立清淨願　修習菩薩行　菩薩淨修行　無量無數劫　於法界無礙
無能測量者　悉普照十方　滅除愚癡闇　一切無與等　是故莫能知

爾時一切慧菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

無量無數劫　雖常見如來　於此正法中　猶未觀眞實　妄想取諸法　增長癡惑網　輪迴生死中
盲冥不見佛　雖復觀諸法　猶未見實相　一切法生滅　但著假名字　一切法無生　一切法無滅
若能如是解　諸佛常現前　無取亦無見　空寂無眞實　諸佛本來空　不可得思量　若解一切法
不可思量者　彼於諸煩惱　其心無所染　虛妄取法相　是則爲癡冥　是故不見佛　亦不得眞實
牟尼離三世　相好悉具足　於住無所住　法界悉清淨　因緣故法生　因緣故法滅　如是觀如來
究竟離癡惑　法慧先已說　清淨微妙法　我從彼勝聞　菩提難思議

爾時勝慧菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

如來智甚深　一切莫能測　不知眞實法　世間悉迷惑　童蒙思惟是　虛妄取諸法　是故不見佛
具足清淨相　愚癡心迷惑　妄取五陰相　不了眞實性　是故不見佛　分別一切法　皆悉無眞實
如是解諸法　則見盧舍那　因前五陰故　後陰相續生　次第解五陰　見佛難思議　如實在闇處
無明故不見　眞諦無說者　雖慧莫能觀　如目不明淨　不見微妙色　如是不淨心　不見諸佛法
猶如明淨日　無目者不見　若人心諂曲　終不覩諸佛　故當淨慧眼　觀察諸法相　見法相明了

猶如鏡中像　一切慧先說　清淨微妙法　我從彼勝聞　見佛盧舍那

爾時功德慧菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

諸法虛無實　妄取堅固相　是故童蒙者　常轉生死輪　不善非勝法　妄作勝法相　是故生障礙
愚癡常輪轉　不知八正道　云何知自心　彼因顚倒想　增長一切惡　不見諸法空　常受無量苦
彼人不成就　清淨法眼故　欲知一切心　先當求法眼　如我所說者　能見眞實佛　若有見佛者
其心無所著　彼則見眞實　如佛所說法　若見大智慧　如來妙法身　能見如來故　彼有清淨眼
無見乃能見　一切眞實法　於法有所見　彼則無所見　妙哉眞實法　佛以導衆生　一切諸有中
無生亦無死　勝慧先已說　清淨微妙法　我從彼勝聞　深解諸佛道

爾時精進慧菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

以諸妄想行　慧眼不清淨　愚癡邪見增　常不見諸佛　若能見邪僞　及以眞實法　諦了實不實
則見清淨佛　見者則是垢　彼則無所見　諸佛離所見　是故見清淨　世間語言法　虛妄無眞實
知世從緣起　能離生死患　世間非世間　觀察悉平等　二俱知眞實　是名眞見者　若能如是觀
漏盡得自在　非有亦非無　是名不二見　虛妄非虛妄　非是諸佛法　眞實無二相　法性清淨故
法性自清淨　無相如虛空　一切無能說　智者如是觀　樂觀一切法　寂滅無所有　亦知不可修
能見牟尼尊　如是見佛者　功德不可量　一切所有行　寂靜空無相

大方廣佛華嚴經卷第七

諦〔三本俱作實〕
見〔同作照〕

大方廣佛華嚴經卷第八

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅 譯

菩薩雲集妙勝殿上說偈品第十之二

爾時善慧菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

妙哉佛世尊　無量諸如來　離害心解脫　自度能度彼　正見世間燈　如實不顛倒　無量無數劫
積德故見佛　諸行空無實　凡夫謂眞諦　一切無自性　皆悉等虛空　無盡智所說　說者無所說
了知有悉無　故得難思議　無盡說無盡　衆生空寂故　知彼眞實性　則見大名稱　無見說是見
無我說衆生　說見及衆生　是二悉非有　見者無所見　是見不壞相　是名眞實法　一切佛所說
能知眞實佛　及佛之所說　普見一切世　如佛盧舍那　如來等正覺　善說明淨道　精進慧菩薩
演說無量法　有無諸法相　一相平等修　如是能見佛　安住眞實際

爾時智慧菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

我聞最勝教　即生淨慧光　普照十方世　悉見一切佛　若計有衆生　是爲最難處　法本無眞主
但有假言說　愚惑莫能知　自身眞實性　如來非取相　是故不見佛　塵垢障慧眼　不見等正覺
無量無數劫　流轉生死海　流轉則生死　非轉是涅槃　生死及涅槃　二皆不可得　虛誑妄說者
生死涅槃異　迷惑賢聖法　不識無上道　如是取相者　言有佛等覺　顚倒無正念　是故不見佛
能知此實法　寂滅眞如相　則見最正覺　超出語言道　虛妄說諸法　法實無所有　一切諸世尊
諦求不可得　明了過去世　未來及現在　究竟永寂滅　故說爲如來

爾時眞慧菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

寧受無量苦　得聞佛音聲　不受一切樂　而不聞佛名　所以無量劫　受此衆苦惱　流轉生死中
不聞佛名故　實以無實法　正覺等眞僞　以無和合相　是名爲菩提　現佛非緣合　去來亦復然
一切法無相　是則佛眞性　若能如是觀　諸法甚深義　則見無量佛　法身眞實相　於實知眞實
非實知非實　善解眞實際　故號爲正覺　覺者無所覺　是佛眞妙法　諸佛如是修　非一亦非二
知一法爲衆　知衆法爲一　法無所依處　云何而緣合　作者及所作　二俱無所有　若能如是解
求之不可得　是處不可得　諸佛所依止　法無有所依　覺者無所著

爾時無上慧菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

無上摩訶薩　遠離衆生相　上相無所有　故號爲無上　微妙無所有　麁者亦復無　諸佛之所得
非望亦非作　是法不可數　諸佛之境界　亦離於無數　是名佛眞法　慧日照十方　滅除衆闇冥
亦非有所照　亦復非無照　常樂寂靜法　永離有所依　解脫無依處　不染一切法　善見大智者
眞實所依住　若無有二法　當知一亦無　無一亦無二　一切皆寂滅　三種世間空　是則諸佛見
諸佛敎衆生　安住正法中　解達無所住　當見眞實身　非身卽是身　不轉不可見　無轉亦無見
是名無上身　眞慧所演說　無量諸佛法　若聞此法者　常得淸淨眼

爾時堅固慧菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

衆生不知恩　如來發慈慧　出現於世間　普照除衆冥　起大慈悲心　普觀諸群生　具受無量苦
永縛在三有　唯除等正覺　最勝尊導師　一切天人中　無可歸依者　世界若無佛　及衆賢聖人
彼諸群生類　無有一切樂　如來衆賢聖　出現於世間　爲開淨慧眼　令得永安樂　若見如來者
爲得最大利　聞佛名歡喜　則是世間塔　我等獲善利　現前覲如來　聞斯微妙法　悉當成佛道
三世明解脫　甚深諸境界　一切衆菩薩　淸淨開慧眼　我等重歡喜　見佛盧舍那　無量無邊智

演說不可盡　無上慧堅固　及諸佛子等　無數億劫中　說佛德無盡

大方廣佛華嚴經菩薩十住品第十一

爾時法慧菩薩承佛神力入菩薩無量方便三昧正受。入三昧已。十方千佛世界塵數諸佛。是諸如來悉號法慧。時彼諸佛。告法慧菩薩言。善哉善哉。善男子。乃能入是菩薩無量方便三昧正受。善男子。十方各千佛剎塵數諸佛。加汝神力故。能入是三昧正受。又盧舍那佛本願力故。威神力故。及汝善根力故。又欲令汝廣說法故。長養佛慧故。開解法界故。分別衆生界故。除滅障故。入無礙境界故。無等等方便入一切智陀羅尼故。覺一切法故。善知諸根故。說法持故。所謂菩薩十住。善男子。當承佛神力說微妙法。爾時一切如來。卽與法慧菩薩。無礙智。無住智。無斷智。無癡智。無壞智。無惡智。無量智。無勝智。無懈怠智。無退智。何以故。彼三昧力法如是故。爾時諸佛。各申右手。摩法慧菩薩頂。摩其頂已。卽從定起。告衆菩薩言。諸佛子。菩薩種性甚深廣大。與法界虛空等。一切菩薩。從三世諸佛種性中生。諸佛子。菩薩摩訶薩十住行。去來現在諸佛所說。何等爲十。一名初發心。二名治地。三名修行。四名生貴。五名方便具足。六名正心。七名不退。八名童眞。九名法王子。十名灌頂。諸佛子。是名菩薩十住。去來現在諸佛所說。諸佛子。何等是菩薩摩訶薩初發心住。此菩薩。見佛三十二相八十種好妙色具足尊重難遇。或覩神變。或聞說法。或聽教誡。或見衆生受無量苦。或聞如來廣說佛法。發菩提心。求一切智一向不廻。此菩薩。因初發心得十力分。何等爲十。所謂是處非處智。業報垢淨智。諸根智。欲樂智。性智。一切至處道智。一切禪定解脫三昧正受垢淨起智。宿命無礙智。天眼無礙智。三世漏盡智。是爲十。諸佛子。彼菩薩應學十法。何等爲十。所謂學恭敬供養諸佛。讃歎諸菩薩。護衆生心。親近賢明。讃不退法。修佛功德。偁揚歎美生諸佛前。方便修習寂靜三昧。讃歎遠離生死輪廻。爲苦衆生作歸依處。何以故。欲令菩提心轉勝堅固成無上道。有所聞法卽自開解不由他悟。諸佛子。何等是菩薩摩訶薩治地住。此菩薩。於一切衆生發十種心。何等爲十。所謂大慈心。大悲心。樂心。安住心。歡喜心。度衆生心。守護衆生心。我所心。師心。如來心。是爲十。諸佛子。彼菩薩應學

申三本俱作伸
言下元明俱有語字
種下明無性字

十法.何等爲十.所謂先當勤學專求多聞修離欲定.近善知識.不違其教.善知時語.學無所畏.明解深義.了達正法.知堅法行.捨離癡冥.安住不動.何以故.欲於一切衆生增長大慈悲故.有所聞法卽自開解不由他悟.諸佛子.何等是菩薩摩訶薩修行住.此菩薩.十種觀一切法.何等爲十.所謂觀一切法無常苦空無我不自在.一切法不可樂.一切法無集散.一切法無堅固.一切法虛妄.一切法無精勤和合堅固.是爲十.諸佛子.彼菩薩應學十法.何等爲十.所謂學分別知一切衆生界.分別知一切法界.分別知一切世界.分別知地水火風界.分別知欲色無色界.何以故.欲於一切法增長明淨智慧故.有所聞法卽自開解不由他悟.諸佛子.何等是菩薩摩訶薩生貴住.此菩薩.從一切聖法正教中生.修十種法.何等爲十.所謂信佛不壞.究竟於法.寂然定意.分別衆生.分別佛剎.分別世界.分別諸業.分別果報.分別生死.分別涅槃.是爲十.諸佛子.彼菩薩應學十法.何等爲十.所謂學分別去來今佛法.修行去來今佛法.具足去來今佛法.平等觀察一切諸佛.何以故.欲使明達二世等觀.有所聞法卽自開解不由他悟.諸佛子.何等是菩薩摩訶薩具足方便住.此菩薩.聞十種法應當修行.何等爲十.所行善根悉爲救護一切衆生.饒益一切衆生.安樂一切衆生.哀愍一切衆生.成就一切衆生.令一切衆生捨離諸難.拔出一切衆生生死苦惱.令一切衆生歡喜快樂.令一切衆生調伏.令一切衆生悉得涅槃.是爲具足方便住.諸佛子.彼菩薩應學十法.何等爲十.所謂學知衆生無有邊.知衆生不可數.知衆生不思議.知衆生種種色.知衆生不可量.知衆生空.知衆生不自在.知衆生非眞實.知衆生無所有.何以故.欲令其心無所染著.有所聞法卽自開解不由他悟.諸佛子.何等是菩薩摩訶薩正心住.此菩薩.聞十種法得決定心.何等爲十.所謂聞讃佛毀佛.於佛法中心定不動.聞讃法毀法.於佛法中心定不動.聞讃毀菩薩.於佛法中心定不動.聞讃毀菩薩所行法.於佛法中心定不動.聞衆生有量無量.於佛法中心定不動.聞衆生有垢無垢.於佛法中心定不動.聞衆生易度難度.於佛法中心定不動.聞法界有量無量.於佛法中心定不動.聞法界若成若壞.於佛法中心定不動.聞法界若有若無.於佛法中心定不動.是爲十.諸佛子.彼菩薩應學十法.何等爲十.所謂學一切法無相.一切法無性.一切法不可修.一切法無所有.一切法無眞實.一切法如虛空.一切法無自性.一切法如幻.一切法如夢.一切法如響.何以故.欲令得不退

一上三本俱無於字

神、足同作禪定

不上同有皆字

轉無生法忍故。有所聞法卽自開解不由他悟。諸佛子。何等是菩薩摩訶薩不退轉住。此菩薩。聞十種法其心堅固而不動轉。何等爲十。所謂聞有佛無佛。於佛法中不退轉。有法無法。於佛法中不退轉。有菩薩無菩薩。於佛法中不退轉。有菩薩行無菩薩行。於佛法中不退轉。菩薩行出生死不出生死。於佛法中不退轉。有過去佛無過去佛。於佛法中不退轉。有未來佛無未來佛。於佛法中不退轉。有現在佛無現在佛。於佛法中不退轉。佛智有盡無盡。於佛法中不退轉。三世法一相非一相。於佛法中不退轉。是爲十。諸佛子。彼菩薩應學十法。何等爲十。所謂知一卽是多。多卽是一。隨味知義。隨義知味。知非有是有。知有是非有。知非相是相。知相是非相。知非性是性。知性是非性。何以故。欲於一切法方便具足故。有所聞法卽自開解不由他悟。諸佛子。何等是菩薩摩訶薩童眞住。此菩薩。於十種法心得安立。何等爲十。所謂身行淸淨。口行淸淨。意行淸淨。隨意受生。知衆生心。知衆生種種欲樂。知衆生種種性。知衆生種種業。知世界成壞。神通自在無有障礙。是爲十。諸佛子。彼菩薩應學十法。何等爲十。所謂學知一切佛刹。震動一切佛刹。持一切佛刹。觀一切佛刹。詣一切佛刹。徧至一切世界。善問難無量妙法。神通變化無量身。善解無量諸音聲。於一念中恭敬供養無量諸佛。何以故。欲於一切法中出巧方便具足成就。有所聞法卽自開解不由他悟。諸佛子。何等是菩薩摩訶薩法王子住。此菩薩善解十種法。何等爲十。所謂善解衆生趣。善解諸煩惱。善解諸習氣。善解方便智。善解分別無量法。善解諸威儀。善解分別諸世界。善解去來今。善解說世諦。善解說第一義諦。是爲十。諸佛子。彼菩薩應學十法。何等爲十。所謂學善知法王所住處。善知法王所行威儀。善知安立法王處。善知巧入法王處。善知分別法王處。善知法王甘露灌頂。善今受持法王法。善知法王無畏法。善知法王無著法。善知讚歎法王法。何以故。欲於一切法得無障礙智。有所聞法卽自開解不由他悟。諸佛子。何等是菩薩摩訶薩灌頂住。此菩薩。成就十種智住。何等爲十。所謂悉能震動無量世界。悉能照明無量世界。悉能住持無量世界。悉能徧遊無量世界。悉能嚴淨無量世界。悉知無量衆生心行。悉知衆生隨心所行。悉知無量衆生諸根。悉能方便度無量衆生。悉能調伏無量衆生。是爲十。諸佛子。彼菩薩身不可知。身業神足。神足自在。過去智。未來智。現在智。淨諸佛刹智。心境界智境界不。可知。一切衆生。乃至法王子菩薩。悉不能知。諸佛子彼菩薩

智佛三本俱作佛智

欲明作性

發心下三本俱無一切乃至發心四句二十八字

應學十種智.何等爲十.所謂學三世智.一切佛法智.法界無障礙智.法界無量無邊智.充滿一切世界智.普照一切世界智.能持一切世界智.分別一切衆生智.一切種智.智佛無量無邊智.何以故.欲令具足一切種智.有所聞法卽自開解不由他悟.爾時佛神力故.十方各萬佛世界塵數佛國.六種十八相震動.雨天寶華天末香天寶鬘天雜香天寶衣天寶雲天莊嚴具.天妙音樂不鼓自鳴.叉自演出無畏之音.如此四天下須彌山頂妙勝殿上威神變化說十住法.一切十方世界亦復如是.爾時佛神力故.十方各過萬佛世界塵數剎外.有十佛剎微塵數等諸大菩薩.充滿十方.來詣此土.說如是言.善哉善哉.佛子.善說是法.我等諸人同名法慧.所從來國同名法雲.彼諸如來同號妙法.我等佛所亦說十住.大衆眷屬名味句身等無有異.是故佛子.我等承佛神力.來詣此土.爲汝作證.如此四天下須彌山頂妙勝殿上說十住法.十佛世界微塵數等諸大菩薩來此作證.一切十方亦復如是.

爾時法慧菩薩.承佛神力.普觀十方及諸法界.以偈頌曰

見大智尊微妙身　相好端嚴悉具足　最勝尊重甚難遇　勇猛大士初發心　見無等等大神變
開說妙法及教誡　觀察五道無量苦　無畏大士初發心　開諸如來普智尊　無量功德悉具足
解佛心相如虛空　菩薩因此初發心　能知是處及非處　若我非我如是等　欲解平等眞實義
菩薩因此初發心　過去未來現在世　一切善惡諸業報　欲善觀察悉平等　菩薩因此初發心
諸禪三昧及解脫　隨順正受無所著　欲善分別垢淨起　菩薩因此初發心　隨諸衆生根利鈍
種種勤修精進力　悉欲了達分別知　菩薩因此初發心　一切衆生種種欲　心好樂著諸希望
悉欲了達分別知　菩薩因此初發心　一切衆生種種性　無量無邊不可數　悉欲了達分別知
菩薩因此初發心　一切諸道所至處　八正聖路向無爲　悉欲了達知其實　菩薩因此初發心
一切世界衆生類　流轉五道生死海　欲得天眼悉明達　菩薩因此初發心　於過去世一切事
如其體性所有相　悉欲隨順達宿命　菩薩因此初發心　世間一切諸煩惱　所有結縛餘習氣
悉欲覺知究竟盡　菩薩因此初發心　世間所有世諦法　名字談論語言道　悉欲明達世諦義

妄三本俱作空

菩薩因此初發心　一切諸法語言斷　無有自性如虛空　悉欲明達眞諦義　菩薩因此初發心
震動一切佛世界　傾覆鼓蕩諸大海　悉欲明達佛神力　菩薩因此初發心　一毛放演無量光
普照十方一切刹　欲於一光一切覺　菩薩因此初發心　無量佛刹難思議　皆悉能置一掌中
欲解一切如幻化　菩薩因此初發心　無量佛刹諸衆生　皆悉安置一毛端　悉欲了達皆寂滅
菩薩因此初發心　一切十方大海水　渧以一毛盡無餘　悉欲分別知渧數　菩薩因此初發心
不可思議諸佛刹　皆碎爲末如微塵　悉欲分別知其數　菩薩因此初發心　過去未來無量劫
一切世界成敗相　悉欲究竟達其際　菩薩因此初發心　三世一切等正覺　諸辟支佛及聲聞
悉欲分別三乘道　菩薩因此初發心　無量無邊諸世界　能以一毛悉稱擧　欲知有無眞實相
菩薩因此初發心　金剛圍山數無量　盡能安置一毛端　欲知至大有小相　菩薩因此初發心
十方一切諸世界　能以一音徧充滿　悉欲解了淨妙聲　菩薩因此初發心　一切衆生語言法
一言演說盡無餘　悉欲解了淨密音　菩薩因此初發心　如來淸淨微妙音　充滿十方諸世界
欲得具足舌根相　菩薩因此初發心　一切十方諸世界　有成壞者皆悉見　欲得解了悉虛妄
菩薩因此初發心　一切十方諸佛刹　其中無量諸如來　悉欲了達佛正法　菩薩因此初發心
普能應現無量身　一切世界微塵等　悉欲了達如幻化　菩薩因此初發心　過去未來現在世
無量無邊諸如來　欲於一念悉了知　菩薩因此初發心　欲具演說一句法　阿僧祇劫無窮盡
欲使辯才不斷絕　菩薩因此初發心　十方一切諸群生　隨其遷變生滅相　欲於一念悉了達
菩薩因此初發心　淨妙身口及意行　遊步十方無障礙　欲了三世悉空寂　菩薩因此初發心
華薩如是發心已　於十方界諸佛所　應學盡敬供養佛　如是說者不退教　菩薩捨離種種樂
不厭生死求菩提　以此勸進歡喜歎　如是說者不退教　十方一切諸世界　其中所有衆賢聖
菩薩常應讚歎彼　如是說者不退敎　最勝最上無有比　甚深微妙淸淨法　菩薩以此化衆生

如是說者不退敎　無上淸淨妙善法　一切衆魔不能壞　菩薩尊重常稱歎　如是說者不退敎
一切所有妙功德　天人之尊悉成就　以此安立諸菩薩　如是說者人中王　方便敎化見諸佛
無量無數難思議　若能以此方便化　如是說者不退敎　一切甚深諸三昧　悉敎衆生無有餘
菩薩分別具開導　如是說者不退敎　悉能摧滅生死輪　具轉聖道妙法輪　一切世間無所著
諸佛所記是菩薩　菩薩若見無量衆　輪轉生死受諸苦　爲作救護歸依者　諸佛所記是菩薩
是說菩薩發心住　一向志求無上道　如我所說微妙法　一切諸佛亦如是　第二治地眞佛子
先應發心作是念　願令一切群生類　隨順修行諸佛敎　饒益安樂衆生心　歡喜不捨衆生心
大悲救護我所心　起大師心如來心　發如是等勝妙心　精勤學問求多聞　寂然定意正思惟
心常親近善知識　隨順奉行修其敎　柔輭善語不放逸　善能了知一切時　達深法義無所畏
明解深義了正法　則離一切諸癡冥　已離愚癡心安住　是則名爲眞佛子　亦名治地摩訶薩
一向堅固求菩提　如是善學諸佛敎　是則名爲眞佛子　第三修行眞佛子　應當如是觀諸法
無常苦空無堅固　無我無主不自在　一切諸法不可樂　無作虛誑不眞實　無有積集亦無散
如是觀者是菩薩　分別觀察衆生界　亦當解了諸法界　善能分別方便觀　無量無邊諸世界
一切十方國土中　地水火風四大界　欲界色界無色界　悉能觀察分別知　善能明達一切界
眞實究竟無有餘　如是眞諦正法敎　隨順學者是菩薩　第四生貴眞佛子　從諸賢聖正法生
有無諸法無所著　捨離生死出三界　信佛堅固不可壞　究竟淨心不退轉　明了觀察甚深法
一切衆生無眞實　行業世界諸佛刹　生死果報及涅槃　佛子若能如是觀　是名如來法化生
過去未來現在世　諸佛如來及正法　無量方便求究竟　成就一切大聖法　一切三世諸如來
平等觀察無異相　分別差別不可得　如是觀者達三世　如我所說讚歎者　是名四住摩訶薩
若能如是修學者　速成無上佛菩提　第五菩薩眞佛子　微妙具足方便住　深入淸淨巧方便

求三本俱作悉

義三本俱作著

位同作處

究竟一切功德業　所修無量諸功德　悉爲一切作歸依　饒益安樂大慈悲　哀愍度脫諸群生
爲一切世除衆難　永拔生死令歡喜　調伏一切諸群生　具足功德趣涅槃　普爲一切諸群生
分別演說淸淨法　是名第五摩訶薩　成就方便度衆生　具足一切功德者　演說五住淨妙法
第六正心眞佛子　解眞實法離愚癡　於一切世天人中　正念思惟滅虛妄　聞讚毀佛及佛法
一切菩薩所行道　衆生有量若無量　於佛法中心不動　衆生有垢若無垢　或有易度或難度
法界有量若無量　世界有成或有敗　或聞法界若有無　過去未來今現在　菩薩於此一切法
寂然觀察心不動　觀一切法無性相　其義眞實如虛空　猶若幻化夢所見　是人於法爲眞解
第七不退眞佛子　聞有諸佛菩薩法　聞無諸佛菩薩法　若出非出不退轉　過去未來及現在
一切諸佛有以無　若法超滅不起滅　若有一相若異相　若一卽多多卽一　義味寂滅悉平等
遠離一異顚倒相　是名菩薩不退住　若有法相及無相　若有法性及無性　二俱無實等虛空
如是知者必究竟　第八童眞眞佛子　身口意行悉具足　微妙淸淨無染汙　隨意所欲自在生
悉知一切衆生心　善能觀察諸欲性　了衆生法無差別　十方世界成敗相　速逮一切妙神通
往詣十方諸佛剎　隨意自在無障礙　聞說妙法悉受持　六種震動一切國　皆悉能持諸世界
梵音徧滿十方剎　度脫無量群生類　諮問佛義不可數　變化其身無有量　隨受化者演法言
如佛所說無有異　第九王子摩訶薩　悉能分別諸群生　善知輕重煩惱行　隨其所應方便度
善分別知諸法相　明達世界先後際　善解俗諦第一義　具足方便無存餘　善能了達法王處
隨順法王威儀法　善知安入法王位　善知分別法王界　第十灌頂眞佛子　方便善持一切法
如法隨順入深義　悉能究竟分別說　悉度衆生無有餘　而於衆生不取相　寂然不動學正念
悉在十方諸佛前　灌頂菩薩眞佛子　悉能究竟諸勝法　十方無量諸世界　悉能震動光普照
能持十方諸世界　嚴淨一切衆生心　悉知一切衆生根　演梵音聲滿十方　調伏化度諸群生

心觸　三本俱作觸心
行下同有爲口業是梵行耶七字

悉令修習菩提心　普入十方諸佛國　觀察法界無有餘　灌頂色身及身業　神足自在不思議
觀察三世佛國智　乃至王子所不測　三世諸佛及佛法　分別了知無障礙　法界無量無有邊
諸佛聲聞悉充滿　盡於一切諸世界　皆悉能持光普照　盡於一切群生類　爲說究竟正覺智
如是十住諸菩薩　悉從如來法化生　隨其方便及境界　一切天人莫能知　初發無上菩提心
充滿十方悉無餘　了達三世諸法相　具足成就一切智　無邊佛剎及世間　無量無數衆生類
煩惱業報菩提心　如是一切無所著　初求佛道發一念　世間衆生及二乘　斯等一切莫能知
何況菩薩餘功德　十方一切諸世界　能以一毛悉稱舉　彼知菩薩具足行　疾得如來一切智
十方一切大海水　能以一毛渧令盡　於一念中悉知數　如是行者眞佛子　一切世界末爲塵
悉能分別知其數　菩薩所行等微塵　是則名爲眞佛子　過去未來現在佛　一切緣覺及聲聞
分別解說不能盡　發心菩薩諸功德　菩薩初發菩提心　廣大無量無有邊　大慈大悲覆一切
何況菩薩餘功德

大方廣佛華嚴經梵行品第十二

爾時正念天子。白法慧菩薩言。佛子。一切世界中。諸菩薩摩訶薩。信家非家出家學道。捨離俗飾被服法衣。彼諸菩薩。云何方便修習梵行。具足菩薩十住道地。速成無上平等菩提。爾時法慧菩薩。答正念天子言。正士。此菩薩摩訶薩。一向專求無上菩提。先當分別十種之法。何等爲十。所謂身身業。口口業。意意業。佛法僧戒。應如是觀。爲身是梵行耶。乃至戒是梵行耶若身是梵行者。當知梵行則不淸淨。當知梵行則爲非法。當知梵行則爲渾濁。當知梵行則爲臭惡。當知梵行則爲穢汙。當知梵行則爲塵垢。當知梵行則爲諂曲。當知梵行則爲八萬戶蟲。若身業是梵行者。當知身四威儀則爲梵行。左右顧眄擧足下足。則爲梵行。若口是梵行若。當知音聲則爲梵行。當知語言則爲梵行。當知心觸則爲梵行。當知舌動則爲梵行。當知脣齒和合則爲梵行。若口業是梵行者。當知語言

鬀明作剃

則爲梵行。當知所說作無作稱譏毀譽。則爲梵行。若意是梵行者。當知覺觀憶念不忘思惟幻夢等。悉爲梵行。若意業是梵行者。當知想是梵行。施設是梵行。寒熱飢渴苦樂憂喜等。悉是梵行。若佛是梵行者。爲色是佛耶。爲受想行識是佛耶。爲三十二相八十種好是佛耶。爲一切神通業報是佛耶。若法是梵行者。爲正教是法耶。爲寂滅離涅槃是法耶。爲生非生是法耶。爲實并實是法耶。爲虛妄是法耶。爲合散是法耶。若僧是梵行者。爲向須陀洹果是僧耶。爲得須陀洹果是僧耶。爲向斯陀含阿那含阿羅漢果是僧耶。爲得斯陀含阿那含阿羅漢果是僧耶。爲三明六通是僧耶。爲時解脫是僧耶。爲非時解脫是僧耶。若戒是梵行者爲戒場是戒耶。爲十衆是戒耶。爲問清淨不淸淨是戒耶。爲戒師是戒耶。爲三羯磨和尚是戒耶。爲鬀髮法服乞食是戒耶。菩薩摩訶薩。當如是觀察十種法。又知過去無所至。未來無所有。現在無作者。無知者無受報者。此世不至彼世。彼世不至此世。爲何等法是梵行。梵行法爲在何處。誰有是梵行法。此梵行法爲是有耶。爲是無耶。爲是色法耶。爲非色法耶。爲是受想行識法耶。爲非受想行識法耶。菩薩摩訶薩。正念無障礙。觀察分別三世諸法平等。猶如虛空無有二相如是觀者智慧方便無所罣礙。於一切法而不取相一切諸法無自性故。於一切佛及諸佛法。平等觀察猶如虛空。是名菩薩摩訶薩方便修習淸淨梵行。又復修習增上十法。何等爲十。所謂是處非處智。去來現在諸業報智。一切諸禪三昧正受解脫垢淨起智。衆生諸根智。隨諸欲樂智。種種性智。至一切處道智。無障礙宿命智。無障礙天眼智。斷習氣智。是爲十。如是觀察如來十力甚深無量。具足長養大慈悲心。悉分別衆生而不捨衆生。亦不捨寂滅。行無上業不求果報。觀一切法。如幻如夢如電如響如化。菩薩摩訶薩。如是觀者。以少方便。疾得一切諸佛功德。常樂觀察無二法相。斯有是處。初發心時便成正覺。知一切法眞實之性。具足慧身不由他悟

大方廣佛華嚴經卷第九

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

初發心菩薩功德品第十三

爾時天帝釋、白法慧菩薩言、佛子、初發心菩薩、爲成就幾功德藏、法慧答言、佛子、是處甚深難知難信難解難說難通難分別、雖然我當承佛神力具足演說、佛子、假使有人、供養東方阿僧祇世界衆生一切樂具、乃至一劫、然後教令淨修五戒、南西北方四維上下亦復如是、佛子、於意云何、彼人功德寧爲多不、帝釋言、佛子、除諸如來、其餘一切、不能稱量彼人功德、法慧菩薩語帝釋言、佛子、初發心菩薩、功德之藏、百分、彼人功德不及其一、千分百千分、億分百億分、千億分百千億分、百那由他分、千那由他分、百千那由他分、億那由他分、百億那由他分、千億那由他分、百千億那由他分、乃至不可數不可譬諭不可說分、彼人功德不及其一、佛子、復置此諭、假使有人、供養十方各十阿僧祇世界衆生一切樂具、乃至百劫、然後教令淨修十善、教十善已、又復供養一切樂具、乃至千劫、然後教令淨修四禪、教四禪已、又復供養一切樂具、至百千劫、然後教行四無量心、又復供養一切樂具、乃至億劫、然後教行四無色定、又復供養一切樂具、至百億劫、然後教令得須陀洹果、又復供養一切樂具、至千億劫、然後教令得斯陀含果、又復供養一切樂具、至百千億劫、然後教令得阿那含果、又復供養一切樂具、至億那由他劫、然後教令得阿羅漢果、又復供養一切樂具、至千億那由他劫、然後教令盡成緣覺、佛子、於意云何、彼人功德寧爲多不、帝釋白言、佛子、彼人功德、唯除諸佛、其餘一切悉不能知、法慧言、佛子、初發心菩薩、功德之藏、百分千分、乃至不可數不可譬諭不可說分、彼人功德不及其一、何以故、佛子、一切諸佛初發心時、不爲供養十方各十阿僧祇世界衆生一切樂具、百劫乃至千億那由他劫故、出興於世、亦不爲教爾所衆生淨修五戒十善四禪

不下三本俱有爲字

四無量心四無色定．須陀洹果斯陀含果．阿那含果阿羅漢果．辟支佛道故出興於世．欲不斷佛種故．發菩提心．欲充滿十方一切世界故發菩提心．欲悉度脫一切衆生故．發菩提心．欲悉知一切世界成壞故．發菩提心．欲悉知一切世界中衆生垢淨起故．發菩提心．欲悉知一切世界自性清淨故．發菩提心．欲悉知一切群生虛妄煩惱習氣故．發菩提心．欲悉知一切衆生死此生彼故．發菩提心．欲悉知一切衆生諸根方便故．發菩提心．欲悉知一切衆生心心所念故．發菩提心．欲悉分別三世一切衆生故．發菩提心．欲悉知一切諸佛平等境界故．發菩提心．佛子．復置此諭．假使有人．於一念頃．能過東方無量世界．彼人以此自在神力．從此東行．盡無量無數阿僧祇劫．猶不能得世界邊際．又第二人神力自在．於一念頃．能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界．此第二人從此東行．盡無量無邊阿僧祇劫．猶不能得世界邊際．又第三人神力自在．於一念頃．能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界．又第四人神力自在．於一念頃．能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界．又第五人神力自在．於一念頃．能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界．又第六人神力自在．於一念頃．能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界又第七人神力自在．於一念頃能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界．又第八人神力自在．於一念頃．能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界．又第九人神力自在．於一念頃．能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界．又第十人神力自在．於一念頃．能過前人無量無數阿僧祇劫所行世界．彼第十人．以此最海自在神力．從此東行．盡無量無數阿僧祇劫．猶故不得世界邊際．十方世界亦復如是．如是展轉乃至百人．其人以此最勝自在神力．於無量無數阿僧祇劫所至十方．尚可了知得其邊際．初發心菩薩功德之藏不可得知．何以故．初發心菩薩不齊限．爲爾所世界衆生故．發菩提心．悉爲十方一切世界衆生故．欲度一切衆生故．欲分別知一切世界故．發菩提心．欲知微細世界卽是大世界．知大世界卽是微細世界．知少世界卽是多世界．知多世界卽是少世界．知廣世界．卽是狹世界．知狹世界卽是廣世界．知一世界卽是無量無邊世界．知無量無邊世界卽是一世界．知無量無邊世界入一世界．知一世界入無量無邊世界．知穢世界卽是淨世界．知淨世界．卽是穢世界．於一毛孔中．悉分別知一切世界．於一切世界中．悉分別知一毛孔性．知一世界出生一切世界．知一切世界猶如虛空．欲於一

數南藏作邊

薩下三本俱無摩訶薩三字不下同有爲字

念知一切世界悉無有餘故。發阿耨多羅三藐三菩提心。佛子。復置此諭。假使有人於東方無量無邊阿僧祇世界於一念中。悉分別知成敗之數。此人精勤方便念念次第。於無量無數阿僧祇劫。欲盡算知東方世界成敗之數。猶不能知。又第二人。於第一人無量無數阿僧祇劫所算世界成敗之數。於一念中悉能了知。此人精勤方便。念念次第。於無量無邊阿僧祇劫。猶不能盡知東方世界成敗之數。如是展轉乃至第十。彼第十人。於第九人無量無邊阿僧祇劫所算世界成敗之數。於一念中悉能了知。此人精勤方便。念念次第。於無量無邊阿僧祇劫。猶不能盡知東方世界成敗之數。乃至十方亦復如是。十方無量無邊世界成敗之數。尙可了知。初發心菩薩功德之藏。不可得知。何以故。初發心菩薩摩訶薩。不爲齊限。知爾所世界劫數成敗故。發菩提心。菩薩摩訶薩。欲悉了知一切世界劫數成敗故。發菩提心。欲知長劫卽是短劫。短劫卽是長劫。知一劫卽是不可數阿僧祇劫。不可數阿僧祇劫卽是一劫。知一切有佛劫。知一切無佛劫。知一佛劫中有無量佛。知無量佛劫中有一佛。知異劫中有無異劫。知無異劫中有異劫。知有盡劫是無盡劫。知無盡劫是有盡劫。知無量劫卽是一念。知一念卽是無量劫。知一切劫入無劫。知無劫入一切劫。欲悉了知過去未來際及現在一切世界劫數成敗故。發阿耨多羅三藐三菩提心。是名菩薩初大誓莊嚴。所謂悉知一切劫智慧照明。佛子。復置此諭。假使有人。於一念中。悉知無量無數阿僧祇世界衆生種種欲樂。此人精勤方便。念念次第。於無量無數阿僧祇劫。不能盡知東方一切世界衆生種種欲樂。如是展轉至第十人。此第十人。於第九人無量無數阿僧祇劫精勤方便所知衆生種種欲樂。於一念中悉能了知。此人如是精勤方便。念念次第。無量無數阿僧祇劫。猶不能盡知東方一切世界衆生種種欲樂。乃至十方亦復如是。如是十方無量無邊阿僧祇世界衆生。種種欲樂尙可了知。初發心菩薩功德之藏。不可得知。何以故。佛子。初發心菩薩摩訶薩不齊限。欲知爾所世界衆生種種欲樂故。發菩提心。欲悉知十方一切世界衆生種種欲樂故。發阿耨多羅三藐三菩提心。欲知種種無量欲樂卽是一欲。而亦不壞一切欲性。欲悉知一切衆生欲樂海。欲知一衆生欲卽是一切衆生欲。欲悉知一切衆生去來現在種種欲樂。欲悉知相似欲不相似欲。欲知一切欲卽是一欲。一欲卽是一切欲。欲得具足如來種種欲樂力。欲知有上欲無上欲。有餘欲無餘欲。等欲不等

可三本俱作能
不下明有爲字

欲。有所依欲無所依欲。共欲不共欲。有邊欲無邊欲。善欲不善欲。世間欲出世間欲。大智欲淨欲勝欲。無礙智欲無礙智佛解脫欲。清淨欲不清淨欲。廣欲狹欲。細欲麁欲故。發阿耨多羅三藐三菩提心。欲悉知一切衆生一一衆生有十種欲。所謂因苦生欲。方便欲希望欲。著味欲。隨因生欲。隨緣生欲。盡欲。一切欲。初發心菩薩摩訶薩。欲悉分別了知此諸欲網故。發阿耨多羅三藐三菩提心。佛子。復置此諭。假使有人。於一念中。悉知無量無邊阿僧祇世界衆生種種諸根。以此智慧精勤方便。念念次第。於無量無數阿僧祇劫。不能盡知東方一切世界衆生種種諸根。廣說乃至悉知一切衆生一一衆生有十種根。佛子。復置此諭。假使有人。於一念中。悉知東方無量無邊阿僧祇世界衆生種種希望。廣說乃至悉知一切衆生一一皆有十種希望。佛子。復置此諭。假使有人。於一念中。悉知無量無邊阿僧祇世界衆生種種方便。廣說乃至悉知一切衆生一一皆有十種方便。佛子。復置此諭。假使有人。於一念中。悉知無量無邊阿僧祇世界衆生念念心意。廣說乃至悉知一切衆生一一皆有十種心。佛子。復置此諭。假使有人於一念中。悉知無量無邊阿僧祇世界衆生種種諸業。廣說乃至悉知一切衆生一一皆有十種業。佛子。復置此諭。假使有人。於一念中。悉知東方無量無邊阿僧祇世界衆生種種煩惱。此人精勤方便。念念次第。於無量無數阿僧祇劫。猶不能知東方一切衆生種種煩惱。如是展轉乃至第十。此第十人。於第九人無量無數阿僧祇劫所知衆生種種煩惱。於一念中悉分別知。此人精勤方便念念次第。於無量無數阿僧祇劫。猶不能盡知一切衆生種種煩惱。乃至十方亦復如是。爾所世界一切衆生種種煩惱尙可得知。初發心菩薩功德之藏不可得知。何以故。佛子。初發心菩薩不齊限。欲知爾所世界衆生種種煩惱故。發阿耨多羅三藐三菩提心。欲悉分別了知一切衆生種種煩惱故。發菩提心。所謂欲悉知輕煩惱。重煩惱。結使煩惱。纏煩惱。一一衆生無量煩惱。一切衆生種種覺觀煩惱。依無明煩惱。愛相應煩惱。貪欲不善根煩惱。瞋恚不善根煩惱。愚癡不善根煩惱。等分煩惱。一切煩惱。根本煩惱。我我所煩惱。我慢煩惱。邪憶念虛妄生煩惱。因身見生六十二見等諸煩惱。蓋煩惱。障礙煩惱。欲悉了知一切衆生煩惱惑網。具足大慈大悲一切種智故。發阿耨多羅三藐三菩提心。佛子。復置此諭假使有人。於一念中。悉見東方無量無邊世界現在諸佛及彼一切衆生。此人悉能恭敬禮拜。尊重讚歎一心

肴膳三本俱作餚饍

辨明作辦

切下三本俱有世界二字

觀察.種種供養無量上味.肴膳飲食香華瓔珞.繒綵幢蓋上妙宮殿.嚴飾帳幔寶網羅覆.衆寶莊嚴師子之座.此人精勤方便.念念次第.以如是等衆妙供具.無量無數阿僧祇劫供養諸佛.又復勸教彼諸衆生.以如是等衆妙供具.於無量無數阿僧祇劫供養諸佛.彼諸如來般涅槃已.復爲一一諸如來故.以無量寶起塔供養.其塔高廣一一周滿無量無邊世界.又以上妙衆寶而莊嚴之.一一塔中.有無量無數如來形像.彼諸形像.光明普照無量無邊諸佛世界.又復勸彼一一衆生.爲諸如來起衆寶塔嚴好如前.十方世界亦復如是.佛子.於意云何.彼人功德寧爲多不.帝釋答言.彼人功德唯佛乃知.餘無能及.法慧答言.佛子.初發心菩薩摩訶薩.功德之藏百分千分.乃至不可數不可譬諭不可說分.彼人功德不及其一.佛子.假使有人.於第一人及所勸衆生精勤方便.念念次第.無量無數阿僧祇劫.所作功德諸供養具.於一念中皆悉能辦.此人如是精勤方便.念念次第.於無量無數阿僧祇劫.供養功德.廣說如前.如是展轉乃至第十人.廣說亦復如前.初發心菩薩摩訶薩.功德之藏百分千分.乃至不可數不可譬諭不可說分.彼人功德不及其一.何以故.佛子.彼菩薩不爲齊限.供養爾所如來故.發阿耨多羅三藐三菩提心.欲悉供養十方法界虛空界等世界中三世諸佛故.發阿耨多羅三藐三菩提心.發是心已.得知盡過去際諸佛無障礙智.得信盡未來際諸佛功德.得知盡現在際一切諸佛所說智慧.彼三世一切諸佛功德.此菩薩摩訶薩.悉皆信向.受持修習.得證身證.悉等諸佛一切功德.何以故.初發心菩薩摩訶薩.欲不斷一切諸佛性故.發菩提心.欲令慈悲心充滿一切世界衆生悉無餘故.欲悉度脫一切衆生故.欲悉知一切世界成敗故.欲悉知一切世界衆生垢淨起故.欲令三有衆生悉得淸淨故.欲悉知一切衆生心念煩惱習故.欲悉知一切衆生死此生彼故.欲悉知一切衆生諸根方便故.欲悉知一切衆生心心行故.欲悉知一切三世衆生故.欲悉知三世諸佛具足功德故.欲悉知三世諸佛無上菩提故.欲悉知三世諸佛具足淨法故.欲悉知三世諸佛法平等相故.欲悉知三世諸佛無上智慧因緣淸淨故.欲悉知長養三世諸佛智慧力故.欲悉具足三世諸佛無畏法故.欲悉具足莊嚴三世諸佛不共法故.欲悉得法界等無量無邊三世諸佛平等智慧故.發阿耨多羅三藐三菩提心.何以故.此初發心菩薩卽是佛故.悉與三世諸如來等.亦與三世佛境界等.悉與三世佛正法等.得如來一身

無量身三世諸佛平等智慧.所化衆生皆悉同等.悉能震動一切世界.悉能普照一切世界.悉能休息一切世界諸惡道苦.悉能嚴淨一切世界.悉於一切世界示現成佛.悉令一切衆生皆得歡喜.悉令一切衆生解深法界.悉能護持諸佛種性.悉得諸佛智慧光明.彼初發心菩薩摩訶薩.常不遠離三世諸佛及諸佛法.一切菩薩緣覺聲聞及所行法.世間出世間法.衆生及衆生法.專求菩提智慧無礙.爾時佛神力故.說初發心菩薩功德藏力故.十方各萬佛刹塵數世界六種震動.雨衆天華天香天末香天鬘天寶天莊嚴具.自然演出微妙樂聲.又復震吼師子之音.放大光明普照十方爾時十方各過十佛刹塵數世界.有萬佛刹塵數諸佛.悉號法慧.各現其身.示法慧菩薩.而告之言.善哉善哉.佛子.善說初發心菩薩功德之藏.我等萬佛刹塵數如來.亦悉演說發心菩薩功德之藏.十方世界一切諸佛亦復如是.法慧菩薩.說是發心菩薩功德藏時.萬佛世界塵數衆生.皆得初發心菩薩功德之藏.發阿耨多羅三藐三菩提心.我等今者悉授彼記.於未來世.各於十方.一時成佛.同號淨心如來應供等正覺.我等悉當護持此法.普爲未來諸菩薩故.如此娑婆世界四天下閻浮提菩提樹下須彌山頂妙勝殿上敷演此法教化衆生.十方世界千億那由他不可量不可數不可思議無有邊際不可說法界虛空界等諸世界中.亦說是法教化衆生.彼說法者悉名法慧.佛神力故.佛本願力故.顯示佛法故.智慧光明普照故.解第一義故.法如是故.諸菩薩歡喜故.讃歎諸佛功德故悉知諸佛平等故.解法界無有二故.爾時法慧菩薩.普觀十方.普觀一切大衆.觀虛空界.觀成就衆生界.不違業報.淸淨如虛空界.欲拔三有垢穢衆生.欲令衆生得廣解脫.欲知種種諸根等.觀三世正趣涅槃.及現自身甚深淸淨諸功德故.承佛神力.以偈頌曰

大慈大悲心　充滿十方界　分別諸佛刹　佛法及三世　欲具佛功德　菩薩法藏海　饒益衆生故
初發菩提心　欲悉分別知　虛空等法界　一切群生類　諸佛及佛法　欲得一切佛　諸道至處力
成就不退轉　饒益諸群生　一切衆生中　常起大慈悲　遠離瞋恚念　修習饒益心　慈光照十方
爲衆作歸依　諸佛悉護念　功德難思議　欲悉分別知　一切諸佛刹　如來妙法身　甚深難思議
無量功德藏　智慧甚深廣　因是初發心　專求佛菩提　欲悉分別知　一切衆生類　十方世界中

智慧無障礙　麁細諸世界　或狹廣無量　一切中知一　一中知一切　菩薩於彼行　精勤不放逸
苦樂無厭著　欲度衆生故　一切佛現前　樂觀無厭足　悉入深甚法　無量功德海　五道諸群生
愍之如一子　令除衆垢穢　具足清淨法　欲令諸佛種　究竟不斷絕　降伏一切魔　摧滅無有餘
平等觀如來　三世諸法相　甚深微妙法　常修不放逸　菩薩常樂觀　一切佛境界　是故諸如來
甘露慧灌頂　信心不可沮　堅固如金剛　於諸如來所　知恩而報恩　最勝之境界　無量智慧光
自悟不由他　菩薩初發心　悉能分別知　五道衆生欲　種種諸業報　一切心所行　知諸根利鈍
無量無數性　一切勝境界　菩薩初發心　菩提心無量　清淨法界等　無著無所依　無染如虛空
成就佛智慧　其心無障礙　諦了眞實際　寂滅離虛妄　了達衆生心　而無衆生想　方便分別法
究竟到彼岸　無量無數劫　悉能分別知　往詣諸佛剎　明解甚深法　若能分別知　無量諸佛法
清淨法界藏　諦了無疑惑　深解衆生根　究竟到彼岸　平等觀諸法　則與如來等　清淨無量心
常在諸佛前　恭敬而尊重　供養人師子　親勤一切佛　樂觀無厭足　彼諸如來等　護念此菩薩
於諸深妙法　分別無障礙　無著無所依　心淨如虛空　彼知人師子　智慧海深廣　寂然入正受
三世觀無礙　堅固不可沮　一切莫能壞　專念無上道　未曾有斷絕　離闇趣明正　志學諸善法
常樂觀寂滅　具足眞實性　寂默語言道　平等無異觀　於法不分別　是則從如生　悉能分別知
諸佛深境界　寂然入正受　三達無障礙　十方世界中　一切諸佛剎　菩薩自在力　一念悉周徧
無量不可數　方便悉具足　普遊十方界　是名眞佛子　具足大悲心　清涼除渴愛　大慈念一切
無礙如虛空　於彼衆生類　不生衆生想　悉已離虛妄　清淨遊十方　於彼諸群生　常施以無畏
如此眞實行　是則等如來　常說甚深法　清淨無所著　是故十方佛　一切悉護念　過去未來世
無量無數劫　次第悉憶念　具足分別知　菩薩於現在　一切十方界　悉能普周徧　濟度諸群萌
深智正觀察　明了無障礙　悉知因緣合　磨滅無堅固　一切衆生類　諸有疑難者　菩薩悉除滅

彼明作波

想明作相

根同作想
普三本俱作悉
輝三本俱作輝

安住法性中　菩薩無畏力　降伏一切魔　悉能爲衆生　滅除愚癡闇　世界若成敗　悉皆分別知
若能如是觀　佛境無疑惑　觀察三世法　疑網永已除　一切如來所　淨信不可壞　信力安隱住
智慧力成就　智慧清淨故　決定解眞實　盡於未來際　饒益衆生故　欲令一切衆　究竟得解脫
無際生死中　精勤不厭倦　一切地獄處　受苦爲衆生　功德智慧藏　具足皆成就　悉能善分別
一切衆生根　又能分別知　衆生種種業　隨彼業對治　菩薩爲說法　以大慈悲心　隨順世間行
悉於一切法　解達空無我　一一音聲中　演說無量教　菩薩放大光　種種微妙色　普照十方界
除滅一切闇　一一光明端　清淨寶華座　菩薩悉處上　爲衆演說法　於一毛孔中　普見十方刹
彼刹妙莊嚴　諸佛菩薩會　一一如來所　無量衆圍遶　清淨妙智慧　明了衆生心　十方世界中
無量諸佛刹　菩薩神通力　一念悉徧至　恭敬供養佛　饒益衆生故　一一導師所　諮決甚深義
普於諸世尊　先起慈父想　饒益衆生故　分別菩薩行　明淨利智慧　解達深法藏　出生無量智
佛法無所礙　無量無數劫　分別說法界　劫數可究竟　法界無窮盡　平等觀諸法　其心無所染
不厭生死苦　智慧無障礙　無上佛種性　三世法王家　一切如來法　菩薩由此生　清淨妙法身
應現種種形　猶如大幻師　所樂無不見　或處爲衆生　究竟菩薩行　或復現初生　出家行學道
或於樹王下　自然成正覺　或處爲衆生　示現入泥洹　現住甚深妙　無量自在法　聲聞辟支佛
一切莫能測　菩薩身口意　寂滅無生相　普應一切世　方便無不現　如是佛眞子　境界甚深妙
衆生若思議　迷亂心發狂　一切悉具足　安住無礙智　普現諸如來　無量自在力　菩薩功德藏
世間無與等　何況最勝尊　無量難思議　菩薩雖未得　具足一切智　無量諸法門　究竟到彼岸
一切勝妙法　皆悉已具足　一向求菩提　究竟一乘道　於彼諸群生　善知時非時　爲欲利益故
示現大神力　一身悉充滿　一切諸佛刹　演出淨光明　輝耀無倫匹　徧照十方界　除滅一切闇
普降妙法雨　如海大龍王　觀察一切法　虛妄猶如幻　煩惱業力故　生死常輪轉　以大慈悲心

普覆諸群生　清淨妙方便　度脫無量衆　菩薩功德力　與諸如來等　無量智慧海　清淨如虛空
無量無數劫　具修菩薩行　精進勤方便　欲度一切衆　衆生種種行　悉能分別知　令修清淨業
志求無上道　菩薩摩訶薩　行是勝妙法　決定不退轉　諦觀一切智　一切諸世界　無量難思議
菩薩能於彼　一念悉周徧　遠離虛妄想　其心如虛空　清淨法身一　普應一切世　湛然常不動
十方無不現　分別一切法　不取諸法相　了達一切法　其心無所染　濟度一切衆　而無解脫者
一切群生類　種種諸希望　善惡無記法　寂滅如虛空　隨順衆庶類　種種欲樂相　無量自在力
悉能應化之　猶如工幻師　能現種種身　菩薩自在力　充滿十方界　菩薩淨法身　無量等虛空
隨衆所欲樂　一切無不現　其心無所染　眞實無虛妄　清淨煩惱法　皆悉無所有　解脫非解脫
其心無所染　普施苦衆生　無上涅槃樂　悉於諸世間　智慧無所畏　具足衆相好　究竟無上道
一念悉分別　一切諸法相　去來現在世　求之無所有　菩薩觀前際　了達過去世　分別後際相
究竟亦如是　一切佛世界　分別皆悉知　除滅衆煩惱　具足諸功德　常好觀寂靜　究竟趣涅槃
樂無諍三昧　其心無所依　菩薩等實際　一切無與等　究竟堅固行　決定不退轉　彼修衆勝行
寂滅無所依　其心常安住　不動如須彌　菩薩淨妙行　充滿諸法界　諸佛及菩薩　皆悉分別知
欲求導師慧　究竟最勝道　甚深一切智　無上解脫王　勇猛勤精進　速發菩提心　欲求最勝樂
應疾斷諸漏　菩薩摩訶薩　初發清淨心　彼心功德藏　說之不可盡　饒益衆生故　讚歎如來行
一心善諦聽　最勝所行道　無量諸佛剎　悉末爲微塵　一塵置一剎　悉能分別知　是諸剎土中
一切諸如來　說初功德藏　猶故不可盡　善分別衆生　而無衆生想　善解一切語　而無言語想
甚深無礙智　分別諸世界　善解劫成敗　而無成敗想　清淨廣大心　猶如虛空性　明解三世法
一切諸世間　除滅諸煩惱　永盡無有餘　無礙寂滅觀　是則佛正法　十方世界中　一切如來所
一念悉徧至　其心無所染　善解不生法　如如眞實際　一切種種相　皆悉無眞實　無量不可數

衆同作最

末明作抹

受三本俱作更
趣同作起
冥明作瞑

一切諸如來　清淨眷屬俱　悉往禮供養　常樂問如來　甚深微妙法　一切諸菩薩　誓願清淨行
十方世界中　一切諸導師　一念悉覩見　而心無所依　一切三有中　最勝妙功德　以此清淨行
莊嚴諸佛刹　慧眼無障礙　善解一切生　分別無所有　遠離無染著　善解衆生根　煩惱及習氣
衆生種種欲　了達不思議　菩薩摩訶薩　先知衆生心　隨彼所應度　慧者爲說法　善知時非時
衆生淨穢行　漸令彼清淨　究竟得解脫　無量那由他　甚深諸三昧　菩薩自在力　一念悉能入
三昧起住相　悉善分別知　無量諸境界　善解住起緣　如是等智慧　皆悉已具足　不久得菩提
一切無障礙　常爲利衆生　正趣智慧光　彼能與衆生　無上丈夫法　悉能善分別　一切劫長短
晝夜及歲月　斯亦善觀察　正念不放逸　善解諸世間　分別諸佛刹　眞實無差別　能善分別知
一切諸世界　於彼十方國　無有分別想　如是正觀察　十方諸世界　嚴淨一切國　而心無所著
成就智慧力　與諸如來等　是處非處力　分別知衆生　悉知衆生類　善惡諸業報　過去未來世
明達無障礙　一切諸世界　衆生種種性　於彼三有中　悉能分別知　一切群生類　諸根上中下
菩薩摩訶薩　悉能分別知　一切衆生類　欲樂上中下　清淨不清淨　悉能分別知　分別知衆生
一切至處道　永斷相續緣　究竟離三有　一切諸三昧　正受禪解脫　垢穢清淨起　悉能分別知
次第知宿命　隨所受苦樂　如是分別者　是則如來力　一切善不善　衆生煩惱業　分別五道生
究竟得泥洹　諸漏若未盡　能趣處處生　煩惱習已滅　究竟無上道　方便度衆生　滅垢具淨道
慧者能分別　是則人中雄　具足十種力　慧光除衆冥　安住最勝力　疑惑究竟滅　一一毛孔中
無量諸佛刹　菩薩摩訶薩　一切皆悉見　穢濁或清淨　種種妙莊嚴　隨彼諸行業　皆悉分別知
一一微塵中　一切諸佛刹　諸佛及菩薩　佛子皆悉見　諸刹不積聚　不亂不迫迮　一切入一刹
而亦無所入　十方諸國土　虛空法界等　能於一毛孔　具足分別知　普見十方界　一切諸最勝
微妙淨莊嚴　一切諸佛刹　一切諸如來　及彼嚴淨國　於一毛孔中　慧者皆悉見　三世差別相

一切諸法界　時節歲相續　分別得解脫　如是眞佛子　具足無所畏　是名人中雄　明達智慧者
如是深法門　慧者悉分別　彼於如來所　恭敬喜無量　無量無數劫　長養功德藏　供養一切佛
度脫衆生故　無量自在力　種種能示現　彼智慧境界　與諸如來等　無量諸佛所　所學皆成就
寂靜深法藏　悉樂無厭足　一切導師所　恭敬尊重心　彼修菩薩行　常飲法甘露　悉能善分別
長養智慧法　菩提無礙辯　甚深諸三昧　信心不可動　猶如須彌山　長養諸衆生　一切功德藏
菩薩摩訶薩　大慈悲無量　普念一切衆　其心無所著　一切種智樂　惠施諸衆生　悉欲救世間
永離煩惱垢　菩薩摩訶薩　大悲心無量　佛及已衆生　等觀無有異　樂觀寂滅相　諸法如虛空
慧者如是觀　一切眞實性　菩薩初發心　甚深功德藏　無量無數劫　說之不可盡　出生諸如來
緣覺閑靜樂　自在聲聞衆　一切賢聖故　十方世界中　無邊諸佛刹　所有衆生類　供養無量劫
又教修五戒　十善及四禪　四等無色定　寂滅諸解脫　復於無量劫　供施諸樂具　又復教轉勝
漏盡成羅漢　如此諸功德　猶尙可稱說　發心功德藏　無譬不可說　又化無量衆　悉成辟支佛
寂靜三摩提　甚深諸功德　彼人功德聚　比初發心藏　百分不及一　乃至不可說　無量無有邊
微塵等佛刹　假使神力人　一念悉能過　如是神足力　無量劫中行　彼刹猶可數　發心藏難知
去來現在劫　無是無有邊　如是等諸劫　猶可知其數　菩薩初發心　無量功德藏　猶如虛空界
分際不可知　去來現在世　一切諸劫數　菩薩於一念　悉能分別故　菩薩發心寶　欲達去來今
一念悉明了　利益衆生故　十方世界中　無量刹衆生　所有欲希望　一念悉分別　知諸根方便
念念心所行　虛空尙可量　菩提心難知　所以不可量　大慈無量故　普施一切樂　充滿十方界
欲令悉得佛　法藏解脫樂　初發寶藏心　功德力無量　衆生欲希望　方便願求想　隨彼種種根
身口意所行　能於一念中　彼彼悉覺知　欲得一切智　發心願菩提　一切衆生類　無量煩惱業
由斯結業故　趣趣受諸有　如此結業報　猶可知邊際　發心功德藏　不可得思議　所以不可議

悉三本俱作志
衆同作群
使三本俱作有
故同作知

薩同作提

鬘同作[illegible]

能發無上願　供養一切佛　永離諸煩惱　兼除群生類　一切煩惱業　濟拔三世苦　究竟大悲心
十方諸世界　無量無數佛　一念悉供養　兼以勸衆生　熏以殊妙香　寶幢諸幡蓋　天衣珍妙鬘
上味甘露漿　隨時諸宮觀　牀臥莊嚴具　清淨經行地　安身順道心　斯等衆供具　無量寶莊嚴
摩尼發光耀　皆是快樂因　如是供養佛　兼以勸衆生　不可思議劫　常行此供養　斯等諸功德
尙可究竟說　發心功德藏　無可爲譬諭　一切諸譬諭　如前廣分別　欲此初發心　無量不及一
三世人中尊　一切功德業　無上菩提果　皆由初發心　無數億劫中　修行無上道　無數無有量
出過一切量　究竟一切智　其力不可量　到彼菩提岸　超度群生趣　初發菩薩心　廣大如虛空
出生諸功德　其相同法界　等觀諸法性　如實無異相　永離一切有　性同堅固士　甚深眞法性
妙智隨順入　無邊諸佛土　一念悉周徧　一切智所知　無不徧觀察　無量佛境界　了達無障礙
常修妙功德　一切無與等　具足微妙戒　清淨無瑕穢　內外一切施　等心施一切　一切時常施
精勤不退轉　專念修正受　諸禪功德藏　常習微妙智　深廣無涯底　於此最勝地　成就佛眞子
逮得如實智　平等甚深行　去來現在世　一切諸如來　悉以威神護　初發菩提心　甚深諸三昧
無量陀羅尼　諸佛自在力　莊嚴初發心　一切諸世間　莫能稱算者　無量無有邊　猶如虛空界
初發菩提心　無量無有邊　一切人師子　皆由初發心　如來十種力　四辯無所畏　無量諸功德
皆由初發心　一切諸導師　十八不共法　斯等殊勝慧　皆由初發心　諸佛妙色身　種種相莊嚴
究竟離虛妄　清淨眞法身　天人所應供　甚深無礙智　如是等功德　皆由初發心　一切辟支佛
無量聲聞衆　斯等諸賢聖　皆由初發心　四禪無色定　甚深諸三昧　斯等無量樂　皆由初發心
去來今現在　十方天人類　一切世界中　趣趣受生樂　方便勤精進　諸根悉調伏　斯等無量樂
皆由初發心　所以然者何　菩薩摩訶薩　因初發心故　具六波羅蜜　化諸群生類　棄邪入正道
故能令三界　受茲種種樂　菩薩深妙智　通達無障礙　開導諸衆生　淨修殊勝業　滅除衆煩惱

一切不善行　修習涅槃道　度脫一切衆　無量智慧明　猶如淨日光　具足淸白行　譬如月盛滿
無邊功德藏　猶如十方海　無垢無所染　淸淨如虛空　菩薩初發心　儞讃不可盡　悉令諸衆生
具受一切樂　無量無數劫　廣修諸大願　常習功德業　調伏衆生故　無量無有數　淨願難思議
皆悉具足滿　令衆得淸淨　普觀一切法　悉空無相願　弘誓願力故　心淨無所畏　解法眞實性
淸淨如虛空　定亂悉平等　寂滅無所有　甚深諸妙法　無量難思義　常爲大衆說　其心無染著
十方世界中　一切諸如來　彼佛常讃歎　菩薩初發心　無量妙功德　莊嚴初發心　至彼淸淨岸
性同諸如來　一切衆生類　無量無數劫　儞讃初發心　功德不可盡　諸佛功德藏　菩薩由是生
於諸三有中　最勝無倫匹　欲得一切佛　明淨智慧燈　應建弘誓願　速發菩提心　一切功德中
菩提心爲最　能得無礙智　從佛法化生　一切衆生心　悉可分別知　一切剎微塵　尙可算其數
十方虛空界　一毛猶可量　菩薩初發心　究竟不可測　因初菩提心　出生三世佛　一切諸衆生
種種上妙樂　佛所讃功德　因此悉具足　於佛境界中　其心無疑惑　若能永遠離　一切諸疑惑
則能滅衆生　無量諸障礙　因初菩提心　嚴淨諸佛國　普令一切衆　具足微妙智　欲見十方剎
三世一切佛　又欲得無量　甚深功德藏　若欲滅衆生　無量生死苦　應建堅誓願　速發菩提心

大方廣佛華嚴經卷第九

涅槃三本俱作泥洹

大方廣佛華嚴經卷第十

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯　〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明湯〕

明法品第十四

爾時精進慧菩薩。問法慧菩薩言。佛子。初發心菩薩。成就如是無量功德之藏。以大莊嚴而自莊嚴。乘一切智乘入菩薩離生道。遠離世間志求正覺。諸佛所住皆以得住。決定成就無上菩提。彼菩薩摩訶薩。云何修習功德轉勝。令諸如來皆悉歡喜。具足菩薩所住功德清淨之行。大願成滿得菩薩藏。隨其所應而化度之。已能不捨諸波羅蜜。隨所請衆生皆悉度脫。興隆三寶永使不絕。一切所爲善根境界。諸行方便皆悉不虛。善哉佛子。當爲我等演說此法。願樂欲聞。如諸菩薩所修功德。滅除癡闇。降伏衆魔。制諸外道。離於塵垢。具足成就一切功德。究竟永離惡道諸難。具足清淨甚深智慧。菩薩一切諸地功德諸波羅蜜三昧總持六通三明清淨之法。莊嚴一切諸佛世界。具足相好。微妙音聲。清淨心行。一切如來力無所畏。十八不共。薩婆若智。具足佛刹隨成熟衆生。隨時隨根。無量佛事。及諸菩薩無量功德。菩薩正法菩薩所行。菩薩之道菩薩境界。皆悉滿足。速成如來一切諸佛無量法藏。悉能守護。分別廣說開示顯現。衆魔外道所不能壞。攝持正法而無窮盡。於一切世界悉能演說。天王。龍王。夜叉王。乾闥婆王。阿脩羅王。迦樓羅王。緊那羅王。摩睺羅伽王。人王。梵王。諸佛法王。皆悉守護此菩薩摩訶薩。一切世間恭敬供養尊重讚歎。常爲諸佛之所護念。一切菩薩皆亦愛敬。得善根力增長白法。能開諸佛甚深法藏。以大正法而自莊嚴。次第演說菩薩所行。爾時精進慧菩薩。欲重宣此義。以偈頌曰

善哉願說大乘法　菩薩所成諸功德　深入廣大無量行　具足清淨無師智　若有菩薩初發心
成就功德智慧乘　入離生道出世間　決定疾得佛菩提　云何於佛正法中　修習功德轉增勝

熟三本俱作就。成熟衆生數化成熟等之熟以下皆同

人明作大次亦同

正三本俱作修

知宋明俱作智

常三本俱作當

令諸如來悉歡喜　佛所住地而得住　所行清淨大顯滿　具足菩薩智慧藏　悉能度脫一切衆
而於群生無所著　不捨一切波羅蜜　諸所施爲悉不虛　所請衆生皆能度　興隆佛法永不絕
淨眼境界無障礙　具足功德求佛道　人雄所行清淨道　悉爲具足分別說　滅除一切愚癡闇
降伏衆魔制外道　離垢功德皆成就　得人中尊妙智慧　永離衆難惡道苦　清淨智慧皆具足
無量甚深大功德　成就最勝諸道力　得人中上妙智慧　隨其所應而度之　不可思議諸佛刹
自在無量作佛事　一切殊勝甚深行　分別人雄功德藏　常能護持最勝法　世間諸難莫能壞
云何無畏如師子　功德具足如滿月　猶如蓮華不著水　功德清淨如最勝

爾時法慧菩薩。告精進慧菩薩言。善哉善哉。佛子。多所饒益。多所安樂。多所惠利。哀愍世間諸天人故。能問如是菩薩甚深清淨之行。佛子。汝住甚深眞實智慧大精進力。一心修習得不退轉。超出世間。所問自在與如來等。佛子。汝今諦聽善思念之。我當承佛神力爲汝少說。佛子。此菩薩摩訶薩。已得發心功德之藏。應離癡闇精勤守護滅諸放逸。佛子。菩薩摩訶薩。有十種法得不放逸。何等爲十。一者持戒清淨。二者遠離愚癡淨菩提心。三者捨離諂曲哀愍衆生。四者勤修善根得不退轉。五者常樂寂靜遠離在家出家一切凡夫。六者心不願樂世間之樂。七者專精修習諸勝善業。八者捨離二乘求菩薩道。九者常習功德心無染汙。十者善能分別自知己身。佛子。是爲菩薩修十種行住不放逸。佛子。菩薩摩訶薩。已能住此不放逸法。又復正行十種淨法。何等爲十。佛子。此菩薩摩訶薩。如說修行念智成就。捨離調戲諸放逸行。安住甚深微妙善法。常樂求法心無厭足。隨所聞法得眞實觀。具足出生巧妙智慧。能入佛自在。心常寂定未曾散亂。聞好聞惡心無憂喜。猶如大地。等視衆生。上中下類悉如佛想。恭敬供養和尙諸師及善知識菩薩法師。念念次第如一切智。佛子。是爲菩薩十種淨法。佛子。菩薩摩訶薩。如是精勤修習念知。不捨方便。心無所倚。修甚深法入於無諍。無量無邊深妙佛法。皆悉了知。令諸如來皆悉歡喜。佛子。菩薩摩訶薩。行十種法。能令一切諸佛歡喜。何等爲十。一者所行精勤而不退轉。二者不惜身命。三者不求利養。四者修一切法猶如虛空。五者巧方便慧觀察諸法等同法界。六者分別諸法心無所倚。七者常發大願。八

薩下三本俱有
摩訶薩三字
能速同作速能

者成就清淨忍智光明。九者善知一切損益諸法。十者所行法門皆悉清淨。佛子。是爲菩薩行十種法能令一切諸佛歡喜佛子菩薩復安住十法。能令一切諸佛歡喜。何等爲十。安住不放逸。安住無生法忍。安住大慈。安住大悲。安住滿足諸波羅蜜。安住菩薩清淨之行。安住滿足無量大願。安住巧方便。安住一切力。安住一切法。猶如虛空無所依止。佛子。是爲菩薩安住十法能令一切諸佛歡喜。佛子。菩薩摩訶薩。行十種法。能速成就一切諸地。何等爲十。一者心常樂行諸功德事。二者行大莊嚴諸波羅蜜道。三者智慧明達不隨他語。四者恒不遠離眞善知識。五者常修精進而不退轉。六者善取佛意受持諸法。七者行諸善根心無憂感。八者以大乘莊嚴而自莊嚴明利慧光普照一切。九者安住一切諸地法門。十者同三世佛善根正法。佛子。是爲菩薩行十種法能速成就一切諸地。佛子。彼菩薩摩訶薩。住諸地已。先應修習巧妙方便。隨其所得諸地法門。隨其所得甚深智慧。隨其行業。隨其依果。隨其境界。隨其自在。隨其示現。隨其分別諸勝法門。得諸勝法門已。悉善分別。於一切法而無所著。所有諸法皆由心造。菩薩摩訶薩。若能如是明了觀察。則能具足一切諸地。彼菩薩摩訶薩。作如是念。我應速成一切諸地。何以故。我於諸地如說行時。速得無量諸功德藏。得無量功德藏已。漸到佛地。到佛地已能作佛事。是故菩薩摩訶薩。常勤修習不捨方便心無憂感。得大莊嚴住菩薩住。佛子。菩薩摩訶薩。復行十法。悉能清淨菩薩諸行。何等爲十。一者悉捨一切滿衆生意。二者持戒清淨無所毀犯。三者具足忍辱無有窮盡。四者勤修方便而不退轉。五者離癡正念常定不亂。六者分別明了一切諸法。七者具足成滿一切衆行。八者功德尊重心如山王。九者爲一切衆生作清涼池。十者令一切衆生同諸佛法。佛子。是爲菩薩行十種法悉能清淨菩薩諸行。佛子。菩薩摩訶薩。如是修行清淨之行。復得十種轉勝妙法。何等爲十。一者他方諸佛皆悉護念。二者修習長養超勝善根。三者安住如來巧密方便。四者常樂親近依善知識。五者安住精進修不放逸。六者分別諸法非總非別。七者安住具足無上大悲。八者觀法如實出生智慧。九者能善修行巧妙方便。十者一切方便觀如來力。佛子。是爲菩薩十種清淨轉勝妙法。佛子。菩薩摩訶薩。復有十種清淨之願。何等爲十。願成熟衆生心無憂感。願長養善根嚴淨佛剎。願恭敬供養一切如來。願不惜身命守護正法。願以種種諸智慧門悉令衆生生諸佛剎。願諸菩薩入不二法

門入佛法門分別諸法.願令一切所欲見佛悉得見之.願盡未來際一切諸劫如須臾頃.願具足普賢菩薩所願.願淨一切種智之門.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種清淨之願.佛子.菩薩摩訶薩.修行十法.悉能滿足一切諸願.何等爲十.一者生大莊嚴.心無憂慼.二者轉向勝願念諸菩薩.三者所聞十方嚴淨佛剎悉願往生.四者究竟未來際.五者究竟成就一切衆生滿足大願.六者住一切劫.不覺其久.七者於一切苦不以爲苦.八者於一切樂心無染著.九者悉善分別無等等解脫.十者得大涅槃無有差別.佛子.是爲菩薩摩訶薩悉能滿足一切諸願.菩薩摩訶薩.滿諸願已.逮得十種無盡法藏.何等爲十.得見諸佛無盡之藏.得陀羅尼無盡之藏.得分別法無盡之藏.得大悲心覆護一切無盡之藏.得諸三昧無盡之藏.得滿衆生意功德無盡之藏.得深智慧解法眞實無盡之藏.得出生諸通分別衆寶無盡之藏.得一切諸佛威神守護無盡之藏.得分別無量無邊世界智慧無盡之藏.佛子.是爲菩薩摩訶薩得十種無盡之藏.成就無量無邊功德之藏.具足淨慧.隨其所應而化度之.佛子.云何菩薩摩訶薩.隨其所應而化衆生.此菩薩.知諸衆生所宜方便.知諸衆生種種因緣.知諸衆生心心所念.知心念已敎對治法.貪欲多者敎不淨觀.瞋恚多者敎大慈觀.愚癡多者敎令分別一切諸法.三毒等分敎以具足勝智法門.樂生死者敎三種苦.著諸有者敎空法門.懈怠衆生敎行精進.我慢衆生敎平等觀.心諂曲者敎菩薩心寂靜非有.如是一切諸煩惱患.敎以無量對治法門.具足次第演說義味.分別智慧平等觀法先後無違.演說諸法破壞之性.而於法界無所散滅.斷除疑惑令悉歡喜.隨其諸根敎入眞諦.敎諸功德入如來海.說眞實際以壞衆相.敎等法界開示法藏.敎一切依心無所染.敎平等念.一切諸佛恭敬親近.敎柔輭音而無所著.敎一切音而無差別.敎殊勝法而無倫匹.敎具足一切如來平等智身.菩薩如是.常能化度一切衆生.而心寂定未曾散亂.不捨一切諸波羅蜜.具足莊嚴六波羅蜜.菩爲一切群生類故.悉能捨離內外所有.而未曾起慳吝之心.是名清淨檀波羅蜜.又復不生持戒相故於戒無著.是名清淨尸波羅蜜.悉能堪忍一切諸苦.聞好聞惡心無憂喜.未曾傾動猶如大地.是名清淨羼提波羅蜜.勇猛精進方便修習.其心堅固而不退轉.究竟成就佛智慧門.是名清淨毗梨耶波羅蜜捨一切欲.離生喜樂.清淨次第入於正受而無所染.燒滅煩惱生無量定.具大神通.次第超越.入於無量諸三昧

法三本俱作願
十下同有一者心無疲厭六字而一者作二者二者作三者乃至九者作十者中間記數准之脫下同無十者等十字
大明作人
差三本俱作分
六同作十
捨同作於

門明作日

門於一三昧門入無量三昧．悉知一切三昧境界．漸具諸佛智慧之地．是名清淨禪波羅蜜．於諸佛所聞法受持．恭敬親近諸善知識心無疲倦．常樂聞法無有厭足．所聞諸法能正觀察．入眞實定．捨離一切顚倒邪見．妙善方便分別了知諸法相海無有自性．修習如來深智慧門．具足一切智慧之力．乘普門慧．能入一切智慧之門．是名清淨般若波羅蜜．示現一切世間威儀．教化衆生心無憂慼．隨其所應示現其身．一切所行心無染著．示現童蒙黠慧所行．示現生死及解脫門．善能分別諸方便行．示現無量諸莊嚴事．能入一切諸生趣中．解了一切衆生所行．是名清淨方便波羅蜜．究竟成就一切衆生．究竟嚴淨一切世界．究竟供養一切如來．究竟解達諸法眞實而無障礙．究竟修行具足法界．究竟未來劫住如須臾頃．究竟未來劫猶如一念．究竟解達一切成壞．究竟示現一切佛刹．究竟逮得諸佛智慧．是名具足願波羅蜜．自專正力．離衆煩惱．具足清淨．能正他力．具足成就無能壞者．大悲力滿足．大慈力平等．悉能覆護一切衆生．陀羅尼力．能持一切諸方便義．妙辯才力．令諸衆生皆悉歡喜．諸波羅蜜力．莊嚴大乘．弘誓願力未曾斷絕．諸神通力．出生無量具佛神力覆護一切．是名清淨力波羅蜜．知貪欲增．知瞋恚增．知愚癡增．又知等分分別學地．於一念中．悉知衆生心心所行．能知衆生諸所希望．能知一切諸法眞實．解達諸佛深智慧力．普知一切諸法界門．是名清淨智波羅蜜．佛子．菩薩摩訶薩．如是清淨諸波羅蜜．滿足諸波羅蜜．不捨諸波羅蜜．乘大莊嚴悉能度脫所請衆生．教化一切修習善行．悉令一切永離惡道．勤修精進超出衆難．貪欲多者教離欲觀．瞋恚多者教平等觀．邪見多者教因緣觀．欲界衆生．教離欲恚惡不善法．色界衆生．教增上觀．無色界衆生．教細微智慧．樂聲聞緣覺教寂靜行．樂大乘者教以十力莊嚴大乘．如初發心時．見有衆生墮諸惡道．大師子吼．我當知其心病．以諸法門而濟度之．菩薩具足如此智慧．皆能度脫一切衆生．佛子．菩薩摩訶薩．能如是行者．則能興隆三寶永使不絕．所以者何．菩薩摩訶薩．教化衆生發菩提心．是故能令佛寶不斷．開示甚深諸妙法藏．是故能令法寶不斷．具足受持威儀教法．是故能令僧寶不斷．復次悉能讚歎一切大願．是故能令佛寶不斷．分別解說十二緣起．是故能令法寶不斷．行六和敬．是故能令僧寶不斷．復次下佛種子於衆生田．生正覺芽．是故能令佛寶不斷．不惜身命護持正法．是故能令法寶不斷．善御大衆心無憂想．是故能令僧

寶不斷.去來今佛所說正法不違其教.是故能令三寶不斷.菩薩如是不斷三寶.一切所行無有不善.彼能悉行一切廻向.決定究竟無上菩提.菩薩如是安住清淨身口意業已.所說善根敎化衆生.種種方便所言不虛.能令衆生皆得歡喜.彼菩薩摩訶薩諸所施行.乃至無有一念錯謬.如是一切諸深妙行.皆爲智慧方便攝持.悉能廻向無上菩提.如是菩薩安住離癡清白法已.於念念中具足出生十種莊嚴.何等爲十色身莊嚴.隨應示現.語言莊嚴.除衆疑惑悉令歡喜.意行莊嚴.於一念中入諸正受.佛刹莊嚴.滅除一切諸煩惱跡.光明莊嚴.普照十方.眷屬莊嚴.能集勝衆悉令歡喜.神力莊嚴.隨其所應自在示現.佛敎莊嚴.皆能攝取諸黠慧者.涅槃地莊嚴.一處成道悉能充滿示現十方.持法莊嚴.隨衆隨時隨其器量而爲說法.菩薩如是於念念中.具足出生十種莊嚴已.身口意行悉皆清淨.永離愚癡智慧成就.如此菩薩若有親近恭敬.隨逐出家聽受法敎.隨喜憶念乃至見聞.此等衆生.必定究竟無上菩提.佛子.譬如阿伽陀藥.衆生見者衆病悉除.菩薩成就如是無量法藏.衆生見者煩惱諸病皆悉除愈.於白淨法心得自在.佛子.菩薩摩訶薩.若得成就如是方便.安住此法.除滅愚癡.具足智慧.故降伏衆魔.大慈悲心故制諸外道.具足智慧功德力故.除滅一切心垢煩惱.入金剛定故.具足善根心無憂感.於先佛所修功德力故.能離一切惡道諸難.清淨智慧悉滿足故.出生菩薩清淨諸地諸波羅蜜一切三昧六通三明四無所畏次第方便智慧力故.淨諸佛刹.相好莊嚴身口意淨白淨法力故.得佛十力四無所畏十八不共平等佛法.智慧分別速解諸法.一切種智平等正覺諸大願力.如來神力大智慧力.隨隨衆生現諸佛刹.隨應受化轉大法輪.度脫無量無邊衆生.佛子.菩薩摩訶薩.如是修行無量法藏.次第具足得如來處.於無量刹修菩薩行.護持正法爲大法師.守護攝持如來法藏.成就四辯.於大衆中演暢深法.身相端嚴說法周備.於四辯才.具足無量巧妙方便.能得無盡諸智慧門.音聲殊妙.演一法言能悅一切.隨宜順導令得開解入智慧門.菩薩以如是等無量方便.普爲衆生開闡法藏.而未曾生懈怠之心.於大衆中而無所畏.一切世間無能壞者.具足增上般若波羅蜜.次第分別一切法相而無斷絕.勝妙四辯說一切法.種種譬諭不可窮盡.具足大悲.能令一切清涼悅樂.修習大慈充徧十方.處師子座.廣爲衆生說微妙法.唯除如來無能過者.無能見頂.無能觀察.無能屈者.無能問難.若能

妄明作忘

窮其言論之辯.無有是處.佛子.菩薩摩訶薩.成就如是勝妙法已.無邊世界滿中大衆.彼一一身.猶如三千大千世界.菩薩摩訶薩.處彼衆中其身殊特.映蔽大會皆悉不現.以大慈心普覆一切.甚深智慧分別彼心.成就無畏具足辯才.廣爲說法皆令歡喜.何以故.菩薩摩訶薩.成就無量淨智慧故.成就無量巧方便故.成就無量正念力故.成就無盡巧方便故.成就分別諸法陀羅尼故.成就分別諸法深智慧故.成就諸佛威神力故.成就三世諸佛實智慧故.成就三世諸佛清淨巧方便故.成就廣說一切諸佛甚深法藏護持法故.成就三世諸佛勝妙智慧菩薩大願智慧力故.爾時法慧菩薩.說是漸增功德藏已.欲重宣此義.承佛威神.以偈頌曰

菩薩住初地　長養功德藏　修習不放逸　慧光照十方　菩薩菩提心　守護常不妄　十方諸如來
心皆大歡喜　勤修行精進　正念力堅固　所行不退轉　不著於世間　常樂甚深法　成就無諍定
十方諸最勝　一切皆歡喜　諸佛歡喜已　究竟精進度　成就功德藏　無量深智慧　一切行清淨
具足於諸地　十方佛本願　皆悉具足滿　如是智慧成　得諸深法藏　得是法藏已　隨順於世間
成就巧方便　分別衆生心　隨所應教化　而爲演說法　已能廣說法　不捨於自行　具足波羅蜜
成就大功德　已具波羅蜜　本所請衆生　無量生死海　皆悉究竟度　如是常修習　日夜無休懈
興隆佛法僧　永使不斷絕　所修無量行　清白悉具足　一切皆究竟　成就最勝地　菩薩所修行
眞實無虛僞　度脫衆生類　離諸煩惱垢　成就如是法　除滅愚癡闇　降伏一切魔　究竟得菩提
佛子如是行　具足如來智　悉能分別說　諸佛甚深藏　若能如是說　法師中第一　等爲諸群生
普雨甘露法　無極大慈悲　充滿十方界　悉能分別知　一切衆生心　已了衆生心　及諸餘心行
爲後說深法　無量無有數　進止常安諦　猶如大象王　威猛如師子　一切莫能害　不動如須彌
智慧如大海　普雨甘露水　除滅煩惱熱

法慧菩薩.說是偈已.如來隨喜.大衆奉行

三本俱以佛昇夜摩天宮自在品爲卷十第一首

昇明作陞

大方廣佛華嚴經佛昇夜摩天宮自在品第十五

爾時如來威神力故.十方一切諸佛世界.諸四天下一一閻浮提.皆有如來坐菩提樹下.無不顯現.彼諸菩薩.各承佛神力說種種法.皆悉自謂在於佛所.爾時世尊.威神力故.不離道樹及帝釋宮.向夜摩天寶莊嚴殿.時彼天王遙見佛來.卽於殿上敷蓮華藏寶師子座.十萬種寶以爲莊嚴.十萬寶帳彌覆其上.十萬寶網以爲珓路次上十萬衆妙寶蓋.又復十萬天諸華蓋.天繒雜寶以爲垂帶.十萬瓔珞而莊嚴之.十萬寶衣.以敷其上.十萬天子在前立侍.十萬梵天而圍遶之.十萬菩薩在前讃歎.十萬光明以爲照耀.十萬妓樂自然演出.十萬正法娛樂音聲.十萬善根妙相顯現.十萬如來威神護持.十萬功德藏而長養之.十萬三昧而嚴淨之.十萬願藏以爲清淨.十萬奇特未曾有法勝相顯出.十萬妙法而現在前.十萬自在處處普現.十萬功德妙相等起.十萬音聲演出諸法.時彼天王.莊嚴寶蓮華藏師子座已.合掌恭敬白佛言.善來世尊.唯願哀愍處此宮殿.時佛受請卽昇寶殿.一切十方夜摩天宮亦復如是.爾時天王.無量音樂寂然無聲.卽自憶念過去佛所所種善根.以偈頌曰

名稱如來聞十方　諸吉祥中最無上　來入摩尼莊嚴殿　是故此處最吉祥
寶王如來世間燈　諸吉祥中最無上　來入甘露上味殿　是故此處最吉祥
喜王如來慧無量　諸吉祥中最無上　來入雜寶莊嚴殿　是故此處最吉祥
慧眼如來世間燈　諸吉祥中最無上　來入殊特最勝殿　是故此處最吉祥
饒益如來義無量　諸吉祥中最無上　來入清淨寶山殿　是故此處最吉祥
無師如來世間尊　諸吉祥中最無上　來入微妙寶香殿　是故此處最吉祥
天人中尊世間燈　諸吉祥中最無上　來入輕微妙香殿　是故此處最吉祥
無去如來論師子　諸吉祥中最無上　來入明淨普眼殿　是故此處最吉祥
分別如來功德持　諸吉祥中最無上　來入娛樂莊嚴殿　是故此處最吉祥
苦行如來利世間　諸吉祥中最無上　來入等色普照殿　是故此處最吉祥

如此間夜摩天王佛神力故憶念過去諸等正覺以偈讃歎.如是十方一切世界.夜摩天王.各自憶念過去佛所

跏三本俱作加下同

幢同作憧

藏寶三本俱作寶藏

有下同有須夜摩天王五字

聞下同有一切處咸顯五字

法下同有所從諸世界五字

等下同有各於其佛所五字

間明作界

所種善根以偈讚歎亦復如是。爾時世尊昇其寶殿寶蓮華藏師子座上。結跏趺坐。爾時寶殿忽然廣博。猶如夜摩天處。十方世界亦復如是

大方廣佛華嚴經夜摩天宮菩薩說偈品第十六

爾時十方各過十萬佛刹塵數世界。有世界名無量慧。次名幢慧。次名地慧。次名勝慧。次名燈慧。次名金剛慧。次名安樂慧。次名日慧。次名清淨慧。次名梵慧。其佛號常住眼。次號無量眼。次號眞實眼。次號不動眼。次號天眼。次號清淨眼。次號安諦眼。次號明相眼。次號無上眼。次號淨光澤眼。其菩薩名功德林。次名慧林。次名勝林。次名無畏林。次名慚愧林。次名精進林。次名力成就林。次名堅固林。次名如來林。次名智林。此諸菩薩。各於其國佛所淨修梵行。爾時佛神力故。彼諸菩薩。各與一佛世界塵數菩薩。來詣佛所恭敬禮拜。佛神力故隨所來方。化作寶藏師子之座。結跏趺坐。充滿十方。如此世界夜摩天上菩薩雲集。十方世界亦復如是。爾時世尊從兩足指。放百千億妙色光明。普照十方一切世界。諸四天下菩提樹下。夜摩天宮蓮華藏寶師子座。如來神力及諸大會。皆悉顯現。爾時功德林菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

普放淨光明　徧照十方界　一切悉覩佛　通達無障礙　佛處夜摩宮　蓮華寶座上　一切諸世間

奇特未曾有　讚歎十如來　衆生皆悉聞　世尊大衆會　一切無不見　普於十方界　演說無上法

亦悉同名字　如我菩薩衆　各從十方界　來詣於此處　彼諸上人等　清淨修梵行　彼諸如來等

亦各同名號　見佛清淨刹　自在神通力　一切見如來　人中或道場　又復見世尊　處此夜摩宮

一切諸世間　莫能思議佛　隨彼衆生願　一切皆悉見　衆生見如來　無量自在力　離世大仙人

功德藏無量　遊行十方界　一切無障礙　一身爲無量　無量身爲一　功德甚深妙　一切莫能測

無著無所依　清淨如虛空

爾時慧林菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

不可思議劫　天人師難値　離垢諸大人　此會亦難遇　悉皆一切智　慧光靡不照　演說深妙法
饒益於衆生　一切諸世間　常爲癡冥蔽　如來世燈明　皆悉能除滅　施戒忍精進　禪定三昧藏
修習深妙智　普照於一切　如來無與等　何況有勝者　顚倒取諸法　是故不見佛　自在神通力
無量難思議　無來亦無去　說法度衆生　若有得聞見　清淨天人師　永出諸惡道　遠離一切苦
無量無數劫　修習求菩提　逮成等正覺　廣度諸群生　不可思議劫　供養無量佛　若能解是義
功德勝於彼　雖施無量刹　滿中諸珍寶　不能解此義　終不成正覺

爾時勝林菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

猶如春後月　虚空無雲曀　日曜清淨光　一切無不照　光明無限量　世間無能數　有眼尙不知
何況盲冥者　如來亦如是　功德光無量　無量無數劫　莫能分別知　光明無來處　去亦無所至
不生亦不滅　空寂無所有　未來一切法　悉無有來者　無生無現在　是故無過去　一切法無生
亦復無有滅　若能如是解　斯人覩如來　諸法無生故　當知無所有　如是分別知　此人達深義
諸法無自性　一切無能知　若能如是解　是則無所解　所言有生者　當知由所生　解彼眞實性
是則無疑惑　一切諸所生　正觀亦如是　菩薩如是觀　具足一切智

爾時無畏林菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

此處無邊際　廣大如法界　一切無不至　湛然不遷變　若聞如是法　恭敬信樂者　永離三惡道
一切諸難苦　往詣諸世界　無量不可數　聞此甚深法　憶念善受持　聞受大仙人　清淨深妙法
一向求菩提　究竟無上道　深信過去佛　及彼諸佛法　一切世間燈　除滅衆癡闇　若有得聞佛
無量自在力　決定信向者　具足人中雄　若能一心信　現在一切佛　彼成等正覺　開示無量義
無量無數劫　此法甚難値　若有得聞者　當知本願力　如是佛深法　悉能善受持　廣爲衆生說
是人難思議　是故勤精進　修行大莊嚴　聞持是正法　究竟得菩提

曀三本俱作翳
至同作生

爾時慚愧林菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

得聞眞諦法　殊特未曾有　歡喜信樂者　除滅衆疑惑　一切知見人　自說深妙法　佛慧靡不照
是故難思議　非從智慧生　亦非無智生　了達一切法　除滅世間闇　色法非色法　此二不爲一
愚智亦如是　其性各別異　生死及涅槃　此二悉虛妄　愚智亦如是　二俱無眞實　世界始成立
無有敗壞相　愚智亦如是　二俱相乖違　菩薩初發心　及以最後心　愚智亦如是　二俱不相應
譬如六情識　迭用互不同　愚智亦如是　究竟不和合　譬如伽陀藥　消滅一切毒　智慧亦如是
除滅諸癡闇　法王無上尊　是勝莫能過　所說皆眞實　以故難値遇

爾時精進林菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

諸法無差別　唯佛分別知　一切無不達　智慧到彼岸　如金及金色　其性無差別　如是法非法
其性無有異　衆生非衆生　二俱無眞實　如是法非法　其性無所有　譬如未來世　無有過去相
一切法如是　無有眞實相　譬如過去法　無有生起相　諸法亦如是　皆悉無有相　涅槃不可取
說時有二種　諸法亦如是　無有差別相　譬如種種數　皆悉是數法　諸法亦如是　其性無別異
譬如數法十　增一至無量　皆悉是本數　智慧故差別　譬如諸世界　劫燒有終敗　虛空無損滅
無師智亦然　十方空無異　衆生起分別　如是取如來　虛妄不見佛

爾時力成就林菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

一切衆生類　悉皆三世攝　三世諸衆生　皆爲五陰攝　五陰從業起　諸業因心起　心法猶如幻
衆生亦如是　世間非自作　亦復非他作　不知眞實性　生死輪常轉　所謂世間轉　皆悉是苦轉
衆生不知故　生死輪常轉　世間非世間　二俱非眞實　衆生愚癡故　妄取諸法相　三世五陰法
說名爲世間　斯由虛妄有　無則出世間　何等是五陰　五陰有何相　不見五陰壞　妄取謂常住
五陰虛妄法　眞實無所有　空寂不遷變　究竟離衆相　世間旣虛寂　佛及法亦然　斯等三種法

見三本俱作現

癡同作疑

其性無所有　除滅諸顛倒　明了見眞實　一切知見人　常現在其前

爾時堅固林菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

譬如地種性　自性無所有　一切佛自在　其性亦如是　一切諸世間　咸共稱讚佛　求彼稱讚法
十方無來處　衆生虛妄取　謂之爲眞實　分別離衆生　業性不可得　業性無所有　衆生身非眞
種種無量色　亦復無來處　一切諸形色　業性難思議　雖見無所有　識性亦如是　諸佛身如是
不可得思議　無量妙色身　普現一切刹　無量身非佛　佛非無量身　淸淨妙法身　究竟度彼岸
若有能得見　淸淨妙法身　是人於佛法　其心無癡惑　過去一切法　觀察等涅槃　彼人見如來
究竟常安住　修習正憶念　明了見正覺　無相無所有　是名法王子

爾時如來林菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

譬如工畫師　分布諸彩色　虛妄取異色　四大無差別　四大非彩色　彩色非四大　不離四大體
而別有彩色　心非彩畫色　彩畫色非心　離心無畫色　離畫色無心　彼心不常住　無量難思議
顯現一切色　各各不相知　猶如工畫師　不能知畫心　當知一切法　其性亦如是　心如工畫師
畫種種五陰　一切世界中　無法而不造　如心佛亦爾　如佛衆生然　心佛及衆生　是三無差別
諸佛悉了知　一切從心轉　若能如是解　彼人見眞佛　心亦非是身　身亦非是心　作一切佛事
自在未曾有　若人欲求知　三世一切佛　應當如是觀　心造諸如來

爾時智林菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

所取不可取　所見不可見　所聞不可聞　所思不可思　於有量無量　不應作限量　有量及無量
二俱無所取　不應說而說　是爲自欺誑　己事不成就　不能悅衆生　若有能讚歎　無量諸如來
不可思議劫　功德不可盡　猶如隨意珠　能現無量色　此色非眞色　諸佛亦如是　如虛空淸淨
非色不可見　能現一切色　其性不可見　如是大智人　示現無量色　非識之所識　一切莫能觀

雖聞如來聲　音聲非如來　離聲復不知　如來等正覺　是處甚深妙　若能分別知　莊嚴無上道

遠離諸虛妄　一切諸如來　無有說佛法　隨其所應化　而爲演說法

大方廣佛華嚴經卷第十

大方廣佛華嚴經卷第十一

〔麗湯〕〔宋坐〕〔元坐〕〔明坐〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

功德華聚菩薩十行品第十七之一

爾時功德林菩薩摩訶薩。承佛神力。入菩薩善伏三昧。入三昧已。十方各過萬佛世界塵數剎外。各見萬佛世界塵數諸佛。是諸如來皆號功德林。時彼諸佛告功德林菩薩言。善哉善哉。佛子。乃能入是善伏三昧。十方各萬佛剎塵數諸佛。加汝神力故。能入是善伏三昧。盧舍那佛本願力故。威神力故。諸菩薩善根力故。欲令汝廣說甚深法故。長養一切智故。分別一切衆生性故。離一切障礙入無障礙境界故。成就一切方便故。成就一切種智故。覺悟一切法故。善知諸根故。聞持一切法故。所謂菩薩十行。佛子。當承佛神力廣說妙法。時彼諸佛。即與功德林菩薩無障礙法。與安住法。與無師法。與無癡法。與不雜亂法。與清淨法。與無量法。與最勝法。與無垢法。與不退法。何以故。彼三昧力故。爾時諸佛各申右手。摩功德林菩薩頂。摩其頂已。即從定起。告衆菩薩言。諸佛子。菩薩行樣不可思議。廣大如法界究竟如虛空。何以故。菩薩摩訶薩。學三世諸佛所行法故。佛子。何等爲菩薩摩訶薩行。菩薩有十行。三世諸佛之所宣說。何等爲十。一者歡喜行。二者饒益行。三者無恚恨行。四者無盡行。五者離癡亂行。六者善現行。七者無著行。八者尊重行。九者善法行。十者眞實行。是爲十行。佛子。何等爲菩薩摩訶薩歡喜行。此菩薩爲大施主。悉能捨離一切所有。等心惠施一切衆生。施已無悔。不望果報不求名譽不求生勝處不求利養。但欲救護一切衆生。欲攝取一切衆生。欲饒益一切衆生。欲學一切諸佛本行。欲正憶念諸佛本行。欲得清淨諸佛本行。欲得受持諸佛本行。欲顯現諸佛本行。欲廣說諸佛本行。欲令一切離苦得樂。是名菩薩摩訶薩歡喜行。菩薩修歡喜行時。一切衆生歡喜愛敬。隨諸方土有貧窮處。菩薩願往生彼。豪貴大富財寶無盡。於念念中有無量

申三本俱作伸

殊三本俱作姝
加下同無惡字

無邊無數衆生。詣菩薩所。白言。仁者。我等貧窶靡所資贍。願垂慈救得濟生命。菩薩念念應其所須。悉令滿足。靡不歡喜。菩薩不以求索煩重而生憂惱。但發無上大慈悲心施無厭足。欲令常來。來已稱慶倍復歡喜作如是念。我得善利。此等衆生。是我福田是我善友。不請不求自來敎誨。發起我心修行佛道。我今應當如是修學。普令衆生悉得歎喜。我於三世所修功德。願速成就清淨法身。神力自在。悉令衆生隨其所須皆得歡喜。以此功德。令諸衆生悉成正覺。度脫無量衆生。悉令究竟無餘涅槃。我當先令一切衆生滿足諸願。然後我當成等正覺。離我想衆生想。我所想壽命想。種種想福伽羅想作者想。法界衆生界空無差別。離欲法非眞實法。無所有法非堅固法。非恃怙法非所作法。菩薩如是觀時。不見施者不見受者。不見財物不見福田。不見業不見報。不見果不見大果不見小果。菩薩觀察三世。發如是念。哀哉衆生。爲愚癡所覆煩惱所纒。常流生死輪廻苦海。於不堅固法不得堅固。我當盡學諸佛所學饒益衆生。成等正覺開悟一切皆令淸淨。隨順寂滅觀三世法。是名菩薩摩訶薩初歡喜行。佛子。何等爲菩薩摩訶薩第二饒益行。此菩薩持戒清淨。於色聲香味觸法心無染著。廣爲衆生說無染法。不求生於人天勝處尊貴之家。不求利養不求端正不求帝王。但堅持淨戒。作如是念。我持淨戒。離一切纒煩惱熾火憂悲苦惱。不負衆生。諸佛歡喜。究竟成就無上菩提。菩薩如是持淨戒時。於一日中。若有無量無數阿僧祇諸大魔王。一一魔王。各將無量無數阿僧祇諸天女衆。皆悉端正顏貌姝妙。姿容妖豔傾惑人心。又復齎持一切樂具。欲來惑亂菩薩道意。爾時菩薩作如是念。此五欲者是障道法。乃能障礙無上菩提。是故菩薩。乃至不生一念欲心。心淨如佛。除其方便敎化衆生。內不離菩薩一切種智。堅固正念。不爲五欲因緣故起一惡念惱亂衆生。寧捨身命不加惡於人。若加惡於人無有是處。菩薩自見佛已來。未曾有心起一欲想。何況從事。若或從事無有是處。爾時菩薩作如是念。衆生長夜在生死中。憶念五欲貪著五欲愛樂五欲。心常流轉五欲境界。永沒五欲莫之能出。我今應當作如是學。令諸魔王天女眷屬及一切衆生立無上戒。立淨戒已。又敎令得不退轉地一切種智成等正覺。乃至究竟無餘涅槃。何以故。此是我業一切諸佛皆如是學。離諸非行計我無知。觀一切佛平等深法。得一切智。爲衆生說法。斷除顚倒。不離衆生而有顚倒。不離顚倒而有衆生。顚倒內無衆生。衆生內無顚倒。顚倒

杖三本俱作仗

非衆生。衆生非顚倒。顚倒非內法。顚倒非外法。衆生非內法。衆生非外法。一切諸法但是虛妄無有眞實。須臾不住無有堅固。猶如幻化欺誑愚夫。悟一切法如夢如電。如是解者。能達生死究竟菩提。未度者度未脫者脫。未調伏者令得調伏。未寂靜者令得寂靜。未安隱者令得安隱。未離垢者令得離垢。未清淨者令得清淨。未涅槃者令得涅槃。未快樂者令得快樂。我當捨離世間衆事。令諸如來皆悉歡喜。具足成就一切佛法。安住無上最勝法中。平等正觀一切衆生。分別了知一切諸法。遠離諸惡永捨虛妄。除滅一切煩惱習氣。成就出要勝妙方便。悉得無量無邊辯才。成就甚深空寂智慧。是名菩薩摩訶薩第二饒益行。佛子。何等爲菩薩摩訶薩第三無恚恨行。此菩薩常能修習忍辱之法。謙卑恭敬和顏愛語。不自害不害他亦不俱害。不自舉不擧他亦不兩擧。不自是不是他亦不兩是。不自讚歎。但作是念。我當常爲衆生說法離一切惡。斷貪恚癡憍慢亂心慳嫉諂曲。以大忍法而安立之。菩薩成就如是清淨忍法。設有無量無數衆生。一一衆生。各有無量無數眷屬。一一衆生。各有無量無數化頭。頭有無量阿僧祇舌。舌出無量無數惡聲。聲出無量無數惡罵音辭。鄙穢毀辱菩薩。又此衆生。各有無量阿僧祇手。手執無量無數刀杖。捶擊摧辱毀害菩薩。乃至無量阿僧祇劫未曾休息。菩薩遭此楚毒之時。作如是念。我因是苦。若生恚心。則自不調伏自不守護。自不明了自不寂靜。自不修定自不眞實。自愛其身。何能令彼生歡喜心而得度脫。菩薩作是思惟。因身心故。於無量劫受諸苦惱。是故重自勸勵。令心歡喜善自調攝。何以故。我當安住無上法故。欲令衆生亦得此法。復更思惟。此身空寂無我我所。無眞實性空無有二。若苦若樂皆無所有。諸法空故。我當解了廣爲人說。是故我今雖遭苦毒。應當忍受。爲慈愍衆生故。饒益衆生故。安隱衆生故。攝取衆生故。不捨衆生故。欲令衆生得不退轉。究竟成就無上菩提。佛所行法我當修行。是名菩薩摩訶薩第三無恚恨行。佛子。何等爲菩薩摩訶薩第四無盡行。此菩薩勤修精進。勝精進最勝精進。第一精進大精進。微妙精進上精進無上精進。無等精進無等等精進。彼菩薩。不爲貪欲所亂。不爲瞋恚愚癡憍慢惱害慳嫉嫉恨諂曲無慙無媿之所惱亂。菩薩復作是念。我不欲惱諸衆生。乃至不欲惱一衆生故。勤修精進。但欲捨離諸煩惱故。修行精進。欲害一切結故。修行精進。欲離一切習氣故。修行精進。欲悉分別一切衆生故。修行精進。欲知一切衆生死此生彼故。修行

精進.欲知一切衆生煩惱習故.修行精進.欲知一切衆生種種希望故.修行精進.欲知一切衆生諸境界故.修行精進.欲知一切衆生諸根故.修行精進.欲知一切衆生心心所行故.修行精進.欲知一切法境界故.修行精進.欲知諸佛實法故.修行精進.欲知諸佛平等法故.修行精進.欲以善方便知三世平等故.修行精進.欲知淸淨平等法故.修行精進.欲得一切諸佛法故.修行精進.欲以一方便門知一切佛法故.修行精進.欲知諸佛無量無邊不可思議故.修行精進.欲知諸佛大智慧善方便故.修行精進.欲知一切佛法廣爲衆生句句分別故.修行精進.菩薩成就如是精進.若有人言.無量無數阿僧祇世界衆生.汝能爲此一一衆生故.於無量無數阿僧祇劫.具受無擇大地獄苦.令彼衆生究竟涅槃.復有無量無數阿僧祇佛.出興於世.令無量無數阿僧祇衆生受種種樂.汝猶具受大地獄苦.然後汝當成阿耨多羅三藐三菩提.菩薩答言.我悉能爲爾所世界一一衆生受地獄苦.諸佛出世衆生受樂.我亦受苦.然後我當成無上道.復有人言.汝若能以一毛渧無量無邊阿僧祇諸大海水皆悉令盡.無量無邊阿僧祇世界.末爲微塵.悉知其數.如是念念次第常不廢忘菩提之心.菩薩若聞是語.不退不悔歡喜躍躍.勤修精進作如是念.我得善利.因我故令無量無邊阿僧祇世界衆生永離衆苦.菩薩復作是念.我當代一切衆生受一切苦.普令衆生離一切苦.悉皆究竟無餘涅槃.然後我當成無上道.是名菩薩摩訶薩第四無盡行.佛子.何等爲菩薩摩訶薩第五離癡亂行.此菩薩成就第一正念.未曾散亂.堅固不壞.第一最勝淸淨無量.捨離癡冥分別正念.善能受持世間出世間經論.色法非色法經論.受想行識經論.無有癡亂.死此生彼無有癡亂.處胎出胎無有癡亂.住菩提心無有癡亂.親近善知識無有癡亂.學諸佛法無有癡亂.覺諸魔事無有癡亂.遠離魔事無有癡亂.於無量劫修菩薩行.菩薩成就如是等無量無數堅固正念.於無量無數阿僧祇劫.從諸佛菩薩善知識所聞受正法.所謂甚深法.微妙法.莊嚴法.種種莊嚴法.種種名味句身法.莊嚴菩薩法.莊嚴諸佛無上法.正希望淸淨法.不染一切世間法.分別一切世間法.廣法無量法.捨離癡暗分別世間法.共法不共法.菩薩智境界法.一切智自在法.菩薩聞此法已.於無量無邊阿僧祇劫.未曾退忘.何以故.菩薩摩訶薩.本無量劫修道行時.未曾惱亂衆生.正念三昧不斷正法不斷善根不斷智慧故.此菩薩無量種聲不能嬈亂.所謂高大聲.惱亂聲.令人

三本俱佛子以下爲卷第十二功德華聚菩薩十行品第十七之二薩下同無摩訶薩三字著明作脫法下三本俱有門字相同作性

恐怖聲.微妙聲.不可愛聲.散亂六根聲.菩薩聞如是等無量無數好惡諸聲.於正念不亂.三昧不亂.境界不亂.入微妙法不亂.菩薩行不亂.修習菩提心不亂.念佛三昧不亂.觀察眞實法不亂.敎化衆生智不亂.成就衆生不亂.安立衆生淸淨智不亂.觀察甚深義不亂.不行惡業故無惡業障.不行煩惱故無煩惱障.不行不恭敬故無不恭敬障.不行謗法故無謗法障.如是等無量種聲.一一音聲.充滿十方無量無邊阿僧祇世界.於無量無邊阿僧祇劫.未曾斷絕.悉能壞亂衆生諸根.令其發狂而不能亂.此菩薩甚深三昧.菩薩於三昧中.思惟分別一切音聲生住滅相.善分別知生住滅性.亦善觀察諸聞聲者.聞好惡聲心無憎愛正念不亂.於彼諸聲善取其相而不染著.知一切聲皆無所有非眞實性.無有造者亦無本際.與法性等無有差別.是菩薩.成就寂靜身口意行.不復退轉.安住諸禪三昧正受.悟一切法智慧成就.得離一切音聲三昧.阿僧祇三昧門以爲眷屬.長養大悲.於念念中.能得無量阿僧祇三昧.究竟成就一切種智.菩薩聞此能壞諸根大惡音聲已.作如是念.我當令一切衆生安住淸淨正念.於一切智得不退轉.究竟成就無餘涅槃.是名菩薩摩訶薩第五離癡亂行.佛子.何等爲菩薩摩訶薩第六善現行.此菩薩.成就寂滅身口意業.無所有無所示現.身口意業.無縛無脫.身口意業.無縛無脫.諸所示現.無所依無所住.隨心住.無量心性等一切法性.等無性相.示現無相相.甚深無底.如如性離業報.善方便出生離生.不生不滅.寂滅涅槃等.非有說有.語言道斷.離一切世間.無所依住.長養菩薩所起善根.入離虛妄無縛無著法門.入眞實法門.入離世間法門.分別一切世間法.菩薩作如是念.一切衆生無性爲性.一切諸法無爲爲性.一切佛剎無相爲相.究竟三世皆悉無性.言語道斷.於一切法而無所依.菩薩解如是等諸甚深法.解一切世間悉皆寂滅.解一切諸佛甚深妙法.解佛法世間法等無差別.世間法入佛法.佛法入世間法.佛法世間法而不雜亂.世間法不壞佛法.眞實法界不可破壞.安住三世平等正法.亦不捨菩提心.不捨敎化衆生心.增長大慈大悲心.悉欲救度一切衆生.菩薩作是念.我不成就衆生誰當成就.我不調伏衆生誰當調伏.我不寂靜衆生誰當寂靜.我不令衆生歡喜誰當令歡喜.我不淸淨衆生誰當令淸淨.菩薩復作是念.我以解了此甚深法.見諸衆生受大苦惱趣危險徑.爲諸煩惱之所纏縛.如重病人常被苦痛.恩愛繫縛在生死獄.常不離地獄餓鬼畜生閻羅王處.不

末明作粖末香之末下同

能永滅無量苦聚。不離三障。常處愚癡暗。不見眞實明。受無窮生死。不得解脫道。輪迴八難。愚癡所病諸垢所染。沒在無量深煩惱海。邪見所惑不覩正道。菩薩作如是觀察。衆生若未成熟。而捨取正覺。是所不應。我當先敎化衆生。於無量劫修菩薩行。未成熟者敎令成熟。未調伏者敎令調伏。諸未度者敎令得度。是菩薩住此行時。諸天世人魔王釋梵沙門婆羅門諸天乾闥婆等。見此菩薩歡喜敬仰。若有衆生。恭敬供養尊重禮拜。乃至見聞皆悉不虛。畢定究竟阿耨多羅三藐三菩提。是名菩薩摩訶薩第六善現行。佛子。何等爲菩薩摩訶薩第七無著行。此菩薩以無著心。於念念中。能觀察阿僧祇世界。嚴淨阿僧祇佛剎。於諸佛剎心無染著。往詣阿僧祇諸如來所。禮拜恭敬。以阿僧祇華香塗香。末香衆寶華鬘天衣雜寶。寶蓋幢幡諸莊嚴具各阿僧祇以用供養心無所著。阿僧祇諸方便行而無所行。阿僧祇思無思法住。於念念中。見無量諸佛。於諸佛所心無所著。於佛相好心無所著。於佛光明心無所著。於諸佛剎心無所著。聞佛說法心無所著。於十方世界心無所著。於如來衆心無所著。於菩薩衆心無所著。聞法歡喜心無所著。正心增廣攝意不亂。行菩薩行不著佛法。此菩薩摩訶薩。於十方剎一一佛所。無量無邊阿僧祇劫。恭敬禮拜供養心無厭足。見佛聞法心無所著。見諸如來菩薩大衆。以爲莊嚴心無所著。見不淨剎心不憎惡。何以故。菩薩摩訶薩。寂滅平等觀諸法故。諸法無垢無淨。無闇無明。無分別無不分別。無虛妄無眞實。無安隱無危險。無正道無邪道。菩薩如是觀眞實法性。入衆生性。敎化調伏成熟衆生。於彼衆生心無所著。受持諸法。而於諸法心無所著。不捨菩薩心。而住佛所住。心無所住心無所著。入種種語言道。於語言道心無所著。入衆生道。於衆生道心無所著。分別諸三昧正受。皆悉能入心無所著。往詣無量無邊不可說諸佛國土。見彼佛國心無所著。若去佛國心無餘戀。菩薩摩訶薩。於諸佛國。以無貪著心解佛實敎。於無上道而無障礙。於佛正敎已得安立。具足菩薩行。安住菩薩心。成就菩薩寂滅解脫。不念不著菩薩所行。住菩薩淨道受眞實記。得授記已作如是念。凡夫愚癡。不知眞諦不見眞諦。闇鈍無信心不眞實。常行染著流轉生死。不見諸佛離善知識。離於正道迷惑邪見。不求調御師。不敬十力王。不知菩薩恩。親近惡知識。聞諸法空心大恐怖。不正思惟誹謗正法。棄捨正道好從邪徑。入魔羅網遠離諸佛。常著諸有受種種苦。爾時菩薩。見彼衆生受諸苦已。增長大悲觀諸善

一上元明俱有一字

根心無所著.爾時菩薩.作如是念.我當爲十方一一衆生故.住無量無邊阿僧祇劫.成熟衆生心無疲厭.常共止住.不欲捨離去如毫端.以一毫端.悉徧量度十方世界.爲一衆生故.於一一毫端處.各住無量無邊阿僧祇劫.如爲一衆生.爲一切衆生亦復如是.以此大悲心.念念次第未曾斷絕.而於衆生心無所著.於一一毫端處.具足修習盡過去未來際諸菩薩行.不著身不著法.不著念不著願.不著三昧不著.行不著寂靜不著境界.不著教化成熟衆生.不著入深法界.何以故.菩薩如是觀察.一切法界如幻.諸佛法如電.菩薩行如夢.所聞法如響.一切世界如化.業報所起如摩㝹摩化身.知一切衆生猶如畫像.種種異形皆由心畫.所說諸法皆如實際.於一念中.徧滿十方修菩薩行.廣大如法界.究竟如虛空.於一念中.悉知諸佛決定方便.了知心相迴轉迅速.而於此心無所染著.菩薩如是觀察.無我見佛化度一切衆生.於佛法中得無量喜.越大慈悲救護一切.心無憂惱得歡喜願.未成熟者當令成熟.未調伏者當令調伏.遠離世間而能隨順一切世間.若聞諸方國土衆生音聲.衆生諸業衆生施設.衆生和合衆生流轉.衆生諸行衆生境界.衆生諸地衆生興起.我當乘大願之力普至彼處.終不捨弘誓.教化衆生.乃至不起一念染著.所以者何.以無所著故.自利利彼清淨滿足.是名菩薩摩訶薩第七無著行.佛子.何等爲菩薩摩訶薩第八尊重行.此菩薩成就尊重善根.不壞善根.最勝善根.不思議善根.無盡善根.不退善根.無比善根.寂靜善根.一切佛法善根.此菩薩修習行時.心常愛樂諸佛妙法.一向專求無上菩提.未曾暫捨菩薩大願.於無量劫行菩薩道.不計衆苦而生憂惱.一切衆魔所不能壞.一切諸佛悉共護念.常行菩薩諸清淨行.精勤修習一切菩薩無量苦行未曾懈倦.得不退轉大乘弘願.此菩薩安住尊重菩薩行已.於念念中能轉阿僧祇劫生死苦難.長養菩薩無量大願.若有衆生.恭敬供養乃至見聞.斯等皆得住不退轉.決定究竟無上菩提.彼菩薩觀察衆生.了達非有而不捨一切.譬如河水.不至彼岸不來此岸不斷中流.能度衆生於彼此岸.以流通故.菩薩摩訶薩亦復如是.不趣生死不趣涅槃.亦復不住生死中流.而能濟度此岸群生.到於彼岸.安穩無畏無憂惱處.於衆生數心無所著.不離一衆生著多衆生.不離多衆生著一衆生.不增衆生界.不損衆生界.不生衆生界.不滅衆生界.不盡衆生界.不長衆生界.不虛衆生界.不二衆生界.何以故.菩薩深解衆生界如法界.衆生界法界無有二.

猗三本俱作倚

盡上同有窮字
夫下同有法字

住三本俱作法

至同作到

無二法中無增無損。無生無滅。法性眞實無來無去。無所猗著不作二相。何以故。菩薩解一切法界無二相故。菩薩如是以善方便解深法界住無相住。淸淨妙相莊嚴其身。善能分別一切諸相。決定究竟到於彼岸。悉分別知衆生之數。善能現身一切佛剎。於諸佛剎心無所著。深入佛法亦無所染。分別義味廣爲人說。於一切法離諸欲際。而不斷菩薩道。不捨菩薩行。行無盡功德。入淸淨法界。譬如火珠出火不可窮盡。如是菩薩諸功德藏不可窮盡。教化衆生亦不可盡。而菩薩摩訶薩。非究竟非不究竟。非離取非不離取。非依非無依。非世間法非佛法。非凡夫非得果。如是菩薩成就尊重心。修習菩薩行。不教聲聞辟支佛乘。不教佛法不教世間法。不教衆生不壞衆生。不教正道不壞正道。不教垢不教淨。何以故。菩薩解了諸法無垢無淨。知一切法無受無轉。亦無有退。行是寂滅甚深法時。亦不生念。我今行此法已行此法當行此法。未曾生念。有陰界入內世間外世間內外世間一切大願諸波羅蜜。何以故。一切法中。無向聲聞緣覺菩薩佛乘。亦復無向諸凡夫界。亦復無向垢淨生死及涅槃界。何以故。諸法無二無不二故。譬如虛空。求之十方無有差別。非無虛空。菩薩如是觀一切法悉無差別。非不究竟成等正覺。彼最眞實不違正行。善能示現菩薩所行。而不捨離無量大願。調伏衆生轉大法輪。不壞因果不違寂滅。平等觀法。此菩薩悉與三世諸如來等。不斷佛性不壞正法。興隆正法辯才無盡。於諸法中心無所著。安住法堂分別深法住無所畏。不捨佛住不違世法。普現世間等於世間心無所著。菩薩如是成就尊重智慧。修菩薩行。令一切衆生永離世間惡道諸難。教化成就安置三世諸佛法中堅固不動。如是教已。復作是念。一切衆生不知恩義更相殺害。邪見增盛迷惑正道。煩惱充滿癡冥所覆。設有善知識充滿世間。皆悉明達智慧具足者。我不爲此等修菩薩行。何以故。我於善惡人所。不求利養不徇名譽。乃至一縷及一愛言。於無量劫行菩薩道。不生一念自求己安。但欲調伏一切衆生。淨一切衆生。度一切衆生。何以故。一切諸佛法如是故。不求利養不計人惡。常應等心行菩薩道。怨親等觀而無差別。欲令究竟至於彼岸。具足成就無上菩提。是名菩薩摩訶薩第八尊重行。佛子。何等爲菩薩摩訶薩第九善法行。此菩薩爲諸天人沙門婆羅門乾闥婆等一切衆生。作淸涼法池。守護正法。佛種不絕。得淸淨陀羅尼故。說法無障礙。得義陀羅尼故。義辯不可盡。得法陀羅尼故。法辯不可盡。得正語陀羅尼故。

薩下三本俱有
第十二字

辭辯不可盡.得無障礙陀羅尼故.說義味不可盡.得佛甘露灌頂陀羅尼故.令衆生歡喜辯不可盡.得自覺悟陀羅尼故.同辯不可盡.入同辯陀羅尼故.說種種義名味句身不可盡.得正語陀羅尼故.無量辯不可盡.得無量讃歎陀羅尼故.於三千大千世界.變身如佛妙音具足.於一切法無所障礙而作佛事.隨所應化隨所解音隨衆生根.以廣長舌清淨音聲.隨時說法不違大悲.隨其所應.於一一言出無量音.皆令歡喜.設有衆生.悉知無量不可計阿僧祇諸語言法.知無量業知無量報.如是等無量無數阿僧祇衆生.充滿無量無邊阿僧祇世界.與菩薩爲眷屬.菩薩處此會中.出一法言.悉令此等衆生皆得開解.有如是等無量無邊阿僧祇諸大衆.與菩薩爲眷屬.亦復如是.爾時菩薩復作是念.設一毛端處於一念中.有無量無邊阿僧祇大衆來會.如是念念次第.盡過去未來一切諸劫.大衆來會猶故不盡.彼諸大衆.言聲不同所問各異.菩薩聞如是等一切問難心無所畏.而作是念.設令一切衆生悉來問難.猶以一言決其疑網皆令歡喜.菩薩說法言不虛妄.於一一言.有無量無邊智慧莊嚴.成就無邊諸功德藏.慧光普照一切諸法.具足成就一切種智.此菩薩安住善法行已.能自清淨.亦能饒益一切衆生如此三千大千世界.乃至無量無邊不可稱數諸世界中自化其身爲眞金色.妙音具足.於一切法無所障礙而作佛事.以無量無邊清淨法門化度衆生.佛子.此菩薩摩訶薩.有十種身.入無量無邊法界身.除滅一切世間故.未來身.一切趣生故.不生身.深樂不生平等法故.不滅身.一切諸法言語斷故.不實身.如如眞實故.離癡妄身.隨應化故.無來去身.離死此生彼故.不壞身.法界性無壞故.一相身.三世語言道斷故.無相身.善分別諸法相故.菩薩摩訶薩.成就如是十種身.能爲一切衆生作舍.長養善根故.爲一切衆生救護.與大無畏故.爲一切衆生歸依.令大安隱住故.爲一切衆生尊導.開示無上道門故.爲一切衆生師方便.令入眞實法故.爲一切衆生燈.令見業報故.爲一切衆生明.得甚深法故.爲一切衆生炬.令離愚礙解眞法故.爲一切衆生光.令得明地故.爲一切衆生趣趣燈.顯現如來自在力故.是名菩薩摩訶薩第九善法行.此菩薩摩訶薩.安住善法行已.爲一切衆生.作清涼法池.得佛甚深諸法底故.佛子.何等爲菩薩摩訶薩眞實行.此菩薩成就第一誠諦之語.如說能行如行能說.此菩薩學三世諸佛眞實語.入三世諸佛性.與三世諸佛善根等.此菩薩成就如是等一切善根.學三世諸佛無

名三本俱作爲人同作龍

二語隨順如來一切智慧。此菩薩成就衆生是處非處智。衆生去來現在一切業報智。衆生諸根具足不具足智。衆生種種性智。衆生種種欲智。衆生一切至處道智。一切禪定解脫三昧正受垢淨起時非時轉智。過去一切世界成壞智。無障礙天眼智。漏盡智。而不捨一切菩薩所行。何以故。欲令一切衆生調伏清淨故。菩薩復作是念。我見衆生受無量苦。若未度此等先成正覺是所不應。我當滿足大願然後成佛。令一切衆生志求菩提究竟無餘涅槃。何以故。非衆生請我發菩提心行菩薩行。我自發心普爲衆生。欲令究竟得一切種智。是故。我於一切最爲殊勝。不著衆生故。我於一切得爲最上。調御衆生故。我離一切闇。解無衆生際故。我得所應。得本願具足故。我善變化。菩薩功德莊嚴故。我有善攝取。三世諸佛所護念故。此菩薩摩訶薩。不捨本願故。得入無上智慧莊嚴。隨一切衆生所應悉能化度。隨其本願悉滿足已。得一切法自在智慧。令一切衆生皆得清淨。於念念中。悉能徧遊十方世界。於念念中。悉能往詣無量佛國。於念念中。悉見無量無數諸佛及莊嚴刹。示現如來自在神力。究竟法界虛空界等。其身無量隨應悉現。無量無礙而無所依。於自身中普現佛刹。一切衆生一切諸法。三世諸佛皆悉顯現。此菩薩知衆生種種想。種種欲。業報清淨。隨其所應爲現其身。而調伏之。解一切法如幻如化如電。衆生如夢。此菩薩義身味身不可窮盡。清淨正念決定了知一切諸法。入諸三昧無上智慧。寂靜觀察不二之地。一切衆生皆依二法。菩薩摩訶薩。住大悲心。修習如是諸深妙法。寂靜究竟得佛十力。入因陀羅網法界。自在成就如來無礙解脫。人中雄猛大師子吼。得無所畏。爲法輪轉王。能轉無礙清淨法輪。成就智慧解脫。了知一切世間所行。絕生死迴流。入智慧大海。悉能饒益一切衆生。護持三世諸佛正法。窮盡諸佛方便大海。是名菩薩摩訶薩第十眞實行。此菩薩安住眞實行已。能令一切天人八部無量衆生清淨歡喜

大方廣佛華嚴經卷十一

爾又同作又爾

大方廣佛華嚴經卷第十二

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

〔麗湯〕〔宋𡍮〕〔元𡍮〕〔明𡍮〕

功德華聚菩薩十行品第十七之二

爾時佛神力故.十方世界六種震動.如來威神法應如是.雨天華雲.雨天香雲.雨天末香雲.雨天鬘雲.雨天衣雲.雨天寶雲.雨天莊嚴雲雨.又自然出天妓樂音.天妙光明普照一切.演出諸天微妙音聲.如此四天下夜摩天宮說十行法.佛神力故.十方世界亦復.如是爾時十方各過十萬佛刹塵數世界.有十萬佛刹塵數菩薩.充滿十方來詣此土.到已.語功德林菩薩言.善哉佛子。乃能演說諸菩薩行.我等諸來菩薩.皆同一字名功德林.我等世界皆名功德幢.佛同號普功德.我等佛所亦說十行.名味句身次第義味衆會眷屬亦復如是.不增不減.是故佛子.我等承佛神力.來詣此土.爲汝作證.如此四天下夜摩天宮寶莊嚴殿說十行法我來爲證.十方世界亦復如是.

爾時功德林菩薩.承佛神力.普觀十方一切法界及諸眷屬.欲令佛種永不斷絕.欲令菩薩種性清淨.欲令菩薩願種不轉.欲令行種不斷.欲令攝取三世佛種.欲分別說衆生善根種.欲觀察一切衆生時根.欲樂垢淨心所行種.欲普照一切諸佛菩薩種.以偈頌曰

敬心頂禮十力尊　清淨離垢慧無礙　境界深遠無等倫　其道清淨如虛空　人中最勝無障礙
功德無量無所畏　智慧無二無等等　一切所行皆清淨　十方現在諸導師　解眞實義無所畏
無等功德離諸惡　彼速究竟無上道　一切如來人中雄　先已具發大慈悲　遊心清淨法界中
所行饒益諸群生　十方三世無與等　自然正覺滅癡冥　一切佛法悉平等　彼之功德不可壞
十方一切世界中　悉得覩見諸如來　於諸如來無虛妄　彼人所行不退轉　若見清淨眞法界

甚深微妙第一義　一切癡妄莫能惑　彼行能成功德藏　方便善知衆生類　入於眞實妙法界
自然覺悟不由他　彼人所行如虛空　無量無邊諸世界　觀察究竟悉寂滅　一切諸法無障礙
彼人所行勝牟尼　具足堅固不可轉　成就尊重最勝法　清淨願滿到彼岸　諦聽菩薩諸所行
無量無邊一切地　智慧明達無障礙　甚深微妙爲境界　是名無畏論師行

句句廣分別　深入妙智慧　眞實解諸法　彼修大牟尼　遠離一切惡　常能利衆生　彼人功德藏
等諸調御師　普於諸群生　常施以無畏　清淨無染著　所行無倫比　意淨無所著　寂靜無口過
具足妙功德　彼修最勝行　究竟度深義　功德定無盡　彼修不死行　諸佛常護念　離我瞋恚心
妙音滿十方　安住正法教　所行無可諭　布施到彼岸　百福自莊嚴　彼慧最第一　能令衆歡喜
善入深智地　安住心不動　彼行如金剛　堅固不可沮　悉入諸法界　隨順到彼岸　究竟得自在
法日之所行　無等等牟尼　修習不二法　心常樂寂靜　智慧無障礙　細微世界中　容受大世界
境界無不了　智慧山王行　普於諸世間　心淨無所著　持戒到彼岸　淨行之所行　智慧不可量
虛空法界等　深入具足智　是勝金剛行　智慧悉充滿　三世諸法界　心常無懈怠　入於最勝境
一切所至道　分別十力法　身行無障礙　勝智之所行　一切十方界　無量衆生類　菩薩悉救護
離癡之所行　修習諸佛法　精勤無懈怠　普令世間淨　大龍之所行　悉知衆生根　究竟種種欲
了達無量性　平等之所行　普於十方界　久受無量苦　其心無憂惱　歡喜之所行　放諸光明網
普照諸世間　具足智慧明　善修慧所行　皆悉能震動　十方無量界　常能利一切　不令生恐怖
善解語言法　分別到彼岸　離垢智慧明　不動之所行　善解俯仰國　分別到彼岸　成就無盡地
最勝慧所行　無量諸功德　常行求菩提　到彼功德岸　大稱無盡行　無上大論師　最勝師子吼
令衆悉清淨　離垢之所行　佛甘露灌頂　授以法王記　究竟方便法　大心之所行　分別一切衆
其心無染著　決定持法藏　法王之所行　一一語言中　能出無量音　衆生各各解　無礙慧所行

見三本俱作行

行同作子

欣三本俱作忻

究竟語言法　分別悉了知　遠離諸虛妄　眞實見所行　安住法海印　善印一切法　了法無實相
方便身所行　能於一一剎　無量無數劫　窮盡諸劫行　其心無憂厭　無數諸如來　名號各不同
見之一毛孔　善修之所行　如一毛端處　普見無量佛　一切諸世界　見佛亦如是　無量無數劫
能作一念頃　非長亦非短　解脫人所行　見者悉不虛　所修皆眞實　業行不可壞　最勝之所行
無量無數劫　觀佛無厭足　能令衆歡喜　無礙慧所行　無量無數劫　觀察衆生界　衆生非衆生
堅固士所行　具足智慧藏　清涼功德池　饒益一切衆　第一人所行　法界無邊際　無量如虛空
語言無所著　無畏論師行　於一三昧中　入無量三昧　昇彼無上堂　淨月論師行　究竟忍彼岸
堪忍寂滅法　遠離瞋恚心　無量智所行　不離一世界　不起一坐處　普現十方剎　無量身所行
無量諸佛剎　能入一世界　佛剎不增減　不思議所行　分別處非處　審諦入諸力　無上力成就
第一力所行　去來現在世　一切諸業報　智慧不退轉　明智之所行　善知時非時　調伏一切衆
教化不失時　善知時所行　身行悉皆善　口意行亦然　一切無所著　淨智意所行　智慧善分別
法辯無窮盡　境界等如實　如來之所行　無礙功德藏　喜樂總持門　深入諸法界　隨入之所行
悉與三世佛　等心無異想　一相無差別　無礙境界行　深入智慧海　除滅諸癡闇　能與清淨眼
淨眼之所行　一切諸導師　常行不二法　神通力自在　具足行所行　十方佛剎中　普雨妙法雨
令衆解實義　法雲之所行　普於諸佛所　逮得堅固信　一切智解脫　所學悉究竟　彼於一念中
悉知衆生心　究竟解心性　無性性所行　不思議世界　變化無量身　無等徧遊行　諸行中無比
無量世界中　現在諸如來　菩薩摩訶薩　常現彼佛前　菩薩入三昧　衆生見一身　菩薩出三昧
衆見無量身　所行甚深妙　未曾有口過　悅樂心無量　令衆悉歡喜　逮得無著智　分別知諸根
其心無所染　無上調伏行　方便分別法　於法得自在　一切世界中　常作諸佛事　菩薩微妙行
所行如虛空　何人得聞此　其心不欣悅　彼智無與等　慧眼見一切　方便無倫匹　無等智所行

無盡妙功德　能滅一切惡　到彼清淨岸　無比之所行　成就莊嚴法　安住不退轉　度脫無量衆
而無衆生想　所修無諍行　一切智微妙　正法化衆生　淨眼之所行　恭敬一切佛　具足究竟慧
成就無所畏　方便智所行　普能入一切　世界及諸法　亦入群生類　度脫無量衆　徧於十方界
擊無上法鼓　常施無量法　不死之所行　一身跏趺坐　充滿無量刹　衆生不迫迮　清淨法身力
一味一義中　分別無量義　演說無窮盡　無邊慧所行　修習佛解脫　智慧無障礙　成就無所畏
無量方便德　了諸世界海　一切佛刹海　法海智慧海　度脫衆生海　或有見菩薩　入胎及出生
或見成正覺　無量功德行　處處佛刹中　示現般涅槃　眞實無涅槃　無畏師常住　金剛身無異
隨應現衆生　眞實無差別　一身行所行　平等法界一　具足無量義　常樂觀三世　一相無相法
到彼諸持岸　正法安衆生　逮得諸佛持　最勝之所行　無染妙法身　慧眼清淨耳　是悉無障礙
無礙之所行　究竟諸神通　具足深智慧　智慧最殊勝　方便智所行　心定未曾亂　智慧不可量
境界無不照　一切見所行　到彼功德岸　度脫無量衆　其心無疲厭　常修之所行　一切知見人
在諸佛家生　普於三世佛　法中而化生　語言法成就　摧伏諸論師　究竟無量行　隨入佛菩提
能放一光明　普照無量刹　世間大明曜　除滅一切暗　隨其所應見　爲現如來身　調伏群生類
嚴淨一切刹　菩薩行無量　一切莫能知　示現一切行　欲度衆生故　無量不可數　衆生法界等
無數劫讃歎　菩薩德無盡　菩薩德無量　究竟一切德　諸佛無量劫　歎此德無盡　何況世間人
聲聞及緣覺　無量劫讃歎　而能得窮盡

大方廣佛華嚴經菩薩十無盡藏品第十八

爾時功德林菩薩摩訶薩。復告諸菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩。有十種藏。三世諸佛之所演說。何等爲十。信藏。戒藏。慙藏。愧藏。聞藏。施藏。慧藏。正念藏。持藏。辯藏。是爲十。何等爲菩薩信藏。此菩薩信一切法空無眞實。信一切法無

生宋明倶作度　曜明作耀

三本倶以菩薩十無盡藏品爲卷第十三

相。信一切法無願。信一切法無作者。信一切法不實。信一切法無堅固。信一切法無量。信一切法無上。信一切法不可度。信一切法不生。若菩薩成就如是隨順淨信。聞諸佛法不可思議。心不驚怖。聞一切佛不可思議。心不驚怖。聞衆生不可思議。心不驚怖。聞法界不可思議。心不驚怖。聞虛空界不可思議。心不驚怖。聞涅槃界不可思議。心不驚怖。聞過去世不可思議。心不驚怖。聞未來世不可思議。心不驚怖。聞現在世不可思議。心不驚怖。聞入一切劫不可思議。心不驚怖。何以故。菩薩於諸佛所一向堅信不可沮壞。佛如是知佛無盡無邊智。十方一切世界。一一世界中三世無量無數諸佛。出興於世。施行佛事而般涅槃。彼諸佛智慧。不增不減。不生不滅。不盡不。去不近不遠。不智不亂。菩薩成就如是等無邊無盡信藏。則能乘如來乘。此菩薩成就如是等無量無邊信。不退轉信。不亂信。不壞信。不著信。有根信。隨順聖人信。如來家性信。則能護持一切佛法。長養一切菩薩善根。隨順一切如來善根。從一切佛善方便生。是名菩薩摩訶薩無盡信藏。菩薩住此信藏。悉能聞持諸如來法。廣爲一切衆生演說。佛子。何等爲菩薩摩訶薩戒藏。此菩薩成就饒益戒。不受戒。無著戒。安住戒。不諍戒。不惱害戒。不雜戒。離邪命戒。離惡戒。清淨戒。何等爲饒益戒。此菩薩先當饒益安樂衆生。何等爲不受戒。此菩薩不受外道戒。具足奉持三世諸佛平等淨戒。何等爲無著戒。此菩薩不著欲界戒。不著色界戒。不著無色界戒。何以故。不廻向彼故。何等爲安住戒。此菩薩成就清淨無疑悔戒。何以故。菩薩不作五無間罪。永不故犯一切戒故。何等爲不諍戒。此菩薩不非先制。不更造立。心常隨順向涅槃戒。皆具足持無所毀犯。不由此戒惱亂衆生共相違諍。菩薩持戒。但饒益衆生令歡喜故。何等爲不惱害戒。此菩薩不因持戒學諸呪術藥草惱害衆生。何以故。菩薩欲救護衆生故。持清淨戒。何等爲不雜戒。此菩薩離斷常見。不持雜戒。但觀察十二緣起。持清淨戒。何等爲離邪命戒。此菩薩不作持淨戒相。欲使他知內無實德現實德相。但持淨戒一向求法。究竟薩婆若。何等爲不惡戒。此菩薩不自貢高言我持戒。見犯戒人。不輕賤訶罵令其憂惱。但一其心持清淨戒。何等爲清淨戒。此菩薩捨離殺盜邪婬妄語惡口麁言兩舌雜語貪恚邪見。具持十善。此菩薩持如是等清淨戒時作是念。有若衆生犯淨戒者。斯由顚倒諸煩惱故。一切諸佛悉分別知。是一切衆生。因諸顚倒毀犯淨戒。是故我當專求佛道。究竟無上菩提。廣爲衆生說眞實法。令

名三本俱作爲

貪下同有瞋字

離顚倒淨持禁戒。悉令究竟無上菩提。是爲菩薩摩訶薩第二無盡戒藏。佛子。何等爲菩薩摩訶薩慚藏。此菩薩自憶宿命。無數世來。於六親所行無慚行。或侮慢無禮。或婬亂無節。忍害無親。負債相伐。迷惑顚倒無惡不造。斯由三毒邪|疑使諸虛僞諂曲諸不善故。一切衆生亦復如是。皆悉積習諸無慚行。斯由無智乃至諂曲故。尊卑失序不相敬順。不能謙下遵奉明哲。常懷毒念怨結滋甚。更相屠害曾無恥懼。自惟我身及餘衆生。去來現在行無慚法。三世諸佛無不知見。我當云何猶行無慚。甚爲不可。是故我應修習慚法。究竟菩薩。廣爲衆生說眞實法。令其永離諸無慚法。成就菩提。是爲菩薩摩訶薩第三無盡慚藏。佛子。何等爲菩薩摩訶薩愧藏。此菩薩自愧昔來貪求色聲香味觸法妻子眷屬錢財寶物僮僕車乘。心無厭足。我不應行是諸非法事。因是生長貪恚愚癡乃至諂曲。復作是念。衆生所行無愧之法。皆以無智乃至諂曲諸惡法故。不相承順尊敬供養。常懷毒心迭相殘害。我及衆生。去來現在愛樂貪求。|集行是法。因是法故。受胎生死無量諸苦。三世諸佛皆悉知見。我猶行是無愧法者三世諸佛皆不歡喜。我當修習愧法。究竟菩提。廣爲衆生說如是法。令離無愧成就佛道。是爲菩薩摩訶薩第四無盡愧藏。佛子。何等爲菩薩摩訶薩多聞藏。此菩薩多聞者。所謂知是事有故是事有。是事無故是事無。是事起故是事起。是事滅故是事滅。是世間法。是出世間法。是有爲法。是無爲法。是有記法。是無記法。何等爲是事有故是事有。所謂有無明故有行。何等爲是事無故是事無。所謂無識故無名色。何等爲是事起故是事起。所謂愛起故苦起。何等爲是事滅故是事滅。所謂有滅故生死滅。何等爲世間法。所謂色受想行識。何等爲出世間法。所謂戒身定身慧身解脫身解脫知見身。何等爲有爲法。所謂欲界色界無色界衆生界。何等爲無爲法。所謂虛空涅槃數緣滅非數緣滅。十二緣起及法界。何等爲有記法。所謂四眞諦四沙門果四辯四無所畏四念處四正勤四如意足五根五力七覺支八聖道分。何等爲無記法。所謂世間有邊世間無邊。世間有邊無邊。世間非有邊非無邊。世間有常世間無常。世間有常無常。世間非有常非無常。如來滅後如去不受。如來滅後不如去亦不受。如來滅後如去不如去亦不受。如來滅後非如去非不如去亦不受。有我有衆生。無我無衆生。有我無我。有衆生無衆生。非有我非無我。非有衆生非無衆生。過去有幾如來滅度。幾聲聞緣覺滅度。未來有幾如來幾聲聞緣覺幾衆

生生。現在有幾佛幾聲聞緣覺。何等如來最初出世。何等聲聞緣覺最初出世。何等衆生最初生。何等如來最後出世。何等聲聞緣覺最後出世。何等衆生最後生。何等諸法最在初。何等諸法最在後。世間從何處來去至何所。有幾世界成。有幾世界敗。世界從何所來去至何所。何等爲生死最初際。何等爲生死最後際。是名無記法。菩薩摩訶薩。作如是念。衆生長夜流轉生死。童蒙凡夫不知修道。我當晝夜精勤學問。受持一切諸佛法藏。究竟成就無上菩提。廣爲衆生說眞實法。普令一切成無上道。是爲菩薩摩訶薩第五無盡多聞藏。佛子。何等爲菩薩摩訶薩施藏。此菩薩修行十種施。所謂施法。最後難施法。內施法。外施法。內外施法。一切施法。過去施法。未來施法。現在施法。究竟施法。何等爲菩薩修習施法。此菩薩從本以來習平等施。珍饌美味不自貪著。惠施一切。其餘諸物亦復如是。所施之餘然後自食。作是念言。爲我身中八萬戶蟲故。我身安樂彼亦安樂。我身飢苦彼亦飢苦。是故菩薩有所服食皆爲諸蟲。欲令安樂不貪其味。菩薩復作是念。我長夜爲身貪求飲食。當勤精進速離此身。是爲菩薩修習施法。何等爲菩薩最後難施法。此菩薩若得種種上味飲食香華衣服資生之具。若自己受用則快樂長壽。若盡以施人則窮苦夭命。時有乞人一切求索。菩薩自念。吾從本際以來喪身無數。未曾損己利一衆生。今獲大利希有之慶。當損棄身命。悉捨一切饒益衆生。究竟大施。是爲菩薩最後難行施法。何等爲菩薩內施法。此菩薩於少壯時形體端嚴。顏容殊特澡浴淸淨。服上妙衣嚴飾之具。受灌頂轉輪王位。七寶具足王四天下。時有乞人來詣王所。而自陳曰。大王當知。我今衰老身嬰重疾。煢獨苦厄無人贍救。生路既窮必之死地。若得王身隨所應用。或須手足或須血肉。或須頭目或須髓腦。若大王慈仁矜哀窮老。捨離貪身以救我者。必蒙天施得全性命。菩薩卽作是念。今我此身。亦當如彼會應歸死。無一饒益。宜時捨身以濟其命。念已歡喜施彼衆生。是爲菩薩內施法。何等爲菩薩外施法。此菩薩於少壯時形體端嚴。顏容殊特澡浴淸淨。服上妙衣嚴飾之具。受灌頂轉輪王位。七寶具足王四天下。時有乞人來詣王所。作如是言。大王當知。我今衰老身又嬰疾。餘命無幾終此貧苦。而王具足一切快樂。善哉大王。願捨天位哀施於我。我當統領天下受王福樂。菩薩卽作是念。富貴無常必歸貧賤。若在貧賤無所饒益。不能滿遂衆生所願。是故我今宜時捨位稱悅其意。念已歡喜卽捨與之。是爲菩薩外施法。

界三本俱作間

謂下同有修習二字

施明作世

習三本俱作集

曰同作白

慈仁同作仁慈

天明作王

服三本俱作伏
問同作聞
貧同作愛
猗同作倚下同
行同作汙
王下同有天字
聲上同無聞字
忘同作妄

何等爲菩薩內外施法.此菩薩於少壯時形體端嚴.顏色殊特澡浴淸淨.服上妙衣嚴身之具.受灌頂轉輪王位.七寶具足王四天下.時有乞人來詣王所.作如是言.大王當知.今我老邁身又嬰疾.不以衰賤稱希美號.善哉大王.願以王身七寶天下轉輪王位.以授於我.令我具足受王慶樂.菩薩卽作是念.我身財寶俱非堅固.無常危脆磨滅之法.我今盛壯富有天下.乞者現前.三事具足.是故於此不堅固法當求堅固.作是念已倍大歡喜.卽捨內外而施與之.是爲菩薩內外施法.何等爲菩薩一切施法.此菩薩於少壯時形體端嚴.顏容殊特沐浴香湯.服上妙衣嚴身之具.受灌頂轉輪王位.七寶具足王四天下.時有乞人來詣王所.作如是言.大王當知.大王名稱普聞十方.我乃在彼國|服承王|聞.自遠而來欲有所請.善哉大王.願隨所欲充滿我意.爾時乞者.或求國城妻子眷屬肢飾血肉頭目髓腦.爾時菩薩作是思惟.一切恩愛會當別離.無所饒益.不能果遂衆生諸願.我今應當離貪|貧行.一切速捨饒益衆生.作是念已倍大歡喜.悉捨一切惠施衆生.是爲菩薩一切施法.何等爲菩薩修習過去施法.此菩薩聞過去諸佛菩薩所行具足功德.聞已不著了達非有.不起妄想不貪不味.觀察諸法心無所|猗.諸法如夢無有堅固.於諸善根不起有想.心無所著.但爲化衆生故.示現其身廣說道敎.欲令衆生成就佛法.又復觀察過去諸法.十方推求覩不可得.菩薩如是觀已.復作是念.過去諸法皆悉捨離.是爲菩薩修習過去施法.何等爲菩薩修習未來施法.此菩薩聞未來世諸佛菩薩所行善根具足功德.聞已而不取相心無所有.不求往生彼方佛刹.無諸求想不生|行願.攝心不散不味不厭.不以善根迴向於彼.不爲生彼專修善根.亦不廢捨.但因彼境界敎化衆生.欲令衆生具足佛法.觀察眞實.此眞實法.非有處所非無處所.非內非外非遠非近.復作是念.若法非有不可不捨.是爲菩薩修習未來施法.何等爲菩薩修習現在施法.此菩薩聞四天|王三十三天.夜摩天.兜率陀天.化樂天.他化自在天.梵天.梵身天.梵輔天.梵眷屬天.大梵天.光天.少光天.無量光天.光音天.淨天.少淨天.無量淨天.遍淨天.密身天.少密身天.無量密身天.密果天.不煩天.不熱天.善現天.善見天.色究竟天.|聞聲聞緣覺具足功德.聞已心不惑亂正念不忘.不懈不沒亦不憂感.其心寂滅而無所取.菩薩雖作是念.一切諸行皆悉如夢.一切所行皆非眞實.衆生不知故流轉惡道.菩薩於彼廣爲說法.遠離諸惡成就佛法修菩薩道心無惑亂.是爲

微形胞三本俱作臭穢泡

說下同無說字

菩薩修習現在施法。何等爲菩薩究竟施法。此菩薩摩訶薩。有無量衆生形類不同。往詣其所作如是言。我有所須幸垂周給。我意既足仁願亦滿。菩薩聞是語已歡喜踊躍。隨其所求施令滿足。菩薩摩訶薩。內自觀察。從初入胎不淨微形。胞段諸根生老病死。又具觀此身。無有眞實無所有相。無慚媿物賢聖所棄。惡露臭處猶如死屍。骨節相持血肉泥塗。九竅之門常流不淨。菩薩見身無量過患。乃至不起一念貪惜是身。復作是念。此身危脆我當云何既見此身無量過患。而生貪著。應當棄捨施彼衆生充滿其願。我當於此不堅法中求堅固法。令一切衆生隨其所願悉得滿足。開悟示導。皆令逮得淸淨法身。住無所住離身心相。是爲菩薩摩訶薩第六無盡施藏。佛子。何等爲菩薩摩訶薩無盡慧藏。此菩薩知色苦如實。知色集如實。知色滅如實。知色道如實。知受想行識苦如實。知識集如實。知識滅如實。知識道如實。知無明苦。知無明集。知無明滅。知無明道。知愛苦。知愛集。知愛滅。知愛道。知聲聞。知聲聞法。知聲聞集。知聲聞涅槃。知緣覺。知緣覺法。知緣覺集。知緣覺涅槃。知菩薩。知菩薩法。知菩薩集。知菩薩涅槃。云何知。知從業報因緣所造。諸行非我非堅固。無眞實空無所有。不取諸法堅固之相。不取諸法所有之相。知一切法悉無所有。廣爲衆生說眞實法。云何爲說。說一切法不可壞。何等不可壞。色不可壞。受想行識不可壞。無明不可壞。聲聞法。緣覺法。菩薩法不。可壞。何以故。一切諸法。不自作不他作。言語道斷離一切處。不生不起不施不受。無有心意。菩薩成就如是等無盡慧藏。以少方便。則能逮得一切諸法善妙方便。自然明達不由他悟。此智慧藏有十種不可盡。何等爲十。多聞善方便不可盡。親近善知識不可盡。演一句法不可盡。入深法界不可盡。入無量智慧莊嚴不可盡。出生長養諸功德藏心無憂厭不可盡。入一切陀羅尼門不可盡。分別了知一切衆生語言音聲不可盡。得普令衆生離諸疑惑不可盡。得一切佛自在示現敎化衆生所行成就不可盡。是爲十種不可盡法。是爲菩薩摩訶薩第七無盡慧藏。菩薩住此無盡慧藏。疾得無上平等正覺。佛子。何等爲菩薩摩訶薩無盡念藏。此菩薩捨離癡冥。憶念過去一生十生百生千生萬生。乃至阿僧祇不可思議無分齊。不可說億那由他生成劫壞劫成壞劫。非一成劫。非一壞劫。非一成壞劫。百劫千劫百千億那由他劫。乃至阿僧祇不可思議無分齊。不可說億那由他劫。念知一佛名號。乃至不可說不可說諸佛名號。念知授一佛記。乃至授不可說不

曜明作耀

說下三本俱有一字

可說諸佛記。念知一佛出世。乃至念知不可說不可說諸佛出世。念知從一佛所受一修多羅。乃至不可說不可說佛所受。不可說不可說修多羅。祇夜。授記。伽陀。因緣。憂陀那。本事。本生。方廣。未曾有。譬喻。憂波提舍。亦復如是。念知一會衆一時說法。乃至不可說不可說時會說法。念知一根乃至不可說不可說諸根。念知一煩惱乃至不可說不可說諸煩惱。念知一三昧乃至不可說不可說諸三昧。菩薩作如是念。妙念。淨念。不濁念。徧淨念。離塵念。離種種塵念。離垢念。光曜念。樂念。無障礙念。此菩薩作是念時。一切世間不能嬈亂。諸根清淨不復染著。一切世間衆魔外道所不能壞。念持一切諸佛法藏。決定明了未曾錯亂。是爲菩薩摩訶薩第八無盡念藏。佛子。何等爲菩薩摩訶薩無盡聞持藏。此菩薩於諸佛所。聞持一品修多羅。乃至聞持不可說不可說修多羅。未曾忘失一字一句。於一生中而不忘失。乃至不可說不可說生。未曾忘失一字一句。聞持一佛名號。乃至聞持不可說不可說佛名號。聞持一世界名字。乃至聞持不可說不可說世界名字。聞持一劫名字。乃至聞持不可說不可說劫名字。聞持一如來記。乃至聞持不可說不可說如來記。聞持一修多羅。乃至聞持不可說不可說修多羅。聞持一會名字。乃至聞持不可說不可說會名字。聞持一時說法。乃至聞持不可說不可說時說法。聞持一根。乃至聞持不可說不可說諸根。聞持一煩惱。乃至聞持不可說不可說煩惱。聞持一三昧。乃至聞持不可說不可說三昧。是爲菩薩摩訶薩第九甚深無盡聞持藏。此聞持藏。唯佛境界餘無能及。佛子。何等爲菩薩摩訶薩無盡辯藏。此菩薩成就甚深知慧。廣爲衆生演說諸法。不違一切諸佛經典。說一品法。乃至說不可說不可說品法。說一佛名號。乃至說不可說不可說諸佛名號。說一世界名字。說一佛記。說一修多羅。說一會。說一時。說法。說一根。說一煩惱。說一三昧。乃至說不可說不可說諸三昧。或一日說一句一味法無盡。乃至不可說不可說劫。說一句一味法而無窮盡。一切諸劫尚可窮盡。說一句一味不可窮盡。何以故。此菩薩成就十種無盡藏故。成就此藏故。得攝一切法陀羅尼門現在前。百萬阿僧祇陀羅尼以爲眷屬。此菩薩成就百萬阿僧祇陀羅尼眷屬已。以法光明辯才。廣爲衆生演說深法。以廣長舌出妙音聲。充滿一切十方世界。隨其諸根除滅煩惱。皆令歡喜。普入一切音聲。於一切文字。得不斷辯。入普照法門。說一切衆生如來種子不可斷故。不捨菩薩一切諸行。心無憂厭。何以故。此菩薩成就

充滿虛空法界清淨法身故.是爲菩薩摩訶薩第十無盡辯藏.此藏無量無分齊.無間不可壞.無斷不可斷.不退轉.甚深無底.以一切法門入一切佛法.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種無盡藏.令一切衆生究竟成就無上菩提.此藏有十種無盡深法.何等爲十.饒益一切衆生善迴向故.不斷本願一切劫行故.心無量無邊觀察平等如虛空故.迴向有爲不著無爲故.一切法無盡念念知境界故.大願不可壞究竟諸力陀羅尼行故.諸佛護念入一切法如幻化故.是爲十種無盡法.能令一切世間.得無盡藏

生下同有故字　壞及念下三本俱有故字　世間元明俱作衆生

大方廣佛華嚴經卷第十二

品目九下三本俱有之一二字

億下同有網寶二字

瑠同作琉

大方廣佛華嚴經卷第十三

〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明坐〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

如來昇兜率天宮一切寶殿品第十九

爾時佛威神力故．十方一切世界．諸四天下．一一閻浮提．皆有如來坐菩提樹．無不顯現．彼諸菩薩．承佛神力說種種法．皆悉自謂在於佛所．爾時如來．以自在神力．不離菩提樹座及須彌頂妙勝殿．上夜摩天宮寶莊嚴殿．趣兜率天宮一切寶莊嚴殿．時彼天王遙見佛來．卽於殿上敷如意寶藏師子之座．以種種天寶而莊嚴之．過去修習善根所得．一切如來威神護持．不可數那由他阿僧祇善根所生．一切諸佛淨法所起．一切衆生所共莊嚴．無量功德之所成就．離一切惡．淸淨業報．一切樂觀無有厭足．出離世間諸法所起．淸淨無汙．一切世間因緣所起．一切衆生見不能盡．以無量莊嚴具而莊嚴之．所謂百萬億欄楯．百萬億寶網羅覆其上．百萬億華帳．以張其上．百萬億華鬘以垂四邊．百萬億香帳．普熏十方．百萬億寶帳．以張其上．百萬億華蓋．諸天執持．百萬億華鬘蓋．百萬億寶蓋．以蓋其上．百萬億寶衣．以敷其上．百萬億妙寶樓閣．百萬億如意寶王網．羅覆其上．百萬億勝妙羅網．百萬億衆寶瓔珞．間錯垂下．百萬億衆妙雜寶．百萬億網蓋．以覆其上．百萬億雜寶網衣．百萬億妙寶蓮華．開敷光曜．百萬億無厭香網．普熏十方．百萬億大寶帳網．以覆其上．百萬億寶鈴．微動出和雅音．百萬億栴檀寶帳．普熏十方．百萬億雜寶妙華．以散其上．百萬億雜色寶衣．以覆其上．百萬億菩薩大帳．百萬億雜寶蓋帳．百萬億淸淨金帳．百萬億淨瑠璃帳．百萬億雜寶藏帳．百萬億一切寶帳．以覆其上．百萬億雜寶妙華．周帀圍遶．百萬億寶形像帳．百萬億衆妙寶鬘．百萬億香鬘．普熏十方．百萬億天曼陀羅栴檀．色香具足普熏十方．百萬億天莊嚴具．百萬億妙寶華鬘．百萬億勝妙寶藏．百萬億勝寶藏鬘．百萬億淸淨寶鬘．百萬億海寶藏鬘．百萬億因陀羅金剛

寶下三本俱無鬘字
議明作億
末三本俱作秣
寶下同有蓮字

妙寶.百萬億妙寶繒綵.以爲垂帶.百萬億無量自在妙寶.百萬億眞金寶藏.清淨微妙.百萬億毘瑠璃寶.以爲照耀.百萬億因陀羅.雜寶校飾.百萬億首羅幢寶光曜明淨.百萬億火珠寶.出大光明普照十方.百萬億天堅固寶.以爲窗牖.百萬億淨功德寶.無量妙色.百萬億雜寶偏閣.清淨妙藏.百萬億大海月寶.百萬億離垢藏寶.百萬億心王寶.無量歡喜.百萬億師子面寶.百萬億閻浮檀寶.百萬億一切世間清淨藏寶.百萬億一切世間因陀羅幢寶.百萬億羅闍藏寶.百萬億須彌山王殊勝幢寶.百萬億解脫妙寶.百萬億瑠璃鬘網.周帀垂下.百萬億赤色寶鬘.百萬億衆摩尼寶.百萬億清淨樂寶.百萬億衆雜寶藏.百萬億赤色解脫樂見妙寶.百萬億無量色寶鬘.百萬億無比寶鬘.百萬億淨光明寶.普照殊勝.百萬億摩尼寶像.百萬億因陀羅寶.百萬億黑沈水香.普熏十方.百萬億不可思議衆雜妙香.普熏十方一切佛刹.百萬億十方妙香.普熏世界.百萬億最勝殊香.普熏十方百萬億香像香徹十方.百萬億隨所樂香.普熏十方.百萬億淨光明香.普熏衆生.百萬億種種色香.普熏佛刹.不退轉香.百萬億塗香.百萬億栴檀塗香.百萬億香熏香.百萬億蓮華藏黑沈香雲.充滿十方.百萬億丸香煙雲.充滿十方百萬億妙光明香.常熏不絕.百萬億妙音聲香.能轉衆心.百萬億明相香.普熏衆味.百萬億能開悟香.遠離瞋恚寂靜諸根充滿十方.百萬億香王香.普熏十方.雨百萬億天華雲雨.百萬億天香雲雨.百萬億天抹香雲雨.百萬億天妙蓮華雲雨.百萬億天種種寶華雲雨.百萬億天青蓮華不斷雲雨.百萬億天寶華雲雨.百萬億天分陀利華雲雨.百萬億天曼陀羅華雲雨.百萬億天一切雜華雲雨.百萬億天種種衣雲雨.百萬億天雜寶普照十方雲雨.百萬億天種種蓋雲雨.百萬億天無量色幡雲雨.百萬億天冠雲雨.百萬億天種種莊嚴天冠雲雨.百萬億天莊嚴具雲雨.百萬億雜色天鬘雲雨.百萬億種種大莊嚴天鬘雲雨.百萬億種種色天栴檀雲雨.百萬億天沈水香雲雨.百萬億天寶幢.百萬億天雜幡.百萬億天帶垂下.百萬億天和香.普熏十方.百萬億天妙功德寶鬘垂下.百萬億天多羅寶懸布光耀.百萬億天拂.執持侍立.百萬億天金鈴網.微風吹動出妙音聲.百萬億天寶欄楯.周帀圍遶.百萬億天多羅寶牆.周廻四遶.百萬億天雜寶樹.圍遶覆蔭.百萬億天雜寶樓閣.莊嚴其內.百萬億天勝寶門.百萬億天眞金鈴.微風吹動出和雅音.百萬億清淨天鬘.布列垂下.百萬億天蘇婆提寶.顯相解脫.百萬億

天金剛藏衆妙瓔珞、百萬億天雜寶蓋、諸天執持、百萬億天雜寶網、百萬億天雜寶藏、光耀殊特、百萬億天淨光明、普照十方、百萬億大光普耀、百萬億日藏光明、普照一切、百萬億雜色月光、百萬億離癡淨香、百萬億天妙華藏、開敷鮮茂、百萬億寶網藏、百萬億華網、百萬億香網、以覆其上、百萬億天雜寶衣、以敷其上、百萬億天諸寶衣、處處敷置、百萬億天青色衣、百萬億天雜黃衣、百萬億天雜朱衣、百萬億天雜色衣、百萬億天雜寶衣、百萬億種種熏衣、百萬億殊勝寶衣、能令衆生發歡喜心、如是等衣以敷其上、百萬億白淨妙衣、以覆其上、百萬億天幢寶鈴、出微妙音、百萬億白淨寶幢、微風吹動出妙音聲、百萬億天繒綵幡、百萬億香幢、出衆香網、百萬億華幢、雨一切華、百萬億天妙衣幢、百萬億摩尼寶幢、百萬億天一切莊嚴具幢、百萬億天鬘幡、四面行列、百萬億天蓋幢、一切寶鈴出妙音聲、百萬億天螺、出妙音聲、百萬億天鼓、出大音聲、百萬億天琴、出微妙音、百萬億天牟陀羅、出大音聲、百萬億天娛樂具、百萬億天樂音聲、充滿十方一切佛剎、百萬億化音聲、聲徹十方、衆生聞者悉解如響、百萬億天妓樂音、同時俱作、百萬億天神力妓樂、出相和音、百萬億一切諸天娛樂之具、出妙音聲、百萬億妙音讚歎如來、百萬億勝妙喜音、讚歎如來、百萬億甚深音聲、讚歎如來、百萬億種種音聲、歎佛果報、百萬億細微音聲、稱揚讚歎出三界法、百萬億寂靜音聲、讚歎如來本所修行、百萬億音、讚歎如來百萬億劫永離瞋恚、歎讚百萬億供養供養過去諸佛、百萬億法門、讚歎如來百萬億音、讚歎一切菩薩功德不可窮盡、百萬億音、讚歎菩薩一切諸地功德具足、百萬億音、讚歎諸佛無有厭足、百萬億音、稱揚讚歎見佛之行、百萬億音、讚歎深法、其聞音者得深智慧、無有障礙、百萬億妙音、充滿十方一切世界、百萬億妙音、歎諸衆生、隨其志願皆令歡喜、百萬億音、歎一切世間、其聞音者、解一切法眞實之性、百萬億音、讚歎如來、其聞音者、悉能恭敬一切如來、百萬億音、歎佛境界一切功德、百萬億音、歎諸總持善妙方便、善知分別一切諸法、聞持一切諸如來法、百萬億音、讚歎甚深具足諸法、百萬億音、歎發心菩薩、修習長養一切種智、百萬億音、歎治地菩薩、其心歡喜、百萬億音、歎修行地菩薩、清淨解脫、百萬億音、歎生貴菩薩、心得安住、百萬億音、讚歎方便具足菩薩、於摩訶衍究竟決定、百萬億音、歎善現菩薩具足一切菩薩所行、百萬億音、讚歎不退菩薩所行、一切諸地皆悉清淨、百萬億音、歎童眞菩薩、光明普照

銜三本倶作啣

親近同作近親

大明作天

一切十方。百萬億音。歎王子菩薩。善入甚深不可思議諸佛境界，百萬億音。歎灌頂菩薩。能現一切諸如來力。百萬億神力自在。百萬億清淨解脫。出生百萬億清淨解脫。百萬億長養大歡喜法。百萬億住不壞信。百萬億長養勇猛之力。百萬億長養名聞法。百萬億分別法義。廣說定慧。百萬億正念清淨不亂。出生百萬億定慧。百萬億陀羅尼。悉能受持一切佛法。出生百萬億廣大智慧。出生百萬億深心信佛信根堅固。出生百萬億清淨檀波羅蜜。出生百萬億尸波羅蜜。出生百萬億羼提波羅蜜。不生恚心。具足諸佛羼提波羅蜜。出生百萬億毘梨耶波羅蜜。究竟具足無量。毘梨耶波羅蜜。出生百萬億禪波羅蜜。無量諸禪寂靜照明。出生百萬億般若波羅蜜。照一切法。出生百萬億清淨大願。出生百萬億諸深法門智慧燈明。出生十方諸佛百萬億深妙法門。出生百萬億離癡示現善妙方便。出生百萬億諸法之行。普入百萬億諸佛之剎。百萬億清淨法身。往詣十方一切佛剎。出生百萬億如來微妙音聲。出生百萬億一切種智善妙方便。出生百萬億具足法門。出生百萬億正法知見。悉見一切諸佛實法。猶如寶幢。出生百萬億智慧。示現如來境界無所障礙。百萬億諸天神王。恭敬禮拜。百萬億龍王。一心諦觀而無厭足。百萬億夜叉王。合掌敬立。百萬億乾闥婆王。一心恭敬目不暫捨。百萬億阿修羅王。斷除憍慢敬心侍立。百萬億寶金翅鳥王。口銜繒帶。百萬億緊那羅王。歡喜立侍。百萬億摩睺羅王。踊躍歡喜一心諦觀。百萬億婆羅門王。恭敬禮拜。百萬億一切世間諸王。恭敬頂禮。百萬億諸釋天王。恭敬尊重一心觀察。百萬億夜摩天王。踊躍歡喜高聲讚歎。百萬億兜率陀天王。恭敬禮拜。百萬億化樂天王。恭敬讚歎。百萬億他化自在天王。合掌恭敬一心侍立。百萬億梵天王。一心觀察。百萬億摩醯首羅天王。恭敬讚歎。百萬億菩薩。恭敬讚歎。百萬億天女。恭敬供養。百萬億願天。敬心頂禮。百萬億宿命。親近善知識天妙聲讚歎。百萬億梵身天。布身敬禮。百萬億梵輔天。恭敬頂禮。百萬億梵眷屬天。圍遶侍衛。百萬億大梵王。讚歎偁揚無量功德。百萬億光天。五體投地。百萬億少光天。宣揚讚歎佛世難值。百萬億無量光天。讚歎禮拜。百萬億光音天。讚歎如來。難遇難見。百萬億淨天。恭敬禮拜。百萬億少淨天。恭敬禮拜。百萬億無量淨天。樂見佛故。於虛空中自投來下。百萬億徧淨天。合掌敬住。百萬億密身天。憶本功德偁揚讚歎。百萬億少密身天。生如來想一切求見。百萬億無量密身天。清淨善業恭敬禮拜。百萬億

三本俱百萬億以下爲卷第十四如來昇兜率天宮一切寶殿品第十九之二
末三本俱作抹下同

密果天。布身敬禮。百萬億無煩天。得堅固信恭敬禮拜。百萬億無熱天合掌觀察心無厭足。百萬億善現天。恭敬禮拜。百萬億善見天。憶念無量佛所。恭敬供養心無厭足。百萬億阿迦尼吒天。恭敬禮拜。百萬億種種天。皆大歡喜恭敬讚歎。百萬億諸天。以種種善慧而莊嚴之。百萬億諸大菩薩。頂戴護持。百萬億華手菩薩。雨一切華。百萬億香手菩薩。雨一切香。百萬億鬘手菩薩。雨一切鬘。百萬億末香手菩薩。雨一切末香。百萬億衣手菩薩。雨一切寶衣。百萬億幢手菩薩。雨一切幢。百萬億幡手菩薩。雨一切幡。百萬億寶手菩薩。雨一切寶。百萬億莊嚴手菩薩。普雨一切諸莊嚴具。百萬億諸天。以天種種莊嚴宮殿。而以莊嚴。歡喜天子。以百萬億諸天莊嚴宮殿。而莊嚴之。百萬億生貴天子。法身普覆。百萬億灌頂天子。舉身持座。出生百萬億菩薩清淨大願。出生百萬億菩薩初清淨心。出生菩薩百萬億柔輭利根。百萬億禪藏皆悉清淨。菩薩百萬億清淨解脫。嚴治菩薩百萬億諸清淨業。出生菩薩百萬億安住生貴地。出生菩薩百萬億法門普照一切。成就百萬億菩薩諸地。教化調伏百萬億大衆。百萬億諸善根所起。百萬億諸佛護持。百萬億功德所成。百萬億直心莊嚴清淨。百萬億大願莊嚴清淨。百萬億善行所起。百萬億諸法充滿。百萬億自在神力之所成就。百萬億諸功德所起。以百萬億讚法。而讚歎之。如此世界四天下兜率陀天宮。一切寶莊嚴殿。爲如來敷摩尼寶藏師子之座。十方一切諸佛世界。諸四天下。兜率陀天宮。一切寶莊嚴殿。爲如來敷摩尼寶藏師子之座。亦復如是。爾時兜率陀天王。爲如來敷高座竟。與不可計阿僧祇兜率陀天子俱。奉迎如來。雨阿僧祇色上妙諸華。供養如來。雨不可思議香。雨無量色鬘。雨上妙栴檀。雨無量種種寶蓋。雨細妙天衣。雨無量雜寶。供養如來。以歡喜心。雨天上妙諸莊嚴具。燒種種香。香氣普熏十方世界。雨栴檀末香。沈水末香。堅固末香。供養如來。無量天子。各從其身出無量無數諸天子身。阿僧祇兜率陀天子。及他方來諸天子衆。皆大歡喜恭敬作禮。阿僧祇天女衆。歡喜無量。一心寂然諦觀如來。不可數不可說諸大菩薩。悉從他方兜率天來。住於虛空。以不可思議諸供養具。供養如來。出過一切諸天供養。以阿僧祇勝妙音聲。讚歎如來。佛神力故。過去諸佛所修善根故。如來不可思議自在神力故。一切兜率陀天子及諸天女。一心恭敬靜默觀佛。咸作是念。如來出世甚難値遇。功德具足智慧無礙。平等正覺我今得見。作是念已。皆大歡喜。阿僧祇那由他兜率

末下元明俱有香字
寶下宋無末字
幡三本俱作幢
座三本俱作坐

陀天子。來詣佛所。各以身上天衣。盛種種寶。又以身上天衣。盛種種香。一切寶衣諸莊嚴具。栴檀末香。沈水末香。天妙寶末。諸天香華。天曼陀羅華。普散十方供養如來。億那由他無數天子。以種種上妙供具。莊嚴虛空。燒衆名香。香氣成雲。充滿十方一切虛空。智境界心故。雨天華雲莊嚴虛空。於如來所起歡喜心故。雨一切天蓋雲。莊嚴虛空充滿十方。得敬佛心故。雨一切天鬘雲。莊嚴虛空充滿十方。供養佛故。以阿僧祇白淨寶網。徧滿虛空以爲莊嚴。懸衆金鈴而間錯之。自然微動出妙音聲。悟三乘者令得解脫。無數寶帳。莊嚴虛空彌覆十方。於如來所得深信故。普雨一切妙寶鬘雲。未曾斷絕。以阿僧祇諸天宮殿。莊嚴虛空。一切天樂山微妙音。充滿十方。至心踊悅尊敬佛故。以阿僧祇種種妙衣。莊嚴虛空。得佛出世難遇心故。雨阿僧祇諸天寶冠。莊嚴虛空。於如來所得欣敬心故。雨阿僧祇上妙衆寶及天寶鬘。莊嚴虛空。無數億那由他天子。各從身出阿僧祇種種色華。供養如來無有窮盡。於如來所歡喜恭敬故。以無數種種隨所樂香。供養如來。於如來所歡喜恭敬故。以阿僧祇栴檀末香。供養如來。於如來所得無比歡喜故。以種種寶蓋。供養如來。長養念佛三昧故。以無數種種上妙寶衣。以布道路供養如來。於如來所得歡喜恭敬故。以無量無數雜色寶幢。供養如來。於如來所得無量歡喜心故。以阿僧祇雜色寶幡。供養如來。於如來所得歡喜恭敬故。以無數天樂出微妙音。供養如來。其心常定未曾散亂。不可說億那由他菩薩。於兜率陀天宮。以離三界一切供具。從眞實法生離諸煩惱大慈之心。充滿十方無有障礙。具足方便諸甚深法。唯有諸佛乃能測量。餘無能及。堅固淨信之所長養。不可思議善根所生。無數變化因力所起。從諸如來眞法化生。無行法印。一切寶蓋普覆法界。供養如來。出過諸天一切所供。一切波羅蜜所起。一切華帳普覆法界。出過諸天所供養上。供養如來。淸淨解脫。充滿一切諸佛境界。一切寶衣。普覆莊嚴一切法界。出過諸天所供養上。供養如來。無生法忍所起。雜寶鈴網。普覆莊嚴一切法界。出過諸天所供養上。供養如來。入無礙智慧。以一切堅固香。莊嚴法界。出過諸天所供養上。供養如來。解一切法猶如幻化。敷置一切妙寶高座。莊嚴法界。出過諸天所供養上。供養如來。其心境界與如來等。座處境界亦同如來。建一切寶幢莊嚴法界。出過諸天所供養上。供養如來。善解應時。供養如來。以一切寶殿莊嚴法界。出過諸天所供養上。供養如來。解一切法如夢。以種種寶華莊嚴

法界。出過諸天所供養上。供養如來。無著善根所生。充滿一切法界。此等無量菩薩。皆從身出一切堅固香雲。一切雜色華雲。一切雜色衣雲。一切栴檀香雲。一切莊嚴寶蓋雲。一切種種香雲。一切華鬘雲。一切清淨莊嚴具雲。出過諸天所供養上。供養如來。無量菩薩。偁歎如來眞實功德。永離顚倒安住正法。具一切力。能令衆生離諸惡難。開示善道。於一音中演無量法。從一切陀羅尼生。辯才之藏。不可窮盡。具足無畏心常歡喜。菩薩以如是等無量妙法。讚歎如來。法身充滿虛空法界。心與三世諸如來等。爾時一切諸天衆。及他方來諸天子衆。并不可數諸佛刹一切菩薩。見如來等正覺。不可思議人中之雄。其身無量不可稱數。示現不可思議神足。令一切衆生皆大歡喜。周徧充滿一切虛空。諸佛功德莊嚴一切法界。令一切衆生安住一切善根。成就神力。出過一切諸語言道。一切菩薩恭敬供養。隨所應化現身救度。具足一切清淨善根。顯現如來無上功德。智慧境界不可窮盡。無比三昧之所出生。法身普至一切衆生。無有分際。令一切衆生皆大歡喜。不斷一切智種。住佛所住。於三世諸佛家生。無盡衆生皆令清淨。悉能出生一切菩薩清淨智慧。發起一切菩薩諸根。一切法雲普覆法界。如來教化究竟無餘。隨其所願悉令滿足。安立清淨平等正智。出過一切衆生之上。得一切智。以正覺眼普觀世間。隨其先世所修善根。悉能示現。普發大心。衆生愛樂。智慧安住無能壞者。善知衆生。分別諸刹。於不退轉善法中生。不壞法性分別法界。現如來身無量無數。遠離癡妄安住眞實。一切衆生歡無能盡。教化一切。修念佛三昧。充滿法界。度脫衆生無量無邊。本之所請悉能化度。隨其所應以法惠施。種種方便調伏衆生。隨彼欲性悉令清淨。示現色身不可思議。等觀衆生心無所著。住無礙住所見無障。善解如來一切諸力。心常寂定未曾散亂。住一切智。善能演說句身味身眞實之義。悉能深入無量智海。出生無量功德慧藏。如來日出普照法界。衆生願力常住不沒。住佛所住堅固不壞。於我我所心無所著。所行諸法永離世間。於一切世無所染汙。在大衆會建智慧幢。智慧超出一切世間。無所染著。以大悲心拯拔衆苦。安立衆生於深妙智。饒益衆生功德無盡。悉善分別菩薩智慧。信向佛道成最正覺。出于大慈顯現大悲。佛身無量諸法莊嚴。種種音聲演無量法。隨其所應充滿其願。於去來今心常清淨。悉令群生不著境界。能與一切諸菩薩記。生於三世諸如來家。普於十方。智慧無礙。一切悉至而無所著。於諸佛世

界。了達眞實。善能分別一切衆生。出世功德。普爲一切世間燈明。生死垢惱無能染著。佛智慧月普照法界。了達諸法無眞實性。無量深智觀察平等。慧心明淨普照十方。解了諸法如夢如化。一切世間心諸佛心及諸業報。隨其所應顯現眞實。順衆生根爲現佛身。如來境界。悉能容受一切衆生。普知衆生所行諸法。解了其相無有自性。知一切世間一性非性。隨順衆生示現有性。欲令衆生超出三界。一向正趣無上菩提。救護拯濟一切衆生。未曾妄取世間之相。滅諸煩惱正觀世間。大乘嚮勸所行不亂。成就一切諸法善利。悉能分別衆生善根。業報清淨。智慧明了。等入三世。永離世間一切虛妄。放光明網普照十方。令一切衆普見如來。分別一切十方佛刹。相好具足樂觀無厭。菩薩所行。功德智慧之所興起。善能分別諸根境界。所行佛事不失其時。成就三世諸佛無量方便。慈悲普覆一切衆生。周徧普降陀羅尼雨。皆令成就諸佛功德。無量妙色莊嚴佛身。十方衆生靡不瞻覩。除滅一切世間障礙。分別諸法解眞實義。成就功德自在法王。功德日王。普能照曜一切世間。最上福田。依因一切智慧緣生。化身充滿一切世間。一一化身。普放無量智慧光明。無礙天繒冠頂法王。功德無量悉能隨順。分別世間。無上導師開化群生。如來智慧。一切世間無畏之乘。一切世間無上醫王。了知衆生所病輕重。永離癡冥堅固不退。淨慧眼藏。善能分別一切世間。開示衆生一切業報。衆生病苦悉能除滅。無量方便而度脫之。隨其所應常不失時。等觀衆生遠離諸惡。示現業報猶如幻化。隨其所應爲現佛身。普令衆生悉見導師。分別世間一切諸法。歡喜敬佛長養善根。得不退轉。隨彼所業皆分別知。一切衆生長眠生死。如來出世能覺悟之。安慰世間令無怖畏。心無所著無能壞者。安住智慧方便具足。如來最勝。嚴淨衆生。智慧山王開淨法門。或現佛身或現菩薩。開導衆生。遠離衆惡安置善地。無量功德莊嚴佛身。業行所成示現世間。一切智慧得到彼岸。成佛道時悉令清淨。能滿世間一切所願。開示世間堅固善友。光明清淨徧照十方。普爲衆生示現其身。滅除無量衆生慳垢。悉令衆生善根清淨。隨其所願皆得滿足。等觀衆生無上中下。攝取善根起清淨業。降伏衆魔除滅煩惱。出生無量無礙之力。一切世間淨光明王。無礙慧日照除癡冥。常以法施一切衆生。無量無邊如來智藏。光明清淨普照十方。令一切衆生遠離怨仇。隨其所願皆悉充滿。最勝福田靡不歸依。果報無量具足清淨。少修善根獲大功德。安置衆生無盡智

香三本俱作香

不下三本俱有可字

礙洞作邊

地。一切善根皆由心起。無量歡喜清淨功德。能除衆生惡道諸難。如是正念如來。如是觀察正覺。如是人智慧淵。如是入功德海。如是至虛空智慧。如是知衆生福田。如是正知如來。如是觀察淨業相好。如是正知法身普照十方。如是知佛示現一切不可思議自在神力。爾時諸天。見如來身一一毛孔。出阿僧祇億那由他光明。一一光明。有阿僧祇妙色。阿僧祇清淨照明。阿僧祇佛剎。阿僧祇衆生。阿僧祇歡喜長養。阿僧祇佛勇猛精進淨。阿僧祇寂滅三昧。阿僧祇諸根清涼柔輭。阿僧祇恭敬如來。爾時諸天。復見佛身。出不可思議雜色光明輪。一一光明輪。有不可思議色。不可思議照明。普照十方無量無邊一切法界。示現如來無量無數自在神力。衆生皆聞清淨妙。|香又自然出不可思議偈。宣揚演說出世間法。具足成就離世善根。顯現阿僧祇億那由他不可思議上妙莊嚴。不可思議劫讃歎光明不能窮盡。從如來無盡自在中生。悉普照現|不思議剎。諸佛出世。安立衆生於智慧門。入眞實義。顯現不可思議如來化身。普照無量無數不可思議諸佛世界及諸法界。十方一切世界。究竟法界虛空界。持一切世界故起。普令衆生清淨平等。從如來無礙一切智佛所住生。又佛身中。出無量無數不可思議妙寶光明。本於無量無數不可思議諸如來所修功德故。得是光明。清淨大願善根所起。無量佛所修習清淨不放逸行。一向專求無上菩提。得是光明。出生無量無|礙善根。普令衆生於如來所。除滅疑惑得見如來。又覩自在神力。安立無量衆生勝善根門。度衆生海。於一切佛剎。爲諸菩薩。演說諸佛不思議法。爾時如來。以大慈悲普覆一切。示現一切智慧莊嚴。欲令無量無邊不可思議諸佛世界一切衆生。未信者信。已信者增長善根。已增長者令其清淨。已清淨者令其成熟。已成熟者令其解脫。得甚深法。具足無量智慧光明。滿足誓願。一切智心堅固不轉。不壞法性。開眞實際而不驚怖。具足解達如來實法。滿足一切諸波羅蜜。成就清淨出世善根。具足修習菩薩所行。成就如來無量自在。遠離魔界入佛境界。解甚深法得不思議智。大乘弘誓堅固不轉。常見諸佛得無量智。無量無邊功德藏力。發勝妙心離疑悔地。滅惡清淨常依如來。於眞實法堅固不轉。得入一切諸菩薩衆。常在三世諸如來家。如來顯現如是等類無量無數清淨善根。調伏衆生。悉欲令彼知佛功德。照明一切無礙慧藏。如來不可思議大神通力。於一切趣普現自在。本所志願皆悉滿足。具足淨慧究竟諸佛最勝善逝。成就法王一切自在。具足

出生一切智門。成就最勝清淨法身。三世諸佛功德平等。一切世間無能爲喩。相好嚴身具足諸力。見無厭足。於一切劫。稱說如來智慧功德。自在示現不可窮盡。一切菩薩不能究竟。普爲衆生圓滿慧日。滅三世闇。逮得法王神力自在。出生無量清淨功德。爾時兜率天王。爲如來設如是等諸供具已。與無量無數阿僧祇兜率陀天子俱。恭敬合掌。白佛言。善來世尊。善來正覺。唯願哀愍處此宮殿。爾時世尊。以佛莊嚴而自莊嚴。衆生見者無不敬樂。一切菩薩之所願求。令兜率諸天皆大歡喜。普令衆生修佛境界種佛善根。功德無盡。逮得清淨不可壞信。常供養佛心無厭倦。正心清淨發起衆生。求一切智故。受兜率天王請。卽昇一切寶莊嚴殿如意寶藏師子之座。如此世界四天下兜率天宮如來受請。昇一切寶莊嚴殿如意寶藏師子之座。一切十方諸四天下兜率天宮一切寶莊嚴殿如意寶藏師子之座。亦復如是。爾時一切寶莊嚴殿。自然殊特。妙寶莊嚴。出過諸天莊嚴之上。一切寶網彌覆其上。普雨一切妙寶雲雨。一切寶莊嚴雲雨。一切寶衣雲雨。一切栴檀雲雨。一切堅固香雲雨。一切雜寶莊嚴雲雨。不可思議衆華雲雨。自然演出不可思議妓樂音聲。宣揚如來一切種智微妙法言。如是一切諸供養具。悉過諸天所供養上。爾時佛威神力。爲兜率天王故。一切音樂寂然無聲不復擾亂。天王正念。長養善根增益大心。勇猛精進甚大歡喜。正心清淨。卽發無上菩提之心。於諸法門總持不忘。爾時兜率天王。承佛神力。卽自憶念過去佛所所種善根。以偈頌曰

無礙如來猶滿月　諸吉祥中最第一　來入衆寶莊嚴殿　是故此處最吉祥
無邊如來智甚深　諸吉祥中最第一　來入清淨金色殿　是故此處最吉祥
普眼如來甚明淨　諸吉祥中最第一　來入寶藏蓮華殿　是故此處最吉祥
珊瑚如來色鮮潔　諸吉祥中最第一　來入清淨寶藏殿　是故此處最吉祥
最勝如來論師子　諸吉祥中最第一　來入因陀寶山殿　是故此處最吉祥
滿月如來德無量　諸吉祥中最第一　來入妙寶華藏殿　是故此處最吉祥
無量如來光無際　諸吉祥中最第一　來入寶樹莊嚴殿　是故此處最吉祥
寬幢如來離疑惑　諸吉祥中最第一　來入妙寶莊嚴殿　是故此處最吉祥
無量慧佛人師子　諸吉祥中最第一　來入香山莊嚴殿

寶華三本俱作華寶

是故此處最吉祥　功德如來光普照　諸吉祥中最第一　來入勝寶莊嚴殿　是故此處最吉祥

如此間兜率天王承佛神力。憶念過去諸等正覺以偈讚歎。如是十方一切世界兜率天王。各自憶念過去佛所所種善根。以偈讚歎亦復如是。爾時世尊。昇一切寶莊嚴殿如意寶藏師子之座。結跏趺坐。清淨法身。三世諸佛境界自在。皆悉平等。一向寂靜。以一切諸佛莊嚴。而自莊嚴無量無數不可思議清淨大菩薩衆。悉從他方世界來集。如來知時而爲說法。法身不二無所染著。諸佛所起。如來法身離諸所行。爾時一切寶莊嚴殿。自然無量無數不可思議阿僧祇。諸供養具。殊特奇妙。出過諸天所供養上。所謂華鬘塗香末香。寶衣幢蓋繒幡。種種衆寶妓樂。恭敬供養讚歎如來。如是等不可思議一切供養諸莊嚴具。如此世界四天下兜率天宮一切寶莊嚴殿如意寶藏師子之座。一切十方諸佛世界。亦復如是

大方廣佛華嚴經卷第十三

寶三本俱作寶

大方廣佛華嚴經卷第十四

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

「寶坐」―宋朝＝元朝　明坐」

兜率天宮菩薩雲集讚佛品第二十

爾時佛神力故。十方各過萬佛世界塵數刹外。彼有世界。名堅固寶。次名堅固樂。次名堅固寶王。次名堅固金。次名堅固摩尼。次名堅固金剛。次名堅固蓮華。次名堅固青蓮華。次名堅固栴檀。次名堅固香。其佛號壽無盡幢。次號風幢。次號清白幢。次號威儀幢。次號明相幢。次號常幢。次號上幢。次號自在幢。次號梵幢。次號寧泰幢彼諸菩薩名字悉同。其名曰金剛幢。次名堅固幢。次名勇猛幢。次名夜光幢。次名智幢。次名寶幢。次名精進幢。次名離垢幢。次名眞寶幢。次名法幢。彼諸菩薩。各於其國佛所。淨修梵行。一一菩薩。各將萬佛世界微塵數等菩薩眷屬。來詣佛所稽首禮敬。佛神力故。隨所來方。化作如意寶藏師子之座。充滿十方。結跏趺坐。白淨寶網以覆其身。又放阿僧祇千億那由他光明。離垢光明無量光明。普照十方。以正直心攝取三寶。遠離諸惡。菩薩大願之所興起。一切衆生觀無厭足。見者不虛無不調伏。顯一切佛自在淨法。爲一切衆生作歸依處。勸化令發菩薩大願。此諸菩薩。皆悉成就無量法門。所謂徧遊十方一切佛刹無所障礙神足法門。見淨法身無著法門。住持慧身能爲無數變化之身。往詣無量佛所法門。入無量無邊不可思議如來自在法門。無量無邊一切智法門。無量光明普照諸法無畏方便法門。盡未來劫分別演說諸功德藏無盡辯法門。一切陀羅尼慧光普照法門。成就清淨慧眼普觀法界法門。智慧境界無量無邊無縛無著究竟如虛空法門。如此世界兜率天宮菩薩雲集。一切世界諸四天下兜率天宮雲集菩薩。所從來國諸佛名號亦復如是。爾時世尊。從兩膝放百千億那由他光明。普照十方虛空法界等一切世界諸四天下兜率天宮。一切如來神力自在皆悉顯現。彼諸菩薩其有得見如來神力自在者皆是

不下三本俱有可字
原元明俱作源

盧舍那如來應供等正覺。行菩薩道。修習無量諸法門時善知識也。是諸菩薩。常樂諸佛甚深解脫自在神力。得不壞法界身。得無礙三昧。見|不思議佛心無所著。以無礙心充滿法界。離垢寶心。常爲諸佛之所護念。得佛無量住持神力。決定究竟到於彼岸。清淨正念速成等覺。得諸如來心之|原底。入深智慧而得自在。於甚深智究竟彼岸。清淨法身住佛所住。得一切智與如來等。從智寶起。皆於如來妙趣中生。開發清淨智慧法門。究竟金剛大智彼岸。成就金剛方便三昧。永離一切愚癡闇冥。教化成|熟無量無邊無數衆生。諸佛一切決定自在。究竟彼岸。不著一切數。善學一切數。究竟一切數智。善住眞實法。成就如是等無量無邊不可稱數不可窮盡不可言說諸功德藏。爾時金剛幢菩薩。承佛神力。普觀十方。以偈頌曰

如來不出世　亦無有涅槃　以本大願力　顯現自在法　是法難思議　非心之境界　究竟彼岸智
乃見諸佛境　色身非如來　音聲亦如是　亦不離色聲　有佛自在力　少智不能知　甚深佛境界
成就本業智　乃達諸佛境　諸佛無來處　去亦無所至　清淨妙法身　顯現自在力　無量世界中
示現如來身　廣說微妙法　其心無所著　無量無邊慧　諸法無障礙　入於深法界　顯現自在力
衆生及諸法　了達無障礙　變化身無量　普現一切刹　欲求一切智　自然成正覺　先當淨其心
具修菩薩行　如是見如來　無量自在力　除疑常親近　無上善知識

爾時堅固幢菩薩。承佛神力。普觀十方。以偈頌曰

最上無過者　甚深不可說　一切語言斷　清淨如虛空　諦觀人師子　無量自在力　諸佛無虛妄
世間生妄想　導師所演說　其法甚深妙　隨順因緣起　如來清淨身　斯等大乘智　諸佛之境界
若欲求此智　常應親近佛　清淨心供養　一切諸導師　心常無厭足　究竟成佛道　無盡功德藏
增長菩提心　遠離諸疑惑　觀佛無厭足　究竟一切法　法化生佛子　彼悉能解了　諸佛自在力
智慧王所說　欲爲諸法本　應起清淨欲　志求無上道　若能敬諸佛　知報如來恩　彼人未曾離
一切諸導師　如是得見聞　諸佛及佛法　具足清淨願　究竟無上道

原三本俱作源

爾時勇猛幢菩薩。承佛神力。普觀十方。以偈頌曰。

有眼有日光　能見細微色　最勝神力故　淨心見諸佛　勇猛勤方便　能盡海源底　智慧力如是
究竟諸佛海　譬如好良田　植種必滋繁　如是淨心地　出生諸佛法　如貧得寶藏　除滅飢寒苦
菩薩得佛法　離垢心清淨　譬如伽陀藥　能消一切毒　天尊亦如是　滅除煩惱毒　因緣善知識
生長信佛心　因緣善知識　得聞諸佛法　無量無數劫　常行無上施　若能化一人　功德超於彼
如來相莊嚴　功德難思議　諸佛功德藏　一切莫能知　如來等正覺　不起于一座　悉能徧十方
一切諸世界　譬如虛空性　不生亦不滅　諸佛法如是　亦復無生滅

爾時夜光幢菩薩。承佛神力。普觀十方。以偈頌曰

十方諸世界　一切群生類　普見天人尊　清淨妙法身　譬如一心力　能生種種心　如來一法身
出生諸佛身　菩提無二法　亦無有自性　無二淨法身　莊嚴無不現　究竟如虛空　猶如幻化現
功德不可盡　其唯諸佛境　三世一切佛　法身悉清淨　隨其所應化　普現妙色身　未曾生想念
我爲如是像　遠離諸希望　自然應衆生　不壞諸法性　亦不著法界　應現種種形　教化衆生故
法身非變化　亦非非變化　諸法無變化　示現有變化　正覺不可量　究竟等法界　深廣無涯底
言語道悉斷　一切趣道法　如來知實義　遊行一切刹　未曾有障礙

爾時智幢菩薩。承佛神力。普觀十方。以偈頌曰

入於深智慧　一切無障礙　其心無齊限　修習菩薩行　普於十方刹　常見一切佛　彼佛無處所
法亦無所著　一一諸如來　自在力無量　不可思議劫　說之無窮盡　三世諸衆生　悉可知其數
道師功德藏　其數不可盡　無二不思議　應現種種身　十方無不見　未曾有別異　譬如淨滿月
普現一切水　影像雖無量　本月未曾二　如是無礙智　成就等正覺　應現一切刹　佛身初無二
非一亦非二　亦復非無量　隨其所應化　示現無量身　佛身非過去　亦復非未來　一念現出生

成佛入涅槃　譬如幻化色　不生亦不滅　佛身亦如是　寂然無生滅

爾時寶幢菩薩.承佛神力.普觀十方.以偈頌曰

如來身無量　衆生見有量　隨彼所應化　導師爲現身　法身無處所　充滿十方界　佛身難思議
如空無分際　彼無心意識　亦無起心想　諸佛之境界　究竟無生滅　譬如無目人　不覩內外色
如來不出世　不見一切法　饒益衆生故　如來出世間　衆生見有出　而實無興世　佛刹非如來
晝夜亦如是　年月至一念　悉非等正覺　衆生咸說言　佛日出世間　導師自覺悟　如來非淨日
虛妄無所有　言語道悉斷　三世諸如來　出世亦如是　譬如淸淨日　不與昏夜俱　而說日夜相
諸佛亦如是　三世一切劫　不與如來俱　而說三世佛　導師法如是

爾時精進幢菩薩.承佛神力.普觀十方.以偈頌曰

一切諸導師　身同義亦然　普於十方界　隨應各別異　觀察牟尼尊　境界甚深妙　充滿諸法界
一切悉無餘　如來淨法身　非是內身數　如來淨法身　亦非外身數　隨彼衆生行　種種無量業
是故見如來　各各悉不同　如來妙法身　一切莫能數　甚深難思議　當是佛境界　如我非境界
思量所不及　佛法身如是　一切莫能測　如刹難思議　而見淨莊嚴　佛身亦如是　妙相無不現
猶如一切法　因緣和合生　如是因緣會　得見諸如來　譬如隨意珠　悉滿衆生意　諸佛法如是
能滿一切願　無量世界中　導師興於世　如來本願力　普應十方界

爾時離垢幢菩薩.承佛神力.普觀十方.以偈頌曰

諸佛智慧光　圓滿淨世間　能淨世間已　令入諸佛法　設有人欲見　衆生數等佛　如來一切應
而實無來處　專念佛境界　生起無量心　所見諸如來　其數與心等　具足白淨法　名聞滿十方
彼於一切智　其心安不動　導師爲衆生　如應演說法　隨所宜見處　普現最勝身　佛身非處所
世界亦如是　說心非我所　覺無我菩提　一切人師子　無量自在力　示現念等身　種種相莊嚴

世間則是身　身卽是最勝　知身眞實性　是佛無礙智　一切知見人　普明照諸法　佛法及菩提
求悉不可得　導師無來去　亦復無所住　遠離諸顚倒　淸淨等正覺

爾時眞實幢菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

正覺遊十方　一切諸世界　不離於一剎　普現諸國土　如來自在力　應現一切身　得道轉法輪
究竟般涅槃　誰爲思議佛　誰爲不思議　誰見諸如來　誰爲等正覺　一切法皆如　諸佛境亦然
乃至無一法　如中有生滅　衆生虛妄故　是佛是世界　若解眞實者　無佛無世界　令衆歡喜故
普現一切前　如來所現身　畢竟不可得　遠離一切障　無礙安隱住　除滅諸惱難　具足諸佛法
一切諸如來　神通力自在　悉於三世中　求之不可得　如是知心識　明解一切法　一切知見人
速成等正覺　如來自在力　但有假言說　諸佛及自在　一切言語斷

爾時法幢菩薩。承佛神力。普現十方。以偈頌曰

寧於無量劫　具受一切苦　終不遠如來　不覩自在力　無量生死中　未曾發道心　若聞見如來
具足佛菩提　聽達明慧者　若發一道心　汝莫生疑惑　自謂不成佛　無量無數劫　菩提心難得
若能一心求　究竟無上道　設於念念中　供養無量佛　不知是方便　彼猶非供養　若聞如是法
諸佛從此生　無量劫受苦　決定求菩提　一聞摩訶衍　諸佛所乘乘　一切法界中　三世爲導師
雖盡未來劫　一切諸佛剎　不解方便者　終不成菩提　過去無量劫　流轉於生死　不知眞實法
如來所起處　諸法不可壞　亦無壞法者　照明諸世間　示現自在法

大方廣佛華嚴經金剛幢菩薩十迴向品第二十一之一

爾時金剛幢菩薩。承佛神力。入菩薩明智三昧正受。入正受已。十方各過百萬佛剎微塵數等世界之外。各見百萬佛剎微塵數諸佛。是諸如來悉號金剛幢。時彼諸佛告金剛幢菩薩言。善哉善哉。佛子。乃能入是菩薩明智三

則三本俱作卽　實同作寶　者元明俱作法　三本俱以金剛幢菩薩十迴向品第二十一之一爲卷第十五首〇迴上同無十字下同〇正上同無入字〇剎下同無微字

諸下同有善字

是下三本俱無爲字
愍悲同作悲愍

昧正受。善男子。十方各百萬佛剎微塵數等世界諸佛加汝神力故。乃能入是三昧正受。又盧舍那佛本願力故。威神力故。汝智慧清淨故。諸菩薩善根力故。欲令菩薩得清淨無所畏故。得無礙不斷辯故。入無礙智地故。入佛一切智廣大心故。具足無盡諸善根故。滿足無礙白淨法故。入普門法界故。顯現一切佛神力變化故。淨念過去際智慧不斷故。分別一切佛住持諸根故。以無量法門廣說法故。聞持了知無量法故。具足演說十迴向故。攝取一切菩薩諸善根故。安住出世間法故。一切智不斷絕故。開發大願故。入眞實義故。知法界故。令一切菩薩悉歡喜故。修一切佛同善根故。護持一切如來性故。善男子。汝當承佛神力演說此法。安住佛家故。長養出世間諸功德故。入陀羅尼光明故。入諸佛不滅度法故。普照法界故。積集白淨離惡法故。住廣智慧境界住故。住無障礙法光明住故。爾時諸佛。即與金剛幢菩薩無量智慧。與善方便分別句身無留礙辯。與無障礙法明。與一切如來所共之身。與無量微妙音聲。與諸菩薩不可思議三昧方便。與等心迴向善根智慧。與觀察一切法出生無量方便。與一切處說法無斷辯才。何以故。彼三昧善根力故。爾時諸佛。各申右手。摩金剛幢菩薩頂。摩其頂已。時彼菩薩即從定起。告衆菩薩言。佛子。是菩薩摩訶薩不可思議大願。悉普救護一切衆生。菩薩摩訶薩。立此願已。修學三世諸佛迴向。佛子。何等爲菩薩摩訶薩迴向。菩薩摩訶薩迴向有十。去來今佛悉共演說。何等爲十。一者救護一切衆生離衆生相迴向。二者不壞迴向。三者等一切佛迴向。四者至一切處迴向。五者無盡功德藏迴向。六者隨順平等善根迴向。七者隨順等觀一切衆生迴向。八者如相迴向。九者無縛無著解脫迴向。十者法界無量迴向。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種迴向。三世諸佛所共演說。佛子。何等爲救護一切衆生離衆生相迴向。此菩薩摩訶薩。行檀波羅蜜。淨尸波羅蜜。修羼提波羅蜜。行毘梨耶波羅蜜。入禪波羅蜜。分別般若波羅蜜。修行積集慈哀愍悲歡喜堪忍捨。修如是等無量善根。修善根已。作如是念。我所修習善根。悉以饒益一切衆生。究竟清淨。以此所修善根。令一切衆生皆悉除滅地獄餓鬼畜生閻羅王等無量苦惱。復作是念。我以此善根迴向。爲一切衆生作舍。令滅苦陰故。爲一切衆生作護。令解脫煩惱故。爲一切衆生作歸。令離恐怖故。爲一切衆生作趣。令至一切智地故。爲一切衆生作安隱。令得究竟安隱處故。爲一切衆生作大明。令滅癡冥得慧光故。爲一切衆生作炬。令

量同作礙

滅無明闇故.爲一切衆生作燈.令得安住究竟明淨故.爲一切衆生作導.令入方便法故.爲一切衆生作主寶臣.令得無礙淨智身故.佛子.菩薩摩訶薩.以如是等無量善根迴向.令一切衆生究竟一切智.佛子.此菩薩摩訶薩爲怨親故.以諸善根迴向等無差別.何以故.菩薩摩訶薩.入平等觀無怨親故.常以愛眼視諸衆生.若衆生懷惡於菩薩所起怨逆心.菩薩摩訶薩.爲一切衆生作善知識.廣爲分別諸深妙法.譬如大海一切衆毒所不能壞.菩薩亦復如是.一切童蒙愚癡無智不知報恩.瞋恚貢高破戒生盲.如是等類無量過惡.不能動亂菩薩道心.譬如日天子出普照天下.不以盲人故隱而不現.又復不以乾闥婆城四域塵曀.阿脩羅障閻浮樹蔭及餘山障.如是等類無量障蔽故.隱而不現.菩薩摩訶薩亦復如是.常正憶念未曾散亂.深廣安諦心無憂慼.正意思惟.悉欲究竟功德智慧.清淨法光普照世間.示眞實義.淨修一切諸法智門.爲諸衆生常修善根.一切衆生有無量惡.菩薩摩訶薩.不以惡衆生故嫌恨退沒不行迴向.不以難調伏衆生故退捨善根不行迴向.雖有衆生邪見瞋濁.於大莊嚴其心不轉.不捨大願救護衆生.若見衆生濁惡無信不知報恩.修習菩提未曾懈廢.若與愚癡童蒙共事心無憂惱.何以故.我以明淨圓滿慧日.出於世間.清淨調伏一切衆生.菩薩摩訶薩.不爲一衆生故發心求阿耨多羅三藐三菩提.善根迴向不爲嚴淨一佛刹故.不爲信一佛故.不爲見一佛故.不爲聞一佛法故.不爲滿足一願故.菩薩摩訶薩.悉欲救護一切衆生故.以善根迴向.具足嚴淨一切佛刹.信一切佛見一切佛.恭敬供養一切諸佛.聞一切佛所說正法.滿足一切大願故.以諸善根.迴向阿耨多羅三藐三菩提.菩薩摩訶薩.復作是念.發菩提心寶.卽是如來境界之力.廣大平等無有懈怠.於一切劫修學難得.與諸佛等.菩薩摩訶薩.如是觀諸善根.信心清淨.長養大悲.以諸善根.普爲衆生深心迴向.非但口言.於諸衆生發歡喜心.明淨心.柔輭心.慈心.愛念心.攝取心.饒益心.安樂心.最勝心.以諸善根迴向.菩薩摩訶薩.以諸善根迴向時.作如是念.若我所有迴向功德.令一切衆生.得清淨趣.得清淨生.功德滿足.一切世間無能壞者.不可窮盡.常得尊重心不錯謬.分別了知一切諸趣.思量諸佛.具足莊嚴身口意業.具足莊嚴一切功德.復作是念.以此善根迴向功德.令一切衆生常見諸佛.於彼佛所得不壞信.於諸佛所聽受正法離諸疑惑.憶持不忘如說修行.於如來所得柔輭心淨身口業.心常安住勝妙

善根。永離貧法七財滿足。修學一切諸佛所學。得諸善根。成就平等淨妙解脫。一切種智。於一切衆生得慈愛眼。其身淸淨相好莊嚴。言論辯慧功德具足。調伏諸根成就十力。發起諸善心住滿足。無所染著。令一切衆生具佛快樂。得無量住住佛所住。此菩薩摩訶薩。復作是念。一切衆生造作無量諸不善業。因是業故受無量苦。不見如來。不聞正法。不識淨僧。此諸衆生。具有無量大惡罪業。應受無量無邊楚毒。我當於彼三惡道中悉代受苦令得解脫。我當代受無量苦惱。不以苦故其心退轉恐怖懈怠捨離衆生。何以故。我爲衆生荷負重擔。滿平等願。度脫一切生老病死愁憂苦惱無量諸難。流轉生死一切邪見。失諸善法愚癡無智。我當悉度免此衆苦。衆生常爲愛網所纏。無明覆蔽染著有愛。爲之走使不得自在。縛在苦獄隨諸魔業。於諸佛所心生疑惑。不得出世道。不見安隱處。常馳無量生死曠野。受無量苦。菩薩摩訶薩。見彼衆生沒生死泥受衆楚毒。起大悲心。饒益衆生令得善利。免度苦難。善根迴向。以大迴向迴向。如三世菩薩迴向。如諸佛所說大迴向經迴向。令一切衆生悉得淸淨。具足善根究竟一切智。復作是念。我當悉令一切衆生得無上智王。安隱住處。不爲自度。但欲令彼出生死淵。得一切智心。拔出衆生惡道險谷。救無量苦度生死流。復作是念。我當爲一切衆生受無量苦。令諸衆生悉得免出生死沃焦。我當爲一切衆生。於一切剎一切地獄中。受一切苦。終不捨離。我當於一一惡道盡未來劫。代諸衆生受無量苦。何以故。我寧獨受諸苦。不令衆生受諸楚毒。當以我身免贖一切惡道衆生。令得解脫。菩薩摩訶薩。復作是念。我悉當爲一切衆生。作誠實語者。離惱害心不捨衆生。何以故。我因衆生發菩提心。度脫一切。不求尊貴。不求五欲。不求世間種種樂故。行菩薩道。何以故。五欲是世間法。諸魔境界。愚人所行諸佛訶責。彼能出生一切苦惱地獄餓鬼畜生閻羅王處。忿恚鬪諍更相訟說。皆由五欲。積習五欲遠離諸佛。能障生天。況無上道。菩薩明見五欲有如是等無量過患。是故不以五欲修菩薩行。但欲饒益安隱衆生。發菩提心求無上道。令一切衆生得一切利具諸大願。斷絕衆生煩惱鉤餌。離無量苦。菩薩摩訶薩。復作是念。我當以諸善根迴向。令一切衆生得種種樂。究竟樂。饒益樂。不共樂。寂靜樂。無染樂。無動樂。無量樂。不死不轉樂。不滅樂。一切智樂。我當爲一切衆生作調御師。作主藏臣。作大明炬示安隱處。令離諸難解一切法。我當令解諸甚深義。我當爲作一切智船度生死海。我當

令知無量善根廻向.我當悉爲示現彼岸.菩薩摩訶薩.以是無量善根廻向.救護一切度生死海.令諸如來皆悉歡喜得一切智.捨離衆魔遠惡知識.親近菩薩勝善知識.成就淨業盡滅衆惡.具足菩薩無量願行一切善根.菩薩摩訶薩.以諸善根正廻向已.作如是念.不以四天下一一衆生故一一日出.但一日出世.悉能普照一切天下.又諸衆生.不以自身光明知有晝夜.遊行觀察興造諸業.皆由日天子出普照天下.一切衆生無業不就.菩薩摩訶薩亦復如是.修諸善根廻向.普爲衆生作如是念.彼諸衆生無智慧光.尚不自照何況照他.唯我一人志獨無侶.修諸善根廻向.欲爲度脫一切衆生.普照一切衆生.分別一切衆生.了達一切衆生.令一切衆生入甚深法.攝取一切衆生.成就一切衆生.悅樂一切衆生.柔輭一切衆生.滅除一切衆生疑惑.菩薩摩訶薩.復作是念.我當修學如日天子普照一切不求恩報.不爲惡衆生故捨大莊嚴.亦不以一惡衆生故捨離一切而不度脫.但勤修習善根廻向.欲令衆生得一切樂.攝少善根廻向廣大.若諸善根不能饒益衆生者.我終不以善根廻向.以諸善根悉與衆生發心廻向.令一切衆生不著諸法故廻向.以衆生性廻向而無所至.菩薩如是廻向.亦無所著.不取所有性.安住諸善根.不取相廻向.業報虛妄無所有.亦無所著.不取五陰相廻向.不壞五陰相廻向.不取虛妄業廻向.不求報.不起虛妄因緣.不生不起不住.不住堅固相.不住虛妄法.不取衆生相.不分別世界.不住心顚倒想顚倒見顚倒.不著語言道.但欲令衆生解眞實法廻向.觀察一切衆生平等廻向.法界印印諸善根廻向.離欲等法觀察善根廻向.解一切法.離於顚倒.得諸善根.以無二法觀察法界廻向.彼廻向不生諸法.不滅諸法.以如是等善根廻向.修行清淨諸對治法廻向.觀一切善根.皆悉廻向出世間法.於彼善根不作二相.薩婆若非卽是業.亦不離業廻向.觀察薩婆若.不卽是業.亦不離業.得薩婆若.願智業照明清淨故.報亦照明清淨.報照明清淨故.薩婆若亦照明清淨.捨離一切動亂覺觀憍慢放逸.隨方便智.以諸善根廻向.令一切衆生悉得眞實究竟解脫.不著法性.無量無邊善根廻向.諸法無業報.而出生業報.菩薩摩訶薩.以如是等善根廻向.則能永離一切諸惡.佛所讚歎.佛子.是名菩薩摩訶薩第一救護一切衆生離衆生相廻向.爾時金剛幢菩薩.承佛神力.普觀十方及一切衆.觀察法界入深句義味.大悲普覆一切衆生.護持三世佛種不斷.入一切佛諸功德藏.出生諸佛清淨法身.

名三本俱作爲
救下同無護字

毒 元明俱作濁
界 同作昧

善能分別諸衆生心。過去所種一切善根。知時不失。具足法身。善能示現清淨色身。以偈頌曰

不思議劫所修行　常爲饒益諸群生　精進堅强意無礙　常求諸佛妙功德　其心清淨離瞋恚
恭敬供養調御師　深解諸法救衆生　彼能善入迴向藏　勇猛精進力具足　智力照明甚清淨
忍心堅固不傾動　常能救護諸群生　於無等所心安住　踊悅歡喜意清淨　菩薩忍力如大地
悉能饒益諸衆生　不以苦行自求樂　大慈悲起無量行　常能救護諸群生　彼人速入無礙地
十方一切諸世界　其中衆生皆攝取　常爲衆生心安住　修學無量諸迴向　以歡喜心行布施
具足護持清淨戒　勇猛精進心堅固　清淨智慧善迴向　其心廣大不可量　忍力堅强常迴向
淨修一切諸禪定　智慧深妙離思議　十方一切世界中　具足修習清淨行　智慧迴向諸功德
以一切樂益衆生　彼人積集衆善業　無量無邊不可數　欲令衆生具修習　住不思議深妙智
普爲一切衆生故　不思議劫住地獄　菩薩心常無懈怠　決定功德常迴向　不求色聲諸香味
亦不希望一切觸　常求無上最勝智　度脫一切諸群生　菩薩智淨如虛空　普行無量大士行
最勝所行淨業道　無量名稱常修行　菩薩遊行諸世界　常能安隱群生類　悉令一切皆歡喜
修菩薩行無厭足　除滅一切心垢穢　思惟修習無上智　不自爲己求安樂　常欲利益諸群生
菩薩迴向到彼岸　除滅無量心穢毒　具足修習三世佛　無量清淨諸功德　菩薩未曾染著色
受想行識亦如是　不住一切諸三界　所有功德悉迴向　諸佛所知衆生類　皆悉攝取無有餘
究竟度脫諸群萌　是名菩薩殊勝行　菩薩一切心安住　開悟彌廣不可稱　離癡正念伏諸根
身口意業常寂然　一切內外所有法　皆悉虛妄無眞實　如風行空無所礙　菩薩心行亦如是
所起身業常清淨　能令諸佛悉歡喜　於最勝所言不虛　直常專向諸如來　十方無量諸世界
所有最勝悉往詣　於彼覩見大悲尊　悉能恭敬供養之　心常遠離一切惡　處大衆中無所畏
心常安住如來道　彼爲三有清涼池　善修分析一切法　具足了達諸有無　善能趣向眞法性

染三本俱作味

佛上三本俱無諸字

深入無諍勝三昧　修習菩薩堅固行　一切衆生莫能壞　明學了達甚深義　於三世法無所著
究竟廻向到彼岸　普令衆生悉清淨　遠離一切諸染著　菩薩所行無所倚　一切衆生語言法
於彼智慧無障礙　談論巧妙無愛著　心常安處無礙住　菩薩如是行廻向　無量善心功德藏
能令十方諸世界　一切如來皆歡喜

佛子。何等爲菩薩摩訶薩第二不壞廻向。此菩薩摩訶薩。於去來今諸如來所得不壞信。一切諸佛皆悉歡喜。於諸菩薩所。乃至初發一念求菩薩善根及一切智。於彼菩薩得不壞信。悉於一切諸佛法中。一向直心而不可壞。於諸佛敎得不壞信。守護一切諸如來法得不壞信。常以愛眼等觀一切。以善根廻向。令彼衆生獲諸善利得不壞信。於自淨善根得不壞信。何以故。修集一切諸善根故。於一切菩薩廻向得不壞信。直心解脫得滿足故。於一切菩薩諸法師所得不壞信。具足起如來想故。於如來自在神力得不壞信。諦信諸佛難思議故。於一切菩薩方便得不壞信。攝取種種無量無數行境界故。佛子。菩薩摩訶薩。如是安住不可壞信。於諸佛菩薩聲聞緣覺如來正敎。一切衆生如是等無量境界。種諸善根。分別諸善根。長養菩提心。修習大慈所生善根。廣修大悲平等觀察。學佛所學隨順諸佛。攝取一切清淨善根。深入實義。集功德藏。行大惠施。修諸功德。等觀三世菩薩摩訶薩。如是等善根功德。廻向一切智。常見諸佛親近善知識。常與無量諸菩薩會。念薩婆若心無散亂。受諸佛敎興護法心。敎化成熟一切衆生。心常不離出世廻向。供養守護一切法師。解了諸法。修習滿足一切大願。菩薩摩訶薩。如是精勤修習無量善根。積集長養善根。正念思惟觀察境界眞實等義。恭敬供養。威儀具足。善根廻向菩薩摩訶薩。善根廻向已。作如是念。以此善根廻向所得依果。令我修行菩薩行。時於念念中見一切佛。令彼諸佛皆悉歡喜。於諸如來應供等正覺。如佛所應而以供養。以阿僧祇寶。阿僧祇華。阿僧祇香。阿僧祇塗香。阿僧祇鬘。阿僧祇衣阿僧祇蓋。阿僧祇幢。阿僧祇幡。阿僧祇莊嚴。阿僧祇莊嚴具。阿僧祇供給。阿僧祇末香。阿僧祇信樂。阿僧祇敬念。阿僧祇淨信燒。阿僧祇堅固香。阿僧祇上味飯食。阿僧祇恭敬。阿僧祇禮拜。阿僧祇一切寶座。阿僧祇一切華座。阿僧祇一切香座。阿僧祇一切鬘座。阿僧祇一切清淨栴檀座。阿僧祇一切衣座。阿僧祇一切金剛座。阿僧祇一

切摩尼寶座.阿僧祇一切寶繒座.阿僧祇一切寶色座.阿僧祇一切寶輪.阿僧祇一切華輪.阿僧祇一切香輪.阿僧祇一切鬘莊嚴輪.阿僧祇一切寶衣輪.阿僧祇一切寶莊嚴輪.阿僧祇一切寶繒敷輪建立.阿僧祇一切寶多羅高顯輪.阿僧祇一切寶欄楯輪.阿僧祇一切寶網輪羅覆其上.阿僧祇一切妙寶宮殿.嚴飾殊特出過諸天.阿僧祇一切華宮殿.阿僧祇一切香宮殿.阿僧祇一切寶鬘宮殿.阿僧祇一切栴檀宮殿.阿僧祇一切堅固香藏宮殿.阿僧祇一切金剛宮殿.阿僧祇一切摩尼寶宮殿.皆悉殊妙出過諸天.阿僧祇諸雜寶樹.阿僧祇種種香樹.阿僧祇諸寶衣樹.阿僧祇妙音樂樹.阿僧祇妙音聲樹.阿僧祇無厭寶樹.阿僧祇垂寶繒幡樹.阿僧祇寶莊嚴樹.阿僧祇一切華.一切鬘.一切香.一切塗香.一切蓋.一切幢.一切幡樹.如是等諸妙寶樹.莊嚴殊特.以用莊嚴無數宮殿.阿僧祇寶欄楯莊嚴.阿僧祇寶窻莊嚴.阿僧祇寶徧樓閣莊嚴.阿僧祇內帳莊嚴.阿僧祇半月莊嚴.阿僧祇樓閣莊嚴.阿僧祇寶帳莊嚴.阿僧祇白寶網.羅覆其上.燒阿僧祇堅固香.阿僧祇寶衣以敷其地.以如是等諸莊嚴具.莊嚴無數宮殿.出過諸天.以如是等上妙供養.於無量無數不可說不可說劫.調伏諸根.敬心供養一切如來.此諸最勝般涅槃後.供養舍利.欲令一切衆生皆悉歡喜.攝取一切衆生善根.令一切衆生離無量苦發菩提心.令一切衆生以大莊嚴而自莊嚴.無量莊嚴超出一切衆生境界.示現佛法難可値遇.滿足阿僧祇諸如來力.淸淨信心供養導師.受持守護一切佛法.如是供養現在諸佛.及涅槃後供養舍利.於無量阿僧祇劫.說供養具不可窮盡.諸佛成就無量功德.敎化度脫一切衆生.我常供養彼諸如來.心不退轉.無有休息未曾懈怠.不懷憂惱亦無所著無有心想.於諸法中而無所染無所依止.不味善根離一切著.以實法印印業法門.生一切法.住佛所住.觀無生性.境界法印印彼發心.受持如來淸淨迴向.觀察平等法性迴向.入無行方便出生諸行心捨一切迴向.無量方便迴向.離一切有迴向.安住離相方便修習法門善根迴向.菩薩從初發心修習一切諸妙善根皆悉迴向.以此善根於生死中而不可壞.求一切智心不退轉.處一切有寂定不亂.度脫一切衆生.不著生死.得無礙智門.修菩薩行.而彼善根不可窮盡.世間諸法所不能壞.具足淸淨諸波羅蜜.究竟一切智力.菩薩摩訶薩.如是捨離癡闇成菩提心.普照一切長白淨法.善根迴向具足衆行.淸淨直心觀察平等.深入諸法知業如幻.業報如

名三本俱作爲

電。諸行如化。因緣生法如響。菩薩行如影。無著法眼之所出生。無作所作。其性寂滅。入有爲無爲。於一切法了達無二解如實性。分別菩薩一切行相。不著諸相。善知方便入同事業。不捨一切白淨善法。離一切障無礙無著。常爲諸佛之所護念。遠離愚癡。如是菩薩摩訶薩。成就善根出生善法。不壞業報明見眞實。善解迴向。以方便力。出生業報。究竟法性。得到彼岸。了達諸法。迴向大智。諸業善根。其心清淨行無所行。菩薩摩訶薩。如是善根迴向。欲度脫一切衆生佛種不斷。滅諸惡業業報。迴向一切衆生。得無量智成一切智。離世境界滅諸煩惱。究竟清淨成就智慧。入深方便捨生死苦。成就諸佛無量善根。摧伏魔業。得平等法印以印諸業。隨順薩婆若無上菩提。菩薩摩訶薩。行如是善根迴向。善根明淨普照一切。具足成就薩婆若乘。佛子。是名菩薩摩訶薩第二不壞迴向。菩薩摩訶薩。安住此迴向。得見無量阿僧祇佛。悉得無量清淨妙法。普於衆生得平等心。捨離愚癡入一切法。得諸如來自在神力。降伏衆魔滅諸魔業。具足生貴菩提之心。得無礙智不由他悟。於一切法見眞實義。於一佛刹悉能受持分別其相。智慧具足普照衆生。菩薩摩訶薩。以此不壞迴向力。攝取一切善根迴向。爾時金剛幢菩薩。承佛神力普觀十方。乃至以偈頌曰

修習無量無數業　所乘堅固不可壞　能令諸佛悉歡喜　是名智者所迴向　所供養佛難思議
布施持戒伏諸根　彼爲一切修迴向　清淨無量衆生故　一切上妙諸華香　無量無數衆寶衣
種種莊嚴及寶蓋　供養一切諸如來　如是無量諸供具　不可思議曠劫中　恭敬供養調御師
心常歡喜無厭足　專心觀察諸最勝　一切世間大明燈　現在十方一切佛　皆悉覩見如目前
不可思議無量劫　修行布施無厭足　不可思議無量劫　修諸善根亦無厭　善分別知諸心想
如實觀察無虛妄　悉知諸根無有餘　常能饒益一切衆　心大歡喜無有量　信心清淨而恭敬
不思議劫忍住世　饒益救度一切衆　一切諸佛滅度已　供養舍利無厭足　悉以無量妙雜寶
建立恒沙諸塔廟　造作無數尊形像　寶藏淨金而莊嚴　巍巍高大如山王　其數無量不思議
修學積集諸功德　勝妙堅固不可壞　菩薩善知行迴向　分別非有亦非無　若能如是修迴向

切三本俱作心

功德無量不可盡　勝妙智慧觀諸法　皆能了達無所生　方便修習令心淨　悉與一切如來等
以不可盡諸方便　迴向無盡如來藏　發起無上菩提心　一切世間無所依　普至十方諸世界
於一切衆心無礙　方便啓導衆生心　悉令出生佛菩提　觀察衆生心平等　推求眞實不可得
一切諸法悉無餘　了達其性無所有　迴向無著淸淨眼　永離一切世間苦　欲令諸有悉淸淨
心不妄取諸法相　分別所有無所有　能令心淨大歡喜　於一佛刹無所著　了諸佛土無堅固
不取一切有爲法　亦不染著法自性　方便迴向薩婆若　無上智慧自莊嚴　普令諸佛悉歡喜
是爲菩薩迴向業　菩薩一心念諸佛　無上智慧巧方便　如諸如來無所著　令我悉獲此功德
常欲救護一切衆　遠離無量諸惡業　常行饒益衆生心　於饒益心無虛妄　隨所住地守護法
示現涅槃實不滅　一切如來無二法　願我迴向亦如是　一切世界諸趣中　於有爲法無所著
菩薩不緣語言道　亦不染著無語言　十方一切諸如來　悉攝諸法無有餘　離一切趣而受生
於所離生無虛妄　以一莊嚴一切嚴　亦不分別此諸法　了達世間悉虛妄　一切所行無所有

大方廣佛華嚴經卷第十五

〔麗坐＝宋朝〕＝〔元朝〕、〔明坐〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

金剛幢菩薩十迴向品第二十一之二

佛子。何等爲菩薩摩訶薩第三等諸佛迴向。此菩薩摩訶薩。隨順學過去未來現在諸佛迴向。此菩薩。修菩薩行時。見好惡色。其心淸淨而無憎愛。歡喜悅樂起無壞心。離諸憂惱得正直心。身意柔輭諸根淸凉。此菩薩。得如是樂時。迴向諸佛。作如是念。一切諸佛。雖有無上淨妙快樂。復願諸佛具不思議佛所住樂。具足攝取不可稱量佛三昧樂。成就無量大悲快樂。具足成就不可計議佛解脫樂。具足攝取諸佛神足自在快樂。無上尊重最妙快樂。普覆如來常令具足諸佛無量力樂。永離一切諸覺之樂。無上寂靜不變易樂。具足無礙法門。心常寂定而無散亂。佛無二行不可壞樂。菩薩摩訶薩。以如是善根。迴向諸佛已。又復迴向一切菩薩。令願未滿者悉令滿足。未淨直心者令淨直心。未滿諸波羅蜜者悉令滿足安住金剛菩提之心。於一切智得不退轉。不捨大莊嚴。守護菩提門及諸善根。能令一切衆生捨離放逸。發菩提心所願成滿。安住一切菩薩所住。得諸菩薩明利諸根。修習善根證薩婆若。如是菩薩摩訶薩。以諸善根迴向菩薩已。又復迴向。一切衆生迴向。一切衆生見佛聞法敬心近僧迴向。具足專心念佛迴向。具足念淨妙法迴向。念僧尊重恭敬迴向。見佛未曾遠離迴向。成就諸淸淨心迴向。分別諸如來法迴向。成就無量功德迴向。淸淨諸通善根迴向。除滅一切疑惑如佛迴向。開化一切衆生聲聞緣覺及諸菩薩菩薩善根迴向。一切衆生亦復如是。令一切衆生。永離地獄餓鬼畜生閻羅王處一切惡趣無量衆難。菩薩摩訶薩。令彼一切衆生。悉發無上菩提之心。長養無上菩提之心。一心專求一切種智。捨離誹謗諸佛正法。常樂具足一切智地。令一切衆生。究竟淸淨得一切智。菩薩摩訶薩所行善根。以諸大願攝取行等行。積聚等積聚。

三本俱第十五爲第十六

凉同作淨

計同作思

犬三本俱作大
增上宮有苦字
舍明作捨
彼三本俱作諸

長養等長養。皆悉廣大具足充滿。菩薩摩訶薩。若在家時。與妻子俱未曾暫離菩提之心。正念思惟薩婆若境界。自度度彼。直心平等。方便示現妻子眷屬。菩薩善方便智皆悉成就究竟解脫。雖與同止心無所著。以本大悲故處在家屬。以大慈故隨順妻子。於菩薩淨道無所障礙。菩薩摩訶薩。若在家時。應以如是薩婆若心善根迴向。所謂被著衣裳。若飲若食。服諸湯藥。行住坐臥。身口意業具足清淨。諸根調伏皆悉安諦。洗浴塗身寂靜徐步。迴旋顧眄擧足下足。若眠若覺不失威儀。善攝諸根不曾散亂。菩薩摩訶薩。以如是等一切諸行。未曾遠離薩婆若身善根迴向。饒益安樂一切衆生。無量諸願皆悉成就。攝取無量廣大善根。修習善根救護一切。除滅一切放逸憍慢。一心正念一切種智。欲覺一切諸佛菩提。捨離煩惱及順煩惱法修習一切菩薩所學。於一切智道無所障礙。樂修智地及諸善根。常樂愛語增長善根。令一切衆生永離苦惱不著所行。一心受持諸佛教法。是爲菩薩摩訶薩處在家屬攝取善根一心迴向無上菩提。菩薩摩訶薩。復作是念。乃至小犬及餘畜生。當令此等具足修習不放逸行。離畜生趣得饒益樂。究竟解脫永度苦海。苦受。苦陰。苦覺。增上大苦。苦行。苦藏。苦根。苦舍。如是等無量無邊一切衆苦。菩薩摩訶薩。欲令衆生悉得除滅。以淨善根迴向無上菩提。教一切衆生迴向如是境界。正念思惟彼彼善根以爲上首。所謂迴向一切種智。發菩提心。攝菩提心。遠離生死。修習善根。出生死淵。得諸如來無礙快樂。修如來慧充滿十方。大悲饒益一切衆生。普令一切得清淨樂。守護一切諸勝善根。令一切衆生究竟佛法。遠離一切諸魔境界。入彼甚深如來境界。普能拔出一切世間。具足一切如來善根。住三世佛平等法中。如是菩薩摩訶薩令集善根。已集善根。當集善根。皆悉迴向。復作是念。如彼過去菩薩所行。恭敬供養一切諸佛。度脫衆生。救護一切。修諸善根。迴向菩提而無所著。不依色。不著受。不顚倒想。不作行。不取識。離六入。不住世法。樂出世法。知法如空。究竟得至非趣彼岸。照解諸法不生不滅無眞實相無所染著。一切諸法無有虛妄。無所歸趣。無所破壞。安住實際。無有自性。離諸性故。於一念中解一切法。無性爲性。常樂習行普門善根。具足如來圓滿功德顯現一切。如彼過去一切如來善根迴向。我亦如是。樂如是法證如是法。如是發心。修習諸法相違法相。所有迴法。消如幻化電光水月鏡中之像。因緣和合假持諸法。悉分別知從業因起。唯如來地是究竟處。菩薩摩訶薩。如是隨

善下三本俱有根字

住上同有住字

隱同作樂次亦同

學過去諸佛所學廻向。未來現在。亦復如是。菩薩摩訶薩。學三世佛所學廻向諸善根已。作如是念。如彼諸佛所知菩薩廻向。我亦如是廻向。第一廻向。勝廻向。最勝廻向。上廻向。無上廻向。無等廻向。無等等廻向。無比廻向。無對廻向。尊廻向。妙廻向。平等廻向。正直廻向。大功德廻向。大願廻向。明淨廻向。善廻向。清淨廻向。離惡廻向。不隨惡廻向。如是菩薩摩訶薩。以諸善根正廻向已。成就清淨妙身口意。所作行業皆悉清淨。住菩薩住。離諸惡住。修習善根。離身口惡業。心無選擇。修薩婆若。住無量住。入一切法空無自在。修出世法。於世間法心無染著。分別了知無量諸業。成就巧方便。廻向諸法心無所倚。佛子。是爲菩薩摩訶薩第三等諸佛廻向。菩薩安住此廻向已。深入一切諸如來業。趣諸如來勝妙功德。入深清淨智慧境界。不離一切諸菩薩業。善能分別巧妙方便。入深法界巧妙方便。次第成就菩薩善根。入於一切諸如來性。以巧方便分別了知無量無邊一切諸法。雖復示現世界中生。於諸世界心無所著。佛子。是爲菩薩摩訶薩等諸佛廻向。爾時金剛幢菩薩。承佛神力普觀十方。以偈頌曰

彼諸菩薩摩訶薩　修過去佛廻向法　亦學未來現在世　無量導師之所行
一切種種微妙樂　諸佛如來所讃歎　成就明淨勝法眼　廻向一切諸導師
菩薩身根種種樂　眼耳鼻舌諸情根　種種上妙無量樂　廻向一切諸最勝
一切世間諸善根　及諸如來所成就　於彼悉攝無有餘　隨喜廻向益衆生
菩薩隨喜無有量　亦以廻向一切衆　人中師子所有樂　願令衆生悉具足
諸佛如來所知見　一切衆生清淨樂　欲令衆生皆悉得　世間燈明所受樂
菩薩所得種種樂　廻向諸佛爲衆生　欲令衆生常安隱　於彼廻向無所著
菩薩修此廻向時　興發無量大悲心　如佛所知廻向德　令我具足悉成滿
如諸最勝所知見　一切智乘微妙藥　如我在世諸所行　一切菩薩無量樂
一切趣中衆快樂　柔輭調伏諸根樂　皆悉廻向爲衆生　普令成就無上智
身口意淨離諸惡　巧妙方便心平等　以此廻向群生類　悉令成就無上智
菩薩所修諸行業　積集無量淨功德　隨順如來生佛家　寂然不亂正廻向
十方無量世界中　攝取一切衆生類　無量善根悉廻向　普令衆生得安樂
不爲己身自求樂　欲令一切悉安隱　遠離一切虚妄心

瑕三本作作玼

悉解諸法空無我　十方無量諸最勝　所見一切眞佛子　以諸功德迴向彼　速令究竟無上道
一切世間衆生類　等心攝取無有餘　以我所行諸淨業　令彼衆生速成佛　無量無邊淸淨願
無等最勝所演說　皆悉淸淨離諸垢　普令佛子究竟滿　一切功德盡迴向　悉令十方諸佛刹
種種淨妙而莊嚴　菩薩如是學迴向　心不稱量諸二法　了達覺悟法無二　諸法非二非不二
不作虛妄是佛子　一切世間所有想　究竟悉度無有餘　亦不壞想及非想　決定了知衆生想
彼諸菩薩身淨已　則意淸淨無瑕穢　口業已淨無散亂　當知意淨無所著　一心正念過去佛
分別未來諸導師　現在十方天人尊　菩薩徧學彼佛教　三世無量諸最勝　慧心明達無障礙
所行無量求菩提　迴向饒益諸世間　彼勝妙慧廣大慧　四眞諦慧離倒慧　平等實慧淸淨慧
無此慧等皆迴向

佛子.何等爲菩薩摩訶薩第四至一切處迴向.此菩薩摩訶薩.修習一切諸善根時.以彼善根.如是迴向.令此善根功德之力至一切處.譬如實際無處不至.至一切世間.至一切有.至一切衆生.至一切刹.至一切法.至一切虛空.至一切三世.至一切有爲及無爲法.至一切語言音聲.我此善根亦復如是.徧至一切諸如來所.供養三世一切諸佛.過去諸佛所願悉滿.未來諸佛具佛莊嚴.虛空法界等世界中現在諸佛.及無量大衆以爲莊嚴.皆悉供養猶如諸天.於一念中.悉能充滿無量無邊一切世界廣大功德智慧無礙善根迴向故.菩薩摩訶薩.復作是念.以此善根虛空法界等一切世界.世界性種種業所起.十方不可說世界.不可說佛刹.種種世界諸佛境界.無分齊世界.轉[illegible]覆世界.伏世界.轉世界.一切無餘世界中.現在諸佛顯現無量自在神力.彼有菩薩.解虛空法界等一切諸法.爲諸衆生.於一切世界中.現爲如來出興於世.示現至一切處智.無量無邊自在受生.法身徧至不壞法界.平等普入同佛身藏.不生不滅普應一切.善巧方便出現世間.從眞實法性起.堅固不轉無礙所持.諸佛無礙功德所生.菩薩摩訶薩於諸如來應供等正覺所.種諸善根.以衆雜華種種諸香鬘蓋幢幡珍寶燈明以如是等諸妙供具.供養尊像及諸塔廟.以此一切善根迴向.以一心.不亂心.不動心.尊重心.離瞋心.無住心.無著心.無

網上三本俱有寶字

衆生心.無諂害心.寂靜心迴向.復作是念.虛空法界等一切劫中去來今佛.相好具足而自莊嚴.以妙法界莊嚴而自莊嚴.彼佛眷屬.充滿虛空法界等一切世界.隨時出世未曾失時.我以善根迴向.供養諸佛.以無量香蓋.無量香幢.無量香幡.無量香宮殿.無量香網.無量香像.無量香光.無量香燄.無量香雲.無量香座.無量香輪.無量香住處.無量香佛世界.無量香須彌山王.無量香海.無量香河.無量香樹.無量香衣.無量香蓮華.以如是等無量無數衆香莊嚴.以爲供養.以無量華蓋.廣說如上.乃至無量無數衆華莊嚴.以爲供養.以無數鬘蓋乃至無數衆鬘莊嚴.以爲供養.以不可思議塗香蓋乃至不可思議塗香莊嚴.以爲供養.以不可稱末香蓋乃至不可稱末香莊嚴.以爲供養.以無分齊妙衣蓋乃至無分齊妙衣莊嚴.以爲供養.以無邊寶蓋乃至無邊衆寶莊嚴.以爲供養.以無量燈蓋乃至無量衆燈莊嚴.以爲供養.以不可說莊嚴具蓋乃至不可說衆莊嚴具.以爲供養.以不可說不可說摩尼寶蓋.如是摩尼寶幢.摩尼寶幡.摩尼寶帳.摩尼寶網.摩尼寶鬘.摩尼寶光.摩尼寶燄.摩尼寶雲.摩尼寶座摩尼寶輪.摩尼寶宮殿.摩尼寶世界.摩尼寶須彌山王.摩尼寶海.摩尼寶河.摩尼寶樹.摩尼寶衣.摩尼寶蓮華.如是等不可說不可說摩尼寶莊嚴.以爲供養.於一一境界中.各有阿僧祇阿僧祇莊嚴.阿僧祇宮殿.阿僧祇樓閣.阿僧祇偏樓閣.阿僧祇半月莊嚴.阿僧祇內小幃帳.阿僧祇窻牖.阿僧祇欄楯.阿僧祇清淨寶.阿僧祇一切寶莊嚴.清淨一切世界悉無有餘.如是莊嚴.令一切衆生超出生死.成就如來十種力地.於諸法中得無礙法明.教化衆生一切善根迴向.調伏衆生無量心.充滿虛空法界等一切佛刹法無所至.出生三世無量善根.令一切衆生悉得視見無量諸佛.安住一切諸善根中.成就大乘不著諸法.具足諸善根.究竟無量行.普入無量無邊一切法界善根迴向.入一切如來自在神力.令一切衆生.因此善根得薩婆若成無上道.譬如無我不離諸法.我諸善根亦復如是.攝取一切佛.恭敬供養故.攝取一切法.離障礙故.攝取一切菩薩.究竟一切同善根故.攝取菩薩一切行.滿諸願故.攝取菩薩一切法明.決定無礙故.攝取一切佛自在神力.成就無量諸善根故.攝取一切佛力無所畏.發無量心滿一切故.攝取一切菩薩三昧辯才陀羅尼門.解了世間無二法故.攝取一切佛巧妙方便.示現如來大神力故.攝取三世一切諸佛出生得道轉淨法輪示現涅槃.興發供養化衆生故.攝取一切世界.無上佛刹莊嚴故.

二下三本俱有法字〇名同作爲

攝取一切劫.不斷一切菩薩行故.攝取一切趣.示現受生故.攝取一切衆生.具足普賢菩薩行故.攝取一切衆生淨煩惱習故.攝取一切衆生諸根.化度無量故.攝取一切衆生諸欲.淨諸煩惱故.攝取一切衆生.調伏成熟.隨其所應爲現身故.攝取一切衆生.令解衆生如變化故.攝取一切如來性.守護受持一切佛法故.菩薩摩訶薩.如是善根廻向.了無所有.業中不取虛妄.報中不取虛妄業.離諸虛妄入深法界.心常安住勝妙善根.遠離散心修習善法.不信不入一切諸法.不見有法自性成就.作者壞者皆不可得.知一切法悉無自在.解了法界無有見者無有知者.如是菩薩摩訶薩.圓滿具足解了諸法.得一切法衆因緣地.見一切法身.離欲實際等觀諸法.解了世間猶如變化.明達衆生皆是一法.分別無二.不捨諸業境界方便.於有爲界出無爲界.而亦不壞有爲之性.於無爲界出有爲界.而亦不壞無爲之性.如是菩薩摩訶薩.樂觀諸法寂滅之相.出生一切清淨善根.皆悉廻向救護衆生.精勤修習離愚癡法.深達明了一切法海.以虛空等一切善根廻向.具足無上堅固功德.得離癡實明淨法眼.善知方便回向功德.菩薩摩訶薩.如是善根廻向.令一切衆生淨一切刹得佛自在.教化衆生持諸佛法.一切世間最上福田.爲諸衆生作採寶導師.爲一切世間出明淨日.一一善根充滿法界.善根廻向救護衆生.令一切衆生悉皆成就清淨功德.菩薩摩訶薩.如是善根廻向.守護受持諸如來性.教化成熟諸衆生性.嚴淨一切諸佛刹性.不壞業性.分別法性.等觀不二性.徧遊十方性.廣說離欲性.具足解脫性.普照諸根性.佛子.是名菩薩摩訶薩第四至一切處廻向.菩薩摩訶薩.安住此廻向.能以一切善根廻向.得至一切處身業.普能應現一切世界故.得至一切處口業.微妙音聲充滿十方一切世界故.得至一切處意業.悉能受持一切諸佛所說法故.得至一切處神足.善能隨順一切世間行故.得至一切處法.隨順一切法故.得至一切處隨順法陀羅尼辯才.令一切衆生悉歡喜故.得至一切處順入法界.於一毛道悉能普入一切世界故.得至一切處身.令一切衆生身入一衆生身故.得至一切處劫.於一切劫中常見諸佛故.得至一切處刹那.於一刹那現一切佛興於世故.佛子.菩薩摩訶薩.得至一切處善根廻向.能以一切善根廻向.爾時金剛幢菩薩.承佛神力普觀十方.以偈頌曰

一切內外諸世間　菩薩大士無所著　不捨饒益衆生事　如是妙智人中勝　不著一切諸世界

者同作慧

衆明作界

不取十方堅固性 不取衆生壽命相 亦不妄取諸世間 一切十方世界中 攝取衆生悉無盡
觀察有無得自在 至一切處善廻向 攝取有爲無爲法 心不妄取諸世間 世間諸法無差別
照世燈明如是覺 一切所行諸業行 上中下品各不同 智者諸業悉廻向 一切十方諸如來
菩薩廻向到彼岸 隨如來學悉成就 分別甚深微妙智 具足最勝殊特法 清淨善根悉廻向
常能利益諸群生 悉令十方一切衆 成就無上照世燈 未曾虛妄取衆生 亦不妄想念諸法
不染不著一切世 亦復不捨諸衆生 菩薩常樂寂滅法 隨順得至寂滅境 亦不捨離衆生道
得如是等微妙智 不起諸業虛妄想 於諸果報亦不著 一切世間從緣起 不離因緣見諸法
如是境界隨順至 遠離一切虛妄想 一切衆生調御師 具足明了善廻向

佛子.何等爲菩薩摩訶薩第五無盡功德藏廻向.此菩薩摩訶薩.修悔過善根.離一切業障.於去來今佛一切善根及三世一切衆生善根.皆悉隨喜.於諸如來尊重恭敬禮拜供養所生善根.勸請諸佛所生善根.佛所說法聞持憶念如說修行入不思議境界善根.三世諸佛無盡善根.一切菩薩所修善根.三世諸佛得菩薩時無上善根.菩薩摩訶薩.於此一切善根.皆悉隨喜.隨喜已.安住彼善根.三世諸佛轉淨法輪.度無量衆生.彼諸衆生所得善根.菩薩摩訶薩.皆悉隨喜.三世諸佛從初發心修菩薩行.乃至成佛示現涅槃.於其中間所獲善根.皆悉隨喜.彼諸如來般涅槃已.受持守護諸佛正法.乃至法滅所修善根.念佛境界所修善根.自己境界所修善根.乃至無上菩提境界善根.菩薩摩訶薩.以此諸善根皆悉廻向.菩薩摩訶薩.作如是念.此諸善根.若修.若學.若積集.若開解.若隨喜.若具足.若成就.若有所行.若有所得.若正憶念.若受持.若堅固難壞.如此善根.盡過去際劫一切諸佛莊嚴世界.無量行業之所興起.佛智所知菩薩所識.應衆生起隨欲清淨.如來所持.如來出世淨業所成.普賢菩薩淨業所起.彼諸世界.若有衆生成無上道.現自在力.未來一切如來應供等正覺莊嚴佛剎與法界等.無量無邊虛空法界等.一切世界中盡未來際劫.一切諸佛.彼諸如來成就智慧.當淨佛剎.雜寶莊嚴一切無厭.上香莊嚴.雨一切華莊嚴.一切衣雲莊嚴.一切功德藏莊嚴.一切如來持智莊嚴.一切佛剎莊嚴.不可說莊嚴.修習不可思

議功德莊嚴.如來等正覺淨威神莊嚴.未來一切諸佛莊嚴佛刹.一切世間所不能覩.菩薩淨眼之所照見.菩薩摩訶薩.修勝善根.悉入一切諸清淨法.受持一切諸清淨法.猶如變化.普行菩薩諸清淨業.入菩薩不可思議自在三昧.佛慧光明普照世間.如未來諸佛嚴淨佛刹.現在諸佛嚴淨世界亦復如是.種種莊嚴清淨具足功德普覆.無量妙色不可思議香.無量雜寶.無量寶樹.阿僧祇莊嚴.阿僧祇宮殿.阿僧祇微妙音聲.隨善知識顯現無量.一切功德殊勝莊嚴不可窮盡.一切香莊嚴.一切鬘莊嚴.一切華莊嚴.一切末香莊嚴.一切寶莊嚴.一切衣莊嚴.一切幢莊嚴.一切幡莊嚴.一切繒綵莊嚴.一切寶欄楯莊嚴.阿僧祇白寶網普覆莊嚴.阿僧祇河莊嚴.阿僧祇雲雨莊嚴.阿僧祇自然妙音無所不聞.以如是等無量無邊諸莊嚴具.莊嚴無量無邊不可思議諸佛世界.彼諸世界中.若佛刹莊嚴.佛刹清淨.佛刹平等.佛刹妙善.佛刹功德.佛刹殊勝.佛刹安樂.佛刹不壞.佛刹無盡.佛刹無量功德不可盡.佛刹不退.佛刹無所畏.佛刹光明.佛刹快樂.佛刹無厭.佛刹普照.佛刹照明.佛刹方正.佛刹第一.佛刹勝佛刹最勝.佛刹微妙.佛刹無比.佛刹無等.佛刹上.佛刹無上.佛刹無等等.如是等三世一切諸佛佛刹莊嚴.菩薩摩訶薩.以此善根皆悉迴向.普令一切佛刹清淨莊嚴.如是莊嚴於一世界.中三世一切莊嚴佛刹具足.清淨周徧.清淨積聚.等起莊嚴具足.莊嚴住持皆悉具足.如一世界中.無量無邊虛空法界等世界.悉以三世諸佛莊嚴佛刹而.莊嚴之.佛刹功德.等刹觀無厭足.佛刹無量.佛刹彌廣.佛刹無數.佛刹不可思議.佛刹無勝.佛刹不可稱.佛刹無邊.皆悉具足.菩薩摩訶薩.復如是迴向.令其所修一切佛刹.菩薩摩訶薩皆悉充滿.此諸菩薩.具足一切清淨功德.成就智慧.善能分別一切世界及衆生界.入深法界.捨離愚癡入空寂界.成就念佛念不思議法.念清淨僧成就念捨.法日圓滿慧光普照.深智無礙.從無所有寂滅法生.出生無量清淨佛法.成就殊特勝妙善根.清淨善根.最勝善根.增上善根.建立無上菩提之心.善能隨順入如來力.心常志求一切種智.淨諸魔業.了衆生性知法空寂.捨離顚倒除滅愚癡.修諸善根滿足大願.成就如是等無量無邊功德.菩薩充滿其刹.悉從無量法門中生.安住如是一切功德.成就無等等勝妙善根.常作佛事.善巧方便得菩提光明.具足無礙法界智慧.一身充滿一切法界.現自在力.成就大智一切智境界.善巧方便出生智慧.分別無量法界.徧遊諸刹而無所著.心

嚴三本俱作巖

熏明作勳

淨如空。悉能分別一切法界。於諸菩薩不可思議三昧正受。以巧方便善能入出。趣薩婆若住諸佛剎。善能了知諸佛威神。善能分別阿僧祇諸深妙法而無所畏。隨順三世諸佛善根。普照一切如來法界。悉能受持一切諸佛所說正法。善能演出不可思議清淨音聲。善能分別阿僧祇諸語言法。得無上道佛自在地。悉能周徧一切世界而無障礙。悉攝一切無諍之法。心無虛妄無所染著。修習增廣菩提之心。善解智慧。隨時應化權變無方。了眞實義具足演說。成就如是等無量功德。諸大菩薩。莊嚴世界。充滿世界。種種莊嚴。順至安住。善修熏修。淳淨無雜。周徧清淨惔然宴寂。於一佛剎少分處。所有無量菩薩。無數菩薩。不思議菩薩。不可稱菩薩。不可量菩薩。無等菩薩。不可究竟菩薩。無分齊菩薩。不可說菩薩。不可說不可說菩薩。如一佛剎一一少分處有如是等大菩薩摩訶薩。虛空法界等一切世界。菩薩摩訶薩皆悉充滿亦復如是。菩薩摩訶薩。以諸善根方便迴向。迴向一切佛剎。一切菩薩摩訶薩。一切如來。一切無上菩提。一切大願。一切出要。一切衆生淨。一切世界常見如來。如來壽命無量。轉不退轉法輪與法界等。如是菩薩摩訶薩善根迴向。令一切佛剎清淨。令一切衆生界清淨。令一切菩薩清淨。令一切諸佛充滿法界。令如來清淨法身充滿一切佛剎。菩薩摩訶薩。以如是等無等等迴向。趣薩婆若。心淨如虛空。不動如大地。入不可思議迴向。樂觀一切業報皆悉寂滅。無盡功德迴向。平等隨順一切法界。菩薩摩訶薩。行如是迴向已。不虛妄取我及我所。不虛妄取佛及諸佛法。不虛妄取佛剎及剎清淨。不虛妄取衆生及調伏衆生。不虛妄取諸業及取業報。不著意業及業果報。不壞因果。不取有法不壞有法。生死非雜亂。涅槃非寂靜。如來境界道非他所作無法同止。菩薩摩訶薩。如是起諸善根決定迴向。成熟具足等取觀相。善取境界分別稱量。離諸虛妄而無所著。菩薩摩訶薩。如是善根迴向已。得無盡善根。常念三世一切諸佛得一切無盡善根。度無量菩薩得無盡善根。淨諸佛剎得無盡善根。淨衆生界得無盡善根。入深法界得無盡善根。修無量心淨如虛空得無盡善根。解了一切諸佛境界得無盡善根。修習一切菩薩淨業得無盡善根。了達三世得無盡善根。以如是等善根迴向。悉能度脫一切衆生。入衆生界不見衆生迴向。解一切法無有壽命回向。知一切法眞實無有自在迴向。一切諸法無福伽羅迴向。觀察一切諸法離諸忿諍迴向。一切諸法從因緣起無有堅固迴向。知一切法眞實無所

具下三本俱有足字○種下同有智字○意同作是○威同作依○就三本俱作滿

名同作爲

如上同無以字

名元明俱作爲

讃三本俱作獲

著廻向。一切佛剎無所染著廻向。不取菩薩行堅固相廻向。分別了知一切境界空無所有廻向。菩薩摩訶薩如是廻向。眼終不見不淨佛剎。亦復不見異相衆生。行法不見法。入智無所入。解了一切猶如虛空。於如來身得一切法。滿足成就無量諸功德力。具足至一切處善根安樂樂生。此菩薩摩訶薩。於念念中。得不可說不可說十力地。具一切種淸淨善根。悉能攝取一切衆生。彼菩薩摩訶薩。成就如意功德寶藏。隨所遊方悉能嚴淨一切佛剎。令不可說不可說衆生安住攝取諸功德力。菩薩摩訶薩。如是廻向時。以此廻向威力故。一切所行無有倫匹。一切世間所不能壞。威攝衆魔莫能瞻對。具足成就不退功德。無量大願皆悉成就。其心彌廣等一切智。於一念中悉能周徧無量佛剎。得無量智力。悉能了知諸佛境界。常樂受持一切佛法。安住無量無邊大智。菩薩初發菩提心力。悉與虛空諸法界等。佛子。是名菩薩摩訶薩第五無盡功德藏廻向。菩薩摩訶薩。安住此無盡功德藏廻向。復得十種無盡功德之藏。何等爲十。一者常見諸佛無盡功德之藏。於一一毛孔中見無量阿僧祇諸佛。二者入無盡法功德之藏。以如來智慧等觀一切法卽是一法。三者受持正念無盡功德之藏。聞一切佛所說正法聞持不忘。四者得無盡慧功德之藏。於一切如來所說經法。善能次第解其句義。五者無盡趣法功德之藏。善能分別一切法趣。六者無盡佛願功德之藏。智慧如空。充滿三世一切諸法。七者無盡功德功德之藏。充滿一切諸衆生意不猶可盡。八者無盡智功德之藏。一切衆生愚癡曀障悉能除滅。九者無盡辯才功德之藏。令一切衆生悉解一切佛法平等無二。十者無盡十力四無所畏功德之藏。具足修習菩薩所行。受法王職得一切智。佛子。是名菩薩摩訶薩得十無盡功德之藏。以此無盡功德之藏。皆悉廻向一切功德。爾時金剛幢菩薩。普觀十方以偈頌曰

菩薩成就直心力　於一切法得自在　隨喜所獲諸功德　無礙方便善廻向　三世一切諸最勝
嚴淨剎土及世間　具足一切勝功德　廻向淨剎亦如是　三世一切最勝法　菩薩悉能諦分別
淨心攝取一切法　如是莊嚴諸佛剎　窮盡三世無量劫　讃一佛剎諸功德　三世諸劫猶可盡
佛剎功德無窮極　如是一切諸佛剎　一切最勝悉嚴淨　菩薩嚴淨一切剎　與諸導師等無異
彼眞佛子心淸淨　悉從如來法化生　一切功德莊嚴心　充滿一切諸佛剎　彼諸菩薩悉具足

無量相好莊嚴身　一切諸辯悉成滿　不可窮盡如大海　觀察境界心平等　安住一切三昧門
成就清淨無等心　光明普照十方界　如是無餘諸佛剎　此諸菩薩悉充滿　未曾想念聲聞乘
亦復不求緣覺道　菩薩如是心清淨　善根廻向諸群生　普令衆生成正覺　具足三世諸佛法
十方一切諸魔王　菩薩威德悉調伏　勇猛安住莫能壞　決定修行究竟法　菩薩具足諸願力
廻向功德無障礙　深入無盡功德藏　三世果報無窮盡　善能觀察一切法　了達其性不自在
已能分別空無我　是故不妄取業報　無有色法及無色　亦無有想無無想　亦無有法及無法
一切諸法無所有　亦復非有亦非無　亦復非因非無因　於彼一切諸緣中　其心了達無染惑
一切衆生語言法　悉能了知無所著　悉知世間施設法　決定諸法無有我　平等觀察衆生類
諦了諸法無二相　普觀三世無差別　佛剎諸業亦如是　菩薩如是知廻向　隨所行業功德生
明達諸佛眞實性　解一切佛深妙法　菩薩如是淨廻向　心能分別善思量　了知自性悉非性
於一切法無所著　攝取一切諸境界　廻向一切群生類　除滅一切愚癡闇　於眞實性覺如如
菩薩一切虛妄見　已滅已棄永無餘　遠離世間煩惱熱　得到究竟清涼趣　不壞一切諸法性
明達眞實無所生　解了諸法猶如響　悉於一切無所著　了知三世衆生類　悉從因緣和合起
善解煩惱諸習氣　不壞諸法眞實性　了達業性非是業　亦復不壞諸業性　又亦不壞業果報
宣揚讚歎緣起法　衆生所生無有生　亦無流轉生死中　不著衆生說衆生　善能隨順諸世間

大方廣佛華嚴經卷第十五

凉三本俱作淨

五同作六

六同作七

大方廣佛華嚴經卷第十六

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明坐〕

金剛幢菩薩十廻向品第二十一之三

佛子.何等爲菩薩摩訶薩第六隨順一切堅固善根廻向.此菩薩摩訶薩.若爲王時得勝國土.安隱豐樂降伏怨敵.治以正道如法教化.功蓋天下德覆十方.萬國歸順無敢違命.兵仗不用自然泰平.以四攝法善攝衆生.轉輪聖王七寶成就.此菩薩摩訶薩.堅固安住自在功德.眷屬和睦不可沮壞.端正第一觀者無厭.離一切惡功德具足.相好成滿顏容殊特.身體肢節端嚴周備.鮮潔明淨見者歡喜.體力堅固不可毀壞.攝取天帝那羅延身.離諸業障得清淨業.具足修行一切布施.若施飲食.種種美味.諸乘衣服.衆妙華鬘.雜香塗香.床座住處.房舍燈明.湯藥寶器.莊嚴寶車.象馬寶王.衆妙寶座.諸蓋幢幡.種種雜寶.妙莊嚴具.清淨天冠.髻中明珠.若見獄囚受諸楚毒.起大悲心.捨諸庫藏妻子眷屬.以身處獄救苦衆生.見送獄囚趣於死地.自捨己身以代彼命.若有人乞連膚頂髮.髻中明珠眼耳鼻根牙齒舌根頭頂手足.壞身出血.髓肉及心腸腎肝肺肢節諸骨厚皮薄皮.或手足指連肉指爪.爲求正法投身火阬.爲求法故.擧身具受無量衆苦.爲法難得故.能捨大地四海國土大小諸城村邑丘聚.國土豐樂人民熾盛園林浴池華果繁茂無量莊嚴.天下太平無諸怨敵.金銀寶藏妻子眷屬.自在法王.斷除一切屠殺惡業.普施無畏.若見有人毀壞畜狩及以人根令身殘闕.起大慈悲而救度之.以大音聲普告一切令聞佛名.或施大地.起佛殿堂造僧房舍.安處菩薩聖衆福田.或建尊廟隨應一切.或施僮使.供給三尊父母知識一切福田.以身布施一切給使.復以自身普覆諸佛.以自身施一切衆生.常以己身奉給諸佛.布施國土及王京都嚴飾大城.又施寶女侍人眷屬妻妾男女.或施以家.種種莊嚴遊戲園林.或設無數大衆施會.遠離諸惡淨衆生

明校譌云人北藏作及今從南藏改正○狩三本俱作獸

肴膳同作餚饍

故。悉捨一切資生之具。心不貪著。不求果報。悉能捨離。若諸衆生人與非人。貧賤富貴。或善或惡。種種福田。遠近諸方一切悉來。或自來求或不來求。一切悉施無所慳吝。作如是念。攝取隨順一切堅固善根廻向。攝取善色隨順一切堅固善根廻向。攝取善受想行識隨順一切堅固善根廻向。攝取國土隨順一切堅固善根廻向。攝取勝人隨順一切堅固善根廻向。攝取眷屬隨順一切堅固善根廻向。攝取財利隨順一切堅固善根廻向。攝取一切惠施隨順一切堅固善根廻向。菩薩摩訶薩如是諸善根廻向已。作如是念。我所行施。無貪無著無染解脫。其心眞直無所慳惜。以此惠施功德之力。令一切衆生得大智慧。心無障礙。知食見食無所貪著。但以法食永離摶食。智慧充滿攝取善根。法身智身淸淨遊行。爲化衆生現受摶食。菩薩摩訶薩。若施飮時。如是廻向。以此善根。令一切衆生飮法甘露。成菩薩道除滅渴愛。常樂大乘離五欲愛。得淨法愛法身柔輭。三昧調心未曾散亂。入智慧海。興大法雲雨法甘露。是爲菩薩摩訶薩布施飮時善根廻向。菩薩摩訶薩若施衆味。所謂辛酸鹹淡甘苦。如是無量肴膳香味。食之無厭。能令四大柔輭安樂。身體充滿。氣力康强。發歡喜心。明淨諸根。嚴持內身。長育柔輭。肌色光潤。一切毒害所不能壞。消滅衆疾得無患法。菩薩摩訶薩。施如是等無量無數諸美味時。如是廻向。以此善根。令一切衆生得上味相甘露充滿。令一切衆生心得安住法味深智。悉知一切衆味之業。令一切衆生悉得無量深妙法味。了法界智安住實際得到法城。令一切衆生法雲普雨充滿法界。悉能調伏成熟衆生。令一切衆生得勝智味無上法愛柔輭身心。令一切衆生得上味相。不著衆味。修習一切佛法諸願。令一切衆生皆善和合得一味法。出生諸佛無二之法。令一切衆生得無礙味。於一切智乘得不退轉。令一切衆生得一切佛無雜法味。善能分別一切諸根。令一切衆生法味充滿。具足安住無礙佛法。是爲菩薩摩訶薩施衆味時善根廻向。令一切衆生悉得具足無礙智身。菩薩摩訶薩。布施乘時。如是廻向。以此善根。令一切衆生乘一切智乘。具足大乘。不可壞乘。勝乘上乘。速疾乘。大力乘。功德成就乘。出世間乘。出生無量諸菩薩乘。功德滿足。是爲菩薩摩訶薩布施乘時善根廻向。菩薩摩訶薩。布施衣時。如是廻向。以此善根。令一切衆生得慙愧法服以覆其身。離諸陋形端嚴殊妙。顏容鮮澤膚體柔輭。得身上樂諸佛之樂。無量法身普應一切。無上淸淨一切種智。是爲菩薩摩訶薩布施衣時善

根迴向．菩薩摩訶薩．布施衆華．鮮妙香華．種種色華．無量樂華．善現之華．樂無厭華．一切時華．天華．人華．世所樂華．無上香華．如是等無量衆華．菩薩摩訶薩．悉以供養現在十方一切諸佛．及滅度後供養塔廟諸法施者比丘僧寶一切菩薩諸善知識聲聞緣覺父母親族乃至自身下及貧賤．菩薩摩訶薩．布施華時．如是迴向．以此善根．令一切衆生悉得諸佛三昧之華．清淨開敷．妙法衆華從其心出．令一切衆生觀無厭足得佛法愛．令一切衆生常見妙色身相端嚴見者無厭．令一切衆生未曾散亂．具足一切清淨行業．令一切衆生常念善知識心無變異．令一切衆生如阿迦陀藥．悉除一切煩惱衆毒．令一切衆生滿足大願．決定安住無上智王．令一切衆生出智慧日．除滅一切愚癡闇冥．令一切衆生如淨滿月．長菩提月開功德華．令一切衆生入大寶海見善知識．具足成就一切善根．是爲菩薩摩訶薩布施華時善根迴向．令一切衆生悉得無礙清淨妙智．菩薩摩訶薩．布施鬘時．如是迴向．以此善根．令一切衆生人所樂見．見無不欣見輙親善．見無不愛．見離憂惱．必見諸佛．得一切淨智．是爲菩薩摩訶薩布施鬘時善根迴向．菩薩摩訶薩．布施香時．如是迴向．以此善根．令一切衆生具足戒香．得不壞戒．不雜戒．離垢戒．離疑戒．離纏戒．清涼戒．不犯戒．無量戒．無上戒．離世間戒．菩薩究竟至彼岸戒．令一切衆生具足成就諸佛戒身．是爲菩薩摩訶薩布施香時善根迴向．令一切衆生具足成就無礙戒身．菩薩摩訶薩．施塗香時．如是迴向．以此善根．令一切衆生施香普熏悉捨所有．令一切衆生戒香普熏得佛淨戒．令一切衆生忍香普熏離毒害心．令一切衆生精進之香具足普熏．勤修大乘弘誓莊嚴．令一切衆生定香普熏．具足諸佛現前三昧．令一切衆生慧香普熏．於一念中得無上智王．令一切衆生法香普熏．成就無上無畏之法．令一切衆生德香普熏．成就一切功德智慧．令一切衆生無上菩提妙香普熏．得佛十力究竟彼岸．令一切衆生白淨法香具足普熏．斷除一切諸不善法．是爲菩薩摩訶薩施塗香時善根迴向．菩薩摩訶薩．施牀座時．如是迴向．以此善根．令一切衆生得天寶座安處慧牀．令一切衆生得賢聖座捨凡夫意修菩提心．令一切衆生得安樂座離生死苦．令一切衆生得最上座．見諸如來自在神力．令一切衆生得平等座等心普照一切諸法．令一切衆生得最勝座．得無上業永離世間．令一切衆生得安隱座．身證一切諸深妙法．令一切衆生得清淨座．修習如來淨智境界．令一切衆生得

安住座．得善知識常隨覆護．令一切衆生得師子座．具足如來無畏之座．是爲菩薩摩訶薩施牀座時善根迴向．令一切衆生修習念慧調伏諸根．菩薩摩訶薩．施住處時．如是廻向．以此善根．令一切衆生悉得如來嚴淨佛刹．修習功德莊嚴佛刹．安住甚深三昧境界．於彼住處而無所著．善能分別一切住處．離世間住安住佛住．攝取一切諸佛所住．究竟大道安樂善住．修習無量清淨善根．未甞捨離佛無上住．是爲菩薩摩訶薩施住處時善根迴向．令一切衆生安樂饒益救護一切．菩薩摩訶薩．施房舍時．如是廻向．以此善根．令一切衆生饒益安樂正念思惟．令一切衆生依如來住．依大智住．依善知識住．依尊重住．依善行住．依大慈住．依大悲住．依六波羅蜜住．依無量菩提心住．依一切菩薩道住是爲菩薩摩訶薩施房舍時善根廻向．令一切衆生具足成就清淨智慧諸通功德．菩薩摩訶薩．惠施燈明．所謂酥燈．油燈．寶燈．摩尼燈．漆燈．火燈．沈水香燈．栴檀香燈．一切香王燈．無量色光燄燈．以如是等無量燈明施時．如是回向．以此善根．饒益一切衆生．攝取一切衆生．令一切衆生得無量光．普照一切諸如來法．令一切衆生得明淨光．普照一切諸微細色．令一切衆生得離癡光．善能了知無衆生界．令一切衆生得無量光．法身淨光普照一切．令一切衆生得普光明．於諸佛法得不退轉．令一切衆生得佛光明．普照一切無量佛刹．令一切衆生得無礙光．以一光明普能徧照一切法界．令一切衆生得無量光．普照佛刹光明不斷．令一切衆生得光明幢王．慧光幢燈普照世間．令一切衆生得無量色光．放自在光照一切刹．是爲菩薩摩訶薩施燈明時善根廻向．悉能饒益一切衆生．悉能安樂一切衆生．隨順善根．隨攝衆生善根．善攝一切衆生．等施善根．等施衆生．慈愍善根愍念衆生．普覆善根普蔭衆生．布施善根滿足衆生．普入一切善根境界．平等善根．平等衆生．智慧善根分別一切．是爲菩薩摩訶薩燈明施時善根廻向．令一切衆生得無礙廻向．安住一切明淨善根菩薩摩訶薩．施湯藥時如是廻向．以此善根．令一切衆生離諸障礙．令一切衆生捨離病身．悉得如來淸淨法身．令一切衆生皆成藥性．悉能除滅一切衆生不善之病．令一切衆生成阿伽陀藥．安住菩薩不退轉地．令一切衆生成如來藥．拔出一切煩惱毒刺．令一切衆生習近聖賢．除滅煩惱得淸淨行．令一切衆生得藥王意．未曾厭離一切善法．令一切衆生具足成就不壞藥樹．對治一切諸不善病．令一切衆生除諸病刺．悉得一切智慧光明令一

衆三本俱作藥

石同作玉

薩下同無寶字

切衆生解了世間諸對治法。隨應群生對治衆病。菩薩摩訶薩。施藥善根如是迴向已。因此善根。令一切衆生捨離諸病。安隱無患具足清淨。得諸如來無病之法。令一切衆生出諸病刺得無盡身。金剛圍山所不能壞。具足堅固一切諸力。成滿諸佛無上法樂。得佛神力自在法身。是爲菩薩摩訶薩施湯藥時善根迴向菩薩摩訶薩。悉能惠施一切諸器。所謂以眞金器盛滿雜寶。以白銀器盛滿雜寶。以瑠璃器盛滿雜寶。以玻瓈器盛滿雜種寶莊嚴具。以硨磲器盛赤珠寶。以碼碯器盛滿珊瑚夜光衆寶。又以石器盛諸美膳。以栴檀器盛衆寶衣。以金剛器盛滿衆香。如是等無量無數諸妙寶器。盛以無量無數妙寶。或施諸佛。信佛福田不思議故。或施菩薩。發菩提心。諸善知識難値遇故。或施衆僧。長養佛法故。或施福伽羅聲聞緣覺。愛聖法故。或施父母。爲尊重故。或施師長。爲敎如法修功德故。乃至布施下品凡劣。大慈大悲愛眼等心觀衆生故。不捨三世一切菩薩滿足檀波羅蜜故。一向專求無上菩提故。悉捨一切內外所有。不捨一切衆生類故。不著福田及財物故。菩薩摩訶薩。以如是等無量寶器。盛以無量雜寶施時。如是迴向。以此善根。令一切衆生成廣大藏器。成虛空等廣大念根。世間出世間一切經書。悉能受持不忘失故。令一切衆生成清淨器。普能受持佛深法故。令一切衆生成無上寶器。悉能受持去來今佛一切法故。令一切衆生普成如來勝法寶器。悉能受持三世諸佛無壞法故。令一切衆生成莊嚴寶器。受持無極菩提心故。令一切衆生悉成一切功德之器。志樂如來無量淨智故。令一切衆生成一切智內法之器。究竟如來無礙解脫一切智故。令一切衆生成未來際劫一切菩薩所行之器。一切衆生堅固安住一切智力故。令一切衆生成三世佛勝妙法器。一切諸佛梵音說法悉受持故。令一切衆生悉成內器。其身容受一切世界虛空界法界諸佛眷屬。勸請諸佛轉大法輪悉能受故。是爲菩薩摩訶薩布施器時善根迴向。令一切衆生成諸法器。皆能受持普賢菩薩一切願行。菩薩摩訶薩。以無量種種莊嚴寶車。奉施諸佛菩薩及善知識如來大衆聲聞緣覺一切福田。種種衆生從餘方來。或承菩薩名聞故來。或是菩薩因緣故來。或聞菩薩發施願故來。或是菩薩心願請來。菩薩摩訶薩。或施種種莊嚴。妙寶金車金鈴網覆。微動相扣出和雅音。垂寶瓔珞種種莊嚴。或施清淨瑠璃寶車。無量珍妙以爲嚴飾。或復施與衆妙寶車。白銀莊嚴白網羅覆。或復施與神馬寶車。無量億寶以爲莊嚴。或復

奉下三本俱有施字

施與大象寶車.無量億寶以爲莊嚴.一切寶網絞絡其上.或復施與栴檀香車.種種寶輪以爲莊嚴.寶師子座以敷其上.百千采女列侍其內.人相具足顏容姝妙.衆寶華蓋彌覆其上.十萬壯士.而牽御之.或復施與玻瓈寶車.無量雜色妙寶莊嚴.載以無數端嚴采女.衆雜寶帳以覆其上.寶繒幢幡周帀莊嚴.或復施與碼碯寶車.飾以衆寶.熏以雜香.摩以塗香.散以妙華.百千采女持金瓔珞.平正安詳其疾如風.或復施與堅固香車.敷以種種柔輭寶衣.衆妙寶網羅覆其上.清淨妙香而以熏之.其香殊妙能悅人心.逆風遠熏聞者無厭.諸天子等在前牽御.或復施與一切寶車.種種雜色以爲絞飾.衆妙寶網羅覆其上.諸雜寶帶周帀垂下.敷以寶衣散以末香.所愛男女悉載其上.菩薩摩訶薩.以如是等衆妙寶車.施諸佛時.如是廻向.以此善根.令一切衆生悉皆樂求無上福田.深信施佛有無量報.令一切衆生一心向佛.逮得無量清淨果報.令一切衆生於諸佛所無慳吝心.具足大施無所愛惜.令一切衆生於諸佛所修上福田.離二乘願.得諸如來無礙解脫一切種智.令一切衆生於諸佛所種無盡善根.得佛無量功德智慧.令一切衆生攝取深慧.具足清淨無上智王.令一切衆生所遊自在.得諸如來至一切處無礙神力.令一切衆生攝取大乘.得無量種智安住不動.令一切衆生具足成就第一福田.皆能出生一切智地.令一切衆生於一切佛無嫌恨心.種諸善根樂求佛智.令一切衆生以少方便.往詣一切莊嚴佛刹.於一念中深入法界而無疲倦.令一切衆生入虛空等菩薩神通.悉能徧至一切佛所.令一切衆生得無比身.盡能徧遊十方世界而無疲倦.令一切衆生成廣大身得隨意行.令一切衆生得一切佛神力莊嚴究竟彼岸.於一念中.顯現如來自在神力.徧虛空界.令一切衆生修安隱行.隨順一切諸菩薩行.令一切衆生行.疾無礙究竟十力智慧彼岸.令一切衆生得轉一切世界力波羅蜜.普入一切不壞法界.令一切衆生行普賢行到於彼岸.得不退轉一切種智.令一切衆生乘無比智乘.隨順修行一切法界見眞實性.是爲菩薩摩訶薩以諸寶乘奉現在諸佛及滅度後舍利塔廟善根廻向.令一切衆生究竟諸佛無礙大乘.菩薩摩訶薩.施諸菩薩及善知識清淨乘時.如是廻向.以此善根.令一切衆生不捨菩薩諸善知識知恩報恩.令一切衆生同善知識義.攝取同性善根故.令一切衆生親近尊重恭敬供養諸善知識.悉捨一切攝善知識.令一切衆生得正直心.隨善知識未曾遠離.令一切衆生常

怠三本俱作息

人同作入

主同作王

塵同作坐

見善知識不違其教。令一切衆生得正直心。不捨善知識。離一切垢心不可壞。令一切衆生爲善知識。不惜身命。悉捨一切不違其教。令一切衆生爲善知識之所攝取。修習大慈遠離諸惡。令一切衆生順善知識。聞佛正法悉能受持。令一切衆生同善知識善根業報菩薩行願。究竟淸淨平等滿足。令一切衆生出生正法。善知一切三昧境界。智慧具足神通自在。令一切衆生遠離諸趣。受持一切法。究竟到彼岸。令一切衆生乘於大乘。乃至究竟一切種智。於其中間無有懈|怠。令一切衆生乘智慧乘。至安隱處無有退轉。令一切衆生知眞如行遠離愚癡。開持一切諸佛正法。令一切衆生皆爲一切諸佛所攝。得無礙智究竟諸法。令一切衆生得不死神足妙速無礙。令一切衆生遊行自在。調伏衆生成摩訶衍。令一切衆生所行不虛。皆悉究竟得智慧乘。令一切衆生得無礙乘。以無礙智至一切處。是爲菩薩摩訶薩施善知識種種乘時善根迴向。令一切衆生功德具足與佛菩薩等無差別。悉能悅可一切賢聖。菩薩摩訶薩施如來衆種種寶乘時。善學施心。慧分別心。淨功德心。隨順施心。僧寶難遇心。深信僧寶心。攝取正教心。安住正直心。善能究竟大施之會。出生無量無邊功德。於佛正教信心淸淨不可沮壞。菩薩摩訶薩。以種種乘施僧寶時。如是迴向。以此善根。令一切衆生向佛正法攝取正教。令一切衆生專心內觀。除滅邪法成就聖處。令一切衆生得賢聖地。以如來法展轉相教。令一切衆生擧世宗重言必信用。令一切衆生入一切法。善能分別無二法界。令一切衆生|人寶園遠。從如來智境界出生。令一切衆生住離垢法。皆能除滅煩惱塵垢。令一切衆生悉從無上僧寶出生。離凡夫法得聖僧地。令一切衆生具足聖法修無礙智。令一切衆生爲大衆|主。智慧莊嚴不染世間。令一切衆生以善方便轉慧法輪。令一切衆生得一念神力。悉能周徧不可說不可說世界。令一切衆生乘虛空身。於一切世間智慧無礙。令一切衆生往詣虛空法界等如來大衆所。令一切衆生得輕擧身勝妙智慧。悉能徧遊諸佛世界。令一切衆生得無礙神足。於一切刹普能現身。令一切衆生得大自在神足彼岸。不起一|塵悉普應現一切世界。令一切衆生得淨法身。於諸世界而無所著。出生神力行疾如電。令一切衆生現不思議神足境界。善能隨順教化調伏一切衆生不失其宜。令一切衆生得妙神足。一念徧遊十方世界。一念超度一切法界無所罣礙。是爲菩薩摩訶薩施如來衆種種乘時善根迴向。令一切衆生普乘淸淨無上智

乘.於一切世界轉無礙法輪智輪.復次菩薩摩訶薩.施聲聞緣覺種種乘時.發恭敬心.尊重心.福田心.功德海心.出生功德智慧心.深信如來功德心.深習無量億那由他清淨善根心.於不可說劫修習菩薩清淨行心.解脫一切魔繫縛心.摧滅一切魔軍衆心.不可稱量明淨智慧.善能分別一切諸法.令一切衆生皆成可信第一福田.具足無上檀波羅蜜.令一切衆生離無益言.樂獨閑靜心無二念.令一切衆生成最勝清淨第一福田.修習功德攝取衆生.令一切衆生成智慧|池.能與衆生無數善果.令一切衆生至無礙趣.最勝福田清淨圓滿.令一切衆生.其心安住無諍三昧.解一切法無性爲性.令一切衆生具足長養無量功德.常遇最勝第一福田.令一切衆生示現無量自在神力.隨順攝取清淨福田.令一切衆生成就無盡功德福田.能與一切十力乘果.令一切衆生成眞實福田.具足無盡功德之藏.究竟一切智.令一切衆生滅諸惡法聞佛正法.句身味身悉能受持.令一切衆生普聞佛法.隨所聞解其德不虛.令一切衆生聞佛說法得到彼岸.所聞佛法能爲衆生隨順演說.令一切衆生常樂如來正教之法.除滅一切九十六種外道邪見.令一切衆生常見賢聖.長養一切最勝善根.令一切衆生|樂明行足者常得瞻對.與共同止永處安樂.令一切衆生所聞不虛.解聲如響見佛出生.令一切衆生善分別知諸佛正教.悉能守護持佛法者.令一切衆生心常樂向聞持佛法.能照顯現如來法教.令一切衆生深心信解如來正教一切功德.令佛歡喜善解眞諦.悉捨內外究竟大施.是爲菩薩摩訶薩施聲聞緣覺種種乘時善根迴向.令一切衆生得無上智淨諸神通.精勤修習無有懈怠.究竟佛智力無所畏.菩薩摩訶薩.若諸方來一切福田.或承菩薩名聞故來.或與菩薩因緣故來.或聞菩薩本願故來.或復菩薩心願請來.菩薩於彼悉樂惠施而無厭倦.爾時菩薩.於來求者發悔過心.作如是言.諸人當知.我應詣彼禮拜供養種種惠施.而今爲我故從遠來.菩薩卽時敬禮悔過.愛言慰諭.屈辱遠來得無疲倦.處令安隱供給所須.或施摩尼寶車.載以閻浮提內第一女寶.或施金車.載以己國最勝寶女.或施清淨瑠璃寶車.載以內妓.或施樂車.載以童女容貌如天.或施無量無數寶莊嚴車.載以寶女種種莊嚴.或施菩薩所乘栴檀香車.或施玻瓈寶車.載以寶女.端正殊特顏容無倫.威儀具足進止安詳.神珠名寶瓔珞其身.樂修善法.或施碼碯寶車.載以太子.或施堅固香車.載以男女.或施種種寶莊嚴車.載以難壞親

池三本俱作地

衆下明有聞字

垢元明俱作悋

瞬三本俱作眴
踊同作勇
飾同作寶
驎同作奔○迅明作迹
遺宋作貴元作貴明作貢

愛眷屬。以如是等種種寶車。隨其所求皆給施之。滿足彼願歡喜無量。菩薩摩訶薩諸乘施時。如是迴向。以此善根。令一切衆生乘不退轉摩訶衍乘。詣不思議菩提樹下。令一切衆生乘大智乘。盡未來劫。一劫菩薩所行之法皆能修習。令一切衆生乘無所有乘。於一切法心無所著。捨離虛妄具足修習一切智道。令一切衆生悉乖離垢寂靜之乘。無礙神力詣諸佛刹。令一切衆生決定安住一切智乘。常以諸佛法樂自娯。令一切衆生乘諸菩薩清淨行乘。出生菩薩十種之道。樂修菩薩一切三昧。令一切衆生乘四輪乘。住正國輪。依正士輪。本功德輪。平等願輪。菩薩淨行由斯滿足。令一切衆生乘明法乘。徧遊十方修佛智力。令一切衆生乘佛法乘。於一切法究竟彼岸。令一切衆生乘一切功德善根不可思議法乘。爲十方衆生現安隱道。令一切衆生乘一切施乘。斷除慳垢。令一切衆生乘淸淨尸波羅蜜乘。具足無量無邊法界等一切淨戒。令一切衆生乘羼提波羅蜜乘。離瞋恚心。於諸衆生不起惱害。令一切衆生乘不退轉毗梨耶波羅蜜乘。具菩薩行往詣道場。令一切衆生乘禪波羅蜜乘。速赴道場。令一切衆生乘般若波羅蜜乘。化身充滿一切法界及佛境界。令一切衆生乘法王乘。成就無畏施一切智微妙之法。令一切衆生乘無所著智慧願乘。悉能徧入一切諸方。於眞法性而無所入。令一切衆生乘諸佛法乘。於一切刹示現受生。而不毀壞於摩訶衍。令一切衆生乘一切智乘。滿足菩薩平等大願而無懈倦。是爲菩薩摩訶薩施種種乘菩施衆生無量福田以歡喜心善根迴向。令一切衆生無量種智皆悉具足。乘於一切成滿智乘。菩薩摩訶薩布施象寶。七支具足。六瘉成滿。六牙如雪口淨如華。身體平正毛色鮮白。珍麗奇飾莊嚴其身。淨妙寶網以覆其上。種種雜寶莊嚴其首。光色晃曜儀體安雅。瞬息之頃超步萬里。猛氣奔踊而無疲倦。菩薩摩訶薩布施寶馬。形體殊妙毛色光澤。馬相具足如天寶馬。無量珍飾莊嚴其身。明月神珠以爲光曜。金鈴寶網以覆其上。行不驎驟迅疾風。致遠不疲乘者安豫。巡遊四方不失主意。以此寶乘隨意施與。或施福田。或獻尊重。或遺知識。或奉父母。或給貧匱。其有須者皆悉與之。大心惠施無所吝惜。心常歡喜無有悔恨。大悲充滿能行大施。一向專求菩薩功德。最勝生地直心淸淨。以如是心善根迴向。令一切衆生成就人寶。生菩薩功德莊嚴大乘。令一切衆生乘善法乘。隨順能至一切佛法。令一切衆生常樂大乘。得佛無礙智慧力乘光明普照。令一切衆生。乘勇猛

大乘三本俱作精進

堅同作賢

正下同有法字

大乘。滿足諸願。令一切衆生。具足平等波羅蜜乘。成就滿足一切善根。令一切衆生。成就寶乘。出生佛法無上智
寶。令一切衆生。分別菩薩莊嚴之行。得是妙乘。出於三界。悉開菩薩諸三昧華。令一切衆生。無量阿僧祇劫。淸淨
修習菩薩所行。乘無量乘。疾解諸法。令一切衆生。施大乘寶乘。以善方便具菩薩地。令一切衆生。成最高廣安隱
大乘。悉能運載一切衆生。至無上道。是爲菩薩摩訶薩無量阿僧祇那由他劫施象馬寶善根迴向。令一切衆生。
乘無礙智乘。得至如來究竟寶乘。菩薩摩訶薩。施種種座。或施堅王師子之座。瑠璃爲足。金縷織成柔輭妙衣。以
敷其上。熏以一切堅固之香。建立種種上妙寶幢。無量億寶以爲莊嚴。白淨寶網彌覆其上。金鈴羅網動發妙音。
百萬億那由他淨妙寶像周帀圍遶。其座高廣淸淨嚴飾。無量阿僧祇衆生。樂觀無厭。功蓋天下。自在大王之所
坐處。處於彼座。以正治國無敢違逆。種種妙寶莊嚴其身。靑寶珠王。大靑寶珠王。勝藏寶珠以爲莊嚴。明淨猶日。
淸涼如月。衆星莊嚴如海勝寶。海堅固幢。離垢明淨。閻浮檀金妙色寶繒。以冠其首。一切閻浮提內大力灌頂王
法。以灌其頂。具功德力大慈悲主。降伏怨敵無敢違命。菩薩摩訶薩。如是無量無數爲轉輪王。得法自在。正治國
時。以如是等種種衆寶嚴飾之座。或施正覺諸善知識及賢聖僧。聞法歡喜。奉施法師。供養父母諸尊重者聲聞
緣覺一切菩薩乃至初發大乘心者。及以一切諸佛塔廟。或施無量貧窮下劣。有所須欲皆給施之。布施座時。如
是迴向。以此善根。令一切衆生。得菩提座。自然覺悟諸佛正法。令一切衆生得自在座。具足成就於法自在。諸金
剛山所不能壞。悉能降伏一切諸魔。令一切衆生。得佛自在師子之座。一切衆生樂觀無厭。令一切衆生。得不可
說不可說淸淨莊嚴殊妙之座。成法自在普化衆生。令一切衆生。得殊勝座。三種世間所不能壞。廣大善根及善
根具皆悉淸淨。令一切衆生。得高廣座。充滿不可說不可說世界。諸佛如來。於阿祇僧劫歎不能盡。令一切衆生。
處大智人座。一身充滿一切法界。令一切衆生。得不可思議寶莊嚴座。隨其本願所請衆生廣開法施。令一切衆
生。皆悉得坐淨妙法座。於不可說諸世界中。顯現如來自在神力。令一切衆生。坐一切寶座。一切香座。一切華座。
一切衣座。一切鬘座。一切摩尼寶座。不可思議淨瑠璃座。無量不可說世界座。淨一切衆生莊嚴座。離諍座。處此
座下。覺悟如來一切種智。示現諸佛功德境界。是爲菩薩摩訶薩施種種座時善根迴向。令一切衆生。得無所著

菩提之座。自然覺悟一切佛法

大方廣佛華嚴經卷十六

金剛幢菩薩十迴向品第二十一之三

六三本俱作七

大正六年十月十九日印刷
大正六年十月廿二日發行
大正七年六月三十日再版發行
昭和二年十月十五日三版發行

（岡山製本）

【非賣品】

國譯大藏經 經部 第五卷

編輯兼發行者 國民文庫刊行會
東京市神田區小川町一番地

右代表者 鶴田久作
東京市本郷區西片町十番地

印刷者 君島潔
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所 共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町百八番地

發行所 國民文庫刊行會
電話神田 一五三五番 一八三八番
振替東京一八五七二番